

茨城県教育財団文化財調査報告第144集

荒川本郷地区特定土地区画整理 事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ

実穀古墳群

実穀寺子遺跡1

平成11年3月

住宅・都市整備公団茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

2|0.23|
A45
NK

茨城県教育財団文化財調査報告第 144 集

荒川本郷地区特定土地区画整理 事業地内埋蔵文化財調査報告書 I

じっこく 実穀古墳群
じっこくてらこ 実穀寺子遺跡 1

平成 11 年 3 月

贈
寄
平成
年
月
日
歴史・人類学系

住宅・都市整備公団茨城地域支社
財団法人 茨城県教育財団

00603034

序

阿見町と住宅・都市整備公団は、良好な住環境を有する住宅の供給を行うための特定土地区画整理事業を進めております。その事業予定地内の荒川本郷地区には、実穀古墳群及び実穀寺子遺跡が所在しております。

財団法人茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団から開発地内の埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成7年10月から平成9年12月にかけて発掘調査を実施してまいりました。

本書は、平成7年10月から平成8年3月に調査を行った実穀古墳群、及び平成7年10月から平成9年12月に調査を行った実穀寺子遺跡の調査成果を収録したものであります。本書が学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史の理解を深め、ひいては教育・文化の向上の一助として、活用されることを希望いたします。なお、発掘調査及び整理を進めるにあたり、委託者である住宅・都市整備公団からいただいた多大な御協力に対し、心から感謝申し上げます。

また、茨城県教育委員会、阿見町教育委員会をはじめ、関係各機関及び関係各位から御指導、御協力を賜りましたことに対し、衷心より感謝の意を表します。

平成11年3月

財団法人 茨城県教育財団
理事長 橋 本 昌

例 言

- 1 本書は、住宅・都市整備公団の委託により、財団法人茨城県教育財団が、平成7年10月から平成8年3月まで発掘調査を実施した、茨城県稲敷郡阿見町大字実穀字木崎1554番地-3ほかに所在する実穀古墳群、平成7年10月から平成9年3月、及び平成9年10月から12月まで発掘調査を実施した、茨城県稲敷郡阿見町大字実穀寺子1521番地-1ほかに所在する実穀寺子遺跡1の発掘調査報告書である。
- 2 実穀古墳群、実穀寺子遺跡1の調査及び整理に関する当教育財団の組織は、次のとおりである。

理 事 長	橋 本 昌	平成7年4月～	
副 理 事 長	小 林 秀 文 中 島 弘 光 齋 藤 佳 郎 川 俣 勝 慶	平成6年4月～平成8年3月 平成7年4月～ 平成8年4月～平成10年3月 平成10年4月～	
常 務 理 事	一 木 邦 彦 梅 澤 秀 夫 齋 藤 紀 彦	平成7年4月～平成8年3月 平成8年4月～平成9年3月 平成9年4月～	
事 務 局 長	齊 藤 紀 彦 小 林 隆 郎 西 村 敏 一	平成7年4月～平成8年3月 平成8年4月～平成9年3月 平成9年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長	安 藏 幸 重 沼 田 文 夫	平成5年4月～平成8年3月 平成8年4月～	
埋 蔵 文 化 財 部 長 代 理	河 野 佑 司	平成6年4月～	
企 画 管 理 課	課 長	水 飼 敏 夫	平成4年4月～平成8年3月
	課 長	小 幡 弘 明	平成8年4月～平成9年3月
	課 長	河 崎 孝 典	平成9年4月～平成10年3月
	課 長	鈴 木 三 郎	平成10年4月～
	課 長 代 理	根 本 達 夫	平成7年4月～
	課 長 代 理	清 水 薫	平成9年4月～平成10年3月 (平成8年4月～平成9年3月係長)
	主 任 調 査 員	海 老 澤 稔	平成6年4月～平成8年3月
	主 任 調 査 員	小 高 五 十 二	平成8年4月～平成10年3月
	主 任 調 査 員	池 田 晃 一	平成10年4月～
主 任 調 査 員	川 崎 敦 司	平成10年4月～ (平成10年4月～平成10年9月主事)	
経 理 課	課 長	小 幡 弘 明	平成5年4月～平成8年3月
	課 長	河 崎 孝 典	平成8年4月～平成9年3月
	課 長	鈴 木 三 郎	平成9年4月～平成10年3月 (平成7年4月～平成8年3月主査)
	課 長	佐 藤 健	平成10年4月～
	主 査	田 所 多 佳 男	平成8年4月～
	課 長 代 理	大 高 春 夫	平成7年4月～平成9年3月
	課 長 代 理	清 水 薫	平成10年4月～
	主 任	小 池 孝	平成7年4月～平成10年3月
	主 任	宮 本 勉	平成9年4月～
	主 任 事	木 下 光 保 軍 司 浩 作	平成10年4月～ 平成5年4月～平成8年3月

経理課	主 事 主 事	柳 澤 松 雄 小 西 孝 典	平成8年4月～平成9年3月 平成9年4月～平成10年3月
調査 第一 課	課長(部長兼務)	安 藏 幸 重	平成5年4月～平成8年3月
	課長(部長兼務)	沼 田 文 夫	平成8年4月～
	調査第一班長	川 井 正 一	平成7年10月～平成8年3月
	調査第一班長	萩野谷 悟	平成8年4月～平成9年3月
	調査第一班長	横 堀 孝 徳	平成9年4月～平成10年3月
	主任調査員	田 所 則 夫	平成7年10月～平成8年3月調査
	主任調査員	吉 澤 義 一	平成8年4月～平成9年3月調査
	主任調査員	荒 井 保 雄	平成8年4月～平成9年3月調査
	主任調査員	新 井 聡	平成9年4月～平成10年3月調査
整理課	課 長	川 井 正 一	平成10年4月～
	副主任調査員	浅 野 和 久	平成10年4月～平成11年3月整理・執筆・編集

3 本書で使用した記号等については、凡例を参照されたい。

4 本書の作成にあたり、古墳の埋葬施設及び、築造年代については、国立歴史民俗博物館杉山晋作氏にご指導をいただいた。また、実穀古墳群出土の黒曜石(細石刃)産地の判別は、沼津工業高等専門学校助教望月明彦氏に、旧石器については、千葉県立中央博物館橋本勝雄氏に御指導をいただいた。

5 金属器の保存処理業務は、財団法人岩手県文化振興事業団に委託した。

6 発掘調査及び整理に際して、御指導、御協力を賜った関係各機関並びに関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

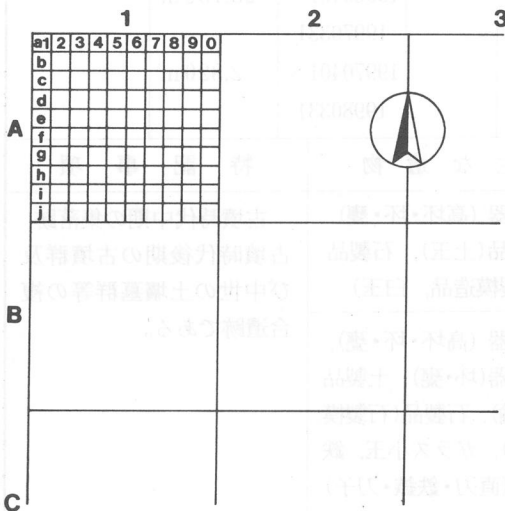
7 遺跡の概略

ふ り が な	あらかわほんごうちくとくいてちかくせいらじぎょうちないまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書 名	荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書
副 書 名	実穀古墳群・実穀寺子遺跡1
巻 次	I
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告
シリーズ番号	第144集
著 者 名	浅野 和久
編 集 機 関	財団法人 茨城県教育財団
所 在 地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587
発 行 機 関	財団法人茨城県教育財団
所 在 地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587
発 行 日	1999(平成11)年3月19日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
じっこくこふんぐん 実穀古墳群	いばらきけんいなしきぐん 茨城県稲敷郡 あみまちおおあざじっ 阿見町大字実 こくあざさき 穀字木崎 1554番地-3ほか	08443 - 65	36度 00分 33秒	140度 11分 25秒	20~ 24m	19951001~ 19960331	9,051m ²	荒川本郷地区特定土地 区画整理事業に伴う事 前調査
じっこくてらこいせき 実穀寺子遺跡	いばらきけんいなしきぐん 茨城県稲敷郡 あみまちおおあざじっ 阿見町大字実 こくてらこ 穀寺子 1521番地-1ほか	08443	36度 00分 53秒	140度 11分 41秒	22~ 24m	19951001~ 19960331 19960401~ 19970331 19970401~ 19980331	2,291m ² 25,750m ² 2,820m ²	
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
実穀古墳群	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 7軒	土師器(高坏・坏・甕), 土製品(土玉), 石製品 (石製模造品, 白玉)	古墳時代中期の集落跡, 古墳時代後期の古墳群及 び中世の土墳墓群等の複 合遺跡である。			
	古墳群	古墳時代	円墳 4基	土師器(高坏・坏・甕), 須恵器(坏・甕), 土製品 (埴輪), 石製品(石製模 造品), ガラス小玉, 鉄 製品(直刀・鉄鎌・刀子)				
	土墳墓群	中・近世	土墳墓 18基 塚 1基	石製品(五輪塔) 土師質土器(皿)				
	その他	中・近世	地点貝塚 1か所	ヤマトシジミ				
		時期不明	溝 6条 道路跡 1条 土坑 47基 不明遺構 3基					
実穀寺子遺跡	包蔵地	旧石器時代	旧石器集中地点 4か所	石器(ナイフ形石器)	旧石器時代の石器製作跡 的な場, 古墳時代中期の 集落跡の複合遺跡である。			
	集落跡	古墳時代	竪穴住居跡 48軒 土坑 7基	土師器(高坏・坏・甕・ 壺), 土製品(土玉), 石製品(石製模造品, 白玉, 管玉) 土師器(高坏・甕・埴)				
	その他	時期不明	土坑 53基 溝 1条					

凡 例

- 1 実穀寺子遺跡は、支谷によって大きく南北2地区に分かれるので、南側をA区、北側をB区とし、平成7年度の調査区域をA-I区、平成8年度調査の南側区域をA-II区、北側区域をB-I区、平成9年度調査区域をA-III区とした。
- 2 遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標を用いて区画し、実穀古墳群はX軸=760m、Y軸=31,400m、実穀寺子遺跡は、X=1,160m、Y=32,000mの交点を基準点(A1a1)とした。



大調査区は、この基準点を基に遺跡範囲内を40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西、南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

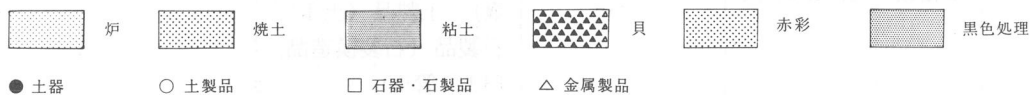
大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA, B, C..., 西から東へ1, 2, 3..., とし、その組み合わせで「A1区」, 「B2区」のように呼称した。なお、実穀寺子遺跡の平成8年度調査区域のB-I区については、南から北へZ, Y, X...とアルファベットの逆から順に付した。

さらに、小調査区も同様に北から南へa, b, c...j, 西から東へ1, 2, 3...0と小文字を付し、名称は大調査区の名称を冠し、「A1a1区」, 「B2b2区」のように呼称した。(第1図)

第1図 調査区呼称方法概念図

- 3 遺構、遺物、土層に使用した記号は、次のとおりである。
 遺構 住居跡-SI 土坑-SK 古墳-TM 溝-SD 道路跡-SF 地点貝塚-SM 不明遺構-SX 柱穴・貯蔵穴-P
 遺物 土器-P 土製品-DP 石器・石製品-Q 古銭・金属製品-M
 土層 攪乱-K ロームブロック-RB 覆土-X 床面-Y

4 遺構及び遺物の実測図中の表示



- 5 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄編著日本色研事業株式会社）を使用した。

- 6 遺構・遺物実測図の作成方法と掲載方法については、以下のとおりである。

- (1) 遺跡全体図は実穀古墳群を縮尺400分の1、実穀寺子遺跡1を縮尺500分の1とし、各遺構の実測図は、60分の1の縮尺で掲載することを基本とした。
- (2) 遺物は、原則として3分の1の縮尺にして掲載した。縮尺の異なるものについては個々に縮尺のスケールをつけて表示した。

- (3) 「主軸方向」は、出入口施設と炉を通る軸線、あるいは南北の柱穴を結ぶ軸線を主軸とし、その主軸が座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した。(例 N-10°-E N-10°-W)
なお、[] を付したものは推定である。
- (4) 土器の計測値は、A-口径、B-器高、C-底径、D-高台径、E-高台高とし、単位はcmである。なお、現存値は()で、推定値は[]を付して示した。
- (5) 遺物観察表の備考の欄は、土器の残存率、実測(P)番号、出土位置及びその他必要と思われる事項を記した。

目 次

序

例言

凡例

第1章 調査経緯	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査経過	1
第2章 位置と環境	5
第1節 地理的環境	5
第2節 歴史的環境	5
第3章 実穀古墳群	11
第1節 遺跡の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構と遺物	12
1 竪穴住居跡	12
2 古墳	27
3 土坑	50
4 土壙墓	61
5 塚	70
6 地点貝塚	71
7 溝	72
8 道路跡	75
9 その他の遺構	75
10 遺構外出土遺物	79
第4節 まとめ	84
第4章 実穀寺子遺跡1	87
第1節 遺跡の概要	87
第2節 基本層序	87
第3節 遺構と遺物	88
1 竪穴住居跡	88
2 土坑	245
3 溝	258
4 旧石器集中地点	258
5 集石	264
6 遺構外出土遺物	265
第4節 まとめ	271
付 章 実穀寺子遺跡から出土した炭化材・種実遺体の同定	

挿 図 目 次

第 1 図	調査区呼称方法概念図	第 45 図	土墳墓出土遺物実測図(3)67
第 2 図	実穀古墳群・実穀寺子遺跡周辺 遺跡分布図 8	第 46 図	土墳墓出土遺物実測図(4)68
実穀古墳群			第 47 図	土墳墓出土遺物実測図(5)69
第 3 図	実穀古墳群調査区設定図11	第 48 図	第 1 号塚実測図70
第 4 図	実穀古墳群基本土層図12	第 49 図	第 1 号塚出土遺物実測図71
第 5 図	第 1 号住居跡実測図13	第 50 図	第 1 号地点貝塚出土遺物実測図72
第 6 図	第 1 号住居跡出土遺物実測図14	第 51 図	第 1~6 号溝実測図73
第 7 図	第 2 号住居跡実測図16	第 52 図	第 1 号道路跡実測図75
第 8 図	第 2 号住居跡出土遺物実測図17	第 53 図	第 1 号不明遺構実測図76
第 9 図	第 3 号住居跡実測図20	第 54 図	第 2 号不明遺構実測図77
第 10 図	第 3 号住居跡出土遺物実測図20	第 55 図	第 2 号不明遺構出土遺物実測図77
第 11 図	第 4 号住居跡実測図21	第 56 図	第 3 号不明遺構実測図79
第 12 図	第 4 号住居跡出土遺物実測図22	第 57 図	遺構外出土遺物実測図(1)81
第 13 図	第 5 号住居跡実測図24	第 58 図	遺構外出土遺物実測図(2)82
第 14 図	第 5 号住居跡出土遺物実測図24	第 59 図	遺構外出土遺物実測図(3)83
第 15 図	第 6 号住居跡実測図25	実穀寺子遺跡		
第 16 図	第 6 号住居跡出土遺物実測図26	第 60 図	実穀寺子遺跡調査区設定図87
第 17 図	第 7 号住居跡実測図26	第 61 図	実穀寺子遺跡基本土層図88
第 18 図	第 7 号住居跡出土遺物実測図27	第 62 図	第 1 号住居跡実測図89
第 19 図	第 4 号墳実測図(1)28	第 63 図	第 1 号住居跡出土遺物実測図89
第 20 図	第 4 号墳実測図(2)29	第 64 図	第 2 号住居跡実測図91
第 21 図	第 4 号墳主体部実測図30	第 65 図	第 2 号住居跡出土遺物実測図92
第 22 図	第 4 号墳出土遺物実測図(1)33	第 66 図	第 3 号住居跡実測図95
第 23 図	第 4 号墳出土遺物実測図(2)34	第 67 図	第 3 号住居跡出土遺物実測図96
第 24 図	第 4 号墳出土遺物実測図(3)35	第 68 図	第 4 号住居跡実測図98
第 25 図	第 4 号墳出土遺物実測図(4)36	第 69 図	第 4 号住居跡出土遺物実測図99
第 26 図	第 6 号墳実測図41	第 70 図	第 5 号住居跡実測図102
第 27 図	第 6 号墳主体部実測図42	第 71 図	第 5 号住居跡出土遺物実測図103
第 28 図	第 6 号墳出土遺物実測図43	第 72 図	第 6 号住居跡実測図(1)106
第 29 図	第 7 号墳実測図(1)44	第 73 図	第 6 号住居跡実測図(2)107
第 30 図	第 7 号墳実測図(2)45	第 74 図	第 6 号住居跡出土遺物実測図108
第 31 図	第 7 号墳出土遺物実測図46	第 75 図	第 8 号住居跡実測図110
第 32 図	第 8 号墳・第 37 号土坑実測図48	第 76 図	第 8 号住居跡遺物出土状況111
第 33 図	第 8 号墳・第 37 号土坑出土遺物実測図49	第 77 図	第 8 号住居跡出土遺物実測図(1)112
第 34 図	第 2 号土坑・出土遺物実測図50	第 78 図	第 8 号住居跡出土遺物実測図(2)113
第 35 図	第 8・11・41・42・43・48 号土坑実測図52	第 79 図	第 9 号住居跡実測図116
第 36 図	その他の土坑実測図(1)55	第 80 図	第 9 号住居跡遺物出土状況117
第 37 図	その他の土坑実測図(2)56	第 81 図	第 9 号住居跡出土遺物実測図(1)118
第 38 図	その他の土坑実測図(3)57	第 82 図	第 9 号住居跡出土遺物実測図(2)119
第 39 図	その他の土坑実測図(4)58	第 83 図	第 10 号住居跡実測図122
第 40 図	土墳墓配置図61	第 84 図	第 10 号住居跡出土遺物実測図123
第 41 図	土墳墓実測図(1)62	第 85 図	第 11 号住居跡実測図(1)124
第 42 図	土墳墓実測図(2)63	第 86 図	第 11 号住居跡実測図(2)125
第 43 図	土墳墓出土遺物実測図(1)65	第 87 図	第 11 号住居跡出土遺物実測図(1)127
第 44 図	土墳墓出土遺物実測図(2)66	第 88 図	第 11 号住居跡出土遺物実測図(2)128
			第 89 図	第 12 号住居跡実測図130

第 90 図	第12号住居跡実測図遺物出土状況	131	第139 図	第31号住居跡出土遺物実測図	198
第 91 図	第12号住居跡出土遺物実測図	132	第140 図	第32号住居跡実測図	200
第 92 図	第13号住居跡実測図	133	第141 図	第32号住居跡出土遺物実測図	201
第 93 図	第13号住居跡遺物出土状況	134	第142 図	第33号住居跡実測図・出土遺物実測図	202
第 94 図	第13号住居跡出土遺物実測図(1)	136	第143 図	第35号住居跡実測図	203
第 95 図	第13号住居跡出土遺物実測図(2)	137	第144 図	第36号住居跡実測図	203
第 96 図	第15号住居跡実測図	139	第145 図	第36号住居跡出土遺物実測図	204
第 97 図	第15号住居跡出土遺物実測図	140	第146 図	第38号住居跡実測図	205
第 98 図	第16号住居跡実測図	143	第147 図	第38号住居跡出土遺物実測図	206
第 99 図	第16号住居跡出土遺物実測図	144	第148 図	第39号住居跡実測図	207
第100 図	第17号住居跡実測図	146	第149 図	第39号住居跡出土遺物実測図	207
第101 図	第17号住居跡出土遺物実測図	147	第150 図	第40号住居跡実測図	209
第102 図	第18 A 号住居跡実測図	149	第151 図	第40号住居跡出土遺物実測図	210
第103 図	第18 A 号住居跡遺物出土状況	150	第152 図	第41号住居跡実測図	212
第104 図	第18 A 号住居跡出土遺物実測図(1)	151	第153 図	第41号住居跡出土遺物実測図	213
第105 図	第18 A 号住居跡出土遺物実測図(2)	152	第154 図	第42号住居跡実測図	214
第106 図	第18 A 号住居跡出土遺物実測図(3)	153	第155 図	第42号住居跡出土遺物実測図	215
第107 図	第18 B 号住居跡実測図	156	第156 図	第43号住居跡実測図	216
第108 図	第18 B 号住居跡出土遺物実測図	157	第157 図	第43号住居跡出土遺物実測図(1)	217
第109 図	第19号住居跡実測図	159	第158 図	第43号住居跡出土遺物実測図(2)	218
第110 図	第19号住居跡遺物出土状況	160	第159 図	第44号住居跡実測図	220
第111 図	第19号住居跡出土遺物実測図	161	第160 図	第44号住居跡出土遺物実測図(1)	221
第112 図	第20号住居跡実測図	163	第161 図	第44号住居跡出土遺物実測図(2)	222
第113 図	第20号住居跡出土遺物実測図	164	第162 図	第45号住居跡実測図	224
第114 図	第21号住居跡実測図	166	第163 図	第45号住居跡出土遺物実測図(1)	225
第115 図	第21号住居跡出土遺物実測図	167	第164 図	第45号住居跡出土遺物実測図(2)	226
第116 図	第22号住居跡実測図	169	第165 図	第46号住居跡実測図	228
第117 図	第22号住居跡出土遺物実測図	170	第166 図	第46号住居跡出土遺物実測図	230
第118 図	第23号住居跡実測図	173	第167 図	第47号住居跡実測図(1)	232
第119 図	第23号住居跡出土遺物実測図(1)	174	第168 図	第47号住居跡実測図(2)	233
第120 図	第23号住居跡出土遺物実測図(2)	175	第169 図	第47号住居跡出土遺物実測図	234
第121 図	第24号住居跡実測図	178	第170 図	第48号住居跡実測図	236
第122 図	第24号住居跡出土遺物実測図	178	第171 図	第48号住居跡出土遺物実測図	237
第123 図	第25号住居跡実測図	180	第172 図	第49号住居跡実測図	239
第124 図	第25号住居跡出土遺物実測図	181	第173 図	第49号住居跡出土遺物実測図	240
第125 図	第26号住居跡実測図	182	第174 図	第50号住居跡実測図	242
第126 図	第26号住居跡出土遺物実測図	183	第175 図	第50号住居跡出土遺物実測図	242
第127 図	第27号住居跡実測図	185	第176 図	第51号住居跡実測図	243
第128 図	第27号住居跡出土遺物実測図(1)	185	第177 図	第24号土坑・出土遺物実測図	245
第129 図	第27号住居跡出土遺物実測図(2)	186	第178 図	第34号土坑・出土遺物実測図	245
第130 図	第28号住居跡実測図	188	第179 図	第39号土坑・出土遺物実測図	246
第131 図	第28号住居跡遺物出土状況	189	第180 図	第40号土坑・出土遺物実測図	247
第132 図	第28号住居跡出土遺物実測図	190	第181 図	第46号土坑・出土遺物実測図	248
第133 図	第29号住居跡実測図(1)	192	第182 図	第50号土坑・出土遺物実測図	249
第134 図	第29号住居跡実測図(2)	193	第183 図	第53号土坑・出土遺物実測図	249
第135 図	第29号住居跡出土遺物実測図	193	第184 図	第47・57・58・60号土坑実測図	250
第136 図	第30号住居跡実測図	195	第185 図	その他の土坑実測図(1)	253
第137 図	第30号住居跡出土遺物実測図	195	第186 図	その他の土坑実測図(2)	254
第138 図	第31号住居跡実測図	197	第187 図	その他の土坑実測図(3)	255

第188図	第1号溝実測図	258	第194図	第4号旧石器集中地点 出土遺物実測図	264
第189図	第1号旧石器集中地点実測図 ・出土遺物実測図	259	第195図	第1号集石実測図	264
第190図	第2号旧石器集中地点実測図	260	第196図	遺構外出土遺物実測図(1)	266
第191図	第2号旧石器集中地点出土遺物実測図	261	第197図	遺構外出土遺物実測図(2)	267
第192図	第3号旧石器集中地点実測図	262	第198図	遺構外出土遺物実測図(3)	268
第193図	第3号旧石器集中地点 出土遺物実測図	263	第199図	遺構外出土遺物実測図(4)	269

表 目 次

表1	実穀古墳群・実穀寺子遺跡周辺遺跡一覧表	9	表4	実穀古墳群土墳墓一覧表	70
表2	実穀古墳群住居跡一覧表	27	表5	実穀寺子遺跡住居一覧表	243
表3	実穀古墳群土坑一覧表	59	表6	実穀寺子遺跡土坑一覧表	257

写真図版目次

実穀古墳群		第37号土坑・遺構外出土遺物
PL 1	第4号墳	PL 14 第4号墳・遺構外出土遺物
PL 2	第4号墳, 第6号墳	PL 15 第4号墳・遺構外出土遺物
PL 3	第7号墳, 第8号墳	PL 16 第4号墳出土遺物
PL 4	調査区西部試掘状況, 調査区西部遺構確認状況, 調査区西部完掘状況, 調査区東部完掘状況, 第4号墳, 第4号墳主体部, 第4号墳主体部土層断面, 第4号墳第1主体部土層断面	PL 17 第4号墳・土墳墓・第2号不明遺構・遺構外出土遺物
PL 5	第4号墳遺物出土状況, 第1号住居跡完掘状況, 第1号住居跡遺物出土状況, 第2号住居跡完掘状況, 第2号住居跡遺物出土状況	実穀寺子遺跡
PL 6	第2号住居跡貯蔵穴遺物出土状況, 第3号住居跡完掘状況, 第3号住居跡遺物出土状況, 第4号住居跡完掘状況, 第5号住居跡完掘状況, 第5号住居跡遺物出土状況, 第6号住居跡完掘状況, 第37号土坑遺物出土状況	PL 18 第1号住居跡完掘状況, 第1号住居跡遺物出土状況, 第2号住居跡遺物出土状況, 第3号住居跡完掘状況, 第3号住居跡遺物出土状況, 第4号住居跡遺物出土状況, 第5号住居跡完掘状況, 第5号住居跡遺物出土状況
PL 7	第42号土坑土層断面, 第43号土坑完掘状況, 第1号塚・第3号不明遺構土層断面, 土墳墓遺物出土状況, 第1号地点貝塚土層断面, 第1号不明遺構完掘状況, 第3号不明遺構土層断面	PL 19 第6号住居跡完掘状況, 第6号住居跡遺物出土状況, 第8号住居跡完掘状況, 第8号住居跡遺物出土状況, 第9号住居跡完掘状況, 第9号住居跡遺物出土状況, 第10号住居跡完掘状況, 第10号住居跡遺物出土状況
PL 8	第1～4号住居跡出土遺物	PL 20 第11号住居跡遺物出土状況, 第12号住居跡完掘状況, 第12号住居跡遺物出土状況, 第13号住居跡完掘状況, 第13号住居跡遺物出土状況, 第15号住居跡遺物出土状況, 第18A号住居跡完掘状況, 第18A号住居跡遺物出土状況
PL 9	第4～7号住居跡出土遺物・第4号墳出土遺物	PL 21 第18B号住居跡完掘状況, 第19号住居跡完掘状況, 第19号住居跡遺物出土状況, 第20号住居跡完掘状況, 第20号住居跡遺物出土状況, 第21号住居跡完掘状況, 第21号住居跡遺物出土状況, 第22号住居跡完掘状況
PL 10	第4・6号墳出土遺物	PL 22 第22号住居跡遺物出土状況, 第23号住居跡完掘状況, 第23号住居跡遺物出土状況, 第24号
PL 11	第6・7号墳・土墳墓・第1号地点貝塚・第2号不明遺構・遺構外出土遺物	
PL 12	第1号住居跡・土墳墓・第2号不明遺構・遺構外出土遺物	
PL 13	第2・5・7号住居跡・第4・6・8号墳・	

- 住居跡完掘狀況, 第25号住居跡完掘狀況, 第25号住居跡遺物出土狀況, 第27号住居跡遺物出土狀況, 第28号住居跡完掘狀況
- P L 23 第28号住居跡遺物出土狀況, 第29号住居跡完掘狀況, 第29号住居跡貯藏穴遺物出土狀況, 第30号住居跡完掘狀況, 第30号住居跡遺物出土狀況, 第31号住居跡完掘狀況, 第32号住居跡完掘狀況, 第35号住居跡完掘狀況
- P L 24 第36号住居跡完掘狀況, 第36号住居跡遺物出土狀況, 第39号住居跡完掘狀況, 第39号住居跡遺物出土狀況, 第40号住居跡完掘狀況, 第40号住居跡遺物出土狀況, 第41号住居跡完掘狀況, 第41号住居跡 P 1 遺物出土狀況
- P L 25 第42号住居跡貯藏穴遺物出土狀況, A - 3 区完掘狀況, 第43号住居跡完掘狀況, 第44号住居跡完掘狀況, 第44号住居跡遺物出土狀況, 第45号住居跡完掘狀況, 第45号住居跡遺物出土狀況, 第46号住居跡完掘狀況
- P L 26 第47号住居跡完掘狀況, 第47号住居跡遺物出土狀況, 第48号住居跡完掘狀況, 第48号住居跡遺物出土狀況, 第49号住居跡完掘狀況, 第50号住居跡完掘狀況, 第51号住居跡完掘狀況, 旧石器出土狀況
- P L 27 第 1 ~ 4 号住居跡出土遺物
- P L 28 第 4 ~ 6 号住居跡出土遺物
- P L 29 第 6 · 8 号住居跡出土遺物
- P L 30 第 8 · 9 号住居跡出土遺物
- P L 31 第 9 号住居跡出土遺物
- P L 32 第10 · 11号住居跡出土遺物
- P L 33 第11~13号住居跡出土遺物
- P L 34 第13 · 15号住居跡出土遺物
- P L 35 第15 · 16号住居跡出土遺物
- P L 36 第16~18 A 号住居跡出土遺物
- P L 37 第18 A 号住居跡出土遺物
- P L 38 第18 A · 18 B · 19号住居跡出土遺物
- P L 39 第19~21号住居跡出土遺物
- P L 40 第21 · 22号住居跡出土遺物
- P L 41 第23号住居跡出土遺物
- P L 42 第23~25号住居跡出土遺物
- P L 43 第25~27号住居跡出土遺物
- P L 44 第27~29号住居跡出土遺物
- P L 45 第29~31号住居跡出土遺物
- P L 46 第32 · 33 · 36 · 38 · 39号住居跡出土遺物
- P L 47 第38~41号住居跡出土遺物
- P L 48 第41~43号住居跡出土遺物
- P L 49 第43 · 44号住居跡出土遺物
- P L 50 第44 · 45号住居跡出土遺物
- P L 51 第45~47号住居跡出土遺物
- P L 52 第47~50号住居跡出土遺物
- P L 53 第 3 · 6 · 8 · 10 · 11 · 13 · 17 · 18 B · 19 · 21~23 · 31 · 32 · 43 · 45号住居跡出土遺物
- P L 54 第 1 ~ 3 号旧石器集中地点出土遺物
- P L 55 第 2 号旧石器集中地点 · 遺構外出土遺物
- P L 56 遺構外出土遺物

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経過

阿見町と住宅・都市整備公団は、良好な住環境を有する住宅の供給を行うための特定土地地区画整理事業を進めている。

平成6年11月1日、住宅・都市整備公団つくば開発局は、茨城県教育委員会あてに荒川本郷地区特定土地地区画整理事業における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。茨城県教育委員会は、同6年11月2～8日に現地踏査、11月28～12月2日に試掘調査を実施し、平成7年2月20日に、荒川本郷地区内に実穀寺子遺跡、実穀古墳群、北古辺古墳、実穀寺子西遺跡が所在することを、住宅・都市整備公団つくば開発局に回答した。茨城県教育委員会と住宅・都市整備公団つくば開発局は、荒川本郷地区特定土地地区画整理事業にかかる実穀寺子遺跡、実穀古墳群の取り扱いについて、文化財保護の立場から慎重な協議を重ねてきた。その結果、茨城県教育委員会は、同年3月9日に実穀寺子遺跡（A-I区）2,291㎡・実穀古墳群9,050㎡について記録保存の措置を講ずることとし、埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団が紹介された。茨城県教育財団は、住宅・都市整備公団つくば開発局から実穀古墳群及び実穀寺子遺跡の発掘調査依頼を受け、発掘調査について協議を行った結果、住宅・都市整備公団つくば開発局と実穀古墳群及び実穀寺子遺跡の埋蔵文化財発掘調査の委託契約を結び、平成7年10月から平成8年3月まで、発掘調査を実施した。

平成8年2月23日、茨城県教育委員会と住宅・都市整備公団つくば開発局は、実穀寺子遺跡（A-II区）の取り扱いについて、慎重な協議の結果、同年3月5日、記録保存の措置を講ずることとし、埋蔵文化財の調査機関として財団法人茨城県教育財団が紹介された。茨城県教育財団は、同年4月から調査を開始したが、調査予定が早期に終了する見込みになったため、同年10月22日、茨城県教育委員会と変更協議を行った。その後、同年12月4日、茨城県教育委員会と住宅・都市整備公団つくば開発局が発掘調査計画の変更協議を行い、その結果、当初の予定に調査面積を追加し、追加調査を行うこととした（B-I区）。同年12月6日、茨城県教育財団は、茨城県教育委員会から追加調査を行う旨の回答を受け、同年1月からB-I区の調査面積4,667㎡を追加し、当初予定のA-II区と合わせて25,750㎡の調査を実施した。

平成9年4月1日から平成10年3月31日までの予定で実穀寺子西遺跡の発掘調査を実施していたが、調査予定の早期終了見込みのため、茨城県教育財団は、平成9年9月30日、茨城県教育委員会と実穀寺子西遺跡の発掘調査計画の変更協議を行った。その後、茨城県教育委員会と住宅・都市整備公団茨城地域支社が発掘調査計画の変更協議を行った結果、実穀寺子西遺跡の調査面積を追加し、その追加分は実穀寺子遺跡を調査することとなった。同年10月31日、茨城県教育財団は、発掘調査計画の変更について茨城県教育委員会から回答を受け、実穀寺子西遺跡の当初の調査面積21,751㎡を24,751㎡とし、その追加分の2,820㎡については、実穀寺子遺跡（A-III区）を調査することとなった。そこで、茨城県教育財団は、同年11月から12月まで、実穀寺子遺跡（A-III区）の調査を実施した。

第2節 調査経過

実穀古墳群の発掘調査は、平成7年10月1日から、平成8年3月31日まで実施した。
実穀寺子遺跡の調査は、平成7年10月1日から古墳群の調査と並行して行い、続いて平成8年4月1日から平

成9年3月31日まで、及び平成9年10月29日から平成9年12月31日まで調査を実施した。

《実穀古墳群》

平成7年度

- 10 月 6日に発掘器材の搬入など、発掘調査の諸準備を行った。11日に調査区域の伐開・清掃作業を開始し、13日に関係者列席のもと、発掘調査の円滑な進行と作業の安全を願って歛入れ式を実施した。16日から手掘りによる試掘調査を開始した。その後、26日から第4号墳墳丘測量を、また、31日から、第6・7・8号墳の墳丘測量に入った。
- 11 月 1日から引き続き、手掘りによるトレンチの試掘調査を行う。10日には、第4号墳墳頂部の掘り込みに入り、直刀などの遺物が出土した。30日から重機による表土除去及び遺構確認作業を開始する。
- 12 月 7日に重機による表土除去を終え、竪穴住居跡7軒及びその他の遺構を検出した。12日に方眼杭打ち測量を行った。古墳の調査と並行し、20日から竪穴住居跡の調査を開始した。
- 1 月 第4号墳の周溝、第7号墳の墳丘の調査、及び第1号～第4号竪穴住居跡の調査を中心に実施した。
- 2 月 7日に中世の土壌墓を検出した。五輪塔、土師質土器が出土した。引き続き第4号・第6号・第7号・第8号墳の周溝及び墳丘の調査を実施し、15日に第4号墳の主体部を検出した。第2号・第6号竪穴住居跡の調査を実施した。
- 3 月 引き続き第4号・第6号墳・第7号竪穴住居跡及びその他の遺構の調査を実施した。6日に国立歴史民俗博物館助教授杉山晋作氏を講師に招き、実穀古墳群の埋葬施設及び築造年代について班内研修を行った。また、9日に現地説明会を実施した。12日に航空写真撮影を実施し、19日から補足調査を開始した。22日をもってすべての現地調査を終了した。

《実穀寺子遺跡1》

平成7年度

- 10 月 23日から調査区域を設定し、併せて伐開作業を開始した。
- 11 月 13日から手掘りによる試掘調査を開始した。
- 12 月 12日から重機による表土除去及び、遺構確認作業を開始した。
- 1 月 引き続き遺構確認作業を実施した。9日に方眼杭打ち測量を行った。
- 2 月 引き続き遺構確認作業を実施し、竪穴住居跡3軒及びその他の遺構を確認した。22日から遺構の調査を開始した。
- 3 月 引き続き18日まで遺構調査を実施した。19日に補足調査を行い、すべての現地調査を終了した。

平成8年度

- 4 月 8日に現地踏査を行い、発掘器材の搬入など、発掘調査をするための事前準備を行った。22日に調査補助員を投入して、諸施設の整備、調査区域内の清掃、及び、伐開作業を開始した。
- 5 月 7日からA-II区の手掘りによる試掘調査を開始した（以下、12月10日まではA-II区のみ調査）。
- 6 月 引き続き手掘りによる試掘調査を実施した。27日から重機による表土除去を開始した。
- 7 月 重機による表土除去と並行して、遺構確認作業を実施した結果、竪穴住居跡34軒及びその他の遺構を確認した。16日から竪穴住居跡の掘り込みを開始する。23日に方眼杭打ち測量を行った。
- 8 月 引き続き遺構確認作業及び第8号・第13号・第15号竪穴住居跡の遺構調査を並行して行った。
- 9 月 第17～21号竪穴住居跡を中心に調査を行った。

- 10 月 引き続き第4～6号、第22～25号などの竪穴住居跡を中心に調査を行った。
- 11 月 第9～12号竪穴住居跡及び第1号溝、第32・33号土坑などの遺構調査を行った。
- 12 月 引き続き第16号・第18号竪穴住居跡及び第2号溝、第33～50号土坑などの遺構調査を行った。また、11日にはB-I区の手掘りによる試掘調査に入った。
- 1 月 引き続きA-II区の第51～98号土坑などの遺構調査及び、B-I区の手掘りによる試掘調査を行った。B-I区においては、9日から重機による表土除去、また、20日には方眼杭打ち測量を行い、21日から遺構確認を開始した。その結果、竪穴住居跡3軒及びその他の遺構を確認し、23日から遺構調査に入った。
- 2 月 引き続きA-II区、B-I区の遺構調査を行った。4日に遺跡の航空写真撮影を実施した。6日からA-II区において、旧石器の調査を行った。8日に現地説明会を実施し、遺構・遺物を公開した。
- 3 月 A-II区の旧石器の調査を中心に行った。19日をもってすべての現地調査を終了した。

平成9年度

- 10 月 29日から調査区域を設定し、除草作業を行い、発掘調査のための事前準備を行った。
- 11 月 10日から重機による表土除去、及び遺構確認作業を行った。その結果、竪穴住居跡9軒を確認し、19日から遺構調査を行った。12日に方眼杭打ち測量を実施した。
- 12 月 1日から引き続き竪穴住居跡の遺構調査を実施した。16日までにほぼ調査を終了し、翌17日から補足調査に入った。19日をもってすべての現地調査を終了した。

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

実穀古墳群、実穀寺子遺跡は、茨城県稲敷郡阿見町西部の実穀地区に位置している。両遺跡は、JR常磐線荒川沖駅から南東に約3kmほどの所にあり、実穀古墳群は、茨城県稲敷郡阿見町実穀字木崎1554番地-3ほか、実穀寺子遺跡は、茨城県稲敷郡阿見町実穀寺子1521番地-1ほか

に所在する。遺跡が所在する阿見町は、面積64.68㎡を擁し、東西9km、南北11kmのひろがりをもつ。北部は霞ヶ浦をはさんで、新治郡霞ヶ浦町に対し、東部は稲敷郡美浦村、南部は稲敷郡江戸崎町及び牛久市、西部は土浦市と接している。

阿見町の地形は、常総台地の一部をなす稲敷台地東北部と、清明川、桂川、乙戸川、花室川、及び霞ヶ浦沿岸の沖積低地とからなっている。台地面は上記の四河川によって開析され、複雑な樹枝状の支谷が刻まれている。両遺跡近くを流れる乙戸川は、土浦市の乙戸沼を水源とし、井の岡で桂川を合わせ、島田付近で小野川と合流し霞ヶ浦に流入する。

稲敷台地は、標高25～28mの洪積台地であり、土浦市、龍ヶ崎市、江戸崎町を結ぶ三角地帯の中にその大部分が入り、台地の東端は東村阿波崎付近にある。台地の地層は、第四期洪積世古東京湾時代に堆積した成田層が基盤となり、下部から上部にかけて、成田層下部、成田層上部、龍ヶ崎砂礫層、常総粘土層、関東ローム層の順で堆積している。堆積状況は、水平で単調、褶曲や断層はみられない。

実穀古墳群、実穀寺子遺跡は、乙戸川の低地から伸びる支谷の東側台地上に立地する。両遺跡のある台地上と、乙戸川の河岸に開ける水田との比高は約7mである。実穀古墳群は、乙戸川を南西に臨み、川を越えた南西の対岸には、乙戸川と小野川に挟まれた舌状台地がみられる。調査前の現況は山林である。実穀寺子遺跡は、古墳群から北へ約300mの台地上に位置する。調査前の現況は山林・雑種地である。

《参考文献》

- ・阿見町史編さん委員会 『阿見町史』 1983年 3月
- ・茨城県農地農地課 『土地分類基本調査 土浦』 1983年12月
- ・蜂須紀夫 『茨城県 地学のガイド』 1986年11月

第2節 歴史的環境

実穀古墳群〈1〉、実穀寺子遺跡〈2〉の所在する地域は、河川、低地、台地と変化に富んだ自然環境をもち、台地上には数多くの遺跡が残っている。特に、小野川、乙戸川水系によって形成された台地上には、旧石器時代から中世までの遺跡が分布している。ここでは、当地域の主な遺跡について時代をおって述べることにする。

旧石器時代の遺跡は、牛久市の^{なかく喜}中久喜遺跡〈3〉、西ノ^{にし}原遺跡〈4〉、土浦市の宮前遺跡、今回報告する実穀寺子遺跡があり、いずれもナイフ形石器などが出土している。

縄文時代の遺跡は、牛久市の^{もりこぼし}守子橋遺跡〈5〉、ヤツノ^{うえ}上遺跡〈6〉、^{ひがしやま}東山遺跡〈7〉、^{ばば}馬場遺跡〈8〉、^{だしやま}出し山遺跡、^{しもおおい}茎崎町の下大井遺跡〈9〉、^{おおい}大井遺跡〈10〉、土浦市の^{おきしんでんどう}沖新田道祖神前遺跡〈11〉、^{つかした}塚下遺跡〈12〉などがある。ヤツノ上遺跡からは、縄文時代晩期の土器片とともに、同時期の土偶が出土し、東山遺跡からは、縄文時

代早期から中期の土器片が出土している。馬場遺跡からは、縄文時代早期の土器片と前期の深鉢が出土している。阿見町の於山遺跡〈13〉からは、縄文時代早期から後期にかけての土器片、磨製石斧が出土している。牛久市奥原町の乙戸川と小野川が合流する左岸台地縁辺部には、縄文中期から後期にかけての集落跡である出戸遺跡がある。

弥生時代の遺跡は、土器片の散布が見られる阿見町の道記遺跡〈14〉と、牛久市の坂本遺跡〈15〉がある。また、牛久市奥原町の天王峯遺跡では、弥生時代後期の集落跡が検出されている。

古墳時代の遺跡は、今回報告する実穀古墳群、実穀寺子遺跡のほかに、阿見町の実穀寺子西遺跡〈16〉、中根遺跡〈17〉、道記遺跡、下小池遺跡〈18〉、下小池東遺跡〈19〉、福田遺跡〈20〉、宮脇遺跡〈21〉、阿見東遺跡がある。また、牛久市では、中下根遺跡〈22〉、西ノ原遺跡、隼人山遺跡〈23〉、中久喜遺跡、馬場遺跡、行人田遺跡〈24〉、ヤツノ上遺跡、東山遺跡、大久保遺跡〈25〉、姥神遺跡、すかき台遺跡、源臺遺跡、天王峯遺跡、土浦市では、向原遺跡、烏山遺跡、龍ヶ崎市では、平台遺跡、長峰遺跡などがある。

これらの遺跡を時期別に見ると、古墳時代前期の遺跡は、すかき台遺跡、姥神遺跡、源臺遺跡、向原遺跡、烏山遺跡などがあり、乙戸川沿いの下小池遺跡では、前期から後期にわたる13軒の竪穴住居跡が検出されている。また、小野川と乙戸川の合流する左岸台地縁辺部に位置する牛久市奥原町のすかき台遺跡では、竪穴住居跡9軒、同じく姥神遺跡では、竪穴住居跡28軒、方形周溝墓3基が検出されている。乙戸川左岸台地上に位置する牛久市久野町の源臺遺跡からは、6基の方形周溝墓と円形周溝墓が検出されている。

古墳時代中期の遺跡は、阿見町本郷から小池付近を流れる乙戸川沿いに、実穀古墳群、実穀寺子遺跡、下小池遺跡などがあり、乙戸川と小野川に挟まれた台地上に、中下根遺跡、西ノ原遺跡、隼人山遺跡、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡があり、広範囲にわたって古墳時代中期の集落跡が検出されている。これらの遺跡は、小支谷を望む台地の中央から緩斜面上にかけて、古墳時代中期中葉から後期初頭の集落を形成しているという特徴を持っている。阿見町阿見に所在する阿見東遺跡第一地点では、古墳時代後期の住居跡を含む10軒の住居跡が検出されている。このうち、第3号住居跡からは、石製模造品が床面から多く出土していることから、石製品の工房跡ではないかと考えられている。阿見町北西部の清明川によって開析された台地上に位置する宮脇遺跡からは、同時期の竪穴住居跡24軒が検出されている。下小池遺跡では、11軒の竪穴住居跡が検出されている。

古墳時代後期の遺跡は、西ノ原遺跡、馬場遺跡、天王峯遺跡、姥神遺跡などがある。馬場遺跡では、竪穴住居跡2軒、天王峯遺跡では2軒、姥神遺跡では44軒が検出されている。

古墳は集落に隣接するようになり、実穀古墳群をはじめ、阿見町の内記古墳群〈26〉、だめき古墳〈27〉、北古辺古墳〈28〉、於山古墳、塚越古墳群〈29〉、牛久市の道山古墳群〈30〉、荃崎町の下大井古墳群がある。今回報告する実穀古墳群のほかに、道山古墳群の第3・4・5号墳から直刀が出土している。その他、小野川沿いに、宮坂古墳〈31〉、愛宕脇古墳〈32〉、琴塚古墳〈33〉、水落下古墳〈34〉、梨の木古墳〈35〉がある。これらの古墳は、いずれも6世紀後半から7世紀前半のものである。

奈良・平安時代の遺跡は、中下根遺跡、隼人山遺跡、ヤツノ上遺跡、中久喜遺跡、姥神遺跡、行人田遺跡がある。このうち、ヤツノ上遺跡では平安時代の竪穴住居跡8軒、掘立柱建物跡2棟が、姥神遺跡では、奈良時代の竪穴住居跡16軒、平安時代の竪穴住居跡58軒及び掘立柱建物跡4棟が検出されている。

中世の遺跡は、上小池城跡〈36〉、岡見城跡〈37〉、小坂城跡などがある。阿見町小池に所在する上小池城跡は、戦国時代末期に土岐氏によって構築されたものと考えられている。

江戸時代の遺跡としては、土浦市の荒川沖一里塚、牛久市の東猫穴一里塚などがある。

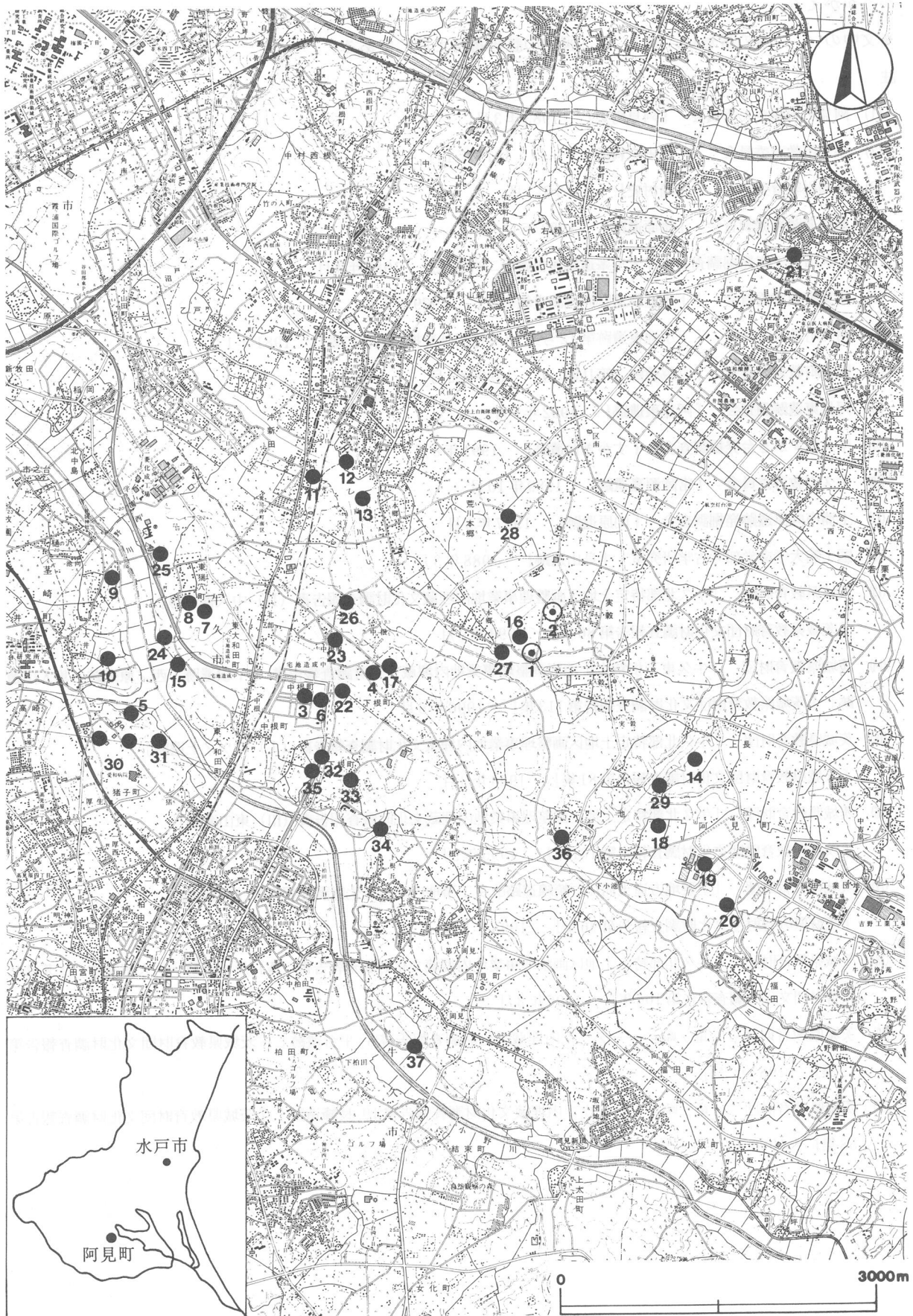
以上のように、当遺跡の周辺には多くの遺跡が存在し、原始、古代から多くの人々の舞台となってきたこと

がうかがえる。

※文中の〈 〉内の番号は、表1、第2図中の該当番号と同じである。

註

- (1) 阿見町史編さん委員会 『阿見町史』 1983年3月
- (2) 牛久市教育委員会 『牛久史史料編(一)』 1979年1月
- (3) 荃崎村教育委員会 『荃崎村史』 1973年3月
- (4) 奥原遺跡発掘調査会 『奥原遺跡』 1989年12月
- (5) 牛久市天王峯発掘調査会 『天王峯遺跡報告書第二次調査』 1988年4月
- (6) 阿見町教育委員会 『下小池東遺跡発掘調査報告書』 1979年3月
阿見町教育委員会 『下小池東遺跡第12号第13号住居址発掘調査報告書』 1981年1月
- (7) 阿見町教育委員会 『宮脇遺跡(第II期)』 1990年3月
- (8) 阿見東遺跡調査会 『阿見東遺跡』 1992年5月
- (9) 牛久市すかき台発掘調査会 『すかき台遺跡』 1991年8月
- (10) 牛久市教育委員会 『常陸源臺遺跡』 1989年10月
- (11) 土浦市向原遺跡発掘調査会 『向原遺跡』 1987年3月
- (12) 国士舘大学文学部考古学研究室 『烏山遺跡』 1988年3月
- (13) 茨城県教育財団 「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(II)中久喜遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第86集』 1993年9月
- (14) 茨城県教育財団 「牛久東下根特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 中下根遺跡・西ノ原遺跡・隼人山遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第113集』 1996年6月
- (15) 茨城県教育財団 「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(I)ヤツノ上遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第81集』 1993年3月
- (16) 茨城県教育財団 「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(III)東山遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第101集』 1995年9月
- (17) 茨城県教育財団 「主要地方道土浦江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 於山遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第96集』 1995年3月
- (18) 茨城県教育財団 「牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書(IV)馬場遺跡・行人田遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第106集』 1996年3月
- (19) 茨城県教育財団 「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書8 平台遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第19集』 1983年3月
- (20) 茨城県教育財団 「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書19 長峰遺跡」
『茨城県教育財団文化財調査報告第58集』 1990年3月



第2図 実穀古墳群・実穀寺子遺跡周辺遺跡分布図

表1 実穀古墳群，実穀寺子遺跡周辺遺跡一覧表

図 中 番 号	遺 跡 名	県 遺 跡 番 号	時 代					図 中 番 号	遺 跡 名	県 遺 跡 番 号	時 代						
			旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平				中 ・ 近 世	旧 石 器	縄 文	弥 生	古 墳	奈 ・ 平	中 ・ 近 世
①	実穀古墳群	5697				○		○	20	福田遺跡	5706		○		○	○	
②	実穀寺子遺跡					○			21	宮脇遺跡	5658			○	○	○	
3	中久喜遺跡		○			○	○		22	中下根遺跡					○	○	
4	西ノ原遺跡		○			○			23	隼人山遺跡					○	○	
5	守子橋遺跡	2794		○					24	行人田遺跡	3365				○	○	
6	ヤツノ上遺跡			○		○	○		25	大久保遺跡	3363				○		
7	東山遺跡			○		○	○		26	内記古墳群	5702				○		
8	馬場遺跡	3364		○		○	○		27	だめき古墳	5698				○		
9	下大井遺跡	2811		○					28	北古辺古墳	5700				○		
10	大井遺跡	2808		○					29	塚越古墳群	5705				○		
11	沖新田道祖神前遺跡	5241		○		○			30	道山古墳群	1706				○		
12	塚下遺跡	5240		○		○			31	宮坂古墳	3368				○		
13	於山遺跡			○		○			32	愛宕脇古墳	3372				○		
14	道記遺跡	5704		○	○	○			33	琴塚古墳群	3377				○		
15	坂本遺跡	3366		○	○				34	水落下古墳	3378				○		
16	実穀寺子西遺跡		○			○			35	梨の木古墳	3373				○		
17	中根遺跡	5703				○			36	上小池城跡	3982						○
18	下小池遺跡	3975		○		○			37	岡見城跡	1708						○
19	下小池東遺跡	3976		○		○											

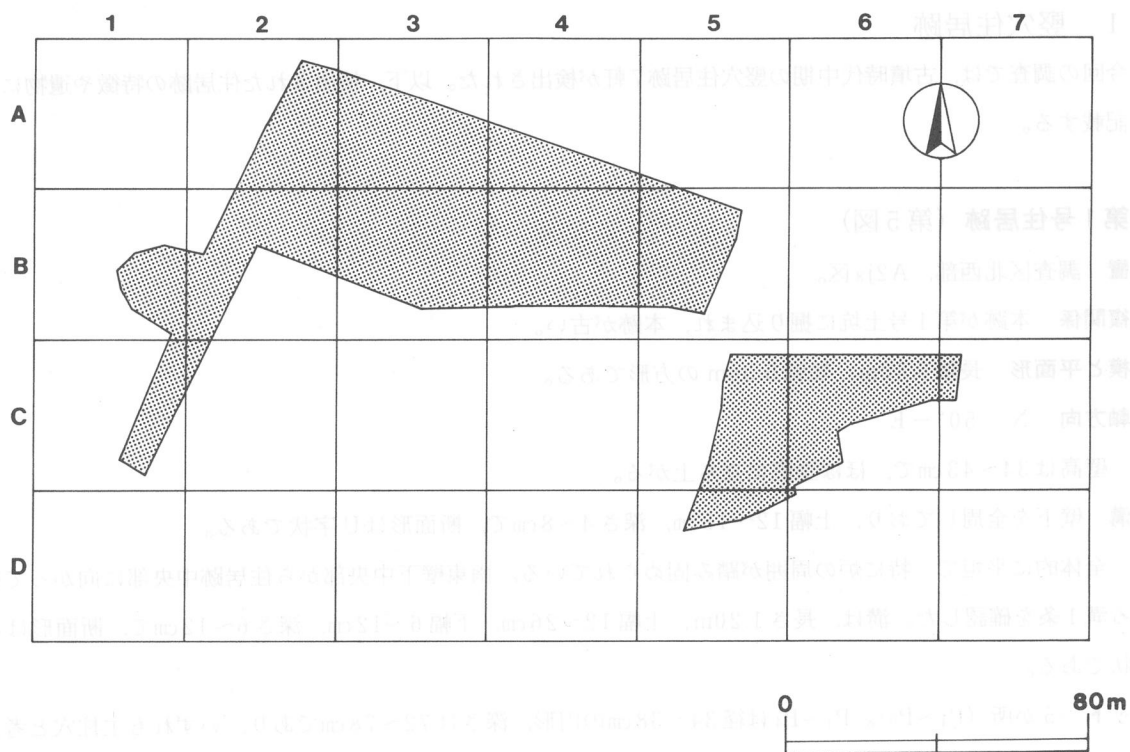
第3章 実穀古墳群

第1節 遺跡の概要

実穀古墳群は、阿見町北西部、乙戸川左岸の標高22～24mの台地上にあり、古墳時代中期の集落跡、古墳時代後期の古墳群及び中世の土壌墓などの複合遺跡である。現状は山林であり、面積は9,050㎡である。当遺跡と同じ台地上の300mほど北東に実穀寺子遺跡がある。

今回の調査によって古墳時代中期の竪穴住居跡7軒、古墳4基、土坑47基、溝6条、道路跡1条、塚1基、土壌墓18基、地点貝塚1か所、不明遺構3基が検出された。

遺物は、遺物収納箱(60×40×20cm)に41箱出土しており、遺物の大半は古墳時代のものである。古墳からは、土師器(高坏・椀など)、須恵器(甕・坏など)、埴輪、鉄製品(直刀・刀子・鉄鏃など)、ガラス小玉が、また、竪穴住居跡からは、土師器(高坏・坏・椀・埴・甕・甑など)、土玉、石製模造品並びに白玉などが出土している。その他、中世の土壌墓から、土師質土器、五輪塔などが出土している。



第3図 実穀古墳群調査区設定図

第2節 基本層序

調査区内にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った。(第4図)

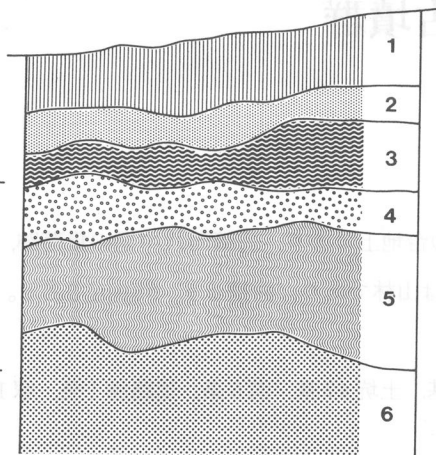
第1層 厚さ28～40cmの暗黒褐色の表土である。

第2層 厚さ12～22cmの明褐色のソフトローム層である。

24.4 m—

23.4 —

22.4 —



第3層 厚さ18～33cmの明褐色のソフトローム層である。

第4層 厚さ18～33cmの明褐色のハードローム層である。

第5層 厚さ40～64cmの明褐色のハードローム層である。

第6層 厚さ44～70cmの明褐色のハードローム層である。

遺構は、第2層上面で確認した。

第4図 実穀古墳群基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

今回の調査では、古墳時代中期の竪穴住居跡7軒が検出された。以下、検出された住居跡の特徴や遺物について記載する。

第1号住居跡（第5図）

位置 調査区北西部，A2j8区。

重複関係 本跡が第1号土坑に掘り込まれ，本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.40m，短軸5.30mの方形である。

主軸方向 N-50°-E

壁 壁高は34～43cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており，上幅12～18cm，深さ4～8cmで，断面形はU字状である。

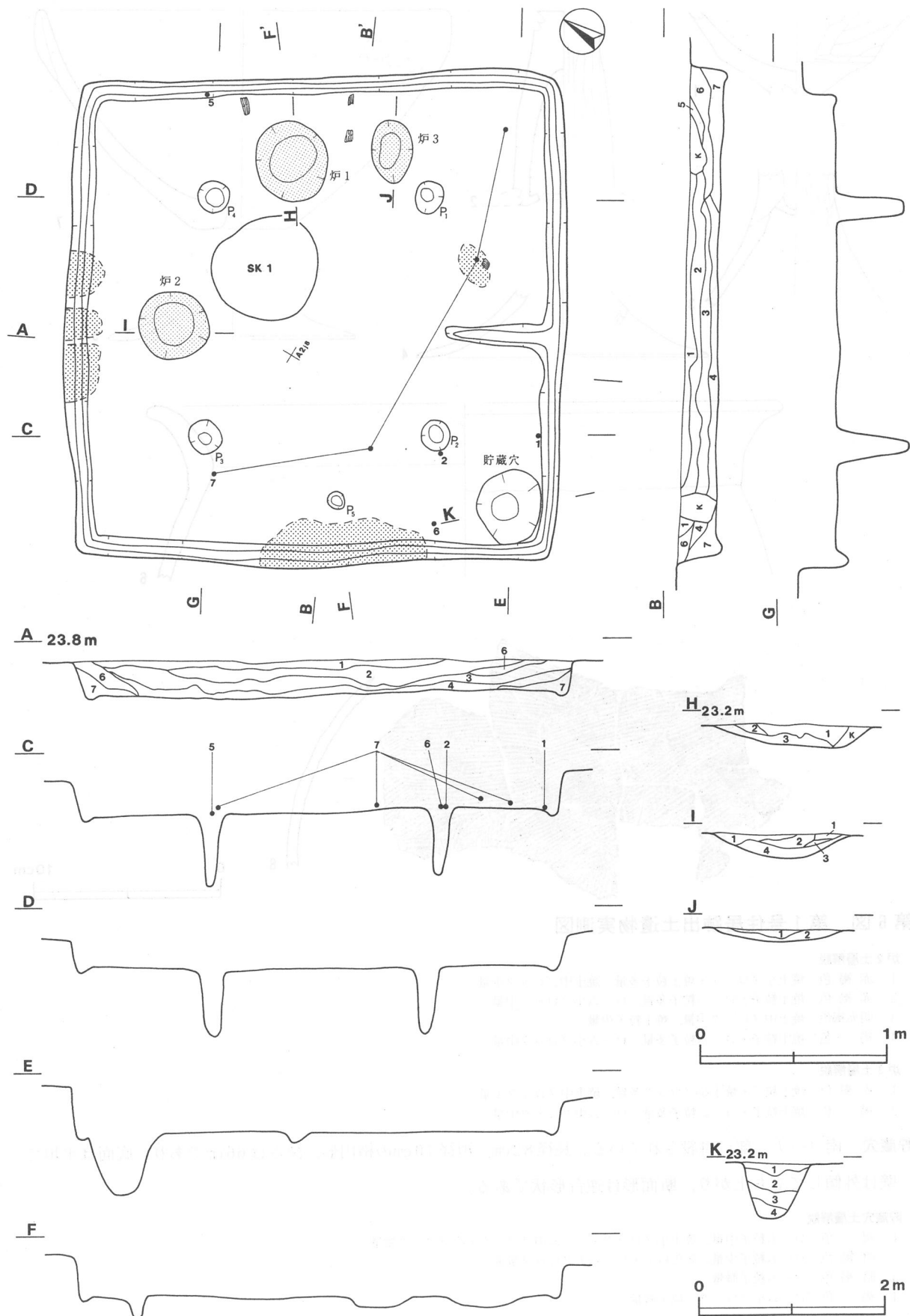
床 全体的に平坦で，特に炉の周囲が踏み固められている。南東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝1条を確認した。溝は，長さ1.20m，上幅12～26cm，下幅6～12cm，深さ6～12cmで，断面形はU字状である。

ピット 5か所（P₁～P₅）。P₁～P₄は径34～38cmの円形，深さは72～78cmであり，いずれも支柱穴と考えられる。P₅は径20cmの円形，深さは18cmで，出入口施設に伴うピットと考えられる。

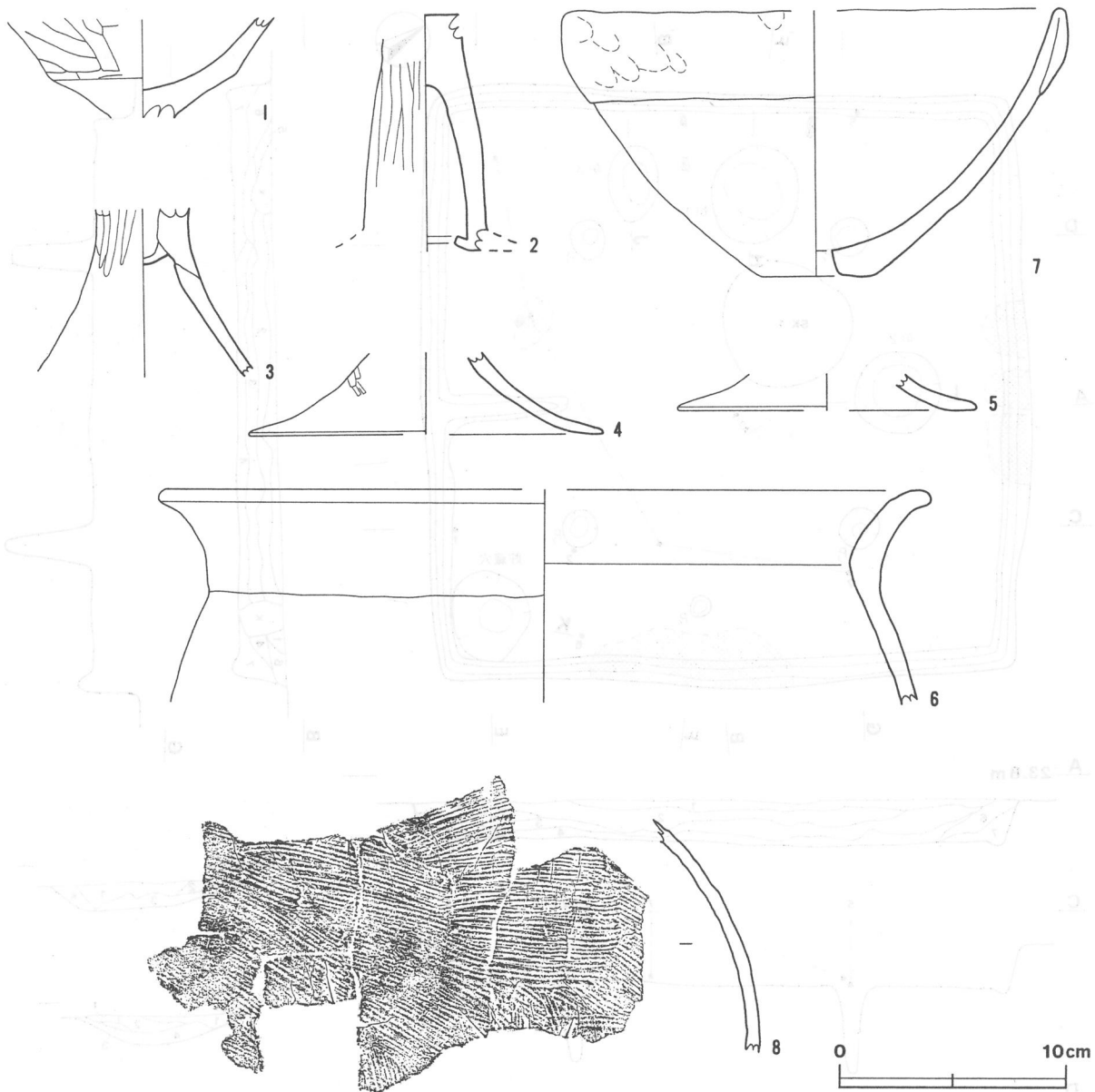
炉 3か所。炉1は中央部から北東寄りにあり，長径86cm，短径76cmの楕円形で，床面を22cmほど掘りくぼめている。炉2は中央部から北西寄りにあり，径74cmの円形であり，床面を24cmほど掘りくぼめている。炉3は炉1の隣，中央部から東寄りにあり，長径67cm，短径44cmの楕円形で，床面を14cmほど掘りくぼめている。いずれの炉も，炉床は赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック多量，焼土中ブロック少量
- 2 赤褐色 焼土粒子・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量
- 3 褐色 焼土粒子・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量



第5図 第1号住居跡実測図



第6図 第1号住居跡出土遺物実測図

炉2土層解説

- 1 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, 焼土中ブロック少量
- 2 赤褐色 焼土粒子・ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 3 明赤褐色 焼土中ブロック中量, 焼土粒子少量
- 4 褐色 焼土粒子・ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

炉3土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック多量, 焼土中ブロック少量
- 2 褐色 焼土粒子・ローム粒子多量, ローム中ブロック中量

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。長径82cm, 短径70cmの楕円形, 深さは66cmであり, 底面は平坦で, 壁は外傾して立ち上がり, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック・小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子微量

覆土 7層からなり, ロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|---------------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック多量, 焼土・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 5 褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック中量, 焼土・炭化・ローム粒子微量 | 6 褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 焼土粒子少量 |
| | | 7 赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子多量, ローム粒子中量 |

遺物 土師器片 301点が出土しているが、いずれも細片である。第6図6の南コーナー部から出土した甕の口縁部は第2号住居跡中央部の甕の口縁部と接合関係にあり、いずれも覆土下層から出土している。同じく、7の南コーナー部から出土した甕は第2号住居跡南コーナー部の甕と接合関係にあり、いずれも覆土下層から出土している。1の土師器高坏は南コーナー部、5の高坏は北東壁際の覆土下層から出土している。3・4の高坏は貯蔵穴から出土している。8は土師器甕の体部片であり、体部外面にハケ目整形がみられる。

所見 本跡は床面から炭化材及び焼土塊を検出し、また、覆土中に焼土・炭化粒子を含んでおり焼失家屋と考えられる。時期は、出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第1号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第6図 1	高坏 土師器	B (4.0)	坏部の破片。坏部外面下位に稜を持つ。	坏部外面及び底部へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	石英 にふい褐色 普通	P1 10% 覆土下層
2	高坏 土師器	E (10.5)	脚柱部の破片。脚柱部はエンタシス状を呈する。	脚柱部外面へラ削り後、ナデ。	石英・雲母 明赤褐色 普通	P2 20% 覆土中 二次焼成
3	高坏 土師器	E (7.5)	脚柱部の破片。脚柱部はラッパ状に開く。	脚柱部外面へラ磨き。内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P3 5% 貯蔵穴覆土中 二次焼成
4	高坏 土師器	E (3.7) D [15.7]	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面へラ磨き及びナデ。内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P4 20% 貯蔵穴覆土中 二次焼成
5	高坏 土師器	E (1.6) D [13.2]	脚裾部の破片。脚裾部はなだらかに開く。	裾部内・外面ナデ。	石英 橙色 普通	P5 5% 覆土下層 二次焼成
6	甕 土師器	A [34.2] B (9.6)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 浅黄橙色 普通	P6 10% 覆土下層
7	甕 土師器	A [21.9] B 11.8 C 4.9	口縁部及び体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。底部に単孔を穿つ。折り返し口縁。	口縁部外面に指頭圧痕を残す。体部内・外面ナデ。	石英 橙色 普通	P7 25% 覆土下層 二次焼成

第2号住居跡（第7図）

位置 調査区北西部, B2c8区。

重複関係 本跡は南西部を第1号溝に掘り込まれており、本跡が古い。

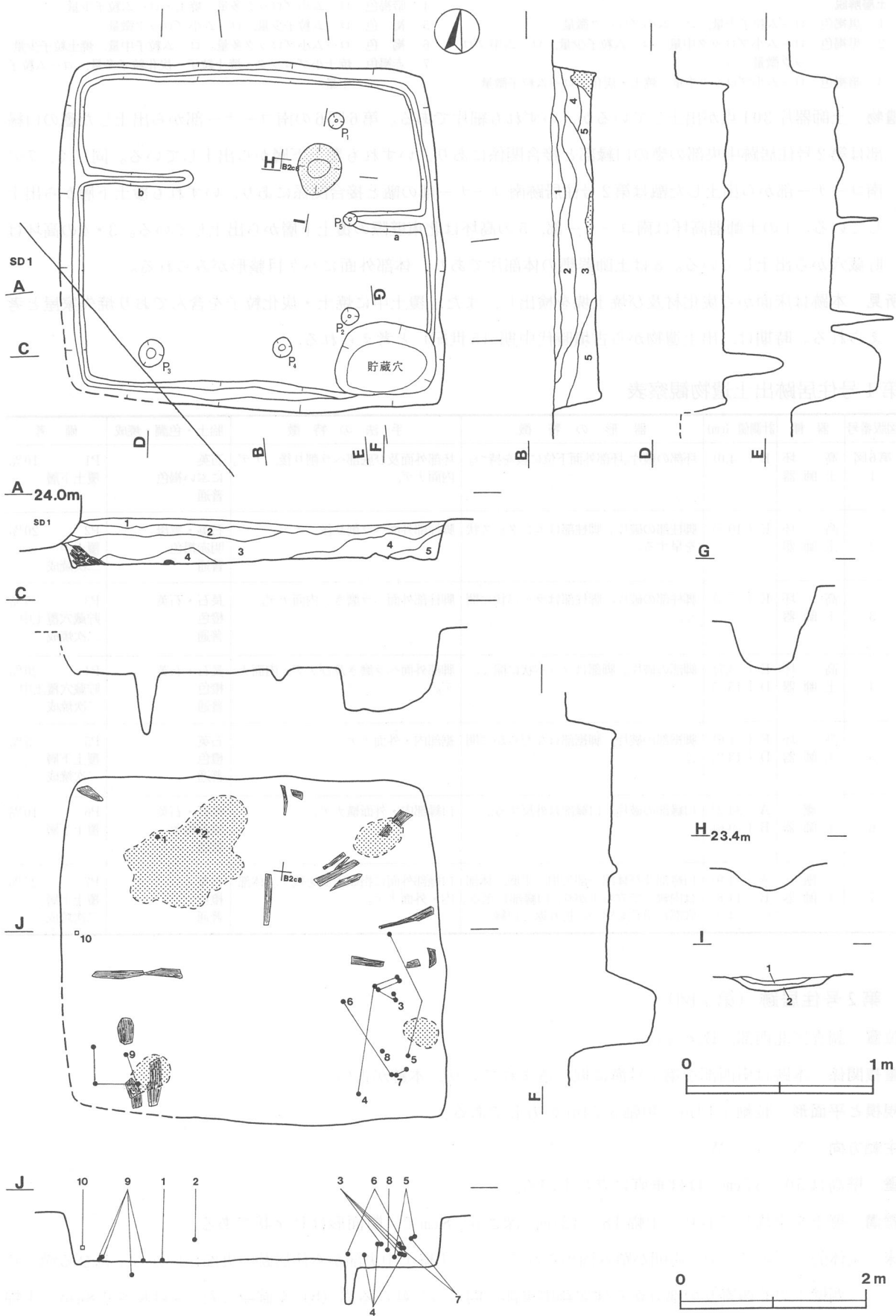
規模と平面形 長軸 4.14m, 短軸 3.74m の方形である。

主軸方向 N-3°-W

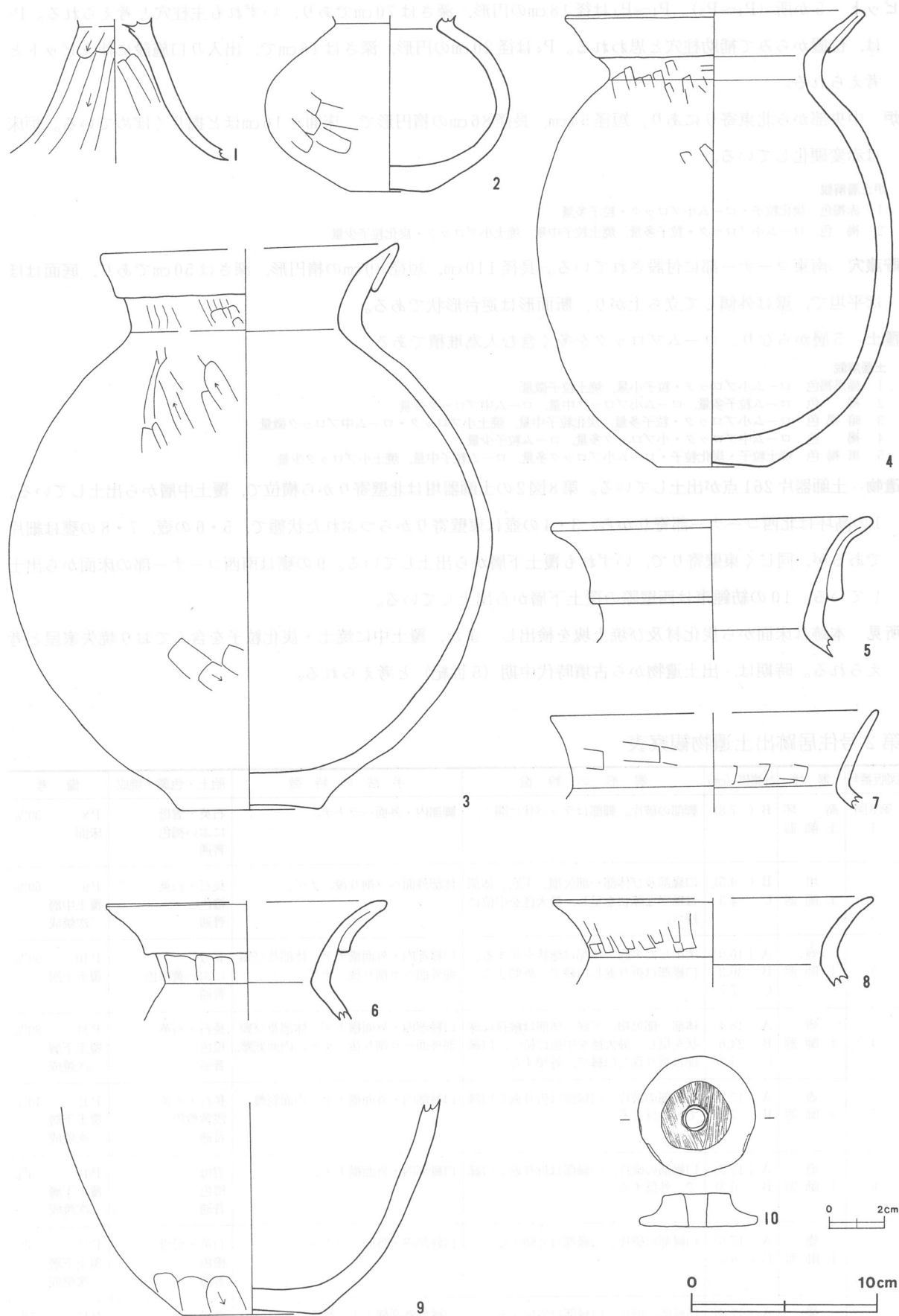
壁 壁高は50~57cm, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 壁下を全周しており, 上幅 18~32cm, 深さ 6~8cm で, 断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で, 炉の周囲が踏み固められている。東壁下中央部から住居跡中央部に向かって延びる溝 (a) と, 西壁下の北西寄りの部分から住居跡中央部に向かって延びる溝 (b) を確認した。a は長さ 0.84m, 上幅 18~22cm, 深さ 8cm, b は長さ 1.28m, 上幅 12~20cm, 深さ 6cm で, 断面形はU字状である。



第7図 第2号住居跡実測図



第8図 第2号住居跡出土遺物実測図

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₃は径18cmの円形、深さは70cmであり、いずれも支柱穴と考えられる。P₅は、位置からみて補助柱穴と思われる。P₄は径20cmの円形、深さは18cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部から北東寄りにあり、短径54cm、長径86cmの楕円形で、床面を16cmほど掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 赤褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子多量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量、焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子少量

貯蔵穴 南東コーナー部に付設されている。長径110cm、短径80cmの楕円形、深さは50cmであり、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

覆土 5層からなり、ロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

- 1 極黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量、炭化粒子中量、焼土小ブロック・ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム中ブロック・小ブロック多量、ローム粒子少量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、焼土小ブロック少量

遺物 土師器片261点が出土している。第8図2の土師器埴は北壁寄りから横位で、覆土中層から出土している。

1の高坏は北西コーナー部寄りから、3・4の壺は東壁寄りからつぶれた状態で、5・6の壺、7・8の甕は細片であるが、同じく東壁寄りで、いずれも覆土下層から出土している。9の甕は南西コーナー部の床面から出土している。10の紡錘車は西壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡は床面から炭化材及び焼土塊を検出し、また、覆土中に焼土・炭化粒子を含んでおり焼失家屋と考えられる。時期は、出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 1	高坏 土師器	B (7.8)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面ヘラナデ。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P8 30% 床面
2	埴 土師器	B (9.5) C 4.3	口縁部及び体部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P9 60% 覆土中層 二次焼成
3	壺 土師器	A [16.0] B 30.3 C 7.7	突出した平底。体部は球状を呈する。口縁部は折り返し口縁で、外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び頸部外面ヘラ削り後、ナデ。	雲母 にぶい黄橙色 普通	P10 90% 覆土下層
4	壺 土師器	A 16.4 B 24.6 C 5.9	体部一部欠損。平底。体部は縦長な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は折り返し口縁で、外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び頸部外面ヘラ削り後、ナデ。内面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P11 80% 覆土下層 二次焼成
5	壺 土師器	A 17.5 B (7.6)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面剝離。	長石・石英 浅黄橙色 普通	P12 10% 覆土下層 二次焼成
6	壺 土師器	A [15.2] B (6.3)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母 橙色 普通	P14 5% 覆土下層 二次焼成
7	甕 土師器	A [17.6] B (6.3)	口縁部の破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面ヘラナデ。	石英・雲母 橙色 普通	P13 5% 覆土下層 二次焼成
8	甕 土師器	A [17.2] B (4.8)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部外面横ナデ。頸部外面縦位のヘラナデ。内面横ナデ。内面剝離。	雲母 にぶい橙色 普通	P15 5% 覆土下層 二次焼成

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第8図 9	甕 土師器	B (11.5) C 7.5	底部から体部下位の破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・雲母 褐灰色 普通	P16 30% 床面 二次焼成

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第8図10	紡錘車	4.2	1.2	0.9	24.7	覆土中層	Q1

第3号住居跡 (第9図)

位置 調査区北西部, B3f₃区。

規模と平面形 南西部が調査区域外に延びているため規模と平面形は不明であるが、一辺6.34mほどの方形か長方形と推測される。

主軸方向 N-34°-E

壁 壁高は23~75cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 本跡を検出した範囲において壁下に認められ、上幅13~20cm、深さ3~7cmで、断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で、北西壁下及びP₁付近が踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁~P₂)。いずれも径40cmの円形、深さは80~95cmであり、支柱穴と考えられる。

炉 1か所。北東壁寄りにあり、長径88cm、短径30cmの楕円形で、床面を6cmほど掘りくぼめている。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土中・小ブロック・粒子多量, 焼土大ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・粒子中量, ローム大・中ブロック微量
- 2 褐色 焼土中・小ブロック・粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量, 焼土大ブロック・ローム大ブロック・中ブロック微量
- 3 赤褐色 焼土小ブロック・粒子多量, 焼土大・中ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・粒子中量, ローム大・中ブロック微量

覆土 6層からなり、ロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

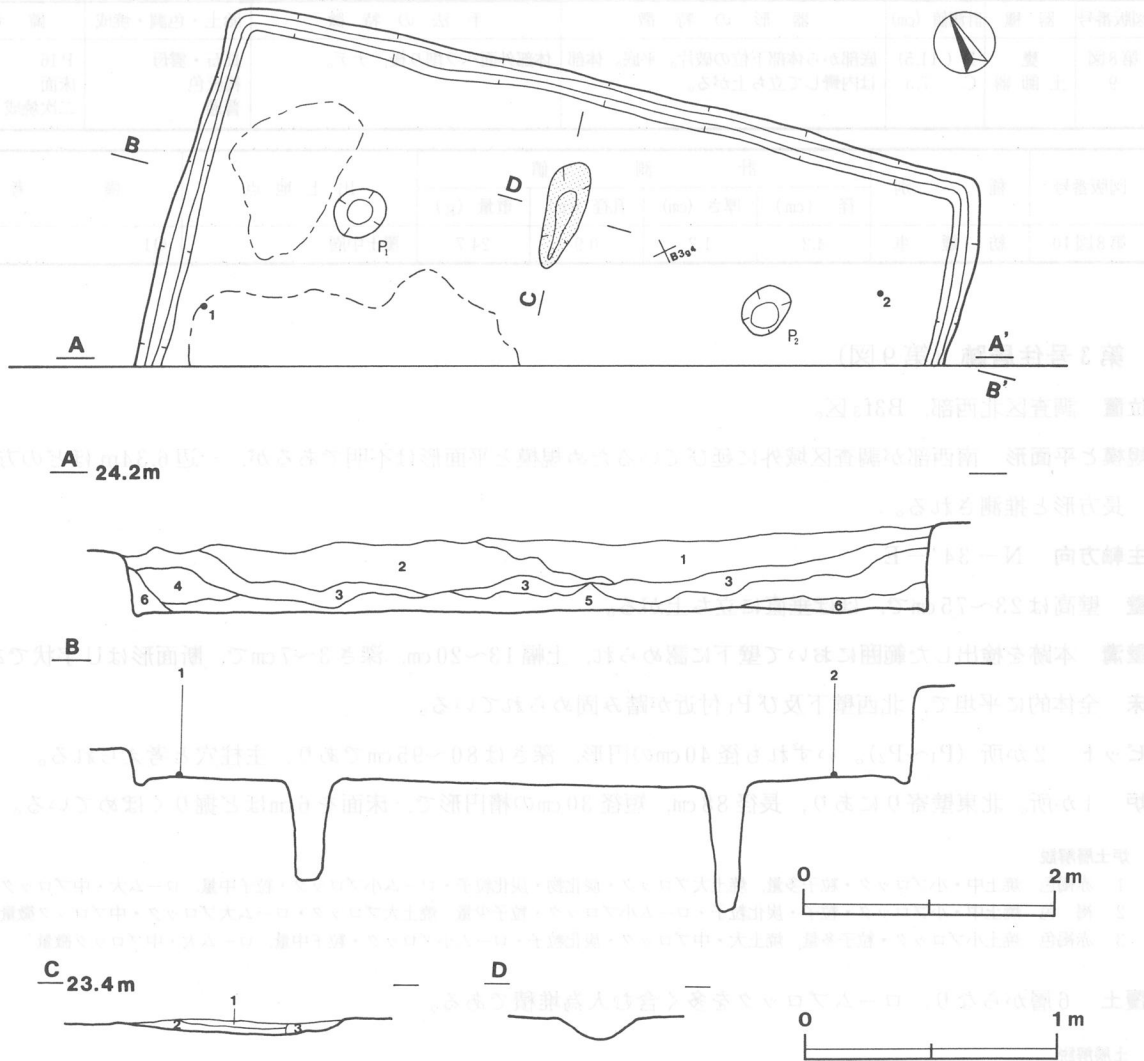
- 1 におい褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 極暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量中量
- 4 褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

遺物 土師器片22点が出土している。第10図3の土師器甕は北コーナー部の覆土中から出土している。1の高坏は北西壁際、2の壺は南東壁際の床面から出土している。

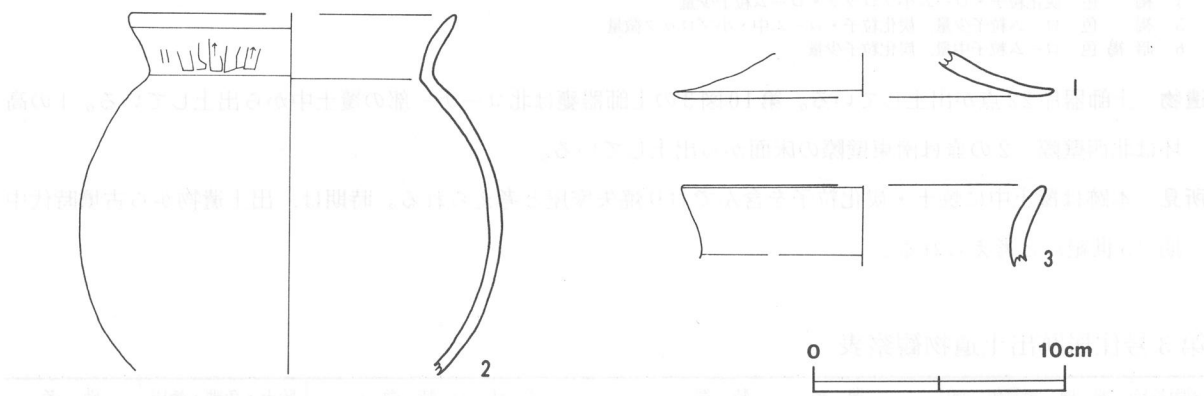
所見 本跡は覆土中に焼土・炭化粒子を含んでおり焼失家屋と考えられる。時期は、出土遺物から古墳時代中期 (5世紀) と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第10図 1	高坏 土師器	E (1.8) D [15.1]	脚裾部の破片。裾部はなだらかに開く。	裾部内・外面ナデ。	雲母・スコリア 橙色 普通	P17 5% 床面 二次焼成
2	甕 土師器	A [12.8] B (14.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。口縁部は外傾する。	体部及び頸部外面へラ削り後、ナデ。	雲母 褐色 普通	P19 20% 床面
3	甕 土師器	A [14.5] B (3.1)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 におい黄橙色 普通	P20 5% 覆土中



第9図 第3号住居跡実測図



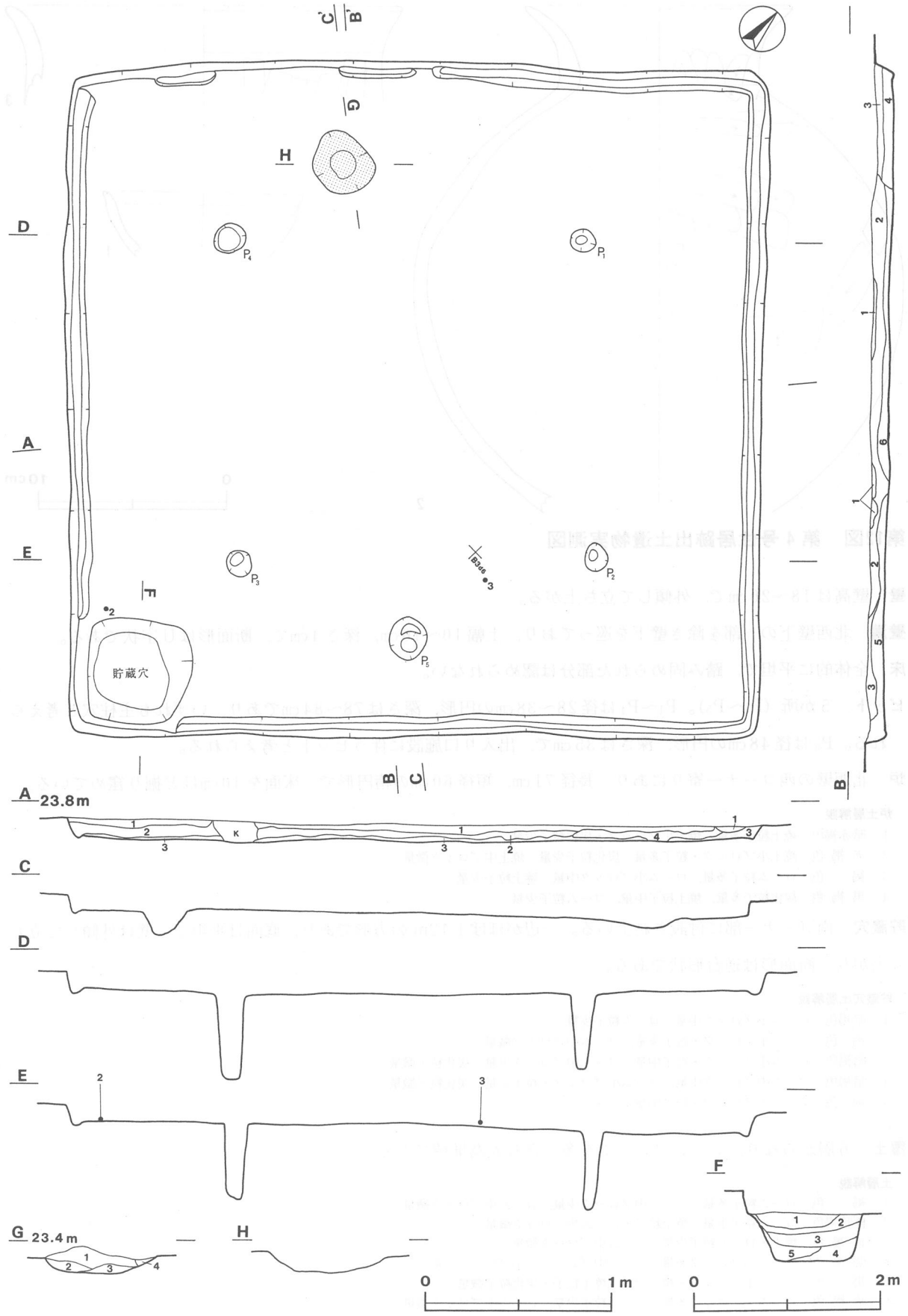
第10図 第3号住居跡出土遺物実測図

第4号住居跡 (第11図)

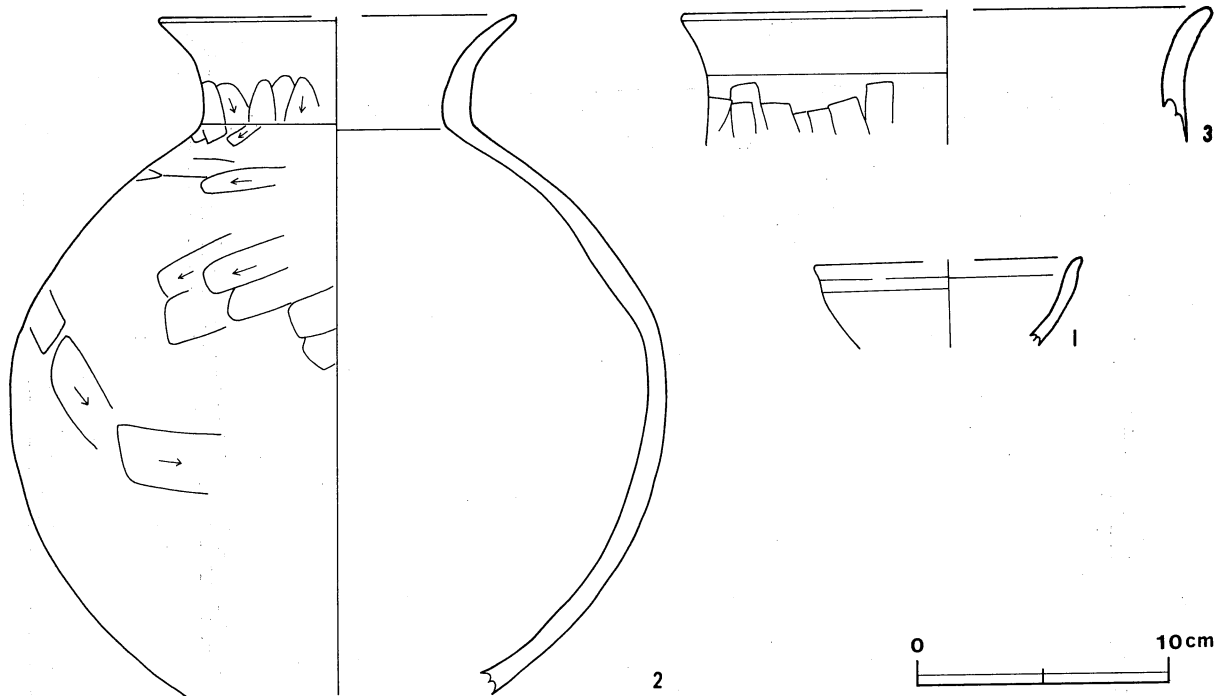
位置 調査区北西部, B3c5区。

規模と平面形 長軸7.50m, 短軸7.30mの方形である。

主軸方向 N-46°-E



第11図 第4号住居跡実測図



第12図 第4号住居跡出土遺物実測図

壁 壁高は18~20cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北西壁下の一部を除き壁下を巡っており、上幅10~16cm、深さ4cmで、断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で、踏み固められた部分は認められない。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径28~38cmの円形、深さは78~84cmであり、いずれも支柱穴と考えられる。P₅は径48cmの円形、深さは35cmで、出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 北西壁の西コーナー寄りにあり、長径71cm、短径60cmの楕円形で、床面を10cmほど掘り窪めている。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 赤褐色 焼土小ブロック・粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子少量
- 4 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量

貯蔵穴 南コーナー部に付設されている。一辺がほぼ1.12mの方形であり、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・粒子中量

覆土 6層からなり、ロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム少ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 明褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・小ブロック中量
- 5 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

遺物 土師器片154点が出土している。第12図1の土師器坏は覆土中から、3の甕は南東壁寄り、2の甕は南コーナー部の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第12図 1	坏 土師器	A [10.6] B (3.5)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ	雲母 にぶい褐色 普通	P 21 5% 覆土中
2	甕 土師器	A [14.3] B (27.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	体部及び頸部外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・スコリア 浅黄橙色 普通	P 22 50% 床面
3	甕 土師器	A [21.1] B (5.3)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラナデ。	雲母 橙色 普通	P 23 5% 床面

第5号住居跡（第13図）

位置 調査区北西部，B5h4区。

規模と平面形 南西部が調査区域以外に延びているため規模と平面形は不明であるが、一辺が8.20mほどの方形か長方形と推測される。

主軸方向 (N - 51° - W)

壁 壁高は58～88cm前後で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 本跡を検出した範囲においては、東コーナー部を除いて壁下を巡っている。上幅14～18cm、深さ4～6cmで、断面形はU字状である。

床 全体的に平坦である。

ピット 1か所 (P1)。径32cmの円形、深さ44cmであり、形状と位置から主柱穴と考えられる。

覆土 6層からなり、ロームブロックを多く含む人為堆積である。

土層解説

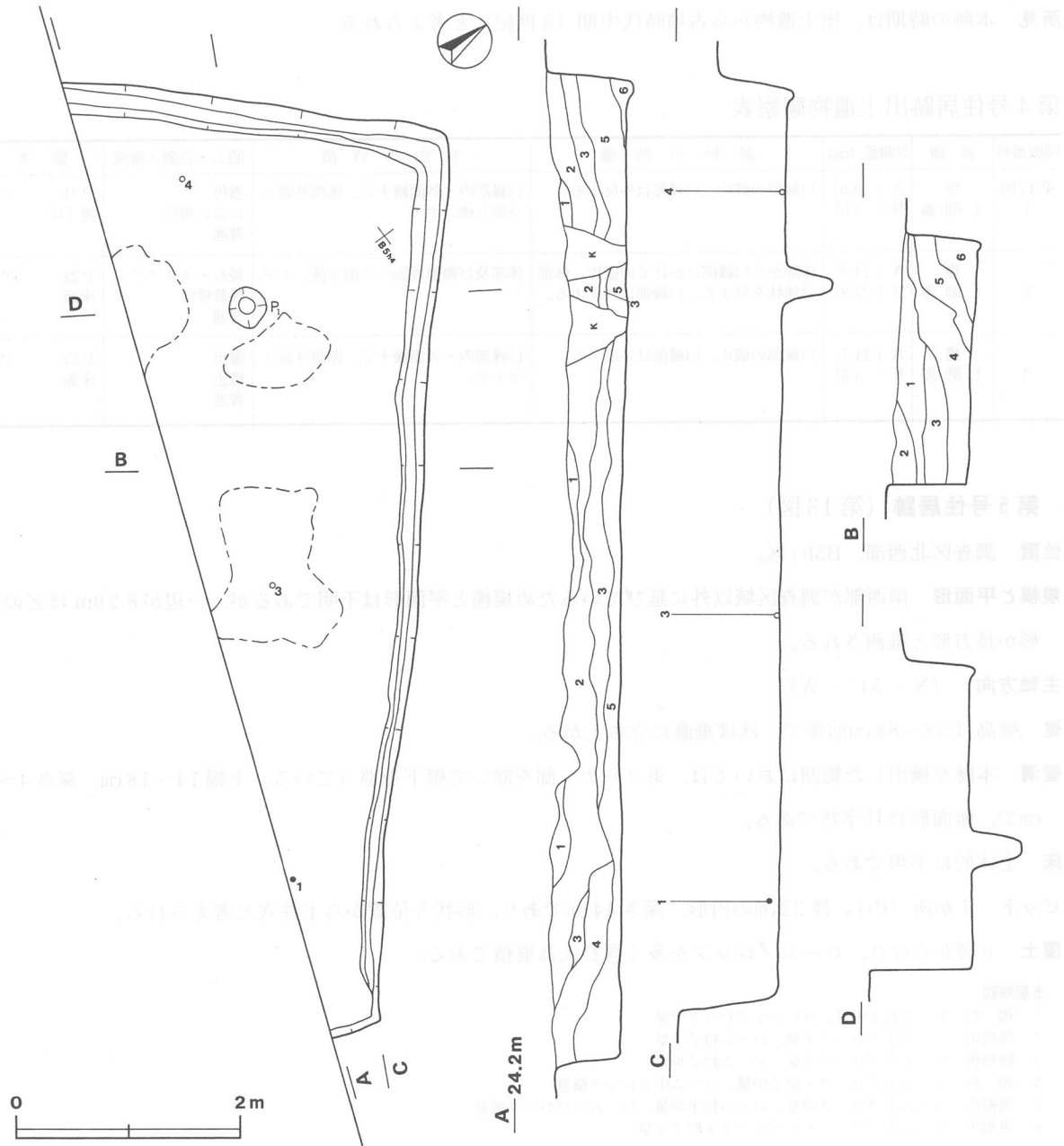
- 1 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量，ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子中量，ローム中ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，ローム中ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック・小ブロック・粒子少量

遺物 土師器片136点が出土している。第14図2の甕が覆土中から出土している。1の土師器甕は南東壁寄りの覆土下層から出土している。3の土玉は北東壁寄り、4の土玉は北西壁寄りのそれぞれ床面から出土している。

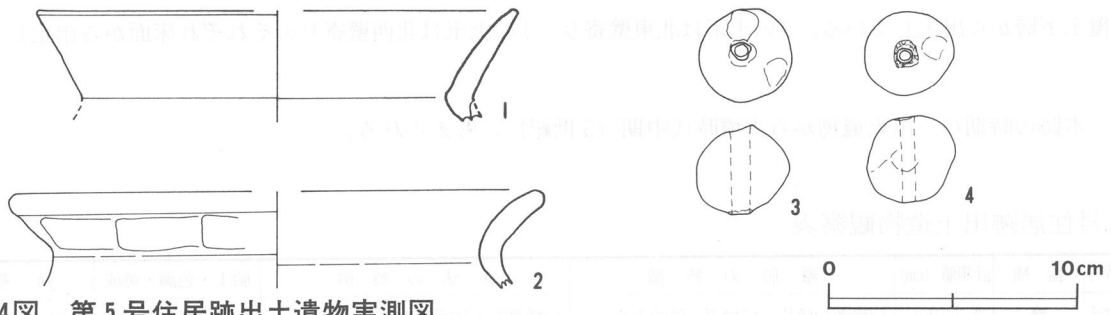
所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第14図 1	甕 土師器	A [19.4] B (4.5)	口縁部の破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P 24 5% 覆土下層
2	甕 土師器	A [21.5] B (3.9)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内面横ナデ。外面ヘラナデ。	長石 にぶい橙色 普通	P 25 5% 覆土中



第13図 第5号住居跡実測図



第14図 第5号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第14図3	土玉	3.8	3.6	0.7	40.7	床面	DP1
4	土玉	3.6	3.5	0.6	35.5	床面	DP2

第6号住居跡 (第15図)

位置 調査区南東部, C5c8区。

重複関係 本跡は北部を第4号溝に, 南部を第45号土坑に掘り込まれ, 南西で第41号土坑を掘り込んでいるので, 本跡は第41号土坑より新しく, 第4号溝より古い。

規模と平面形 長軸3.92m, 短軸3.88mの方形である。

主軸方向 N-57°-W

壁 壁高は4~8cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 本跡を検出した範囲において壁下を巡っており, 上幅16~24cm, 深さ2~4cmで, 断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で, 特に硬化面はみられない。

炉 中央部から北西寄りにあり, 長径58cm, 短径46cmの楕円形で, 床面を10cmほど掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 赤褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・ローム中ブロック少量

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁~P₂はともに長径42cm, 短径36cmの楕円形, 深さは28~32cmであり, P₃は長径40cm, 短径20cmの楕円形, 深さは88cmで, いずれも性格は不明である。

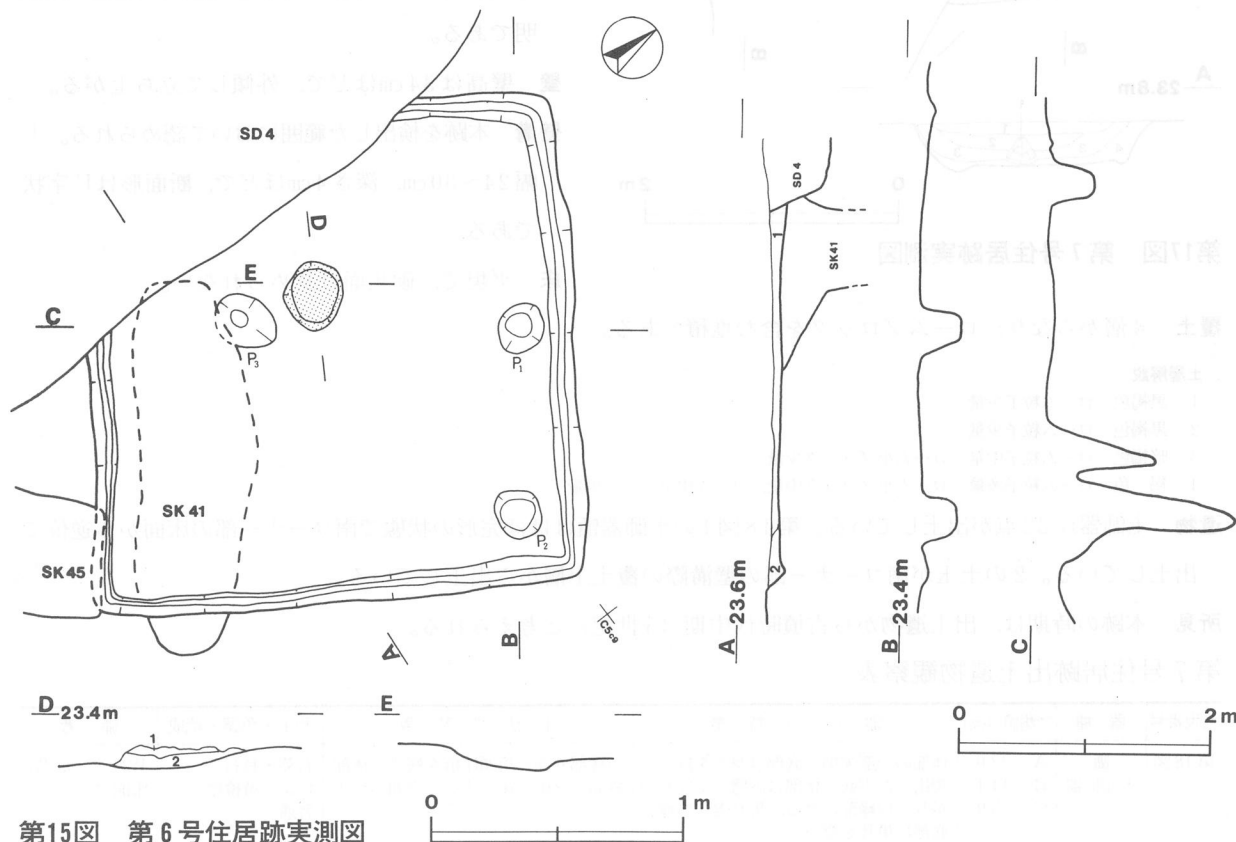
覆土 2層からなり, ローム粒子を多く含む人為堆積である。

土層解説

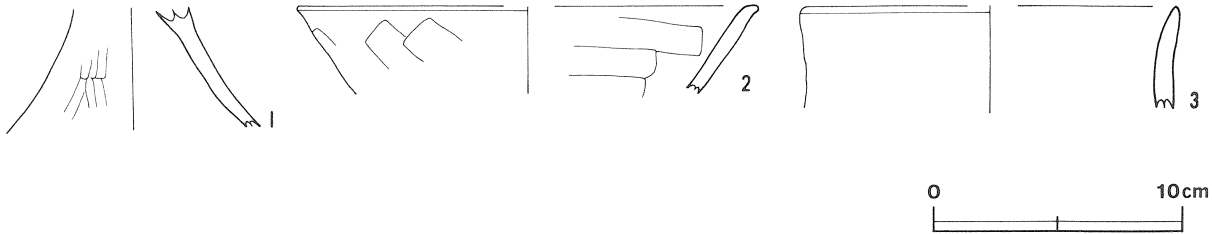
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片332点が出土しているが, いずれも細片である。第16図1の土師器高坏, 2・3の甕は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代中期 (5世紀) と考えられる。



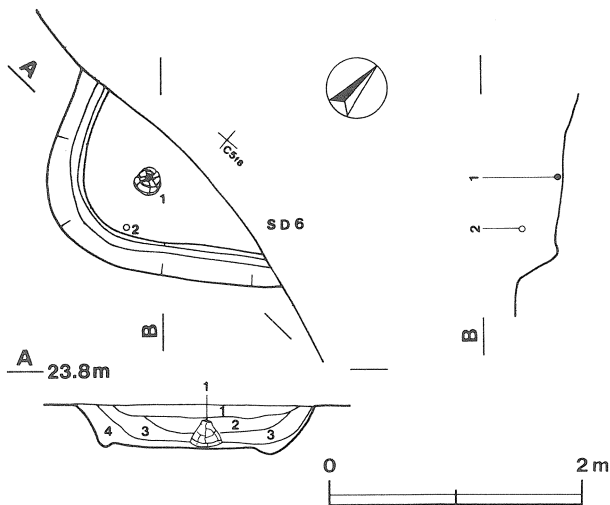
第15図 第6号住居跡実測図



第16図 第6号住居跡出土遺物実測図

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第16図 1	高坏土師器	E (4.9)	脚柱部の破片。脚柱部はラッパ状に開く。	脚柱部外面ヘラナデ。内面ナデ。	石英・スコリアにふい橙色普通	P26 5% 覆土中
2	甕土師器	A [18.4] B (3.5)	口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面横ナデ。内・外面ヘラナデ。	長石・石英黒色普通	P27 5% 覆土中
3	甕土師器	A [15.0] B (4.3)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	内・外面剝離のため調整法不明。	雲母灰褐色普通	P28 5% 覆土中



第17図 第7号住居跡実測図

第7号住居跡 (第17図)

位置 調査区南東部, C5f8区。

重複関係 本跡は第6号溝に掘り込まれ, 第6号墳封土下に検出されており, 本跡がもっとも古い。

規模と平面形 重複のため正確な規模や平面形は不明である。

壁 壁高は34cmほどで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 本跡を検出した範囲において認められる。上幅24~30cm, 深さ4cmほどで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 硬化面は認められない。

覆土 4層からなり, ロームブロックを含む堆積である。

土層解説

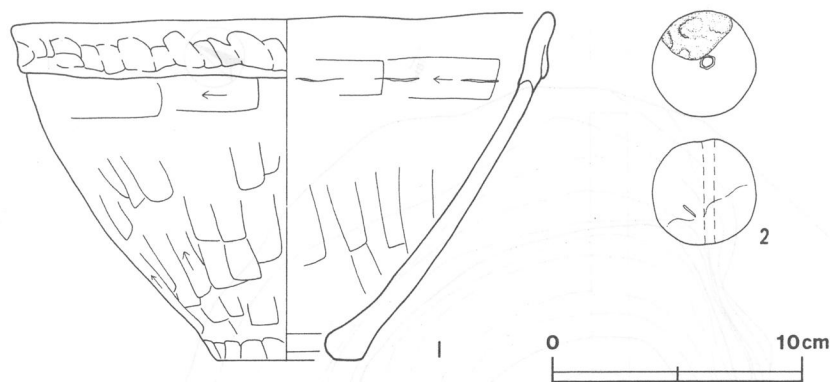
- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

遺物 土師器片22点が出土している。第18図1の土師器甕はほぼ完形の状態で南コーナー部の床面から逆位で出土している。2の土玉が南コーナー部の壁溝際の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代中期 (5世紀) と考えられる。

第7号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第18図 1	甕土師器	A 22.0 B 14.1 C 5.9	体部の一部欠損。底部は厚みを持ち, 突出した平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。折り返し口縁。底部に単孔を穿つ。	口縁部外面に指頭圧痕を残す。体部外面ヘラ削り後, ナデ。内面ヘラナデ。	石英・長石にふい黄橙色普通	P29 95% 床面



第18図 第7号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第18図2	土玉	4.2	4.3	0.5	66.7	覆土上層	DP3

表2 実穀古墳群住居跡一覧表

住居番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模 (m) 長径×短径 (m)	壁高 (cm)	床面	内部施設						炉	覆土	出土遺物	備考
							壁溝	溝	柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
1	A2j8	N-50°-E	方形	5.46 × 5.29	27~45	平坦	全周	1	4	1	-	1	3	人為	土師器 (高坏・甕・甗)	本跡→SK1
2	B2c8	N-3°-W	方形	4.14 × 3.74	50~57	平坦	全周	2	3	1	1	1	1	人為	土師器 (甗・甕・壺)	本跡→SD1
3	B3f3	N-34°-E	不明	6.34 × (2.79)	46~75	平坦	全周		2		-		1	人為	土師器 (高坏・甕・壺)	
4	B3d6	N-46°-E	方形	7.50 × 7.30	20~23	平坦	ほぼ全周		4	1		1	1	人為	土師器 (甕)	
5	B5h4	N-51°-W	不明	8.20 × (3.23)	58~88	平坦	一部		1	-	-	-	-	人為	土師器 (甕)	
6	C5c8	N-57°-W	方形	3.92 × 3.88	4~8	平坦	全周					3	1	人為	土師器 (高坏・甕)	SK41→本跡→SD4
7	C5f8	-	不明	(1.60 × 1.20)	34	平坦	全周	-	-	-	-	-	-	人為	土師器 (甗)	本跡→TM6→SD6

2 古墳

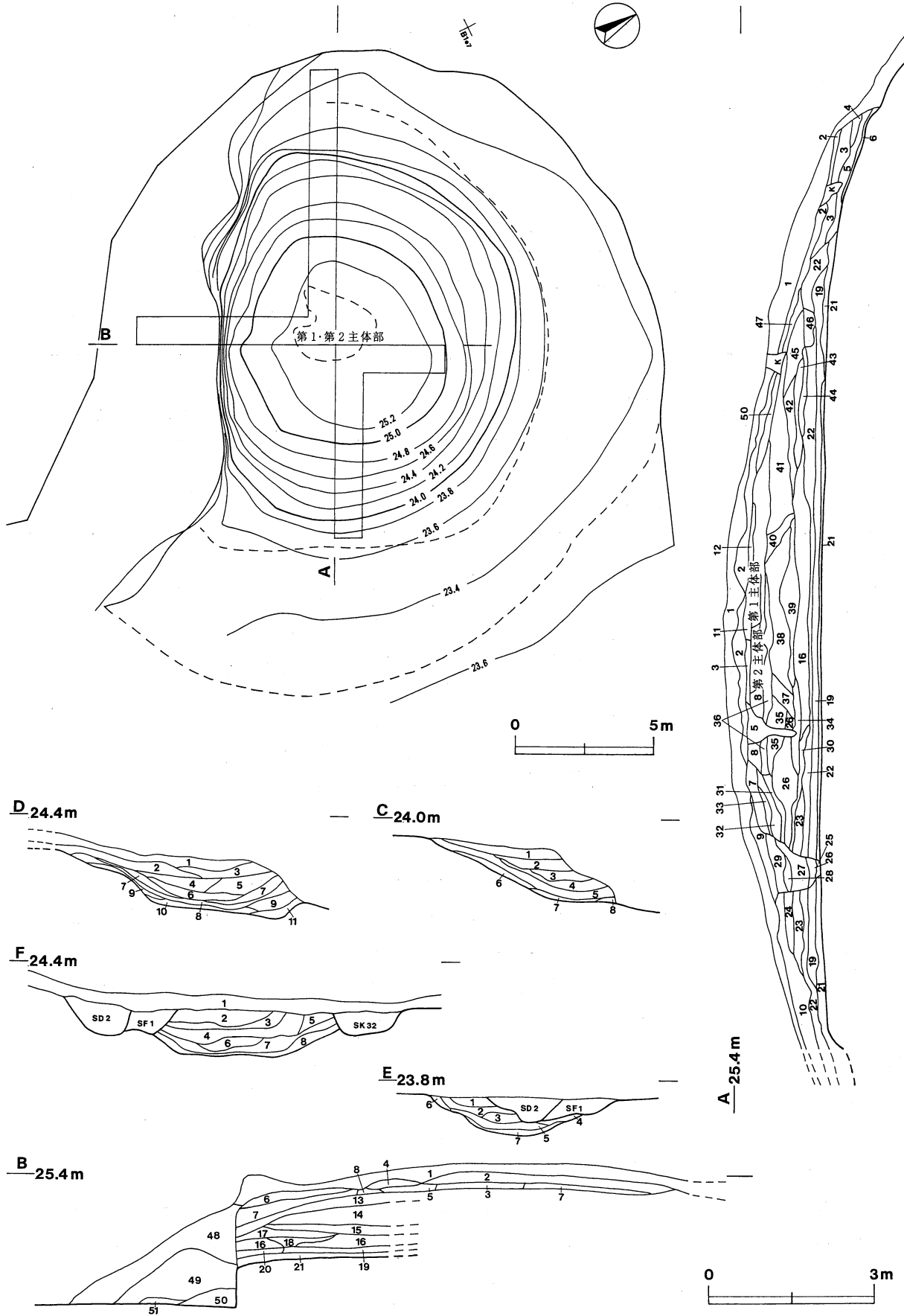
実穀古墳群は4基からなる古墳群とされていた。^① その内の1基が調査区西部にはいるため調査を行った。また、調査区東部で新たに3基の古墳を検出し、今回、合計4基の円墳を調査した。阿見町教育委員会と協議の結果、調査以前から確認されていた4基の古墳を第1号墳、第2号墳、第3号墳、第4号墳とした。その内の第1~3号墳は現状保存することになり、今回調査した古墳は第4号墳である。新たに検出された古墳は、検出順に第6号墳、第7号墳、第8号墳とし調査した。(第5号墳については、調査過程で古墳ではなく塚であることが判明し、欠番とした。) 以下、検出された遺構及び遺物について記載する。

註 (1) 阿見町史編さん委員会『阿見町史』 1983年3月

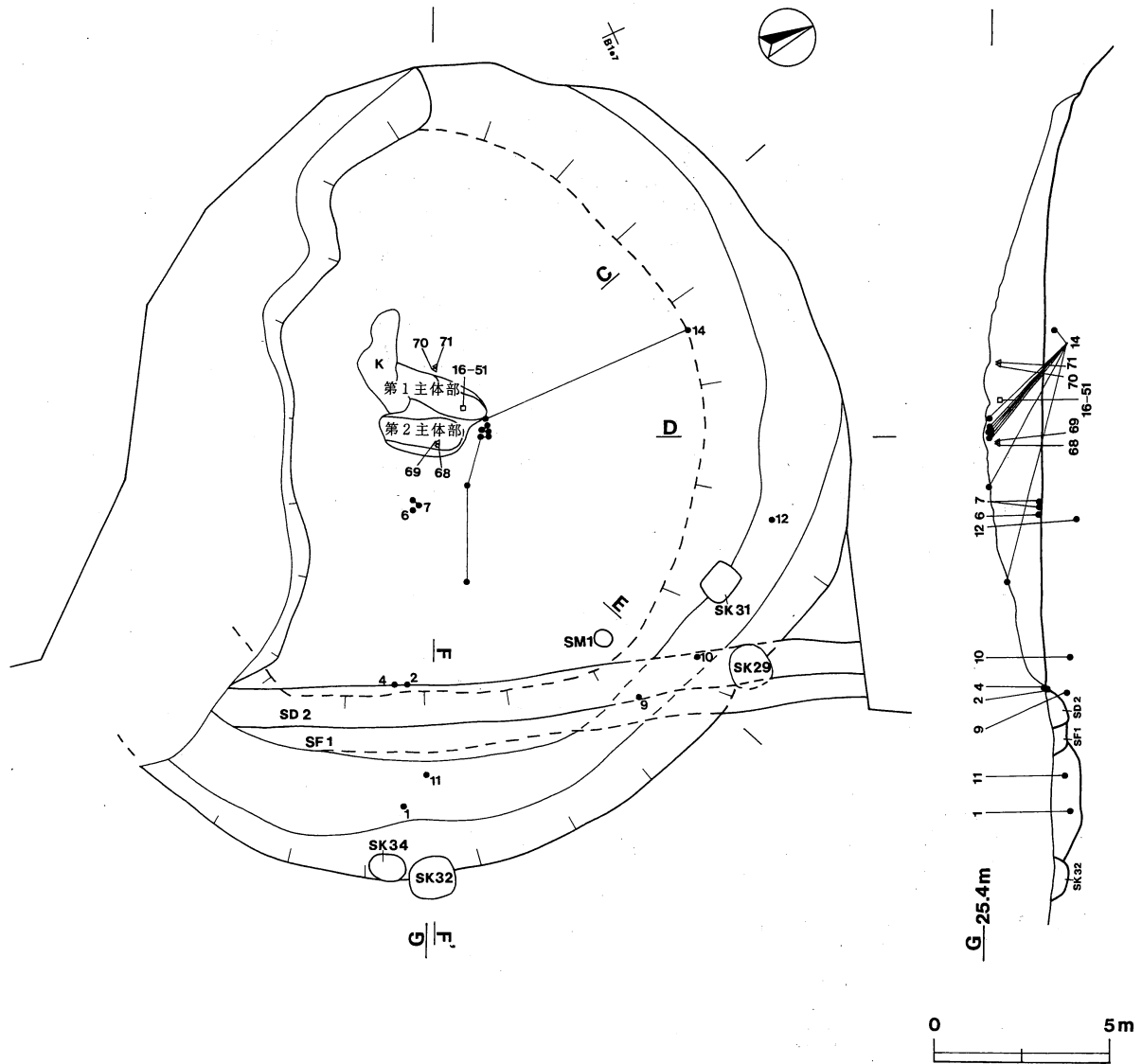
第4号墳 (第19・20・21図)

現況と確認状況 調査前の現況は山林であった。墳丘の保存状況は比較的良好で、調査以前からその存在が確認されていた。しかし、古墳の周囲が土取りされており、調査の過程において周溝及び墳丘の一部が削平されていることが確認された。

位置 調査区西部、B1g9区を中心に検出されている。南西に乙戸川を臨む舌状台地の先端に位置する。本跡の南西から西にかけて小さな谷津が入り、谷津に向かって傾斜がみられる。また、約70m東側に第2号墳がある。



第19图 第4号墳実測図(1)



第20図 第4号墳実測図(2)

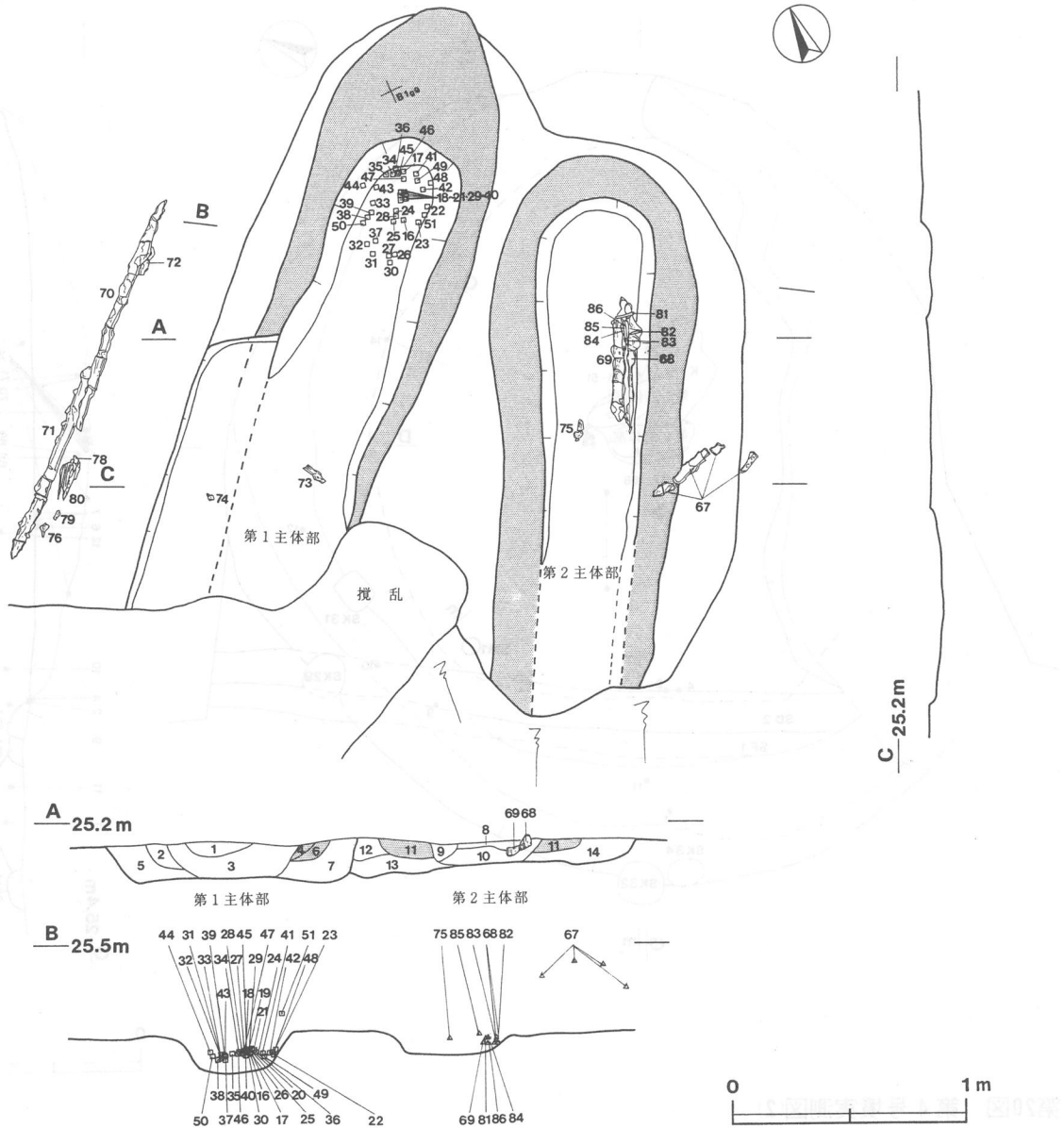
重複関係 本跡が、第1号道路跡、第2号溝、第1号地点貝塚、第29・31・32・34号土坑に掘り込まれており、本跡が古い。

墳形及び規模 円墳。墳丘の高さは2.29mである。周溝の4分の3ほどが削平されているため正確な規模は不明であるが、墳径は周溝内径で約16mほどであると考えられる。

墳丘 残存する封土の厚さは1.4mである。第19層が旧表土と考えられる。封土の最下層は、旧表土の上にローム小ブロック及びローム粒子を含む暗褐色土の層で盛られており、おおむね締まりがある。中層は、褐色土・明褐色土で厚さ10~40cmの層から構成されており、おおむね締まりがある。上層は、ローム小ブロック及びローム粒子を主体とする10~30cmの褐色土の層で構成され、締まりは弱い。

墳丘土層解説

- 1 暗褐色 表土
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 6 におい褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック微量
- 7 褐色 ローム小・中ブロック・粒子中量



第21図 第4号墳主体部実測図

8	褐色	ローム小・中ブロック・粒子中量	23	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
9	褐色	ローム小ブロック・粒子少量	24	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
10	褐色	ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量	25	暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量
11	褐色	ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック・粘土粒子少量	26	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
12	褐色	ローム小ブロック・粒子・粘土粒子中量, ローム中ブロック少量	27	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大・中ブロック少量
13	褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量	28	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
14	褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量	29	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
15	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量	30	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・黒色土少量
16	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量	31	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
17	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量	32	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
18	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量	33	褐色	ローム小ブロック・粒子中量
19	極暗褐色	黒色土多量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック・粒子少量 (旧表土)	34	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
20	暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量	35	褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック・黒色土少量
21	褐色	ローム小ブロック・粒子多量	36	褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム大・中ブロック中量
22	暗褐色	ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量			

37	褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量	44	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック少量
38	褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム大・中ブロック中量	45	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
39	褐色	ローム小ブロック・粒子多量	46	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 黒色土少量
40	明褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量	47	褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム大・中ブロック中量
41	褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム大・中ブロック中量	48	明褐色	粘土粒子多量, ローム粒子少量
42	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック少量	49	暗褐色	黒色土多量, ローム粒子少量
43	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・黒色土少量	50	極暗褐色	黒色土多量, ローム粒子少量

周溝 墳丘を取り囲むように円形に構築されている。南部及び西部が削平されているが、全周していたと考えられる。規模は上幅 3.1~5.2m, 下幅 1.2~2.4m, 深さ 0.6~1.1m で断面形は逆台形状及びU字状である。覆土の堆積状況は自然堆積である。下層は墳丘の盛土流失によるローム粒子を多量に含む褐色土が堆積し、中層から焼土及び炭化粒子を微量に含む黒褐色土が堆積している。

周溝土層解説

C-C'

1	にぶい褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・粒子微量
4	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
5	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
6	褐色	ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量
7	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
8	褐色	ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量

E-E'

1	にぶい褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
3	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・粒子微量
4	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
5	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
6	褐色	ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量
7	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

D-D'

1	にぶい褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
2	褐色	ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・粒子少量
3	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
4	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
6	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・粒子微量
7	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
8	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
9	褐色	ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量
10	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
11	褐色	ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量

F-F'

1	にぶい褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
3	暗褐色	ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
4	暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・粒子微量
6	暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
7	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック・粒子微量
8	褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

埋葬施設 墳頂部直下の西寄りの部分に1基（第1主体部）、その隣、墳頂部南下の東寄りの部分に1基（第2主体部）、合計2基が検出された。第1主体部の掘り方が第2主体部の掘り方を掘り込んでおり第1主体部の方が新しい。第1主体部は南西方向に攪乱を受け、また、第1・第2主体部とも南西部が削平されている。

①第1主体部 主軸方向はN-45°-Eである。南西部に攪乱と削平を受けているため、正確な規模と平面形は不明であるが、掘り方の平面形は長楕円形と考えられる。掘り方の断面形は短径方向で逆台形状を呈している。厚さ10cmほどの粘土が、北東方向先端に幅58cm, 南東・北西方向のそれぞれ両端に幅4~12cmで、中心部を囲む状態で検出された。削平された南西部では検出されていないが、この粘土は中心部にあったと思われる木棺の周囲をめぐっていたものと考えられる。

②第2主体部 主軸方向はN-38°-Eである。第1主体部と同じく、掘り方の平面形は長楕円形と考えられる。掘り方の断面は短径方向で逆台形状を呈している。粘土は、厚さ7cm, 幅15~20cmで削平を受けていない中心部を囲んでおり、第1主体部と同じく、中心部にあったと思われる木棺の周囲をめぐっていたものと考えられる。

埋葬施設土層解説

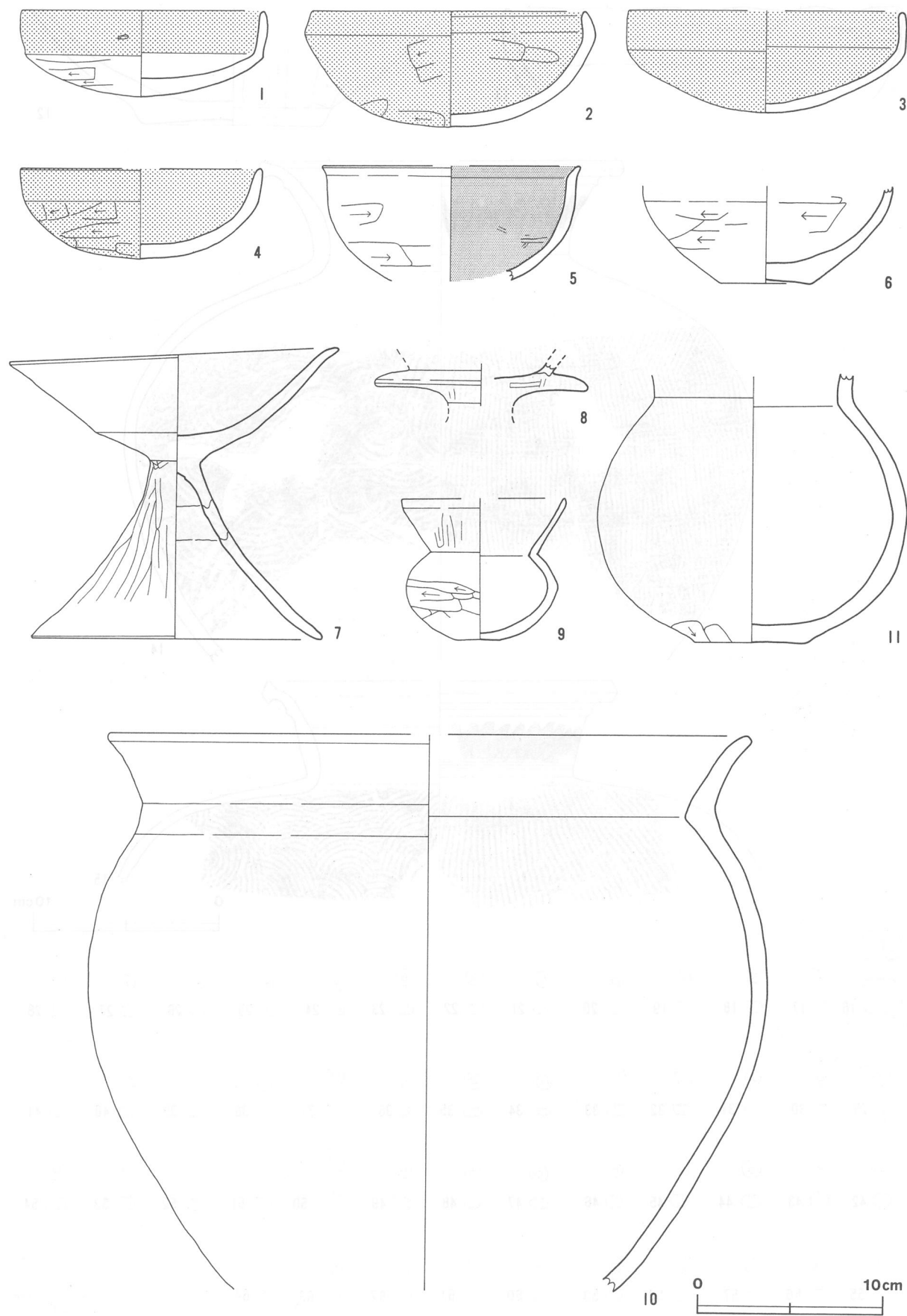
- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック少量
- 4 褐色 粘土粒子・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック少量
- 6 褐色 粘度小ブロック中量, 粘土粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 粘土粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子・粘土粒子中量, ローム小ブロック少量
- 10 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 11 褐色 粘土粒子中量, 粘土小ブロック・粒子少量
- 12 褐色 ローム粒子中量, 粘土粒子・ローム小ブロック少量, 粘土小ブロック微量
- 13 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 粘土粒子微量
- 14 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 粘土小ブロック微量

遺物 墳丘の遺物は、第22図2・4の土師器杯が南東部の裾部から逆位の状態で、14の須恵器甕が第1主体部の北東部上面につぶれた状態で出土している。周溝内の遺物は、5の土師器杯、3の杯、8の高杯、13の甕が覆土中から、1の杯が逆位で、11の甕と南東部から、9の埴、10の甕が東部から、12の甕が北東部の覆土下層から出土している。封土中の旧表土上層から6の杯、7の高杯が正位の状態で出土している。第1主体部の遺物は、第25図73の刀子が中央部から、第24図70・71の直刀が鋒を北東方向に向け、71の鋒が70の茎に接した状態で、主体部中心から北西方向へ約55cm、主体部確認面から約2cm上の封土中から出土している。ともに背を主体部側に向けており、主体部の軸線と並行な状態で検出された。第25図72の刀子は鋒を北東方向に向け、70の直刀の背に接した状態で出土している。80の鉄鏃は刃部を北東方向に向け、71の直刀の背近くにまとまった状態で出土している。また、76～79の鉄鏃が80の鉄鏃の周囲に散在した状態で出土している。第23図16～51のガラス小玉は主体部内の北東部端、覆土上層にまとまって出土しており、その状況から埋葬者の頭部近くにあった可能性が考えられる。第2主体部の遺物は、第24図67の直刀が主体部中央から東へ約40cm、主体部確認面から約19～30cm上の封土中に散在した状態で出土している。第25図82の鉄鏃が中央部から、第24図68・69の直刀がともに鋒を北東方向に向け、北東部端にほぼ並んで主体部の覆土中層から出土している。69の直刀は刃を主体部外側に、68の直刀は刃を下に向けている。第25図81～86の鉄鏃は、68・69の直刀の上に刃部を北東方向に向けた状態で出土している。なお、第1・第2主体部において人骨は検出されなかった。

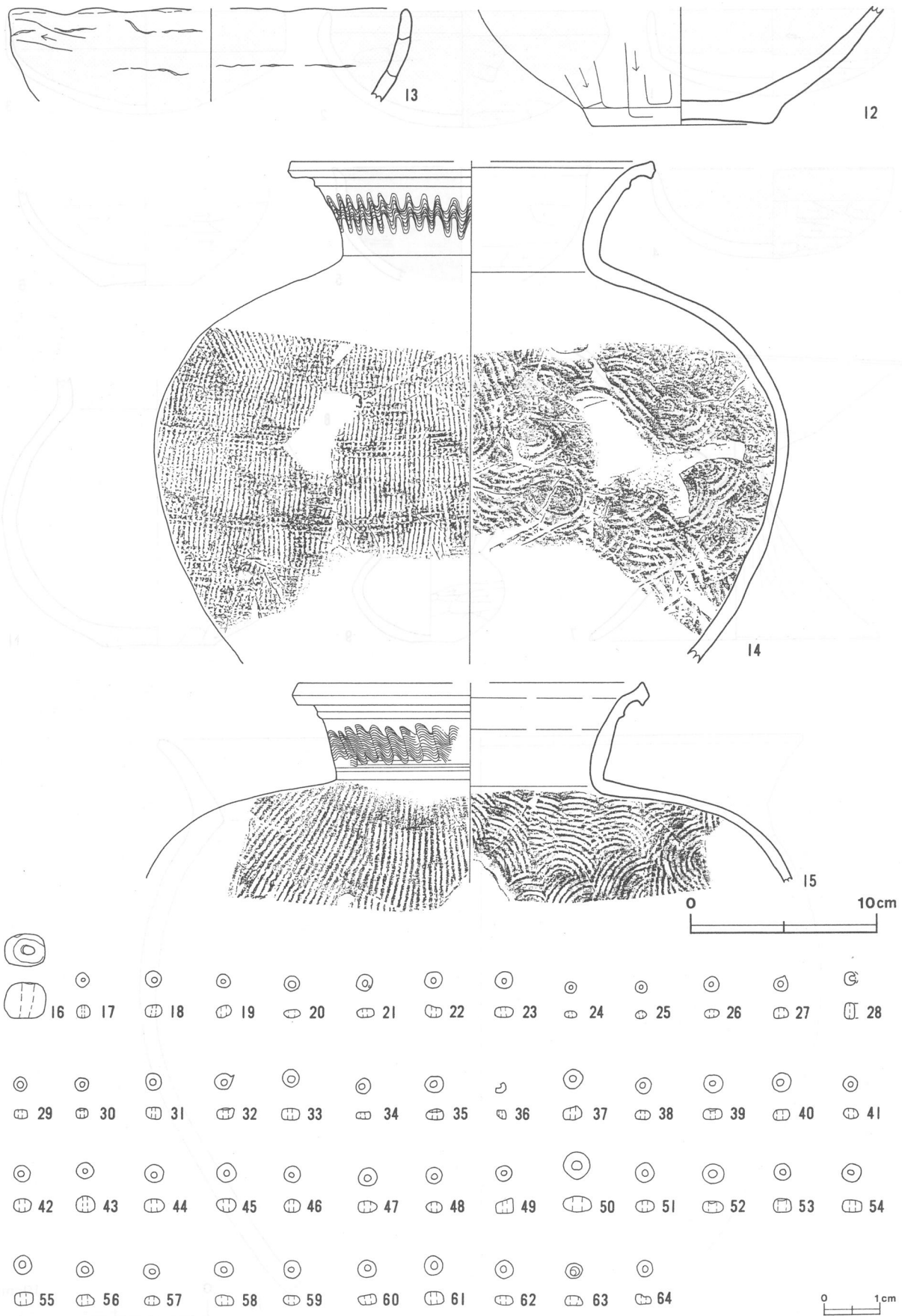
所見 主体部の構造や副葬品などの内容が近似している点から、2つの主体部の時間差はあまりないものと思われる。本跡は、墳形、主体部の形態及び遺物から古墳時代後期（5世紀末～6世紀初頭）と考えられる。

第4号墳出土遺物観察表

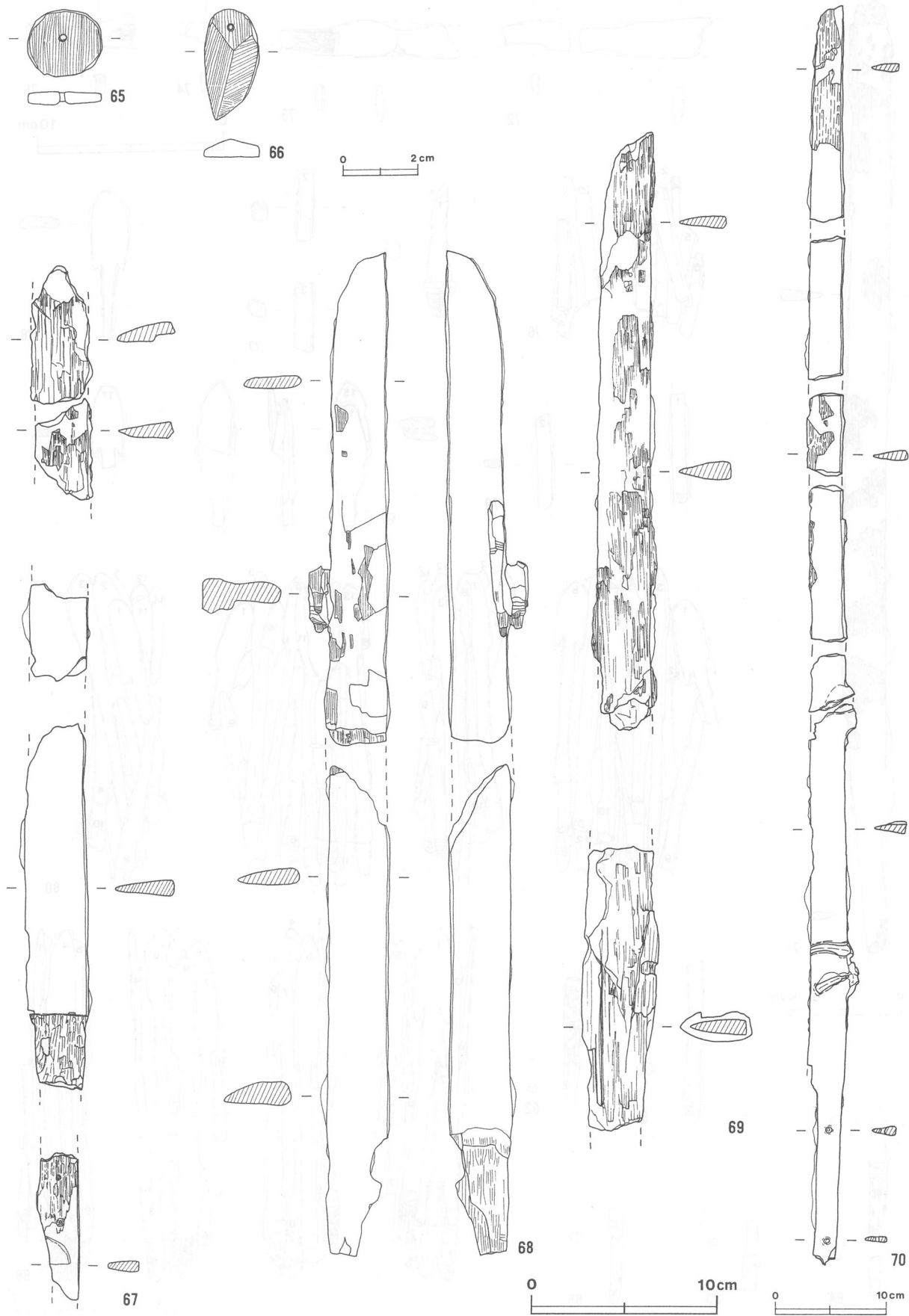
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 1	杯 土師器	A 13.2 B 4.6	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部外面に稜を持つ。口縁部はほぼ直立する。口縁部外面に靱痕が残る。	口縁部内・外面横ナデ。底部及び体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。口縁部内・外面赤彩。	長石・石英 明赤褐色 普通	P 32 100% 周溝覆土中
2	杯 土師器	A 14.8 B 6.1	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部外面に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。底部及び体部内・外面へラ削り後、ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英 明赤褐色 普通	P 33 95% 墳丘表土中
3	杯 土師器	A [14.8] B (5.5)	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部外面に稜を持つ。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。底部及び外面へラ削り後、ナデ。内・外面赤彩。内面剝離。	石英・雲母 赤褐色 普通	P 34 55% 周溝覆土中 二次焼成
4	杯 土師器	A [13.1] B 4.9	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部外面に稜を持つ。口縁部は弱く外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。底部及び体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英 赤褐色 普通	P 35 50% 墳丘表土中



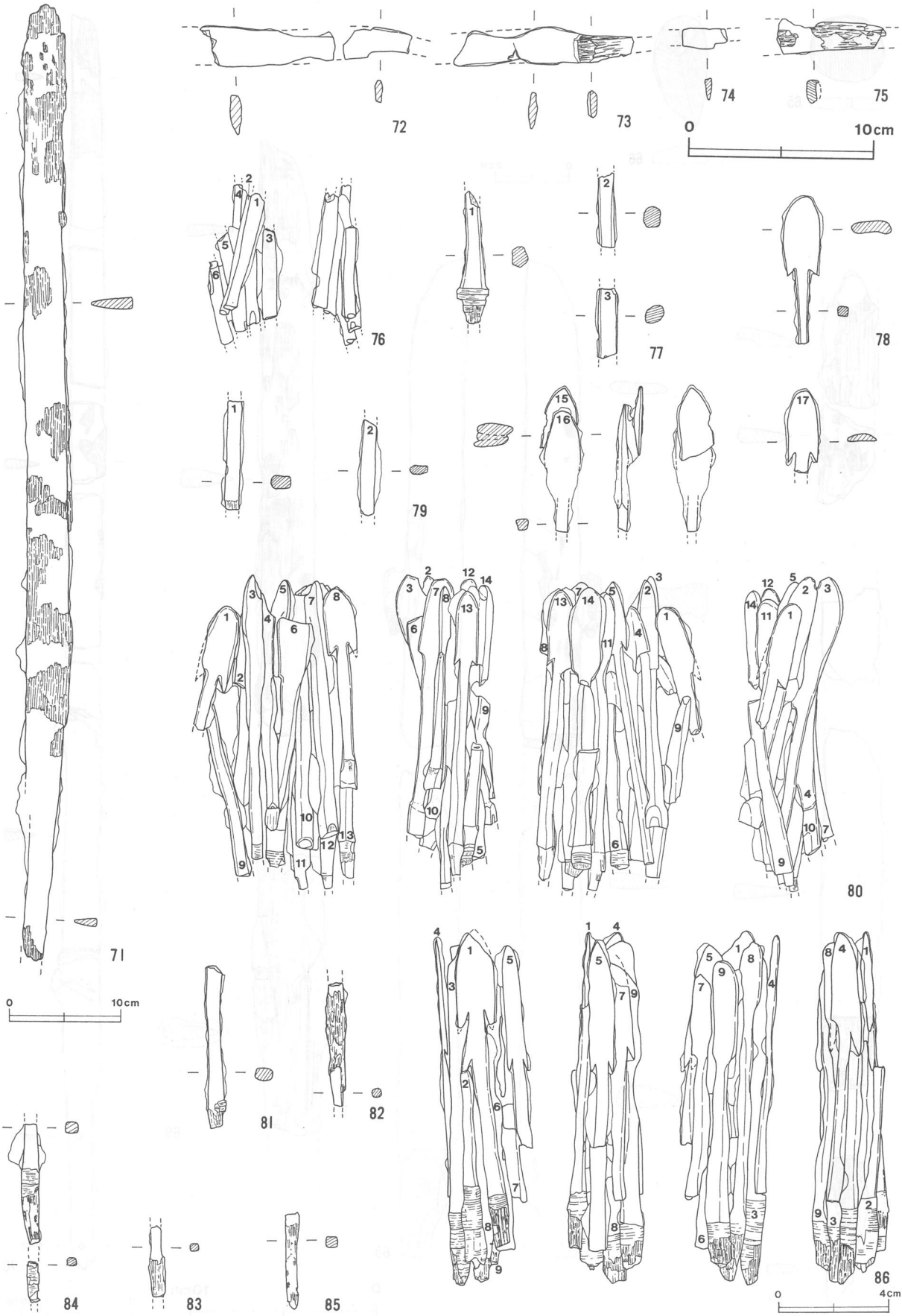
第22図 第4号墳出土遺物実測図(1)



第23図 第4号墳出土遺物実測図(2)



第24図 第4号墳出土遺物実測図(3)



第25图 第4号墳出土遺物実測図(4)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第22図 5	坏土師器	A [14.0] B (6.2)	体部及び口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面横位のへラ磨き後、内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P 36 30% 周溝覆土中 二次焼成
6	坏土師器	B (5.2) C [4.8]	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	底部・体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	石英 にぶい橙色 普通	P 37 40% 旧表土上層
7	高坏土師器	A 17.8 B 15.9 D 15.8 E 9.8	坏部一部欠損。脚部はラップ状に開く。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。脚部外面へラ磨き。内面ナデ。	石英・長石・スコリア 橙色 普通	P 42 95% 旧表土上層 二次焼成
8	高坏土師器	B (2.4)	坏部下位の破片。坏部下位に突帯を持つ。	坏部外面へラ削り後、ナデ。内面へラ磨き。	石英・長石 黒褐色 普通	P 43 10% 周溝覆土中
9	埴土師器	A [8.9] B 7.6 C 2.3	口縁部の一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈する。口縁部は外傾して立ち上がる。最大径を口縁部に持つ。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部下位及び体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 浅黄橙色 普通	P 44 70% 周溝覆土中
10	甕土師器	A [34.7] B (30.0)	底部から体部一部欠損。体部は球状を呈し、最大径を中位よりやや上方に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	石英・長石 にぶい橙色 普通	P 45 50% 周溝覆土中
11	甕土師器	B (14.6) C 6.0	底部から体部にかけての破片。やや突出した平底。体部は球状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面へラ削り後、ナデ。底部へラ削り。	雲母 にぶい褐色 普通	P 46 45% 周溝覆土中 外面剝離
第23図 12	甕土師器	B (6.3) C 9.8	底部から体部下位にかけての破片。底部は突出した平底。	体部外面へラ削り後、ナデ。底部へラ削り。	石英・長石・雲母 にぶい褐色 普通	P 47 15% 周溝覆土下層
13	甕土師器	A [21.7] B (5.0)	口縁部の破片。内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面ナデ。内・外面に輪積痕を残す。	雲母 灰黄褐色 普通	P 48 10% 周溝覆土中
14	甕須恵器	A [19.6] B (27.0)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し、端部に稜を持つ。口縁部直下に断面三角形の凸帯をめぐらし、その下に10本1条の櫛描波状文を施す。	体部外面平行叩き。内面同心円状の当て具痕。口縁部及び体部上位に自然釉がみられる。	長石 オリーブ黒色 良好	P 49 40% 墳頂部表土中
15	甕須恵器	A [18.4] B (10.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反し、端部に明瞭な稜を持つ。口縁部直下に断面三角形の凸帯をめぐらし、その下に15本1条の櫛描波状文を施す。	体部外面平行叩き。内面同心円状の当て具痕。口縁部及び体部上位に自然釉がみられる。	長石 灰色 良好	P 50 10% 墳頂部表土・周溝覆土中

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第23図16	ガラス丸玉	0.7	0.6	0.2	第4号墳 第1主体部	Q12
17	ガラス小玉	0.2	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q14
18	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q15
19	ガラス小玉	0.2	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q16
20	ガラス小玉	0.3	0.1	0.1	第4号墳 第1主体部	Q17
21	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q18
22	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q19
23	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q20
24	ガラス小玉	0.2	0.1	0.1	第4号墳 第1主体部	Q21
25	ガラス小玉	0.2	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q22
26	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q23
27	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q24
28	ガラス小玉	0.2	0.3	0.1	第4号墳 第1主体部	Q25
29	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q26

実穀古墳群

図版番号	種 別	計 測 値			出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第23図30	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q27
31	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q28
32	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q29
33	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q30
34	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q31
35	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q32
36	ガラス小玉	(0.2)	0.2	—	第4号墳 第1主体部	Q33
37	ガラス小玉	0.3	0.3	0.1	第4号墳 第1主体部	Q34
38	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q35
39	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q36
40	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q37
41	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q38
42	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q39
43	ガラス小玉	0.3	0.3	0.1	第4号墳 第1主体部	Q40
44	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q41
45	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q42
46	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q43
47	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q44
48	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q45
49	ガラス小玉	0.3	0.3	0.1	第4号墳 第1主体部	Q46
50	ガラス小玉	0.5	0.3	0.2	第4号墳 第1主体部	Q47
51	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q48
52	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q92
53	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q93
54	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q94
55	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q95
56	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q96
57	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q97
58	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q98
59	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q99
60	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q100
61	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q101
62	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q102
63	ガラス小玉	0.3	0.2	0.2	第4号墳 第1主体部	Q103
64	ガラス小玉	0.3	0.2	0.1	第4号墳 第1主体部	Q104

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第24図65	有孔円板	2.1	0.3	0.1	2.0	墳丘封土中	Q49 滑石

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第24図66	剣形品	3.0	1.5	0.5	0.1	2.5	周溝覆土中	Q50 滑石

図版番号	種 別	計 測 値						備 考
		全長 (cm)	刀身 (cm)	茎長 (cm)	身元幅 (cm)	背幅 (cm)	閃幅 (cm)	
第24図67	直 刀	(56.0)	(40.2)	(15.8)	3.3	0.9	0.4	M9・10・12
68	直 刀	(54.2)	—	—	3.2	0.8	—	M23
69	直 刀	(53.5)	—	—	2.9	0.8	—	M24
70	直 刀	(111.4)	—	—	3.2	0.9	—	M25
71	直 刀	(86.8)	—	—	3.5	1.1	—	M26

図版番号	種 別	計 測 値			備 考
		最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	
第25図72	刀 子	(11.2)	2.3	0.7	M1
73	刀 子	(9.8)	2.0	0.5	M6
74	刀 子	(2.5)	1.2	0.4	M7
75	刀 子	(6.0)	2.0	0.6	M16

図版番号	種 別	全長 (cm)	鍔身部 (cm)		頸 部 (cm)		茎部 (cm)	備 考
			長 さ	幅	長 さ	幅		
第25図76	鉄 鍔	(4.0)	—	—	(4.0)	0.5	—	M2 (1) 頸部のみ。断面形は長方形。
76	鉄 鍔	—	—	—	(3.2)	0.3	—	M2 (2) 頸部のみ。断面形は長方形。
76	鉄 鍔	(3.2)	—	—	(3.2)	0.4	—	M2 (3) 頸部のみ。断面形は長方形。
76	鉄 鍔	(5.2)	—	—	(5.2)	0.4	—	M2 (4) 頸部のみ。断面形は長方形。
76	鉄 鍔	(3.7)	—	—	(3.7)	0.5	—	M2 (5) 頸部のみ。断面形は長方形。
76	鉄 鍔	(3.1)	—	—	(3.1)	0.4	—	M2 (6) 頸部のみ。断面形は長方形。
77	鉄 鍔	(4.8)	—	—	(3.5)	0.3	(1.3)	M3 (1) 茎残存。台形閃。
77	鉄 鍔	(2.7)	—	—	(2.7)	0.3	—	M3 (2)
77	鉄 鍔	(2.6)	—	—	(2.6)	0.5	—	M3 (3)
78	鉄 鍔	(5.4)	2.9	1.2	(2.8)	0.4	—	M4 鍔身は柳葉形。逆刺あり。
79	鉄 鍔	(3.9)	—	—	(3.6)	0.5	(0.3)	M5 (1)
79	鉄 鍔	(3.5)	—	—	(3.5)	0.4	—	M5 (2)
80	鉄 鍔	(5.3)	3.2	1.2	(2.1)	0.4	—	M8 (1) 柳葉形。逆刺あり。
80	鉄 鍔	(8.9)	(2.7)	1.2	(7.0)	—	—	M8 (2) 柳葉形。
80	鉄 鍔	(10.2)	—	—	—	—	—	M8 (3)
80	鉄 鍔	(8.3)	—	—	—	—	—	M8 (4)
80	鉄 鍔	(10.1)	2.7	—	—	—	—	M8 (5) 柳葉形。逆刺あり。
80	鉄 鍔	(8.9)	—	—	—	—	(0.6)	M8 (6) 柳葉形。両丸造。
80	鉄 鍔	(9.2)	—	—	—	—	—	M8 (7) 柳葉形。
80	鉄 鍔	(7.3)	2.7	1.2	(5.7)	0.4	—	M8 (8) 柳葉形。逆刺あり。
80	鉄 鍔	(6.7)	—	—	—	—	—	M8 (9)
80	鉄 鍔	(9.1)	—	—	—	—	—	M8 (10)
80	鉄 鍔	(10.7)	—	—	—	—	—	M8 (11)
80	鉄 鍔	(11.2)	—	—	—	—	(0.5)	M8 (12)
80	鉄 鍔	(10.3)	2.7	1.2	—	—	(1.4)	M8 (13) 柳葉形。逆刺あり。
80	鉄 鍔	(10.2)	—	—	—	—	(0.8)	M8 (14) 柳葉形。
80	鉄 鍔	(2.7)	(2.7)	1.2	—	—	—	M8 (15) 柳葉形。
80	鉄 鍔	(4.5)	3.0	1.2	(2.0)	0.4	—	M8 (16) 柳葉形。
80	鉄 鍔	(3.0)	2.8	1.2	(0.8)	0.4	—	M8 (17) 柳葉形。逆刺あり。
81	鉄 鍔	(5.8)	—	—	(4.9)	0.4	(0.7)	M17
82	鉄 鍔	(4.5)	—	—	—	—	(4.5)	M18

図版番号	種 別	全長 (cm)	鍬身部 (cm)		頸 部 (cm)		茎部 (cm)	備 考
			長 さ	幅	長 さ	幅	幅	
第25図83	鉄 鍬	(2.6)	—	—	—	—	(2.6)	M19
84	鉄 鍬	(6.4)	—	—	(1.6)	—	(2.7)	M20 台形関。
85	鉄 鍬	(3.4)	—	—	—	—	(3.4)	M21
86	鉄 鍬	(11.1)	(5.2)	1.4	5.1	0.4	(2.1)	M22 (1) 二段逆刺と思われる。
86	鉄 鍬	(7.2)	—	—	—	0.4	(3.0)	M22 (2)
86	鉄 鍬	(12.7)	—	—	—	0.4	(2.8)	M22 (3)
86	鉄 鍬	(12.1)	4.4	1.2	6.3	0.4	(2.9)	M22 (4) 柳葉形。逆刺あり。
86	鉄 鍬	(7.3)	4.6	1.2	(3.2)	0.4	—	M22 (5) 柳葉形。逆刺あり。
86	鉄 鍬	—	—	—	—	—	(1.6)	M22 (6)
86	鉄 鍬	(8.2)	—	—	—	0.4	—	M22 (7) 柳葉形。逆刺あり。
86	鉄 鍬	(12.3)	—	—	—	—	(1.9)	M22 (8)
86	鉄 鍬	(11.0)	—	—	—	—	—	M22 (9) 断面形は両丸造。

第6号墳 (第26・27図)

現況と確認状況 調査前の現況は山林であった。周辺に比べ、なだらかな高まりが確認できた。

位置 調査区東部, C5g8区を中心に検出されている。南西に乙戸川を臨む舌状台地先端に位置し、台地は本跡の南端からなだらかに傾斜している。すぐ東に第7号墳が、約40m西に第1号墳が隣接する。

重複関係 本跡の封土下に第7号住居跡が検出され、本跡が新しい。本跡の西部を第1～18号土壌墓が、東部を第6号溝が掘り込んでおり、本跡が古い。また、本跡の主体部が第48号土坑を掘り込み、第48号土坑が古い。

墳形及び規模 円墳。墳丘の高さは、0.72m、墳丘の周溝内径は約10.1mほどである。

墳丘 残存する封土の厚さは0.9mである。封土は、褐色土・明褐色土及び暗褐色土で厚さ10～40cmの層から構成されており、おおむね締まりがある。

周溝 全周している。規模は上幅1.8～2.7m、下幅0.6～1.1m、深さ0.2～0.4mで断面形はU字状である。覆土の堆積状況は自然堆積であり、下層に、ローム粒子を多量に含む封土流出による褐色土が堆積している。

墳丘及び周溝土層解説

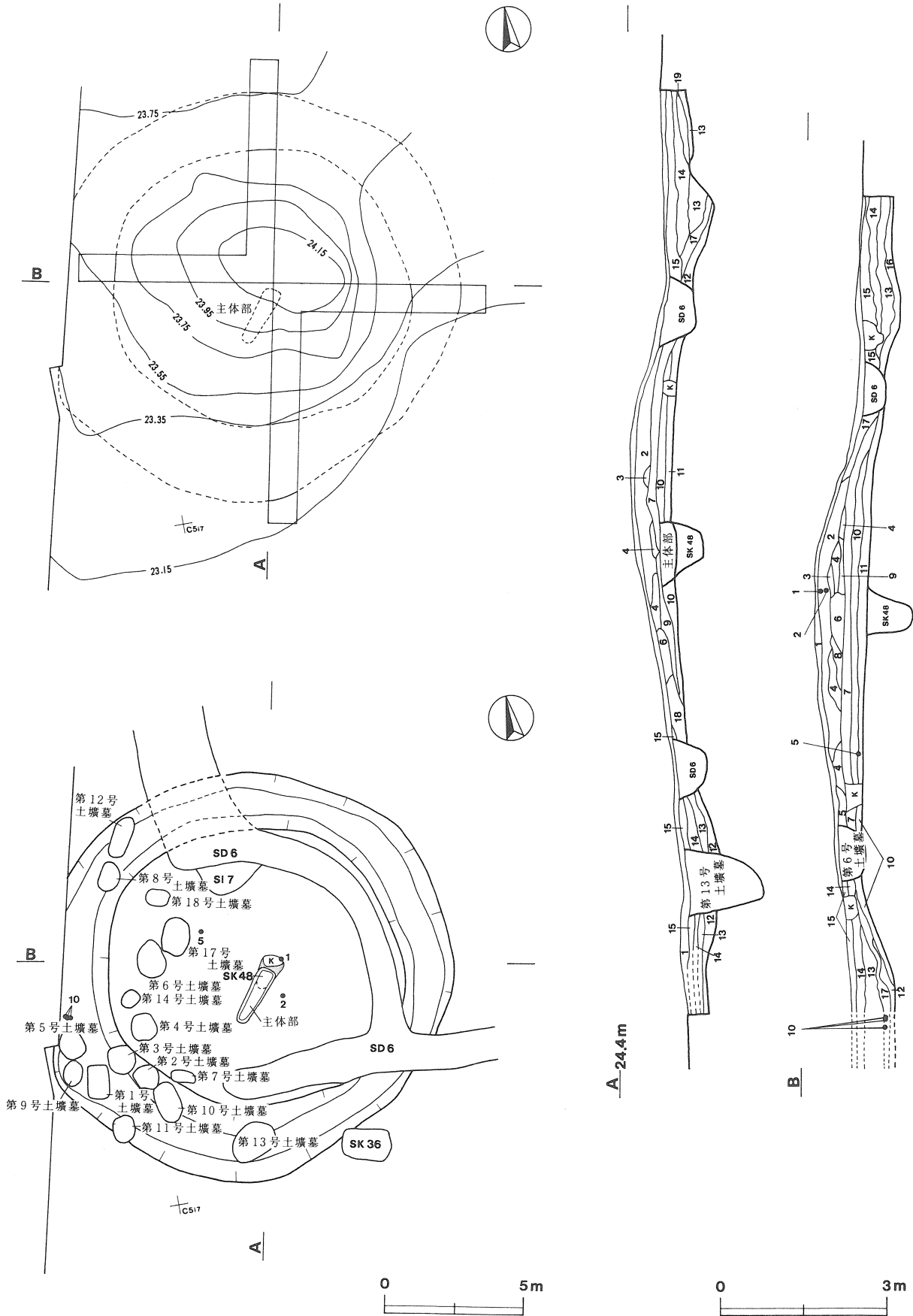
- | | |
|----------------------------|--|
| 1 暗褐色 表土 | 12 明褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | 13 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 | 14 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック少量 |
| 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 | 15 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック微量 |
| 5 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 16 明褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック少量, ローム粒子微量 |
| 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | 17 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量 |
| 7 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量 | 18 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 |
| 8 褐色 ローム粒子少量 | 19 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 9 極暗褐色 ローム粒子少量 | |
| 10 明褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | |
| 11 明褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | |

埋葬施設 墳頂部から南東よりの封土下層から検出された。主軸方向はN-38°-Eである。封土下層を掘り込んで主体部を構築しており、形状は不整楕円形で、長径2.70m、短径0.58mである。粘土魂が主体部の北東部に認められた。なお、主体部の下から検出された第48号土坑は、主体部と主軸を同じくしている。堆積状況から第48号土坑の後に主体部が構築されたものと考えられる。第48号土坑の性格は不明である。

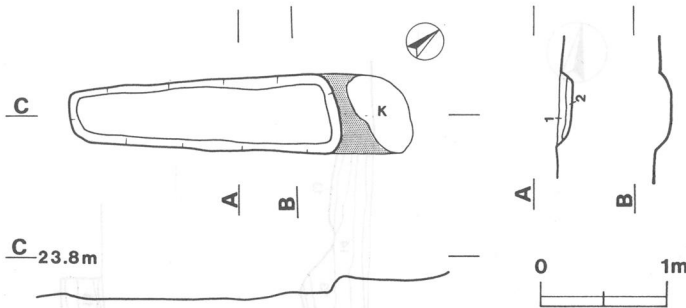
埋葬施設土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 粘土粒子微量

遺物 墳丘の遺物は、第28図7の土師器高坏, 13の壺が封土中から、9の高坏が封土中及び周溝覆土中に散在した状態で出土している。1・2の坏が中央部の封土上層から、5の高坏が北西部の封土下層及び周溝覆土中に



第26図 第6号墳実測図

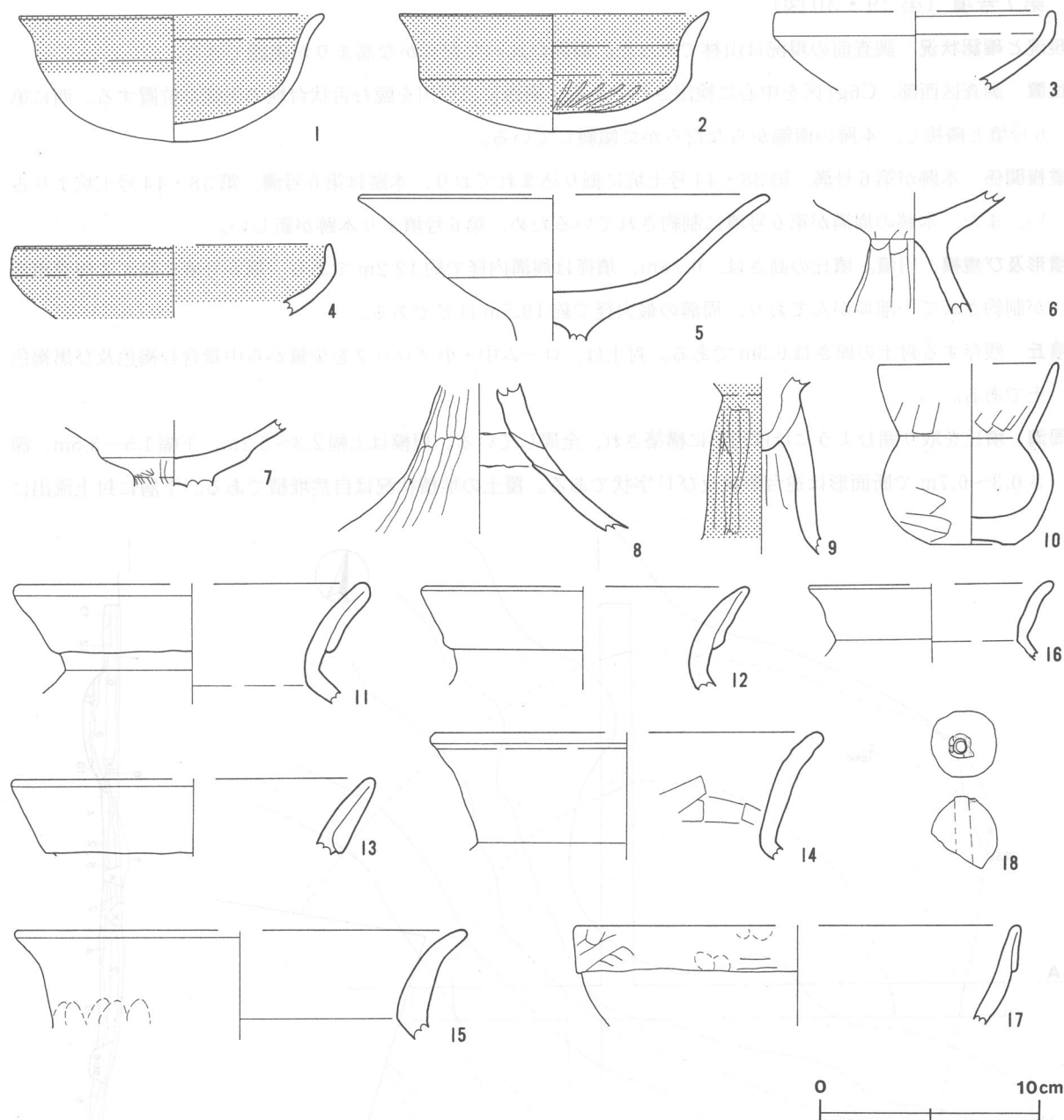


第27図 第6号墳主体部実測図

散在した状態で出土している。周溝内の遺物は、3・4の坏、6・8の高坏、11~12の壺、14~16の甕、17の甑が覆土中から、10の埴が西部の覆土下層から出土している。また、18の土玉が封土中から出土している。なお、主体部からは遺物及び人骨は検出されなかった。
所見 本跡は、墳形、主体部の形態及び遺物から、古墳時代後期（5世紀末~6世紀初頭）と考えられる。

第6号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第28図 1	坏 土師器	A 13.9 B 5.8	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部外面に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。底部及び体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面・口縁部外面赤彩。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 52 100% 封土上層
2	坏 土師器	A 14.2 B 5.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。底部及び体部内・外面へラ削り後、ナデ。内面へラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P 53 95% 封土上層
3	坏 土師器	A [12.9] B (3.6)	体部及び口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。口縁部外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面ナデ。内面剝離。	石英 明赤褐色 普通	P 54 20% 周溝覆土中 二次焼成
4	坏 土師器	A [14.5] B (3.3)	体部及び口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。口縁部外面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 55 15% 周溝覆土中
5	高坏 土師器	A [18.8] B (6.7)	坏部の破片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ナデ。	石英・スコリア にぶい橙色 普通	P 56 30% 封土下層・周溝覆土中 二次焼成
6	高坏 土師器	B (5.6) E (3.3)	脚柱部から坏部の下位にかけての破片。脚部はハの字状に開く。	坏部内面ナデ。脚柱部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	石英・長石 にぶい橙色 普通	P 57 10% 周溝覆土中 二次焼成
7	高坏 土師器	B (3.1)	坏部の下位の破片。坏部は内彎して立ち上がる。坏部外面下位に稜を持つ。	坏部外面下位へラ磨き。内面ナデ。	石英・長石 にぶい赤褐色 普通	P 58 20% 封土中 二次焼成
8	高坏 土師器	E (6.9)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	石英 にぶい黄橙色 普通	P 59 30% 周溝覆土中
9	高坏 土師器	E (8.1)	脚柱部の破片。脚柱部はエンタシス状を呈する。	脚柱部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。坏部の差込痕が残る。外面赤彩。	長石・石英 明赤褐色 普通	P 60 10% 封土中・周溝覆土中
10	埴 土師器	A [8.2] B 8.3 C 3.9	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を口縁部を持つ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	雲母 にぶい褐色 普通	P 61 75% 周溝覆土下層
11	壺 土師器	A [16.4] B (5.5)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面剝離。	石英・長石 橙色 普通	P 62 5% 周溝覆土中 二次焼成
12	壺 土師器	A [15.0] B (4.7)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	石英・長石 浅黄橙色 普通	P 63 5% 周溝覆土中
13	壺 土師器	A [16.7] B (3.5)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、わずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	石英・長石 橙色 普通	P 64 5% 封土中
14	甕 土師器	A [18.0] B (5.8)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内面下位へラナデ。	石英・長石 にぶい橙色 普通	P 65 40% 周溝覆土中



第28図 第6号墳出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第28図 15	甕 土師器	A [20.7] B (5.0)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面に指頭圧痕を残す。	石英・長石にふい橙色普通	P 66 5% 周溝覆土中
16	甕 土師器	A [11.2] B (3.6)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内・外面剝離。	石英・長石にふい橙色普通	P 67 5% 周溝覆土中
17	甕 土師器	A [20.5] B (4.6)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、わずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面に指頭圧痕を残す。	長石・スコリアにふい橙色普通	P 68 5% 周溝覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第28図18	土玉	3.0	(3.3)	0.7	(24.5)	封土中	DP4

第7号墳 (第29・30図)

現況と確認状況 調査前の現況は山林であった。周囲に比べなだらかな高まりが確認できた。

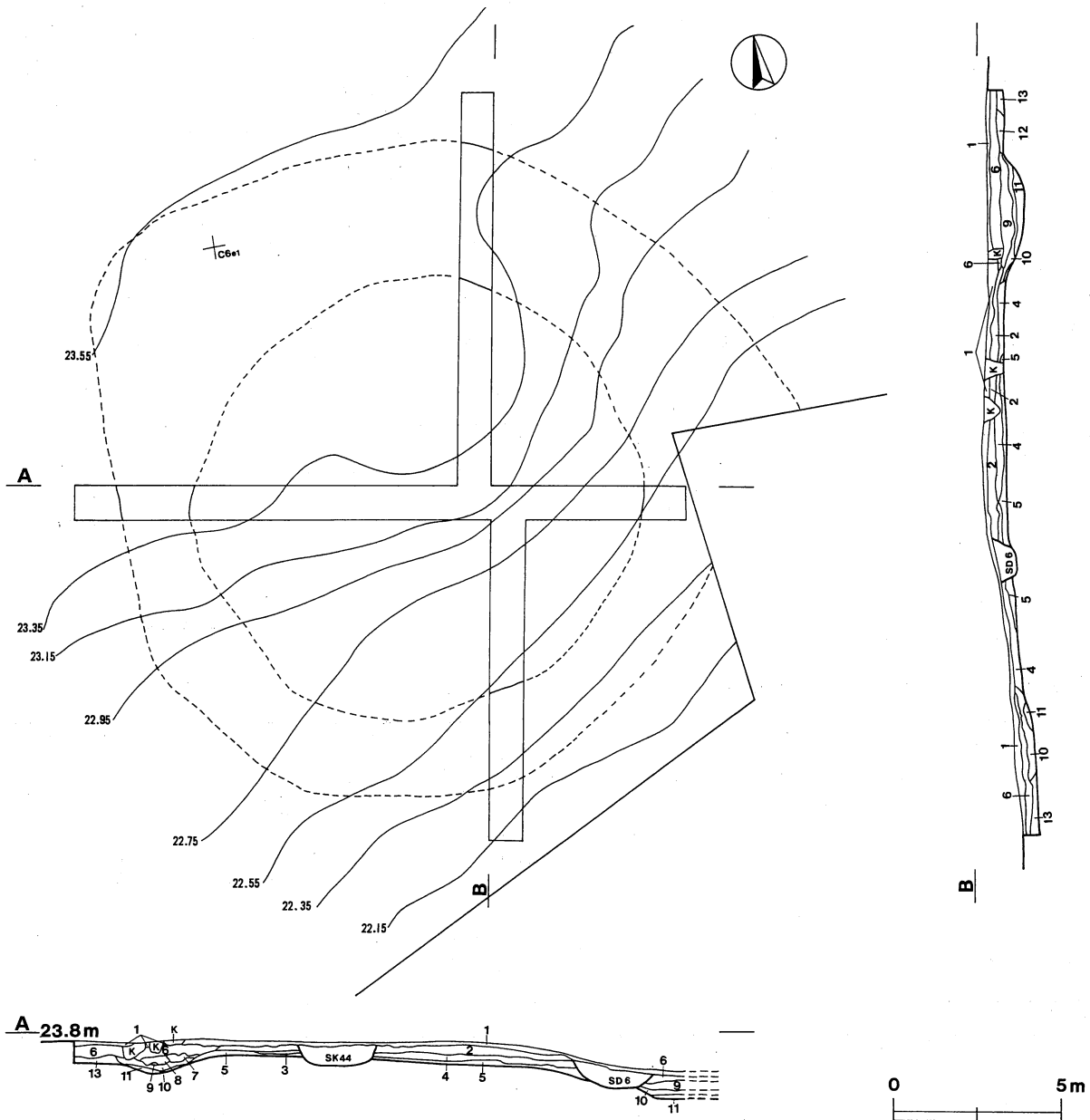
位置 調査区西部, C6g₁区を中心に検出されている。南西に乙戸川を臨む舌状台地の先端に位置する。西に第6号墳と隣接し, 本跡の南端からなだらかに傾斜している。

重複関係 本跡が第6号溝, 第38・44号土坑に掘り込まれており, 本跡は第6号溝, 第38・44号土坑より古い。また, 本跡の周溝が第6号墳に制約されているため, 第6号墳より本跡が新しい。

墳形及び規模 円墳。墳丘の高さは, 0.78m, 墳径は周溝内径で約12.2mである。第6号墳に接する周溝東部が制約されて一部ゆがんでおり, 周溝の最大径で約19.5mほどである。

墳丘 残存する封土の厚さは0.3mである。封土は, ローム中・小ブロックを少量から中量含む褐色及び黒褐色土である。

周溝 墳丘を取り囲むようにほぼ円形に構築され, 全周している。規模は上幅2.3~5.2m, 下幅1.5~3.5m, 深さ0.3~0.7mで断面形は逆台形状及びU字状である。覆土の堆積状況は自然堆積である。下層に封土流出に



第29図 第7号墳実測図(1)

よるローム粒子を多量に含む橙色土が堆積し、中層からローム小ブロックを多量に含む黒褐色土が堆積している。

墳丘及び周溝土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------------------|
| 1 暗褐色 表土 | 7 暗褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量 | 8 極暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 9 極暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 ローム中・小ブロック少量 | 10 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |
| 5 褐色 ローム大・中・小ブロック中量 | 11 橙色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 |
| 6 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子微量 | 12 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量 |
| | 13 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量 |

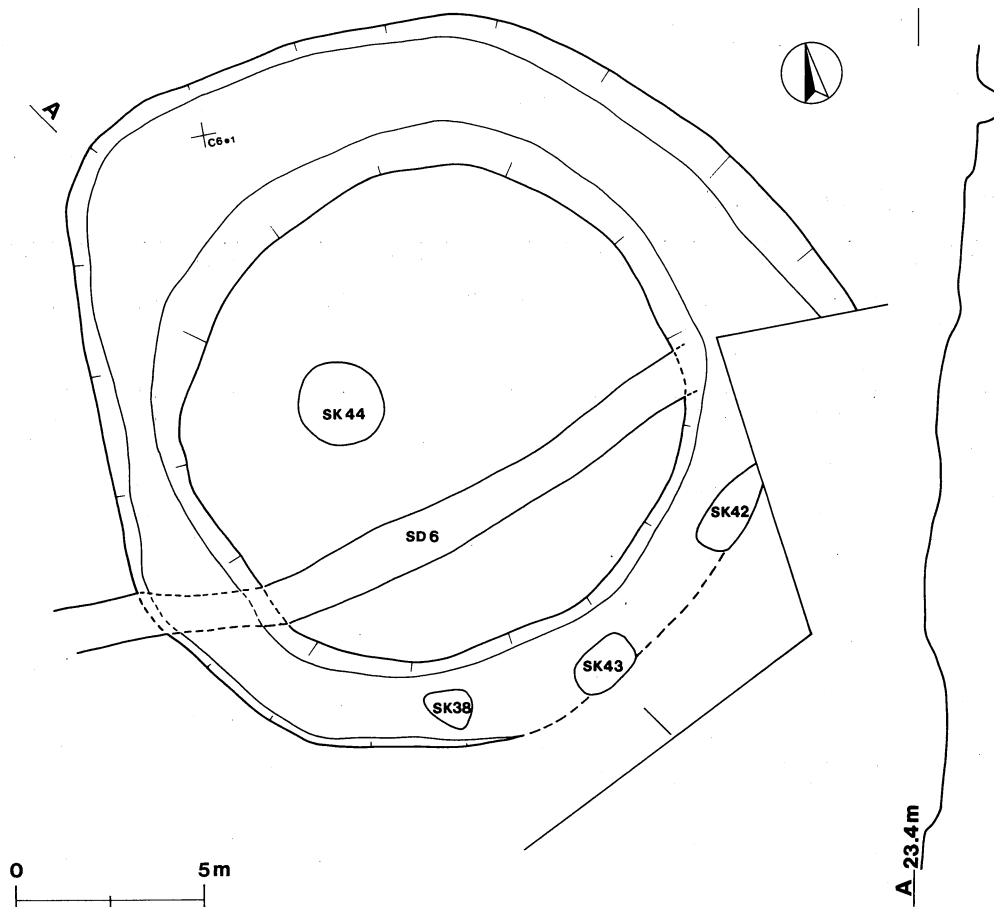
埋葬施設 墳丘内から埋葬施設は確認されなかったが、本跡の中心から南東方向の周溝内に第42・43号土坑が検出された。第42・43号土坑の覆土は人為堆積であり、また、その位置から本跡に伴う周溝内埋葬施設の可能性が考えられる。土坑は出土遺物がないが、第43号土坑からは、土師器細片が覆土上層から出土している。

遺物 墳丘の遺物は、第31図3の土師器高坏が墳丘表土中から、7の甕, 8の須恵器坏が墳丘表土中及び周溝覆土中に散在していた状態で出土している。周溝の遺物は、1・2及び4～6の土師器高坏が、それぞれ覆土中から出土している。また、9の有孔円板が覆土中から出土している。

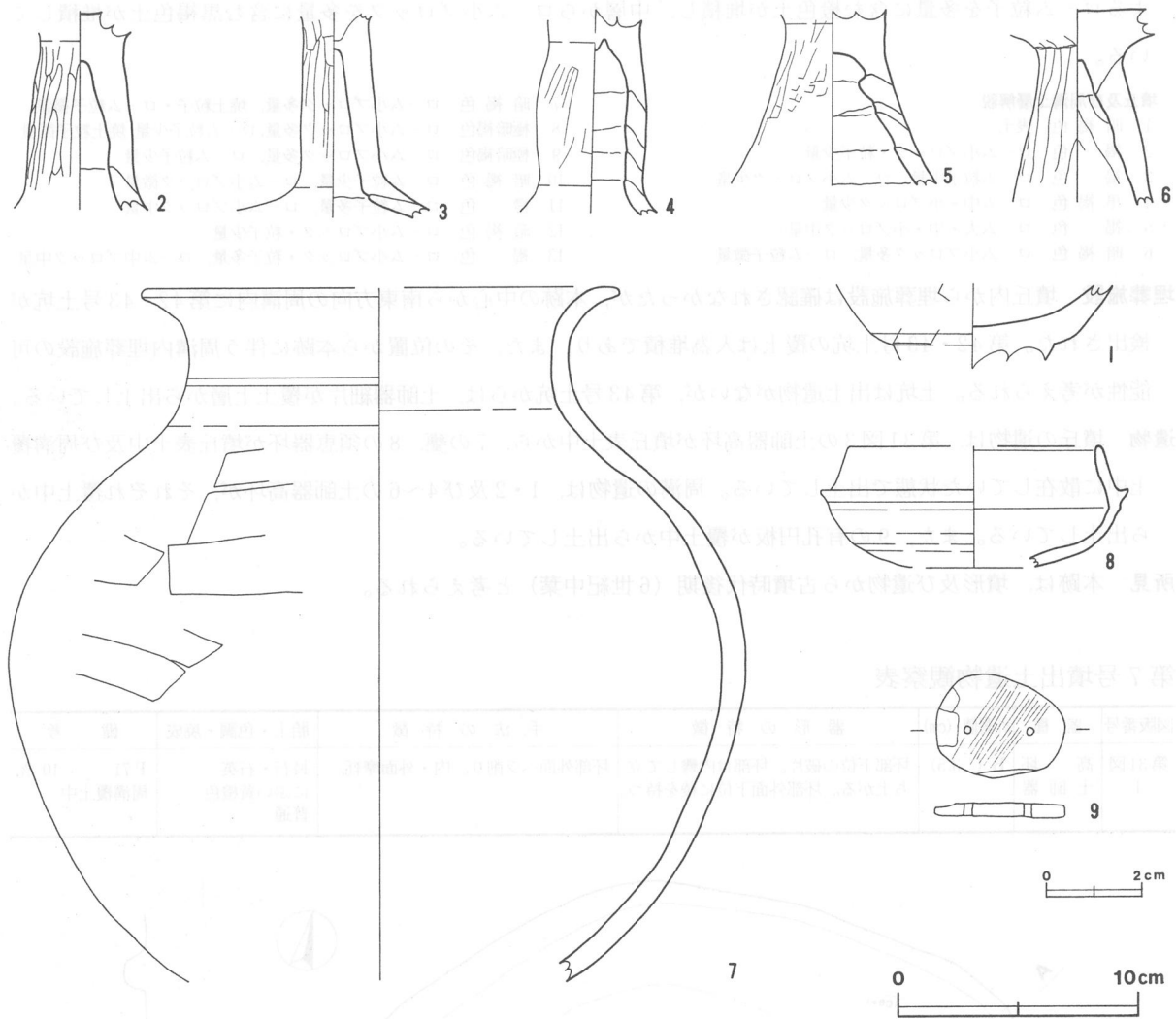
所見 本跡は、墳形及び遺物から古墳時代後期（6世紀中葉）と考えられる。

第7号墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 1	高坏 土師器	B (3.5)	坏部下位の破片。坏部は内彎して立ち上がる。坏部外面下位に稜を持つ。	坏部外面へう削り。内・外面摩耗。	長石・石英にふい黄橙色普通	P71 10 % 周溝覆土中



第30図 第7号墳実測図(2)



第31図 第7号墳出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第31図 2	高坏土師器	B (8.2) E (6.9)	脚柱部の破片。脚柱部はエンタシス状を呈する。	脚柱部外面ヘラ磨き。内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P 72 20% 周溝覆土中 二次焼成
3	高坏土師器	E (8.4)	脚柱部から裾部にかけての破片。脚柱部は円柱状を呈し、裾部はなだらかに開く。	脚柱部外面ヘラ磨き。内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 73 10% 墳丘表土中 二次焼成
4	高坏土師器	E (8.5)	脚柱部の破片。脚柱部はエンタシス状を呈する。	脚柱部外面ヘラナデ。内面ナデ。	石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 74 10% 周溝覆土中
5	高坏土師器	E (7.1)	脚柱部の破片。脚柱部はハの字状に開く。	脚柱部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	石英・スコリア 灰褐色 普通	P 75 25% 周溝覆土中
6	高坏土師器	B (8.1) E (6.3)	脚柱部の破片。脚柱部はハの字状に開く。	脚柱部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	石英・長石 にぶい橙色 普通	P 76 20% 周溝覆土中
7	甕土師器	A [20.0] B (28.8)	体部及び口縁部の破片。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい褐色 普通	P 77 15% 墳丘表土・周溝覆土中
8	坏須恵器	A [10.6] B (5.0)	たちあがりは内傾し、口縁端部は内傾する段を有する。受部は外上方へのびる。	底部時計回りの回転ヘラ削り。	長石 にぶい黄橙色 普通	P 78 20% 墳丘表土・周溝覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第31図9	有孔円板	2.7	0.3	0.1	3.1	周溝覆土中	Q65 滑石

第8号墳 (第32図)

現況と確認 状況調査前の現況は山林であった。表土除去、遺構確認の調査過程において本跡が確認できた。

重複関係 本跡が第5号溝、第39号土坑に掘り込まれ、また、第37号土坑の上に本跡の封土が盛られており、第5号溝、第39号土坑より古く、第37号土坑より新しい。

位置 調査区西部、C6co区を中心に検出されている。南西に乙戸川を臨む舌状台地の先端に位置し、台地は本跡の南端からなだらかに傾斜する。約30m南西に第7号墳がある。

墳形及び規模 円墳。墳丘は周溝内径で約12.0mほどである。

墳丘 残存する封土は2層が確認されたが、墳丘はほとんど削平されており、封土の詳細は不明である。第32図の土層1は表土、2・3は封土、5~9は周溝の覆土である。

墳丘土層解説

- 1 暗褐色 表土
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 3 明褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 6 極暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量
- 7 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 8 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 9 明褐色 ローム中ブロック多量, ローム粒子中量

周溝 本跡北部の一部が調査区域外にかかるが、円形に構築され全周していたと考えられる。規模は上幅0.9~2.4m, 下幅0.4~0.9m, 深さ0.2~0.7mで断面形は逆台形状及びU字状である。堆積状況は自然堆積である。

周溝土層解説

- | | | |
|------|---------------------------------------|---------------------------------------|
| D-D' | 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 5 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量 |
| | 2 極暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量 | 6 明褐色 ローム中ブロック多量, ローム粒子中量 |
| | 3 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量 | E-E', F-F' |
| | 4 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 1 極暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量 |
| | | 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |
| | | 3 明褐色 ローム中ブロック多量, ローム粒子中量 |

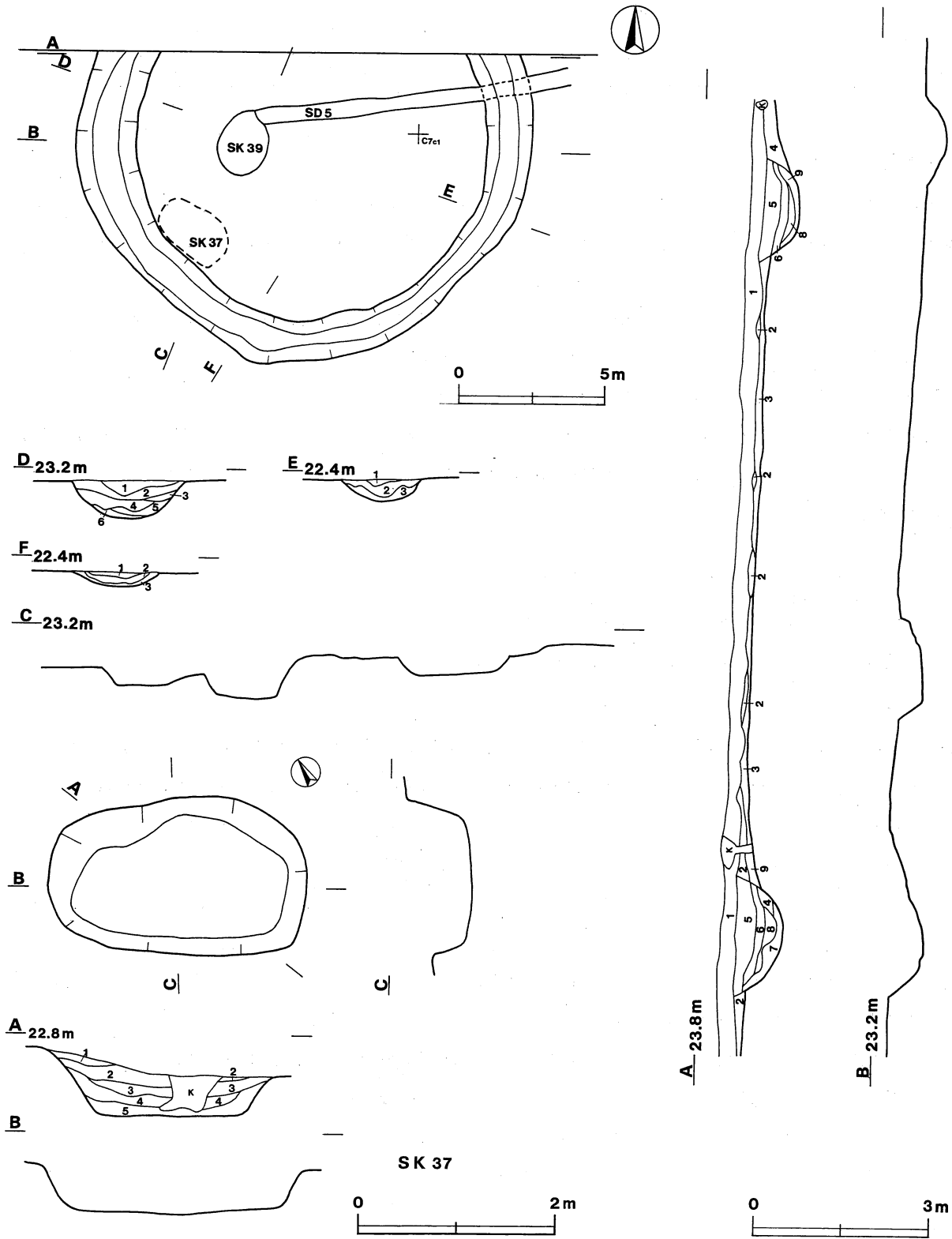
埋葬施設 墳頂部から西寄りに第39号土坑が検出されたが、本跡を第39号土坑が掘り込んでおり、遺構の形状から埋葬施設である可能性は考えられない。また、南西方向の墳丘裾部に第37号土坑が検出されているが、土層の観察から人為堆積と考えられ、遺構の最上層から第33図3の朝顔形円筒埴輪が出土している。第37号土坑構築後に封土が盛られている。以上のことから第37号土坑が埋葬施設である可能性も考えられる。

遺物 周溝内の遺物は、第33図1・2の埴輪が覆土中から出土している。

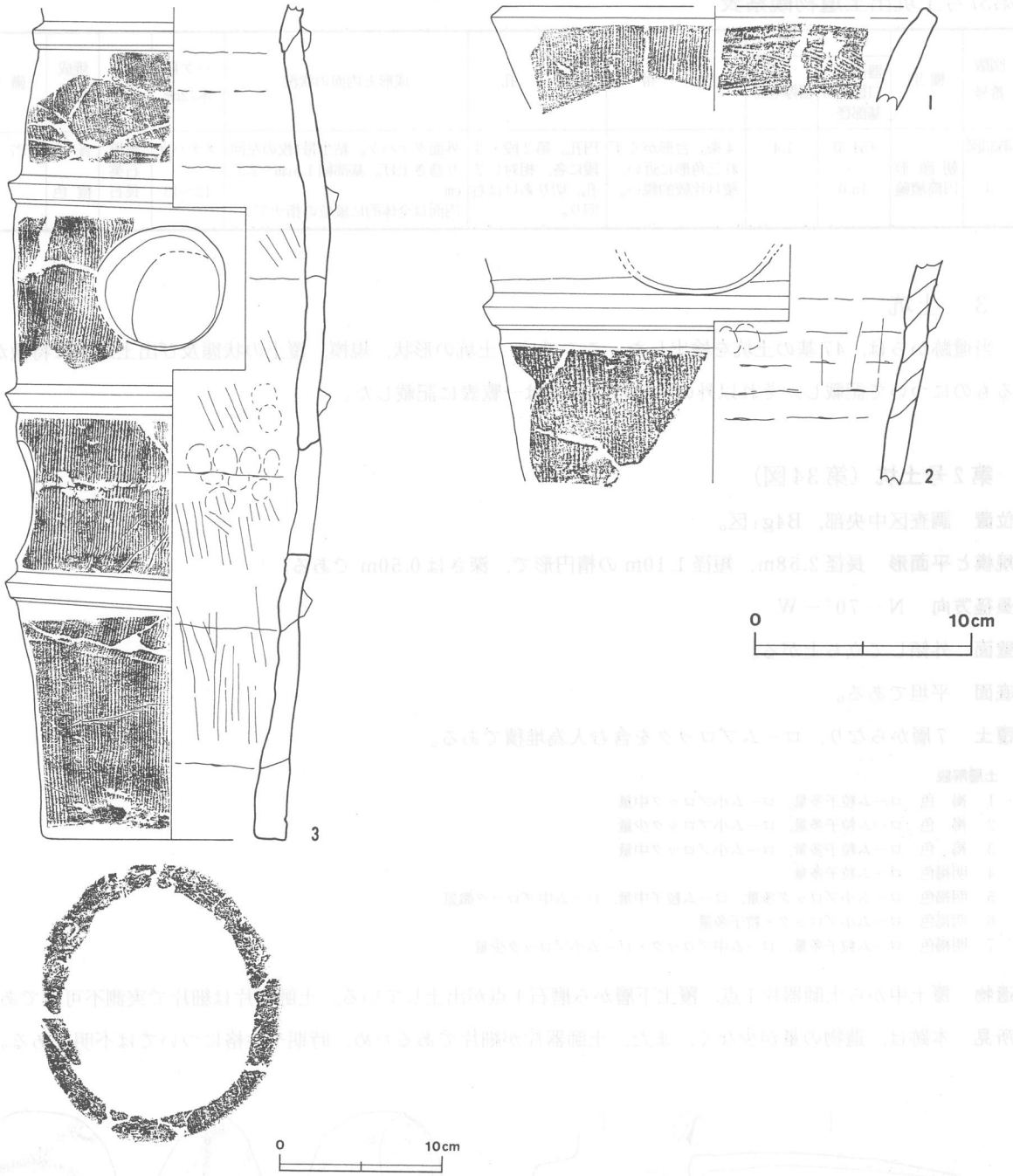
所見 本跡は、墳形及び遺物から古墳時代後期(6世紀後葉)と考えられる。

第8号墳出土遺物観察表

図版番号	種別	寸法		突帯	透孔	成形と内面の状況	ハケ目本/2cm	胎土	焼成色調	備考
		器高 口径(cm) 基部径	器厚(cm)							
第33図 1	円筒埴輪	(4.7) [20.6] —	1.4	残存部なく不明。	残存部なく不明。	外面タテハケ。内面は斜位のハケ目。その他、残存部なく不明。	タテハケ 14	雲母 石英 長石	普通 橙色	DP5



第32図 第8号墳・第37号土坑実測図



第33図 第8号墳・第37号土坑出土遺物実測図

図版 番号	種別	寸法		突帯	透孔	成形と内面の状況	ハケ目 本/2cm	胎土	焼成 色調	備考
		器高 口径(cm) 基部径	器厚(cm)							
第33図 2	円筒埴輪	(10.5) — —	1.2	残存する突帯は1 条。台形がくずれ 三角形に近い。稜 は比較的鋭い。	残存する円孔は1 つ。切りあけは不 明。	外面タテハケ。内面は縦位の 指ナデ。その他、残存部がな く不明。	タテハケ 10	雲母 石英 長石	普通 明赤褐色	DP6

第37号土坑出土遺物観察表

図版 番号	種別	寸法		突帯	透孔	成形と内面の状況	ハケ目 本/2cm	胎土	焼成 色調	備考
		器高 口径(cm) 基部径	器厚(cm)							
第33図 3	朝顔形 円筒埴輪	(51.3) — 15.0	1.4	4条。台形がくずれ三角形に近い。稜は比較的鋭い。	円孔。第2段・3段に各、相対し2孔。切りあけは右回り。	外面タテハケ。粘土帯1枚の左回り巻き上げ。基部幅1.5cm~2.3cm 内面は全体的に縦位の指ナデ。	タテハケ 12~13	雲母 石英 長石	普通 橙色	DP7

3 土坑

当遺跡からは、47基の土坑を検出した。ここでは、土坑の形状、規模、覆土の状態及び出土遺物に特徴があるものについて記載し、それ以外の土坑については一覧表に記載した。

第2号土坑（第34図）

位置 調査区中央部，B4g1区。

規模と平面形 長径2.58m，短径1.10mの楕円形で，深さは0.50mである。

長径方向 N-70°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

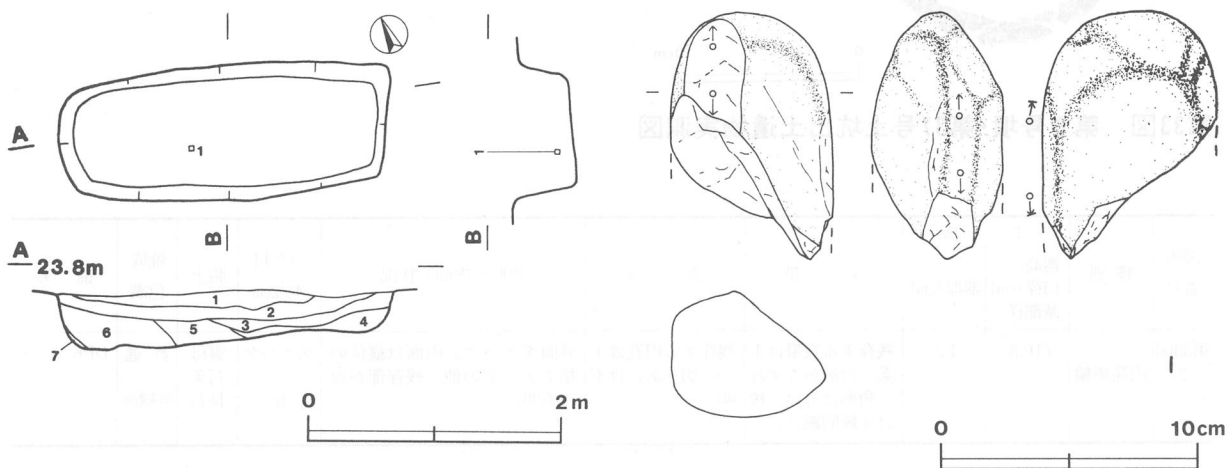
覆土 7層からなり，ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量
- 4 明褐色 ローム粒子多量
- 5 明褐色 ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック微量
- 6 明褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 7 明褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物 覆土中から土師器片1点，覆土下層から磨石1点が出土している。土師器片は細片で実測不可能である。

所見 本跡は，遺物の量が少なく，また，土師器片が細片であるため，時期や性格については不明である。



第34図 第2号土坑・出土遺物実測図

第2号土坑石製品観察表

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第34図1	磨 石	(9.6)	6.8	5.0	(328.2)	安山岩	覆土下層	Q2

第8号土坑 (第35図)

位置 調査区中央部, A3g8区。

規模と平面形 上面は長径2.30m, 短径1.24mの楕円形, 底面は長径1.64m, 短径0.28mの長楕円形で, 深さは1.58mである。

長径方向 N-8°-E

壁面 長径方向で垂直に, 短径方向でV字状に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム小・粒子多量, ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム中・小ブロック・粒子多量

遺物 出土してしていない。

所見 本跡は, 遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われるが, 遺物がなく時期については不明である。

第11号土坑 (第35図)

位置 調査区中央部, B3a5区。

規模と平面形 上面は長径2.90m, 短径0.88mの楕円形, 底面は長径2.06m, 短径0.12mの長楕円形で, 深さは1.14mである。

長径方向 N-64°-E

壁面 北東壁でほぼ垂直に, 南西壁でややオーバーハングし, 短径方向でV字状に立ち上がる。

底面 長径の両端から中央部へ若干の傾斜がみられるが, ほぼ平坦である。

遺物 出土してしていない。

所見 本跡は, 遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われるが, 遺物がなく時期については不明である。

第37号土坑 (第32図)

位置 調査区東部, C6c9区。(第8号墳墳丘裾部)

重複関係 本跡の上に第8号古墳の封土が盛られており, 本跡が古い。

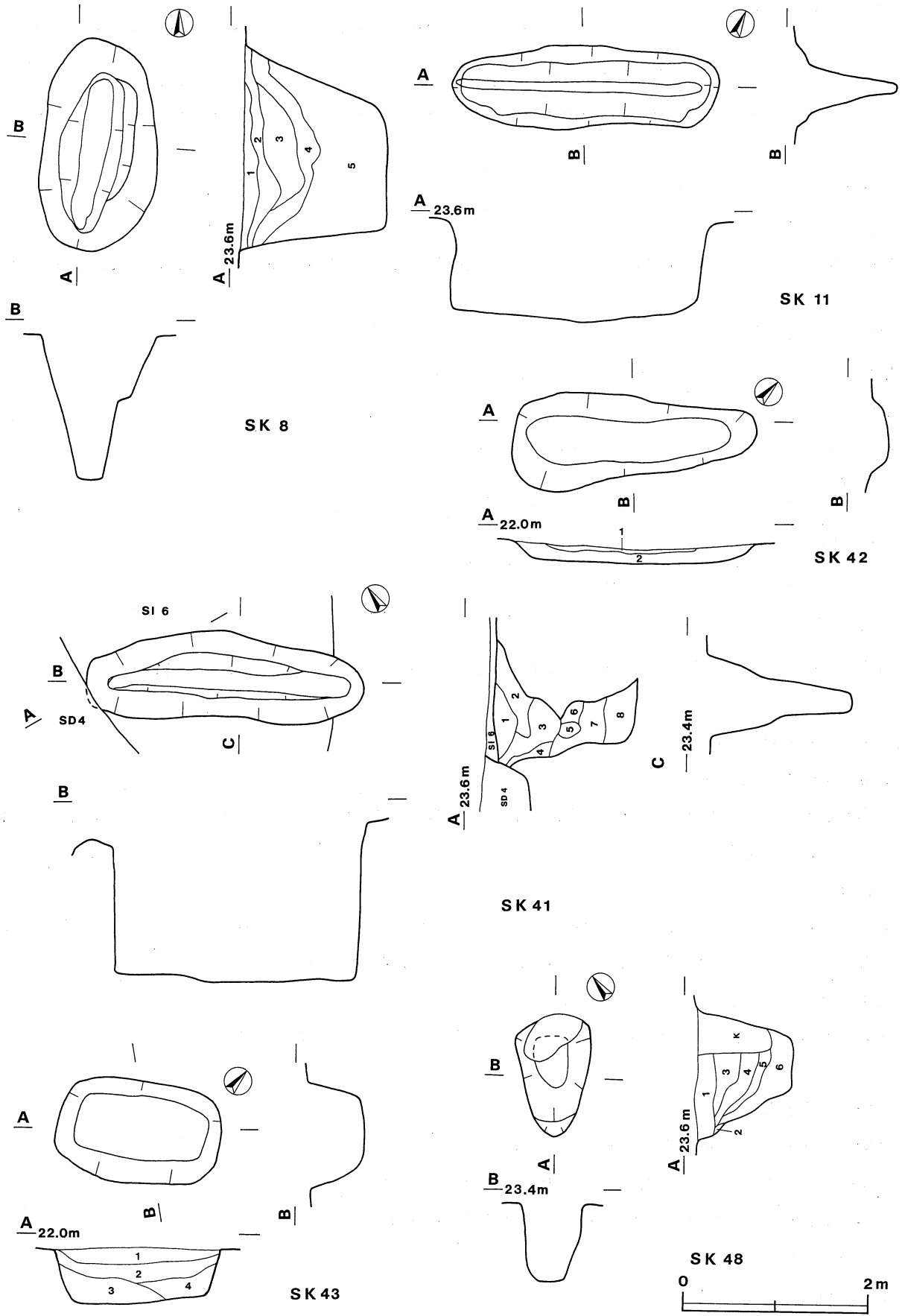
規模と平面形 長径2.63m, 短径1.60mの楕円形で, 深さは0.45mである。

長径方向 N-53°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。



第35図 第8・11・41・42・43・48号土坑実測図

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 5 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

遺物 遺構の最上層から第33図3の朝顔形円筒埴輪1点が出土している。

所見 朝顔形円筒埴輪が出土しており, また, 本跡の構築後に第8号墳の封土が盛られている点から, 第8号墳の主体部の可能性も考えられる。

第41号土坑 (第35図)

位置 調査区東部, C5c8区。

重複関係 第4・6号溝及び第6号住居跡が本跡を掘り込み, 本跡が古い。

規模と平面形 上面は, 長径2.98m, 短径0.86mの楕円形, 底面は, 長径2.64m, 短径0.20mの長楕円形で, 深さは1.56mである。

長径方向 N-52°-W

壁面 長径方向で垂直に, 短径方向でV字状に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 8層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック中量
- 5 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量
- 7 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 8 極暗褐色 ローム中ブロック少量

遺物 出土してしていない。

所見 本跡は, 遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われるが, 遺物がなく時期については不明である。

第42号土坑 (第35図)

位置 調査区東部, C6h3区。(第7号墳周溝内)

規模と平面形 長軸1.75m, 短軸0.87mの不定形で, 深さは0.22mである。

長径方向 N-65°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなり, ローム粒子を多量に含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 明褐色 ローム粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡は, 覆土が人為堆積であり, また, 位置から第7号墳に伴う周溝内埋葬施設の可能性が考えられる。

第43号土坑 (第35図)

位置 調査区東部, C5h3区。(第7号墳周溝内)

規模と平面形 長軸1.75m, 短軸1.13mの長方形で, 深さは0.53mである。

長径方向 N-61°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 4層からなり, ローム粒子を多量に含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡は, 覆土が人為堆積であり, また, 位置から第7号墳に伴う周溝内埋葬施設の可能性が考えられる。

第48号土坑 (第35図)

位置 調査区東部, C5g8区。(第6号古墳墳頂部中央にある主体部の真下)

重複関係 本跡が第6号古墳の主体部に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸1.21m, 短軸0.68mの不定形で, 深さは0.83mである。

長軸方向 N-65°-E

壁面 北東壁・北西壁及び南東壁はほぼ垂直に, 南西壁は外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 6層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子・小ブロック少量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム大ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量

遺物 出土してしていない。

所見 本跡は第6号墳の主体部とおなじ主軸であり, 何らかの関連も考えられるが, 出土遺物がなく, その時期と性格は不明である。

第1号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 明褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 ぶい褐色 ローム小ブロック多量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

第3号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム中ブロック少量

第4号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

第5号土坑土層解説

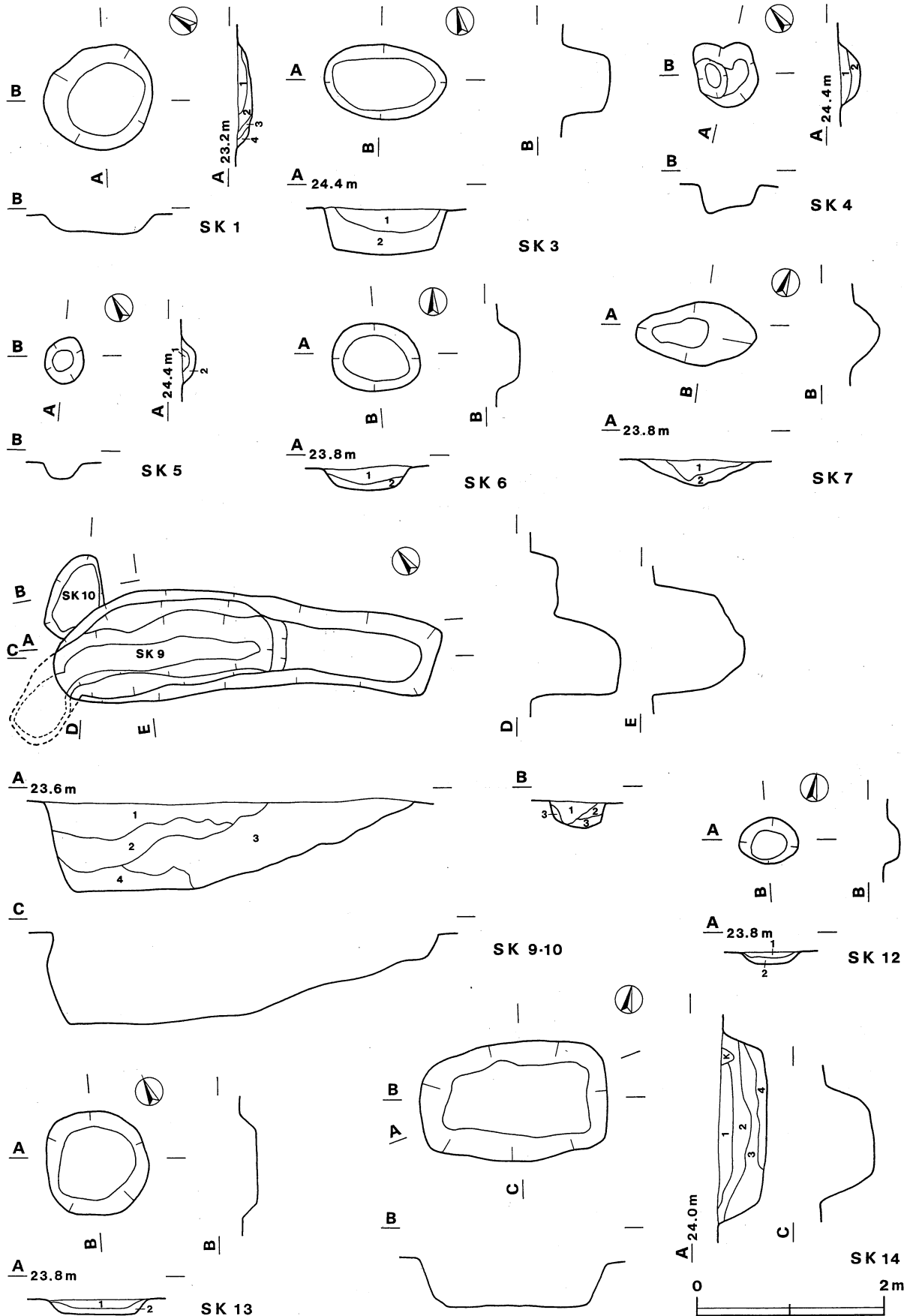
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量

第6号土坑土層解説

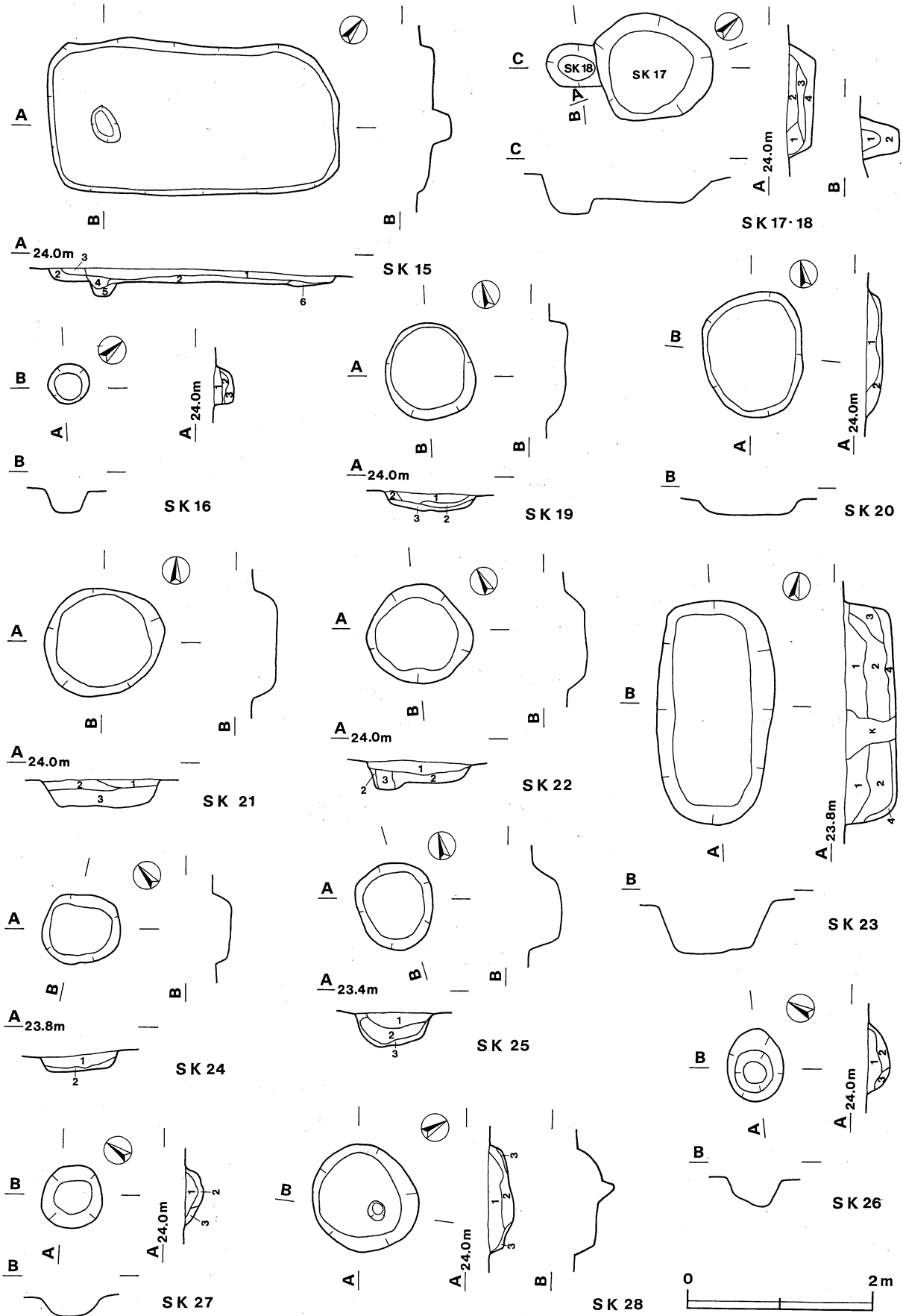
- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量

第7号土坑土層解説

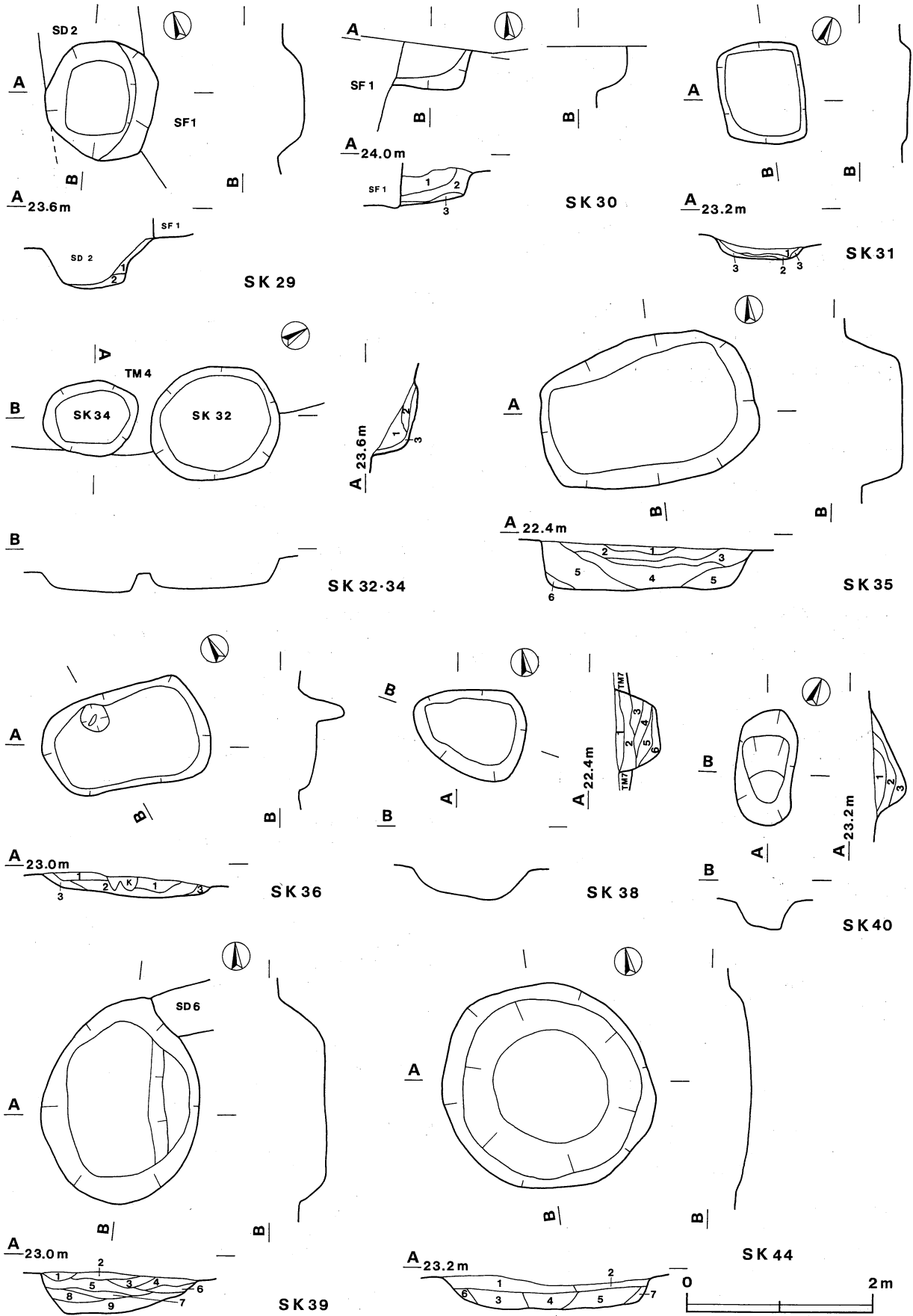
- 1 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック多量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック微量



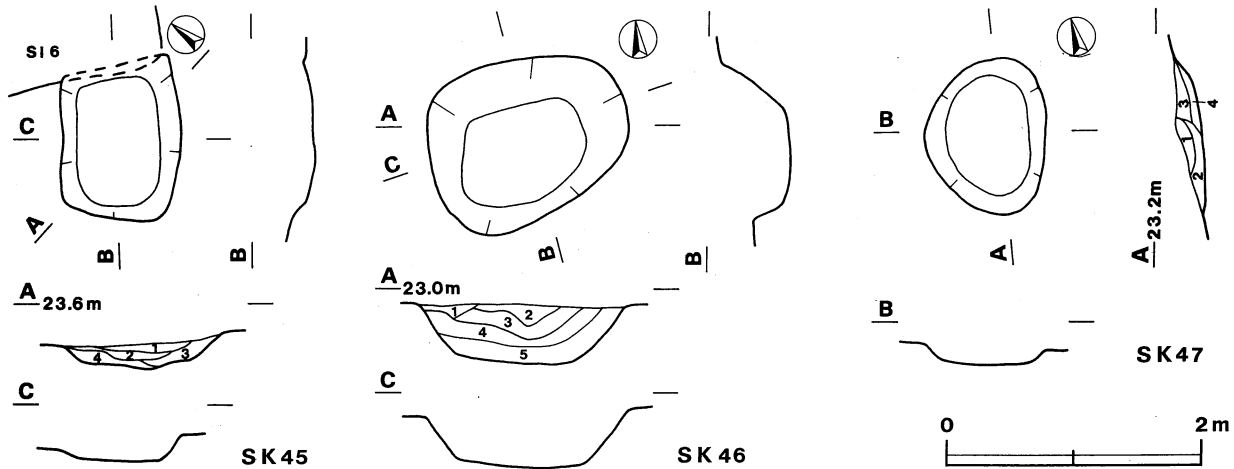
第36図 その他の土坑実測図(1)



第37図 その他の土坑実測図(2)



第38図 その他の土坑実測図(3)



第39図 その他の土坑実測図(4)

第9号土坑土層解説

- 1 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量
- 2 褐色 ローム中・小ブロック・粒子多量, ローム大ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック多量, ローム中ブロック中量
- 4 明褐色 ローム小ブロック・粒子多量

第10号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量

第12号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

第13号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子多量, ローム中・小ブロック・粒子中量, 焼土粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, 焼土粒子少量

第14号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 4 明褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量

第15号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第16号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

第17号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 3 明褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

第18号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子中量

第19号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量

第20号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第21号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

第22号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量

第23号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子微量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子微量
- 4 明褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック少量

第24号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量

第25号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 明褐色 ローム小ブロック・粒子多量

第26号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子中量
- 2 明褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第27号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第28号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第29号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化小ブロック・粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・粒子少量

第30号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量

第31号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量

第34号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 明褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック少量

第35号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 6 明褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

第36号土坑土層解説

- 1 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量
- 2 極暗褐色 炭化物・粒子多量, 焼土粒子中量, ローム小ブロック・粒子少量
- 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム小ブロック・粒子少量

第38号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック微量

第39号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中・小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 明褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量
- 6 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 8 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量

第40号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・粒子少量

第44号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 明褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 5 明褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量
- 7 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第45号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子・ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

第46号土坑土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子中量
- 5 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック微量

第47号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

表3 実穀古墳群土坑一覧表

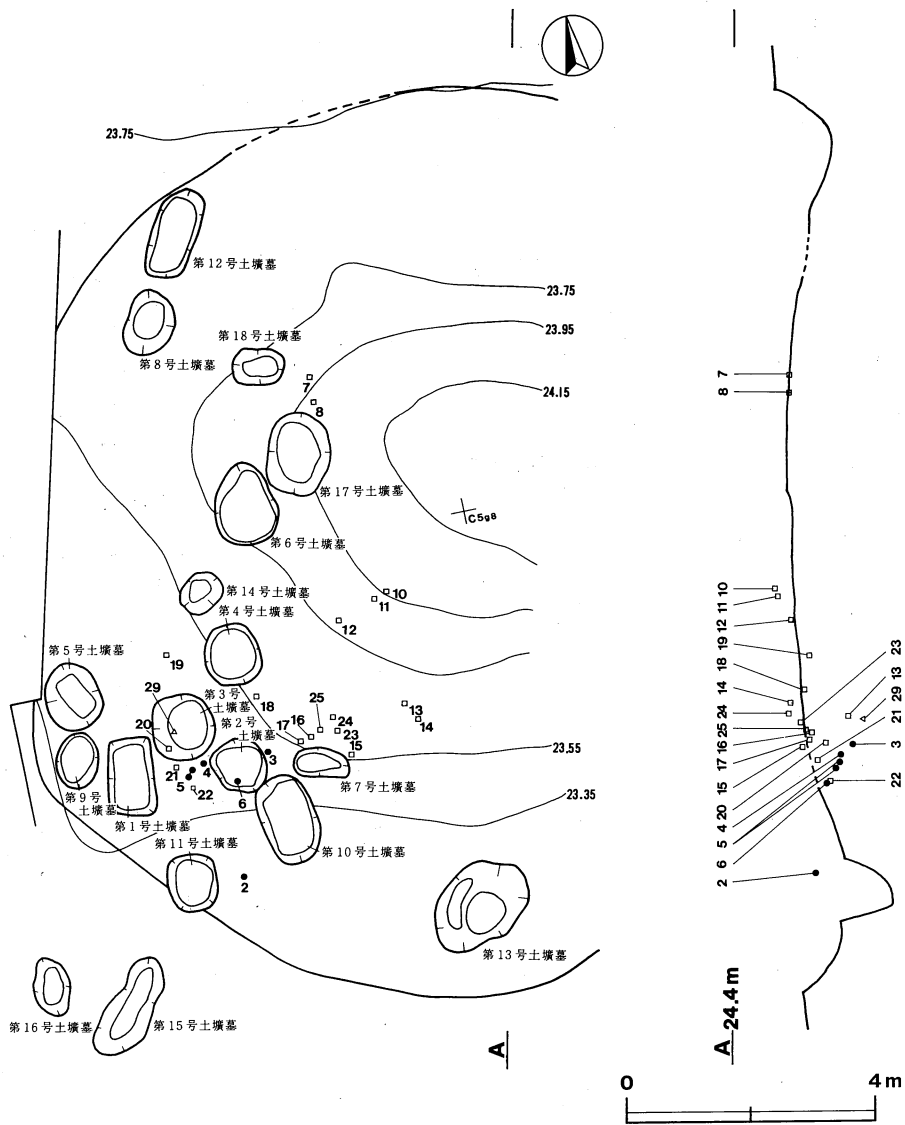
土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 *重複関係(旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	A2i8		円形	1.17 × 1.09	20	緩斜	平坦	人為		SI1→本跡
2	B4g1	N-70°-W	楕円形	2.58 × 1.10	50	垂直	平坦	人為	土師器片	
3	B5e5	N-80°-W	楕円形	1.32 × 0.80	50	外傾	平坦	人為		
4	B5b5	N-4°-W	不定形	0.08 × 0.68	32	外傾	平坦	自然		
5	B5d3		円形	0.05 × 0.44	17	緩斜	平坦	自然		
6	A4i2		円形	0.96 × 0.76	23	緩斜	平坦	人為		
7	A2g9	N-72°-E	楕円形	1.32 × 0.67	28	緩斜	皿状	人為		
8	A3g8	N-8°-E	楕円形	2.30 × 1.24	158	外傾	平坦	自然		陥し穴

実穀古墳群

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考 *重複関係(旧→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
9	A3h5	N-56°-W	橢円形	4.02 × 0.98	99	外傾	皿状	人為		SK10→本跡
10	A3h6	N-50°-E	橢円形	0.95 × 0.57	30	外傾	平坦	人為		
11	B3a5	N-68°-E	橢円形	2.90 × 0.88	114	垂直	平坦	-		陥し穴
12	B3a4		円形	0.63 × 0.50	17	緩斜	平坦	人為		
13	A3c1		円形	1.18 × 1.13	17	緩斜	平坦	自然		
14	B2b9	N-72°-E	長方形	2.30 × 1.26	57	緩斜	平坦	人為		
15	B2c5	N-52°-E	橢円形	3.12 × 1.63	22	緩斜	平坦	人為		
16	B2c4		円形	0.45 × 0.45	26	外傾	平坦	人為		
17	B2e4		円形	1.33 × 1.15	30	緩斜	平坦	人為		SK18→本跡
18	B2c4	N-46°-W	(橢円形)	[0.56] × 0.45	43	外傾	平坦	人為		
19	B2e3		円形	1.07 × 0.98	23	緩斜	平坦	人為		
20	B2e3	N-18°-E	橢円形	1.37 × 1.07	18	緩斜	平坦	自然		
21	B2e2		円形	1.31 × 1.19	27	緩斜	平坦	人為		
22	B2g2		円形	1.15 × 1.17	23	緩斜	平坦	人為		
23	B2h2	N-10°-W	長方形	2.43 × 1.25	55	外傾	平坦	人為		
24	B2i2		円形	0.87 × 0.81	21	緩斜	平坦	自然		
25	C1c0	N-11°-E	橢円形	0.95 × 0.83	34	外傾	平坦	人為		
26	B2e4	N-69°-E	橢円形	0.79 × 0.62	30	外傾	皿状	人為		
27	B2c6		円形	0.71 × 0.65	20	緩斜	平坦	人為		
28	B2d7		円形	1.16 × 1.14	22	外傾	平坦	人為		TM4→本跡→SF1→SD1
29	B2f1		円形	1.29 × 1.18	26	緩斜	平坦	-		SK30→本跡
30	B2e2		不明		32	外傾	平坦	自然		
31	B1e0	N-32°-W	長方形	1.12 × 0.92	11	緩斜	平坦	人為		TM4→本跡
32	B2h1	N-7°-E	橢円形	1.42 × 1.26	25	外傾	平坦	-		
34	B2h1	N-34°-E	橢円形	1.01 × 0.80	21	外傾	平坦	人為		
35	C5j7	N-81°-E	隅丸長方形	2.33 × 1.62	53	外傾	平坦	人為		TM4→本跡
36	C5h8	N-76°-W	長方形	1.77 × 1.08	20	緩斜	平坦	人為		
37	C6c9	N-53°-W	橢円形	2.63 × 1.60	45	外傾	平坦	人為	朝顔形円筒埴輪	本跡→TM8
38	C6i1	N-61°-W	不整橢円形	1.24 × 0.92	33	緩斜	皿状	人為		TM7→本跡
39	C6c9	N-10°-E	橢円形	2.22 × 1.70	44	緩斜	平坦	人為		TM8→本跡→SD5
40	C5f7	N-23°-W	隅丸長方形	1.22 × 0.62	53	外傾	平坦	自然		本跡→SD3
41	C5c8	N-52°-W	橢円形	2.98 × 0.86	156	垂直	平坦	人為		陥し穴・本跡→SI6→SD4
42	C6h3	N-65°-E	不定形	2.67 × 0.87	22	外傾	平坦	人為		
43	C5h3	N-61°-E	長方形	1.75 × 1.13	53	外傾	平坦	人為		
44	C6f1		円形	2.35 × 2.19	30	緩斜	平坦	人為		TM7→本跡
45	C5c8	N-53°-E	長方形	1.23 × 0.94	22	緩斜	平坦	人為		TM6→本跡
46	C6d1	N-59°-E	橢円形	1.66 × 1.28	55	緩斜	平坦	人為		
47	C6d2	N-28°-E	橢円形	1.21 × 0.94	18	緩斜	平坦	人為		
48	C5g8	N-65°-E	不定形	1.21 × 0.68	83	垂直	平坦	人為		本跡→TM6主体部

4 土墳墓

第6号墳の周溝南西部を中心とするC5g6付近から18基の土墳墓群が検出された。ここでは土墳墓及び出土遺物の実測図を掲載し、内容等については遺物観察表及び土墳墓一覧表に記載した。



第40図 土墳墓配置図

第1号土墳墓土層解説

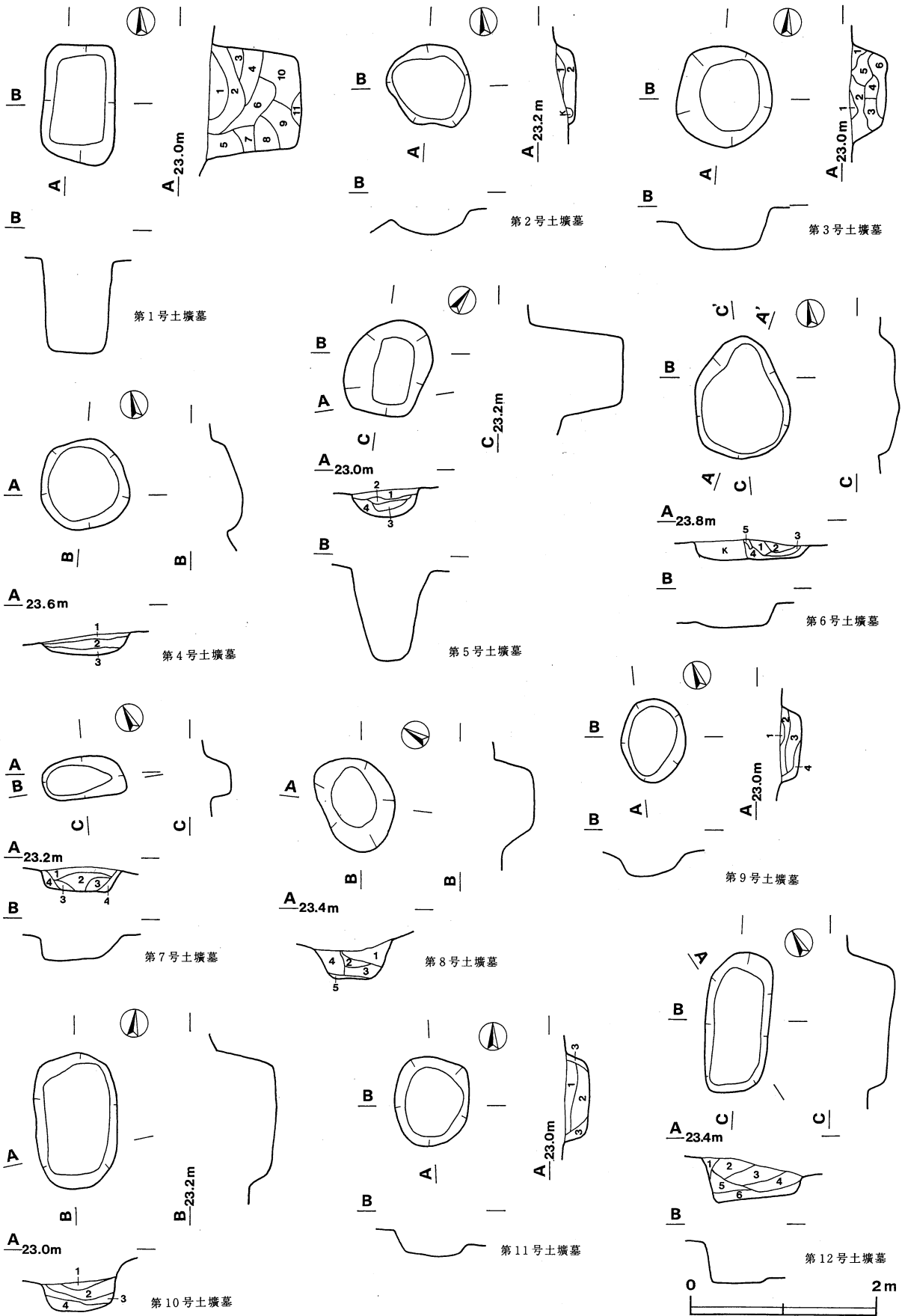
- 1 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量
- 6 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 8 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 9 黒褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 10 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 11 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量

第2号土墳墓土層解説

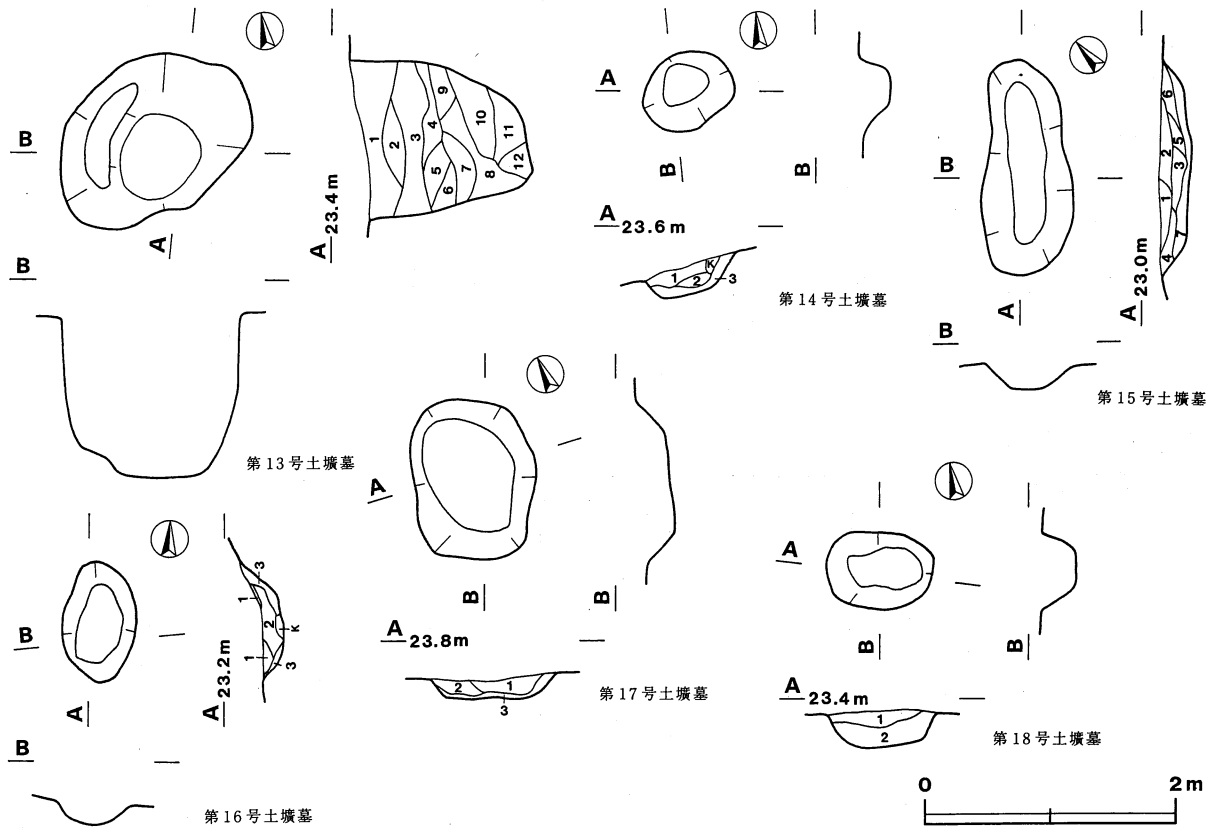
- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物・炭化粒子多量, 焼土粒子・ローム粒子中量

第3号土墳墓土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 6 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量



第41図 土墳墓実測図(1)



第42図 土墳墓実測図(2)

第4号土墳墓土層解説

- 1 極暗褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化粒子・炭化粒子多量, 炭化物少量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子多量, 焼土粒子微量

第5号土墳墓土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量

第6号土墳墓土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子・ローム中・小ブロック少量
- 2 暗褐色 炭化物多量, 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 炭化物中量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子・炭化物微量

第7号土墳墓土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量・ローム粒子少量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量
- 4 赤褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

第8号土墳墓土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子中量

第9号土墳墓土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量

第10号土墳墓土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム中・小・粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム中ブロック・小・粒子中量

第11号土墳墓土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・小・粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 3 褐色 ローム中ブロック・小・粒子中量

第12号土墳墓土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム粒子中量

第13号土墳墓土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック・小・粒子多量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 黒色 ローム小ブロック微量
- 7 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量
- 8 褐色 ローム中ブロック多量, ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム小ブロック・粒子中量
- 10 暗褐色 ローム中ブロック・小・粒子中量
- 11 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 12 極暗褐色 ローム粒子少量

第14号土壌墓土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

第15号土壌墓土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 5 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 6 黒色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

第16号土壌墓土層解説

- 1 極暗褐色 炭化物・粒子・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

第17号土壌墓土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

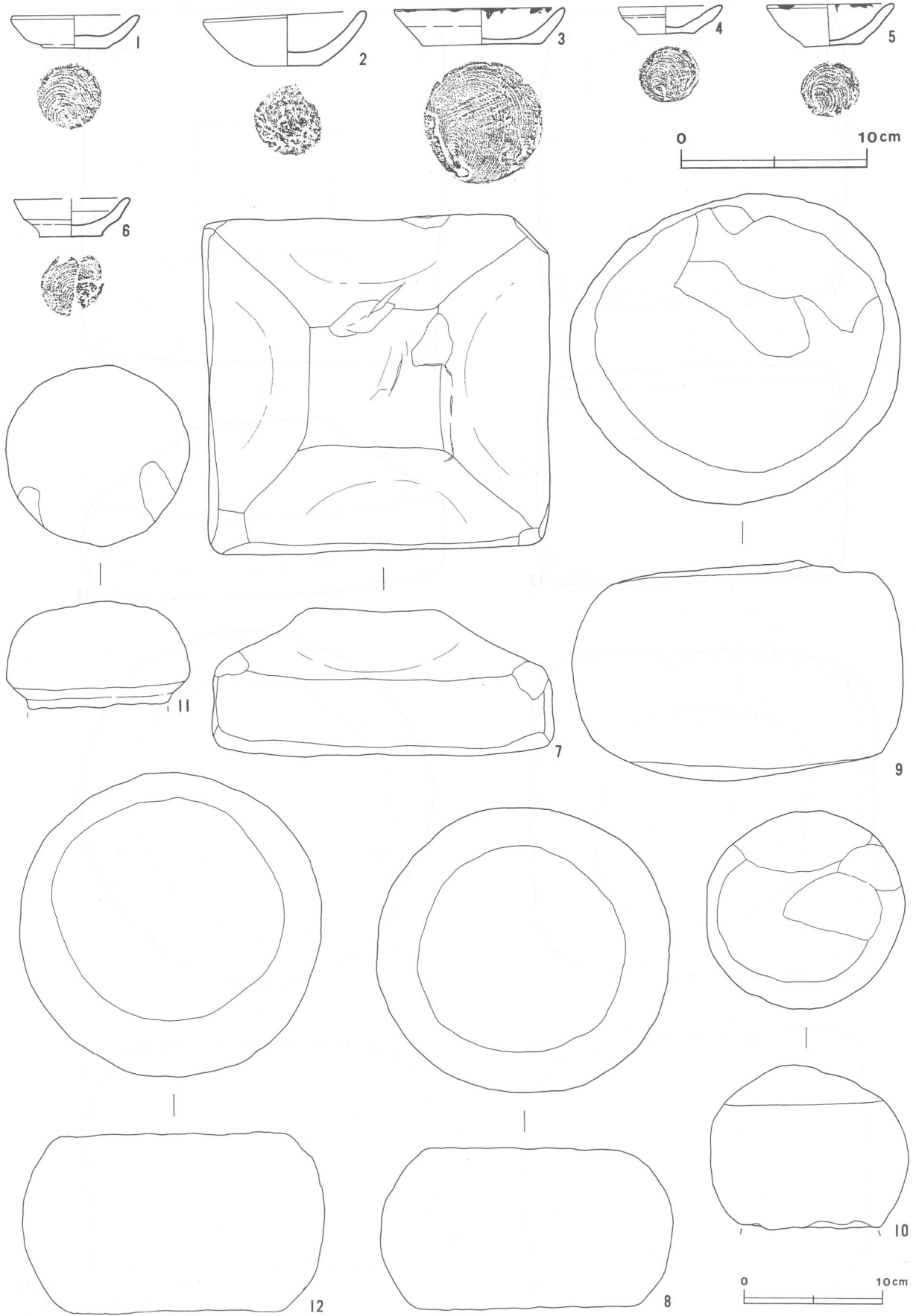
第18号土壌墓土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

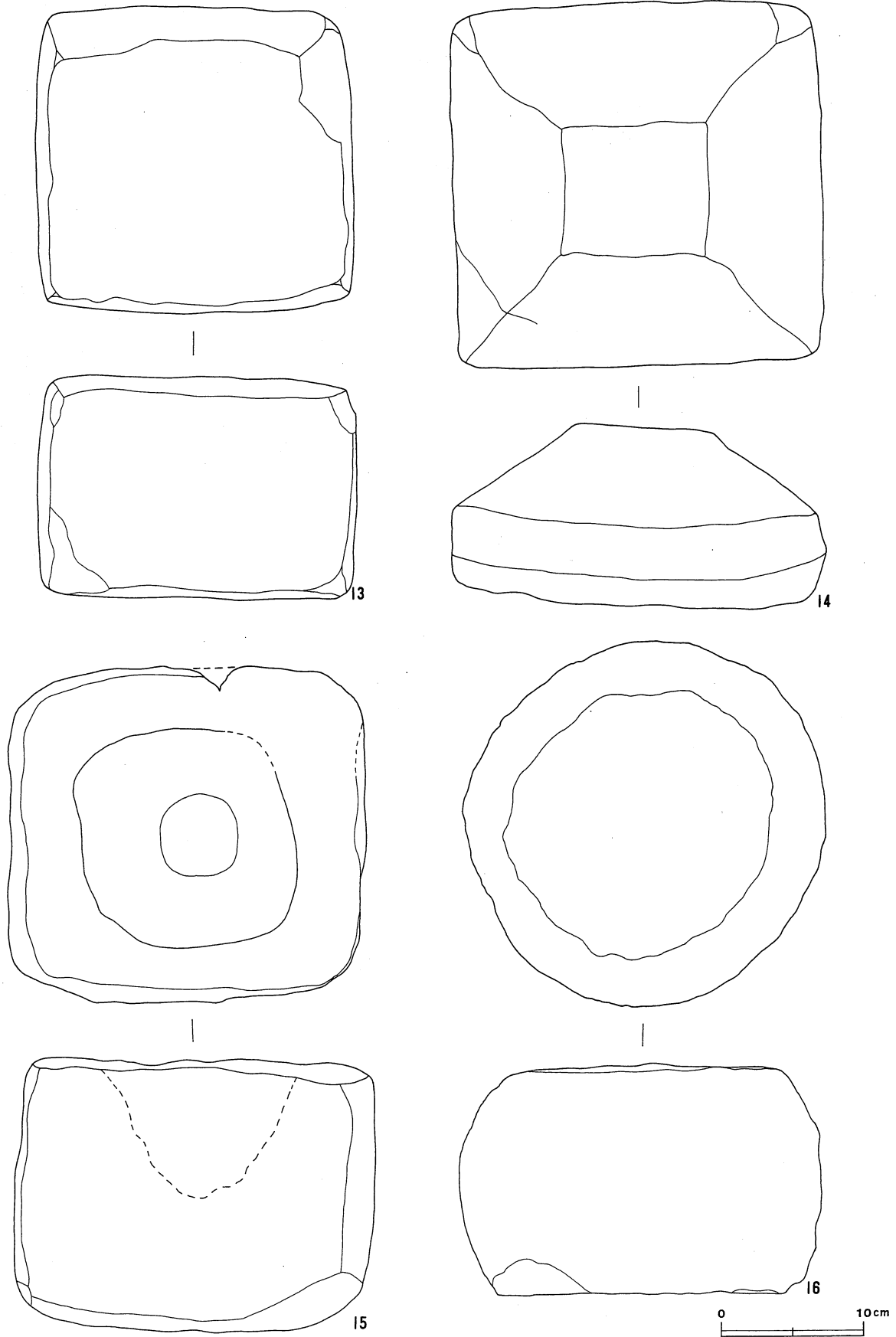
土壌墓出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第43図 1	皿 土師質土器	A 7.0	口縁部一部欠損。やや突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P69 95% 覆土中
		B 1.8				
		C 3.5				
2	皿 土師質土器	A 8.7	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	長石・石英 浅黄橙色 普通	P70 95% 覆土中
		B 2.9				
		C 3.5				
3	皿 土師質土器	A 9.3	平底。体部は内彎気味に立ち上がる。体部外面中位にわずかな稜を持つ。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P85 100% 覆土中 口縁部内・外面煤 付着
		B 2.0				
		C 6.6				
4	皿 土師質土器	A 5.7	平底。体部は外傾して立ち上がる。体部上位にわずかな稜を持つ。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい橙色 普通	P86 100% 覆土中
		B 1.6				
		C 3.0				
5	皿 土師質土器	A 6.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎気味に立ち上がる。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母・ スコリア 浅黄橙色 普通	P87 90% 覆土中 口縁部内・外面煤 付着
		B 2.4				
		C 3.0				
6	皿 土師質土器	A 6.4	底部から口縁部にかけての破片。やや突出した平底。体部外面中位に弱い稜を持つ。	ロクロ成形。底部回転糸切り。	雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P88 45% 覆土中
		B 2.1				
		C 3.4				

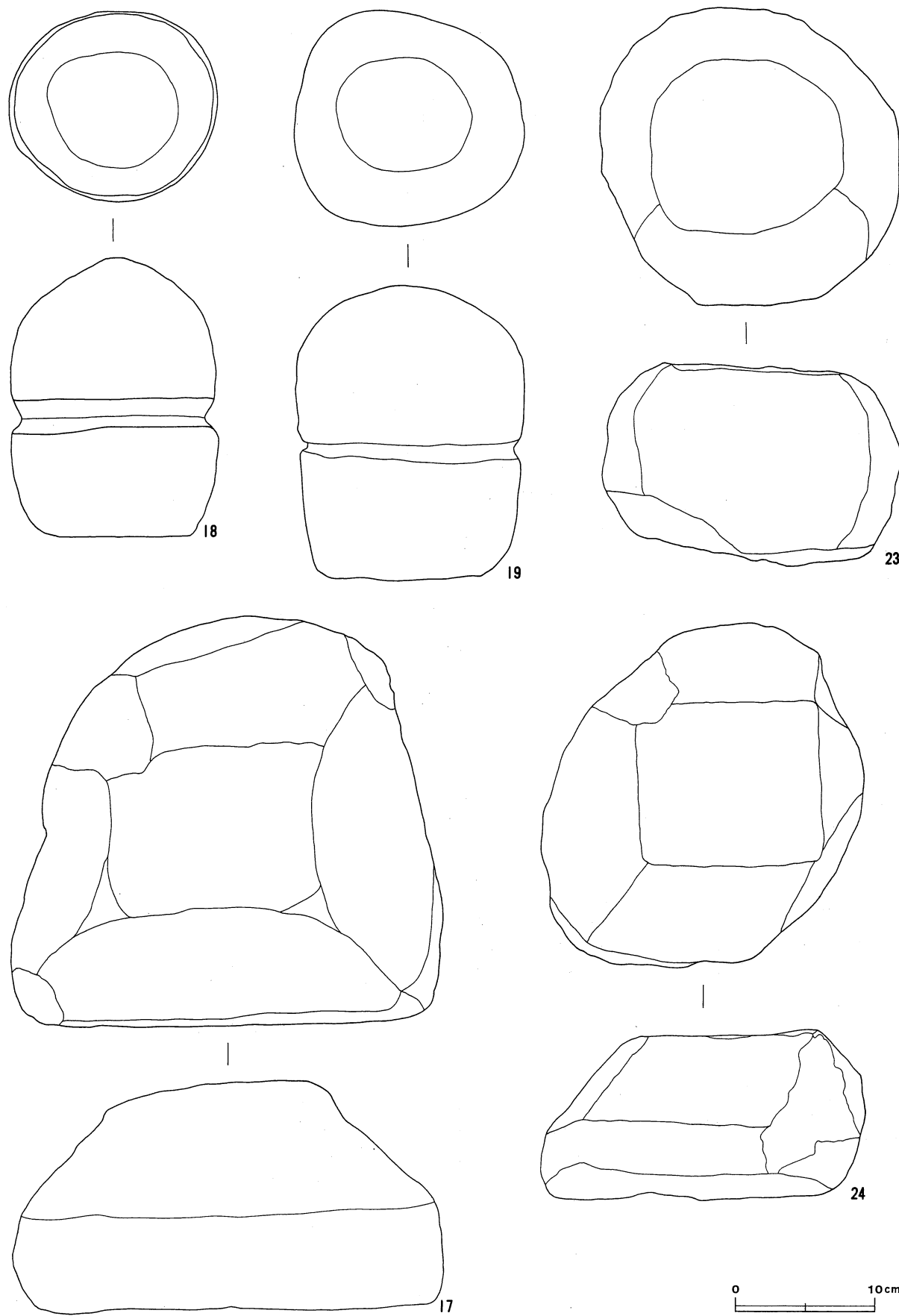
図版番号	種別	計測値			石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)			
第43図7	五輪塔 (火輪)	24.1	25.2	11.0	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q62 15~16世紀
8	五輪塔 (水輪)	20.8	21.1	11.6	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q63 15~16世紀
9	五輪塔 (水輪)	22.3	23.8	15.8	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q64 15~16世紀
10	五輪塔 (水輪)	14.2	11.8	14.3	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q67 15~16世紀
11	五輪塔 (水輪)	(13.0)	13.3	(7.8)	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q68 15~16世紀
12	五輪塔 (水輪)	22.0	21.8	13.1	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q69 15~16世紀
第44図13	五輪塔 (地輪)	21.5	22.5	15.9	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q71 15~16世紀
14	五輪塔 (火輪)	25.6	21.2	13.3	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q72 15~16世紀
15	五輪塔 (地輪)	23.8	25.6	14.5	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q73 15~16世紀
16	五輪塔 (水輪)	25.6	25.6	16.4	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q74 15~16世紀
第45図17	五輪塔 (火輪)	31.2	29.4	16.8	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q75 15~16世紀
18	五輪塔 (空・風輪)	13.7	15.0	20.0	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q76 15~16世紀
19	五輪塔 (空・風輪)	15.6	15.6	21.2	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q77 15~16世紀
第46図20	五輪塔 (地輪)	30.8	30.7	24.7	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q78 15~16世紀
21	五輪塔 (地輪)	30.1	30.7	21.5	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q79 15~16世紀
第47図22	五輪塔 (地輪)	28.1	28.0	22.3	花崗岩	TM6 墳丘上土壌墓群	Q80 15~16世紀



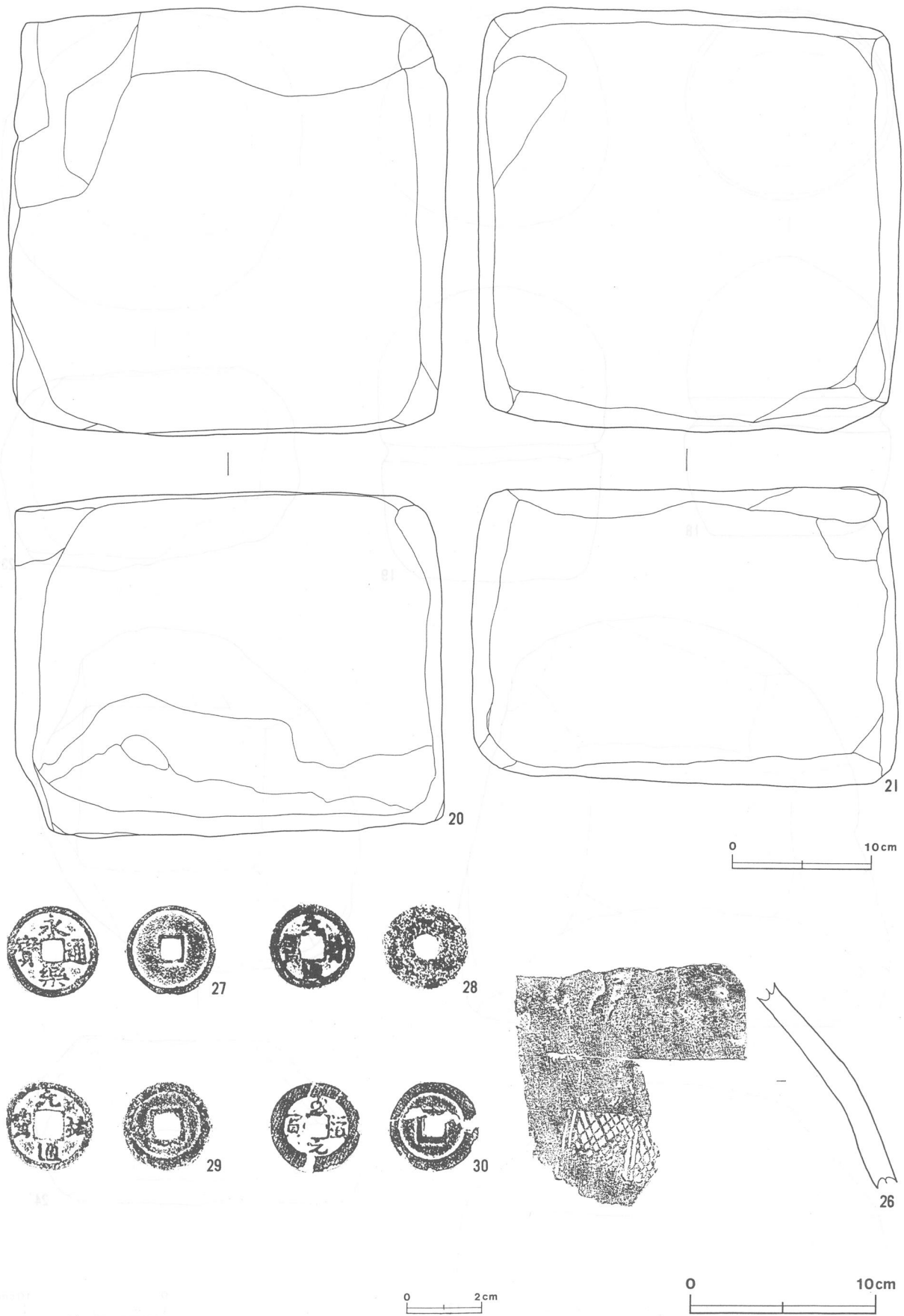
第43図 土墳墓出土遺物実測図(1)



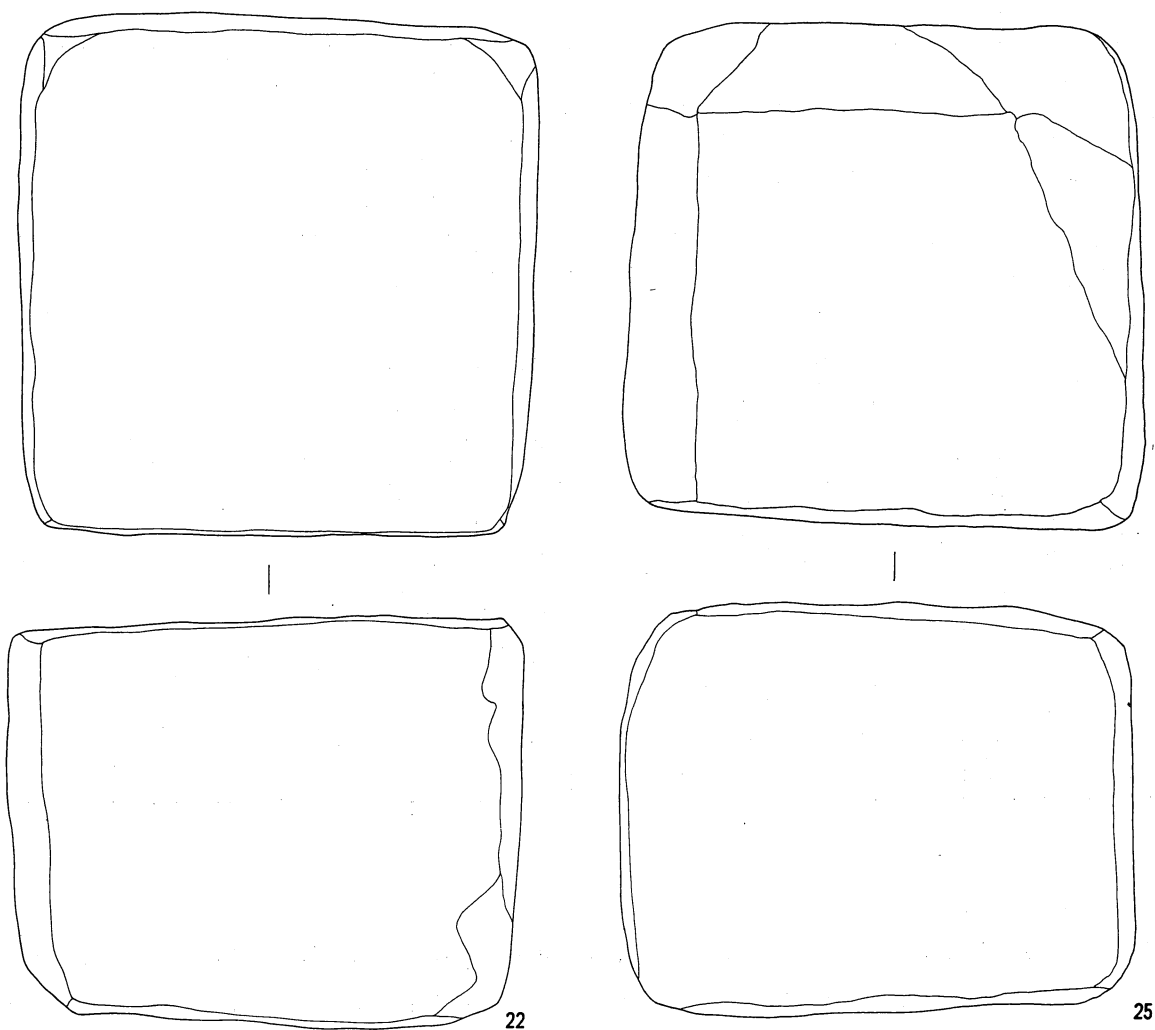
第44図 土墳墓出土遺物実測図(2)



第45図 土墳墓出土遺物実測図(3)



第46図 土壌墓出土遺物実測図(4)



第47図 土壙墓出土遺物実測図(5)

図版番号	種 別	計 測 値			石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)			
第45図23	五輪塔(水輪)	21.3	21.6	14.6	花崗岩	TM6墳丘上土壙墓群	Q105 15~16世紀
24	五輪塔(火輪)	24.6	23.5	12.4	花崗岩	TM6墳丘上土壙墓群	Q106 15~16世紀
第47図25	五輪塔(地輪)	26.9	28.1	22.4	花崗岩	TM6墳丘上土壙墓群	Q107 15~16世紀

26は常滑の甕で、体部上位の破片であり、斜格子文の押印が施されている。

図版番号	名 称	初 鑄 年	出 土 地 点	備 考
第46図27	永 楽 通 寶	1408	調査区東部表土	M29
28	元 符 通 寶	1098	調査区東部表土	M30 北宋
29	元 祐 通 寶	1086	第3号墓壇	M31 北宋
30	至 道 元 寶	995	調査区東部表土	M32 北宋

表4 実穀古墳群土墳墓一覽表

墳墓番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁高	底面	覆土	出土遺物等	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	C5g6	N-5°-E	隅丸方形	1.24 × 0.78		垂直	平坦	人為		
2	C5g6	N-49°-W	不整円形	0.94 × 0.90	24	外傾	平坦	人為		
3	C5g6		円形	1.10 × 1.09	76	外傾	平坦	人為	北宋銭	
4	C5j6		円形	0.94 × 0.94	22	外傾	平坦	人為		
5	C5g6	N-30°-W	楕円形	1.04 × 0.92	102	外傾	平坦	人為	人骨片	
6	C5g7	N-14°-E	楕円形	1.32 × 1.02	22	外傾	平坦	人為		
7	C5g7	N-70°-W	楕円形	0.90 × 0.44	26	外傾	平坦	人為		
8	C5e6	N-9°-E	不整楕円形	1.04 × 0.80	42	外傾	平坦	人為		
9	C5g6	N-23°-E	楕円形	0.90 × 0.70	29	外傾	皿状	人為		
10	C5h7	N-15°-W	楕円形	1.42 × 0.88	52	外傾	平坦	人為		
11	C5h6	N-10°-E	楕円形	0.94 × 0.80	20	外傾	平坦	人為		
12	C5e7	N-33°-E	隅丸長方形	1.50 × 0.68	32	外傾	平坦	人為		
13	C5h7	N-66°-E	不整円形	1.72 × 1.24	84	外傾	平坦	人為		
14	C5g6	N-53°-E	楕円形	0.63 × 0.60	26	外傾	平坦	人為		
15	C5h6	N-40°-E	楕円形	1.74 × 0.74	24	外傾	平坦	人為		
16	C5h6	N-5°-W	楕円形	0.98 × 0.62	18	外傾	平坦	人為		
17	C5f7	N-26°-E	不整楕円形	1.28 × 1.02	28	外傾	平坦	人為		
18	C5g7	N-89°-W	楕円形	0.86 × 0.63	30	外傾	平坦	人為		

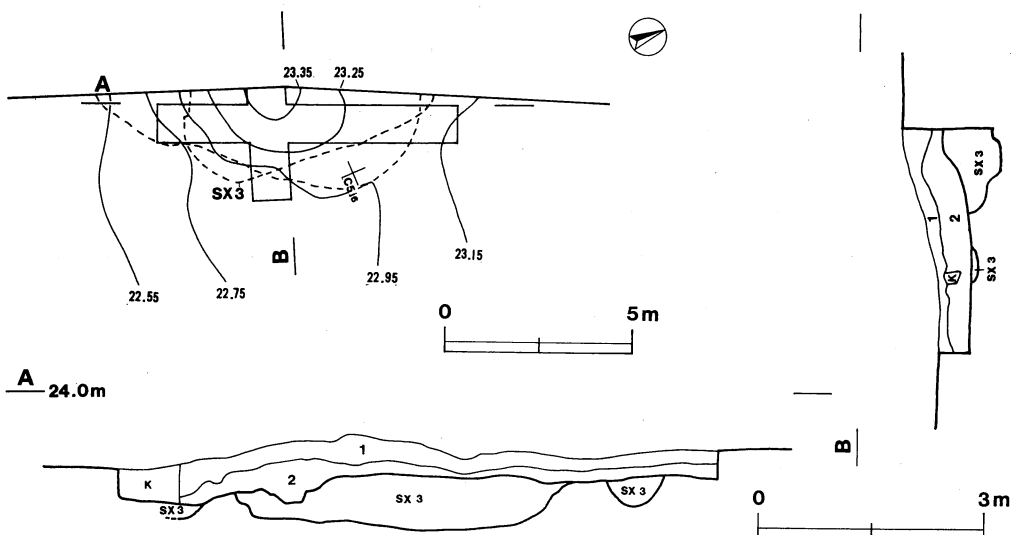
5 塚

当遺跡からは、塚1基が検出されている。当初、古墳の可能性があると考え調査を開始したが、遺構の形態及び古墳に関する遺物を伴わないことなどから塚と判断した。本跡の東側は調査区外である。以下、遺構の形態や特徴などについて記載する。

第1号塚 (第48図)

位置 調査区東部, C5j6区。

重複関係 本跡の下層から第3号不明遺構が検出されており、本跡は第3号不明遺構より新しい。



第48図 第1号塚実測図

規模と形状 本跡が調査区外に広がりを持つため正確な規模と形状は不明であるが、南北径 [8] m、東西径 [3] m、高さ 1.1m の不整形形を呈すると思われる。

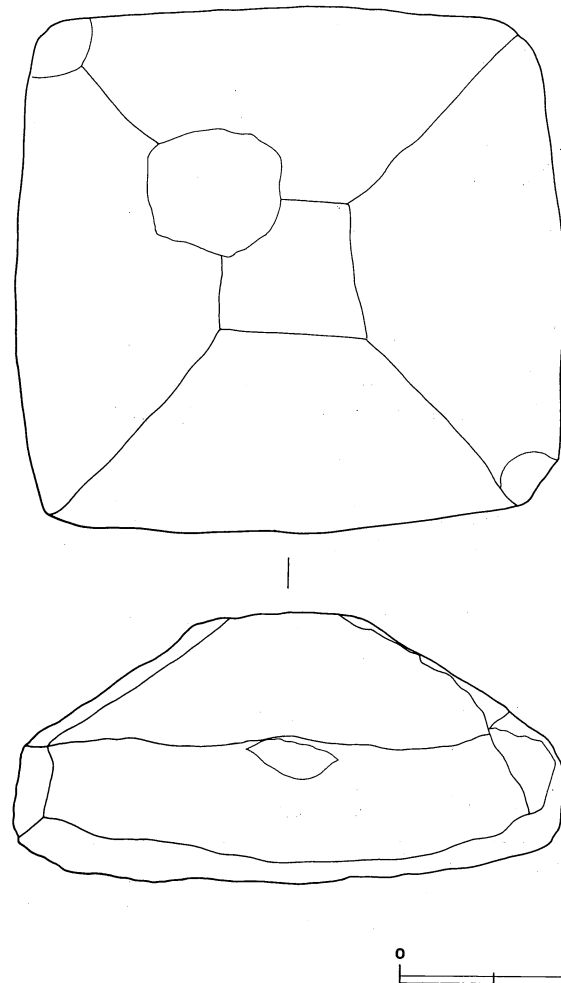
盛土 単一層であり、ロームブロックを中量含む人為堆積である。焼土粒子、炭化粒子、ローム小ブロック・粒子を含む軟らかい層である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量 (表土)
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 第 49 図 1 の五輪塔 (火輪) が、塚の中央部から北寄りの表土中から出土している。

所見 本跡の下から検出された第 3 号不明遺構は火葬施設の可能性も考えられる。あるいは本跡とも何らかの関連を想像することもできるが、ともに時期や性格を決定できる遺物がなく、第 3 号不明遺構との関連、本跡の時期及び性格は不明である。



第 49 図 第 1 号塚出土遺物実測図

第 1 号塚出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値			石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)			
第 49 図 1	五輪塔 (火輪)	28.0	29.2	14.6	花崗岩	表土中	Q81 15~16世紀

6 地点貝塚

当遺跡から、地点貝塚 1 基が検出された。以下、形状、規模、覆土の状態及び出土遺物について記載する。

第 1 号地点貝塚 (第 50 図)

位置 調査区西部、B1f0 区 (第 4 号墳墳丘裾部)

重複関係 第 4 号墳の墳丘を掘り込んでおり、本跡が新しい。

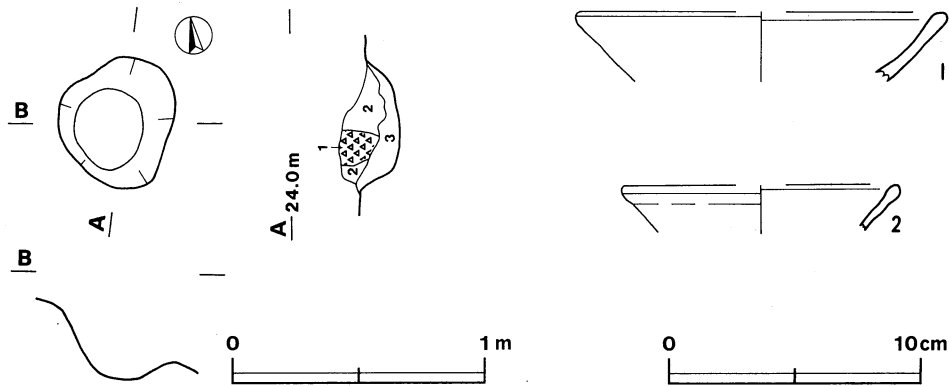
掘り方の規模と平面形 長径 0.52m、短径 0.47m の楕円形で、深さ 0.25m である。

長径方向 N - 40° - E

壁面 なだらかに立ち上がる。

底面 平坦であるが、短軸方向にわずかに傾斜する。

覆土 3 層からなる人為堆積である。



第50図 第1号地点貝塚出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子, 炭化粒子, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量 (貝層)
- 2 暗褐色 焼土粒子, 炭化粒子, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 第50図1・2の土師質土器が覆土中から出土している。貝層から検出された貝は、ヤマトシジミ (総重量583.3g) である。

所見 本跡の時期は、出土遺物から中世紀後半 (16世紀) と考えられる。

第1号地点貝塚出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図 1	皿 土師質土器	A [15.0] B (2.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。	長石・石英・スコリア 橙色 普通	P90 10% 覆土中 二次焼成
2	皿 土師質土器	A [11.1] B (1.8)	体部から口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がる。体部外面上位に弱い稜を持つ。	ロクロ成形。	石英・雲母 にぶい橙色 普通	P91 5% 覆土中

7 溝

当遺跡からは6条の溝が検出されている。ここでは、溝の形状、規模、覆土の状態及び出土遺物などについて記載する。

第1号溝 (第51図・付図)

位置 調査区東部, B2区

重複関係 B2c7区で第2号住居跡を掘り込み、本跡が新しい。

規模と形状 検出した全長は約22.8m, 上幅は0.56~1.24m, 下幅は0.36~0.56m, 深さは0.26~0.44mである。底面はほぼ平坦で、断面形はU字状である。

方向 B2d9区から北西方向 (N-54°-W) へほぼ直線的に延びている。

覆土 4層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子中量

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がなく、時期や性格については不明である。

第2号溝 (第51図・付図)

位置 調査区東部, B2区

重複関係 B2g₁区で第29号土坑に掘り込まれ, B2e₁区からB2i₁区で, 第4号古墳・第1号道路跡を掘り込み, 第29号土坑より古く第4号古墳・第1号道路跡より新しい。

規模と形状 検出した全長は約18m, 上幅は0.92~1.20m, 下幅は0.36~0.64m, 深さは0.20mである。底面はほぼ平坦で, 断面形はU字状である。

方向 B1i₀区から北東方向(N-19°-E)へ直線的に延びている。

覆土 2層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量

遺物 細片であり図示できないが, 覆土中から流れ込みと思われる土師器片甕3点が出土している。

所見 時期を決定できる遺物がなく, 時期や性格については不明である。

第3号溝 (第51図・付図)

位置 調査区東部, C1b₀区

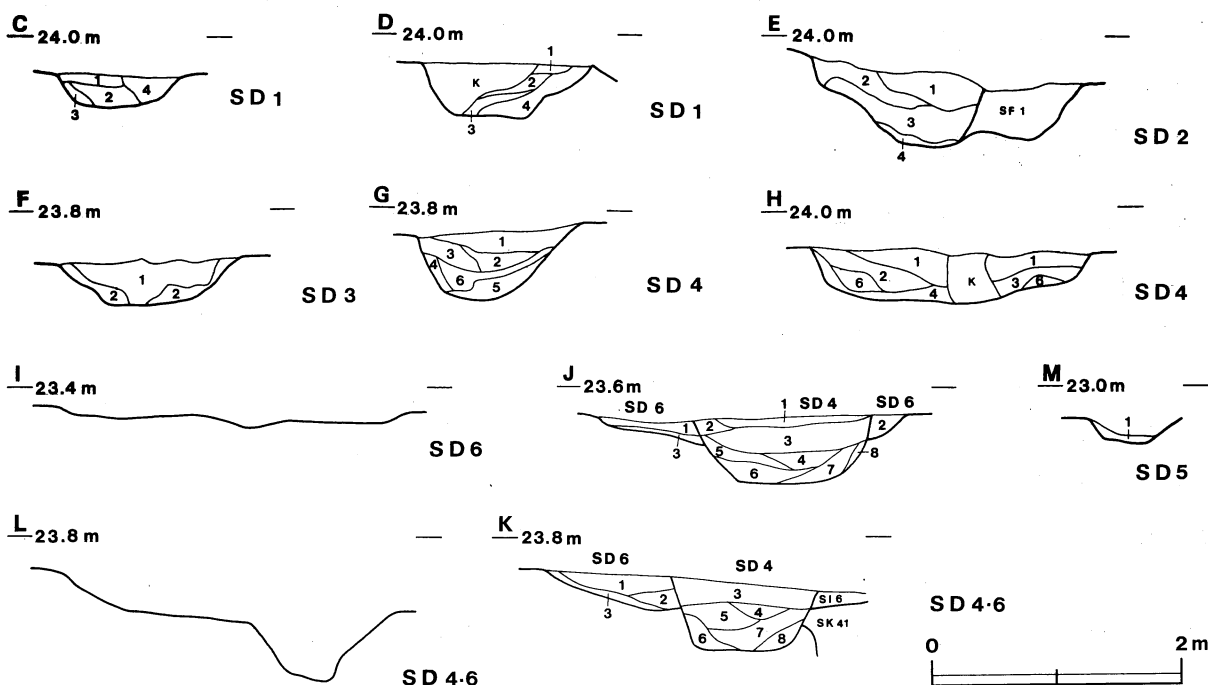
規模と形状 検出した全長は3.76m, 上幅は0~1.24m, 下幅は0~0.80m, 深さは0.38m, である。底面はほぼ平坦で, 断面形はU字状である。

方向 C1b₀区から南東方向(S-62°-E)へ直線的に延びている。

覆土 2層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量
- 2 褐色 ローム中・小ブロック・粒子中量



第51図 第1~6号溝実測図

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がなく、時期や性格については不明である。

第4号溝 (第51図・付図)

位置 調査区西部, C5区

重複関係 本跡が, C5b7区からC5f7区の間で, 第40・41号土坑及び第6号住居跡・第6号溝を掘り込み, 第40・41号土坑及び第6号住居跡・第6号溝より新しい。

規模と形状 検出した全長は約13.6m, 上幅は1.08~1.48m, 下幅は0.56~0.94m, 深さは0.22~0.56mである。底面はほぼ平坦で, 断面形はU字状である。

方向 C5b7区から東に向かい, 同区内で南方向(S-4°-E)にほぼ直角に折れ曲がり, 第6号古墳周溝手前まで直線的に延びている。

覆土 8層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|----------------------------------|--------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 7 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量 | 8 褐色 ローム小ブロック・粒子少量 |
| 3 褐色 炭化粒子, ローム粒子少量 | |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量 | |
| 5 褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム粒子少量 | |
| 6 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック多量, 炭化粒子微量 | |

遺物 細片であり図示できないが, 覆土中から流れ込みと思われる土師器片が出土している。

所見 時期を決定できる遺物がなく, 時期や性格については不明である。

第5号溝 (第51図・付図)

位置 調査区西部, C6・C7区

重複関係 本跡が, C6区からC7区にかけて第8号古墳を掘り込み, また, C6b9区で第39号土坑を掘り込み, 本跡が新しい。

規模と形状 検出した全長は約10.2m, 上幅は0.50~0.58m, 下幅は0.24~0.34m, 深さは0.22mである。底面はほぼ平坦で, 断面形はU字状である。

方向 C6b9区から西方向(S-6°-W)に直線的に延びている。

覆土 単一層であり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム中・小ブロック・粒子少量

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がなく, 時期や性格については不明である。

第6号溝 (第51図・付図)

位置 調査区西部, C5区及びC6区

重複関係 本跡が, C5b7区からC5f7区の間で第4号溝に掘り込まれ, C5g7区からC6h3区の間で第6・7号墳を掘り込み, 本跡は第4号溝より古く, 第6・7号墳より新しい。

規模と形状 検出した全長は約46.4m, 上幅は2.16~2.64m, 下幅は1.86~2.38m, 深さは0.22mである。底面はほぼ平坦で, 断面形はU字状である。

方向 C5b7区から南方向にC5e7区まで直線的に延び、第6号墳内で曲折し、C5g9区から東方向(S-90°-E)へほぼ直線的に延びる。

覆土 3層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がなく、時期や性格については不明である。

8 道路跡

当遺跡からは道路跡1条が検出されている。ここでは、道路跡の形状、規模及び覆土の状態などについて記載する。

第1号道路跡 (第52図・付図)

位置 調査区東部, B2区

重複関係 B2e1区からB2i1区で、本跡が第29・30号土坑, 第4号古墳を掘り込み、第2号溝に掘り込まれ、第29・30号土坑, 第4号古墳より新しく、第2号溝より古い。

規模と形状 検出した全長は約47.2m, 上幅は0.76~1.16m, 下幅は0.56~0.88m, 深さは0.14~0.22mである。底面は平坦で、断面形はU字状である。

方向 B1i0区から北東方向(N-36°-E)へ直線的に延びている。

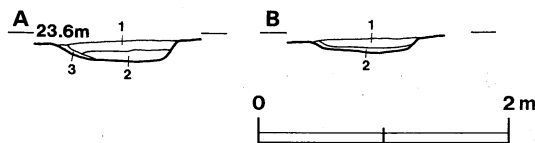
覆土 3層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量

遺物 出土していない。

所見 検出した範囲において、底面に硬化面が認められたため道路跡と判断した。出土遺物がなく、時期については不明である。



第52図 第1号道路跡実測図

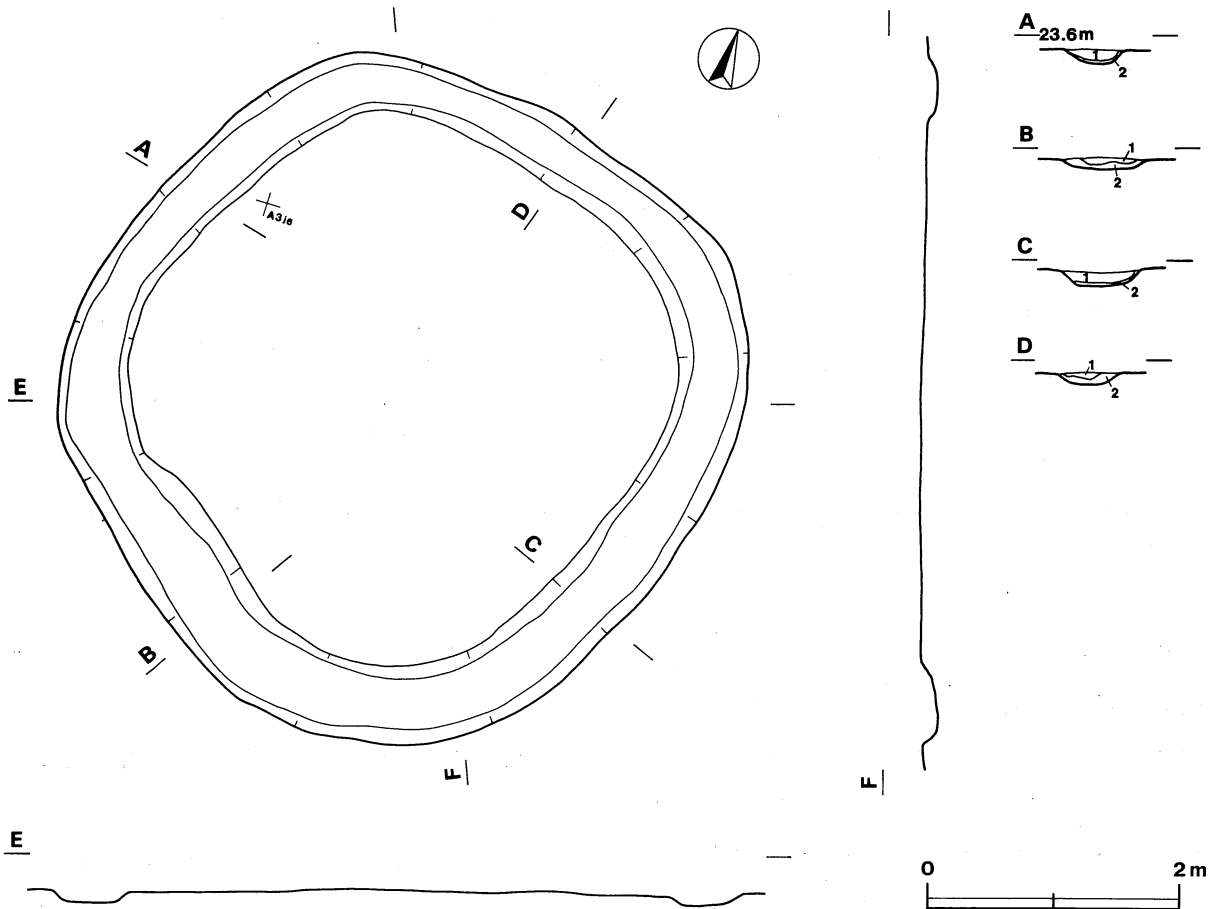
9 その他の遺構

調査区東部から、周溝状の遺構1基と、遺構は検出できなかったが集中的に遺物が出土した地点1か所が検出された。以下、遺構の状態や特徴について記載する。

第1号不明遺構 (第53図)

位置 調査区東部, A3j6区。

規模と形状 周溝内径が約3.90mの円形である。周溝に囲まれた部分は平坦である。周溝の上幅は0.44~0.74m, 下幅は0.26~0.48mで、深さ0.10~0.12mである。断面形はU字状で、壁は外傾して立ち上がる。底面は平坦である。



第53図 第1号不明遺構実測図

覆土 2層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム中・小ブロック・粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック中量

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がなく、時期や性格については不明である。

第2号不明遺構 (第54図)

位置 調査区東部, B4h₈~B4h₉区。

規模 約1メートル四方に入る範囲で集中的に土器片が出土したが、形状は確認できなかった。

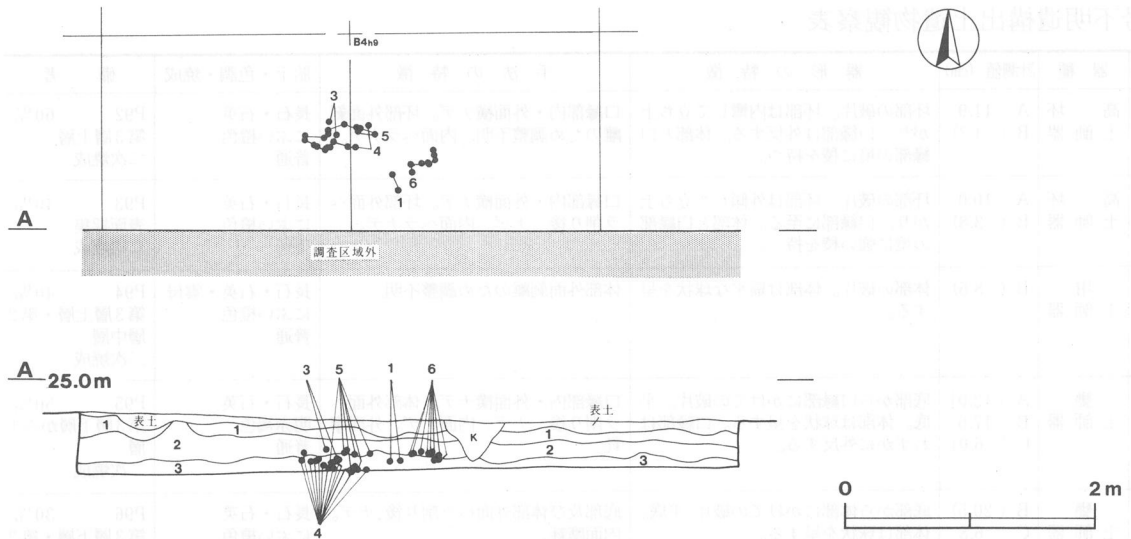
土層 表土の下から3層までの間の内、第2・3層から土器片が出土している。

土層解説

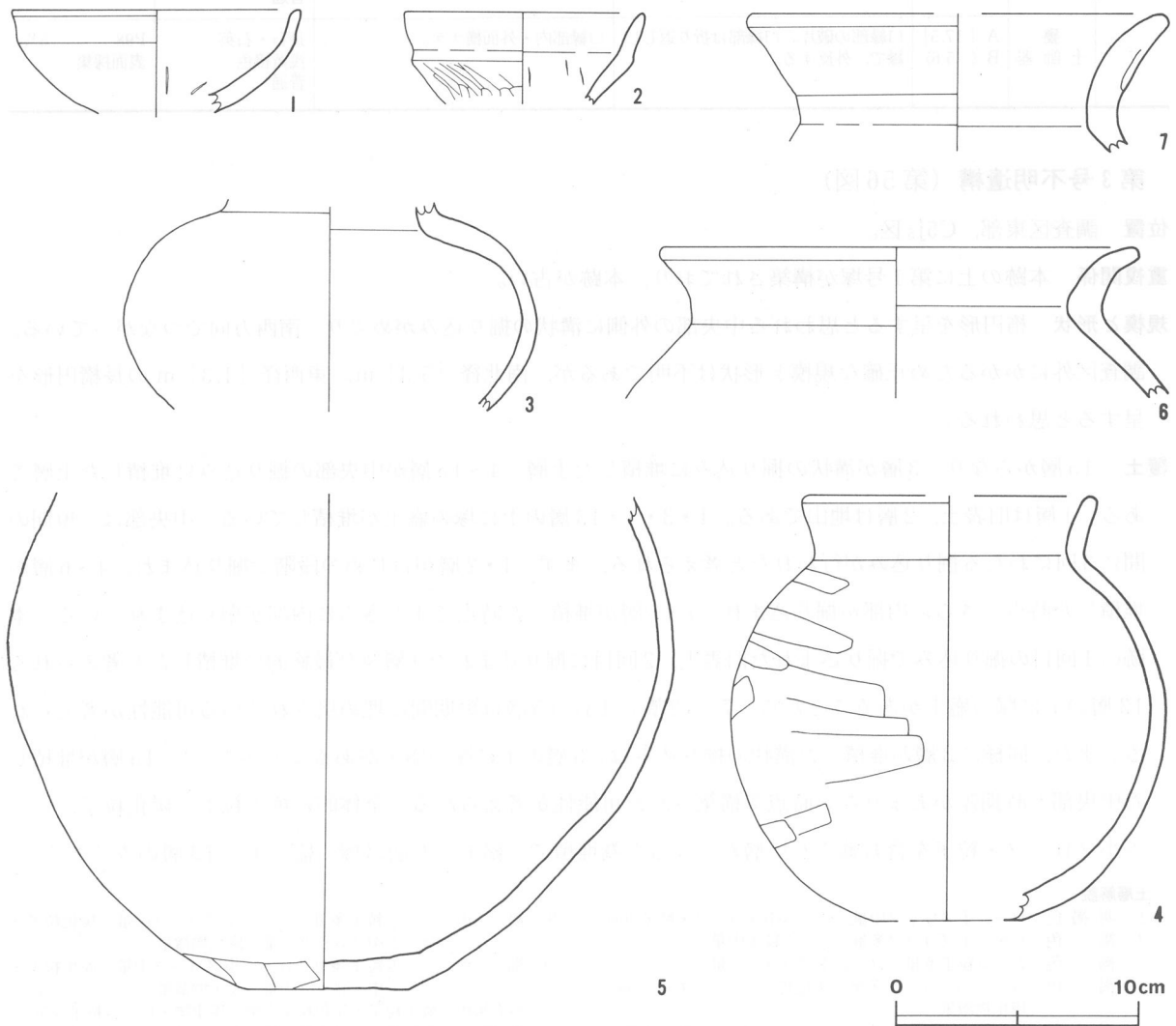
- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子多量

遺物 土師器734点が出土している。第55図1の土師器高坏が第3層の上層から、3の埴が第3層の上層と第2層の中層から、4の甕が第3層の下層から上層の間を中心に、5の甕が第3層の下層及び第2層の下から、6の甕が第2層の下層を中心に出土している。また、2の高坏、7の甕は、土器片が集中的に出土した範囲内で表面採集された。

所見 出土した土器の年代は古墳時代後期(5世紀末~6世紀初頭)と考えられる。遺構の形状が確認できず、土器片のまとまった出土状況から土器を投棄した地点とも考えられるが、その性格については不明である。



第54図 第2号不明遺構実測図



第55図 第2号不明遺構出土遺物実測図

第2号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第54図 1	高坏土師器	A 11.9 B (4.3)	坏部の破片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。体部と口縁部の境に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面剝離のため調整不明。内面ヘラナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P92 60% 第3層上層 二次焼成
2	高坏土師器	A 10.0 B (3.8)	坏部の破片。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。体部と口縁部の境に強い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P93 40% 表面採集 二次焼成
3	埴土師器	B (8.6)	体部の破片。体部は扁平な球状を呈する。	体部外面剝離のため調整不明。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P94 40% 第3層上層・第2層中層 二次焼成
4	甕土師器	A [12.0] B 17.6 C [6.0]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は球状を呈する。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。外面摩耗。	長石・石英明赤褐色普通	P95 50% 第3層上層から上層 二次焼成
5	甕土師器	B (20.5) C 6.8	底部から体部にかけての破片。平底。体部は球状を呈する。	底部及び体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面摩耗。	長石・石英にぶい橙色普通	P96 30% 第3層下層・第2層下層 二次焼成
6	甕土師器	A 19.6 B (6.2)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石橙色普通	P97 10% 第2層下層
7	甕土師器	A [17.5] B (5.6)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英浅黄褐色普通	P98 5% 表面採集

第3号不明遺構 (第56図)

位置 調査区東部, C5j5区。

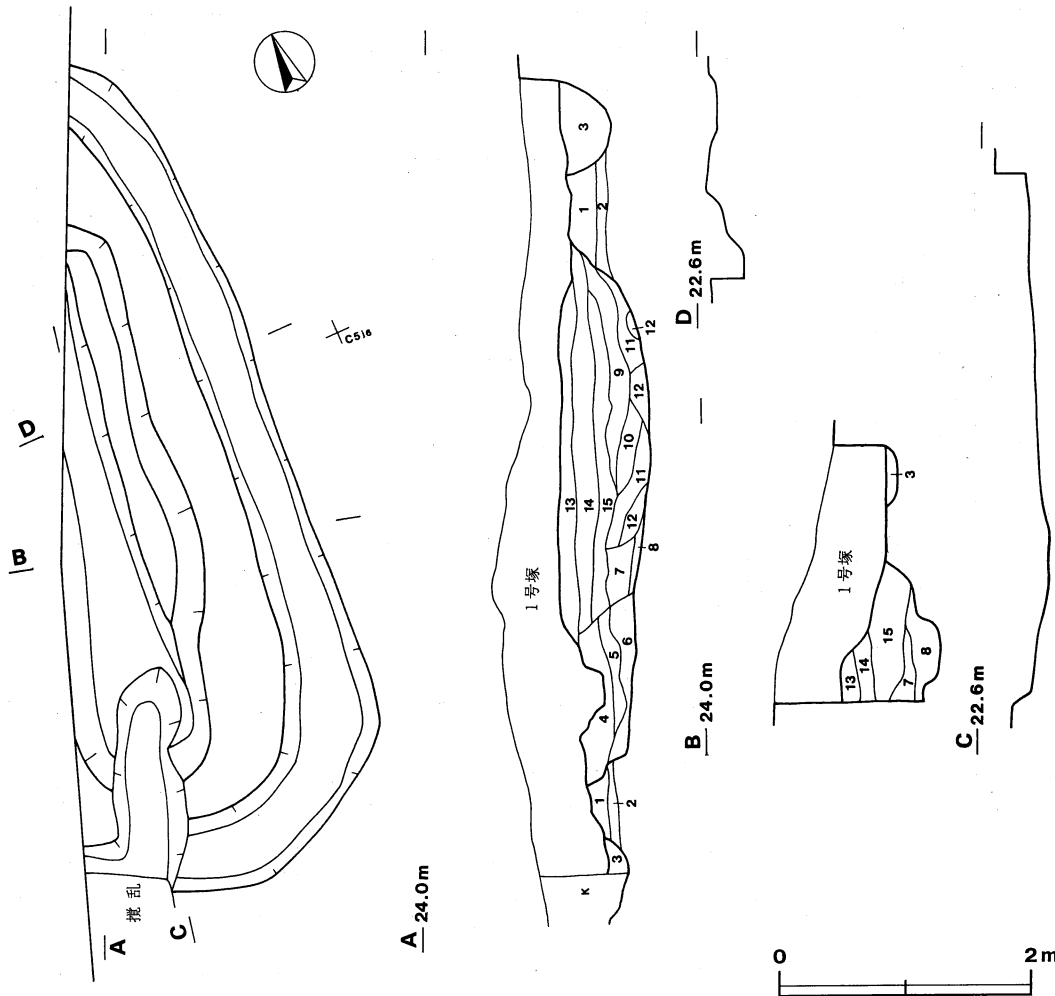
重複関係 本跡の上に第1号塚が構築されており、本跡が古い。

規模と形状 楕円形を呈すると思われる中央部の外側に溝状の掘り込みがめぐり、南西方向でつながっている。調査区外にかかるため正確な規模と形状は不明であるが、南北径 [5.3] m, 東西径 [1.3] m の長楕円形を呈すると思われる。

覆土 15層からなり、3層が溝状の掘り込みに堆積した土層、4~15層が中央部の掘り込みに堆積した土層である。1層は旧表土、2層は地山である。1・3・4・13層の上に塚の盛土が堆積している。中央部は、短期の間に3回にわたる掘り込みが行われたと考えられる。まず、1・2層がはじめの段階で掘り込まれ、4~6層が堆積した時点でさらに内部が掘り込まれ、7・8層が堆積した時点でまたさらに内部が掘り込まれている。本跡の1回目の掘り込みで掘り込まれた旧表土、2回目に掘り込まれた4層及び最終的に堆積したと考えられる13層の上に塚の盛土があることから、7~12層と13~15層は短期間に埋め戻されている可能性が考えられる。また、同様に3層が堆積した溝状の掘り込みは、3層の上に塚の盛土があることから、4~15層が堆積した中央部と時期差があまりない時点で構築された可能性が考えられる。全体的に焼土粒子、炭化粒子、ローム小ブロック・粒子を含む軟らかい層からなる人為堆積で、締まった層は塚の盛土下の13層のみである。

土層解説

1 明褐色	ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・粒子少量	9 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 炭化物微量
2 褐色	ローム小ブロック多量, ローム粒子中量	10 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 炭化物微量
3 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量	11 暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子中量, 炭化物・ローム粒子少量
4 褐色	ローム小ブロック多量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物微量	12 黒褐色	炭化物・粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量
5 褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量	13 暗褐色	ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子微量
6 褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	14 暗褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子微量
7 暗褐色	焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物・ローム小ブロック微量	15 褐色	ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量, 炭化物微量
8 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子・ローム中ブロック少量		



第56図 第3号不明遺構実測図

底面 底部の赤変硬化した面の上に炭化物がみられるほか、遺物は出土していない。

所見 本跡は底面の状況から火葬施設の可能性も考えられる。また、第1号塚とも何らかの関連を想像することもできるが、ともに時期などを決定できる遺物がなく、本跡の詳細な時期は不明である。

10 遺構外出土遺物

当遺跡からは、遺構に伴わない土器や土製品、石器・石製品、古銭が出土している。ここでは、それらの出土遺物のうち、縄文土器片4点（早期2点，前期1点，後期1点）について解説をし、その他については、実測図（第57図～第59図）及び観察表、一覧表で一括して報告する。

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第57図 1	坏 土器	A [11.9] B (5.2) C [3.7]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内・外面赤彩。	長石 にふい赤褐色 普通	P 80 50% 1区表土 二次焼成
2	高坏 土器	B (7.7) E (1.9)	坏部の破片。坏部は内彎気味に立ち上がる。	坏部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P 99 30% 1区表土 二次焼成

実穀古墳群

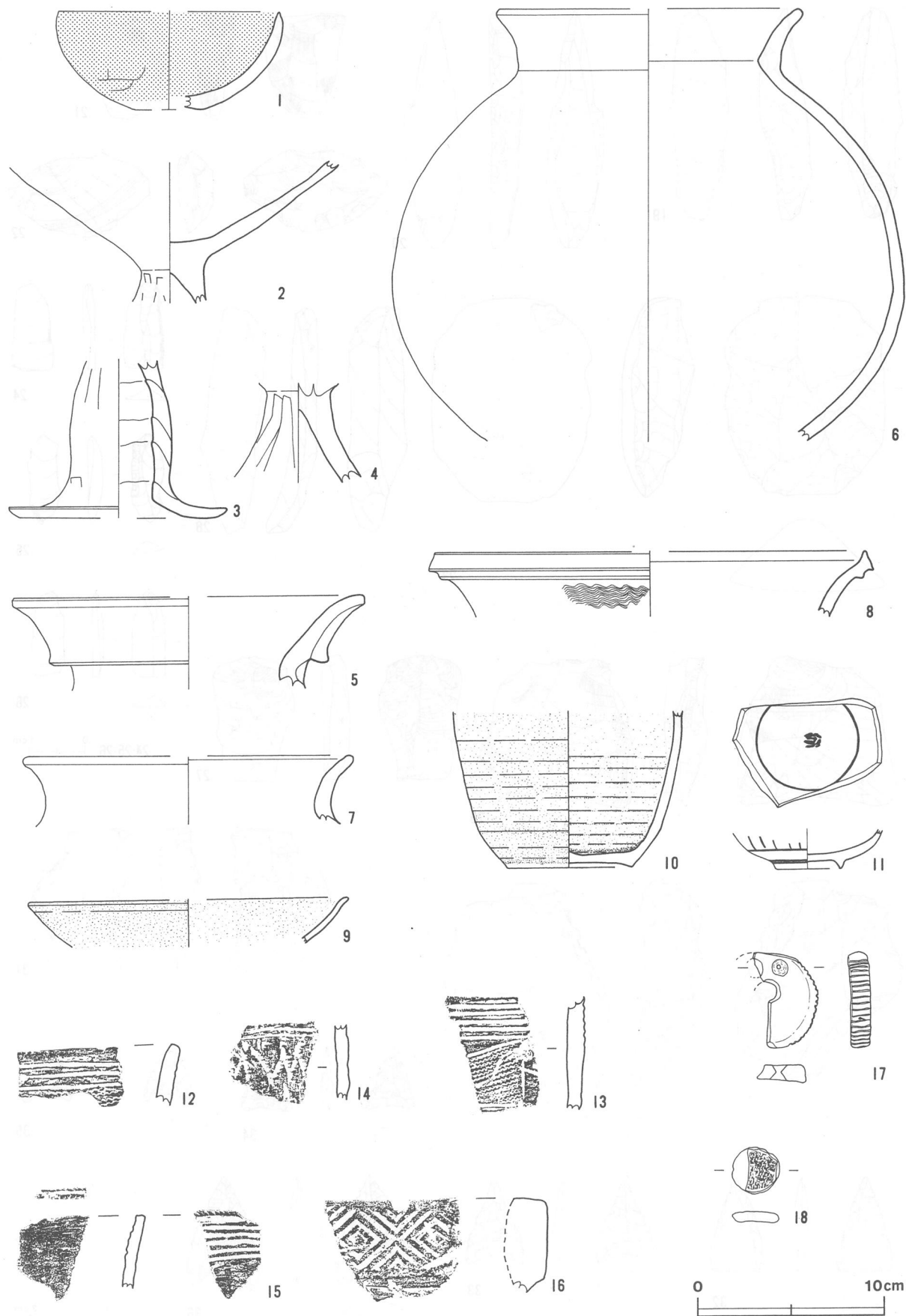
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第57図 3	高坏 土師器	E (8.5) D [11.7]	脚部の破片。脚部はエンタシス状を呈する。裾部は外上方へわずかに反り返る。	脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石 にぶい褐色 普通	P 100 40% 1区表土
4	高坏 土師器	E (5.4)	脚部の破片。脚部はハの字状に開く。	脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P 101 10% 1区表土 二次焼成
5	壺 土師器	A [19.0] B (5.0)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。口縁端部は帯状に収めている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石 にぶい橙色 普通	P 103 10% 1区表土
6	甕 土師器	A [16.5] B (23.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部はやや扁平な球状を呈する。口縁部は外反する。	内・外面摩擦のため調整不明。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P 102 30% 1区表土 内・外面摩擦
7	甕 土師器	A [17.8] B (4.7)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	石英・長石 にぶい褐色 普通	P 104 5% 1区表土
8	壺 須恵器	A [23.2] B (3.5)	口縁部の破片。口縁部は外反し、端部は外斜する極浅い凹面をなす。口縁端部直下に断面三角形の凸帯をめぐらし、その下に10本1条の櫛描き波状文を施す。	口縁部内面に自然釉がみられる。	長石 暗灰色 良好	P 107 5% 1区表土
9	椀 緑釉陶器	A [17.3] B (2.5)	口縁部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	ロクロ成形後、磨き。口縁部内・外面に緑釉が施される。	(胎土) 灰色 (釉) オリーブ黄色 良好	P 51 5% 第4号墳周溝表土
10	徳利 陶器	B (8.4) C 6.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は筒型を呈し、中位にわずかな膨らみを持つ。	ロクロ成形。底部回転へラ削り。内面に灰釉が溜まる。外面に黒釉が施される。	(胎土) 暗赤褐色 (釉) 黒色 良好	P 108 20% 1区表土
11	椀 磁器	B (2.0) D 3.6 E 0.4	底部から体部下位にかけての破片。高台は低く、直立する。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。高台外面及び体部外面下位に圏線が描かれ、外面下位の圏線から垂線が比較的密に伸びる。見込みには圏線内に文様が描かれる。	(胎土) 灰白色 (釉) 灰白色 良好	P 109 20% 1区表土

12は口縁部片、13は胴部片で、沈線及び貝殻波状文が施されており、田戸下層式土器に比定される。14は胴部片で、沈線及び貝殻波状文が施されており、浮島II式土器に比定される。15は浅鉢の口縁部片で口唇部に刻みが、また、内面に6条の横位の沈線が施され、加曾利BI式土器に比定される。

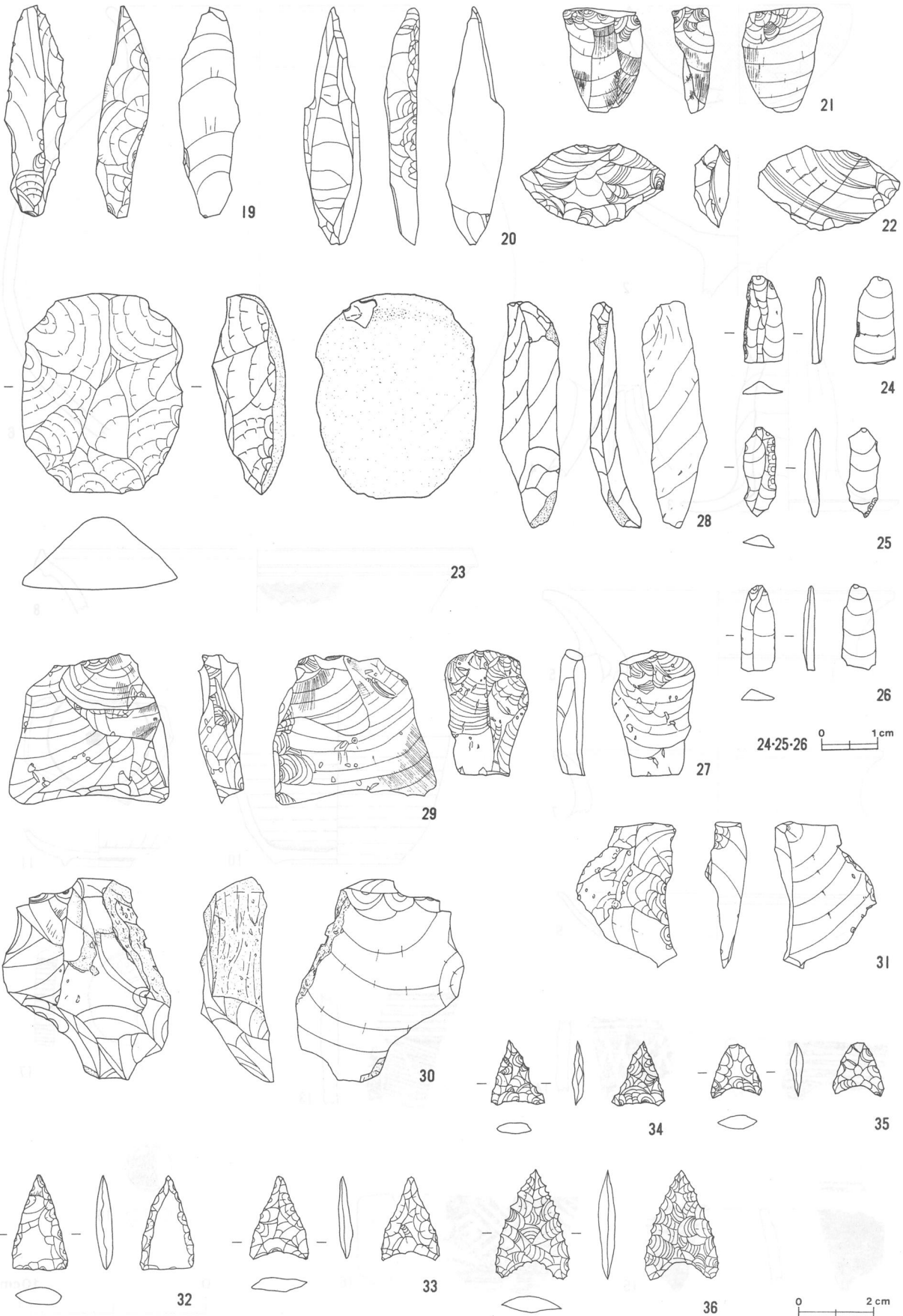
16の土師質土器甕は、口縁部片で、菱形文の押印が施されている。胎土に石英と雲母を多く含む。

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第57図17	块状耳飾り	5.1	(3.5)	1.0	(17.2)	調査区東部表面採集	DP9
18	土器片 鍾	2.5	2.6	0.7	5.3	調査区東部表面採集	DP8

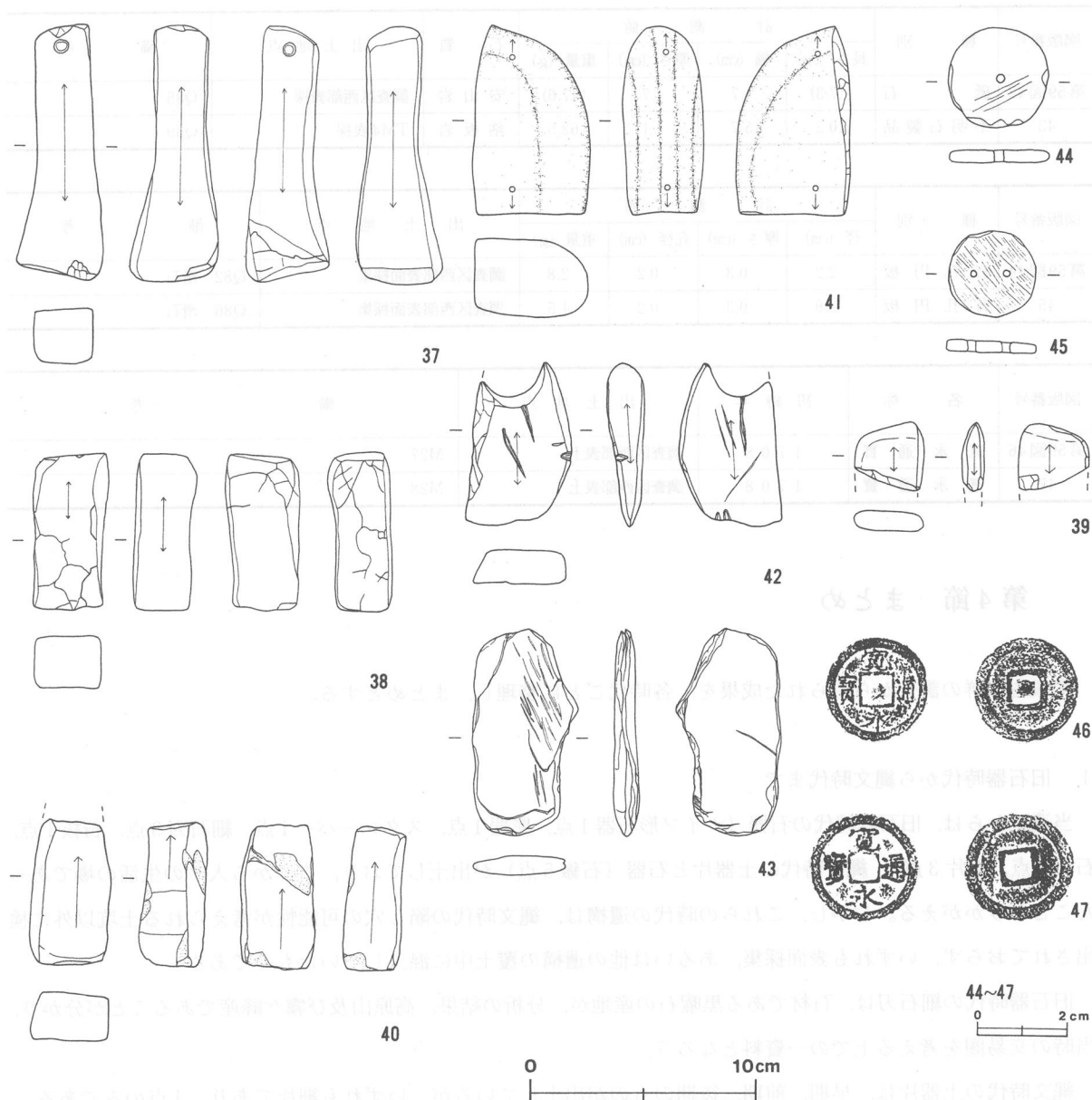
図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第58図19	ナイフ形石器	5.6	1.7	1.3	9.5	頁岩	TM4周溝覆土中	Q54
20	彫器	6.4	1.5	0.9	9.2	頁岩	TM4周溝覆土中	Q55
21	石核	2.8	2.2	1.2	4.6	黒曜石	TM4周溝表土	Q56
22	スクレーパー	2.3	3.9	1.0	7.1	黒曜石	TM7表採	Q91
23	スクレーパー	5.4	4.3	2.0	47.9	安山岩	TM7溝覆土中	Q108
24	細石刃	1.6	0.7	0.2	-	黒曜石	TM8表採	Q109 高原山産
25	細石刃	1.6	0.6	0.3	-	黒曜石	TM6表採	Q110 霧ヶ峰産
26	細石刃	1.5	0.6	0.2	-	黒曜石	TM6表採	Q111 霧ヶ峰産
27	石刃	3.4	2.2	0.8	5.1	安山岩	SK6覆土中	Q3
28	石刃	6.2	1.6	1.4	7.2	黒曜石	TM4周溝覆土中	Q53



第57図 遺構外出土遺物実測図(1)



第58図 遺構外出土遺物実測図(2)



第59図 遺構外出土遺物実測図

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第58図29	剥片	4.0	4.2	1.2	19.9	黒曜石	調査区東部表採	Q90
30	剥片	5.5	4.5	1.9	39.4	メノウ	TM7周溝覆土中	Q89
31	剥片	3.9	2.7	1.1	6.7	黒曜石	TM6表採	Q61
32	石鏃	2.6	1.5	0.4	1.5	安山岩	TM4周溝覆土中	Q4
33	石鏃	2.2	1.5	0.3	0.8	チャート	TM4周溝覆土中	Q5
34	石鏃	1.7	1.5	0.3	0.4	黒曜石	TM4周溝覆土中	Q6
35	石鏃	1.5	1.4	0.3	0.5	チャート	TM4周溝覆土中	Q7
36	石鏃	2.9	2.0	0.5	1.6	黒曜石	TM4周溝覆土中	Q66
第59図37	砥石	11.3	3.8	2.4	188.2	凝灰岩	調査区東部表採	Q8
38	砥石	7.0	3.3	2.3	94.4	凝灰岩	調査区東部表採	Q9
39	砥石	(3.0)	3.1	0.9	(11.5)	凝灰岩	調査区東部表採	Q11
40	砥石	(6.5)	3.6	2.2	(83.0)	凝灰岩	調査区西部表採	Q83
41	磨石	8.4	5.1	3.6	261.3	砂岩	調査区西部表採	Q84

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第59図42	砥石	(7.3)	4.7	1.7	(47.6)	安山岩	調査区西部表採	Q85
43	不明石製品	10.2	5.7	1.1	62.5	粘板岩	TM4表採	Q59

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第59図44	有孔円板	2.2	0.3	0.2	2.8	調査区西部表面採集	Q82 滑石
45	有孔円板	2.0	0.3	0.2	1.5	調査区西部表面採集	Q86 滑石

図版番号	名称	初鑄年	出土地点	備考
第59図46	寛永通寶	1708	調査区西部表土	M27
47	寛永通寶	1708	調査区西部表土	M28

第4節 まとめ

実穀古墳群の調査から得られた成果を、各時代ごとに整理し、まとめとする。

1 旧石器時代から縄文時代まで

当遺跡からは、旧石器時代の石器（ナイフ形石器1点、彫器1点、スクレーパー1点、細石刃3点、石核1点、石刃2点、剝片3点）、縄文時代の土器片と石器（石鏃5点）が出土しており、古くから人々の生活の場であったことがうかがえる。しかし、これらの時代の遺構は、縄文時代の陥し穴の可能性が考えられる土坑以外に検出されておらず、いずれも表面採集、あるいは他の遺構の覆土中に混入していたものである。

旧石器時代の細石刃は、石材である黒曜石の産地が、分析の結果、高原山及び霧ヶ峰産であることが分かり、当時の交易圏を考える上での一資料となろう。

縄文時代の土器片は、早期、前期、後期のものが出土しているが、いずれも細片であり、4点のみである。前述の陥し穴の可能性が考えられる土坑や表面採集されている石鏃から、縄文時代においては当遺跡周辺は狩猟の場として利用されていたことが想像される。

2 古墳時代

竪穴住居跡7軒、古墳4基が検出された。

竪穴住居跡は、乙戸川を臨む台地の先端部に位置し、第1～4号竪穴住居跡が調査区西部の中央部から西寄りに、第5～7号竪穴住居跡が調査区西部の東寄り及び調査区東部の西寄りに、それぞれが径約40mの円内に入る範囲でまとまっている。第1号竪穴住居跡と第2号竪穴住居跡の間及び第3号竪穴住居跡と第4号竪穴住居跡の間の距離は約10mほど、第5号竪穴住居跡と第6号竪穴住居跡は約15mほど、第6号竪穴住居跡と第7号竪穴住居跡は約5mほどである。出土遺物などから、時期は、いずれも古墳時代中期と考えられ、短期間に営まれた集落跡であると思われる。

竪穴住居跡からは、検出された範囲において壁溝が確認された。炉は、出入り口部に対して奥壁寄りに位置している。第1号住居跡は炉を3基持ち、炉3のみが出入り口を入れて左手の壁寄りに位置する点が特異である。

また、第1・2・4号住居跡の炉は、いずれも支柱穴を結んだ線の外側に位置する。貯蔵穴は第1・2・4号住居跡から検出され、第1・2号住居跡の貯蔵穴は、出入り口を入れてすぐの右側コーナー部に、第4号住居跡の貯蔵穴は左側コーナー部に位置する。7軒中3軒が焼失家屋と考えられる。出土遺物は、高坏、甕、壺、甑などである。

乙戸川を臨む台地の先端部に位置する実穀古墳群は、第4号墳が最も西端にあり、未調査の第1～3号墳を挟んで、東に向かって第6・7号墳と並び、第8号墳が最も東端に所在する。未調査の第1～3号墳の時期は不明であるが、西端の第4号墳および第6号墳が5世紀末～6世紀初頭、第7号墳は6世紀中葉、第8号墳は6世紀後半と考えられ、調査された範囲においては西に位置するものがより古いと考えられる。

古墳はいずれも円墳であり、周溝内径で約10.1～16mの規模を持つ。以下、それぞれの埋葬施設について概観する。第4号墳は埋葬施設2基が墳頂部の封土上層に並んで検出された。2基の埋葬施設は、主軸方向がほぼ近いこと、木棺の周りに粘土が巡っていたものと考えられること、副葬品の内容が近似していることから、構築された時間差はさほどないものと考えられる。第6号墳は、埋葬施設1基が墳頂部の封土下層から検出された。埋葬施設の北東部に粘土塊が認められたが、副葬品は確認されなかった。また、埋葬施設のほぼ直下に軸線と同じくした第48号土坑が検出されており、その状況から、埋葬施設との何らかの関連も想像しうが、出土遺物がなく、その性格は不明であり、今後の検討課題となろう。第7号墳からは、周溝内埋葬施設2基が検出されている。第8号墳の墳丘裾部から、朝顔型円筒埴輪を伴う第37号土坑が検出されており、埋葬施設の可能性も考えられるが、詳細は不明である。

特筆すべき遺物は以下のとおりである。第4号墳においては、墳頂部から、TK208期併行のものと考えられる須恵器甕が散在した状態で出土しており、何らかの祭祀が行われたことが想像される。埋葬施設からは、直刀、刀子、鉄鏃、ガラス小玉が出土している。4点の直刀はいずれも平造りであり、木質の部分が全体的に認められることから、木製の鞘におさめられていたものと考えられる。木質の付着及び錆のために、茎尻の観察が十分にできないが、直角に切れ込む片関のものが確認された。鉄鏃もまた錆のために十分な観察ができないが、いずれも長頸鏃であり、茎部分に植物繊維を用いた口巻がなされているものが残り、部分ごとの観察から、鏃身に逆刺があるもの、断面が両丸造のもの、台形関のものが確認された。また、二段に逆刺があるものも確認された。第8号墳及び墳丘内の第37号土坑から出土した円筒埴輪片、朝顔形円筒埴輪は、突帯の断面形が三角形に近くずれた台形であり、確認される透孔は円形である。外面に黒斑は認められず、窯焼成と思われる。胎土に多量の金雲母を含む点も注目される。

以上、埋葬施設及び主な遺物のみについて概観してみたが、これら古墳の年代は本文において述べたように、遺構及び遺物から、5世紀末～6世紀初頭から6世紀後葉と考えられる。当遺跡から検出された前述の竪穴住居跡及び本稿の第4章で述べた実穀寺子遺跡の竪穴住居跡は、5世紀を中心とした集落跡と考えられ、古墳の営まれた時代の集落跡は確認されていない。より広い視点から人の動きを追求するために、実穀・寺子地区ばかりでなく、古墳時代の良好な資料を残す。乙戸川を挟んだ対岸のヤツノ上・中久喜・東山・馬場・隼人山・西ノ原・中下根遺跡などとの関連も、今後の課題の一つであろう。

3 中世以降

第6号墳の墳丘を掘り込んで、18基の土壇墓が集中して検出された。土壇墓の周辺には15～16世紀を考えられる五輪塔が倒壊した状態で散在しており、北宋銭2枚が表土中から、1枚が第3号土壇墓覆土下層から、人骨片が第5号土壇墓覆土下層から、土師質土器皿が表土中から出土している。

実穀古墳群

第6号墳わきの第1号塚の下から検出された第3号不明遺構は、底部が赤変硬化しており、炭化物がみられることから、火葬施設の可能性も考えられる。第3号不明遺構の上に盛土をして塚としたことも想像しうが、性格と時期を決定できる出土遺物がなく、詳細は不明である。塚の表土中からは、15～16世紀と考えられる五輪塔の火輪が出土している。また、遺構としては確認できなかったが、「寛永通寶」が表面採集されており、近世の墓墳があった可能性が考えられる。

なお、調査区域外の第1・2号墳の間には墓地が、第2号墳墳頂には天神をまつる祠があり、今も人々の信仰の対象として存続している。

今回の調査で、実穀古墳群においては、旧石器時代から近世までの人々の生活の痕跡を確認することができた。旧石器時代から人々がこの地に足跡を残し、縄文時代には、主に狩猟場として利用されていたことが考えられる。古墳時代には中期に集落が営まれた後、後期に古墳群がつくられ、その後、中世以降は墓域として人々の聖域となっていたことが考えられる。当遺跡は、古墳時代中期の集落跡、古墳時代後期の古墳群及び中世以降の土壌墓群を中心とする複合遺跡であることが明らかになった。

参考文献

- ・白杵 勲「古墳時代の鉄刀について」『日本古代文化研究 創刊号』古墳文化研究会 1984年2月
- ・関 義則「古墳時代後期鉄鏃の分類と編年」『日本古代文化研究 第3号』古墳文化研究会 1984年2月
- ・杉山秀宏「古墳時代の鉄鏃について」『橿原考古学研究所論集 第八』橿原考古学研究所 1988年10月
- ・川西宏幸「円筒埴輪総論」『考古学雑誌 第64巻』日本考古学会 1979年3月
- ・大関 武「つくば市沼田八幡塚出土の埴輪について」『婆良岐考古 第20号』婆良岐考古同人会 1998年5月
- ・桃崎祐輔「中世常陸における葬送の風景」『茨城県考古学協会誌 第7号』茨城県考古学協会 1995年8月
- ・茨城県教育財団「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ）ヤツノ上遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第81集』 1993年3月
- ・茨城県教育財団「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅱ）中久喜遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第86集』 1993年9月
- ・茨城県教育財団「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅲ）東山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第101集』 1995年9月
- ・茨城県教育財団「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅳ）馬場遺跡 行人田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第106集』 1996年3月
- ・茨城県教育財団「牛久東下根特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 中下根遺跡 西ノ原遺跡隼人山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第113集』 1996年6月
- ・茨城県教育財団「竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書20 桜山古墳」『茨城県教育財団文化財調査報告第61集』 1989年6月

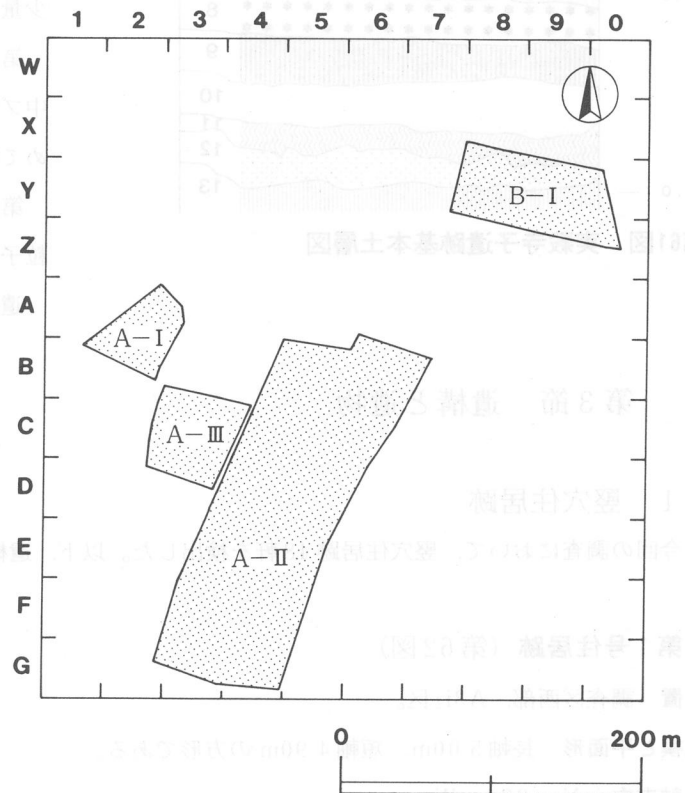
第4章 実穀寺子遺跡 1

第1節 遺跡の概要

実穀寺子遺跡は、阿見町北西部、乙戸川左岸の標高22~24mの台地上にあり、乙戸川の低地から伸びる支谷によって、大きく南部（A区）と北部（B区）の二つの地区に分かれている。現況は山林及び畑地であり、平成7年度にA区の2,291㎡、平成8年度にA区の21,083㎡とB区の4,667㎡、平成9年度にA区の2,820㎡を調査した。当遺跡は古墳時代中期の集落跡が中心であるが、旧石器時代、古墳時代の複合遺跡である。同じ台地上の300mほど南西に実穀古墳群及び実穀寺子西遺跡がある。

調査によって古墳時代中期の竪穴住居跡48軒、土坑60基、溝1条、旧石器集中地点4か所が検出された。

遺物は、遺物収納箱（60×40×20cm）に106箱出土しており、遺物の大半は古墳時代のものである。旧石器時代の遺物は、石器（ナイフ形石器、尖頭器、スクレイパー、石刃、剝片など）が、縄文時代の遺物は、土器（縄文土器片）、土製品（珠状耳飾り）、石器（石鏃、石匙）が、古墳時代の遺物は、土師器（高坏・坏・椀・埴・甕・甑など）、須恵器（甗）、土玉、石製模造品（有孔円板、剣形品、勾玉）、石製品（白玉、管玉、紡錘車、砥石）、鉄製品（鎌、鋏）が出土している。



第60図 実穀寺子遺跡調査区設定図

第2節 基本層序

調査区内にテストピットを掘り、基本土層の観察を行った。（第61図）

第1層 厚さ18~26cmの褐色の表土である。

第2層 厚さ18~24cmの明褐色土。新期富士降下火砕層（新期テフラ）を含む層である。

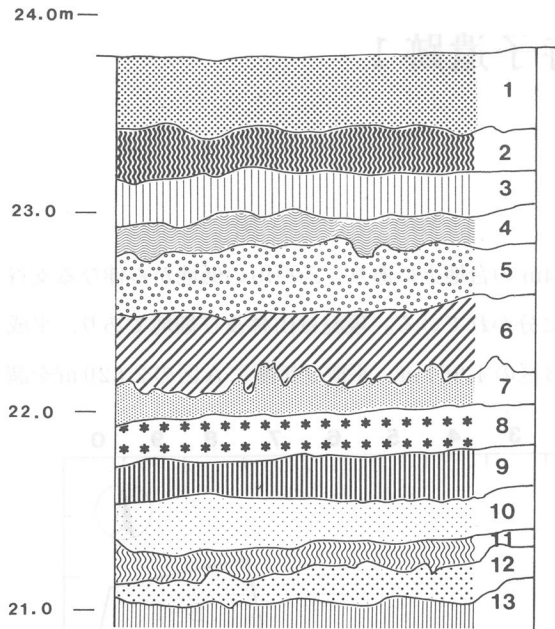
第3層 厚さ18~24cmの褐色土。赤色スコリアを微量含む。

第4層 厚さ8~20cmの明褐色のソフトローム。

第5層 厚さ24~38cmの褐色のハードローム。下位に始良Tn火山灰（AT）を含む層である。

第6層 厚さ22~42cmの褐色土。赤色スコリアを微量含む第2黒色帯（BB II）である。

第7層 厚さ10~26cmの褐色土。ローム小ブロックを中量含む。



第61図 実穀寺子遺跡基本土層図

第8層 厚さ20～26cmのにぶい褐色土。黒色粒子を微量含む。

第9層 厚さ16～23cmの褐色土。黒色粒子を少量、赤色スコリアを微量含み、極めて粘性がある。

第10層 厚さ20～26cmのにぶい褐色土。白色粘土粒子を多量、黒色粒子・赤色粒子を少量含む。

第11層 厚さ10～16cmのにぶい褐色土。粘土粒子を極めて多量に、赤色粒子を多量、黒色粒子を少量含む。

第12層 厚さ10～24cmのにぶい橙色土。粘土中ブロック・粒子を中量、黒色粒子を少量含み、極めて粘性がある。

第13層 にぶい褐色土。赤色小ブロック・黒色粒子を中量含む。

遺構は、第2層上面で確認した。

第3節 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

今回の調査において、竪穴住居跡48軒を検出した。以下、遺構と遺物について記載する。

第1号住居跡 (第62図)

位置 調査区西部, A3i₂区。

規模と平面形 長軸5.00m, 短軸4.90mの方形である。

主軸方向 N-27°-W

壁 壁高は55～75cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅16～32cm, 下幅6～9cm, 深さ6～9cmで、断面形はU字状である。

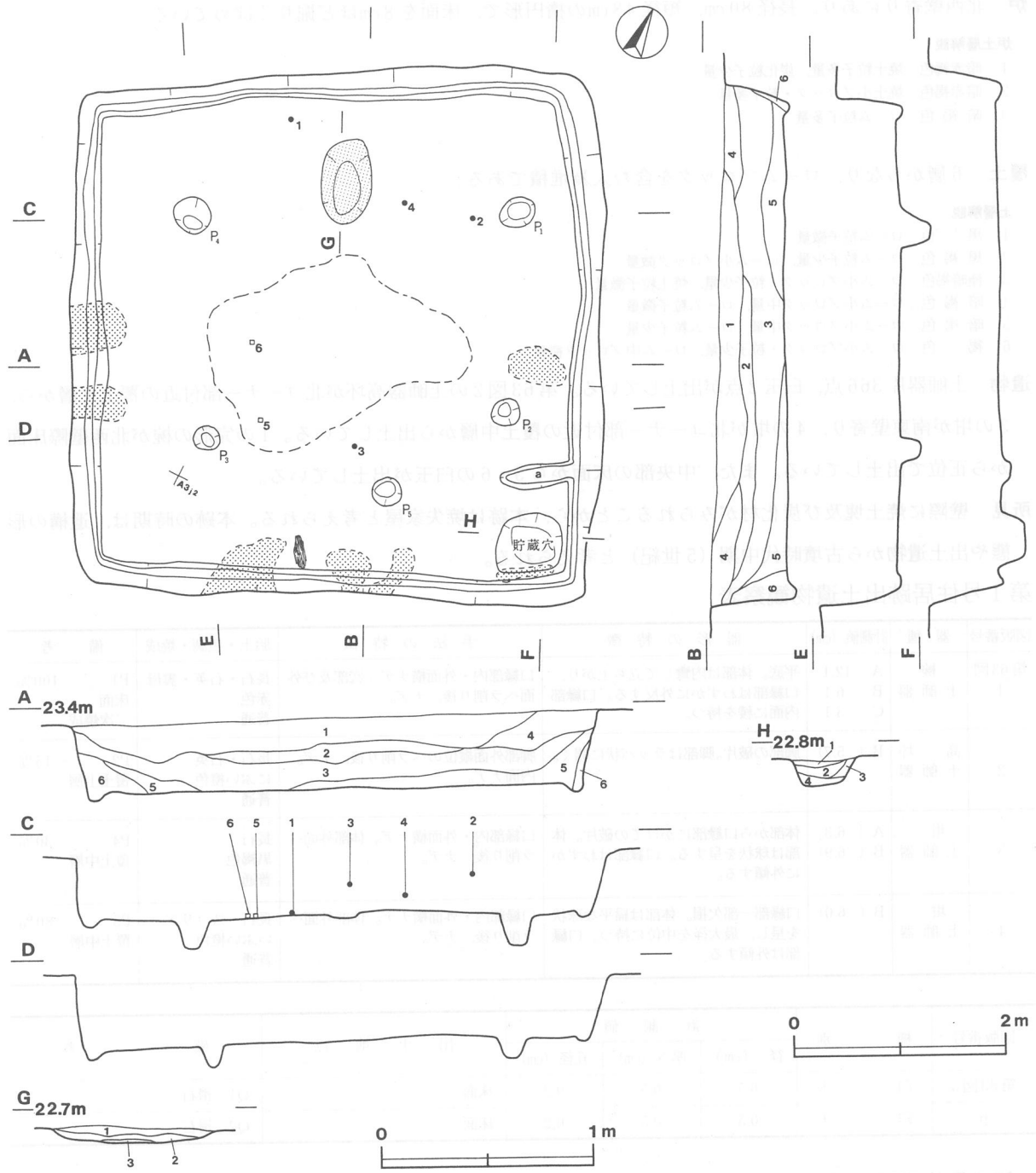
床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。北東壁下東コーナー部寄りから中央に向かって1条の溝が延びている。長さ74cm, 上幅22cm, 下幅12cm, 深さ8cmで、断面形はU字状をしている。北東・南東・南西壁際に焼土塊が、また、南東壁際に炭化材がみられる。

貯蔵穴 東コーナー部に位置し、長径62cm, 短径54cmの隅丸方形で、深さは27cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形である。

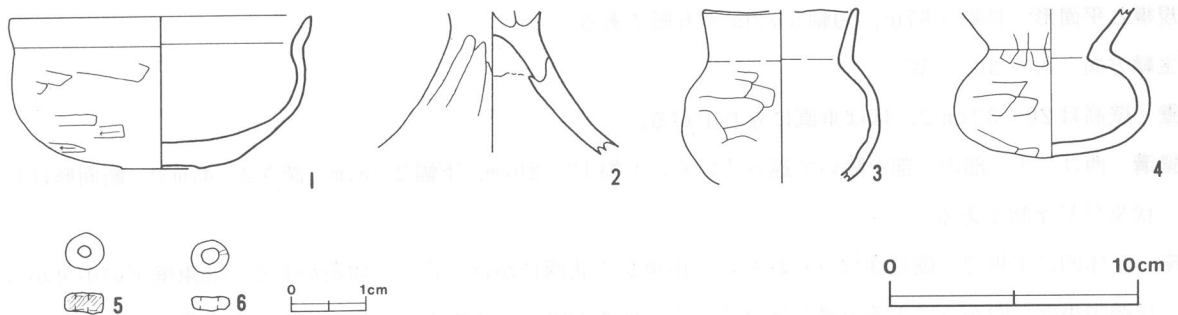
貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック少量
- 4 褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量

ピット 5か所 (P₁～P₅)。P₁～P₄は、いずれも径30cm前後の円形で、深さは22～30cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P₅は、径30cmの円形で、深さは28cmであり、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第62図 第1号住居跡実測図



第63図 第1号住居跡出土遺物実測図

炉 北西壁寄りにあり、長径 80 cm、短径 48 cmの楕円形で、床面を 8 cmほど掘りくぼめている。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・粒子多量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量

覆土 6層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量

遺物 土師器片 366 点、白玉 2 点が出土している。第 63 図 2 の土師器高坏が北コーナー部付近の覆土上層から、3 の埴が南東壁寄り、4 の埴が北コーナー部付近の覆土中層から出土している。1 の完形の椀が北西壁際床面から正位で出土している。また、中央部の床面から 5・6 の白玉が出土している。

所見 壁際に焼土塊及び炭化材がみられることから、本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5 世紀）と考えられる。

第 1 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 63 図 1	椀 土師器	A 12.1	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。底部及び外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P1 100% 床面 二次焼成
		B 6.1				
		C 3.1				
2	高坏 土師器	B (5.7)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のへラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英 いぶい橙色 普通	P2 15% 覆土上層
3	埴 土師器	A [6.3]	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石 黒褐色 普通	P4 30% 覆土中層
		B (6.9)				
4	埴 土師器	B (6.0)	口縁部一部欠損。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・スコリア いぶい橙色 普通	P5 80% 覆土中層

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第 63 図 5	白玉	0.5	0.5	0.2	床面	Q1 滑石
6	白玉	0.5	0.5	0.2	床面	Q2 滑石

第 2 号住居跡（第 64 図）

位置 調査区西部、A2j8 区。

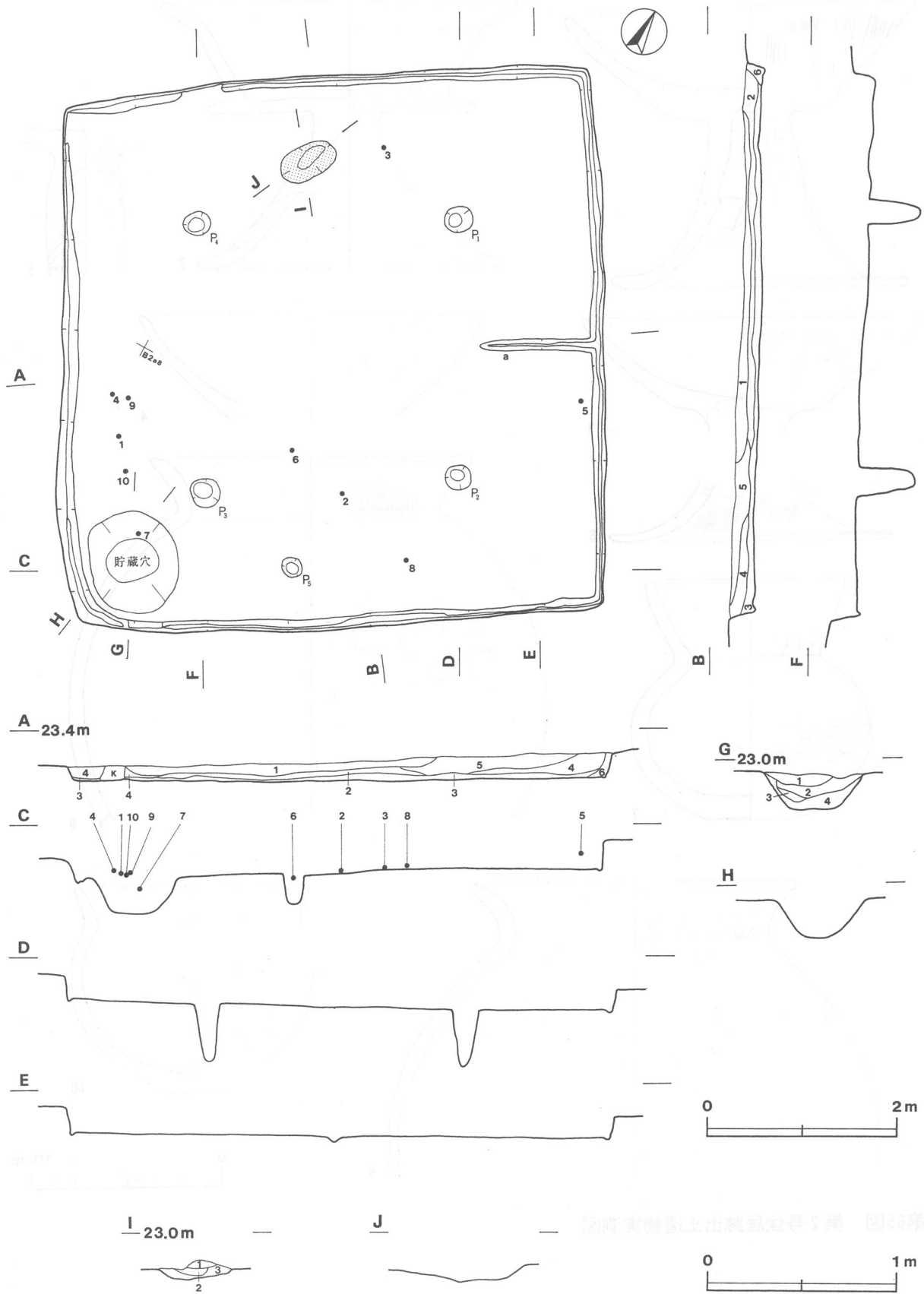
規模と平面形 長軸 5.87m、短軸 5.72m の方形である。

主軸方向 N - 30° - W

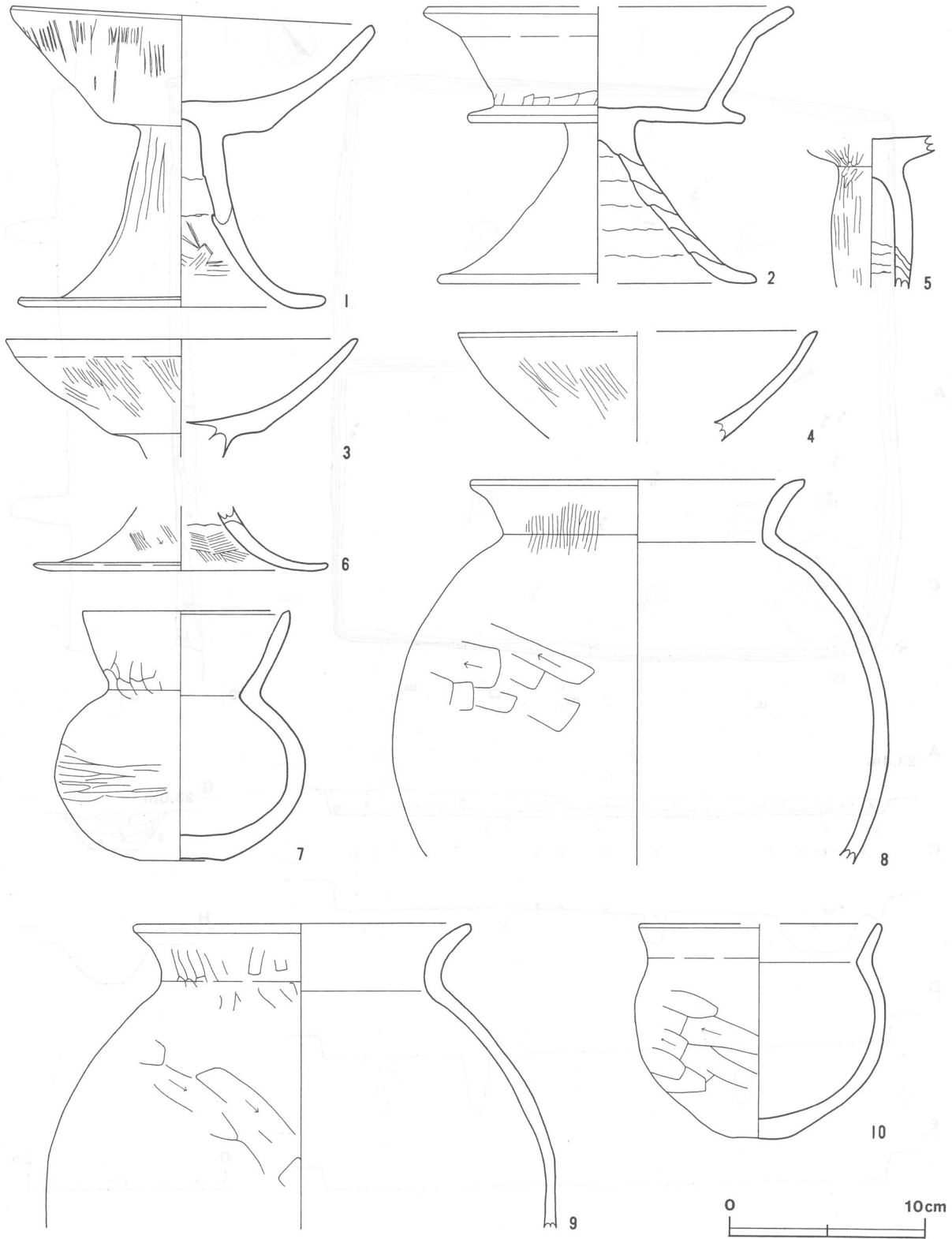
壁 壁高は 20~32 cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 西コーナー部の一部を除いて巡っている。上幅 12~20 cm、下幅 2~8 cm、深さ 2~4 cm で、断面形は U 字状及び V 字状である。

床 全体的に平坦で、硬化面はみられない。南東から北西にかけて若干の傾斜がある。北東壁下の中央から住居跡中央部に向かって 1 条の溝が延びている。長さ 128 cm、上幅 12 cm、下幅 2~6 cm、深さ 6 cm で、断面形は V 字状を呈している。



第64図 第2号住居跡実測図



第65図 第2号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、長径 110 cm、短径 94 cm の楕円形で、深さは 40 cm である。底面は平坦で、断面形は逆台形である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、いずれも径30cm前後の円形で、深さは58~64cmであり、規模と配列から支柱穴と考えられる。P₅は、径20cmの円形で、深さは34cmであり、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 北西壁寄りにあり、長径60cm、短径36cmの楕円形で、床面を12cmほど掘りくぼめている。

炉土層解説

- 1 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック中量、炭化粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子少量

覆土 6層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 6 明褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片185点が出土している。遺物は南西壁貯蔵穴寄りから多く出土している。第65図5の土師器高坏が北東壁際覆土中層から出土している。床面の遺物は、1・4の高坏及び9の甕、10の小形甕が南西壁貯蔵穴寄り、2・6の高坏及び8の甕が南東壁寄り、3の高坏が北西壁際から出土している。また、7の埴が貯蔵穴の覆土上層から斜位で出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第2号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 1	高坏土師器	A 18.6	裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。脚部外面にはほぼ相対して縦位の沈線を持つ。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内面ナデ。外面縦位のヘラナデ。脚部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P6 床面 95%
		B 15.4				
		D 9.0				
		E 15.7				
2	高坏土師器	A [19.0]	坏部及び裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。坏部下位に突帯を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ナデ。坏部下位ヘラナデ。脚部内・外面ナデ。	石英・スコリア にぶい橙色 普通	P7 床面 80%
		B 14.1				
		D [16.3]				
		E 8.3				
3	高坏土師器	A 18.0	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内面横ナデ。坏部外面ヘラナデ。	長石・スコリア 橙色 普通	P8 床面 40%
		B (5.8)				
4	高坏土師器	A [14.8]	坏部下位から口縁部にかけての破片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。坏部内・外面ヘラナデ。	雲母 にぶい橙色 普通	P9 床面 30%
		B (5.6)				
5	高坏土師器	B (7.3)	脚柱部から坏部下位の破片。脚柱部は、エンタシス状を呈する。	坏部下位から脚柱部にかけて縦位のヘラ磨き。	長石・石英 橙色 普通	P10 覆土中層 二次焼成 10%
6	高坏土師器	D 15.0	裾部の破片。裾部はなだらかに開く。	裾部内・外面ヘラナデ。	雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P11 床面 30%
		E (2.8)				
7	埴土師器	A 10.6	平底。体部はやや扁平な球状を呈し最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	頸部外面ヘラ削り後、ナデ。体部外面磨き。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P12 貯蔵穴覆土上層 二次焼成 80%
		B 12.8				
		C 4.3				

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第65図 8	甕 土師器	A 17.1 B (19.7)	底部欠損。体部は球状で最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部下位から体部上位にかけヘラナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。	雲母 にぶい橙色 普通	P13 床面 60%
9	甕 土師器	A 17.4 B (15.5)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部下位から体部上位にかけヘラ削り後、ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P14 床面 20%
10	小形甕 土師器	A [12.4] B 10.9 C 2.2	口縁部から体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P15 床面 60%

第3号住居跡 (第66図)

位置 調査区西部, B2e8区。

規模と平面形 長軸6.08m, 短軸6.02mの方形である。

主軸方向 N-27°-W

壁 壁高は55~63cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅20~32cm, 下幅2~10cm, 深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝下から住居跡中央部に向かって延びる溝5条を検出した。北東壁下北寄りから1条(a), 南東壁下から2条(b・c), 南西壁下から2条(d・e)の溝がそれぞれ中央部に向かっている。長さ82~142cm, 上幅18~22cm, 下幅6~10cm, 深さ14cmで、断面形はU字状である。溝dとeは、南西側の床面をほぼ均等に三つに分け、また、dを延長した位置にaがある。aは支柱穴と考えられるP1, cは補助柱穴と考えられるP5につながっている。北東・南東・南西壁寄りに焼土塊が、また、北東・南コーナー部・南西寄りに炭化材がみられる。

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、径100cmの円形で、深さは55cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 2 明褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

ピット 6か所(P1~P6)。P1は、長径62cm, 短径38cmの楕円形で、下位に段を持つ。深さは底部までが71cm, 段までが57cmである。位置から、底部までの部分が支柱穴、段の部分が補助柱穴、あるいは溝aに伴うピットとも考えられる。P2~P6は径22~34cmの円形で、深さはP2~P4が58~64cmであり、P5が32cm, P6が38cmである。配列から、P2~P4は支柱穴、P5は位置から出入り口施設に伴うピット、P6は補助柱穴と考えられる。

炉 北西壁寄りにあり、長径60cm, 短径36cmの楕円形で、床面を12cm掘りくぼめている。

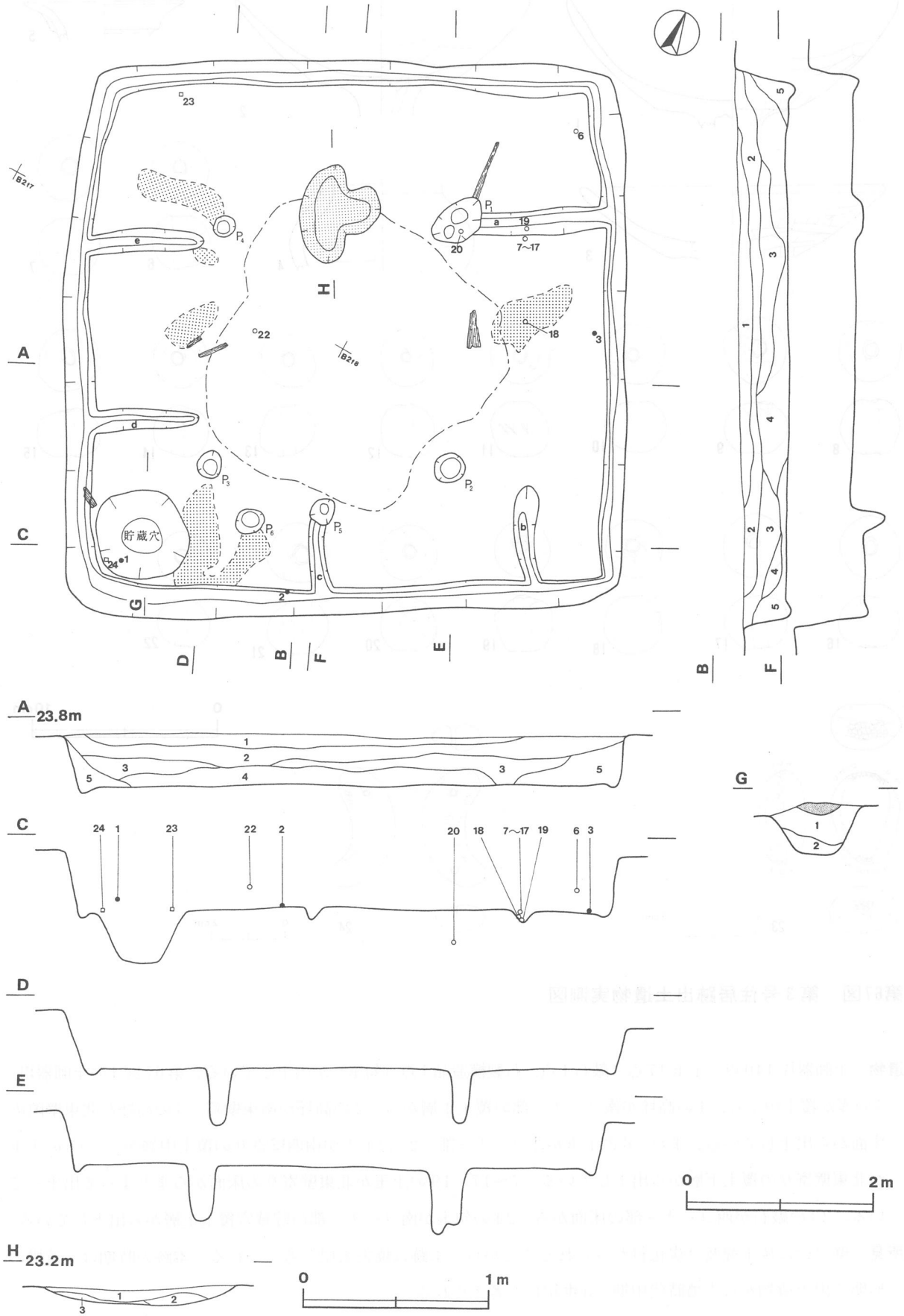
炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量
- 2 赤褐色 焼土中ブロック多量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

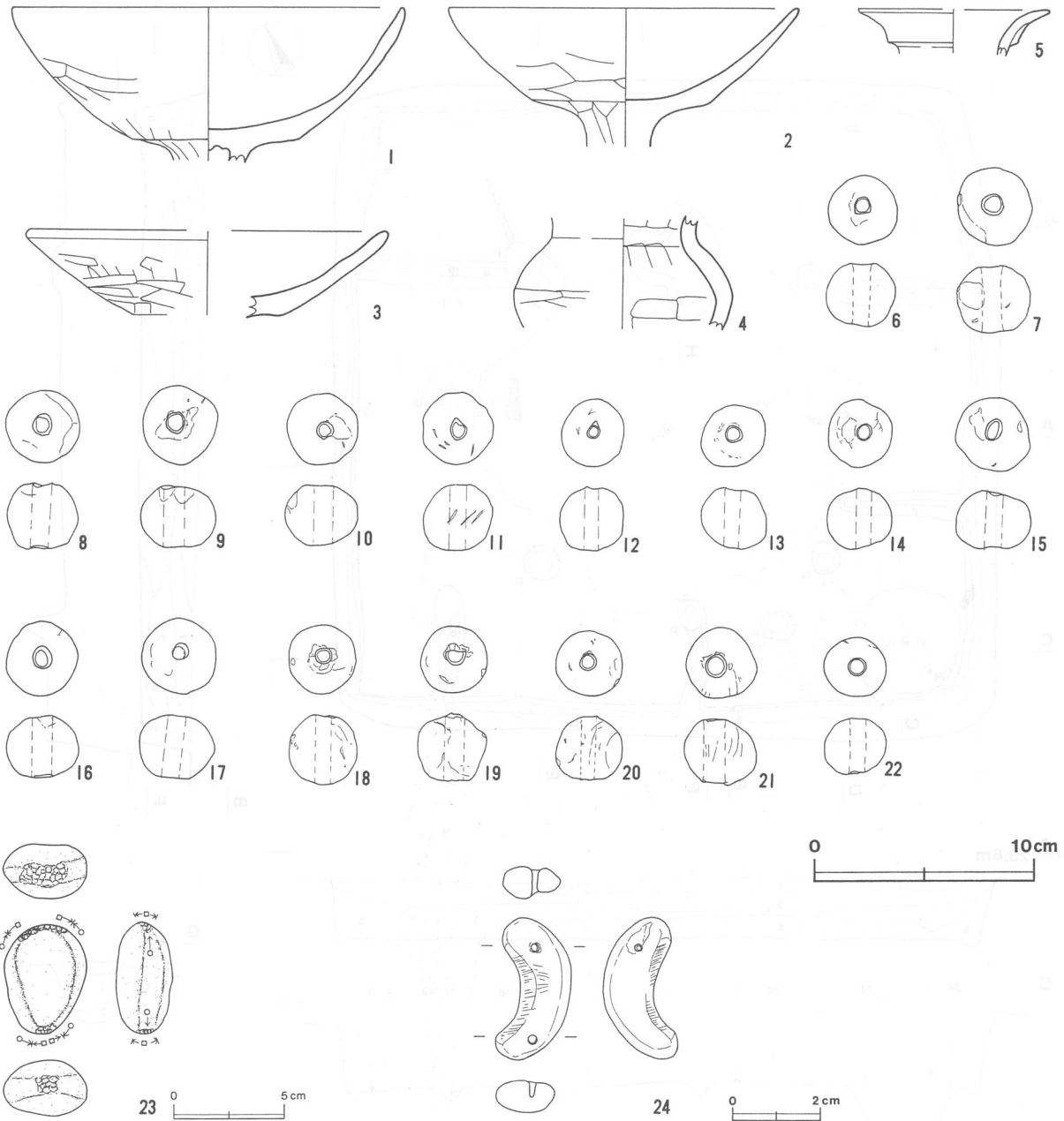
覆土 5層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 極暗褐色 炭化粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック多量, 焼土粒子・ローム粒子少量
- 5 極暗褐色 炭化物中量, ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量



第66図 第3号住居跡実測図



第67図 第3号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片440点，土玉17点，敲石1点，石製模造品1点（勾玉）が出土している。第67図4の土師器埴，5の壺が覆土中から，1の高坏が南コーナー部の覆土下層から，2の高坏が南東壁際，3の高坏が北東壁際の床面から出土している。また，6の土玉が北コーナー部，22の土玉が南西壁寄りの覆土中層から，18の土玉が北東壁寄りの覆土下層から出土している。7～17，19の土玉が北東壁寄りの床面からまともって出土している。23の敲石が西コーナー部の床面から，24の勾玉が南コーナー部の貯蔵穴覆土上層から出土している。

所見 壁付近に焼土塊及び炭化材がみられることから，本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第3号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第67図 1	高坏土師器	A 17.9 B (7.0)	脚部欠損。坏部は内彎して口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P16 50% 覆土下層
2	高坏土師器	A 16.0 B (6.3)	脚部欠損。坏部は内彎して口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。	長石 にぶい黄橙色 普通	P17 45% 床面 二次焼成
3	高坏土師器	A [6.5] B (3.9)	脚部欠損。坏部は内彎して口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P18 45% 床面
4	埴土師器	B 5.2	体部中位から頸部にかけての破片。体部は扁平な球状で、最大径を中位に持つ。	体部外面へラ削り後ナデ。頸部・体部内面へラナデ。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P19 25% 覆土中
5	壺土師器	A [8.8] B (2.0)	口縁部の破片。口縁部は外反する。有段口縁。	口縁部内・外面横ナデ。	雲母 黒褐色 普通	P20 20% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第67図6	土玉	3.2	2.8	0.8	27.6	覆土中層	DP2
7	土玉	3.4	3.1	1.0	30.7	床面	DP3
8	土玉	3.4	3.0	0.8	28.1	床面	DP4
9	土玉	3.4	2.8	1.0	27.4	床面	DP5
10	土玉	3.3	2.7	0.9	25.7	床面	DP6
11	土玉	3.3	2.9	0.8	24.0	床面	DP7
12	土玉	2.9	2.9	0.7	22.6	床面	DP8
13	土玉	3.0	2.8	0.7	20.7	床面	DP9
14	土玉	2.9	2.8	0.7	22.0	床面	DP10
15	土玉	3.5	2.6	0.7	26.4	床面	DP11
16	土玉	3.2	2.8	0.9	25.5	床面	DP12
17	土玉	3.4	2.9	0.7	28.7	床面	DP13
18	土玉	3.1	3.1	0.9	26.4	覆土下層	DP14
19	土玉	3.1	3.2	0.7	29.3	床面	DP15
20	土玉	3.1	2.9	0.7	24.0	床面	DP16
21	土玉	3.3	3.0	1.0	25.8	床面	DP17
22	土玉	2.9	2.6	0.8	16.9	覆土中層	DP18

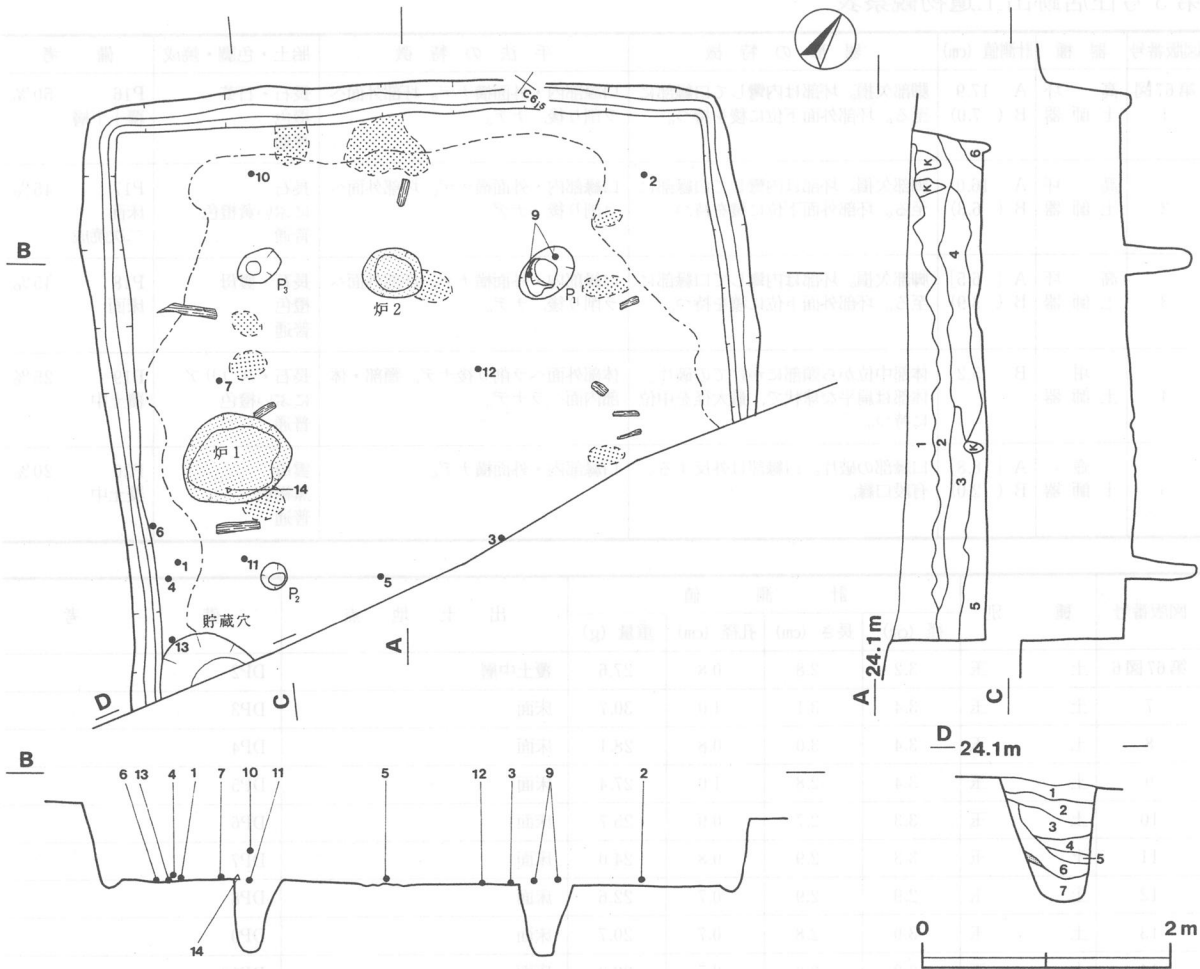
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第67図23	敲石	5.1	3.75	2.5	3.1	床面	Q3 チャート

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第67図24	勾玉	3.2	1.7	0.8	0.2	5.9	貯蔵穴覆土上層	Q4 滑石

第4号住居跡 (第68図)

位置 調査区西部, D6a5区。

規模と平面形 南東部が調査区域外にかかり、正確な規模と平面形は不明であるが、一辺5.32mほどの方形であると思われる。



第68図 第4号住居跡実測図

主軸方向 N-42°-E

壁 壁高は60~65cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 本跡を検出した範囲においては巡っている。上幅16~32cm、下幅4~10cm、深さ6~8cmで、断面形はU字状及びV字状である。

床 全体的に平坦で、壁際を除いて踏み固められている。北東・北西・南西壁寄りに焼土塊及び炭化材がみられる。

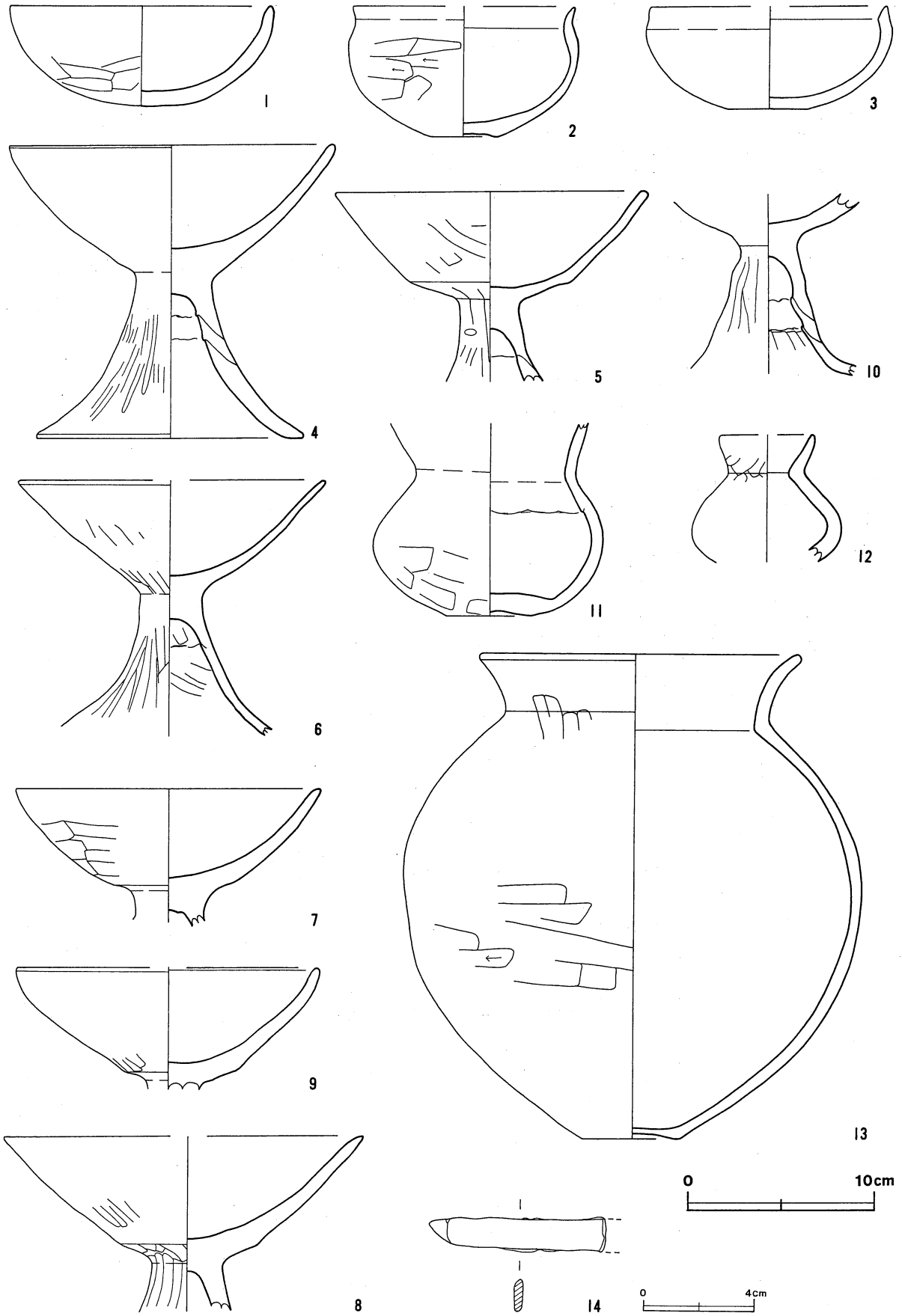
貯蔵穴 南コーナー部に位置し、調査区域外にかかるため正確な規模と平面形は不明であるが、径80cmほどの円形か楕円形と思われる。深さは100cmである。底面はほぼ平坦で、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック少量、炭化物・粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化物・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 炭化粒子多量、炭化物・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、炭化物微量
- 6 黒色 炭化粒子・ローム粒子少量、炭化物微量
- 7 極暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量、炭化物微量

ピット 3か所 (P1~P3)。長径24~50cm、短径20~34cm、深さ52~58cmの楕円形で、規模と配置から、いずれも支柱穴と考えられる。

炉 2か所。炉1は、南西壁際にあり、長径88cm、短径74cmの楕円形で、床面を4cm掘りくぼめている。炉2は、北西壁寄りの、P1とP3を結んだ直線上にあり、長径48cm、短径40cmの楕円形で、ほとんど掘りくぼめ



第69図 第4号住居跡出土遺物実測図

ていない。いずれも炉床は赤変硬化している。

覆土 6層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 赤褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土大ブロック・炭化粒子微量
- 5 極暗褐色 焼土粒子・ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物 土師器片 159点, 刀子1点が出土している。遺物は貯蔵穴付近から多く出土している。第69図1の坏, 4・6の高坏, 11の埴, 13の甕が南コーナー部の貯蔵穴周辺, 3の坏, 5の高坏, 12の埴が中央部, 7の高坏が南西壁際, 10の高坏が西コーナー部覆土下層から, 2の椀, 9の高坏が北コーナー部の床面から出土している。また, 14の刀子が炉1の炉床面から出土している。

所見 壁付近に焼土塊及び炭化材がみられることから, 本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第69図 1	坏 土師器	A 14.3 B 5.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後, ナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P22 95% 床面 二次焼成
2	椀 土師器	A [12.0] B 7.0 C 3.5	体部中位から口縁部一部破損。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部内面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後, ナデ。	長石・雲母にぶい橙色普通	P23 75% 床面 二次焼成
3	坏 土師器	A [12.7] B 5.5 C 4.3	底部から口縁部にかけて半分欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は内そぎ状でやや内傾する。	口縁部外面横ナデ。その他, 器面剝離のため調整法不明。	長石にぶい橙色普通	P24 45% 床面 二次焼成
4	高坏 土師器	A 17.7 B 15.8 D 14.5 E 8.5	脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部外面横ナデ。脚部外面縦位のヘラ磨き。坏部内面剝離。	長石・雲母 橙色 普通	P25 100% 床面 二次焼成
5	高坏 土師器	A 11.9 B (10.2) E (4.4)	裾部欠損。脚柱部はほぼ直立する。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後, ナデ。脚柱部外面ヘラナデ。坏部内面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P26 50% 床面 二次焼成
6	高坏 土師器	A [16.5] B (13.7) E (7.4)	坏部・裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後, ナデ。脚部内面・脚柱部外面ヘラナデ。坏部内面剝離。	雲母・石英・長石 にぶい橙色 普通	P27 75% 床面 二次焼成
7	高坏 土師器	A 16.4 B (7.4)	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上り, 口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後, ナデ。	長石 褐色 普通	P28 50% 床面 二次焼成
8	高坏 土師器	A [9.3] B (8.8) E (2.0)	裾部欠損。脚柱部はラッパ状を呈すると思われる。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後, ナデ。脚柱部外面ヘラナデ。坏部内面剝離。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P29 20% 覆土中 二次焼成
9	高坏 土師器	A [16.4] B (6.6)	坏部の破片。口縁部一部欠損。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後, ナデ。坏部内面剝離。	石英・長石 黄橙色 普通	P30 40% 床面 二次焼成
10	高坏 土師器	A (9.6) E (6.9)	脚部から坏部下位にかけての破片。裾部先端が欠損しているが, 脚部はラッパ状に開くと思われる。	脚柱部内・外面ヘラナデ。	雲母 にぶい橙色 普通	P31 15% 覆土下層
11	埴 土師器	B (10.4) C 4.9	口縁部一部欠損。平底。体部はやや扁平な球状を呈し, 最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後, ナデ。	石英・長石・雲母 にぶい橙色 普通	P33 80% 床面 二次焼成

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第69図 12	埴 土師器	A [4.9] B (6.9)	体部中位から口縁部にかけての破片。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面下位から頸部外面にかけてヘラ削り後、ナデ。	雲母・長石 褐色 普通	P34 30% 床面
13	甕 土師器	A 17.5 B 26.1 C 5.3	体部一部欠損。平底。体部は球状で最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面ヘラ削り後、ナデ。	石英・長石・雲母 橙色 普通	P35 70% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第69図14	刀子	(6.4)	1.2	0.3	(6.8)	炉床面	M1

第5号住居跡 (第70図)

位置 調査区西部, D6e2区。

規模と平面形 長軸5.05m, 短軸5.00mの方形である。

主軸方向 N-41°-W

壁 壁高は52~60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 調査区域外にかかる東コーナー部と南東壁を除いて巡っている。上幅22~36cm, 下幅6~18cm, 深さ6~9cmで、断面形はU字状である。

床 出入り口施設に伴うピット (P5) のまわりに、長軸140cm, 短軸58cmの不定形で、高さ8cmほどの踏み固められた高まりがみられる。そのほかは平坦である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、径70cmほどの円形で、深さは45cmである。底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子多量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 粘土小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子微量

ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P3・P5・P6は径20~30cmの円形で、深さ13~60cmであり、P4は長径32cm, 短径22cm, 深さ25cmの楕円形である。配列から、P1~P4は主柱穴、P5は位置から出入り口施設に伴うピット、P6は補助柱穴と考えられる。

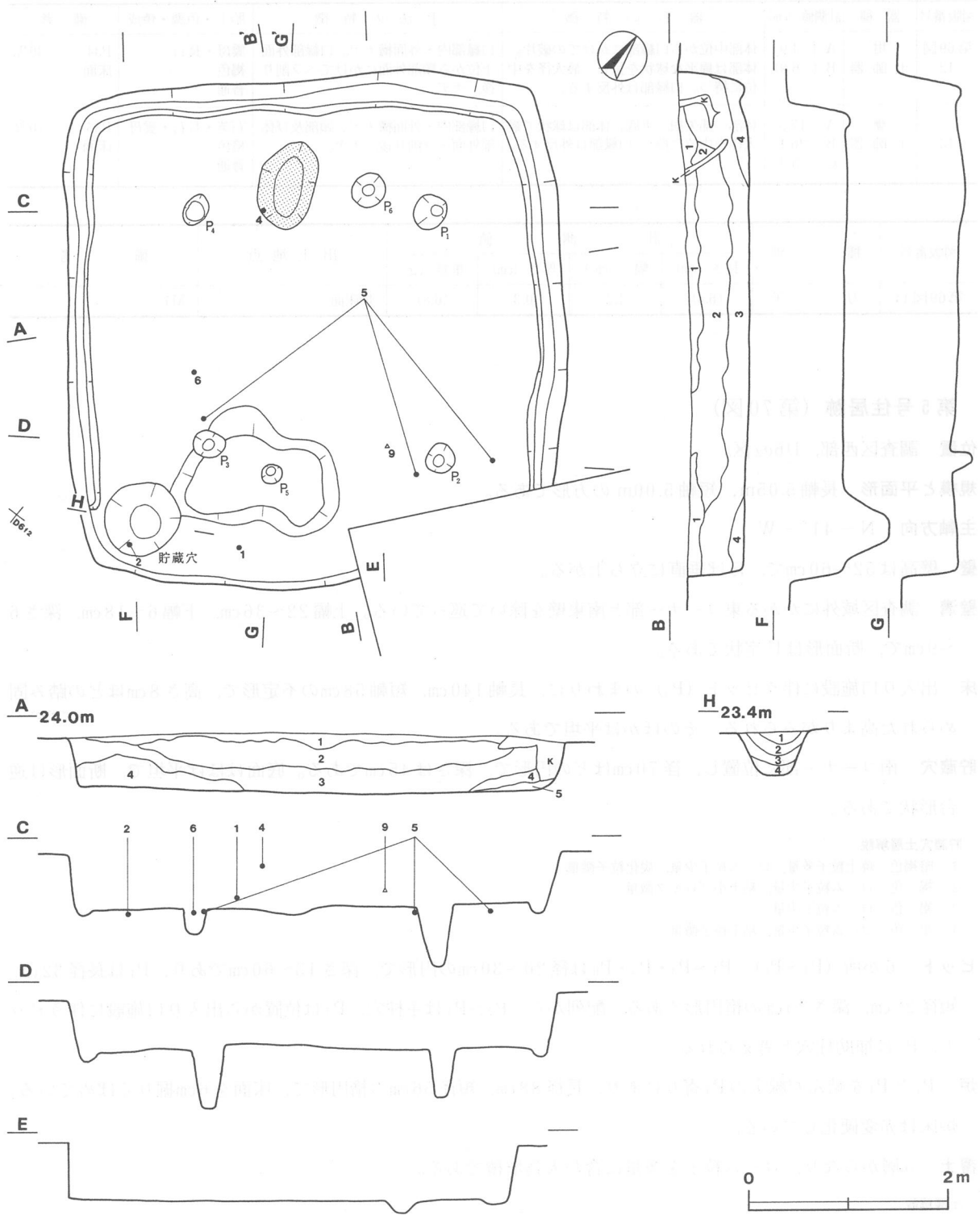
炉 P1とP4を結んだ線上のP4寄りにあり、長径88cm, 短径56cmの楕円形で、床面を6cm掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

覆土 5層からなり、ローム粒子を多量に含む人為堆積である。

土層解説

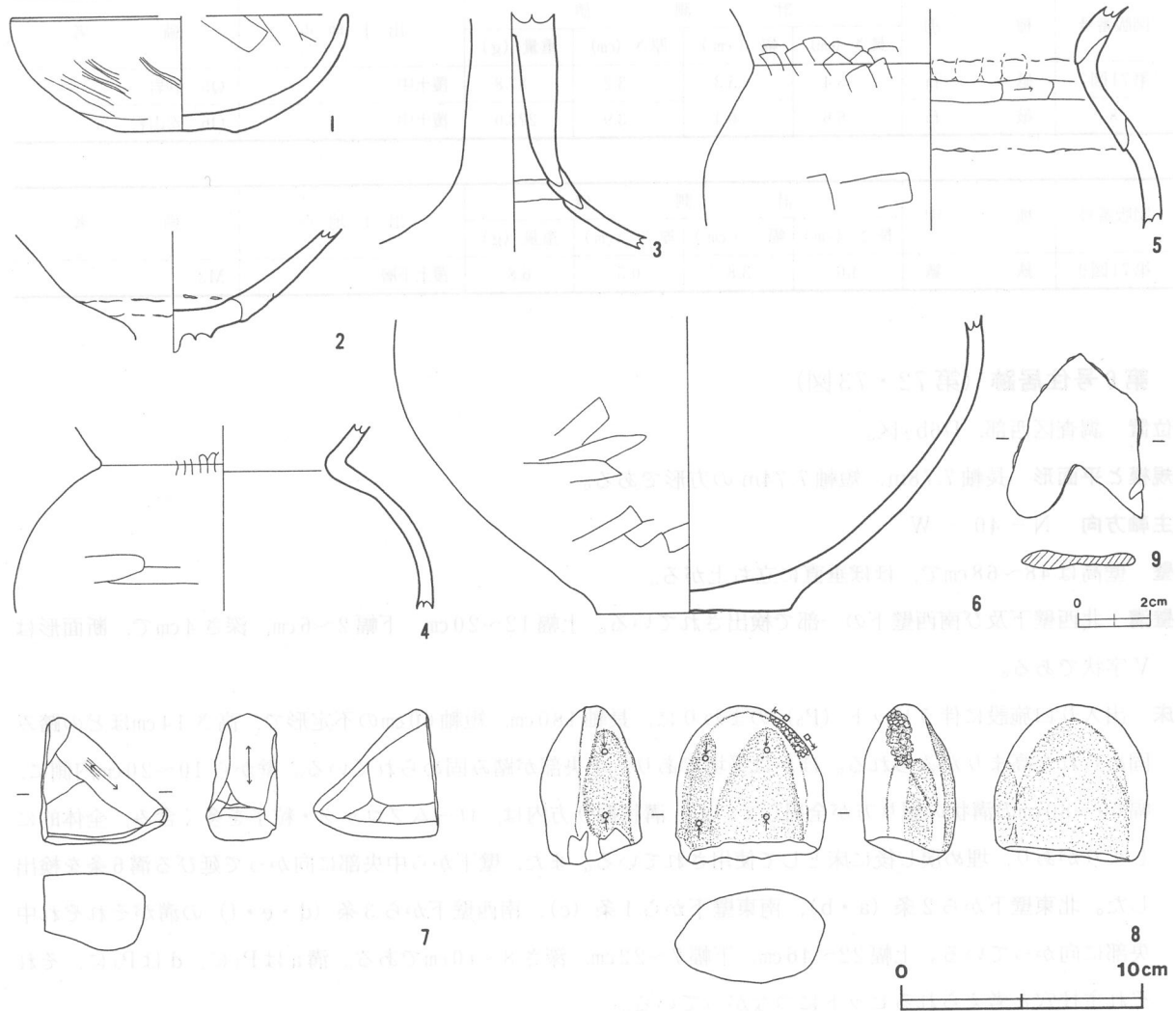
- 1 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 4 褐色 焼土粒子多量, ローム小ブロック・粒子中量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・粒子微量

遺物 土師器片676点, 砥石1点, 敲石1点, 鉄鏃1点が出土している。第71図4の土師器埴が北西壁寄りの覆土上層から、1の坏が南東壁際の覆土下層から、2の高坏が南コーナー部の貯蔵穴覆土上層から、5の甕が東コーナー部及び南西壁寄り、6の甕が南西壁寄りの床面から出土している。また、7の砥石、8の敲石が覆土中から、9の鉄鏃が南東壁寄りの覆土下層から出土している。



第70図 第5号住居跡実測図

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。



第71図 第5号住居跡出土遺物実測図

第5号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第71図 1	坏 土師器	A [14.2] B 4.8 C 4.7	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内面ヘラナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後、ヘラナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P36 50% 覆土下層
2	高坏 土師器	B (3.9)	坏部下位から中位にかけての破片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内面ヘラナデ。外面ヘラ削り後、ナデ。坏部外面下位に輪積痕を残す。	長石・雲母 黒褐色 普通	P37 20% 貯蔵穴覆土上層
3	高坏 土師器	E (9.8)	脚部片。脚柱部は円柱状を呈し、裾部はなだらかに開く。	器面剝離のため調整法不明。外面剝離。	長石・石英 明赤褐色 普通	P38 25% 覆土中 二次焼成
4	埴 土師器	B (7.7)	体部中位から頸部にかけての破片。体部は球状を呈し、口縁部は外反する。	頸部及び体部ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P39 15% 覆土上層
5	甕 土師器	B (10.2)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。頸部内面に指頭圧痕を残す。体部外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P40 20% 床面
6	甕 土師器	B (12.4) C 8.1	底部から体部中位にかけての破片。底部は突出した平底。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P41 25% 床面 二次焼成

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第71図7	砥 石	5.4	5.3	3.2	87.8	覆土中	Q5 砂岩
8	敲 石	6.6	6.4	3.9	223.0	覆土中	Q6 安山岩

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第71図9	鉄 鏃	4.6	3.8	0.5	6.8	覆土下層	M2

第6号住居跡 (第72・73図)

位置 調査区西部, D6b₂区。

規模と平面形 長軸7.78m, 短軸7.74mの方形である。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は48~68cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北西壁下及び南西壁下の一部で検出されている。上幅12~20cm, 下幅2~6cm, 深さ4cmで, 断面形はV字状である。

床 出入口施設に伴うピット(P₅)のまわりに, 長軸180cm, 短軸60cmの不定形で, 高さ14cmほどの踏み固められた高まりがみられる。ほかは平坦であり, 中央部が踏み固められている。壁から10~20cm内側に, 幅60~80cmの溝状の掘り方が全周している。溝状掘り方内は, ロームブロック・粒子を多く含み, 全体的にしまりがあり, 埋め戻し後に床として使用されている。また, 壁下から中央部に向かって延びる溝6条を検出した。北東壁下から2条(a・b), 南東壁下から1条(c), 南西壁下から3条(d・e・f)の溝がそれぞれ中央部に向かっていて。上幅22~46cm, 下幅7~22cm, 深さ8~10cmである。溝aはP₁に, dはP₃に, それぞれ支柱穴と考えられるピットにつながっている。

溝状掘り方土層解説

L-L'

- 1 褐色 ローム中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム中・小ブロック・粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 炭化粒子微量

M-M'

- 1 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 炭化粒子・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量

O-O'

- 1 褐色 ローム中・小ブロック・粒子中量
- 2 褐色 ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 3 褐色 ローム大ブロック多量
- 4 褐色 炭化物・ローム中ブロック・粒子微量
- 5 褐色 ローム中・小ブロック中量, ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム中ブロック多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量

N-N'

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム中・小ブロック・粒子多量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム大ブロック少量

貯蔵穴 南コーナー部に位置し, 長径98cm, 短径78cmの楕円形で, 深さは41cmである。底面はほぼ平坦で, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 炭化物微量
- 4 褐色 ローム小ブロック多量

ピット 7か所 (P₁~P₇)。P₁~P₄は径36~40cmの円形、深さ71~88cm、P₅は径22cmの円形、深さ25cm、P₆・P₇は長径80cm、短径70cmの楕円形、深さ23~27cmである。規模と配置からP₁~P₄は支柱穴、P₅は位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₆・P₇は掘り方の調査中に検出されており、その性格は不明である。

炉 2か所。炉1はP₁とP₄を結んだ線の外側でP₄寄りにある。炉2はP₁とP₄を結んだ線の外側でP₁寄りにある。炉1は長径62cm、短径40cmの楕円形で、床面を3cm掘りくぼめている。炉2は長径66cm、短径46cmの楕円形で、床面を5cm掘りくぼめている。ともに炉床は赤変硬化している。

覆土 7層からなり、ローム粒子を含む人為堆積である。

土層解説

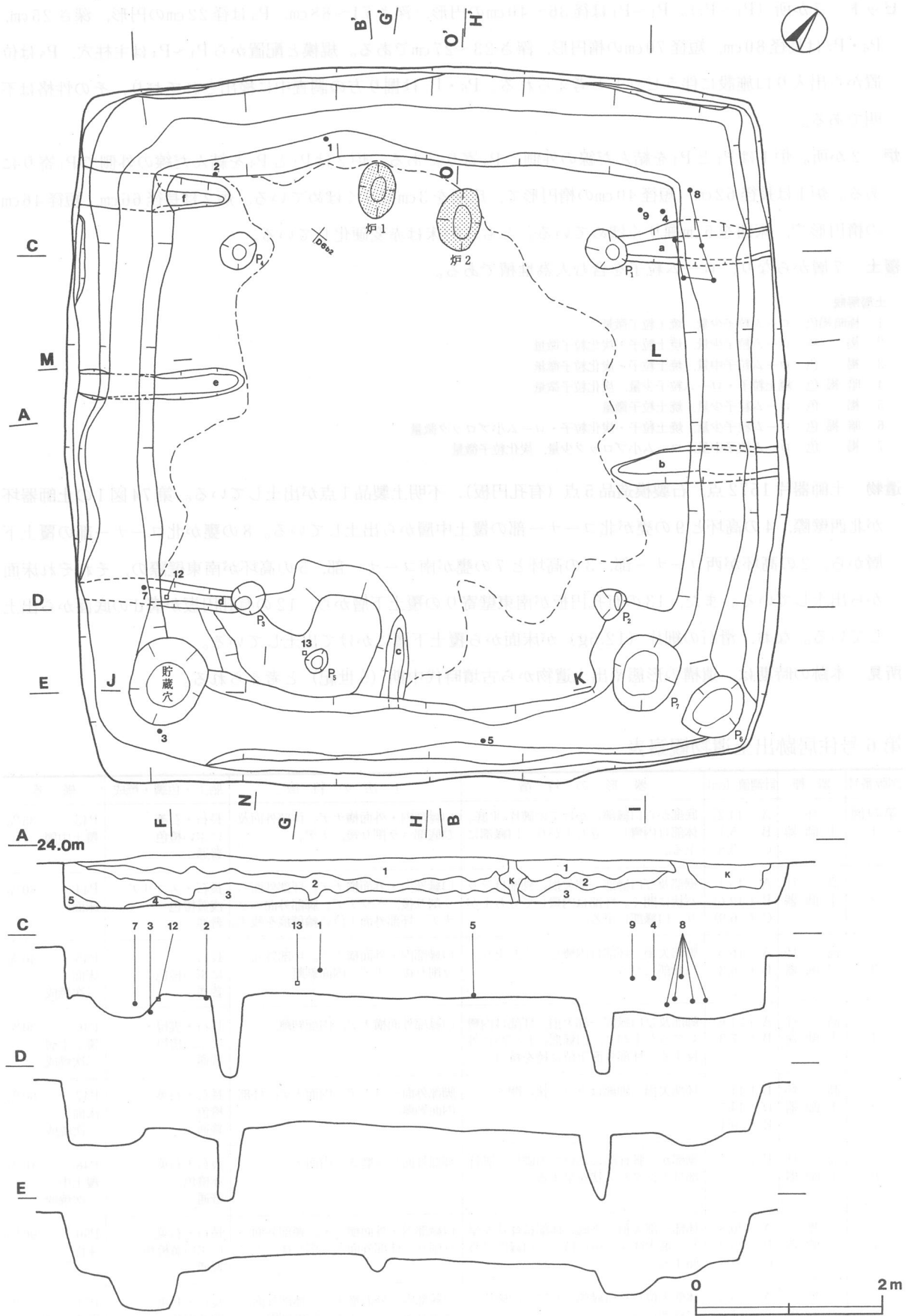
- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片1572点, 石製模造品5点(有孔円板), 不明土製品1点が出土している。第74図1の土師器坏が北西壁際, 4の高坏と9の甕が北コーナー部の覆土中層から出土している。8の甕が北コーナー部の覆土下層から, 2の高坏が西コーナー部, 3の高坏と7の甕が南コーナー部, 5の高坏が南東壁際の, それぞれ床面から出土している。また, 13の有孔円板が南東壁寄りの覆土下層から, 12の有孔円板が溝dの底面から出土している。なお, 滑石の細片(12.5g)が床面から覆土下層にかけて出土している。

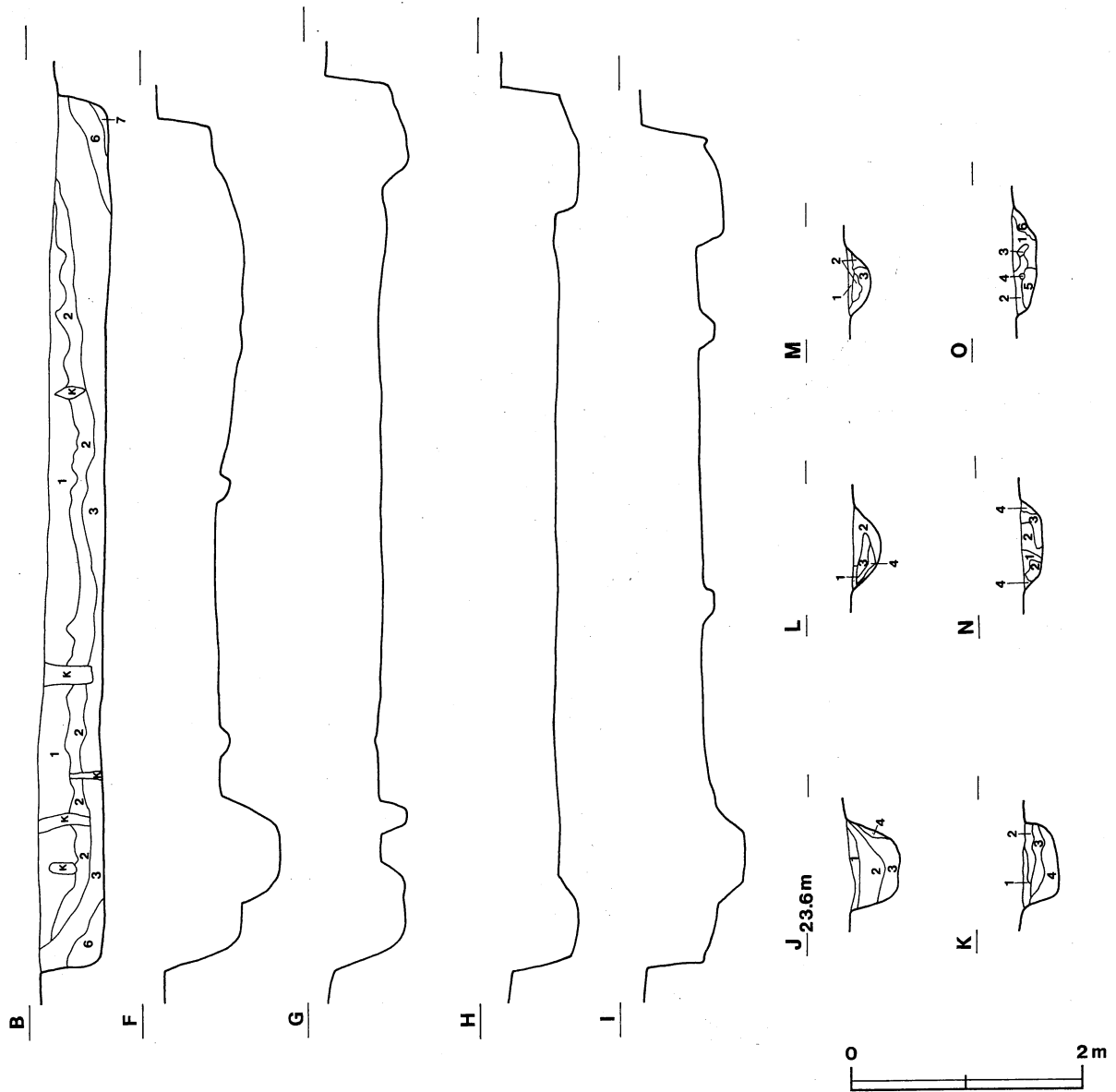
所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第6号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第74図 1	坏 土師器	A [14.2] B 5.1 C 3.8	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後, ナデ。	長石・石英 にぶい 橙色 普通	P43 35% 覆土中層
2	高坏 土師器	A 15.1 B (12.6) C (6.9)	裾部及び口縁部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後, ヘラナデ。脚部外面ヘラナデ。坏部外面下位に輪積痕を残す。	長石・スコリア 浅黄橙色 普通	P44 80% 床面
3	高坏 土師器	A 16.5 B (6.3)	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後, ナデ。内面剝離。	長石 にぶい 橙色 普通	P45 40% 床面 二次焼成
4	高坏 土師器	A [21.6] B (7.3)	脚部及び口縁部一部欠損。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部外面横ナデ。内面剝離。	長石・雲母 にぶい 橙色 普通	P46 30% 覆土中層 二次焼成
5	高坏 土師器	B (11.2) D 14.7 E 9.1	坏部欠損。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラナデ。内面ナデ。坏部内面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P47 60% 床面 二次焼成
6	高坏 土師器	B (5.4)	裾部から脚柱部にかけての破片。脚柱部はエンタシス状を呈する。	脚部外面ヘラ磨き。内面ナデ。	長石・石英 赤橙色 普通	P48 10% 覆土中 二次焼成
7	甕 土師器	A 20.8 B 25.3 C 5.6	体部一部欠損。平底。体部は球状を呈し, 最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面ヘラ削り。体部外面ヘラ削り後, ナデ	長石・石英。 にぶい 黄橙色 普通	P50 90% 床面
8	甕 土師器	A 23.3 B (11.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後, ヘラナデ。内面剝離。	長石・石英 明黄橙色 普通	P51 35% 覆土下層 二次焼成



第72図 第6号住居跡実測図(1)

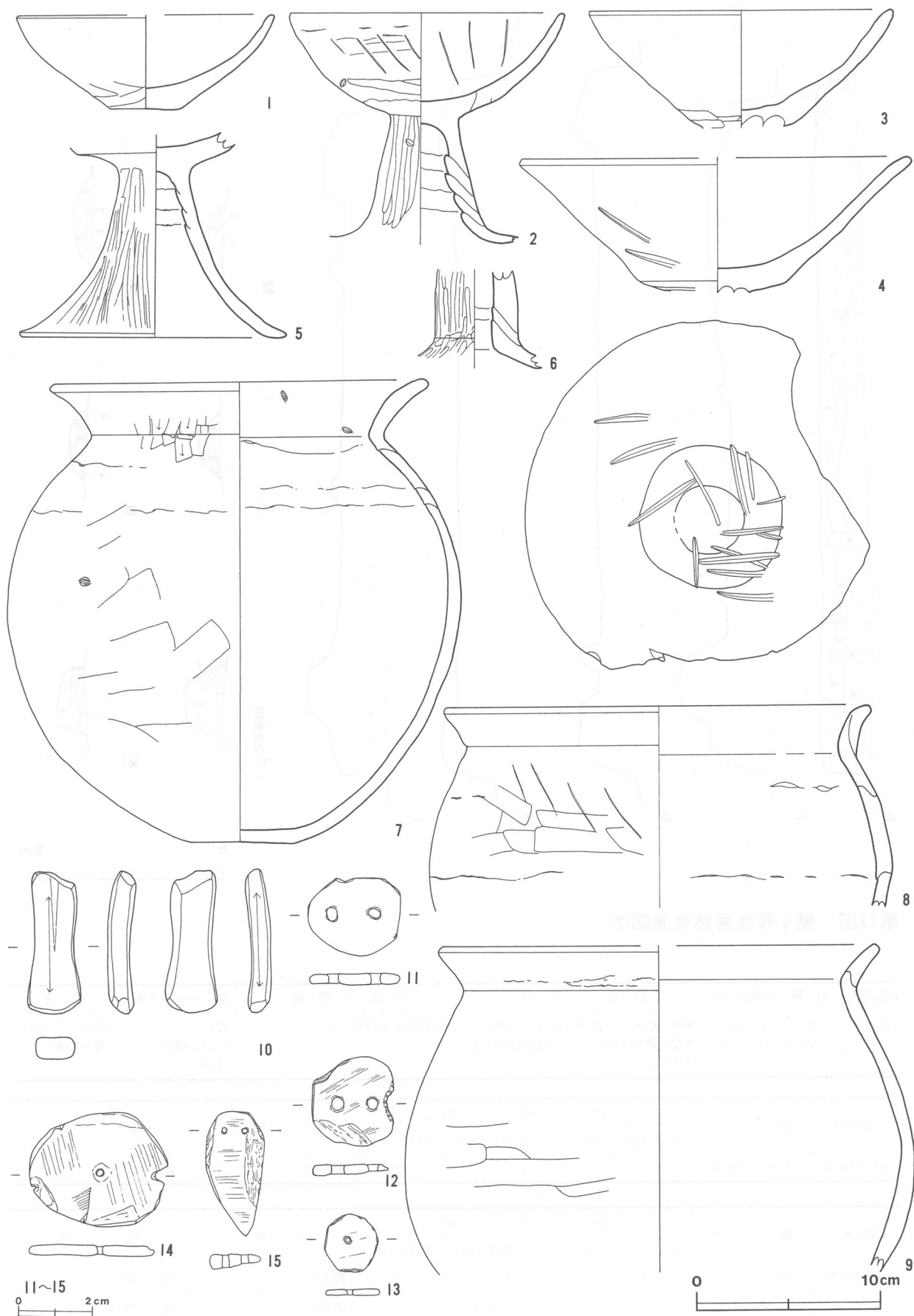


第73図 第6号住居跡実測図(2)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第74図 9	甕 土師器	A [23.5] B (17.8)	体部上位から口縁部にかけての破片。 体部は球状を呈する。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石 にふい 橙色 普通	P52 15% 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第74図10	不明土製品	7.7	1.4	1.2	30.3	覆土中	DP20

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第74図11	有孔円板	2.5	0.3	0.3	2.8	覆土中	Q7 滑石
12	有孔円板	2.4	0.3	0.3	2.6	溝底面	Q8 滑石
13	有孔円板	1.6	0.2	0.2	1.3	覆土下層	Q12 滑石
14	有孔円板	3.8	0.3	0.2	7.4	覆土中	Q13 滑石



第74図 第6号住居跡出土遺物実測図

図版番号	種 別	計 測 値					出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第74図15	剣形品	3.4	1.6	0.4	0.15	3.2	覆土中	Q9 滑石

第8号住居跡 (第75・76図)

位置 調査区西部, E3a0区。

規模と平面形 長軸7.14m, 短軸7.12mの方形である。

主軸方向 N-18°-E

壁 壁高は59~82cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部を除いて巡っている。上幅24~52cm, 下幅4~16cm, 深さ10~12cmで, 断面形はU字状である。

床 貯蔵穴のまわりに長軸196cm, 短軸86cmの不定形で, 高さ6cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で, 中央部付近が踏み固められている。壁溝から中央部に向かって延びる溝7条を検出した。東壁下から1条(a), 南壁下から5条(b・c・d・e・f), 北壁下から1条(g)の溝がそれぞれ中央部に向かっていく。長さ110~200cm, 上幅20~28cm, 下幅4~14cm, 深さ7~16cmで, 断面形はU字状である。溝aは支柱穴と考えられるP₁につながっている。壁際に焼土塊及び炭化物がみられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置し, 径92cmの円形で, 深さは62cmである。底面は平坦で, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム小ブロック多量, 炭化粒子・ローム粒子少量

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁~P₄は径24~42cmの円形, 深さ77~80cmであり, 規模と配置から支柱穴, P₅は径24cmの円形, 深さ22cmであり, 位置から補助柱穴と考えられる。

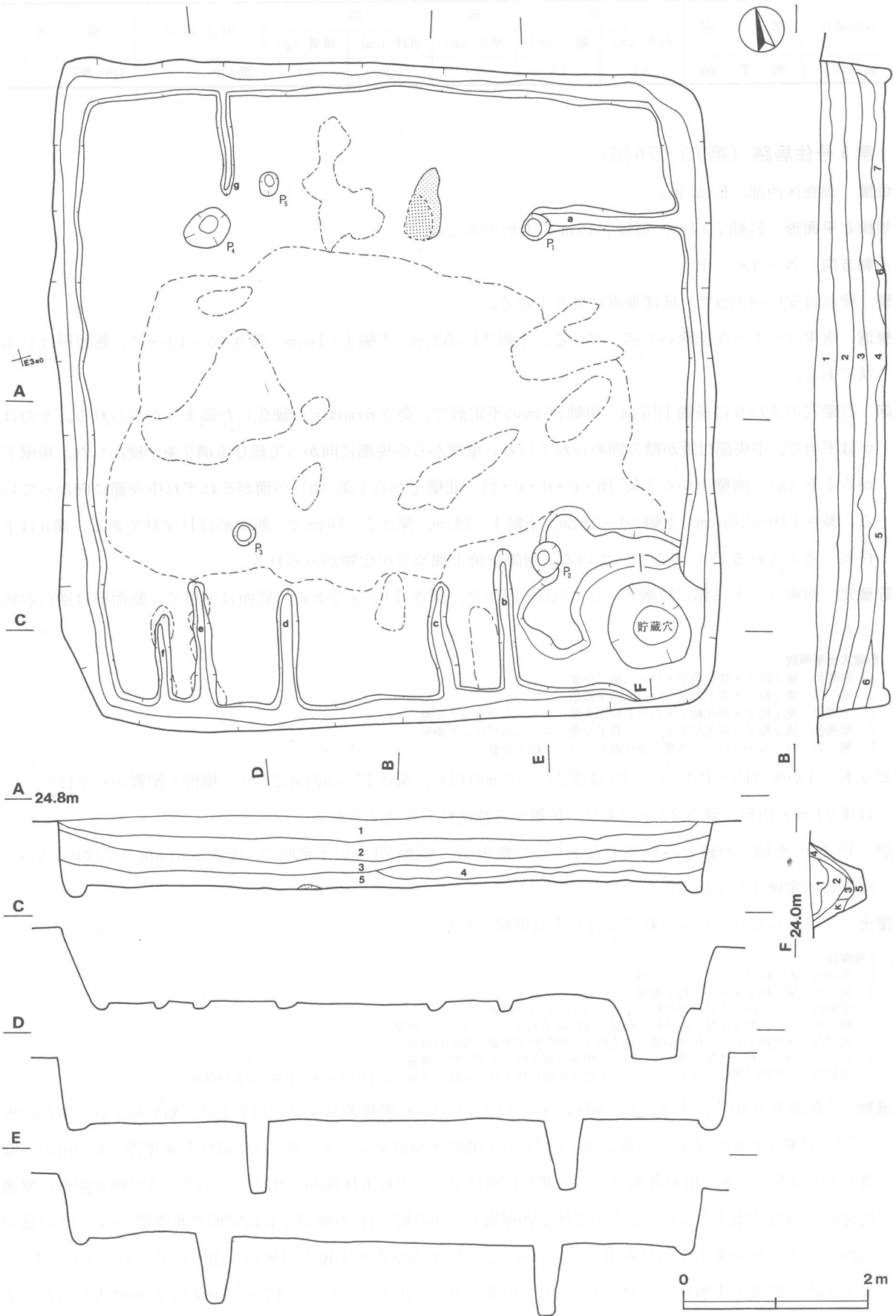
炉 P₁とP₄を結んだ線上のP₁寄りにあり, 長軸80cm, 短軸24cmの不定形で, 床面を6cm掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

覆土 7層からなり, ローム粒子を含む人為堆積である。

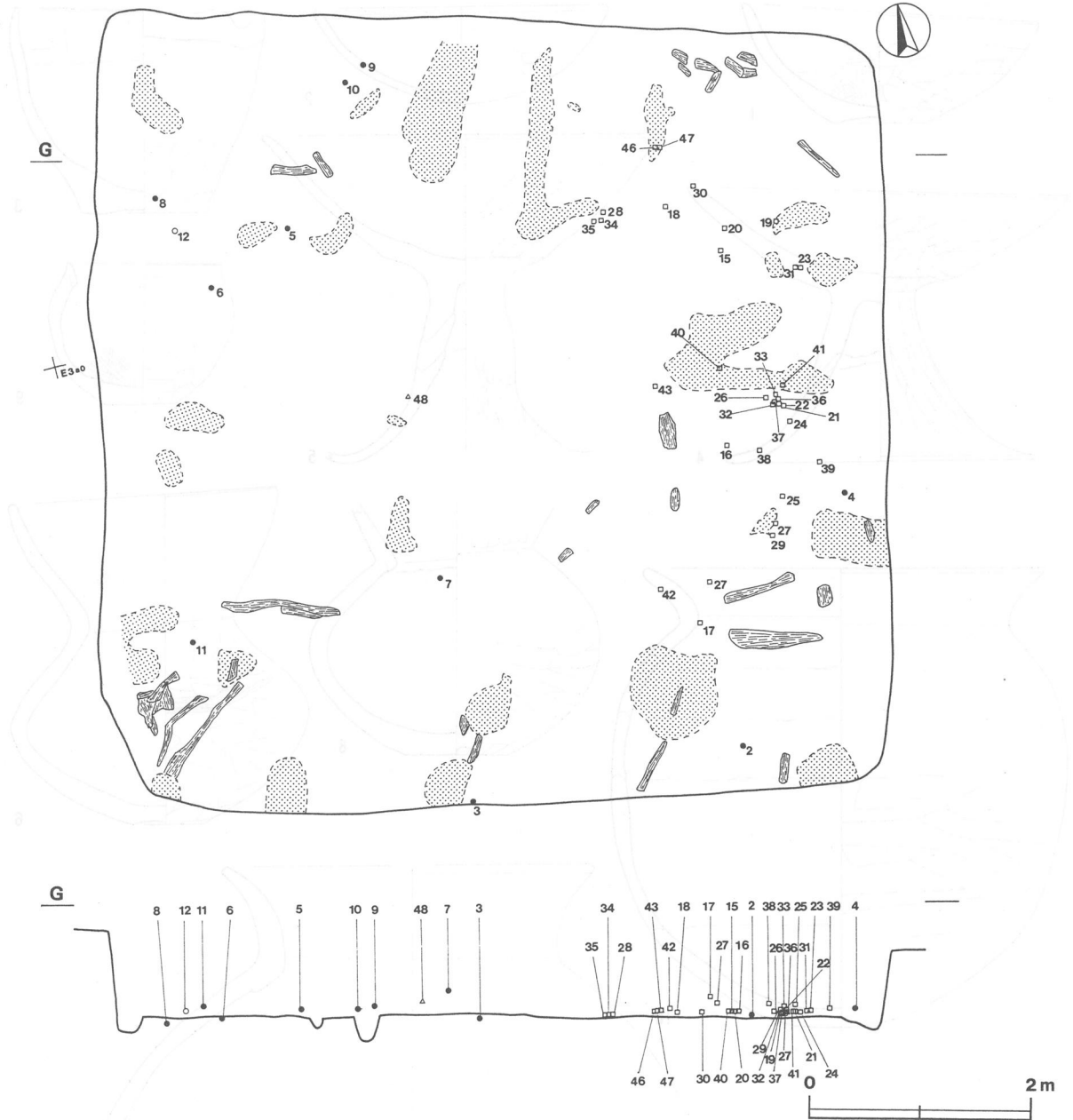
土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 2 褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 褐色 炭化物・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子少量, 炭化材微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 焼土小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 炭化粒子多量, 焼土小ブロック・粒子・炭化物・ローム粒子中量, 焼土中ブロック中量, 炭化材微量

遺物 土師器片880点, 土玉3点, 砥石2点, 白玉28点, 石製模造品4点(勾玉1点, 剣形品1点, 有孔円板2点), 鉄鏃1点が出土している。第77図2の土師器坏が南東コーナー部, 4の高坏が東壁際, 6の埴が西壁寄りから正位で, 8の埴が北西コーナー部から斜位で, いずれも床面から出土している。3の椀が南壁の壁溝底面から斜位で出土している。5の高坏が西壁寄り, 9の椀, 10の甕がともに完形で北壁際から, 11の甕が南西コーナー部の覆土下層から出土している。7の埴が南壁寄りの覆土中層から出土している。また, 12の土玉が西壁際覆土下層から, 13・14の土玉が覆土中から出土している。17~43の白玉が東壁寄りの覆土下層から床面にかけてほぼまとまって, 15・16の砥石がやはり東壁寄りの覆土下層から出土している。44の勾玉及び45の剣形品が覆土中から, 46・47の有孔円板が北東コーナー部付近の床面から出土している。48の



第75図 第8号住居跡実測図



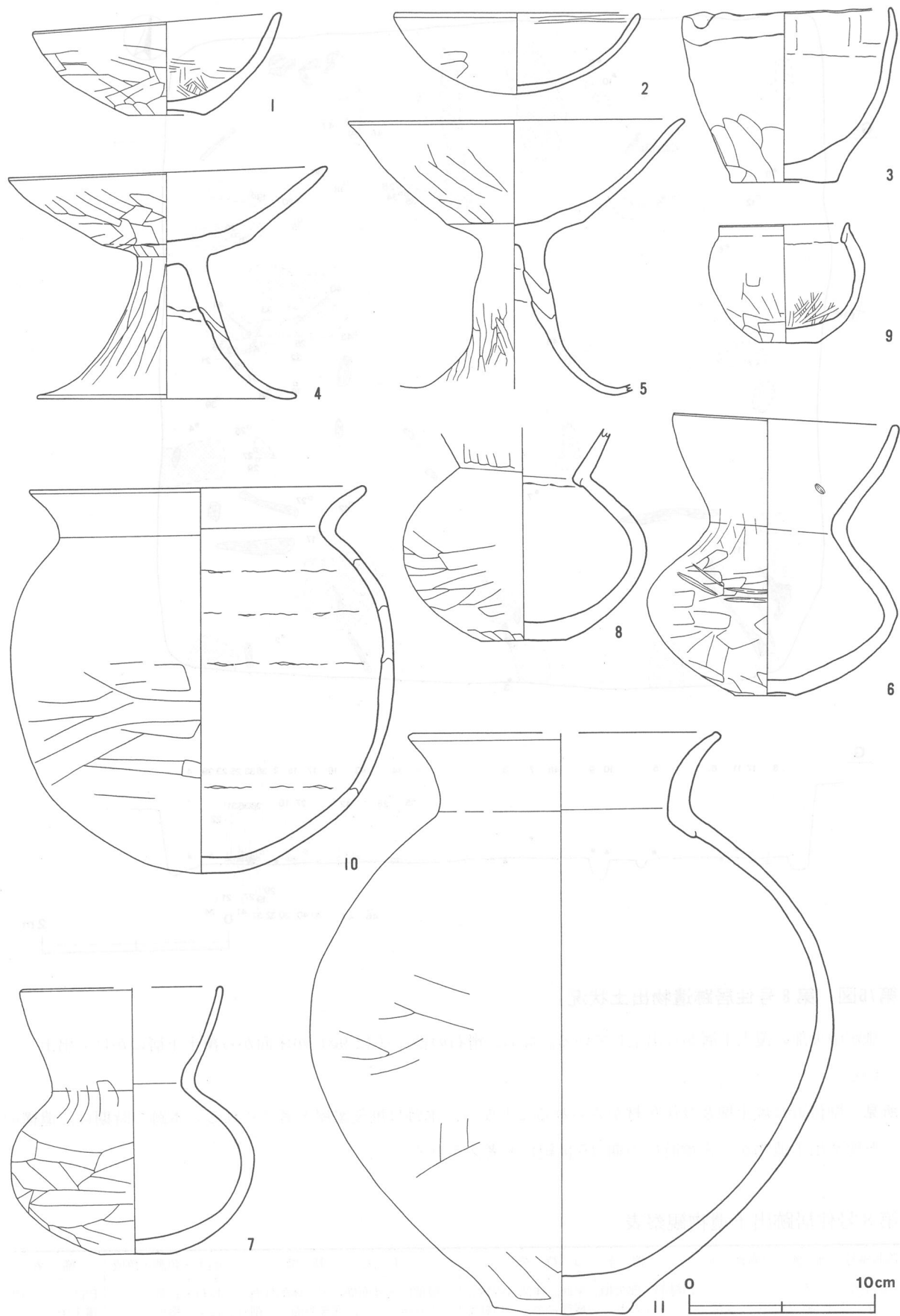
第76図 第8号住居跡遺物出土状況

鎌が中央部の覆土下層から出土している。なお、滑石の細片(22.9g)が床面から覆土下層にかけて出土している。

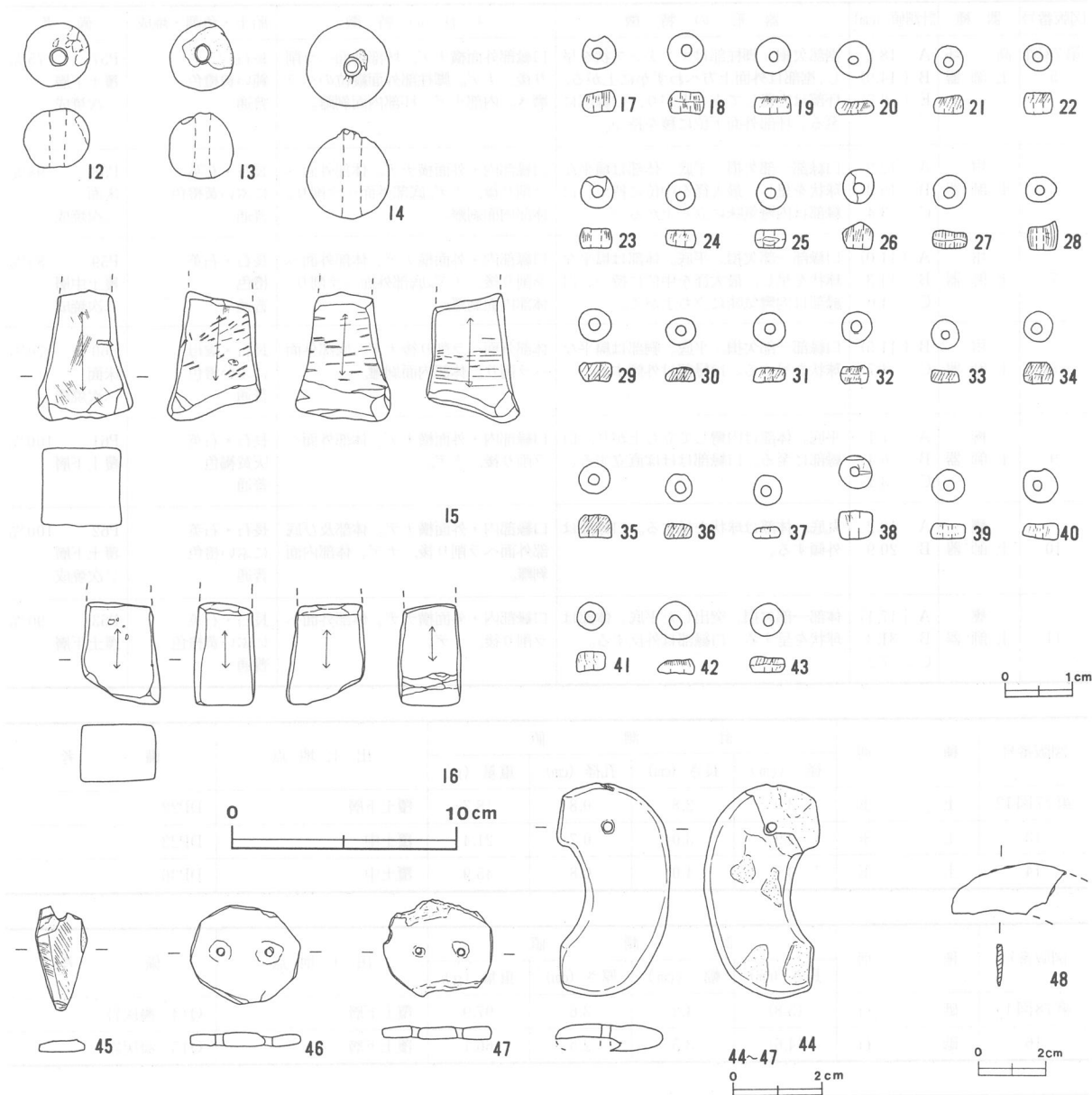
所見 壁付近に焼土塊及び炭化材がみられることから、本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第8号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 1	坏 土師器	A 13.6 B 5.5 C 4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。底部外面へラ削り。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P53 60% 覆土中 二次焼成



第77図 第8号住居跡出土遺物実測図(1)



第78図 第8号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第77図 2	坏 土師器	A 13.2 B 4.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後、ナデ。内面剥離。	長石・石英にふい橙色普通	P54 65% 床面 二次焼成
3	碗 土師器	A 11.3 B 9.4 C 5.8	底部一部欠損。平底。体部は器厚を薄くし、内彎して立ち上がる。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内面ヘラナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。口縁部に輪積痕を残す。	長石・雲母・スコリアにふい橙色普通	P55 95% 壁溝底面
4	高坏 土師器	A 17.3 B 12.6 D 14.1	脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後、ナデ。脚部外面縦位のヘラナデ。内面ナデ。坏部内面剥離。	長石・雲母 橙色 普通	P56 100% 床面 二次焼成

実穀寺子遺跡 1

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第78図 5	高坏 土師器	A 18.2 B (14.9) E (8.7)	裾部欠損。脚柱部はエンタシス状を呈し、裾部は外面上方へわずかに上がる。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。脚柱部外面縦位のへラ磨き。内部ナデ。坏部内面剝離。	長石 鈍い黄橙色 普通	P57 75% 覆土下層 二次焼成
6	埴 土師器	A 12.3 B 15.3 C 3.4	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。底部外面へラ削り。体部内面剝離。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P58 98% 床面 二次焼成
7	埴 土師器	A (11.0) B 14.3 C 4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。底部外面へラ削り。体部内面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P59 85% 覆土中層 二次焼成
8	埴 土師器	B (11.5) C 4.7	口縁部一部欠損。平底。胴部は扁平な球状を呈する。口縁部は外傾する。	体部外面へラ削り後ナデ。底部外面へラ削り。体部内面剝離。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P60 70% 床面 二次焼成
9	椀 土師器	A 7.1 B 6.4 C 3.1	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 灰黄褐色 普通	P61 100% 覆土下層
10	甕 土師器	A 18.2 B 20.9	丸底。体部は球状を呈する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び底部外面へラ削り後、ナデ。体部内面剝離。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P62 100% 覆土下層 二次焼成
11	甕 土師器	A [17.1] B 31.3 C 7.2	体部一部欠損。突出した平底。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P63 90% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第77図12	土玉	3.0	2.8	0.8	18.7	覆土下層	DP22
13	土玉	2.9	3.0	0.7	21.4	覆土中	DP23
14	土玉	3.7	4.0	0.8	45.9	覆土中	DP36

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第78図15	砥石	(5.8)	4.2	3.6	97.9	覆土下層	Q14 凝灰岩
16	砥石	(4.6)	3.5	2.6	66.1	覆土下層	Q15 凝灰岩

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第78図17	白玉	0.5	0.35	0.15	覆土下層	Q16 滑石
18	白玉	0.5	0.3	0.15	覆土下層	Q17 滑石
19	白玉	0.5	0.25	0.1	床面	Q18 滑石
20	白玉	0.5	0.2	0.1	床面	Q19 滑石
21	白玉	0.4	0.3	0.15	床面	Q20 滑石
22	白玉	0.4	0.3	0.15	床面	Q21 滑石
23	白玉	0.5	0.3	0.15	床面	Q22 滑石
24	白玉	0.4	0.25	0.1	床面	Q23 滑石
25	白玉	0.45	0.25	0.15	床面	Q24 滑石
26	白玉	0.45	0.4	0.15	床面	Q25 滑石
27	白玉	0.5	0.3	0.15	床面	Q26 滑石
28	白玉	0.4	0.4	0.1	床面	Q27 滑石

図版番号	種 別	計 測 値			出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第78図29	白 玉	0.5	0.25	0.15	床面	Q28 滑石
30	白 玉	0.4	0.2	0.1	床面	Q29 滑石
31	白 玉	0.5	0.2	0.1	床面	Q30 滑石
32	白 玉	0.4	0.25	0.15	床面	Q31 滑石
33	白 玉	0.4	0.2	0.1	床面	Q32 滑石
34	白 玉	0.4	0.3	0.15	床面	Q33 滑石
35	白 玉	0.45	0.3	0.15	床面	Q34 滑石
36	白 玉	0.4	0.15	0.15	床面	Q35 滑石
37	白 玉	0.5	0.4	0.15	床面	Q36 滑石
38	白 玉	0.5	0.2	0.15	床面	Q37 滑石
39	白 玉	0.5	0.2	0.1	床面	Q38 滑石
40	白 玉	0.5	0.2	0.1	床面	Q39 滑石
41	白 玉	0.4	0.3	0.15	床面	Q40 滑石
42	白 玉	0.55	0.2	0.2	床面	Q41 滑石
43	白 玉	0.5	0.2	0.1	床面	Q42 滑石

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第78図44	勾 玉	4.7	2.6	0.6	0.2	10.6	覆土中	Q44 滑石
45	剣 形 品	2.3	1.1	0.25	—	1.0	覆土中	Q45 滑石

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第78図46	有 孔 円 板	2.2	0.3	0.2	2.2	床面	Q46 滑石
47	有 孔 円 板	2.1	0.3	0.2	2.3	床面	Q47 滑石

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第78図48	鎌	(2.4)	1.7	0.2	1.7	覆土下層	M4

第9号住居跡 (第79・80図)

位置 調査区西部, D5h₁区。

規模と平面形 長軸5.10m, 短軸5.01mの方形である。

主軸方向 N-18°-W

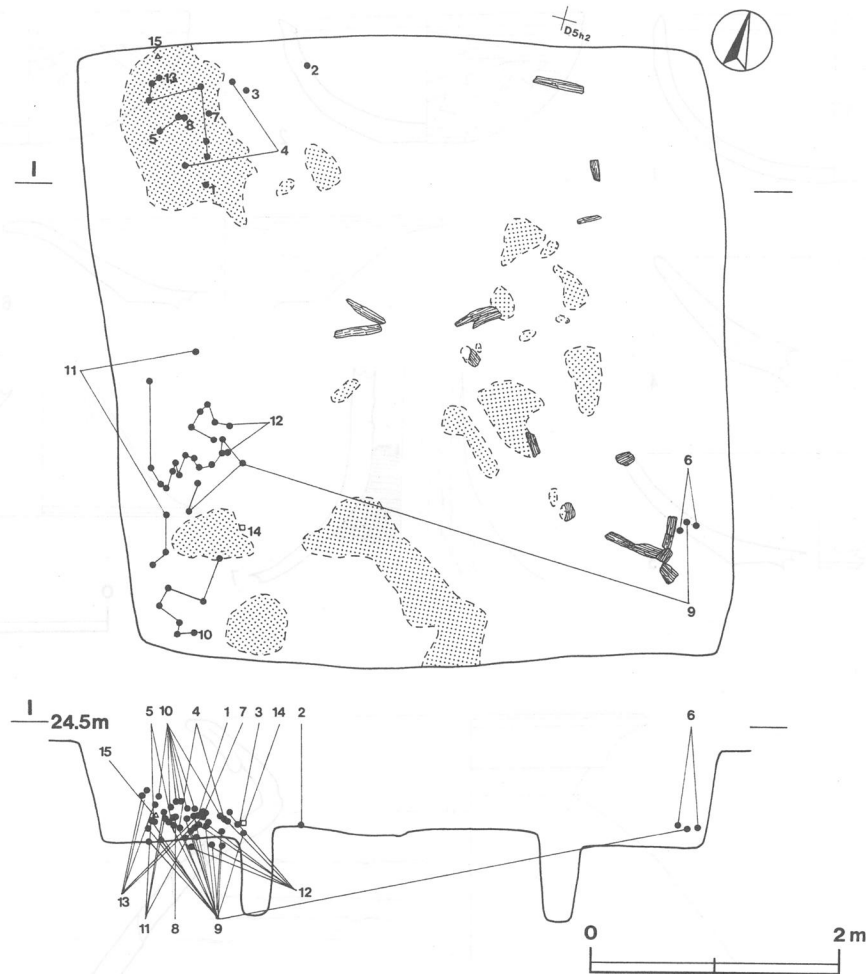
壁 壁高は60~70cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅22~38cm, 下幅2~12cm, 深さ8~12cmで, 断面形はU字状である。

床 出入り口施設に伴うピットの前方に, 長軸260cm, 短軸66cmの不定形で, 高さ6cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で, 中央部付近が踏み固められている。壁溝から中央部に向かって延びる溝6条を検出した。東壁下から2条 (a・b), 南壁下から3条 (c・d・e), 西壁下から1条 (f) の溝がそれぞれ中央部に向かっていて。長さ78~146cm, 上幅16~24cm, 下幅4~17cm, 深さ2~8cmで, 断面形はU字状である。溝aはP₁に, b・cはP₂に, fはP₄につながっている。南壁・北壁際及び東壁寄りに焼土塊が, 北東・南東コーナー部付近及び中央部に炭化材がみられる。



第79図 第9号住居跡実測図



第80図 第9号住居跡遺物出土状況

貯蔵穴 南西コーナー部に位置し、径86cmの円形で、深さは56cmである。底面は平坦で、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径24~36cmの円形、深さ71~96cmである。P₅は径18cmの円形、深さ86cmである。P₁~P₄は規模と配置から支柱穴、P₅は位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 P₁とP₄を結んだ線上のP₄寄りにあり、長径84cm、短径52cmの楕円形で、床面を8cm掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

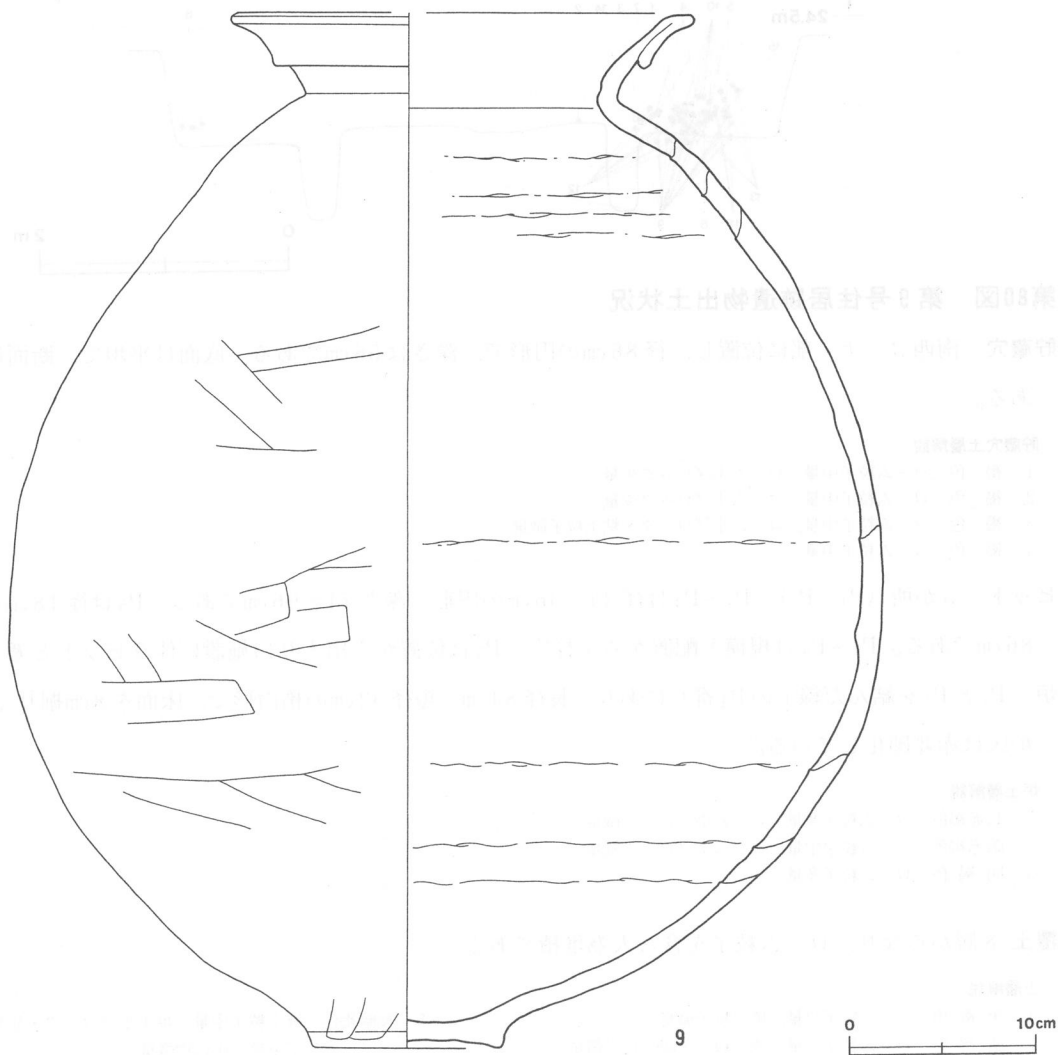
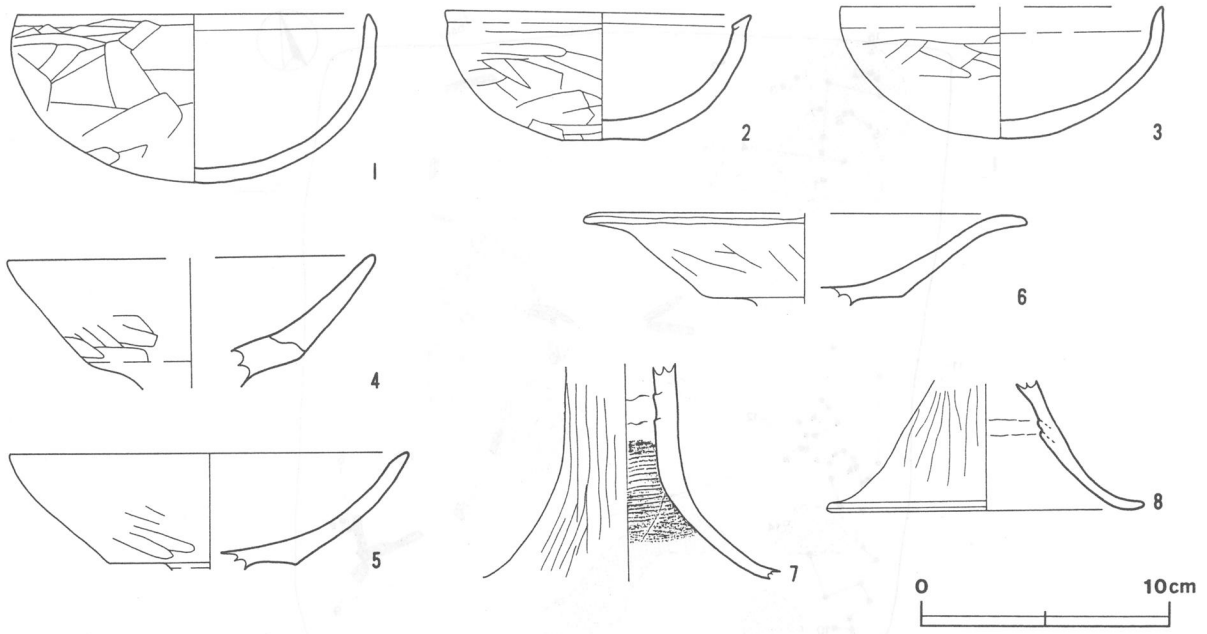
炉土層解説

- 1 暗赤褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

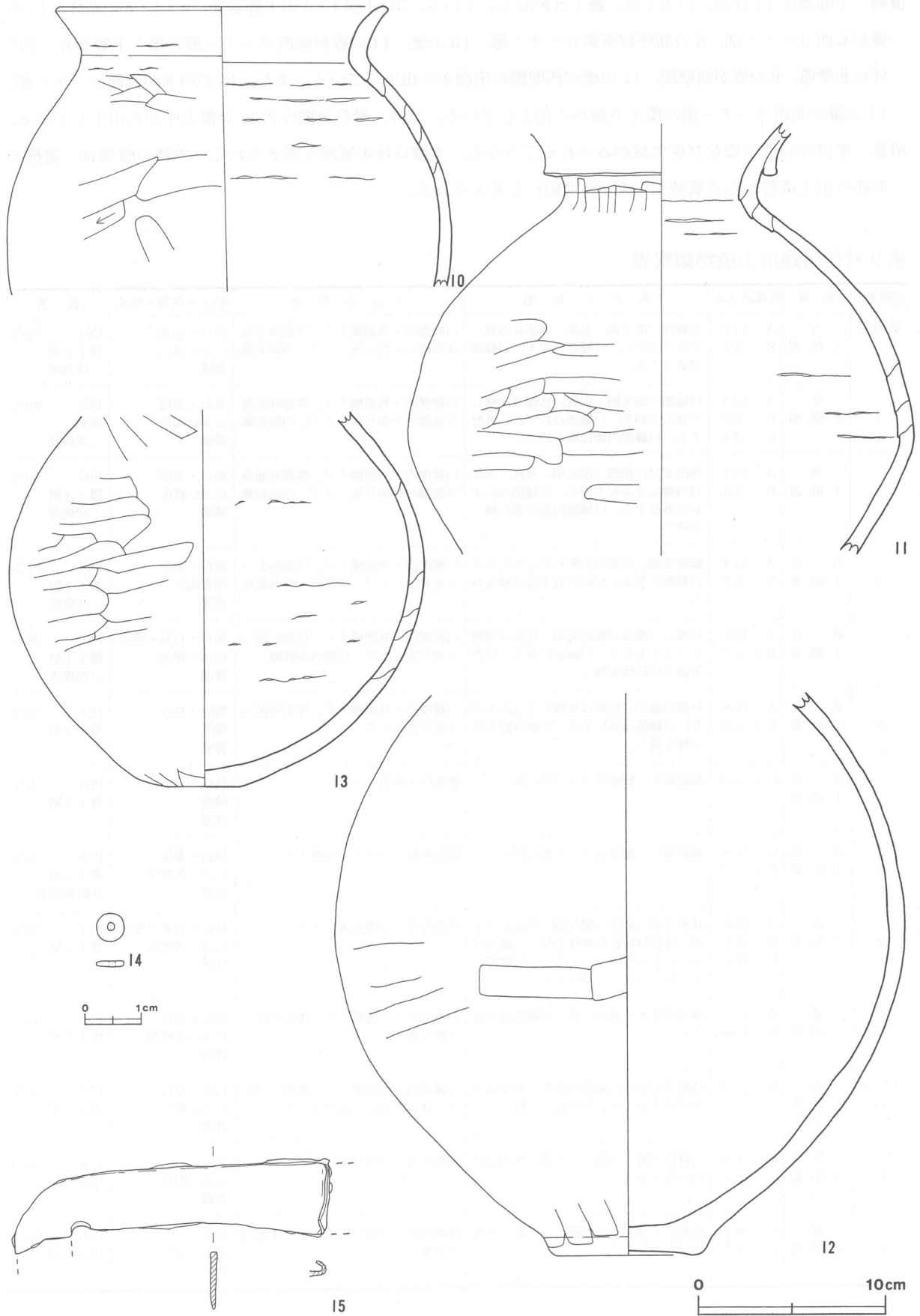
覆土 8層からなり、ローム粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|--------|-------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 5 極暗褐色 | 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 |
| 4 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 |



第81図 第9号住居跡出土遺物実測図(1)



第82図 第9号住居跡出土遺物実測図(2)

遺物 土師器片 1931点, 白玉 1点, 鎌 1点が出土している。第 81 図 1・3 の土師器坏, 5・4・8 の高坏, 13 の甕が北西コーナー部, 6 の高坏が南東コーナー部, 10 の甕, 11 の壺が南西コーナー部の覆土下層から, 2 の坏が北壁際, 9 の壺が西壁際, 12 の甕が西壁際の床面から出土している。また, 14 の白玉が南西コーナー部, 15 の鎌が北西コーナー部の覆土下層から出土している。なお, 滑石の細片 2.3g が覆土中から出土している。

所見 壁付近に焼土塊及び炭化材がみられることから, 本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期 (5 世紀) と考えられる。

第 9 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 81 図 1	坏 土師器	A 14.2 B 6.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び底部外面へラ削り後, ナデ。内面剝離。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P64 95% 覆土下層 二次焼成
2	坏 土師器	A 12.5 B 5.2 C 3.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部へラ削り後, ナデ。内面剝離。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P65 80% 床面 二次焼成
3	坏 土師器	A [13.1] B 5.3	体部及び口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部へラ削り後, ナデ。内面剝離。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P66 80% 覆土下層 二次焼成
4	高坏 土師器	A [14.8] B (5.2)	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後, ナデ。坏部内・外面剝離。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P49 20% 覆土下層 二次焼成
5	高坏 土師器	A 16.1 B (4.7)	坏部の一部及び脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後, ナデ。坏部内面剝離。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P67 35% 覆土下層 二次焼成
6	高坏 土師器	A [17.9] B (3.7)	坏部の破片。坏部は外傾して立ち上がり, 口縁部は外反する。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後, ナデ。	雲母・長石 橙色 普通	P68 20% 覆土下層
7	高坏 土師器	E (8.7)	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面へラナデ。	長石・石英 橙色 普通	P69 20% 覆土下層
8	高坏 土師器	D 12.8 E (5.2)	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P70 30% 覆土下層 外面煤付着
9	壺 土師器	A [25.0] B 55.8 C 10.0	体部及び口縁部一部欠損。突出した平底。体部は縦長な球状を呈し, 最大径が中位からやや下方にある。口縁部は折り返し口縁で, 外反する。	体部外面へラ削り後, ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P71 50% 覆土下層
10	甕 土師器	A 17.9 B 15.6	体部中位から底部欠損。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。	長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P72 35% 覆土下層
第 82 図 11	壺 土師器	B (23.2)	体部中位から口縁部の破片。やや扁平な球状を呈する。折り返し口縁。	口縁部内・外面横ナデ。頸部へラ削り。体部外面へラ削り後, ナデ。	石英・長石 にぶい橙色 普通	P73 30% 覆土下層
12	甕 土師器	B (30.1) C 8.3	口縁部欠損。突出した平底。体部は球状を呈する。	体部外面へラ削り後, ナデ。	長石 にぶい橙色 普通	P74 60% 床面
13	甕 土師器	B (20.2) C 6.0	底部から体部上位の破片。平底。体部は球状を呈する。	体部外面へラ削り後, ナデ。体部内面剝離。	長石 にぶい橙色 普通	P75 60% 覆土下層

図版番号	種 別	計 測 値			出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第82図14	白 玉	0.5	0.1	0.2	覆土下層	Q48 滑石

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第82図15	鎌	(17.0)	3.9	0.4	(61.6)	覆土下層	M5

第10号住居跡 (第83図)

位置 調査区西部, D5j6区。

規模と平面形 長軸4.94m, 短軸4.92mの方形である。

主軸方向 N-29°-W

壁 壁高は48~62cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南コーナー部の一部を除き巡っている。上幅22~40cm, 下幅2~10cm, 深さ2~8cmで, 断面形はU字状及びV字状である。

床 出入り口施設に伴うピット (P₅) のまわりに, 長軸152cm, 短軸144cmの不定形で, 高さ6cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で, 中央部付近が踏み固められている。西コーナー部に焼土塊が, 南東壁際・南西壁寄りに炭化材がみられる。

貯蔵穴 南コーナー部に位置し, 径70cmの円形で, 深さは44cmである。底面はほぼ平坦で, 断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物・粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁~P₄は径32~40cmの円形, 深さ78~82cmであり, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P₅は径32cmの円形, 深さ12cmで, 出入り口施設に伴うピット, P₆は長径30cm, 短径18cmの楕円形, 深さ10cmで, 補助柱穴と考えられる。

炉 P₁とP₄を結んだ線の外側で, P₄寄りにあり, 長径110cm, 短径60cmの楕円形で, 床面を12cm掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

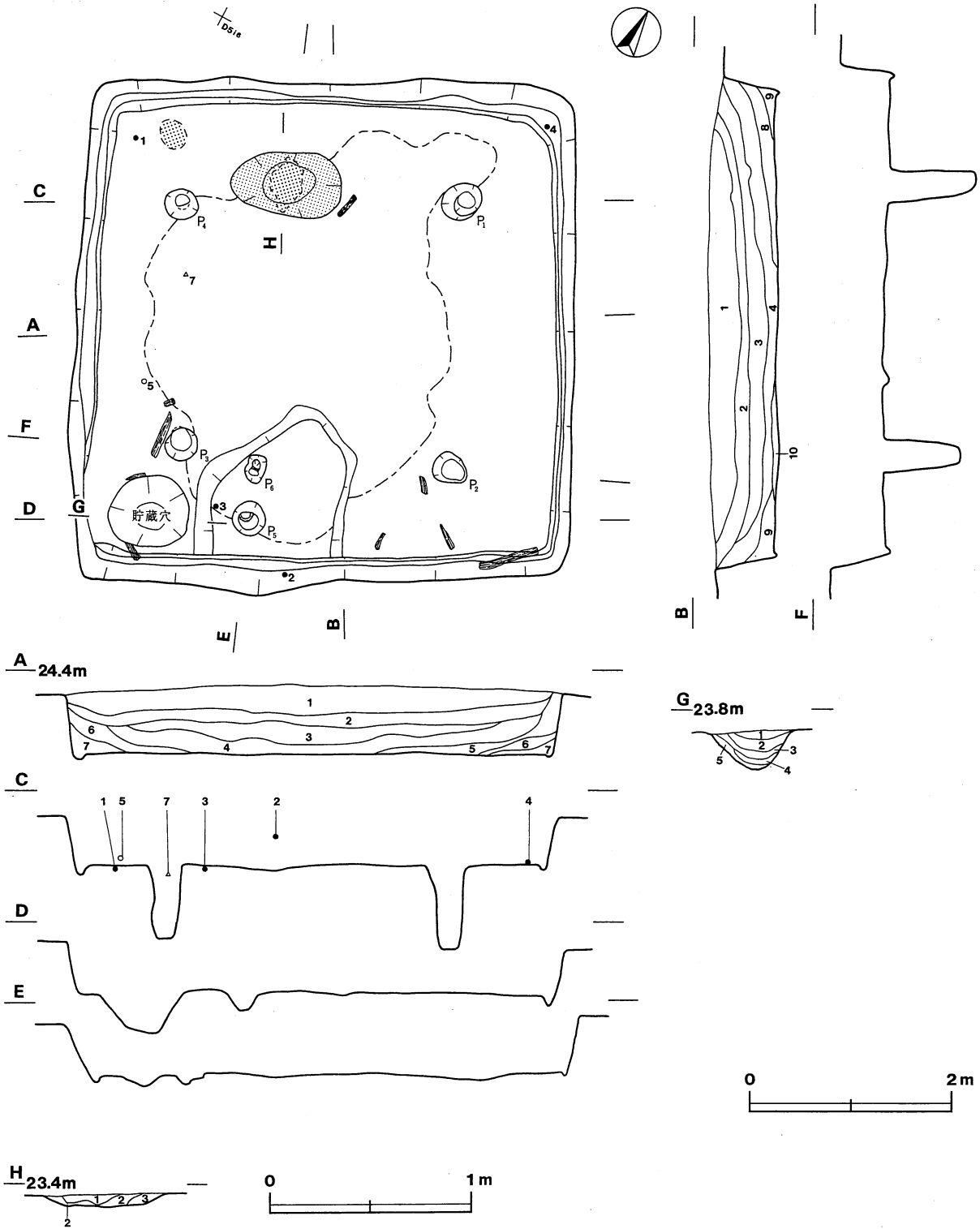
- 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量

覆土 10層からなり, ローム粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 6 暗赤褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 7 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 8 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 10 黒褐色 炭化粒子多量, 焼土粒子・ローム粒子少量

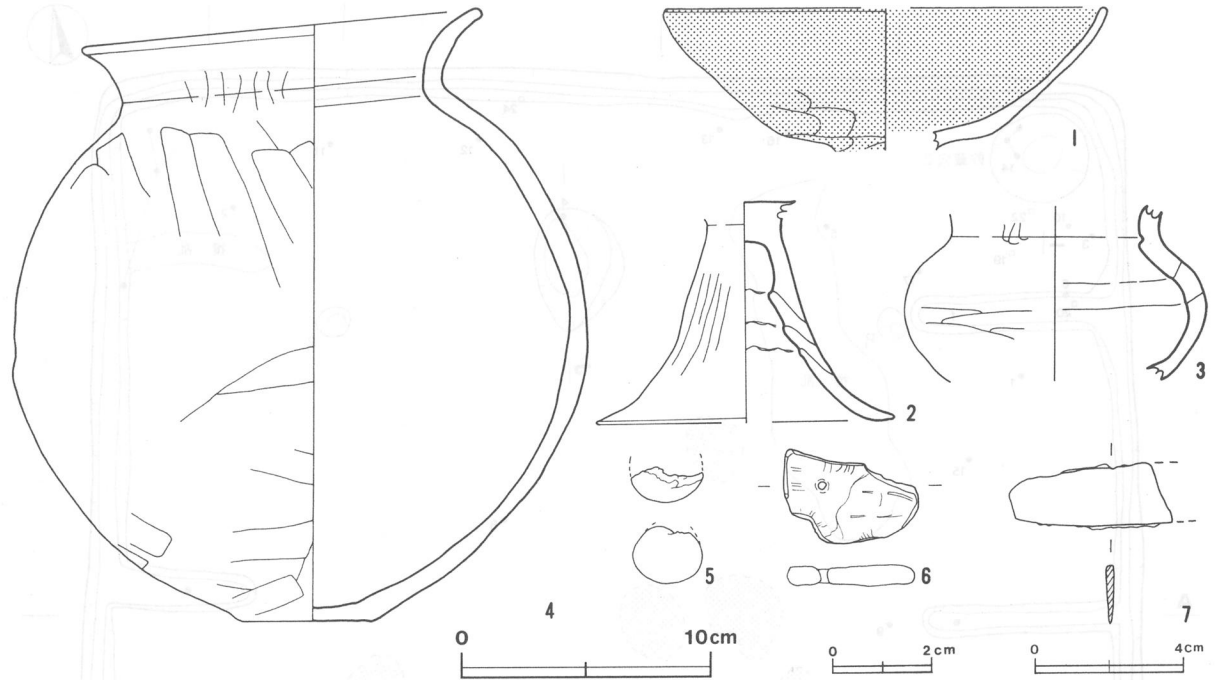
遺物 土師器片596点, 土玉1点, 石製模造品1点 (有孔円板), 鉄鏃1点が出土している。第84図2の土師器高環が南壁際の覆土中層から, 1の高環が北西コーナー部, 3の埴が貯蔵穴脇の南壁際, 4の甕が正位で北東



第83図 第10号住居跡実測図

コーナー部の床面から出土している。また、5の土玉が西壁際の覆土下層から、6の有孔円板が覆土中から、7の鎌が西壁寄りの床面から出土している。

所見 壁付近に焼土塊及び炭化材がみられることから、本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。



第84図 第10号住居跡出土遺物実測図

第10号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第84図 1	高坏土師器	A [18.0] B (5.7)	坏部の破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内・外面赤彩。内面剥離。	長石 橙色 普通	P76 25% 床面
2	高坏土師器	D [12.0] E (9.1)	裾部の一部及び坏部欠損。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい黄橙色 普通	P77 40% 覆土中層
3	埴土師器	B (7.0)	体部から頸部の破片。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P78 25% 床面
4	甕土師器	A 16.2 B 24.6 C 5.3	体部一部欠損。平底。体部は球状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P79 80% 床面

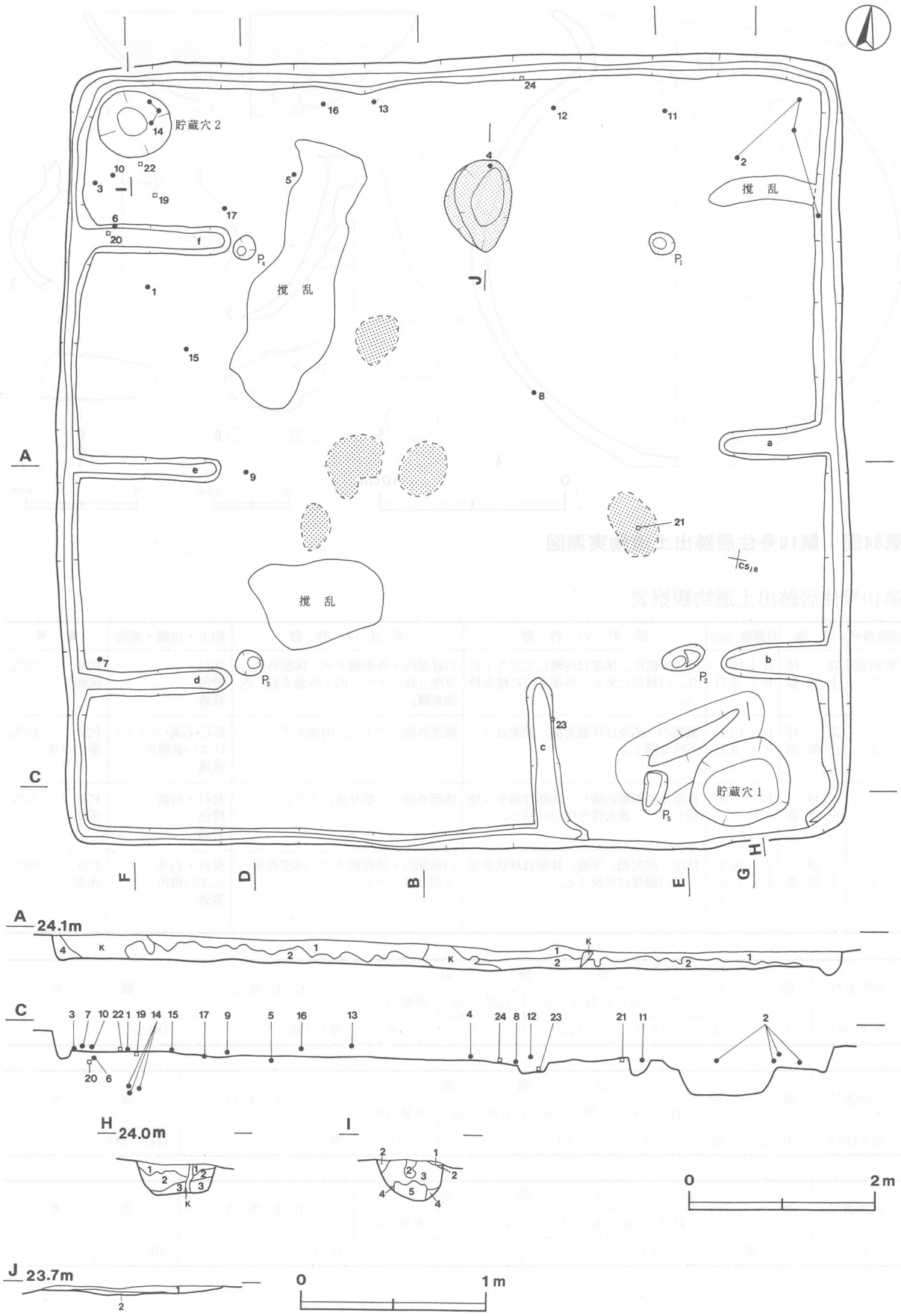
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第84図5	土玉	(2.3)	(2.3)	-	5.0	覆土下層	DP25

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第84図6	有孔円板	2.8	0.4	0.2	3.6	覆土中	Q49 滑石

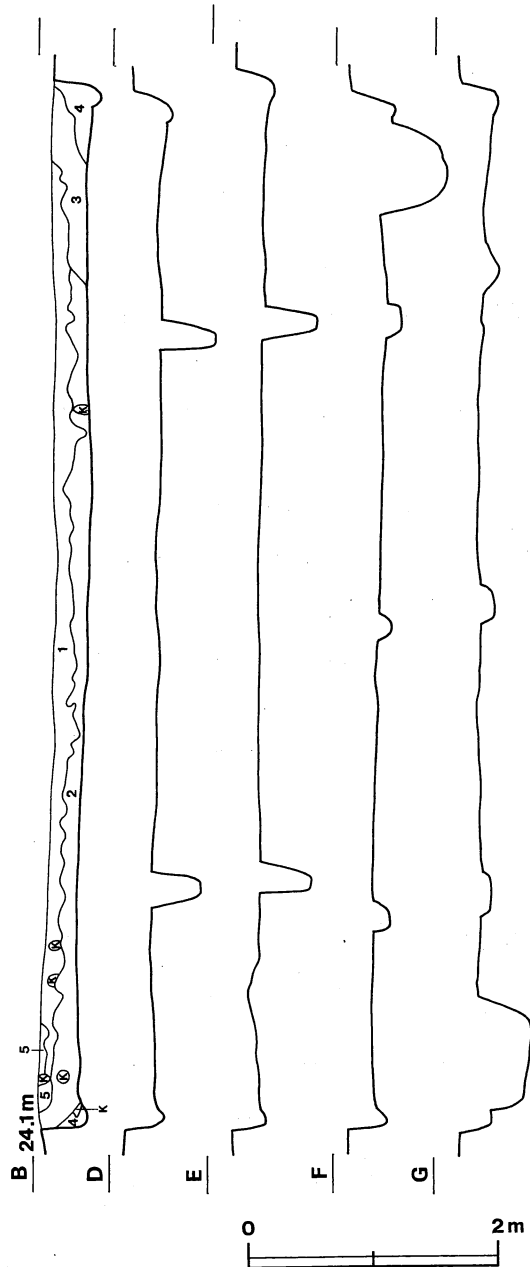
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第84図7	鎌	(4.4)	1.7	0.2	(2.8)	床面	M6

第11号住居跡 (第85・86図)

位置 調査区西部, C5i7区。



第85図 第11号住居跡実測図(1)



規模と平面形 長軸 8.58m, 短軸 8.47m の方形である。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は 20~34cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁 溝貯蔵穴 1 付近の南壁の一部を除いて巡っている。上幅 14~34cm, 下幅 4~14cm, 深さ 6~10cm で、断面形は U 字状である。

床 貯蔵穴 1 の前方部に、長径 178cm, 短径 68cm の楕円形で、高さ 9cm ほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦であり軟らかい。壁溝から中央部に向かって延びる溝 6 条を検出した。東壁下から 2 条 (a・b), 南壁下から 1 条 (c), 西壁下から 3 条 (d・e・f) の溝がそれぞれ中央部に向かっていて、長さ 140~188cm, 上幅 12~29cm, 下幅 4~14cm, 深さ 4~8cm で、断面形は U 字状である。中央部に焼土塊がみられる。

貯蔵穴 2 か所。南東コーナー部 (貯蔵穴 1) 及び対角の北西コーナー部 (貯蔵穴 2) で検出した。貯蔵穴 1 は、長径 112cm, 短径 88cm の楕円形で、深さは 34cm である。底面はほぼ平坦で、断面形は逆台形状である。貯蔵穴 2 は、径 78cm の円形で、深さは 43cm である。底面はほぼ平坦で、断面形は U 字状である。

貯蔵穴 1 土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化物・粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック少量

貯蔵穴 2 土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化物少量
- 3 極暗褐色 ローム粒子多量, 炭化物少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 褐灰色

第86図 第11号住居跡実測図(2)

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁・P₃・P₄ は径 30~34cm の円形, P₂ は長径 48cm, 短径 28cm の楕円形で、深さ 40~46cm であり、規模と配置から支柱穴と考えられる。P₅ は長径 46cm, 短径 26cm の楕円形で、深さ 19cm であり、深さ、形状、位置などから貯蔵穴にかかわる補助柱穴とも考えられるが、詳細は不明である。

炉 P₁ と P₄ を結んだ線の外側で、P₁ と P₄ の中央にあり、長径 100cm, 短径 72cm の楕円形で、床面を 8cm 掘りくぼめている。炉床は赤変しているが硬化している部分はあまりみられない。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量

覆土 掘り込みが浅く、覆土に攪乱を受けているが、5層からなる人為堆積と考えられる。

土層解説

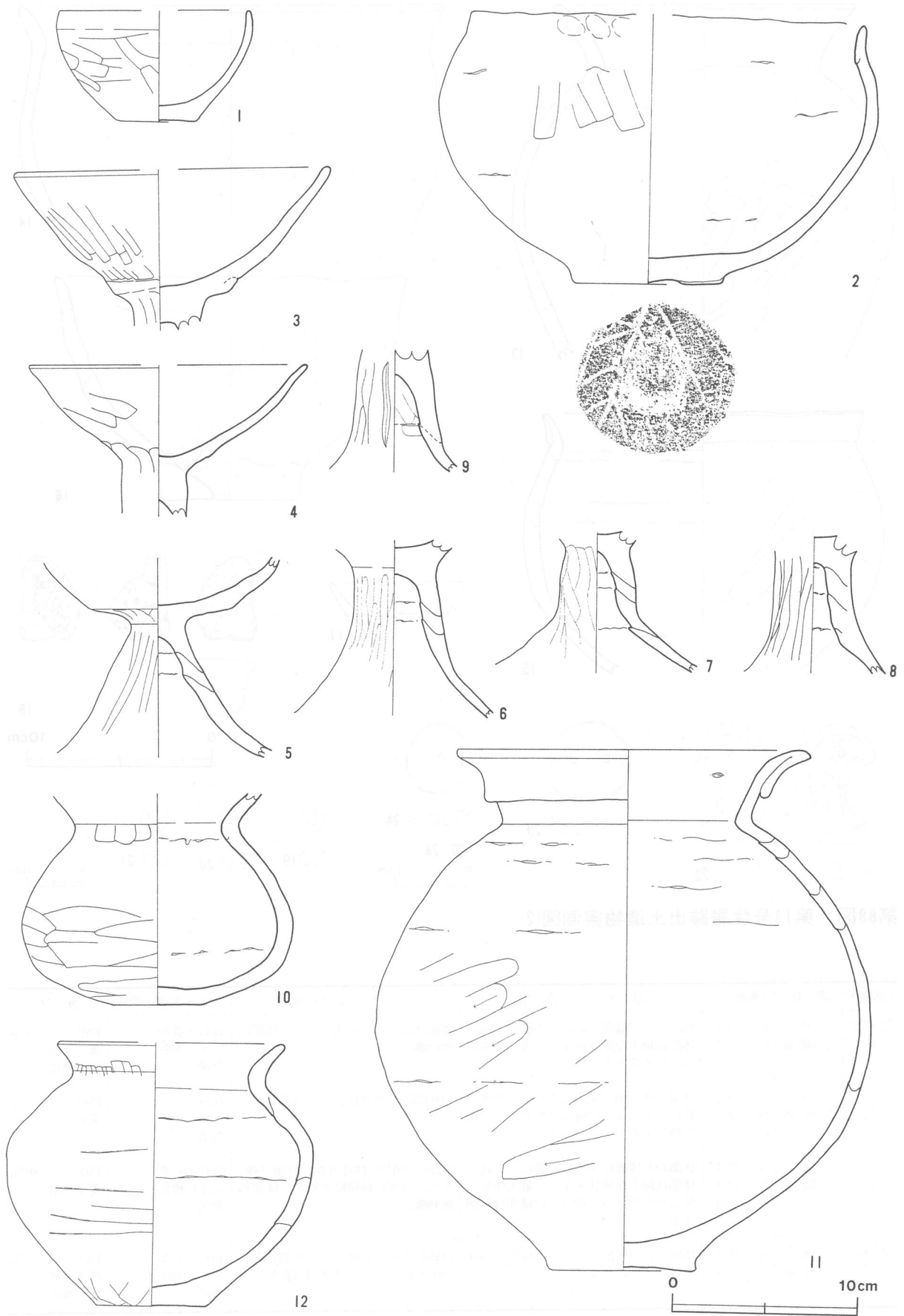
- 1 極暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 2 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化物微量
- 5 暗褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片 2958点, 軽石1点, 白玉3点, 石製模造品3点(勾玉1点, 有孔円板2点)が出土している。第87図2の土師器鉢が北東コーナー部, 13の甕と16の甗が北壁際の覆土中層から, 7の高坏が西壁際, 9の高坏が西壁際寄り, 10の埴が北西コーナー部, 12の甕がつぶれた状態で北壁際の, それぞれ覆土下層から出土している。1の椀が西壁際, 3の高坏が北西コーナー部, 4の高坏が炉床面, 5の高坏が北壁際, 6の高坏が溝fの西壁寄りから溝に落ち込んだ状態で, 8の高坏が中央部, 11の壺がつぶれた状態で北東コーナー部, 15の甕が西壁寄り, 17の須恵器甕が北西コーナー部の床面から出土している。14の土師器甕が貯蔵穴2の覆土下層から出土している。18の軽石が覆土中から, 19の白玉が北西コーナー部, 21の白玉が東壁寄り, 22の勾玉が北西コーナー部の床面から, 20の白玉が溝fの底面から, 23の有孔円板が溝cの底面, 24の有孔円板が北壁周溝に落ち込んだ状態で, それぞれ出土している。なお, 滑石の細片(7.6g)が覆土中から出土している。

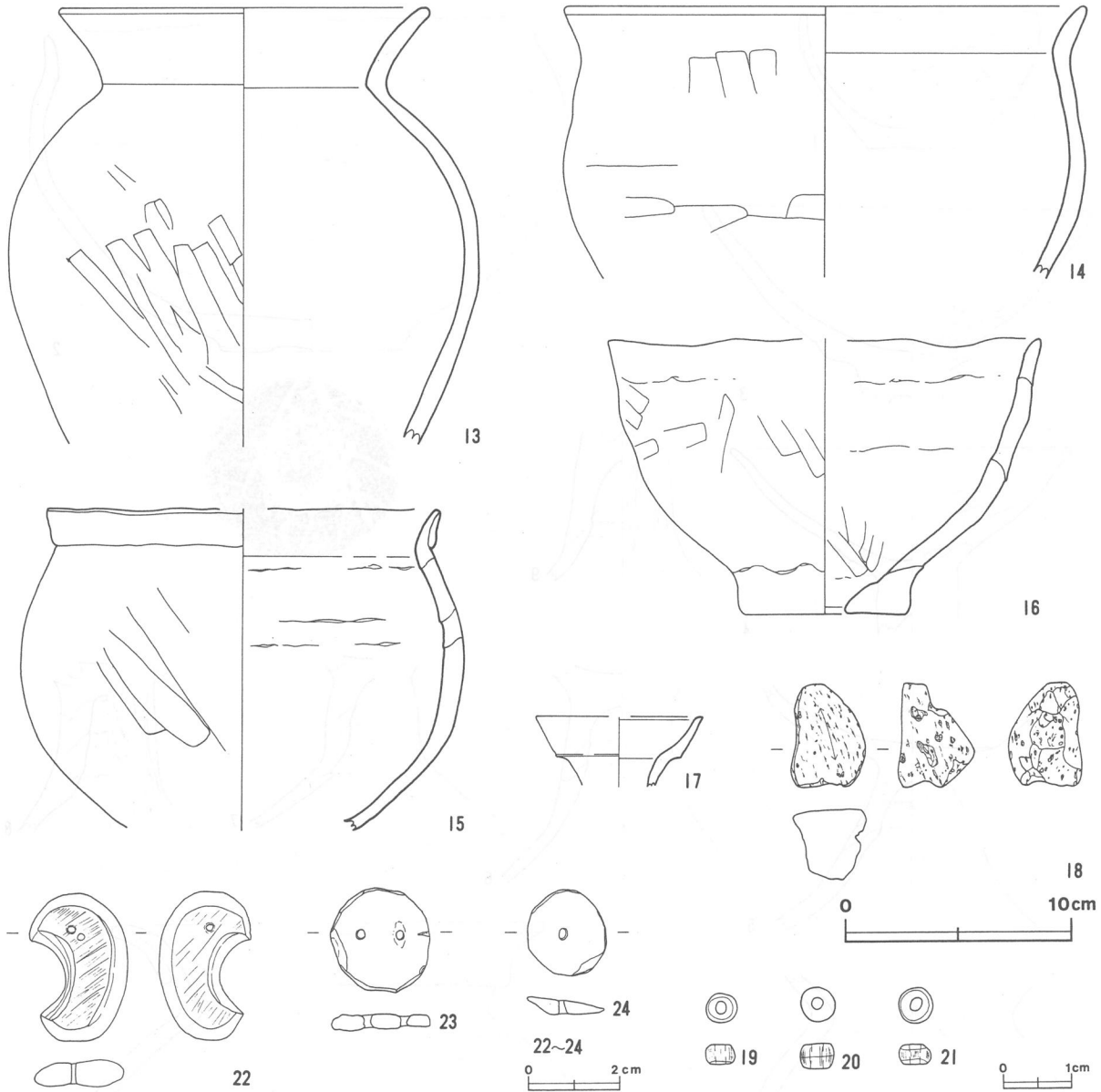
所見 本跡中央部に焼土塊がみられることから, 本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第11号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 1	碗 土師器	A [10.3] B 6.0 C 4.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び底部外面へラ削り後, ナデ。	長石・雲母・スコリア 褐灰色 普通	P80 40% 床面
2	甕 土師器	A [21.4] B 14.2 C 7.9	口縁部一部欠損。突出した平底で木葉痕を残す。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は直立する。	体部外面へラ削り後, ナデ。内面剝離。	長石 にぶい橙色 普通	P81 80% 覆土中層 二次焼成
3	高坏 土師器	A [17.3] B (8.6)	脚柱部から坏部にかけての破片。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラナデ。	長石・雲母 明黄褐色 普通	P82 30% 床面
4	高坏 土師器	A [15.2] B (8.2) E (2.5)	脚柱部から坏部にかけての破片。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後, ナデ。坏部内面剝離。	長石 橙色 普通	P83 25% 床面 二次焼成
5	高坏 土師器	B (10.9) E (7.3)	口縁部及び裾部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部外面下位に稜を持つ。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。坏部内面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P84 70% 床面 二次焼成
6	高坏 土師器	E (9.6)	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面縦位のへラ磨き。内面ナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P85 20% 床面
7	高坏 土師器	E (7.6)	脚部破片。脚部は短いエンタシス状を呈し, 裾部はなだらかに開く。	脚部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P86 30% 覆土下層 二次焼成
8	高坏 土師器	E (7.4)	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P87 25% 床面 二次焼成
9	高坏 土師器	E (6.6)	脚部破片。脚部はラッパ状に開く。脚柱部外面に縦位の沈線が一条入る。	脚部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P88 20% 覆土下層 二次焼成



第87図 第11号住居跡出土遺物実測図(1)



第88図 第11号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第87図 10	埴 土師器	B (11.4) C 4.7	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位よりやや下方に持つ。	体部外面へラ削り後、ナデ。体部内面剥離。	長石・雲母にぶい褐色普通	P89 55% 覆土下層 二次焼成
11	壺 土師器	A 19.3 B 28.2 C 8.2	体部一部欠損。突出した平底。体部は球状を呈する。口縁部は折り返し口縁で外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石にぶい橙色普通	P90 75% 床面
12	甕 土師器	A [12.4] B 14.3 C 6.0	底部から体部にかけての破片。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位よりやや上方に持つ。口縁部は外傾する。	頸部へラ削り。体部外面へラ削り後、ナデ。内部に輪積痕を残す。体部外面剥離。	長石・石英にぶい橙色普通	P91 80% 覆土下層
第88図 13	甕 土師器	A [16.0] B (19.3)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。体部内面剥離。	長石・石英にぶい褐色普通	P92 55% 覆土中層 二次焼成

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第88図 14	甕 土師器	A 23.2 B (12.0)	体部上位から口縁部にかけての破片。 口縁部はわずかに外反する。 体部下位から口縁部にかけての破片。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ ラ削り後、ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P93 30% 貯蔵穴2覆土下層 二次焼成
15	甕 土師器	A [17.4] B (14.2)	体部下位から口縁部にかけての破片。 体部は球状を呈する。口縁部は折り返し 口縁で、わずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へ ラ削り後、ナデ。内部に輪痕を残す。 体部内面剥離。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P94 35% 床面 二次焼成
16	甑 土師器	A [19.1] B 12.2 C 7.4	体部及び口縁部の一部を欠損する。底 部は厚みを持ち、突出した平底。体部 は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。 底部に単孔を穿つ。	体部内・外面粗いヘラナデ。底部ナ デ。	雲母 にぶい橙色 普通	P95 65% 覆土中層 二次焼成
17	甗 須恵器	A [7.4] B (3.1)	口縁部片。口縁部下位に突出した稜を 持つ。口縁部は外傾する。	内・外面ナデ。	長石 灰色 良好	P96 5% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第88図18	軽石	4.6	3.3	3.2	11.2	覆土中	Q50

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第88図19	白玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q51 滑石
20	白玉	0.5	0.4	0.2	溝底面	Q52 滑石
21	白玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q53 滑石

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第88図22	勾玉	3.2	2.1	0.6	0.1	5.9	床面	Q54 滑石

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第88図23	有孔円板	2.3	0.3	0.2	3.0	溝底面	Q55 滑石
24	有孔円板	1.9	0.4	0.1	2.0	壁溝底面	Q56 滑石

第12号住居跡 (第89・90図)

位置 調査区西部, C5i0区。

規模と平面形 長軸6.67m, 短軸5.61mの長方形である。

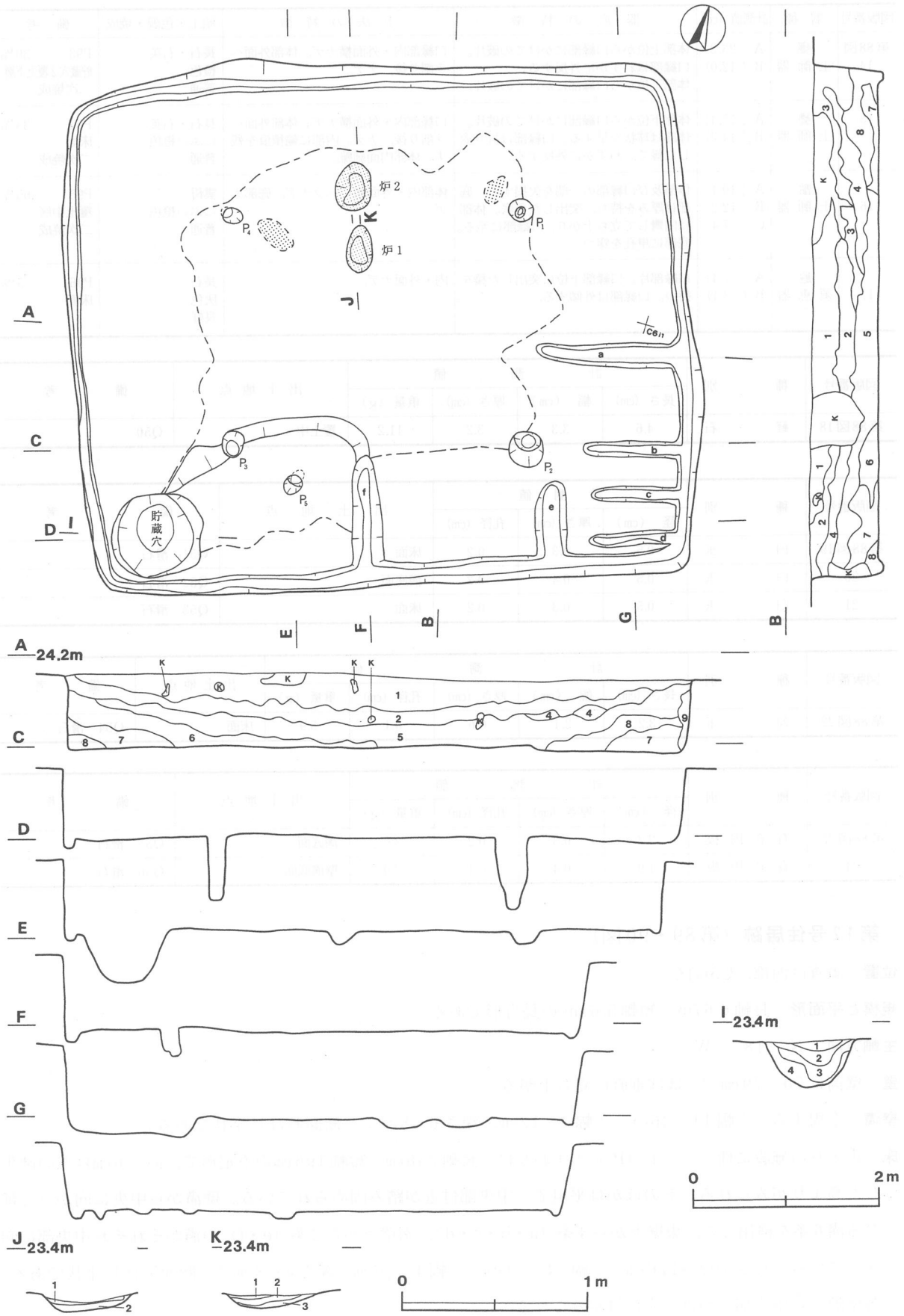
主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は70~79cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅11~36cm, 下幅4~12cm, 深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

床 出入り口施設に伴うピット (P5) のまわりに、長軸256cm, 短軸196cmの不定形で、高さ6cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で、中央部付近が踏み固められている。壁溝から中央に向かって延びる溝6条を検出した。東壁下から4条 (a・b・c・d), 南壁下から2条 (e・f) の溝がそれぞれ中央部に向かっていて、長さ102~176cm, 上幅24~34cm, 下幅4~20cm, 深さ4~8cmで、断面形はU字状である。各壁際から中央部にかけて炭化材がみられる。

貯蔵穴 南西コーナー一部に位置し、径88cmの円形で、深さは54cmである。底面はほぼ平坦で、断面形はU字状である。



第89図 第12号住居跡実測図



第90図 第12号住居跡実測図遺物出土状況

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径18~28cmの円形, 深さ70~80cmであり, 規模と配置から支柱穴, P₅は径20cmの円形, 深さ31cmであり, 南北方向へ斜めに掘り込まれている。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所。炉1は, P₁とP₄を結んだ線の内側でP₄寄りにあり, 長径52cm, 短径28cmの楕円形で, 床面を11cm掘りくぼめている。炉2は, P₁とP₄を結んだ線の外側でP₄寄りにあり, 長径52cm, 短径48cmの楕円形で, 床面を11cm掘りくぼめている。炉床はともに赤変硬化している。

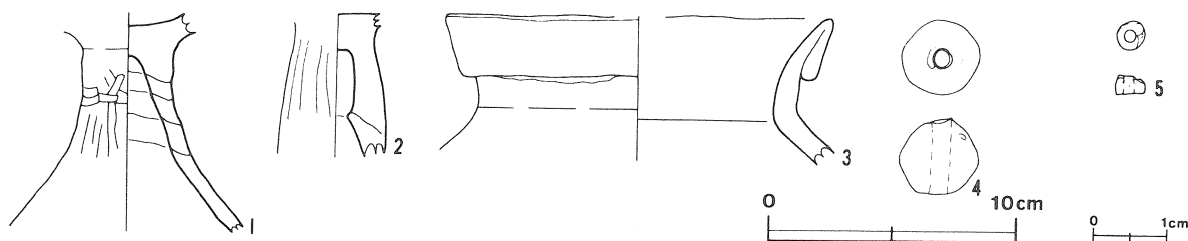
炉1土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子中量, ローム粒子少量
- 2 赤褐色 焼土中ブロック・粒子多量

炉2土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 赤褐色 焼土中ブロック・粒子多量
- 3 にぶい赤褐色 ローム粒子多量

覆土 9層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。



第91図 第12号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 6 暗褐色 焼土粒子・炭化物・粒子・ローム粒子少量, 炭化材・ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 炭化物・粒子・ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 炭化物・ローム中ブロック微量
- 9 黒褐色 炭化粒子中量, 炭化物・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 10 明褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片 969点, 土玉1点, 白玉1点, 炭化種子少量が出土している。第91図2の土師器高坏が中央部の覆土上層から, 3の甕が西壁寄りの覆土中層から, 1の高坏が北壁寄りの覆土下層からそれぞれ出土している。また, 4の土玉及び5の白玉が覆土中から, 北東コーナー部の床面から炭化種子少量が出土している。なお, 滑石の細片(1.4g)が覆土中から出土している。

所見 床面に炭化材がみられることから, 本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第12号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第91図1	高坏 土師器	E [8.7]	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラナデ。内面ナデ。内・外面剝離。	長石・雲母 橙色 普通	P97 25% 覆土下層 二次焼成
2	高坏 土師器	E [5.8]	脚柱部の破片。脚柱部はエンタシス状を呈する。	脚部外面ヘラナデ。内面ナデ。内・外面剝離。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P98 15% 覆土上層 二次焼成
3	壺 土師器	A [15.7] B (5.8)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で, 外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面剝離。	長石・石英 赤褐色 普通	P99 10% 覆土中層 二次焼成

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第91図4	土玉	3.2	3.0	0.8	26.1	覆土中	DP26

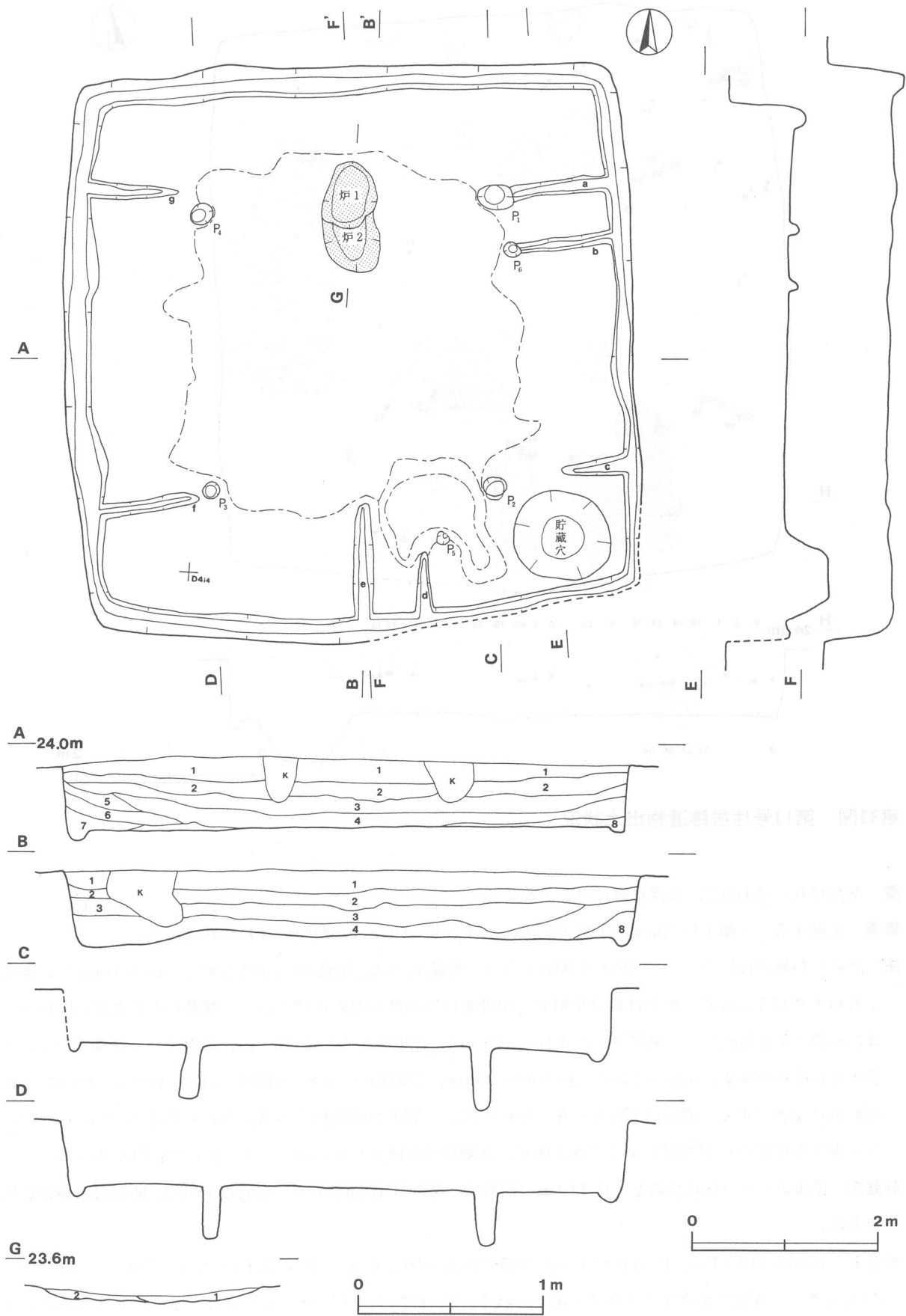
図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第91図25	白玉	0.4	0.2	0.2	覆土中	Q57 滑石

第13号住居跡 (第92・93図)

位置 調査区西部, D4h4区。

規模と平面形 長軸6.20m, 短軸6.12mの方形である。

主軸方向 N-5°-W



第92図 第13号住居跡実測図



第93図 第13号住居跡遺物出土状況

壁 壁高は63～74cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅12～36cm，下幅4～26cm，深さ6～10cmで、断面形はU字状である。

床 出入口施設に伴うピット（P₅）を囲むように、長軸170cm，短軸36cmの不定形で、高さ4cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で、中央部付近が踏み固められている。壁溝から中央部に向かって延びる溝7条を検出した。東壁下から3条（a・b・c），南壁下から2条（d・e），西壁下から2条（f・g）の溝がそれぞれ中央部に向かっている。長さ90～150cm，上幅14～22cm，下幅4～25cm，深さ5～10cmで、断面形はU字状である。溝aは支柱穴と考えられるP₁に，溝bは補助柱穴と考えられるP₆につながっている。北・東・南壁際から中央部にかけて焼土塊が，南壁及び東壁寄り・北西コーナー部に炭化材がみられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置し，径110cmの円形で，深さは46cmである。底面は平坦で，断面形は逆台形状である。

ピット 6か所（P₁～P₆）。P₁は長径40cm，短径28cmの楕円形，P₂～P₄は径18～24cmの円形で，深さ59～64cmであり，規模と配置から支柱穴と考えられる。P₅は径14cmの円形，深さ20cmであり，位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P₆は長径20cm，短径15cmの楕円形で，深さ22cmであり，位置から補助柱穴と考えられる。

炉 2か所。炉1と炉2が重複して検出されている。土層の観察から炉1が炉2より新しい。炉1は、P₁とP₄を結んだ線の外側、炉2は、P₁とP₄を結んだ線の内側にある。ともにP₁とP₄の中央にある。炉1と炉2を合わせた規模は、長径124cm、短径58cmの楕円形で、床面を7cm掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中・小ブロック多量、炭化物少量
- 2 赤褐色 焼土中・小ブロック多量

覆土 8層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

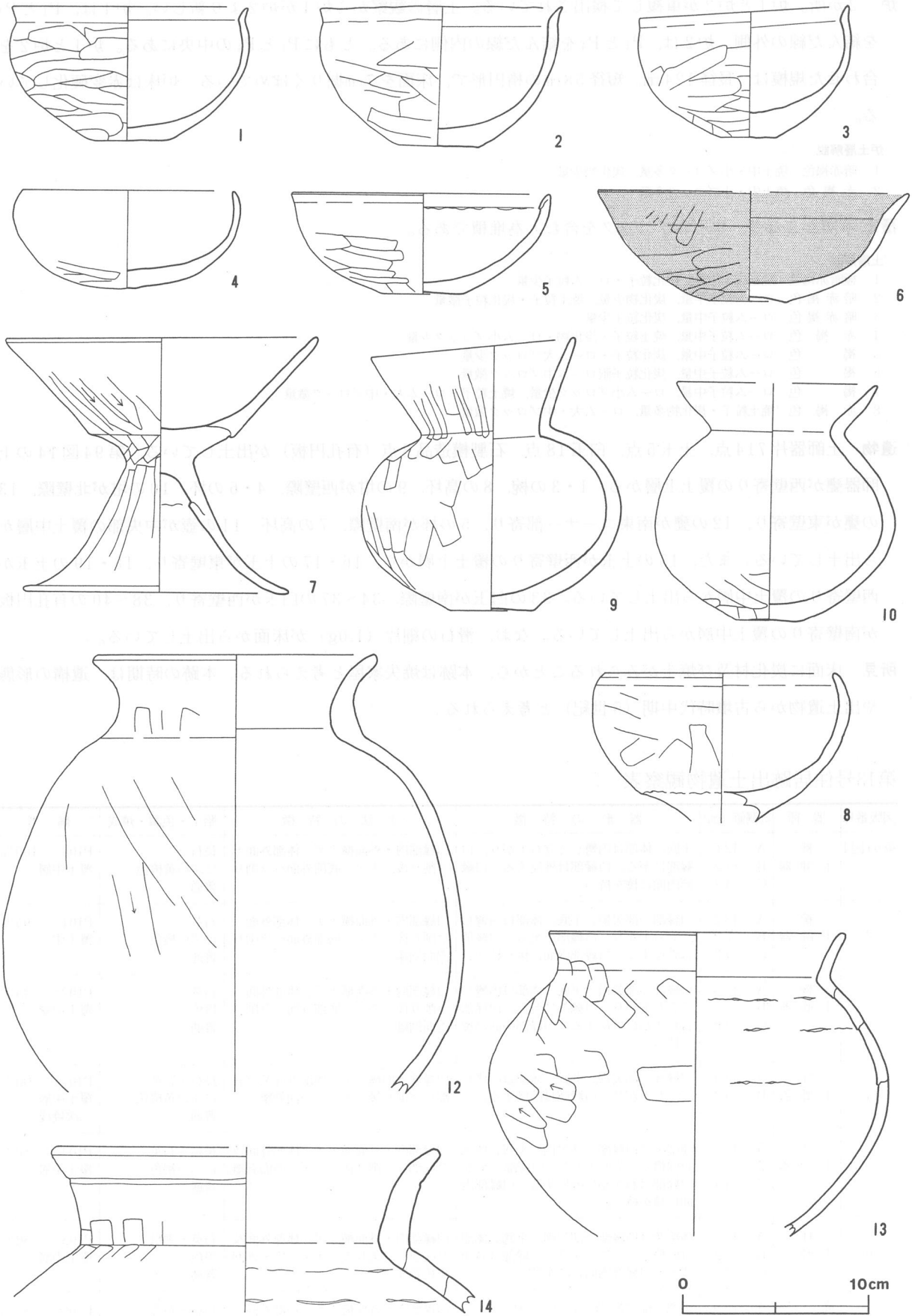
- 1 極暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子中量、炭化物少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 4 赤褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック少量
- 5 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム大ブロック少量
- 6 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子眼ローム中ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・ローム大・中ブロック微量
- 8 赤褐色 焼土粒子・炭化物多量、ローム大・中ブロック微量

遺物 土師器片714点、土玉5点、白玉18点、石製模造品3点（有孔円板）が出土している。第94図14の土師器甕が西壁寄りの覆土上層から、1・3の椀、8の高坏、9の罎が西壁際、4・6の坏、10の罎が北壁際、13の甕が東壁寄り、12の甕が南東コーナー部寄り、5の坏が南壁際、7の高坏、11の壺が中央部の覆土中層から出土している。また、15の土玉が西壁寄りの覆土上層から、16・17の土玉が東壁寄り、18・19の土玉が西壁寄りの覆土中層から出土している。33の白玉が南壁際、34～37の白玉が西壁寄り、38～40の有孔円板が南壁寄りの覆土中層から出土している。なお、滑石の細片（1.0g）が床面から出土している。

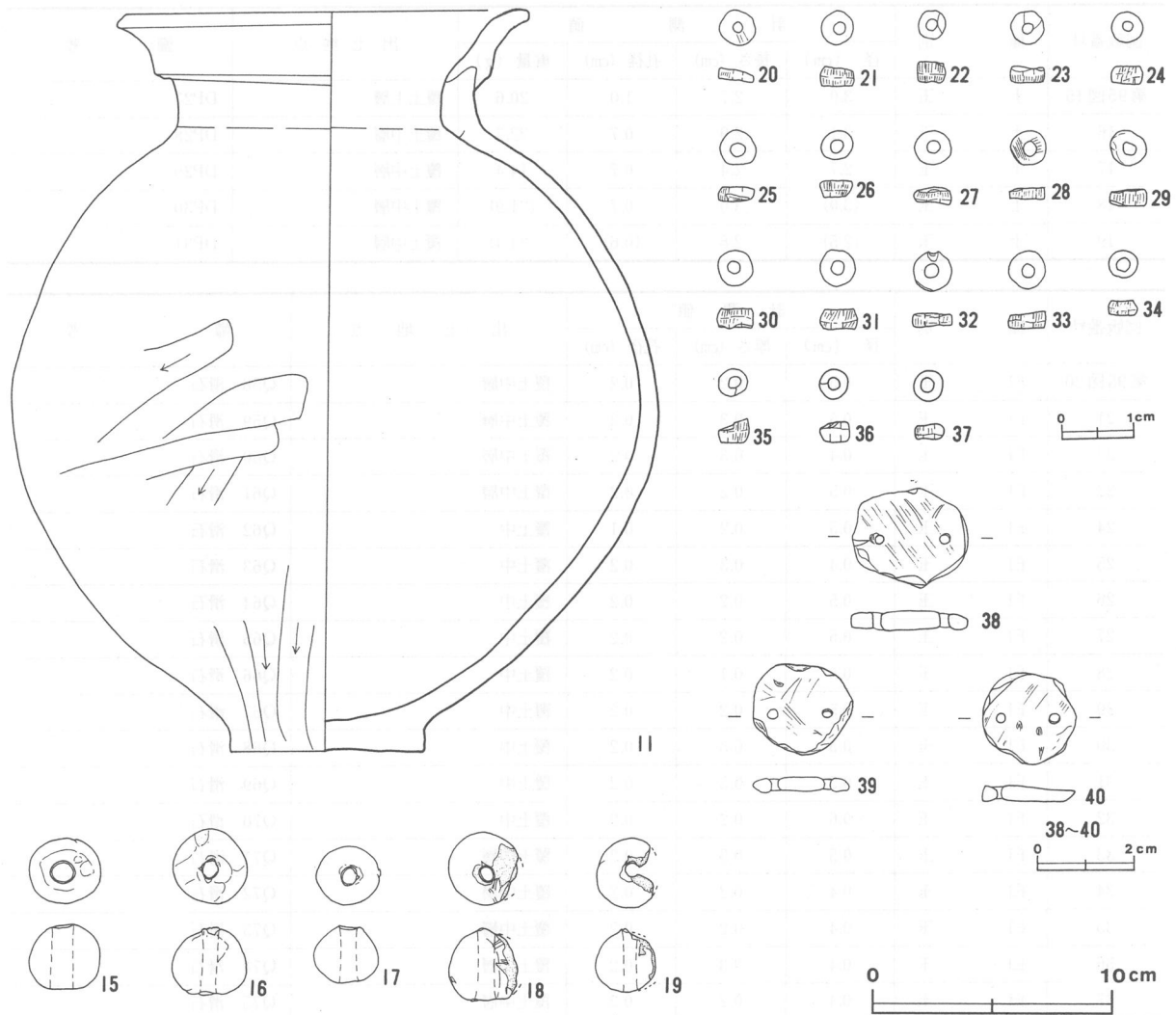
所見 床面に炭化材及び焼土がみられることから、本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第13号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図1	椀 土師器	A 12.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。底部外面へラ削り。	長石 にぶい黄橙色 普通	P100 100% 覆土中層
		B 7.2				
		C 4.2				
2	椀 土師器	A 13.2	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。底部外面へラ削り。内面剥離。	石英 にぶい橙色 普通	P101 95% 覆土中
		B 7.2				
		C 4.3				
3	椀 土師器	A 11.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。底部外面へラ削り。内面剥離。	石英 橙色 普通	P102 95% 覆土中層
		B 7.2				
		C 3.0				
4	坏 土師器	A 11.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部外面横ナデ。体部外面及び底部へラ削り後、ナデ。内面剥離。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P103 90% 覆土中層 二次焼成
		B 5.3				
5	坏 土師器	A 14.1	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部へラ削り後、ナデ。内面剥離。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P104 80% 覆土中層
		B 5.4				
		C 4.4				
6	坏 土師器	A [15.7]	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部へラ削り後、ナデ。内・外面黒色処理。	石英・雲母 黒色 普通	P105 50% 覆土中層
		B 5.9				
		C 4.1				
7	高坏 土師器	A 16.9	裾部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。脚部外面縦位のへラナデ。内面ナデ。坏部内面剥離。	長石・石英 明黄褐色 普通	P106 85% 覆土中層 二次焼成
		B 13.8				
		D 14.3				



第94図 第13号住居跡出土遺物実測図(1)



第95図 第13号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第94図 8	高坏 土師器	A 12.5 B (7.9)	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。坏部外面下位にわずかに稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。坏部内面剝離。	長石・石英にぶい橙色普通	P107 30% 覆土中層 二次焼成
9	埴 土師器	A 11.1 B 14.7 C 4.5	やや突出した平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部及び体部外面へラ削り後、ナデ。底部へラ削り。	長石・石英にぶい橙色普通	P108 100% 覆土中層
10	埴 土師器	A [10.8] B 12.8 C 3.4	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	体部外面へラ削り後、ナデ。底部へラ削り。	長石・石英にぶい橙色普通	P109 90% 覆土中層 二次焼成
第95図 11	壺 土師器	A 17.3 B 31.2 C 8.2	突出した平底。体部は球状を呈する。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び頸部へラ削り後、ナデ。体部下位縦位のへラ削り。	長石・雲母にぶい橙色普通	P110 95% 覆土中層
第94図 12	甕 土師器	A 15.1 B (24.5)	底部から体部にかけて欠損。体部は球状を呈する。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び頸部へラ削り後、ナデ。	長石・石英にぶい黄橙色普通	P111 75% 覆土中層
第95図 13	甕 土師器	A 16.0 B (16.2)	底部から体部にかけて欠損。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位よりやや上方に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び頸部へラ削り後、ナデ。	石英黒色普通	P112 60% 覆土中層
14	甕 土師器	A [21.0] B (8.9)	口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。口縁部外面に一条の沈線を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。頸部へラ削り後、ナデ。	長石・スコリアにぶい橙色普通	P113 10% 覆土上層

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第95図15	土 玉	3.0	2.7	1.0	20.6	覆土上層	DP27
16	土 玉	3.1	2.9	0.7	22.3	覆土中層	DP28
17	土 玉	2.7	2.4	0.7	14.4	覆土中層	DP29
18	土 玉	(3.0)	3.0	0.7	(21.9)	覆土中層	DP30
19	土 玉	(2.5)	2.6	(0.6)	(24.4)	覆土中層	DP31

図版番号	種 別	計 測 値			出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第95図20	白 玉	0.5	0.2	0.2	覆土中層	Q58 滑石
21	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土中層	Q59 滑石
22	白 玉	0.4	0.3	0.2	覆土中層	Q60 滑石
23	白 玉	0.5	0.2	0.2	覆土中層	Q61 滑石
24	白 玉	0.5	0.2	0.1	覆土中	Q62 滑石
25	白 玉	0.4	0.3	0.2	覆土中	Q63 滑石
26	白 玉	0.5	0.2	0.2	覆土中	Q64 滑石
27	白 玉	0.5	0.2	0.2	覆土中	Q65 滑石
28	白 玉	0.5	0.1	0.2	覆土中	Q66 滑石
29	白 玉	0.5	0.2	0.2	覆土中	Q67 滑石
30	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土中	Q68 滑石
31	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土中	Q69 滑石
32	白 玉	0.6	0.2	0.2	覆土中	Q70 滑石
33	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土中層	Q71 滑石
34	白 玉	0.4	0.2	0.2	覆土中層	Q72 滑石
35	白 玉	0.4	0.2	0.2	覆土中層	Q73 滑石
36	白 玉	0.4	0.3	0.2	覆土中層	Q74 滑石
37	白 玉	0.4	0.2	0.2	覆土中層	Q75 滑石

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第95図38	有孔円板	2.4	0.4	0.2	3.5	覆土中層	Q76 滑石
39	有孔円板	2.1	0.3	0.2	2.0	覆土中層	Q77 滑石
40	有孔円板	2.0	0.4	0.2	2.4	覆土中層	Q78 滑石

第15号住居跡 (第96図)

位置 調査区西部, E5h₁区。

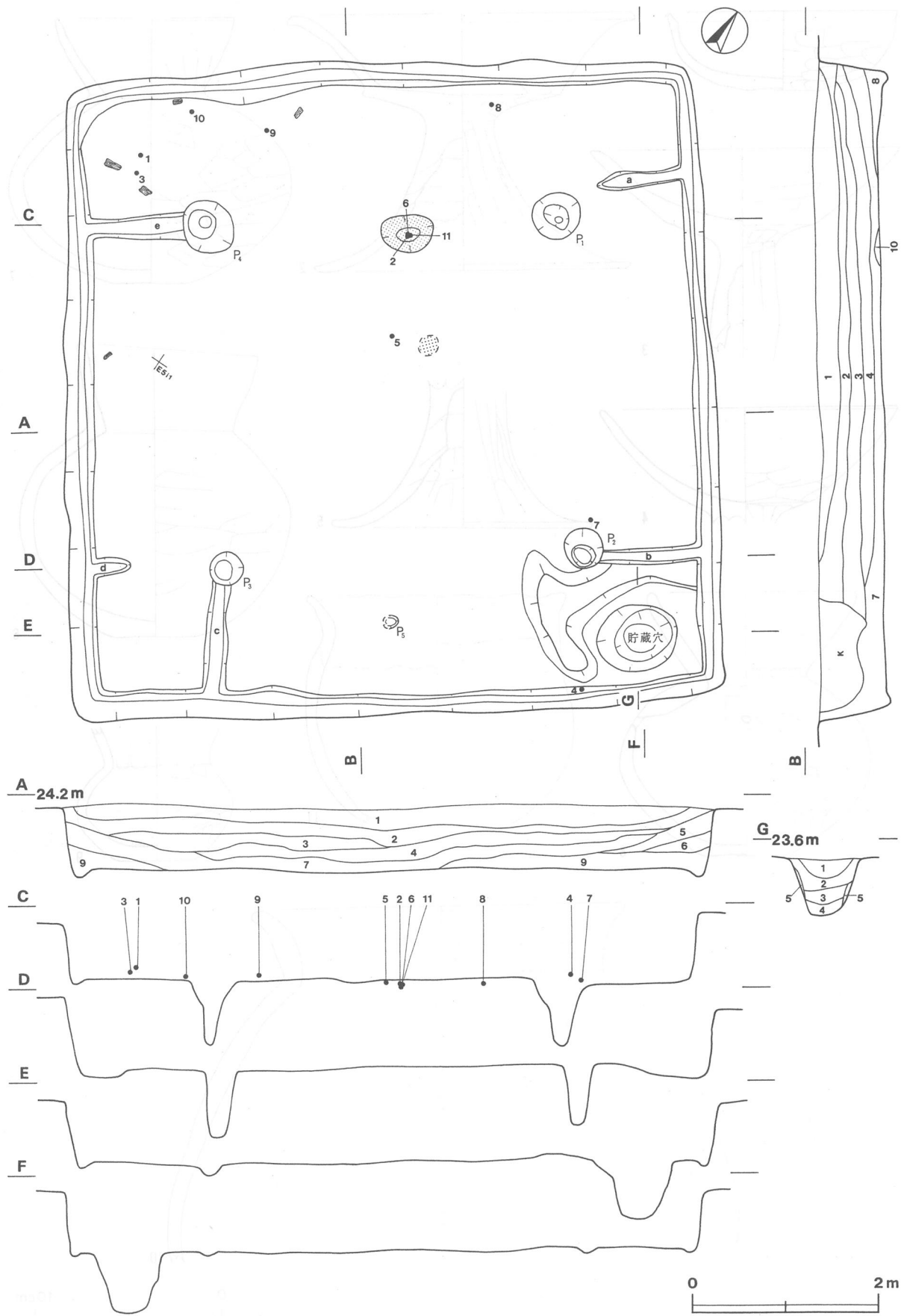
規模と平面形 長軸7.07m, 短軸7.05mの方形である。

主軸方向 N-38°-W

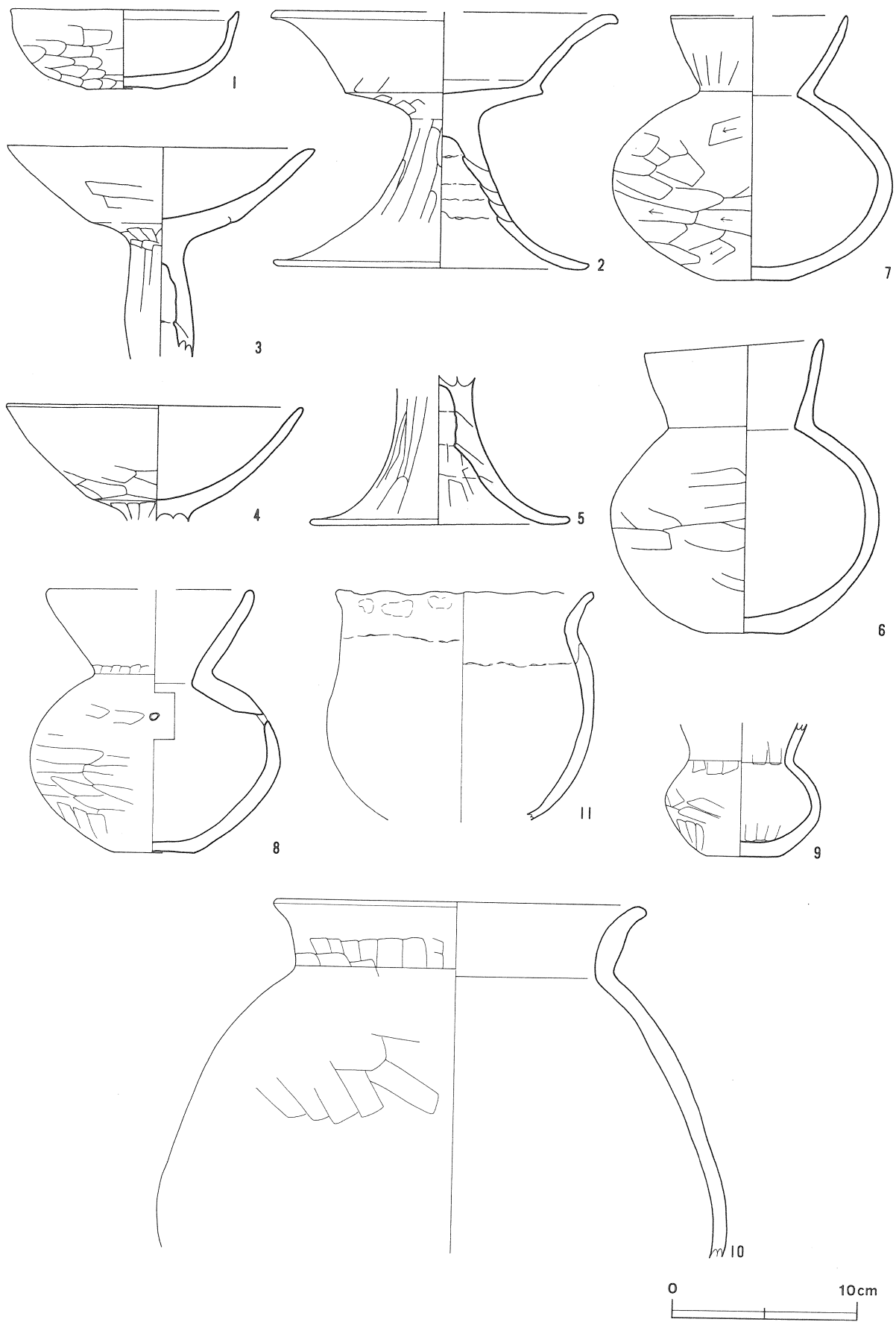
壁 壁高は52~73cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周している。上幅18~34cm, 下幅4~16cm, 深さ4~12cmで, 断面形はU字状である。

床 貯蔵穴を囲むように, 長軸196cm, 短軸54cmの不定形で, 高さ4cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦である。壁溝から中央部に向かって延びる溝5条を検出した。北東壁下から2条(a・b), 南東壁下から1条(c), 南西壁下から2条(d・e)の溝がそれぞれ中央部に向かっている。長さ66~146cm, 上幅14~28cm, 下幅4~14cm, 深さ4~10cmで, 断面形はU字状である。溝bはP₂, cはP₃, eはP₄に, それぞれ支柱穴と考えられるピットにつながっている。中央部に焼土塊が, 西コーナー部に炭化材がみられる。



第96図 第15号住居跡実測図



第97図 第15号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴 東コーナー部に位置し、径80cmの円形で、深さは68cmである。底面は平坦で、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, 炭化物・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 粘土粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は径38~54cmの円形、深さ65~72cmであり、規模と配置から支柱穴、P₅は径14cmの円形、深さ26cmであり、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 P₁とP₄を結んだ線のP₁寄りにある。長径56cm、短径40cmの楕円形で、床面を4cm掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

覆土 10層からなり、1, 2層及び8, 9, 10層は自然堆積である。3~7層はロームブロック・粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 9 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム粒子多量, 炭化物・粒子・粘土小ブロック少量

遺物 土師器片383点が出土している。第97図1の土師器坏, 3の高坏が西コーナー部, 4の高坏が東コーナー部の覆土下層から, 2の高坏, 6の埴, 11の小形甕が炉床面から, 5の高坏が中央部, 7の埴が斜位で北東壁寄り, 8・9の埴, 10の甕が北西壁寄りの床面から, それぞれ出土している。なお、滑石の細片(11.1g)が覆土中から出土している。

所見 床面に炭化材及び焼土がみられることから、本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第15号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第97図 1	坏 土師器	A 12.2 B 4.3 C 4.1	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部にいたる。口縁部はわずかに外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。底部外面へラ削り。	長石・石英 明黄褐色 普通	P114 90% 覆土下層
2	高坏 土師器	A [18.8] B 13.8 D 17.1 E 8.0	裾部及び口縁部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部外面に強い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。脚部外面縦位のへラナデ。内面ナデ。坏部内面剝離。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P115 90% 炉床面 二次焼成
3	高坏 土師器	A 16.7 B (11.3) E (6.0)	裾部欠損。脚柱部はエンタシス状を呈する。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。脚柱部外面縦位のへラナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P116 60% 覆土下層
4	高坏 土師器	A 16.1 B (6.2)	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P117 50% 覆土下層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第97図 5	高坏 土師器	D 14.0 E (8.1)	坏部欠損。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面ヘラナデ。	長石・石英 灰褐色 普通	P118 50% 床面
6	埴 土師器	A 9.8 B 15.9 C 4.5	体部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位よりやや上方に持つ。口縁部はわずかに外傾する。	体部外面及び底部ヘラ削り後、ナデ。体部内面剝離。	石英・雲母 浅黄色 普通	P119 95% 炉床面 二次焼成
7	埴 土師器	A (9.8) B 14.2 C 3.7	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部はわずかに内彎する。	口縁部・体部外面及び底部ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英 灰褐色 普通	P120 95% 床面
8	埴 土師器	A [11.3] B 14.3 C 4.3	体部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部はわずかに内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部・体部外面及び底部ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P121 90% 床面 二次焼成
9	埴 土師器	B (7.2) C 4.3	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。底部ヘラ削り。	石英 にぶい橙色 普通	P122 80% 床面
10	甕 土師器	A 20.3 B 19.9	底部から体部にかけて欠損。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。	長石 にぶい褐色 普通	P123 60% 床面
11	小形甕 土師器	A 14.1 B (12.5)	底部欠損。体部は球状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部外面に指頭圧痕を残す。体部上位の内・外面に輪積痕を残す。内・外面剝離。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P124 60% 床面 二次焼成

第16号住居跡 (第98図)

位置 調査区西部, D3b₉区。

規模と平面形 長軸6.38m, 短軸4.65mの長方形である。

主軸方向 N-21°-W

壁 壁高は40~46cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅6~24cm, 下幅2~11cm, 深さ6~12cmで、断面形はU字状である。

床 出入口施設に伴うピット (P₁) のまわりに、長軸128cm, 短軸118cmの不定形で、高さ4cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で、中央部が踏み固められている。南壁・西壁寄りに焼土塊がみられる。

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、径80cmの円形で、深さは52cmである。底面は平坦で、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 明褐色 ローム粒子多量

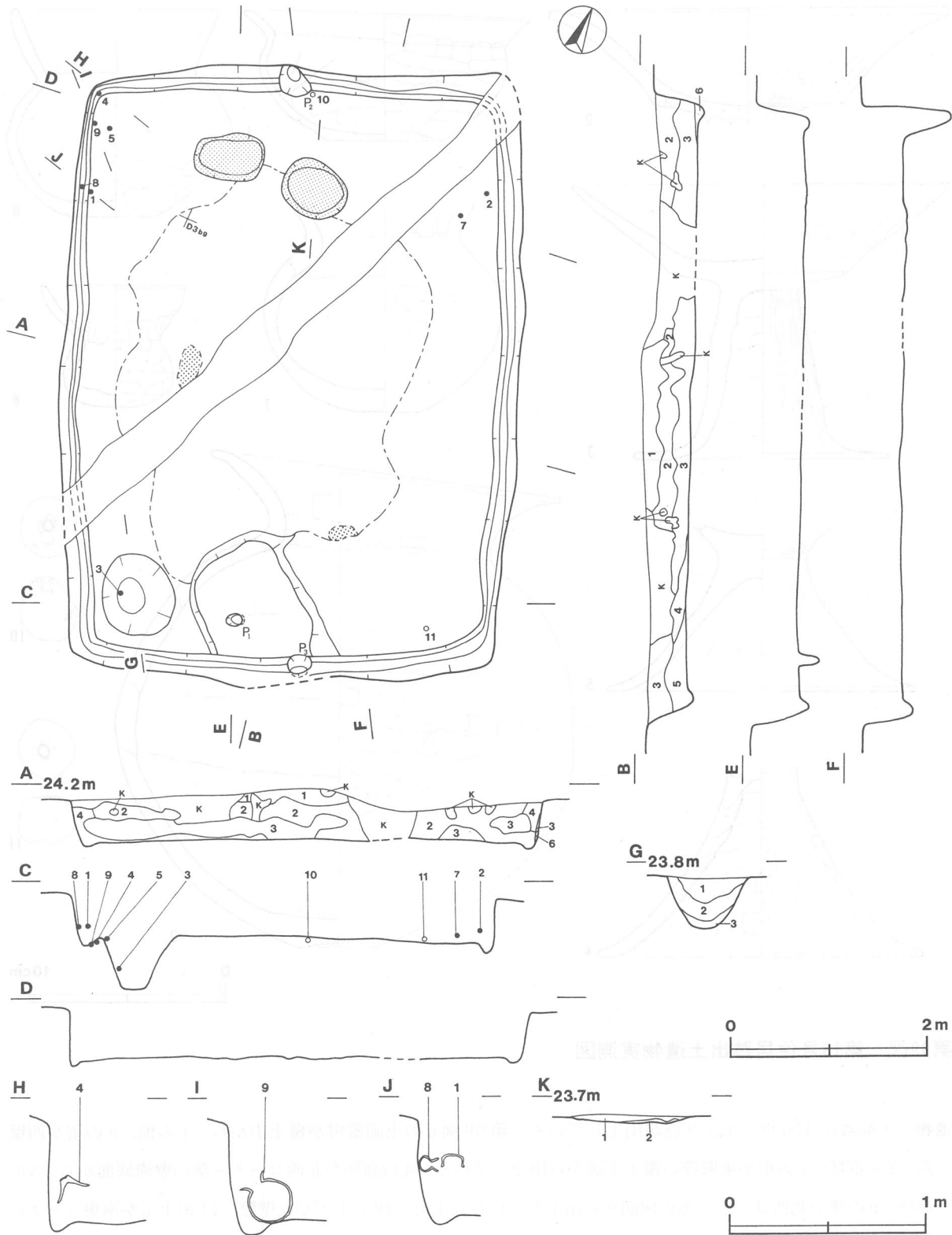
ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は径16cm, 深さ12cmの円形で、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P₂は長径22cm, 短径38cmの楕円形, 深さ50cmであり, P₃は径22cmの円形, 深さ20cmであり, ともに対面する壁の中心に位置する支柱穴と考えられる。

炉 2か所。北壁寄りの中央部に炉1, 北壁際の西寄りに炉2を検出した。炉1は径68cmの円形で、床面を4cmを掘りくぼめている。炉2は長径72cm, 短径48cmの楕円形で、床面を4cmを掘りくぼめている。炉床はともに赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子多量, ローム粒子少量

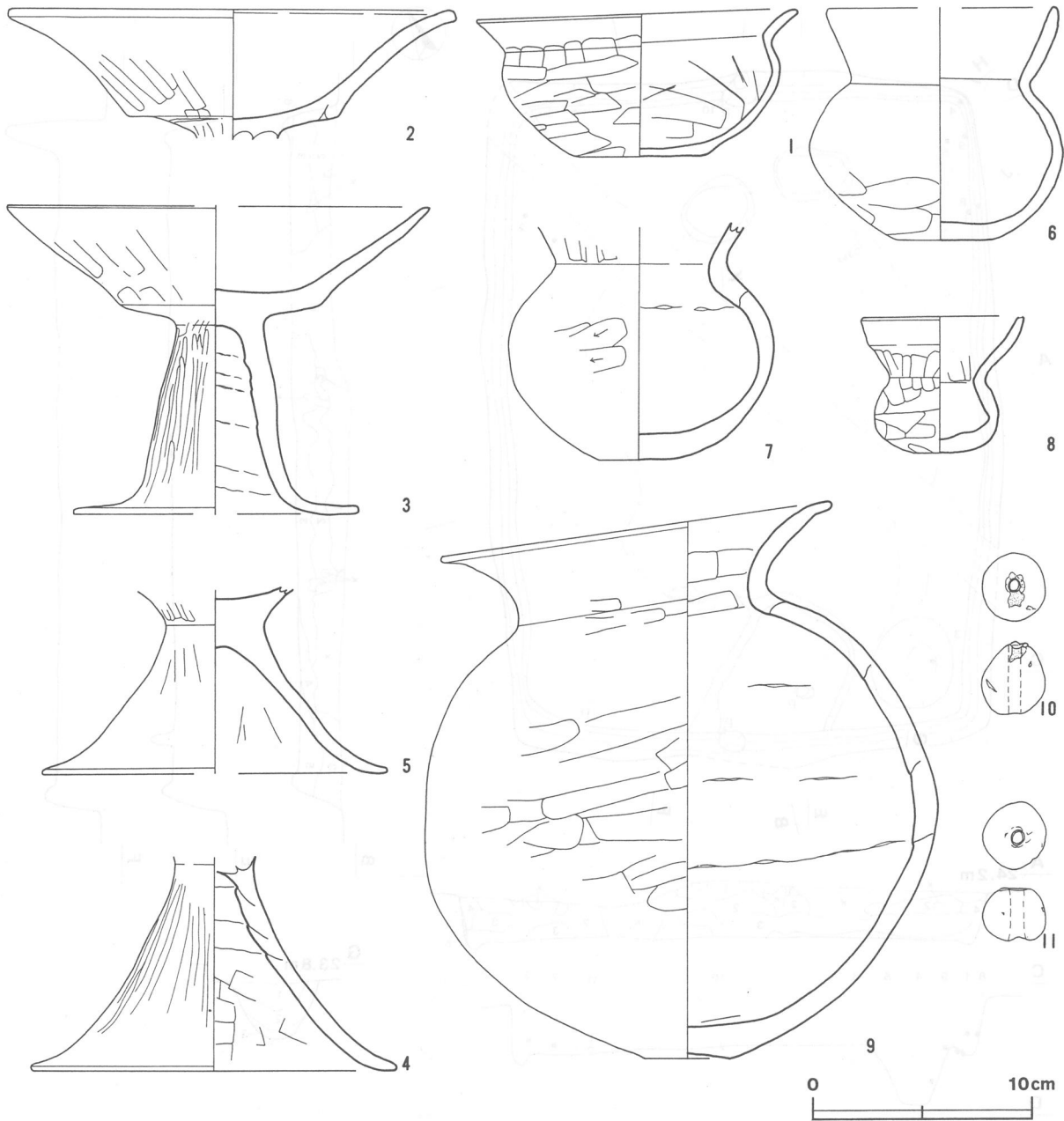
覆土 6層からなり、ロームブロック・粒子を含む人為堆積である。



第98図 第16号住居跡実測

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|-------|--|
| 1 黒褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 6 明褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 |



第99図 第16号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 310点、土玉 2点が出土している。第99図6の土師器罎が覆土中から、1の椀、8の罎が西壁際、2の高坏、7の罎が東壁際の覆土下層から出土している。4の高坏が北西コーナー部の壁溝底面から、5の高坏、9の甕が北西コーナー部の床面から出土している。また、10の土玉が北壁際、11の土玉が南東コーナー部の床面から出土している。なお、滑石の細片（2.5g）が覆土中から出土している。

所見 中央部に焼土塊がみられることから、本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第16号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第99図 1	坏 土 師 器	A 14.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は外傾する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。底部外面へラ削り。	長石・雲母 浅黄橙色 普通	P125 100% 覆土下層
		B 6.3				
		C 5.9				
2	高 坏 土 師 器	A 20.6	脚部欠損。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部外面に強い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P126 45% 覆土下層
		B (5.9)				
3	高 坏 土 師 器	A [19.3]	坏部及び裾部一部欠損。脚部はエンタシス状を呈する。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。脚柱部外面縦位のへラ磨き。	長石 にぶい黄橙色 普通	P127 60% 貯蔵穴覆土中層
		B 14.1				
		D [13.0]				
		E 8.7				
4	高 坏 土 師 器	D 16.8	坏部欠損。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面へラナデ。	長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P128 45% 壁溝底面
		E (9.8)				
5	高 坏 土 師 器	B (8.5)	脚部破片。脚部は短くラッパ状に開く。	脚部内・外面へラナデ。	長石 橙色 普通	P129 20% 床面
		D [15.8]				
		E 6.5				
6	罎 土 師 器	A [10.6]	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	体部外面及び底部へラ削り後ナデ。内・外面剝離。	長石・石英 浅黄色 普通	P130 85% 覆土中 二次焼成
		B 10.7				
		C 4.2				
7	罎 土 師 器	B (10.9)	体部から口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面及び底部へラ削り後、ナデ。	長石 にぶい橙色 普通	P131 60% 覆土下層
		C 3.8				
8	罎 土 師 器	A 7.4	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を口縁部に持つ。口縁部はわずかに内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部・体部外面及び底部へラ削り後、ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P132 95% 覆土下層
		B 6.3				
		C 2.0				
9	甕 土 師 器	A 18.2	口縁部一部欠損。平底。体部は球状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部内面へラ削り後ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。底部へラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P133 95% 床面
		B 25.5				
		C 4.0				

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第99図10	土 玉	2.9	3.3	0.6	24.4	床面	DP32
11	土 玉	2.8	2.4	0.6	19.4	床面	DP33

第17号住居跡 (第100図)

位置 調査区西部, D4b₁区。

規模と平面形 本跡の西部が攪乱により壊されているため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺4.65mほどの方形か長方形と思われる。

主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は42~47cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

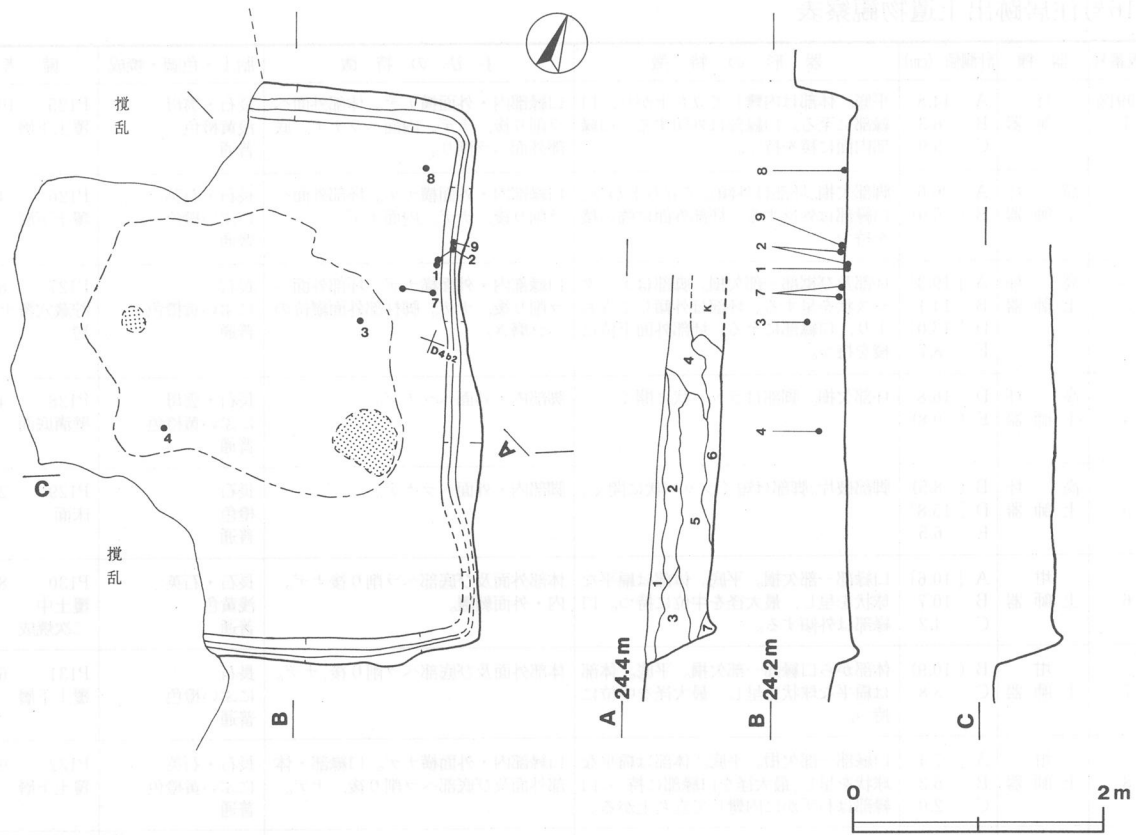
壁溝 本跡の検出範囲は巡っている。上幅14~30cm, 下幅2~10cm, 深さ8~10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。東壁際及び中央部に焼土塊がみられる。

覆土 7層からなり、ローム粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 明褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量



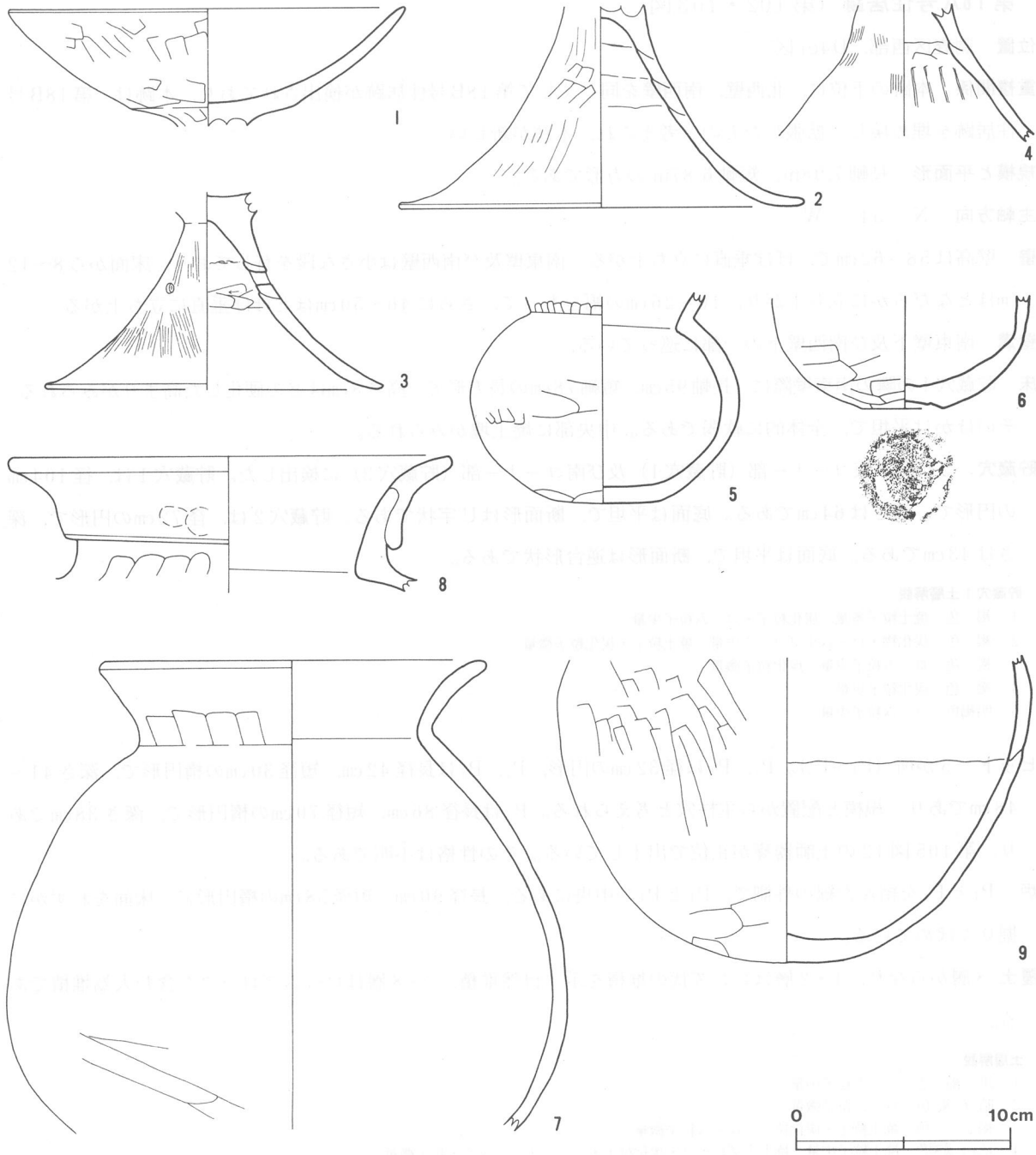
第100図 第17号住居跡実測図

遺物 土師器片 667点が出土している。第101図5・6の土師器埴が覆土中から、3の高坏が東壁寄りの覆土上層から、4の高坏が中央部の覆土中層から、2の高坏、9の甕が東壁下の壁溝覆土上層から、1の高坏、7の甕が東壁際、8の壺が北東コーナー部の床面から出土している。なお、滑石の細片(2.7g)が覆土中から出土している。

所見 東壁際及び中央部に焼土塊がみられることから、本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第17号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第101図 1	高坏 土師器	A 18.5 B (5.5)	坏部の破片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・スコリアにぶい褐色普通	P134 30% 床面
2	高坏 土師器	D 19.1 E (9.5)	脚部の破片。脚部はラップ状に開く。	脚部外面ヘラナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P135 40% 壁溝覆土上層
3	高坏 土師器	D [15.8] E 9.3	脚部はラップ状に開く。脚部中位に2孔を穿つ。1孔は貫通していない。	脚部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・スコリアにぶい黄褐色普通	P136 40% 覆土上層
4	高坏 土師器	E (6.6)	脚部の破片。脚部はラップ状に開く。	脚部内・外面ヘラナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P137 30% 覆土中層 二次焼成
5	埴 土師器	B (9.8) C 5.0	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈する。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。底部ヘラ削り。内面剝離。	長石・石英にぶい橙色普通	P138 80% 覆土中 二次焼成



第101図 第17号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第101図 6	埴 土師器	B (5.5) C 3.8	底部から体部下位の破片。平底。底部の一部に布目痕が残る。体部は扁平な球状を呈すると思われる。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面剥離。	長石・石英 黄橙色 普通	P139 20% 覆土中 二次焼成
7	甕 土師器	A 18.1 B (22.1)	底部から体部下位欠損。口縁部はわずかに外反する。	体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P140 60% 床面
8	壺 土師器	A 20.8 B (6.0)	口縁部破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面にわずかに指頭圧痕を残す。頸部へラ削り後、ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P141 15% 床面
9	甕 土師器	B (14.4)	底部から体部下位の破片。丸底。	体部外面及び底部へラ削り後、ナデ。外面煤付着・内面剥離。	長石・石英 いぶい橙色 普通	P142 35% 壁溝覆土上層 二次焼成

第18A号住居跡 (第102・103図)

位置 調査区西部, D4e1区。

重複関係 本跡の下位に, 北西壁, 南西壁を同じくして第18B号住居跡が検出されており, 本跡は, 第18B号住居跡を埋め戻し, 拡張したものと考えられ, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸7.08m, 短軸6.87mの方形である。

主軸方向 N-54°-W

壁 壁高は58~62cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。南東壁及び南西壁は小さな段を有しており, 床面から8~12cmほどならかに立ち上がり, 10~26cmの幅をもって, さらに46~50cmほどほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南東壁下及び南西壁下の一部に巡っている。

床 貯蔵穴1の隣の南東壁際に, 長軸95cm, 短軸78cmの長方形で, 高さ8cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で, 全体的に軟弱である。中央部に焼土塊がみられる。

貯蔵穴 2か所。東コーナー部(貯蔵穴1)及び南コーナー部(貯蔵穴2)に検出した。貯蔵穴1は, 径104cmの円形で, 深さは64cmである。底面は平坦で, 断面形はU字状である。貯蔵穴2は, 径72cmの円形で, 深さは43cmである。底面は平坦で, 断面形は逆台形状である。

貯蔵穴1土層解説

- 1 褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 2 褐色 炭化物・ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 炭化粒子少量
- 5 明褐色 ローム粒子少量

ピット 5か所(P₁~P₅)。P₁, P₄は径32cmの円形, P₂, P₃は長径42cm, 短径30cmの楕円形で, 深さ41~48cmであり, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P₅は長径86cm, 短径70cmの楕円形で, 深さ38cmであり, 第105図12の土師器甕が正位で出土している。その性格は不明である。

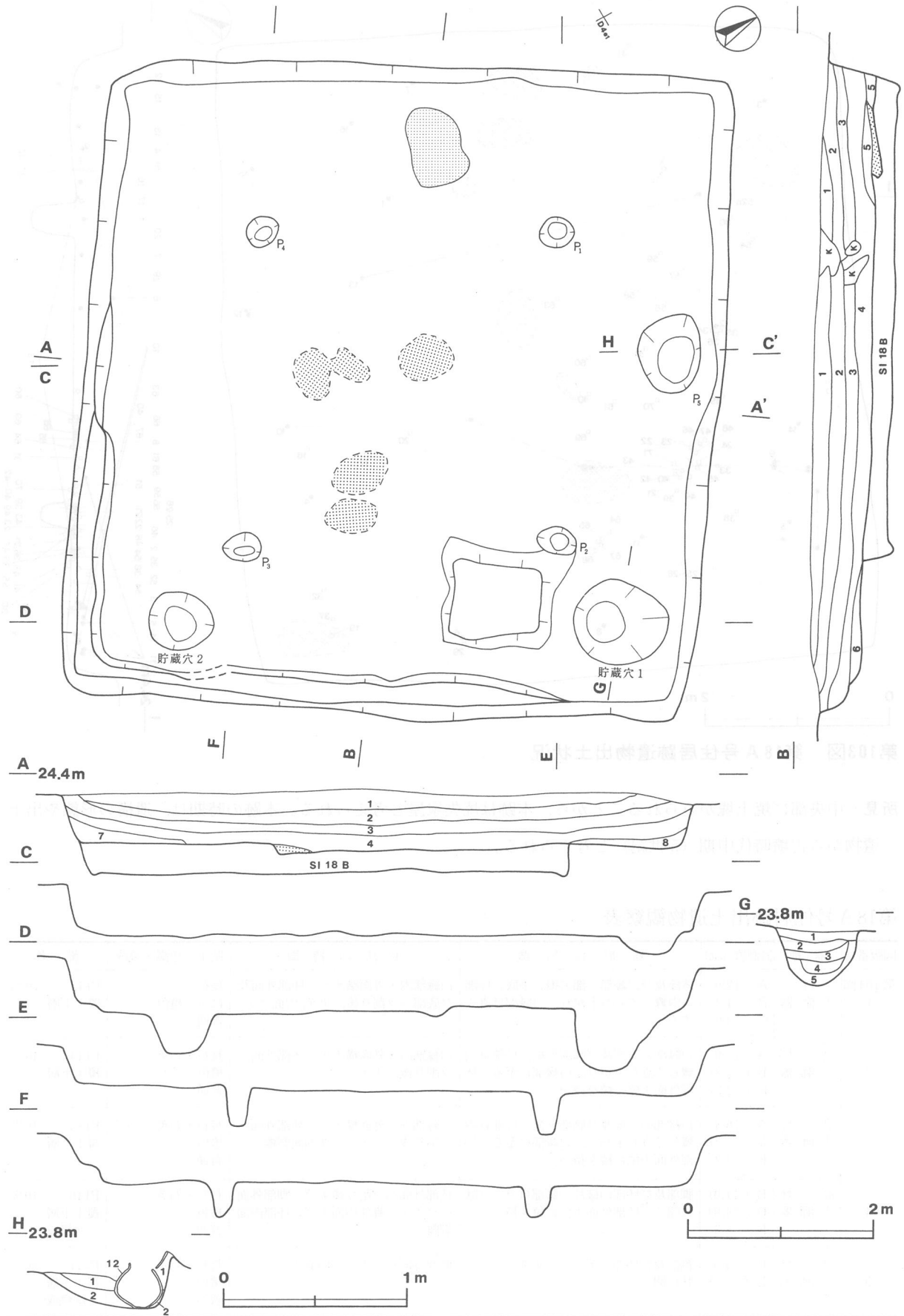
炉 P₁とP₄を結んだ線の外側で, P₁とP₄の中央にある。長径90cm, 短径58cmの楕円形で, 床面をわずかに掘りくぼめている。

覆土 8層からなり, 1・2層はレンズ状の堆積を示す自然堆積, 3~8層はロームブロックを含む人為堆積である。

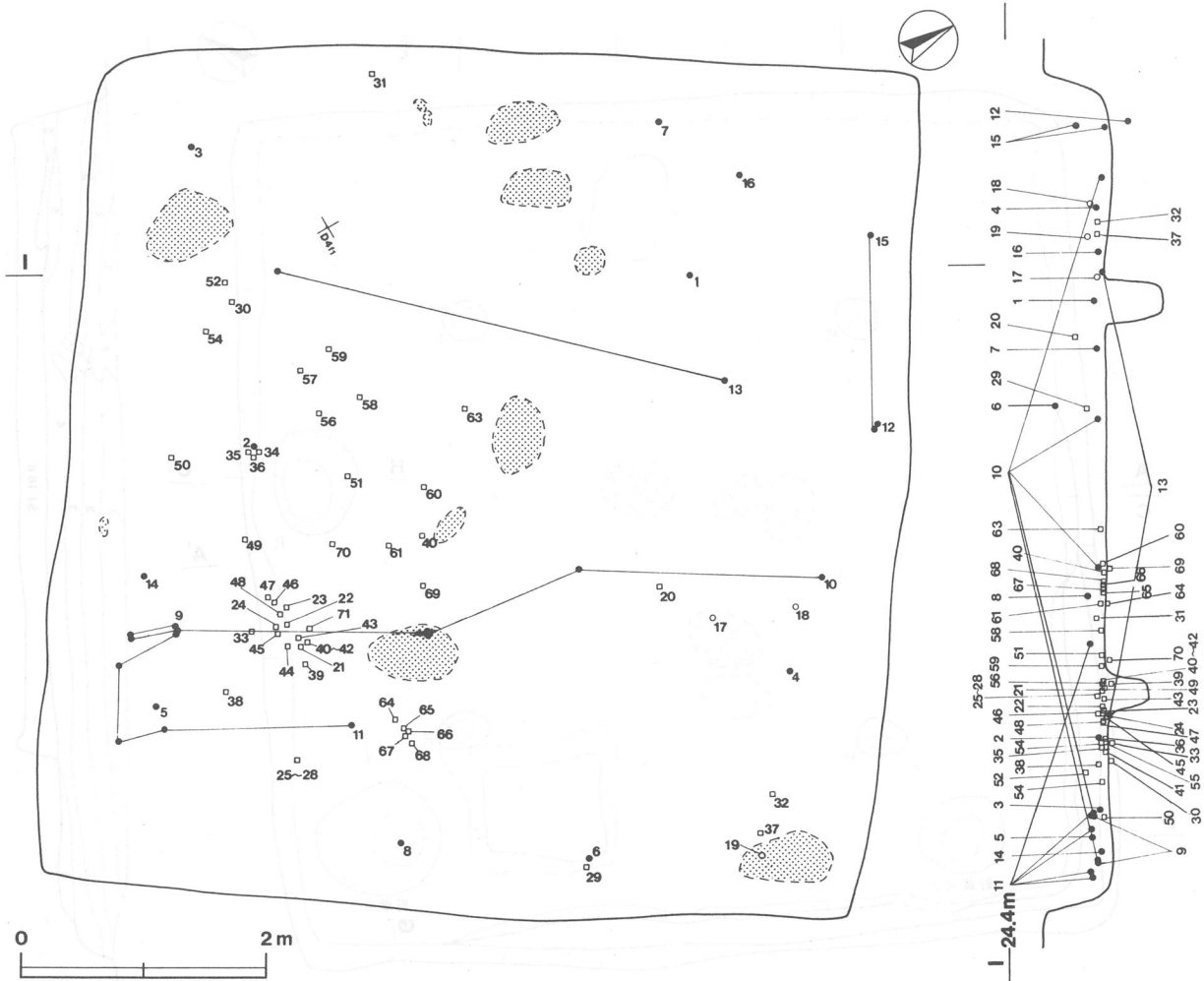
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量
- 2 暗赤褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 にぶい黄褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・粒子微量
- 5 褐色 焼土大ブロック・粒子多量, 焼土小ブロック少量, 炭化物・粒子・ローム粒子微量
- 6 浅黄褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 7 褐色 炭化物中量, 焼土粒子・ローム中ブロック・粒子微量
- 8 明黄褐色 焼土粒子・ローム中ブロック・粒子微量

遺物 土師器片116点, 土玉3点, 砥石1点, 白玉52点が出土している。第104図6の土師器高坏が南東壁際の覆土上層から, 1の坏が北西壁寄り, 3の高坏が西コーナー部, 5の高坏・9・11・14の甕が南西壁際, 7の高坏が北西壁際, 8の埴が南東壁際, 10の甕が南西壁・北東壁寄り及び中央部に散在した状態で, 15の甕が北東壁際, 16の小形甕が北コーナー部の覆土下層から出土している。13の甕が南西壁・北東壁寄りの床面から散在した状態で出土している。12の甕がP₅の底面から正位で出土している。また, 17・18の土玉が北東壁際, 19の土玉が東コーナー部の覆土下層から, 20の砥石が北東壁寄りの覆土中層から出土している。21~72の白玉が南コーナー部寄りから南東・南西壁にかけてほぼまとまって, 床面及び覆土下層から出土している。なお, 滑石の細片(5.2g)が床面から覆土下層にかけて出土している。



第102図 第18 A号住居跡実測図

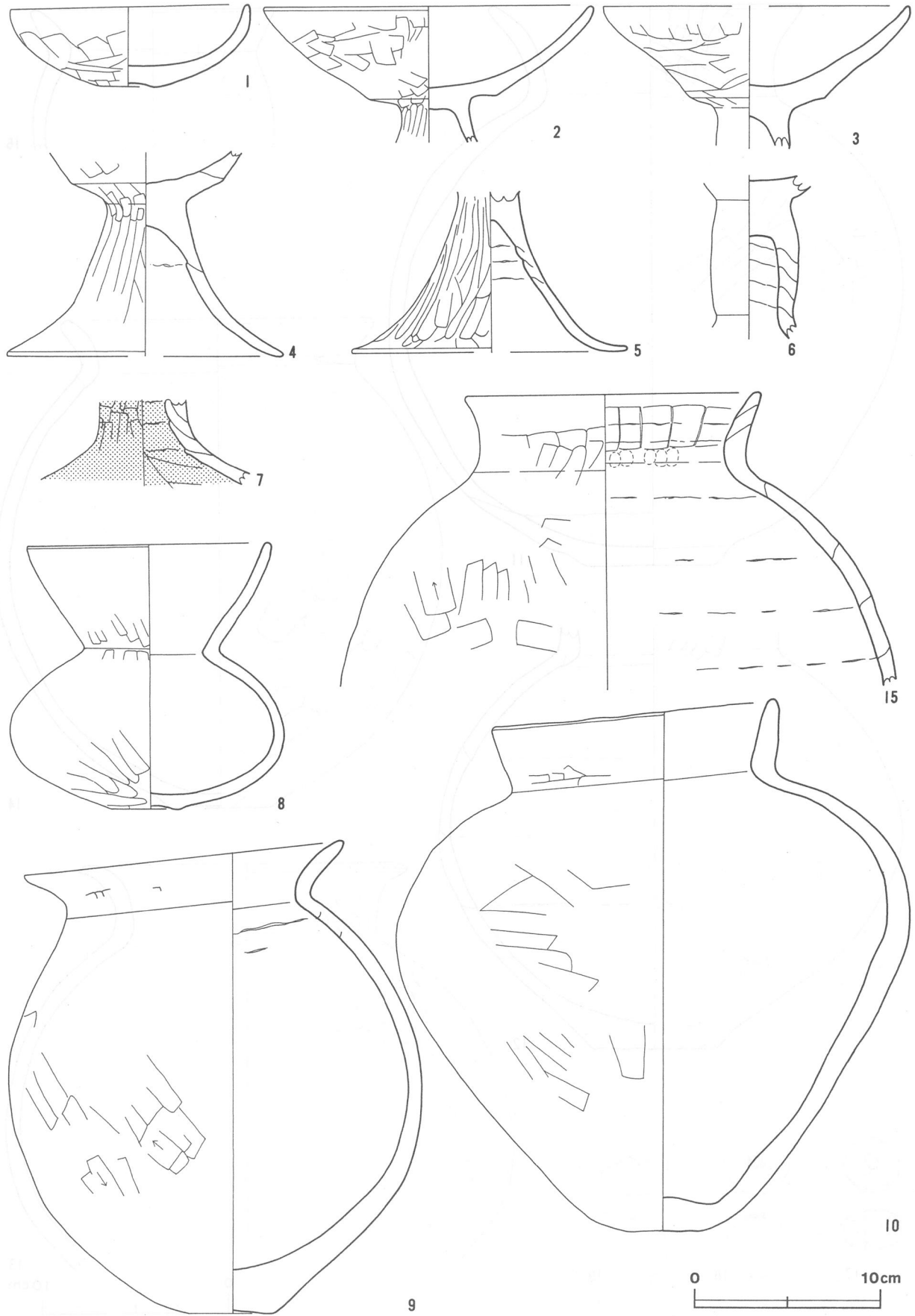


第103図 第18A号住居跡遺物出土状況

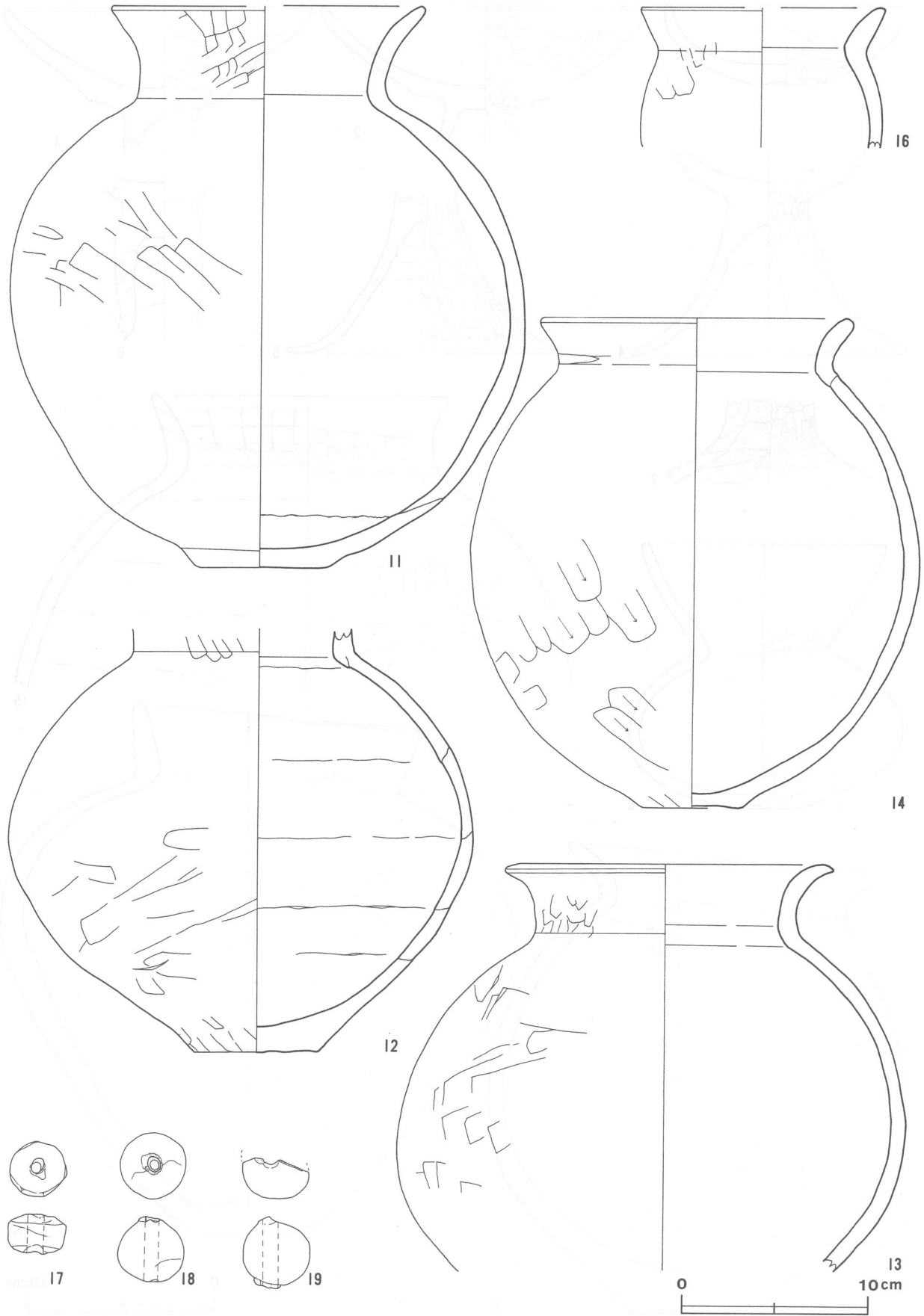
所見 中央部に焼土塊がみられることから、本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第18A号住居跡出土遺物観察表

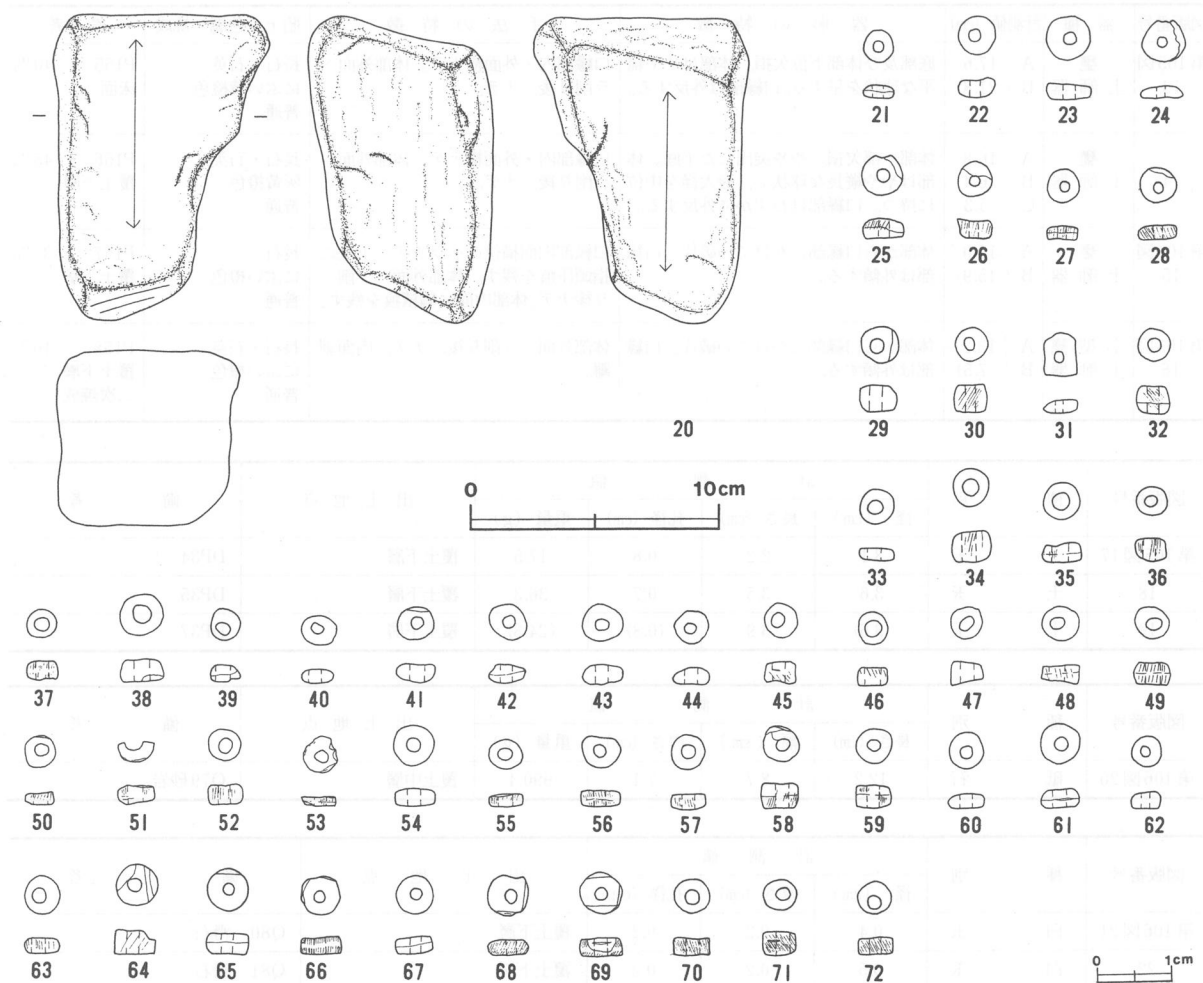
図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図 1	坏土師器	A 12.9 B 4.3 C 3.0	体部及び口縁部一部欠損。平底。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面及び底部へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石にぶい 橙色 普通	P143 70% 覆土下層
2	高坏土師器	A 17.9 B (7.3) E (2.3)	口縁部の一部及び脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P144 40% 覆土下層
3	高坏土師器	A [16.4] B (7.2) E (2.2)	口縁部の一部及び脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。坏部内面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P145 40% 覆土下層
4	高坏土師器	B (11.0) D [14.9] E 8.3	脚部及び坏部の破片。脚部はラップ状に開く。坏部外面下位に稜を持つ。	坏部外面へラ削り後ナデ。脚部外面へラナデ。脚部内面ナデ。坏部内面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P146 40% 覆土下層 二次焼成
5	高坏土師器	D [14.9] E (8.7)	裾部及び坏部一部欠損。脚部はラップ状に開く。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P147 40% 覆土下層 二次焼成



第104図 第18A号住居跡出土遺物実測図(1)



第105図 第18A号住居跡出土遺物実測図(2)



第106図 第18A号住居跡出土遺物実測図(3)

第18A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第104図 6	高坏土師器	E (8.8)	脚柱部の破片。エンタシス状を呈する。	外面剝離のため調整法不明。	長石 灰白色 普通	P148 30% 覆土上層
7	高坏土師器	E (4.5)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラナデ。内面ナデ。 内・外面赤彩。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P149 20% 覆土下層
8	埴土師器	A 13.1 B 14.4 C 3.3	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部はわずかに内彎する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P150 80% 覆土下層
9	甕土師器	A 17.3 B 25.4 C 4.6	体部一部欠損。平底。体部は球状を呈する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び底部ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P151 35% 覆土下層
10	甕土師器	A 15.6 B 28.8 C 3.9	体部一部欠損。平底。体部はやや縦長な球状で、最大径を上位に持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P152 60% 覆土下層
第105図 11	甕土師器	A [17.0] B 30.4 C 7.3	体部一部欠損。やや突出した平底。体部は球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P153 60% 覆土下層
12	甕土師器	B (22.8) C 6.8	口縁部欠損。やや突出した平底。体部はやや扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面に輪積痕を残す。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P154 95% 覆土下層

実穀寺子遺跡 1

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第105図 13	甕 土師器	A 17.6 B (21.8)	底部及び体部下位欠損。体部はやや扁平な球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英にぶい黄橙色普通	P155 40% 床面
14	甕 土師器	A 16.8 B 26.4 C 5.3	体部一部欠損。やや突出した平底。体部はやや縦長な球状で、最大径を中位に持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英灰黄橙色普通	P156 45% 覆土下層
第104図 15	甕 土師器	A 16.0 B (15.9)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外傾する。	口縁部内面横位のへらナデ。下位に指頭圧痕を残す。体部外面へラ削り後ナデ。体部内面に輪積痕を残す。	長石にぶい橙色普通	P157 30% 覆土下層
第105図 16	小型甕 土師器	A [13.2] B (7.5)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外傾する。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面剝離。	長石・石英にぶい橙色普通	P158 10% 覆土下層 二次焼成

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第105図17	土玉	3.1	2.2	0.8	17.5	覆土下層	DP34
18	土玉	3.6	3.5	0.7	36.3	覆土下層	DP35
19	土玉	(3.6)	3.9	(0.8)	(24.3)	覆土下層	DP37

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第106図20	砥石	12.2	8.7	7.1	990.4	覆土中層	Q79 砂岩

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第106図21	白玉	0.4	0.2	0.2	覆土下層	Q80 滑石
22	白玉	0.5	0.2	0.2	覆土下層	Q81 滑石
23	白玉	0.6	0.2	0.2	覆土下層	Q82 滑石
24	白玉	0.6	0.2	0.2	覆土下層	Q83 滑石
25	白玉	0.5	0.2	0.1	覆土下層	Q84 滑石
26	白玉	0.5	0.3	0.1	覆土下層	Q85 滑石
27	白玉	0.4	0.2	0.1	覆土下層	Q86 滑石
28	白玉	0.5	0.2	0.1	覆土下層	Q87 滑石
29	白玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q88 滑石
30	白玉	0.5	0.4	0.2	覆土下層	Q89 滑石
31	白玉	0.5	0.1	0.1	覆土下層	Q90 滑石
32	白玉	0.4	0.3	0.2	覆土下層	Q91 滑石
33	白玉	0.6	0.2	0.2	覆土下層	Q92 滑石
34	白玉	0.5	0.2	0.4	覆土下層	Q93 滑石
35	白玉	0.5	0.2	0.3	覆土下層	Q94 滑石
36	白玉	0.5	0.2	0.3	覆土下層	Q95 滑石
37	白玉	0.4	0.2	0.3	覆土下層	Q96 滑石
38	白玉	0.6	0.3	0.3	覆土下層	Q97 滑石
39	白玉	0.5	0.2	0.2	覆土下層	Q98 滑石
40	白玉	0.5	0.2	0.2	覆土下層	Q99 滑石
41	白玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q10 滑石
42	白玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q10 滑石
43	白玉	0.6	0.3	0.2	覆土下層	Q102 滑石
44	白玉	0.5	0.2	0.2	覆土下層	Q103 滑石
45	白玉	0.6	0.3	0.2	覆土下層	Q104 滑石

図版番号	種 別	計 測 値			出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第106図46	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q105 滑石
47	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q106 滑石
48	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q107 滑石
49	白 玉	0.4	0.2	0.2	覆土下層	Q108 滑石
50	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q109 滑石
51	白 玉	0.5	0.2	0.2	覆土下層	Q110 滑石
52	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q111 滑石
53	白 玉	0.5	0.2	0.2	覆土下層	Q112 滑石
54	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q113 滑石
55	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q114 滑石
56	白 玉	0.5	0.2	0.2	覆土下層	Q115 滑石
57	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q116 滑石
58	白 玉	0.5	0.4	0.2	覆土下層	Q117 滑石
59	白 玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q118 滑石
60	白 玉	0.5	0.2	0.2	覆土下層	Q119 滑石
61	白 玉	0.6	0.3	0.2	覆土下層	Q120 滑石
62	白 玉	0.4	0.3	0.1	覆土下層	Q121 滑石
63	白 玉	0.5	0.2	0.2	覆土下層	Q122 滑石
64	白 玉	0.6	0.3	0.2	覆土下層	Q123 滑石
65	白 玉	0.6	0.3	0.2	覆土下層	Q124 滑石
66	白 玉	0.5	0.2	0.2	覆土下層	Q125 滑石
67	白 玉	0.5	0.2	0.1	覆土下層	Q126 滑石
68	白 玉	0.5	0.2	0.1	覆土下層	Q127 滑石
69	白 玉	0.6	0.3	0.2	覆土下層	Q128 滑石
70	白 玉	0.5	0.2	0.2	覆土下層	Q129 滑石
71	白 玉	0.5	0.4	0.2	覆土下層	Q130 滑石
72	白 玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q131 滑石

第18B号住居跡 (第107図)

位置 調査区西部, D4f₁区。

重複関係 本跡の上部に, 北西壁, 南西壁を同じくして第18A号住居跡が検出されており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸5.56m, 短軸5.46mの方形である。

主軸方向 N-54°-W

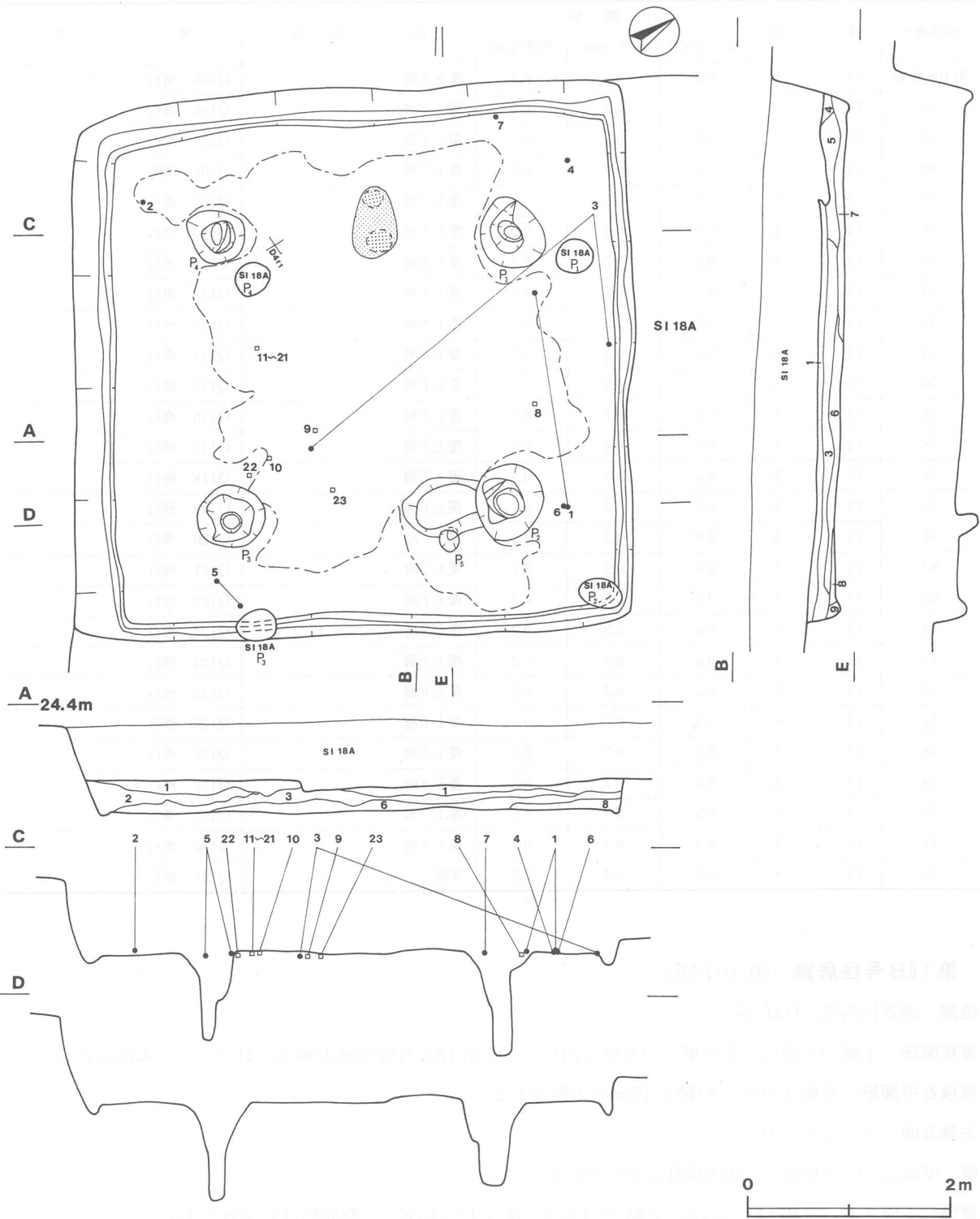
壁 壁高は78~86cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅18~42cm, 下幅2~12cm, 深さ4~16cmで, 断面形はU字状である。

床 出入口施設に伴うピット (P₅) の前方に, 長径72cm, 短径58cmの楕円形で, 高さ8cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で, 炉の周囲及び支柱穴の内側が踏み固められている。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は, 径54~70cmの円形で, 深さ86~102cmであり, 規模と配置から支柱穴と考えられる。P₅は径22cmの円形で, 深さ22cmであり, 位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 P₁とP₄を結んだ線上の中央に位置する。長径72cm, 短径42cmの楕円形で, 床面をわずかに掘りくぼめている。

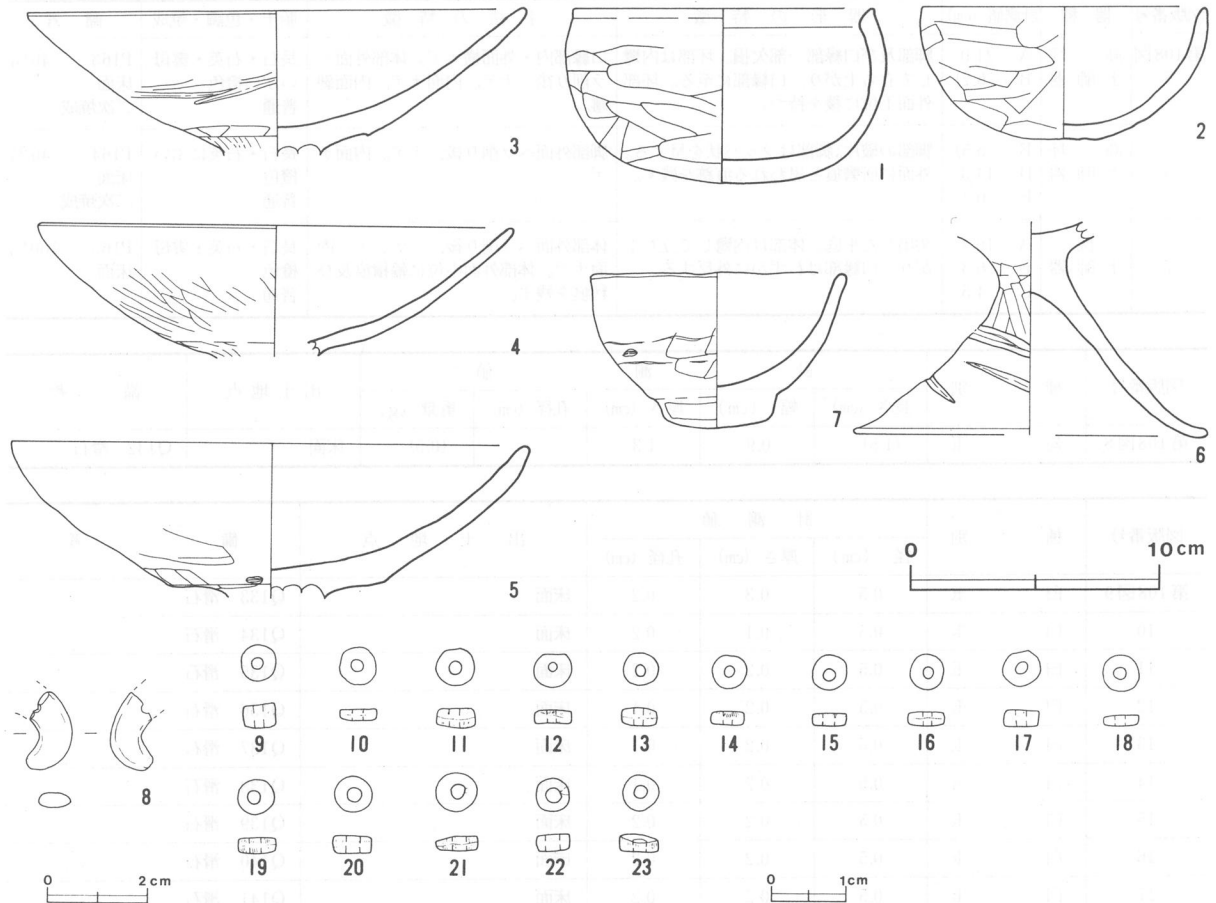


第107図 第18B号住居跡実測図

覆土 9層からなり、ロームブロック・粒子を含む人為堆積である。1層はしまりがあり、第18A号住居跡の貼り床であると思われる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック・粒子中量, 炭化粒子少量 | 6 褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量 | 7 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック・粒子中量, 炭化粒子少量 | 8 暗褐色 | 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | 焼土粒子・ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子微量 | 9 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 5 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 | | |



第108図 第18B号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 116点，白玉 15点，石製模造品 1点（勾玉）が出土している。第108図2の土師器坏が西コーナー部の覆土下層から，1の碗が北東壁寄り，3の高坏が北東壁際と中央部に散在して，4の高坏及び7の完形の碗が正位で北コーナー部から，5の高坏が南東壁際，6の高坏が北東壁際の床面から出土している。また，8の勾玉が北東壁寄り，9～23の白玉が南コーナー部寄りから南東・南西壁にほぼまとまって床面から出土している。なお，滑石の細片（6.4g）が床面から覆土下層にかけて出土している。

所見 本跡の時期は，遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第18B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図 1	碗 土師器	A 12.0 B 7.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後，ナデ。内面ナデ。内面剝離。	長石・雲母・スコリア 浅黄橙色 普通	P159 90% 床面
2	坏 土師器	A 11.4 B 5.3 C 2.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後，ナデ。内面ナデ。内面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P160 60% 覆土下層
3	高坏 土師器	A 20.2 B (5.8)	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。坏部外面中位に研磨痕と思われる痕跡を残す。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後，ナデ。内面ナデ。内面剝離。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P161 50% 床面 二次焼成
4	高坏 土師器	A 19.2 B (5.3)	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり，口縁部に至る。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後，ナデ。内面ナデ。内面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P162 45% 床面 二次焼成

実穀寺子遺跡 1

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第108図5	高土師器	A 21.0 B (6.2)	脚部及び口縁部一部欠損。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面剥離。	長石・石英・雲母 いぶい橙色 普通	P163 40% 床面 二次焼成
6	高土師器	B (5.5) D [14.3] E 6.4	脚部の破片。脚部はラップ状を呈する。外面に研磨痕と思われる痕跡を残す。	脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英にぶい 橙色 普通	P164 40% 床面 二次焼成
7	椀土師器	A 10.4 B 6.3 C 4.5	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部外面へラ削り後、ナデ。ナデ内面ナデ。体部外面中位に輪積痕及び粘痕を残す。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P165 100% 床面

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第108図8	勾玉	(1.5)	0.9	1.3	—	(0.5)	床面	Q132 滑石

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第108図9	白玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q133 滑石
10	白玉	0.5	0.1	0.2	床面	Q134 滑石
11	白玉	0.5	0.2	0.2	床面	Q135 滑石
12	白玉	0.5	0.2	0.1	床面	Q136 滑石
13	白玉	0.5	0.2	0.1	床面	Q137 滑石
14	白玉	0.5	0.2	0.1	床面	Q138 滑石
15	白玉	0.5	0.2	0.2	床面	Q139 滑石
16	白玉	0.5	0.2	0.2	床面	Q140 滑石
17	白玉	0.5	0.2	0.2	床面	Q141 滑石
18	白玉	0.5	0.2	0.1	床面	Q142 滑石
19	白玉	0.5	0.2	0.2	床面	Q143 滑石
20	白玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q144 滑石
21	白玉	0.5	0.2	0.2	床面	Q145 滑石
22	白玉	0.5	0.2	0.2	床面	Q146 滑石
23	白玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q147 滑石

第19号住居跡 (第109・110図)

位置 調査区東部, D4a4区。

規模と平面形 長軸6.94m, 短軸6.65mの方形である。

主軸方向 N-40°-W

壁 壁高は57~68cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

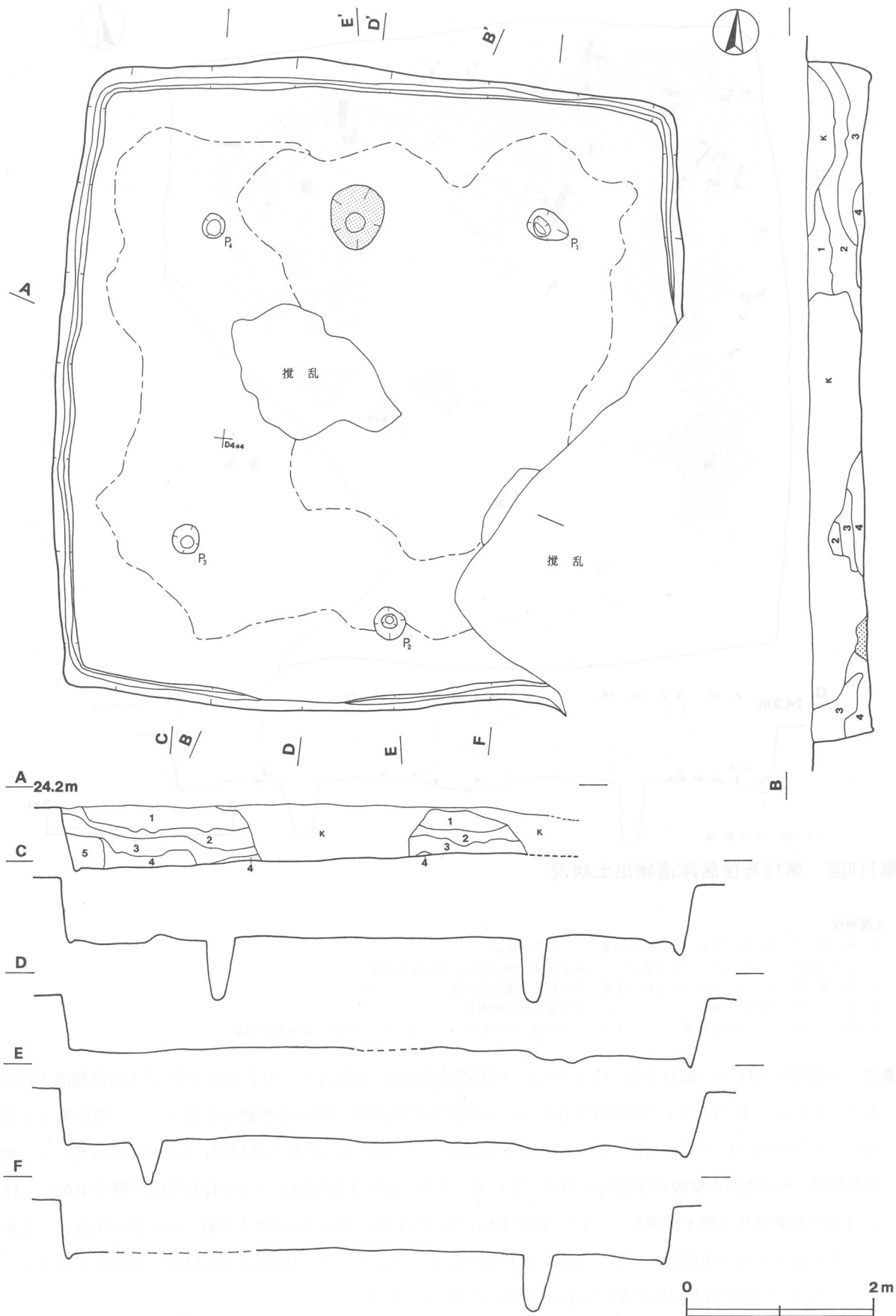
壁溝 全周する。上幅16~30cm, 下幅4~9cm, 深さ6~16cmで、断面形はU字状及びV字状である。

床 ほぼ平坦であり、中央部が踏み固められている。北壁・西壁際に焼土塊及び炭化材がみられる。

ピット 4か所 (P1~P4)。P3・P4は、径16cmの円形、P1は長径46cm, 短径32cmの楕円形で、深さ62~70cmであり、規模と配置から支柱穴と考えられる。P2は径34cmの円形、深さ46cmであり、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 P1とP4を結んだ線上のP4寄りにある。長径68cm, 短径58cmの楕円形で、床面を8cm掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

覆土 5層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。



第109図 第19号住居跡実測図



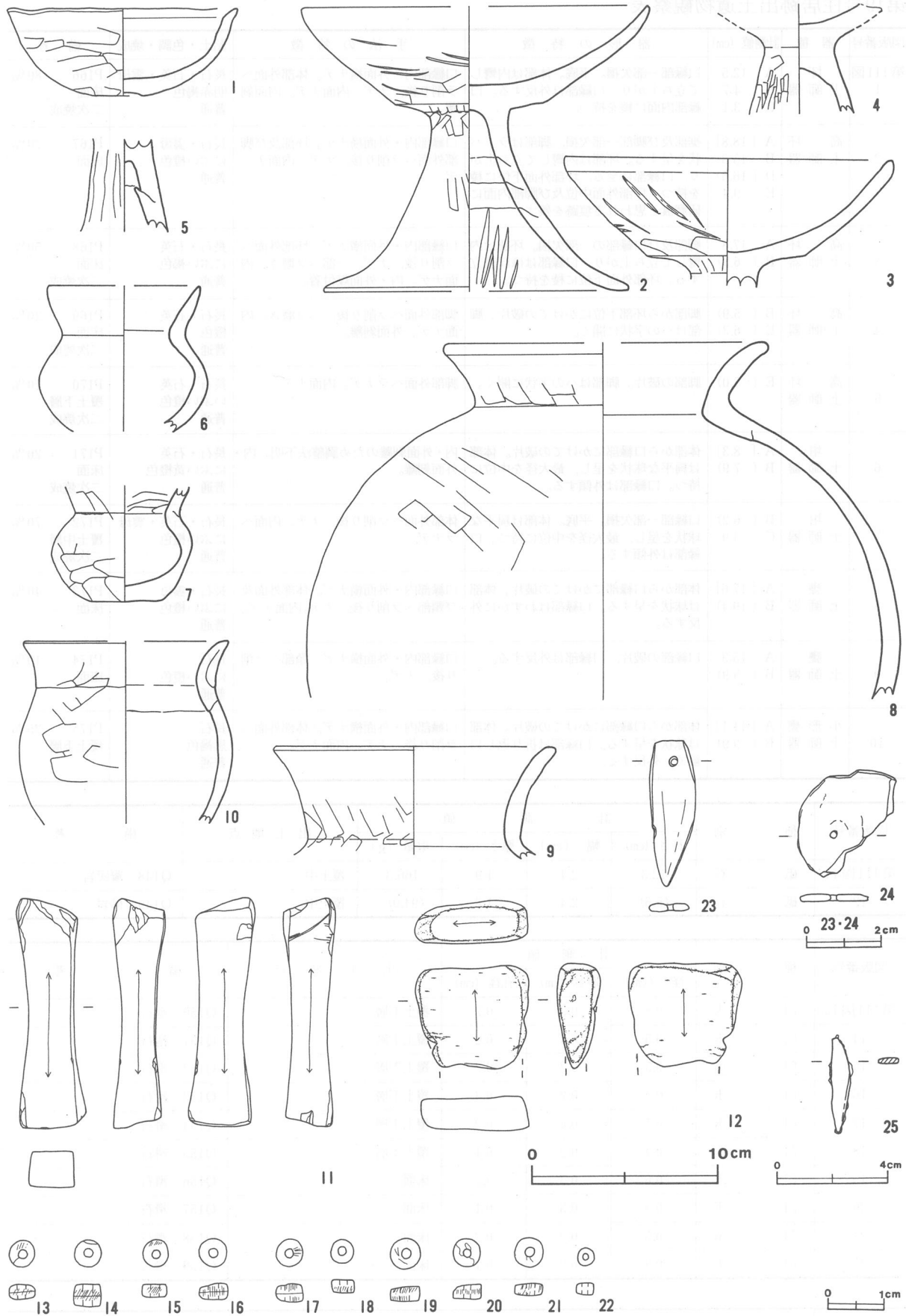
第110図 第19号住居跡遺物出土状況

土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子多量, 炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 にぶい赤褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量
- 4 褐色 焼土粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化物・ローム中ブロック少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片 994点, 砥石 2点, 白玉 10点, 石製模造品 2点 (剣品 1点, 有孔円板 1点), 不明鉄製品 1点が出土している。第111図 7の 罅が覆土中から, 5の高坏が中央部, 10の小形甕が北西コーナー部の覆土下層から, 1の罅が北東コーナー部, 2・3の高坏が北西コーナー部, 4の高坏が北壁際, 6の罅が西壁際, 8の甕が北壁際, 9の甕が南壁際の床面から出土している。また, 11・12の砥石, 24の有孔円板が覆土中から, 18の白玉が南壁寄りの覆土下層から, 13~17・19~22の白玉が, 13~15は覆土下層, その他は床面の, 北西コーナー部から北・西壁際にかけて散在した状態で出土している。23の剣形品が東壁際の床面から出土している。25の不明鉄製品が南壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 壁際に焼土塊及び炭化材がみられることから, 本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期 (5世紀) と考えられる。



第111図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第111図 1	坏土師器	A 12.5 B 4.7 C 3.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面剥離。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P166 80% 床面 二次焼成
2	高坏土師器	A [18.8] B 15.3 D [16.5] E 9.4	裾部及び脚部一部欠損。脚部はラップ状を呈する。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。坏部外面中位及び脚部内面に研磨痕と思われる痕跡を残す。	口縁部内・外面横ナデ。坏部及び脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P167 70% 床面
3	高坏土師器	A 17.8 B (6.9)	脚部及び口縁部の一部欠損。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。一部へラ磨き。内面ナデ。内・外面煤付着。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P168 50% 床面 二次焼成
4	高坏土師器	B (5.9) E (6.3)	脚部から坏部下位にかけての破片。脚部はハの字状に開く。	脚部外面へラ削り後、へラ磨き。内面ナデ。外面剥離。	長石・石英 橙色 普通	P169 20% 床面 二次焼成
5	高坏土師器	E (5.0)	脚部の破片。脚部はハの字状に開く。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P170 10% 覆土下層 二次焼成
6	埴土師器	A [8.3] B (7.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	内・外面剥離のため調整法不明。内・外面剥離。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P171 20% 床面 二次焼成
7	埴土師器	B (6.2) C 3.9	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P172 70% 覆土中層 二次焼成
8	甕土師器	A [17.6] B (19.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面及び頸部へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・雲母 にぶい褐色 普通	P173 40% 床面
9	甕土師器	A 15.3 B (5.9)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部へラ削り後、ナデ。	長石 にぶい褐色 普通	P174 10% 床面
10	小形甕土師器	A [11.1] B (9.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石 黒褐色 普通	P175 25% 覆土下層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第111図11	砥石	12.3	2.4	1.9	166.3	覆土中	Q148 凝灰岩
12	砥石	(5.6)	2.4	1.8	(94.0)	覆土中	Q149 砂岩

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第111図13	白玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q150 滑石
14	白玉	0.5	0.4	0.2	覆土下層	Q151 滑石
15	白玉	0.5	0.2	0.2	覆土下層	Q152 滑石
16	白玉	0.5	0.2	0.3	覆土下層	Q153 滑石
17	白玉	0.5	0.4	0.2	覆土下層	Q154 滑石
18	白玉	0.4	0.2	0.1	覆土下層	Q155 滑石
19	白玉	0.6	0.3	0.2	床面	Q156 滑石
20	白玉	0.5	0.3	0.1	床面	Q157 滑石
21	白玉	0.5	0.2	0.2	床面	Q158 滑石
22	白玉	0.3	0.2	0.1	床面	Q159 滑石

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第111図23	剣形品	3.9	1.2	0.2	0.2	1.9	床面	Q160 滑石

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第111図24	有孔円板	2.9	2.7	0.2	2.3	覆土中	Q161 滑石

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第111図25	不明鉄製品	3.4	0.8	0.2	1.4	覆土下層	M7

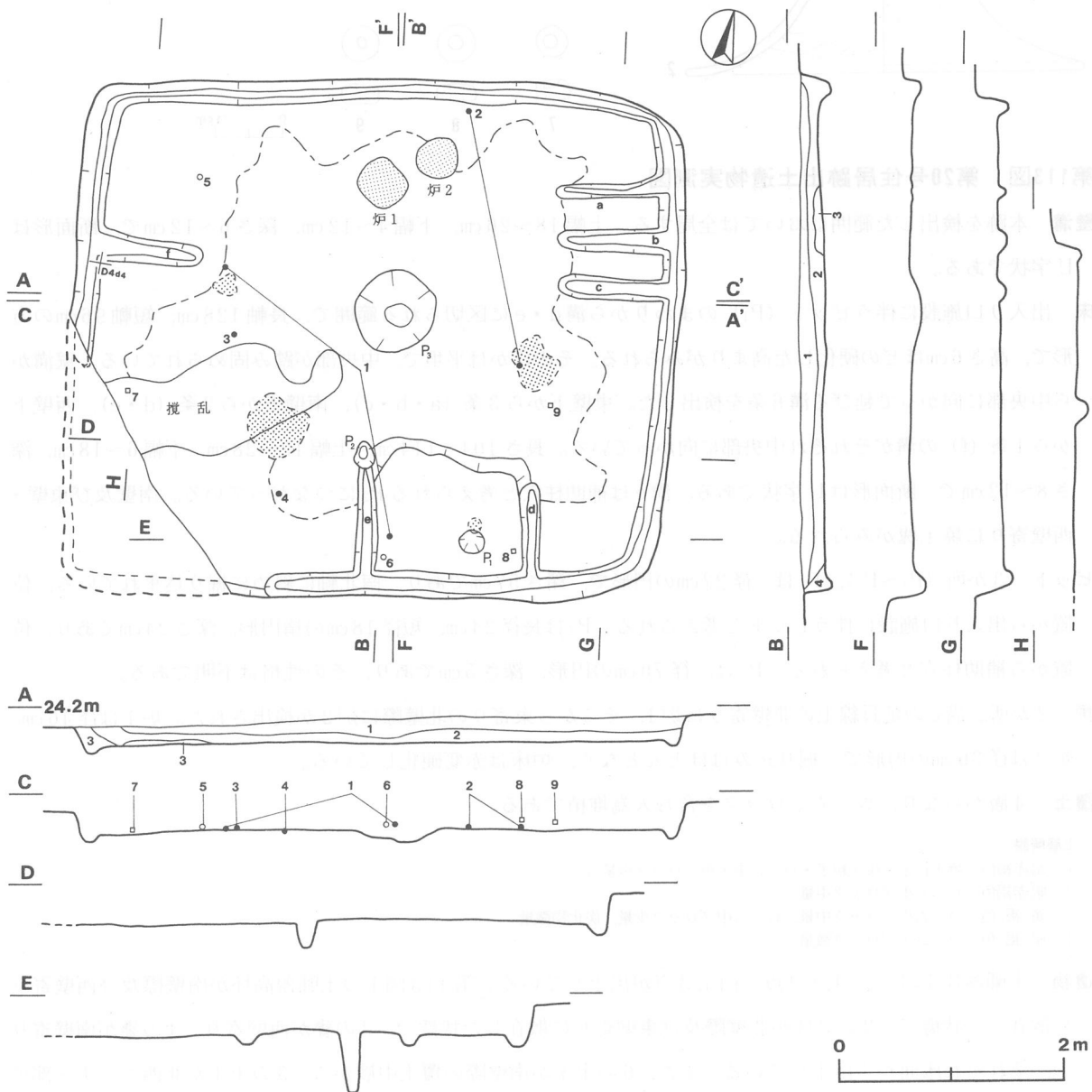
第20号住居跡 (第112図)

位置 調査区東部, D4d4区。

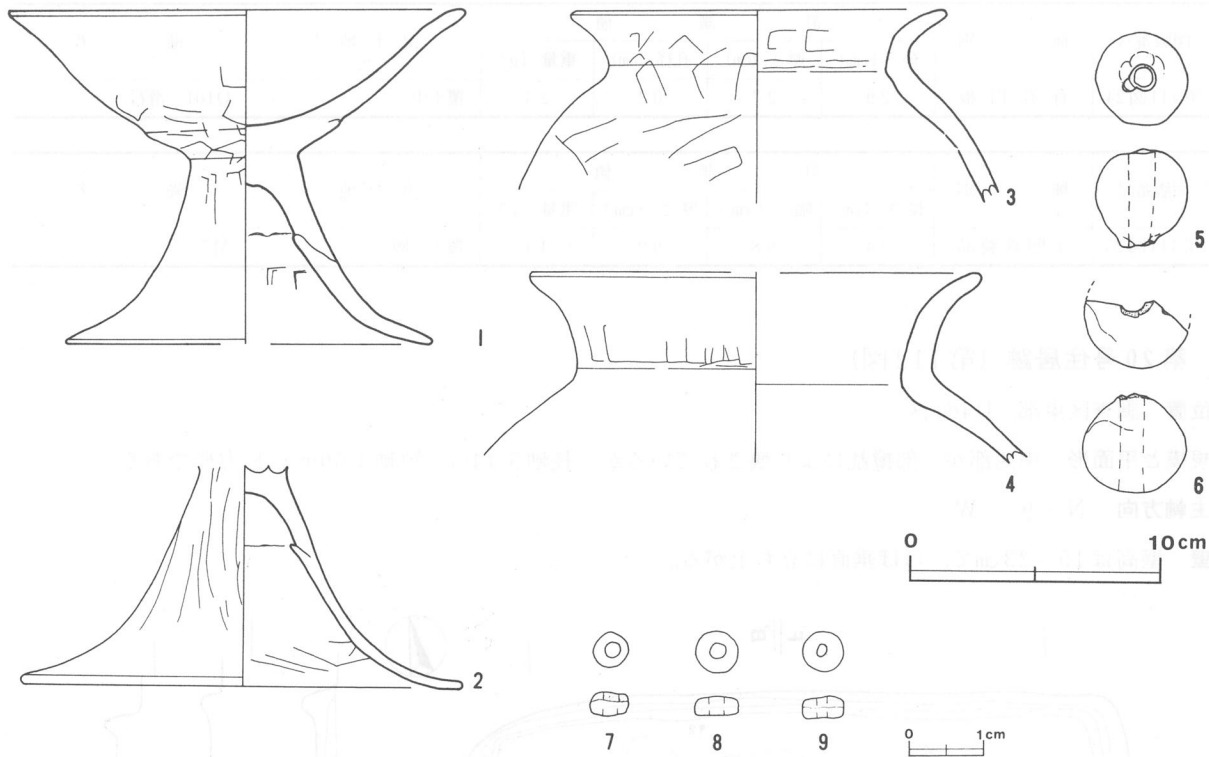
規模と平面形 南西部が一部攪乱により壊されているが, 長軸5.44m, 短軸4.60mの長方形である。

主軸方向 N-9°-W

壁 壁高は15~23cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。



第112図 第20号住居跡実測図



第113図 第20号住居跡出土遺物実測図

壁溝 本跡を検出した範囲においては全周する。上幅18~26 cm, 下幅4~12 cm, 深さ6~12 cmで, 断面形はU字状である。

床 出入口施設に伴うピット (P₁) のまわりから溝d・eに区切られる範囲で, 長軸128 cm, 短軸96 cmの方形で, 高さ6 cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で, 中央部が踏み固められている。壁溝から中央部に向かって伸びる溝6条を検出した。東壁下から3条 (a・b・c), 南壁下から2条 (d・e), 西壁下から1条 (f) の溝がそれぞれ中央部に向かっていて。長さ104~114 cm, 上幅12~28 cm, 下幅6~18 cm, 深さ8~12 cmで, 断面形はU字状である。溝eは補助柱穴と考えられるP₂につながっている。南壁及び東壁・西壁寄りに焼土塊がみられる。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は, 径22 cmの円形で, 深さ57 cmであり, 南北軸に斜めに掘り込まれている。位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P₂は長径24 cm, 短径18 cmの楕円形, 深さ24 cmであり, 位置から補助柱穴と考えられる。P₃は, 径70 cmの円形, 深さ5 cmであり, その性格は不明である。

炉 2か所。溝eの延長線上の北壁寄りに炉1, そこから東寄りの北壁際に炉2が検出された。炉1は径46 cm, 炉2は径36 cmの円形で, 掘り込みはほとんどなく, 炉床は赤変硬化している。

覆土 4層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック少量
- 2 暗赤褐色 ローム小ブロック中量
- 3 黄褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 炭化物微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック微量

遺物 土師器片171点, 土玉2点, 白玉3点が出土している。第113図1の土師器高坏が南壁際及び西壁寄りに散在した状態で, 2の高坏が北壁際及び東壁寄りに散在した状態で, 3の甕が西壁寄り, 4の甕が南壁寄りの, それぞれ床面から出土している。また, 6の土玉が南壁際の覆土中層から, 5の土玉が北西コーナー部の床面から出土している。8の白玉が南壁際, 9の白玉が東壁寄りの覆土下層から, 7の白玉が西壁際の床面か

ら出土している。

所見 南壁際及び東壁・西壁寄りに焼土塊がみられることから、本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第20号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第113図 1	高坏 土師器	A 18.3 B 13.4 D [14.7] E 7.7	口縁部及び裾部一部欠損。脚部はラッパ状を呈する。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後、ナデ。脚部外面ヘラナデ。坏部及び脚部内面ナデ。内面剝離。	長石 橙色 普通	P176 70% 床面 二次焼成
2	高坏 土師器	D 17.7 E 8.9	脚部の破片。脚部はラッパ状を呈する。	脚部外面ヘラナデ。内面ナデ。	長石・石英 におい黄橙色 普通	P177 40% 床面
3	甕 土師器	A 15.0 B (7.8)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。	長石・石英 におい褐色 普通	P178 10% 床面
4	甕 土師器	A [18.1] B (7.6)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面下位横位のヘラナデ。外面剝離。	長石・石英 におい橙色 普通	P179 5% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第113図5	土玉	3.7	3.8	1.2	41.5	床面	DP38
6	土玉	(4.1)	4.1	(0.9)	(30.8)	覆土中層	DP39

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第113図7	白玉	0.4	0.3	0.2	床面	Q162 滑石
8	白玉	0.6	0.2	0.2	覆土下層	Q163 滑石
9	白玉	0.6	0.3	0.1	覆土下層	Q164 滑石

第21号住居跡 (第114図)

位置 調査区東部, D4f7区。

規模と平面形 長軸3.84m, 短軸3.72m 方形である。

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は47~62cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

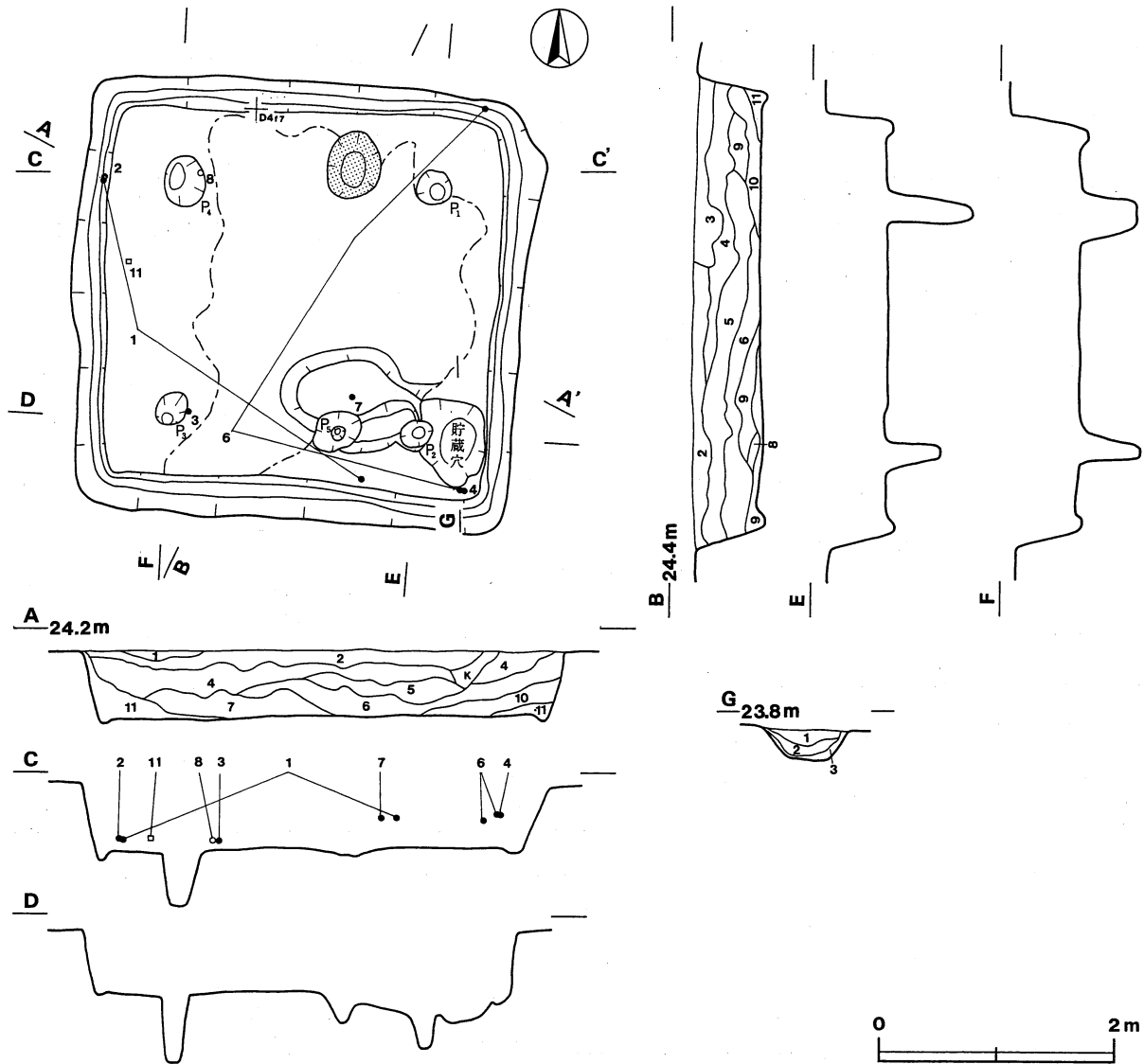
壁溝 全周する。上幅22~34cm, 下幅4~16cm, 深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

床 出入り口施設に伴うピット (P5) の前方に、長軸120cm, 短軸46cmで高さ4cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で、中央部が踏み固められている。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置し、長径70cm, 短径48cmの楕円形、深さ28cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量



第114図 第21号住居跡実測図

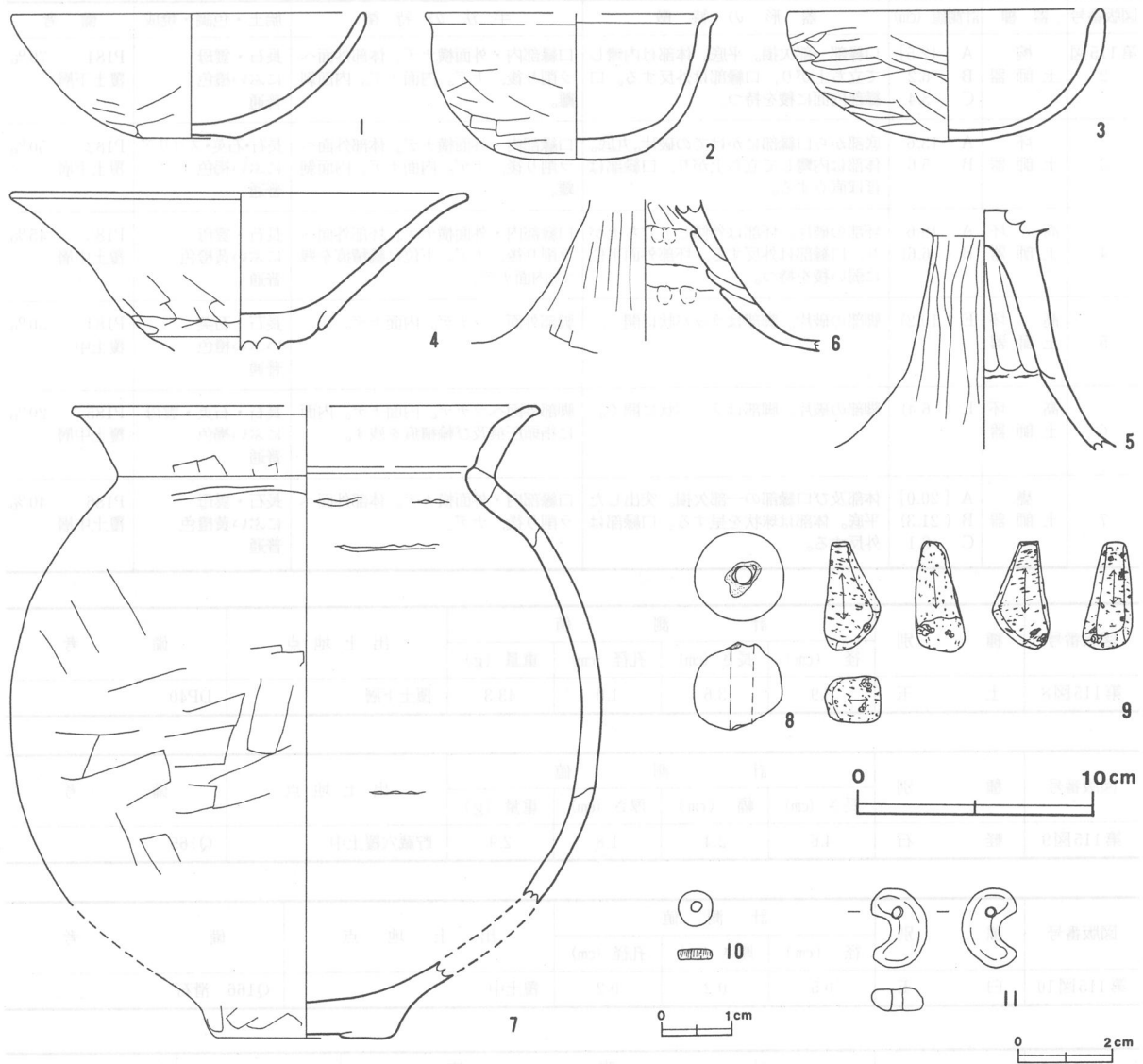
ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₃は径26~30cmの円形, P₄は長径42cm, 短径34cmの楕円形で, 深さ50~72cmであり, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P₅は長径46cm, 短径32cmの楕円形, 深さ27cmであり, 位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 P₁とP₄を結んだ線の外側で, P₁寄りに位置する。長径56cm, 短径42cmの楕円形で, 床面を6cm掘りくぼめている。

覆土 11層からなり, ロームブロック・粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 7 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
- 9 暗褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 11 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量



第115図 第21号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 487点, 土玉2点, 軽石1点, 白玉1点, 石製模造品1点(勾玉)が出土している。第115図5の土師器高坏が覆土中から, 4・6の高坏が南東コーナー部, 7の甕が南壁寄りの覆土中層から, 1の坏が南壁際の覆土中層及び西壁際の覆土下層に散在した状態で, 2の椀が西壁際, 3の坏が南西コーナー部の覆土下層から出土している。また, 8の土玉が北西コーナー部の覆土下層から出土している。10の白玉が覆土中から, 11の勾玉が西壁際の覆土下層から, 9の軽石が貯蔵穴の覆土中から, それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第21号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 1	坏 土師器	A 15.1 B 5.4 C 3.9	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石・石英に ぶい 橙色 普通	P180 80% 覆土下層

実穀寺子遺跡 1

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第115図 2	椀 土師器	A [12.5] B 6.2 C 3.4	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面剝離。	長石・雲母にぶい橙色普通	P181 70% 覆土下層
3	坏 土師器	A 13.6 B 5.6	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面剝離。	長石・石英・スコリアにぶい褐色普通	P182 50% 覆土下層
4	高坏 土師器	A 19.6 B (6.6)	坏部の破片。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。下位に輪積痕を残す。内面ナデ。	長石・雲母にぶい黄橙色普通	P183 45% 覆土中層
5	高坏 土師器	E (10.2)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P184 30% 覆土中
6	高坏 土師器	E (6.4)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。内面に指頭圧痕及び輪積痕を残す。	長石・石英・雲母にぶい褐色普通	P185 20% 覆土中層
7	甕 土師器	A [20.0] B (21.3) C 8.1	体部及び口縁部の一部欠損。突出した平底。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・雲母にぶい黄橙色普通	P186 40% 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第115図8	土玉	3.9	3.6	1.0	43.3	覆土下層	DP40

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第115図9	軽石	4.6	2.4	1.8	2.9	貯蔵穴覆土中	Q165

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第115図10	白玉	0.5	0.2	0.2	覆土中	Q166 滑石

図版番号	種別	計測値					出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第115図11	勾玉	1.7	1.2	0.5	0.2	1.3	覆土下層	Q167 滑石

第22号住居跡 (第116図)

位置 調査区東部, D4h9区。

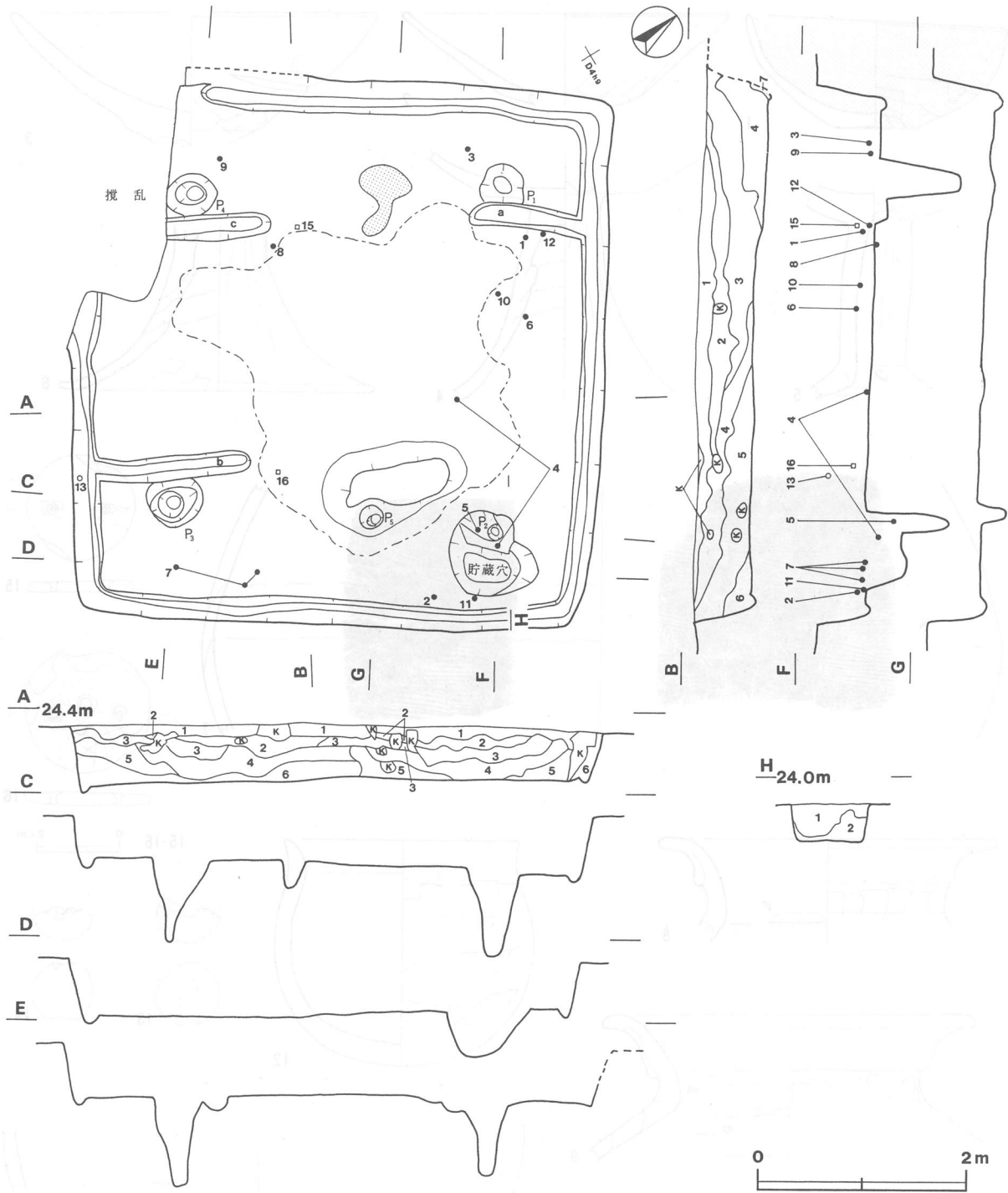
規模と平面形 長軸5.82m, 短軸5.19mの方形である。

主軸方向 N-54°-W

壁 壁高は52~64cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁 溝本跡の検出範囲は巡っている。上幅20~32cm, 下幅4~12cm, 深さ6~10cmで、断面形はU字状である。

床 出入口施設に伴うピット (P5) の前方に、長径144cm, 短径74cmの楕円形で、高さ6cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で、中央部が踏み固められている。壁溝から中央部に向かって延びる溝3条を検出した。北東壁下から1条 (a), 南西壁下から2条 (b・c) の溝がそれぞれ中央部に向かっていて、長さ134~172cm, 上幅20~24cm, 下幅8~16cm, 深さ12~18cmで、断面形はU字状である。



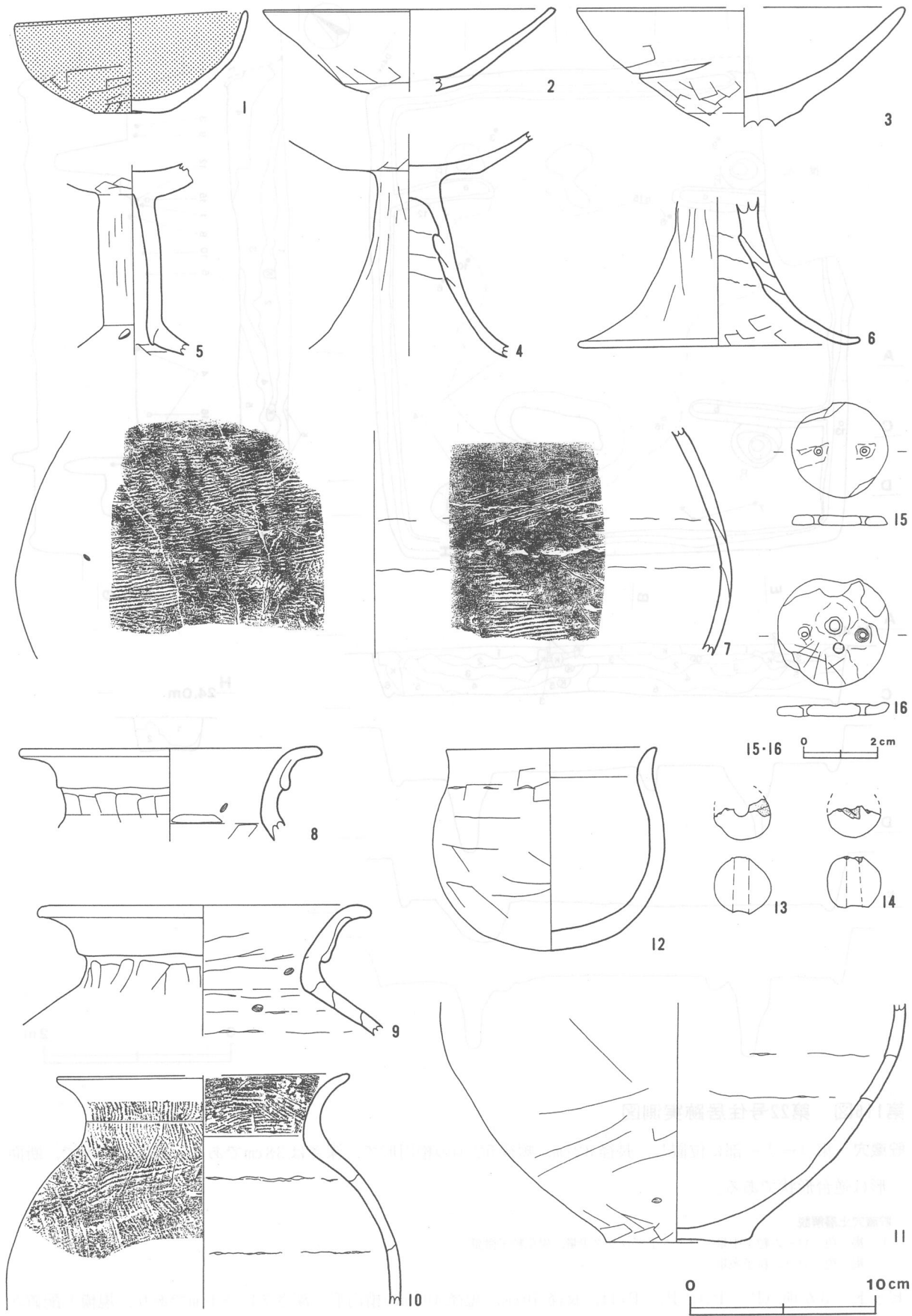
第116図 第22号住居跡実測図

貯蔵穴 東コーナー部に位置し、長径82cm、短径52cmの楕円形で、深さは38cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、長径50cm、短径40cmの楕円形、深さ74~84cmであり、規模と配置から主柱穴と考えられる。P₅は径22cmの円形、深さ28cmであり、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。



第117図 第22号住居跡出土遺物実測図

炉 P₁とP₄を結んだ線上のP₁寄りに位置する。長軸70cm, 短軸12cmの不定形で、床面を6cm掘りくぼめている。

覆土 7層からなり、ロームブロック・粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子。ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム中・小ブロック・粒子多量

遺物 土師器片1226点, 土玉2点, 石製模造品2点(有孔円板)が出土している。第117図1の土師器坏が正位で、12の小形甕が横位で、ともに北東壁際の溝a脇から、2の高坏が南東壁際、3の高坏が北西壁際、6の高坏、10の甕が北東壁寄り、9の壺が北西壁寄りの覆土下層から出土している。7の甕が南東壁際、8の壺が西コーナー部付近の溝c脇から、11の甕が東コーナー部の貯蔵穴脇の床面から出土している。4の高坏が北東壁寄りの床面と貯蔵穴の覆土上層に散在している。5の高坏がP₂の覆土中層から出土している。また、14の土玉が覆土中から、13の土玉が南西壁際の覆土上層から、15の有孔円板が西コーナー部付近の溝c脇、16の有孔円板が南コーナー部付近の溝b脇の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第22号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117図 1	坏 土師器	A 12.4 B 5.5 C 4.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。外面赤彩。内面剝離。	長石・石英 明赤褐色 普通	P187 90% 覆土下層 二次焼成
2	高坏 土師器	A 15.8 B (4.4)	脚部及び口縁部の一部欠損。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P188 35% 覆土下層 二次焼成
3	高坏 土師器	A [17.8] B (6.3)	脚部及び口縁部の一部欠損。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。中位に研磨痕と思われる痕跡を残す。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。内面剝離。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P189 30% 覆土下層 二次焼成
4	高坏 土師器	B (12.0) E (9.9)	脚部から坏部下位にかけての破片。脚部はラッパ状に開く。坏部は外傾して立ち上がる。坏部外面下位に稜を持つ。	坏部外面へラ削り後、ナデ。脚部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P190 60% 床面・貯蔵穴覆土上層
5	高坏 土師器	B (9.7) E (8.1)	脚部の破片。脚部は円柱状を呈する。裾部に刳痕が残る。	外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。外面摩耗。	長石・石英 橙色 普通	P191 30% P2の覆土中層 二次焼成
6	高坏 土師器	D 15.2 E (8.0)	脚部の破片。脚部はラッパ状を呈し、裾部が上方へわずかに反り返る。	内・外面へラナデ。	長石・雲母 灰褐色 普通	P192 40% 覆土下層
7	甕 土師器	B (20.5)	体部の破片。体部は球状を呈すると思われる。	体部外面へラ削り後、へラナデ。内面へラナデ。内面に輪積痕が残る。	長石 にぶい黄橙色 普通	P193 10% 床面
8	壺 土師器	A 16.3 B (5.0)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。内面に刳痕が残る。	口縁部内・外面横ナデ。頸部へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P194 10% 床面

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第117図 9	壺 土師器	A 18.0 B (7.0)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部へラ削り後、ナデ。内面に輪積痕が残る。	長石 にぶい黄橙色 普通	P195 10% 覆土下層
10	甕 土師器	A [15.8] B (12.4)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。内・外面剝離。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P196 20% 覆土下層 二次焼成
11	甕 土師器	B (12.8) C 7.7	底部から体部中位にかけての破片。底部は突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面に輪積痕が残る。外面煤付着。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P197 50% 床面 二次焼成
12	小形甕 土師器	A 11.3 B 10.8	体部の一部欠損。丸底。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り。体部外面上位に輪積痕が残る。外面摩耗。煤付着。	長石 にぶい橙色 普通	P198 80% 覆土下層 二次焼成

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第117図13	土玉	(3.1)	3.0	0.8	(10.6)	覆土上層	DP43
14	土玉	(2.9)	2.8	(0.6)	(8.6)	覆土中	DP44

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第117図15	有孔円板	2.1	0.3	0.2	2.8	覆土下層	Q168 滑石
16	有孔円板	3.0	0.4	0.2	5.3	覆土下層	Q169 滑石

第23号住居跡 (第118図)

位置 調査区東部, D5h₃区。

規模と平面形 長軸5.30m, 短軸5.16mの方形である。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は48~60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅18~32cm, 下幅4~13cm, 深さ10~16cmで、断面形はU字状である。

床 出入口施設に伴うピット (P₅) の周囲に、長軸134cm, 短軸66cmの不定形で、高さ8cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で、中央部が踏み固められている。南東壁下から中央部に向かって延びる溝1条 (a) が検出された。長さ128cm, 上幅20cm, 下幅10~16cm, 深さ16cmで、断面形はU字状である。南西壁際及び北東壁寄りに焼土塊が、北コーナー部付近に炭化材がみられる。

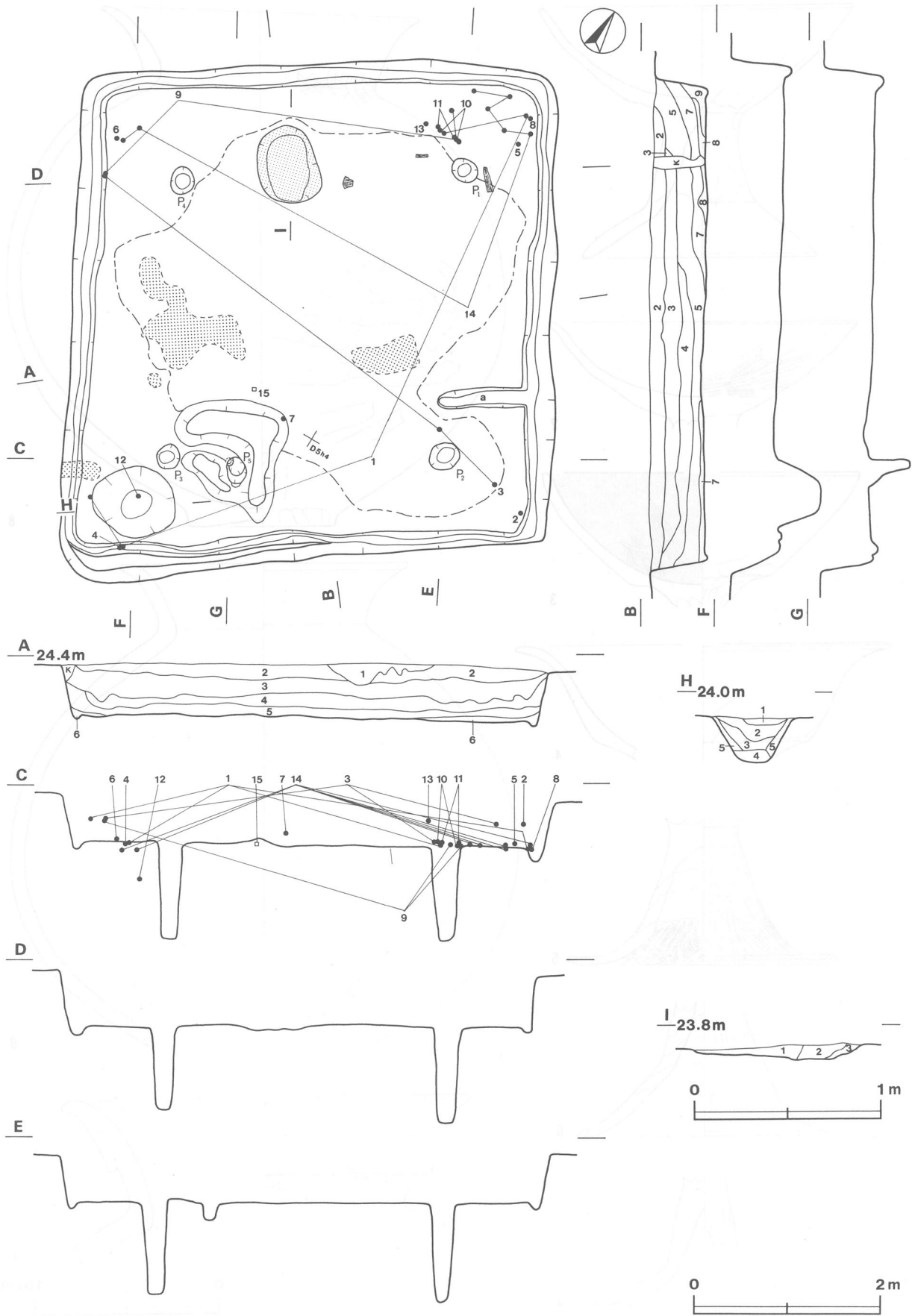
貯蔵穴 南コーナー部に位置し、径82cmの円形で、深さは50cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

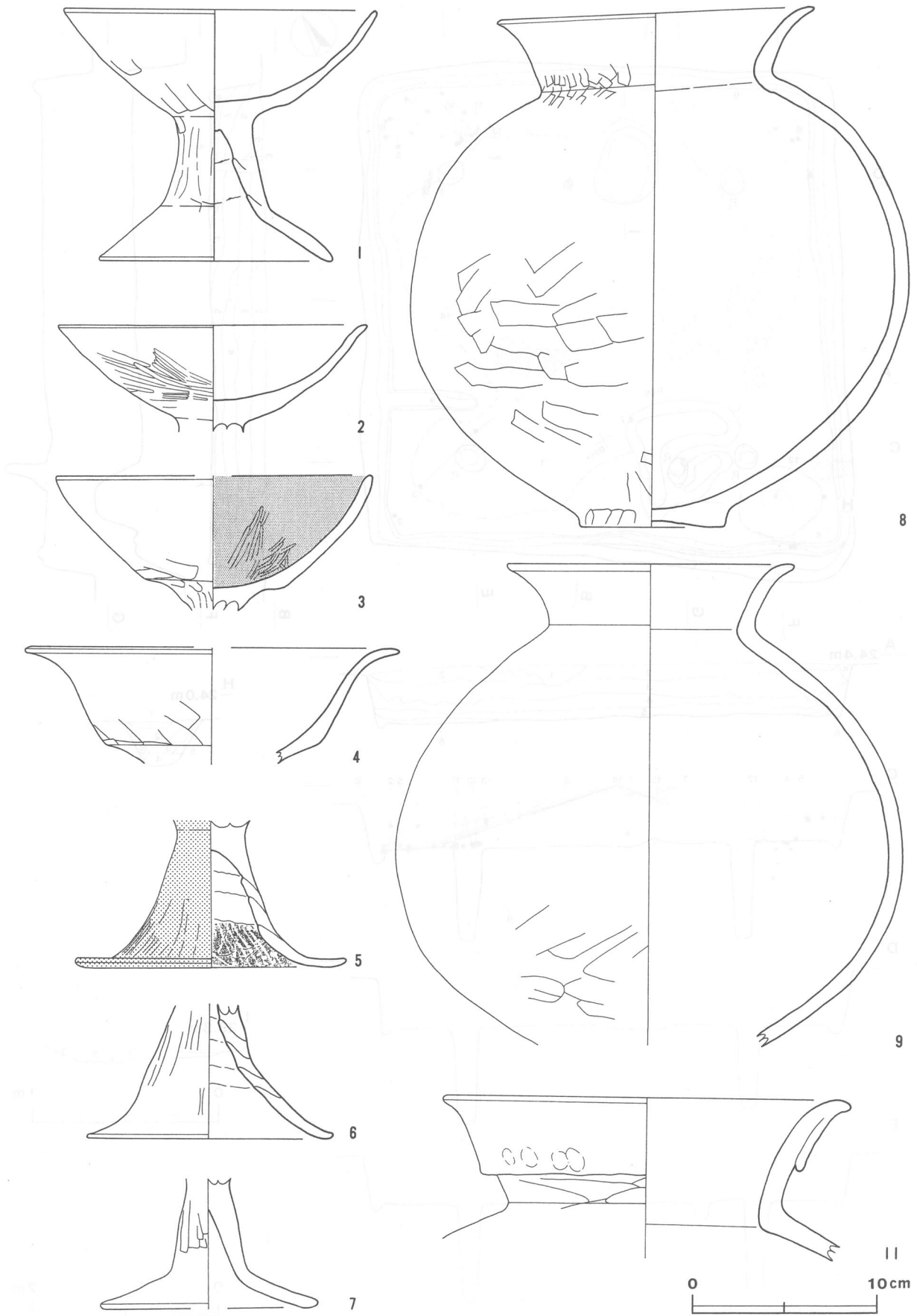
- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化材・炭化物微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、径24~30cmの円形、深さ90~104cmであり、規模と配置から支柱穴と考えられる。P₅は長径30cm, 短径20cmの楕円形、深さ71cmであり、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

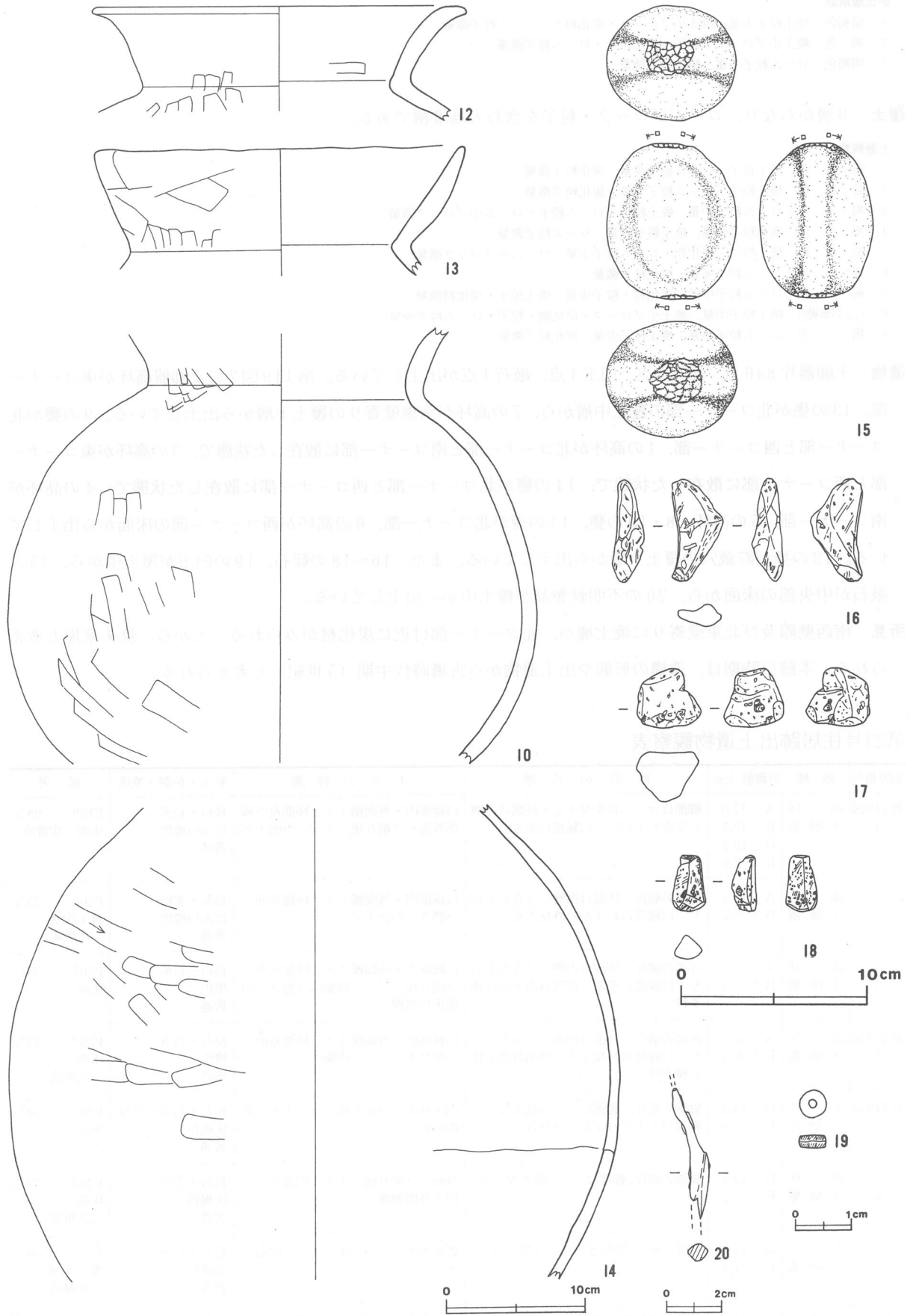
炉 P₁とP₄を結んだ線上のP₄寄りに位置する。長径82cm, 短径64cmの楕円形で、床面を8cm掘りくぼめている。



第118図 第23号住居跡実測図



第119図 第23号住居跡出土遺物実測図(1)



第120図 第23号住居跡出土遺物実測図(2)

炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 褐色 焼土小ブロック・粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子微量

覆土 9層からなり, ロームブロック・粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・粒子少量, 焼土粒子・炭化材微量
- 8 にぶい赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・粒子・ローム粒子少量
- 9 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片 846点, 軽石 3点, 白玉 1点, 敲石 1点が出土している。第119図2の土師器高坏が東コーナー部, 13の甕が北コーナー部の覆土中層から, 7の高坏が南東壁寄りの覆土下層から出土している。9の甕が北コーナー部と西コーナー部, 1の高坏が北コーナー部と南コーナー部に散在した状態で, 3の高坏が東コーナー部と西コーナー部に散在した状態で, 14の甕が北コーナー部と西コーナー部に散在した状態で, 4の高坏が南コーナー部, 5の高坏, 8・10の甕, 11の壺が北コーナー部, 6の高坏が西コーナー部の床面から出土している。12の甕が貯蔵穴の覆土下層から出土している。また, 16~18の軽石, 19の白玉が覆土中から, 15の敲石が中央部の床面から, 20の不明鉄製品が覆土中から出土している。

所見 南西壁際及び北東壁寄りに焼土塊が, 北コーナー部付近に炭化材がみられることから, 焼失家屋と考えられる。本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第23号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第119図 1	高坏 土師器	A 17.0	脚部はラッパ状を呈する。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。坏部及び脚部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P199 98% 床面二次焼成
		B 13.5				
		D 12.7				
		E 7.6				
2	高坏 土師器	A 16.7	坏部の破片。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ磨き。内面ナデ。	長石・雲母にぶい橙色普通	P200 35% 覆土中層二次焼成
		B (5.7)				
3	高坏 土師器	A [17.2]	坏部の破片。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後, ナデ。内面へラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英黒色普通	P201 35% 床面
		B (7.3)				
第120図 4	高坏 土師器	A [20.2]	坏部の破片。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石・石英橙色普通	P202 15% 床面二次焼成
		B (6.3)				
第119図 5	高坏 土師器	D 14.7	脚部の破片。脚部はラッパ状を呈し, 裾部が上方にわずかに反り返る。	内・外面へラ削り後, へラナデ。外面赤彩。	長石・石英・雲母灰褐色普通	P203 50% 床面
		E (7.9)				
6	高坏 土師器	D 13.4	脚部の破片。脚部はラッパ状を呈する。	外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。内・外面剝離。	長石・雲母灰褐色普通	P204 30% 床面二次焼成
		E (7.2)				
7	高坏 土師器	D (11.8)	脚部の破片。脚柱部はハの字状に開く。	脚部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石・石英黄橙色普通	P205 30% 覆土下層二次焼成
		E (7.1)				
8	甕 土師器	A 17.3	体部一部欠損。突出した平底。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石・スコリアにぶい橙色普通	P206 90% 床面
		B 28.2				
		C 8.0				

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第119図9	甕土師器	A 15.6 B (26.0)	底部欠損。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部へラ削り後、ナデ。	長石 明褐色 普通	P207 70% 床面
第120図10	甕土師器	B (23.5)	底部及び口縁部の一部欠損。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後、ナデ。内・外面剥離。	長石・スコリア にぶい黄橙色 普通	P208 40% 床面
第119図11	壺土師器	A 22.2 B (8.7)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラ削り後、ナデ。外面に指頭圧痕が残る。内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P209 15% 床面 二次焼成
12	甕土師器	A 20.2 B (6.1)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P210 15% 貯蔵穴覆土下層 二次焼成
13	甕土師器	A 20.0 B (6.9)	口縁部の破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラ削り後、ナデ。内・外面剥離。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P211 10% 覆土中層 二次焼成
14	甕土師器	B (31.4)	体部の破片。体部は球状を呈する。	体部外面へラ削り後、ナデ。	長石 にぶい黄褐色 普通	P212 30% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第120図15	敲石	8.3	7.0	6.2	508.0	床面	Q170 安山岩
16	軽石	5.5	2.8	1.2	7.3	覆土中	Q171
17	軽石	3.2	3.4	3.2	7.8	覆土中	Q172
18	軽石	3.0	1.8	1.2	1.1	覆土中	Q173

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第120図19第	白玉	0.5	0.2	0.2	覆土中	Q174 滑石

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第120図20	不明鉄製品	(4.7)	0.8	0.6	(1.8)	覆土中	M8

第24号住居跡 (第121図)

位置 調査区中央部, D4e0区。

規模と平面形 長軸3.73m, 短軸3.57mの方形である。

主軸方向 N-3°-W

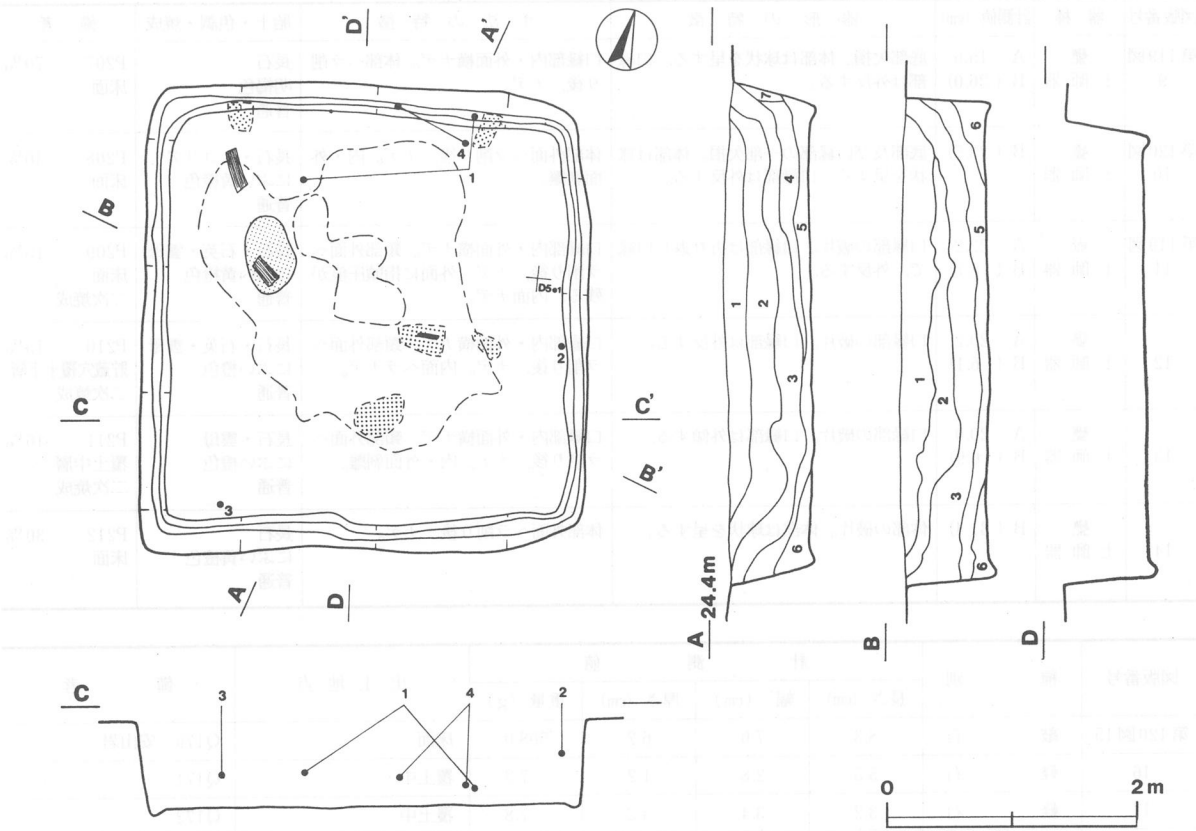
壁 壁高は62~70cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅11~28cm, 下幅4~12cm, 深さ4~6cmで、断面形はU字状である。

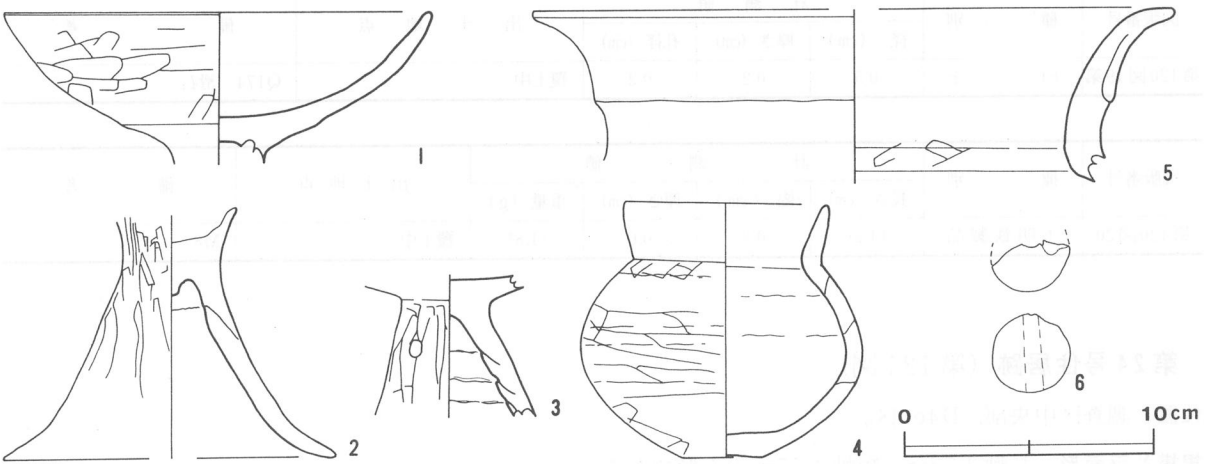
床 平坦であり、北西コーナー部付近から中央部にかけて踏み固められている。特に中央部がよく踏み固められている。北西コーナー部付近及び中央部に焼土塊・炭化材がみられる。

炉 西壁寄りに位置する。長径62cm, 短径40cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめている。

覆土 7層からなり、ロームブロック・粒子を含む人為堆積である。



第121図 第24号住居跡実測図



第122図 第24号住居跡出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 5 褐色 炭化粒子・ローム粒子中量, 炭化物少量, 焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片 96点, 土玉 1点が出土している。第122図5の土師器壺が覆土中から, 2の高坏が東壁際の覆土中層から, 1の高坏が北コーナー部と北壁寄りに散在した状態で, 4の埴が北東コーナー部と北壁際に散在した状態で, 3の高坏が南西コーナー部の覆土下層から出土している。また, 6の土玉が覆土中から出土している。

所見 北西コーナー部付近及び中央部に焼土塊・炭化材がみられることから、本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第24号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第122図 1	坏土師器	A 17.2 B (6.1)	坏部の破片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面剥離。	長石・石英 におい橙色 普通	P213 30% 覆土下層 二次焼成
2	高坏土師器	D [13.4] E 10.0	脚部の破片。脚部はラップ状を呈する。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。脚部内面上位に坏部の差込跡と思われる痕跡が残る。	長石・雲母 明褐色 普通	P214 25% 覆土中層 二次焼成
3	高坏土師器	B (5.8) E (4.5)	脚柱部の破片。ハの字状に開く。外面に貫通しない穿孔が1か所みられる。	脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英 黒色 普通	P215 20% 覆土下層 二次焼成
4	埴土師器	A 8.3 B 10.3 C 3.2	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内・外面に輪痕が残る。内面剥離。	長石 におい橙色 普通	P216 70% 覆土下層
5	壺土師器	A 26.0 B (7.0)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。内面へラナデ。	長石・石英 におい黄橙色 普通	P217 5% 覆土中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第124図6	土玉	(3.1)	3.1	(0.6)	(12.1)	覆土中	DP45

第25号住居跡（第123図）

位置 調査区西部，E5a₂区。

規模と平面形 長軸5.36m，短軸4.42mの長方形である。

主軸方向 N-32°-W

壁 壁高は18~29cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅10~20cm，下幅4~12cm，深さ4~8cmで、断面形はU字状及びV字状である。

床 出入り口施設に伴うピット（P₅）のまわりに、長軸182cm，短軸104cmの不定形で、高さ4cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で、全体的に軟弱である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、径60cmの円形で、深さは22cmである。底面は平坦で、断面形は鉢状である。

貯蔵穴土層解説

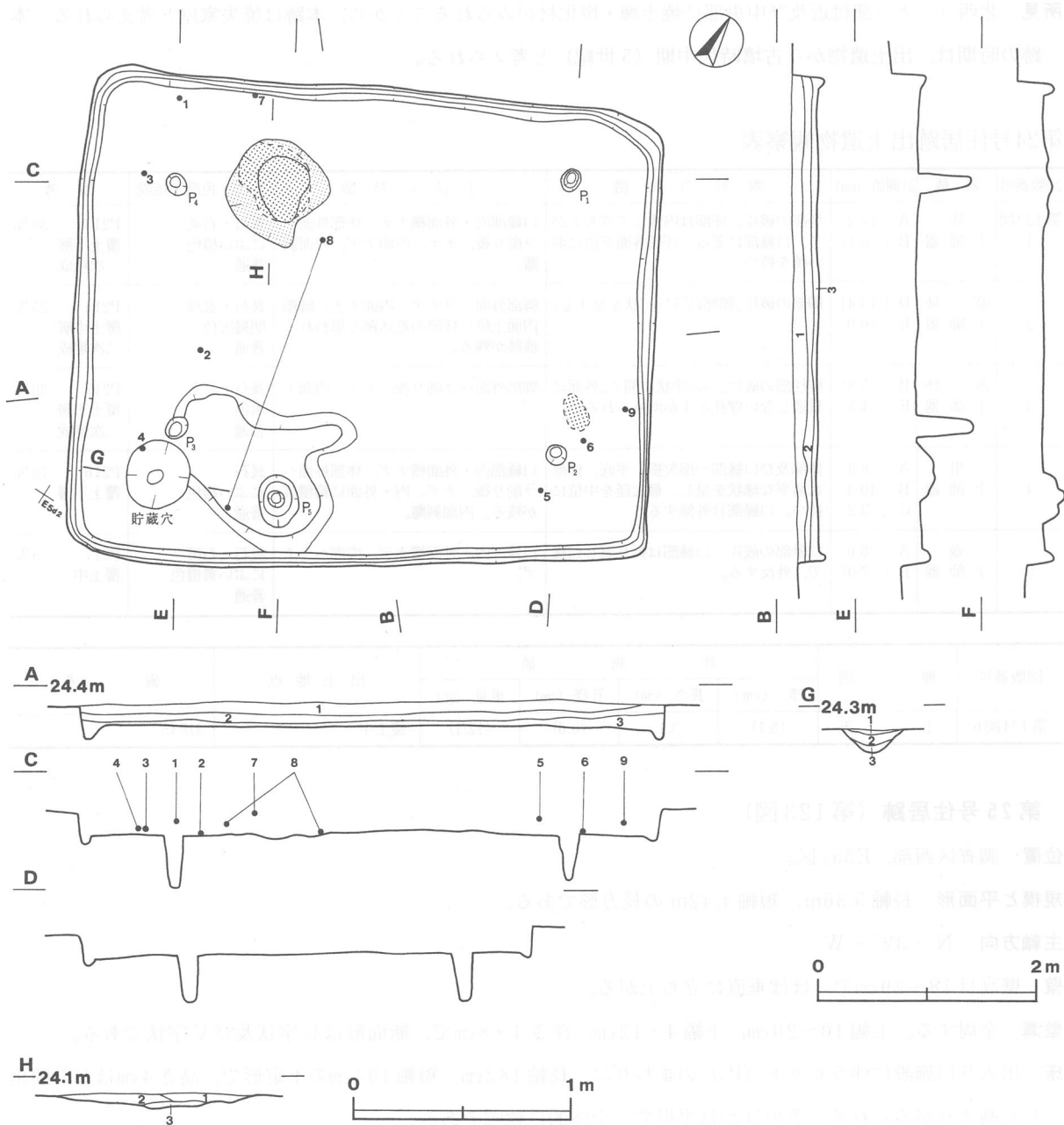
- 1 褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 明褐色ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

ピット 5か所（P₁~P₅）。P₁~P₄は、径18~20cmの円形、深さ40~52cmであり、配置から支柱穴と考えられる。P₅は長径50cm，短径38cmの楕円形、深さ22cmであり、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 P₁とP₄を結んだ線上のP₄寄りに位置する。長径78cm，短径54cmの楕円形で、床面を7cm掘りくぼめている。炉床は赤変しており一部に硬化した面がみられる。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量，ローム粒子中量，炭化物少量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量，炭化物微量



第123図 第25号住居跡実測図

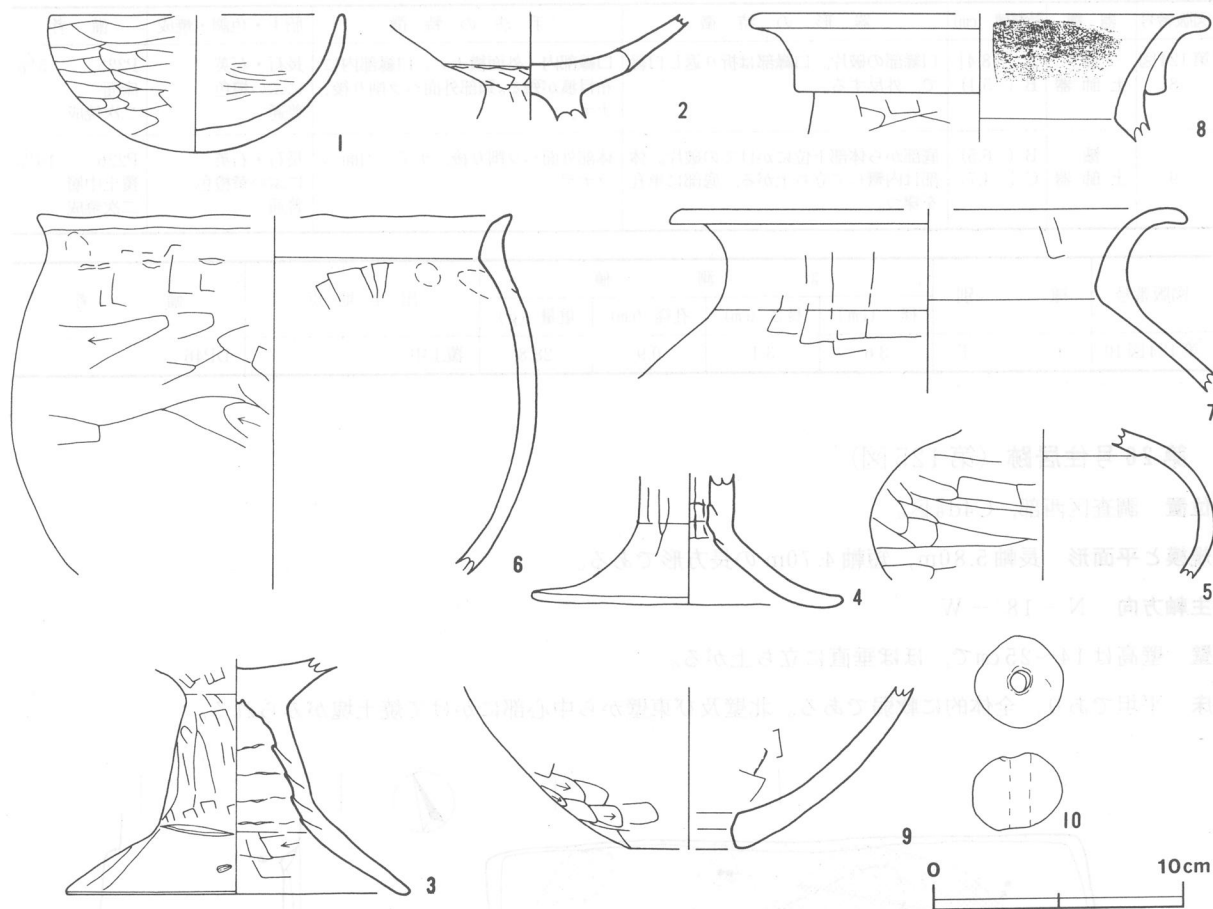
覆土 3層からなり、ロームブロック・粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片614点, 土玉1点が出土している。第124図1の土師器坏が西コーナー部, 7の甕が北西壁際の覆土上層から, 5の埴が東コーナー部, 9の甕が北東壁際の覆土中層から, 3の高坏が西コーナー部, 4の高坏が南コーナー部の覆土下層から, 2の高坏が南西壁寄り, 6の甕が北東壁寄り, 8の壺が南東壁際と北西壁寄りに散在した状態で, 床面から出土している。10の土玉が覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。



第124図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 1	坏土師器	A [11.8] B 5.5	底部から口縁部にかけての破片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・雲母にぶい 橙色 普通	P218 25% 覆土上層
2	高坏土師器	B (4.2)	坏部の破片。坏部は外傾して立ち上がる。坏部外面下位に稜を持つ。	坏部外面へラ削り後、ナデ。内面剥離。	長石・石英にぶい 黄橙色 普通	P219 20% 床面 二次焼成
3	高坏土師器	B (9.4) D 13.8 E 8.0	脚部欠損。脚柱部はハの字状に開く。外面に研磨痕と思われる痕跡及び靱痕が残る。	脚部外面へラ削り後、へラナデ。内面へラナデ。内・外面剥離。	長石・石英にぶい 橙色 普通	P220 55% 覆土下層 二次焼成
4	高坏土師器	D 12.5 E (5.3)	脚部の破片。脚部は円柱状を呈すると思われる。裾部は上方へわずかに反り返る。	脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面剥離。	長石・石英にぶい 黄橙色 普通	P221 30% 覆土下層 二次焼成
5	埴土師器	B (6.0)	体部の破片。体部は扁平な球状を呈する。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面剥離。	長石・石英にぶい 橙色 普通	P222 20% 覆土中層 二次焼成
6	甕土師器	A [19.0] B (14.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部はほぼ球状を呈する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部及び頸部内・外面に指頭圧痕が残る。頸部内・外面横位のへラナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・雲母 赤橙色 普通	P223 20% 床面 二次焼成
7	甕土師器	A [20.8] B (7.3)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横位のへラナデ。頸部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 黄橙色 普通	P224 15% 覆土上層 二次焼成

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第124図 8	壺 土師器	A [18.4] B (5.1)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部内に布目痕が残る。頸部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P225 5% 床面 二次焼成
9	甌 土師器	B (6.5) C [4.7]	底部から体部下位にかけての破片。体部は内彎して立ち上がる。底部に単孔を穿つ。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・石英にぶい黄橙色普通	P226 10% 覆土中層 二次焼成

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第124図10	土玉	3.6	3.1	0.9	28.8	覆土中	DP46

第26号住居跡 (第125図)

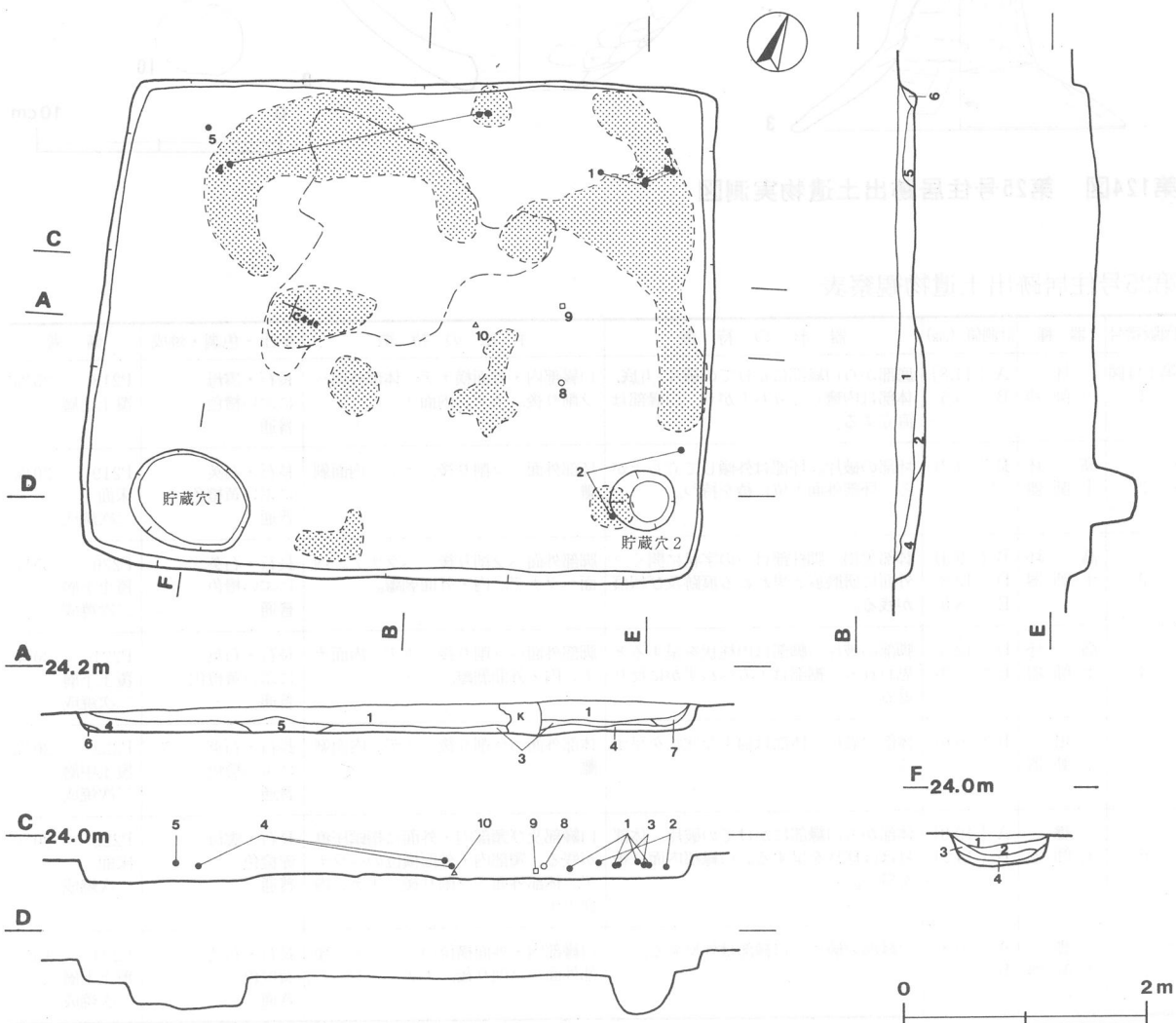
位置 調査区西部, C4d6区。

規模と平面形 長軸5.80m, 短軸4.70mの長方形である。

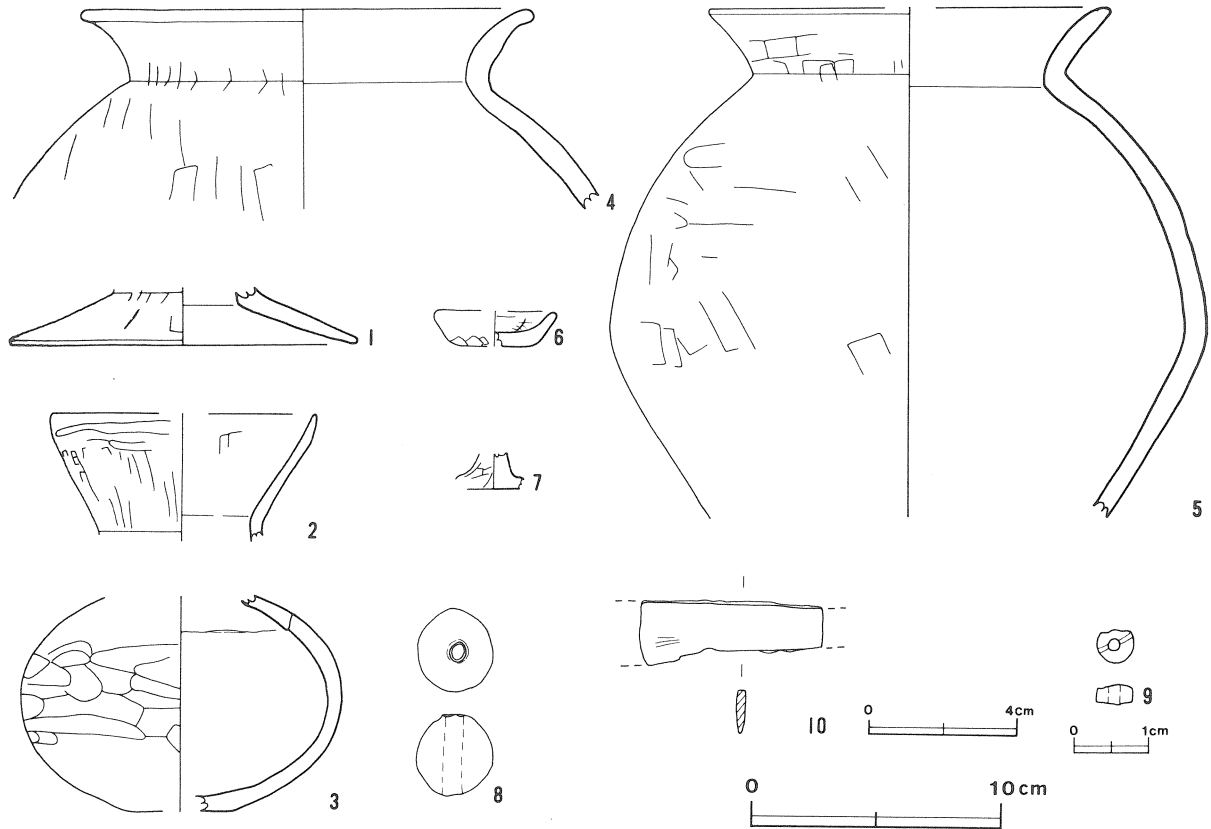
主軸方向 N-18°-W

壁 壁高は14~25cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であり、全体的に軟弱である。北壁及び東壁から中心部にかけて焼土塊がみられる。



第125図 第26号住居跡実測図



第126図 第26号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴 2か所。南西コーナー部（貯蔵穴1）及び南東コーナー部（貯蔵穴2）に検出した。貯蔵穴1は、長径100cm、短径80cmの楕円形で、深さは26cmである。底面は平坦で、断面形はU字状である。貯蔵穴2は、径52cmの円形で、深さは35cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴1土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 赤褐色 焼土大ブロック・粒子多量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック微量

覆土 7層からなり、ロームブロック・粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子・ローム粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量
- 7 赤褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量

遺物 土師器片614点、土玉1点、白玉1点、鉄鏃1点が出土している。第126図6・7の土師器ミニチュア土器が覆土中から、5の甕が北西コーナー部の覆土上層から、1の高坏、3の埴が北東コーナー部、2の埴が南東コーナー部、4の甕が北西コーナー部及び北壁際に散在した状態で、覆土中層から出土している。また、8の土玉が東壁寄りの覆土中層から、9の白玉が東壁寄り、10の鎌が中央部の覆土下層から出土している。

所見 北壁及び東壁から中央部にかけて焼土塊がみられることから、本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第26号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第126図 1	高坏土師器	D 14.0 E (2.3)	裾部の破片。裾部はなだらかに開く。	裾部外面ヘラナデ。内面ナデ。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P227 30% 覆土中層 二次焼成
2	埴土師器	A [10.7] B (5.1)	口縁部の破片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部上位ヘラ削り後、ナデ。口縁部中位から下位にかけ、縦位のヘラナデ。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P228 40% 覆土中層 二次焼成
3	埴土師器	B (8.6)	底部から体部にかけての破片。平底。体部は扁平な球状を呈する。	体部外面ヘラ削り後、ヘラナデ。内面ナデ。	長石 赤褐色 普通	P229 25% 覆土中層 二次焼成
4	甕土師器	A 18.2 B (8.0)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部及び頸部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P230 15% 覆土中層 二次焼成
5	甕土師器	A [16.2] B (20.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部はやや扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部外面横位のヘラナデ。体部及び頸部外面ヘラ削り後、ナデ。外面煤付着。	長石・石英 灰褐色 普通	P231 20% 覆土上層 二次焼成
6	ミチュア土師器	A [5.0] B 1.4 C (3.0)	环形。底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面ヘラナデ。	長石・雲母 赤褐色 普通	P232 25% 覆土中
7	ミチュア土師器	B (1.4)	高环形。脚部の破片。脚部はラッパ状を呈する。	脚部外面ヘラナデ。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P233 20% 覆土中 二次焼成

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第126図8	土玉	3.0	3.3	0.7	26.7	覆土中層	DP47

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第126図9	白玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q176 滑石

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第126図10	鎌	(4.9)	1.7	0.2	(5.0)	覆土下層	M9

第27号住居跡 (第127図)

位置 調査区西部, C4f₈区。

規模と平面形 本跡の大部分が攪乱のため壊されており、正確な規模と平面形は不明であるが、一辺5.98mほどの方形か長方形と思われる。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は8~12cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

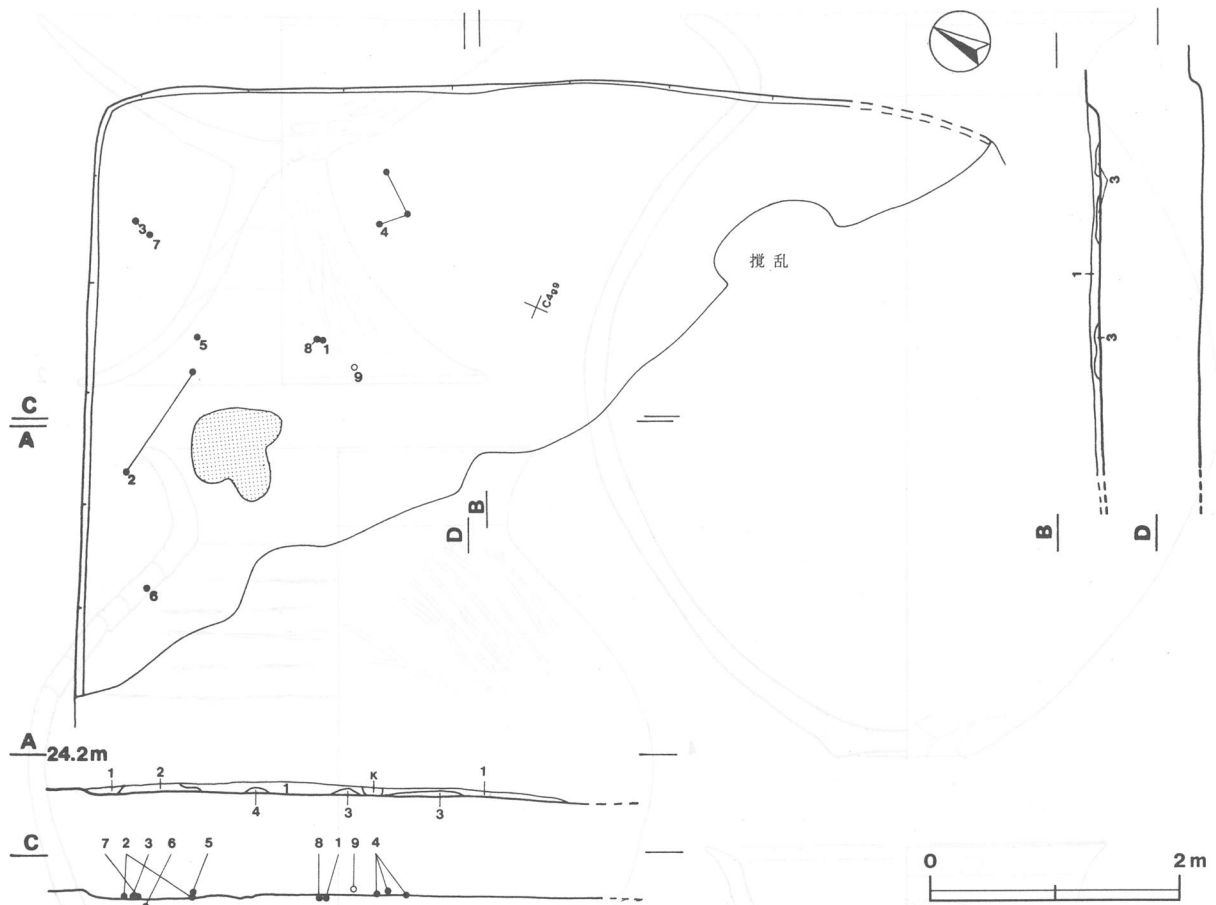
床 平坦であり、全体的に軟弱である。

炉 北西壁寄りに検出された。長軸82cm、短軸32cmの不整形で、床面はほとんど掘りくぼめられていない。

覆土 8層からなり、1・2層はレンズ状の堆積を示す自然堆積、3~8層はロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

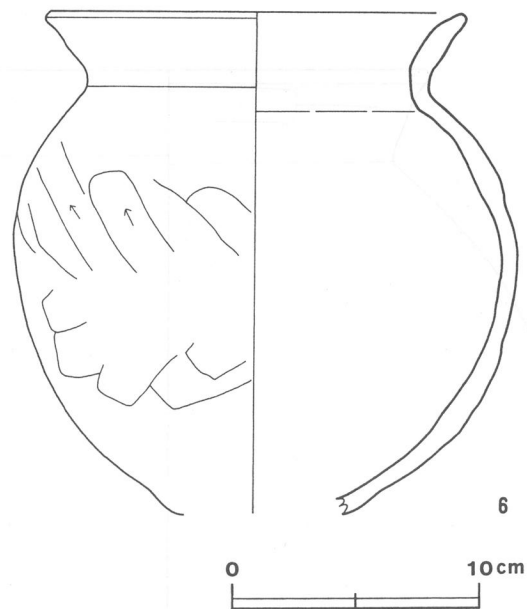
- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量 |
| 2 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量 | 4 褐色 焼土小ブロック・粒子多量 |



第127図 第27号住居跡実測図

遺物 土師器片 327点, 土玉 1点が出土している。第128図5の土師器甕が北西壁際の覆土下層から, 1の坏, 8の甕が北コーナー部付近, 2の高坏, 6の甕が北西壁際, 4の甕が北東壁際, 3の埴が斜位で, 7の甕と北コーナー部の床面から, それぞれ出土している。また, 9の土玉が北コーナー部付近の覆土下層から出土している。

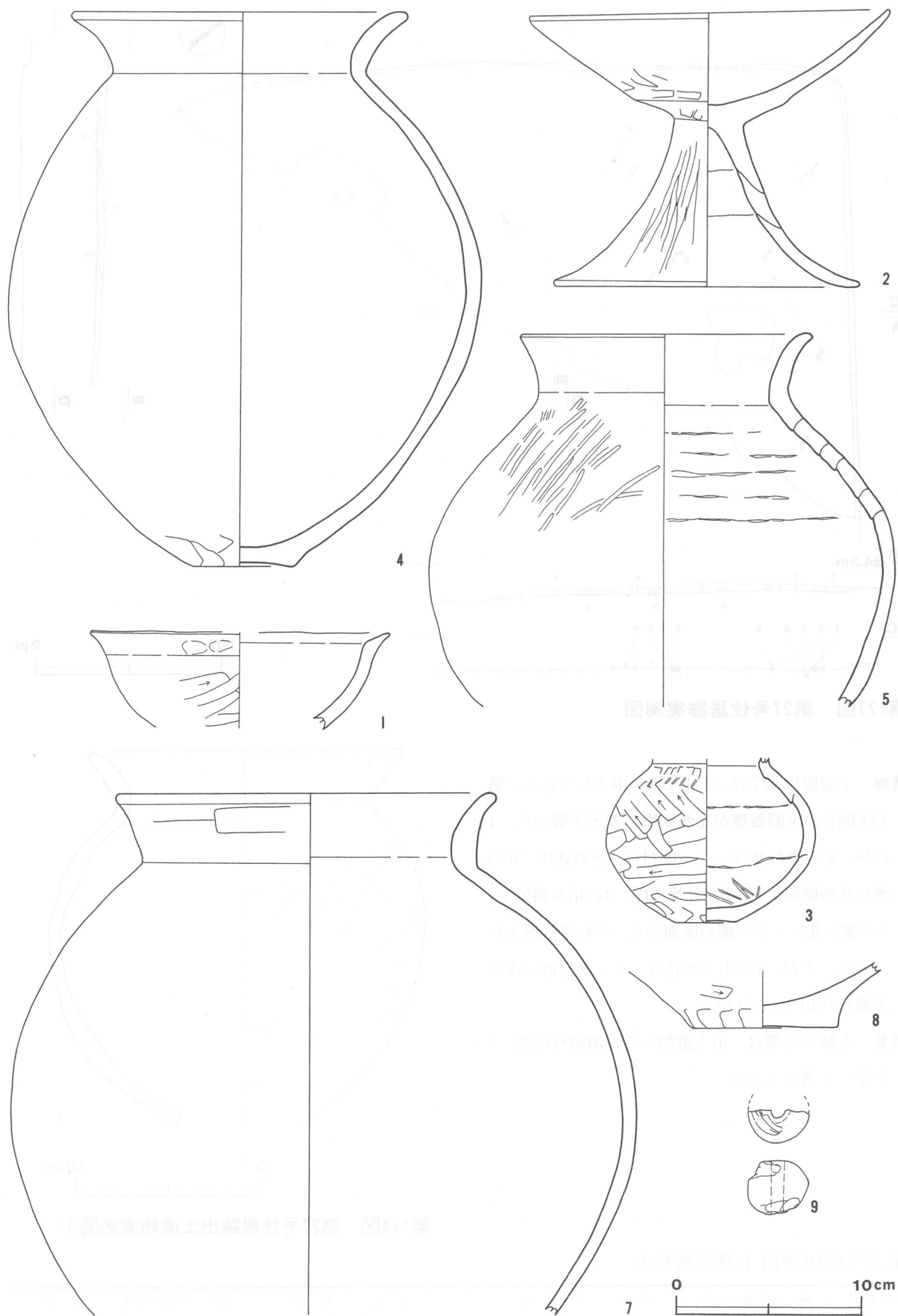
所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。



第128図 第27号住居跡出土遺物実測図(1)

第27号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第129図 1	坏 土師器	A [16.2] B (5.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	体部外面へラ削り後, ナデ。口縁部外面に指頭圧痕が残る。内面ナデ。	長石・石英 にふい 橙色 普通	P234 20% 床面 二次焼成



第129図 第27号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第129図 2	高坏土師器	A 19.6 B 15.0 D 16.5 E 8.8	脚部はラッパ状を呈する。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後、ナデ。脚部外面ヘラ磨き。	長石・雲母 橙色 普通	P235 100% 床面 二次焼成
3	埴土師器	B (8.9) C 3.2	口縁部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈する。	体部外面ヘラ削り後、ヘラナデ。内面ヘラナデ。内面に輪積痕が残る。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P236 70% 床面 二次焼成
4	甕土師器	A 18.3 B 30.0 C 5.5	体部一部欠損。突出した平底。体部はやや縦長な球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面摩擦により調整法不明。外面煤付着。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P237 70% 床面 二次焼成
5	甕土師器	A 15.9 B (20.1)	底部から体部下位にかけて欠損。体部は球状を呈すると思われる。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面一部ヘラ磨き。内面に輪積痕が残る。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P238 60% 覆土下層 二次焼成
第128図 6	甕土師器	A 17.0 B (20.2)	底部及び体部から口縁部にかけて欠損。体部は球状を呈する。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P239 60% 床面 二次焼成
第129図 7	甕土師器	A 20.7 B (28.3)	底部から体部にかけて欠損。体部は球状を呈する。口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面ヘラナデ。その他、摩擦のため調整法不明。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P240 40% 床面 二次焼成
8	甕土師器	B (3.5) C 7.8	底部の破片。底部は突出した平底。外面煤付着。	外面ヘラ削り後、ナデ。外面煤付着。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P241 5% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第129図9	土玉	(3.4)	2.9	(0.7)	(12.2)	覆土上層	DP48

第28号住居跡 (第130・131図)

位置 調査区西部, C4b₈区。

規模と平面形 本跡の北東部分が攪乱により壊されているが、長軸5.75m、短軸5.62mの方形と思われる。

主軸方向 N-16°-W

壁 壁高は25~33cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 本跡の検出範囲は巡っている。上幅9~22cm、下幅4~6cm、深さ4~8cmで、断面形はU字状及びV字状である。

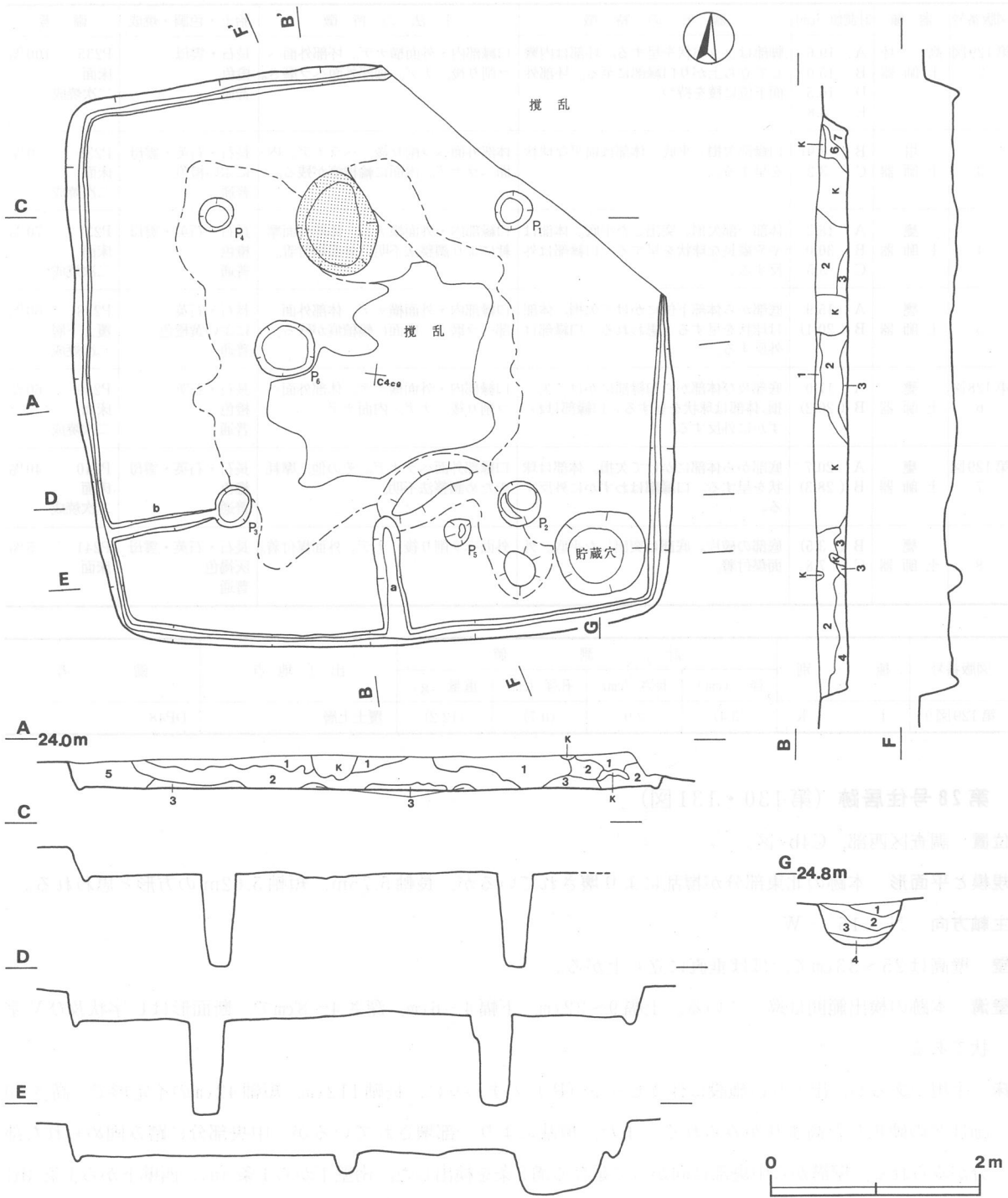
床 平坦であるが、出入り口施設に伴うピット (P₅) のまわりに、長軸112cm、短軸42cmの不定形で、高さ10cmほどの硬化した高まりがみられる。また、攪乱により一部壊されているが、中央部分に踏み固められた部分がみられる。壁溝から中央部に向かって延びる溝2条を検出した。南壁下から1条 (a)、西壁下から1条 (b) の溝がそれぞれ中央に向かって延びている。長さ114~124cm、上幅14~26cm、下幅8~16cm、深さ8~18cmで、断面形はU字状である。床面全体に焼土塊及び炭化材が散在している。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置し、径90cmの円形で、深さは44cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量
- 3 褐色 炭化物・粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁・P₂・P₄は、径30~42cmの円形、P₃は長径42cm、短径34cmの楕円形で、深さ90~93cmであり、規模と配置から主柱穴と考えられる。P₅は径28cmの円形、深さ16cmであり、位置か

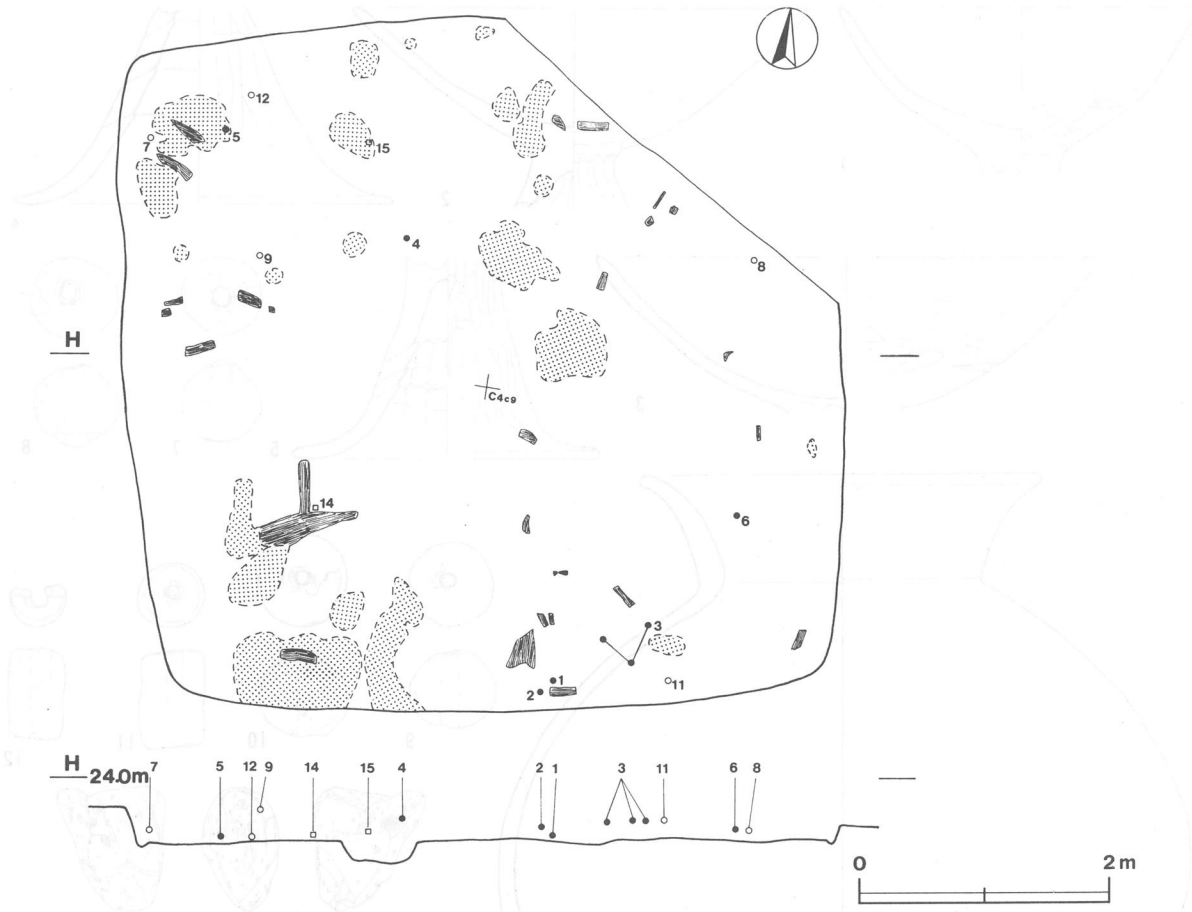


第130図 第28号住居跡実測図

ら出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₆は径58cmの円形、深さ97cmであり、その性格は不明である。
 炉 P₁とP₄を結んだ線上のP₄寄りに位置する。長径100cm、短径74cmの楕円形で、床面を4cm掘りくぼめている。炉床は赤変硬化している。

覆土 7層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説		5	褐色	ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量	
1	暗褐色	ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量	7	暗赤褐色	焼土粒子中量, 炭化粒子・ローム粒子少量, 炭化物・ローム小ブロック微量
3	暗褐色	炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化材微量			
4	暗赤褐色	焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量			



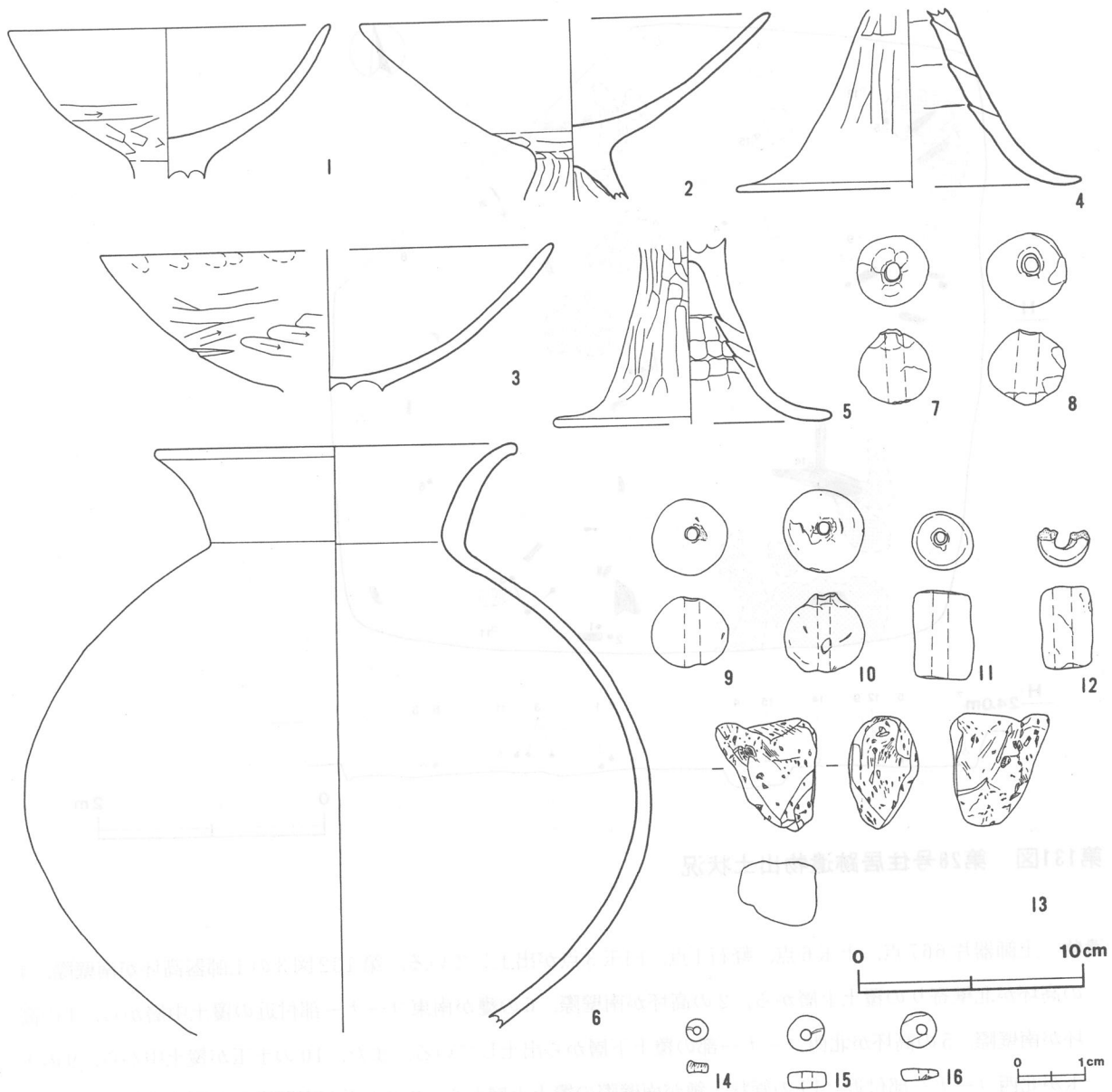
第131図 第28号住居跡遺物出土状況

遺物 土師器片 667点, 土玉 6点, 軽石 1点, 白玉 3点が出土している。第132図3の土師器高坏が南壁際, 4の高坏が北壁寄りの覆土上層から, 2の高坏が南壁際, 6の甕が南東コーナー部付近の覆土中層から, 1の高坏が南壁際, 5の高坏が北西コーナー部の覆土下層から出土している。また, 10の土玉が覆土中から, 9の土玉が北西コーナー部付近, 11の管状土錘が南壁際の覆土上層から, 8の土玉が東壁寄りの覆土中層から, 7の土玉, 12の管状土錘が北西コーナー部の覆土下層から出土している。13の軽石, 16の白玉が覆土中から, 14の白玉が西壁寄り, 15の白玉が北壁寄りの覆土下層から出土している。なお, 滑石の細片 (4.4g) が覆土下層から出土している。

所見 床面に, 炭化材及び焼土塊がみられることから, 本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期 (5世紀) と考えられる。

第28号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132図 1	高坏 土師器	A 14.4 B (6.7)	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石・石英 浅黄橙色 普通	P242 50% 覆土下層
2	高坏 土師器	A [18.4] B (8.0) E (1.9)	脚柱部上位から坏部の破片。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後, ナデ。脚部外面へラ削り後ナデ。	長石・石英・雲母 にふい黄橙色 普通	P243 40% 覆土中層
3	高坏 土師器	A [20.4] B (6.4)	坏部の破片。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。坏部外面に研磨痕と思われる痕跡が残る。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面に指頭圧痕が残る。坏部外面へラ削り後, ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P244 20% 覆土上層



第132図 第28号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第132図 4	高坏 土師器	D [15.3] E (7.9)	脚部の破片。脚部はラッパ状を呈する。	脚部外面ヘラナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P245 30% 覆土上層 二次焼成
5	高坏 土師器	D [12.5] E 8.2	脚部の破片。脚部はラッパ状を呈する。	脚部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P246 40% 覆土下層
6	甕 土師器	A 16.1 B (26.2)	底部欠損。体部はやや扁平な球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P247 85% 覆土中層

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第132図7	土玉	3.2	3.3	0.8	25.3	覆土下層	DP49
8	土玉	3.5	3.4	0.9	31.6	覆土中層	DP50
9	土玉	3.5	3.2	0.7	31.0	覆土上層	DP51

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第132図10	土 玉	3.6	3.7	0.6	40.2	覆土中	DP52
11	管状土錘	2.7	4.0	0.6	32.5	覆土上層	DP53
12	管状土錘	(2.3)	4.1	(1.0)	(11.2)	覆土下層	DP54

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第132図13	軽 石	5.1	4.5	2.9	11.5	覆土中	Q177

図版番号	種 別	計 測 値			出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第132図14	白 玉	0.4	0.2	0.1	覆土下層	Q178 滑石
15	白 玉	0.6	0.3	0.2	覆土下層	Q179 滑石
16	白 玉	0.5	0.2	0.1	覆土中	Q180 滑石

第29号住居跡 (第133・134図)

位置 調査区西部, C4a6区。

規模と平面形 長軸7.89m, 短軸6.33mの長方形である。

主軸方向 N-39°-W

壁 壁高は24~40cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 東及び西コーナー部, 北西壁, 南東壁の一部を除いて巡っている。上幅18~28cm, 下幅4~18cm, 深さ6~8cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦である。壁溝から中央部に向かって延びる溝5条を検出した。北東壁下から2条(a・b), 南東壁下から1条(c), 南西壁下から2条(d・e)の溝がそれぞれ中央部に向かっていて。長さ92~150cm, 上幅14~22cm, 下幅4~12cm, 深さ5~16cmで, 断面形はU字状である。

貯蔵穴 東コーナー部に位置し, 長径102cm, 短径86cmの楕円形で, 深さ48cmである。底面は平坦である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量

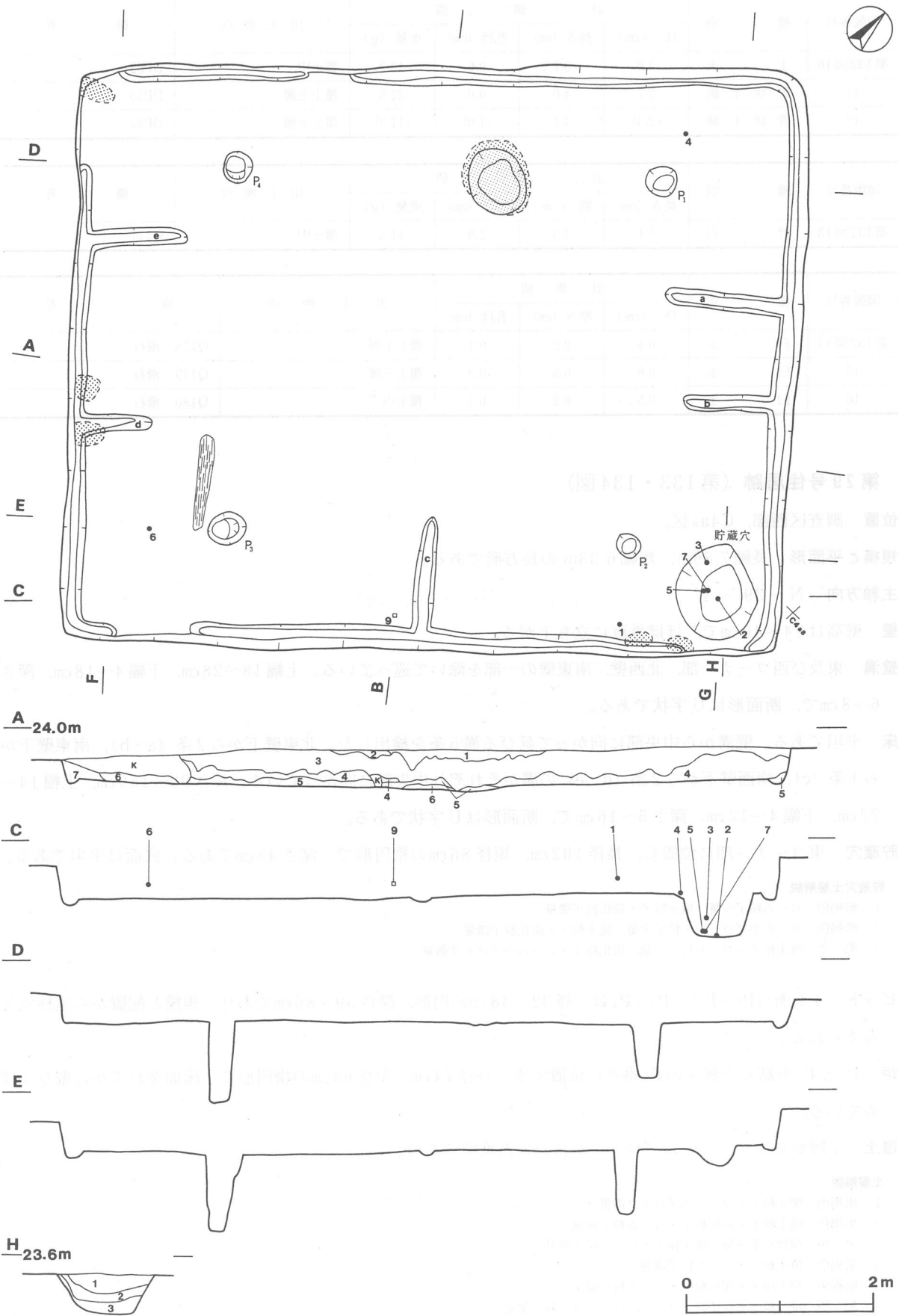
ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁~P₄は, 径32~36cmの円形, 深さ59~86cmであり, 規模と配置から支柱穴と考えられる。

炉 P₁とP₄を結んだ線上のP₁寄りに位置する。長径74cm, 短径60cmの楕円形で, 床面をわずかに掘りくぼめている。

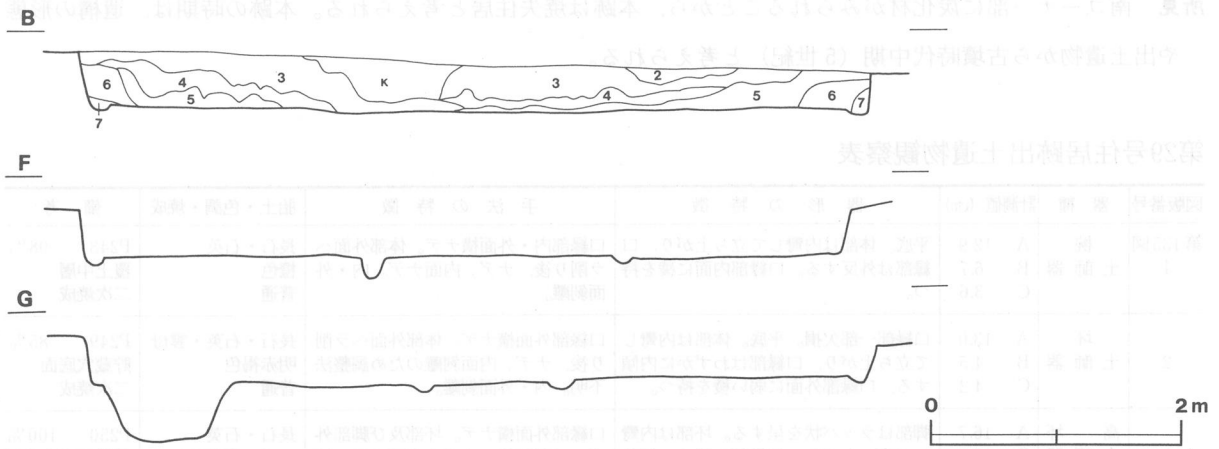
覆土 7層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

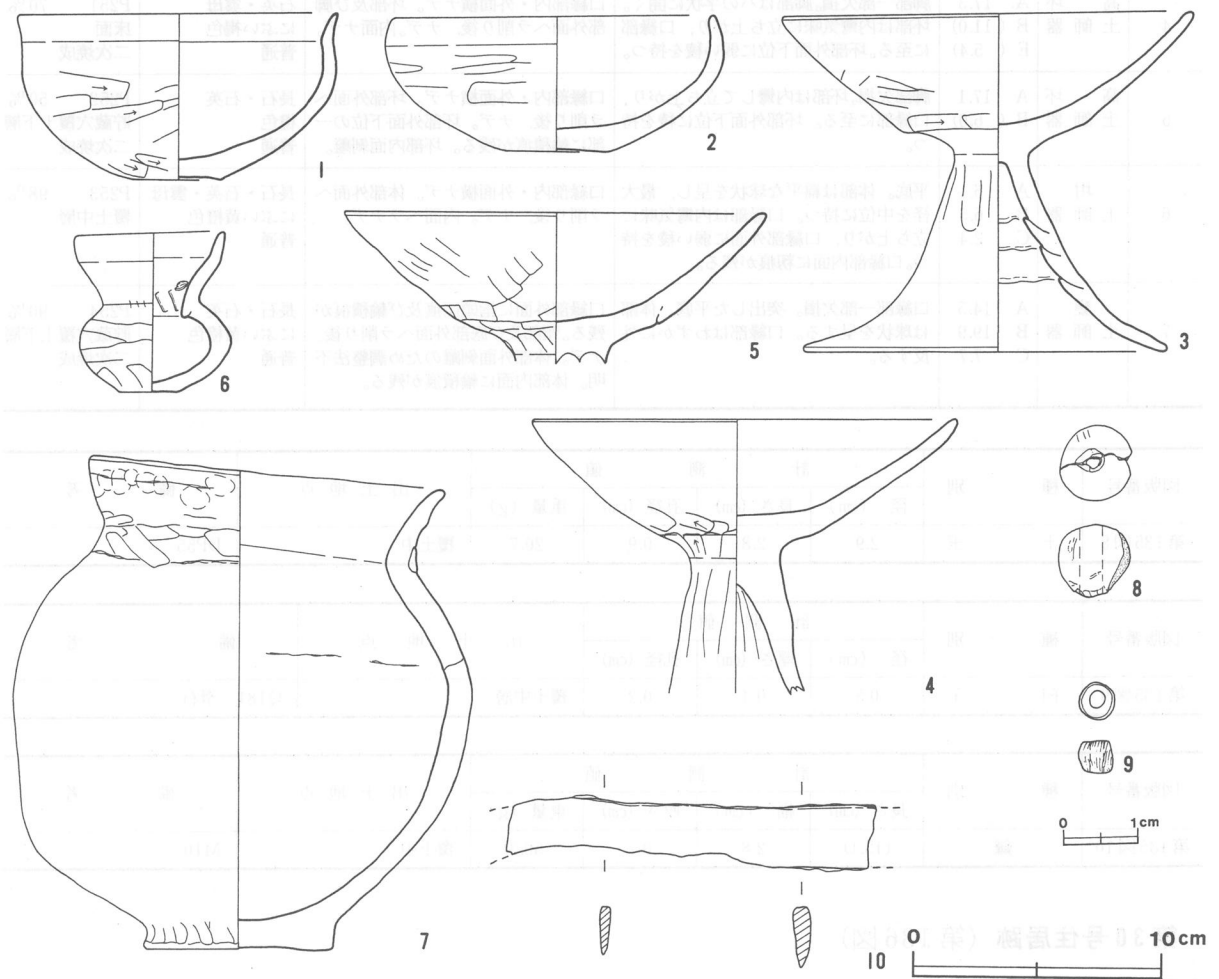
- 1 黒褐色 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 黒色 炭化粒子少量, 焼土粒子・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 6 褐色 焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック・粒子微量
- 7 赤橙色 焼土大ブロック多量



第133図 第29号住居跡実測図(1)



第134図 第29号住居跡実測図(2)



第135図 第29号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片672点、土玉1点、白玉1点、鎌1点が出土している。第135図1の土師器碗が東コーナー部、6の埴が南コーナー部の覆土中層から、4の高坏が北コーナー部の床面から出土している。3の高坏が貯蔵穴の覆土中層、5の高坏、7の甕が貯蔵穴の覆土下層から、2の坏が貯蔵穴の底面から出土している。また、8の土玉が覆土中から、9の白玉が東南壁際の覆土中層から、10の鎌が覆土中から出土している。

所見 南コーナー部に炭化材がみられることから、本跡は焼失住居と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第29号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第135図 1	碗 土師器	A 12.9	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内・外面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P248 98% 覆土中層 二次焼成
		B 6.7				
		C 3.6				
2	坏 土師器	A 13.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。口縁部外面に弱い稜を持つ。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面剝離のため調整法不明。内・外面剝離。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P249 85% 貯蔵穴底面 二次焼成
		B 4.5				
		C 4.2				
3	高坏 土師器	A 16.7	脚部はラッパ状を呈する。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部外面横ナデ。坏部及び脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。坏部内面剝離。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P250 100% 貯蔵穴覆土中層
		B 13.7				
		D 14.8				
		E 7.9				
4	高坏 土師器	A 17.3	脚部一部欠損。脚部はハの字状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部及び脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P251 70% 床面 二次焼成
		B (11.0)				
		E (5.4)				
5	高坏 土師器	A 17.1	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。坏部外面下位の一部分に輪積痕が残る。坏部内面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P252 50% 貯蔵穴覆土下層 二次焼成
		B (6.0)				
6	埴 土師器	A 6.1	平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は内彎気味に立ち上がり、口縁部外面に弱い稜を持つ。口縁部内面に靱痕が残る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P253 98% 覆土中層
		B 6.5				
		C 2.4				
7	甕 土師器	A 14.5	口縁部一部欠損。突出した平底。体部は球状を呈する。口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面に指頭圧痕及び輪積痕が残る。頸部及び底部外面へラ削り後、ナデ。体部外面剝離のため調整法不明。体部内面に輪積痕が残る。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P254 90% 貯蔵穴覆土下層 二次焼成
		B 19.9				
		C 7.7				

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第135図8	土玉	2.9	2.8	0.9	20.7	覆土中	DP55

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第135図9	白玉	0.5	0.4	0.2	覆土中層	Q181 滑石

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第135図10	鎌	(15.1)	2.8	0.7	(50.3)	覆土中	M10

第30号住居跡 (第136図)

位置 調査区西部, C4a0区。

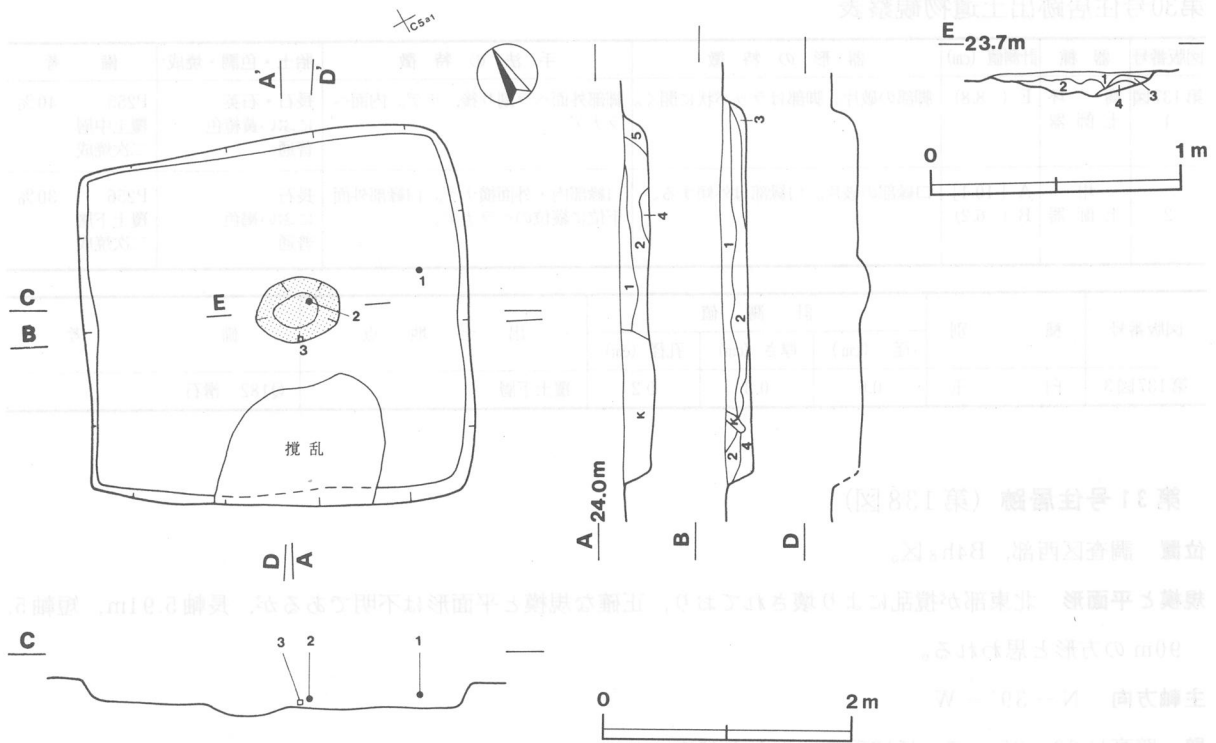
規模と平面形 長軸3.12m, 短軸2.97mの方形である。

主軸方向 N-25°-E

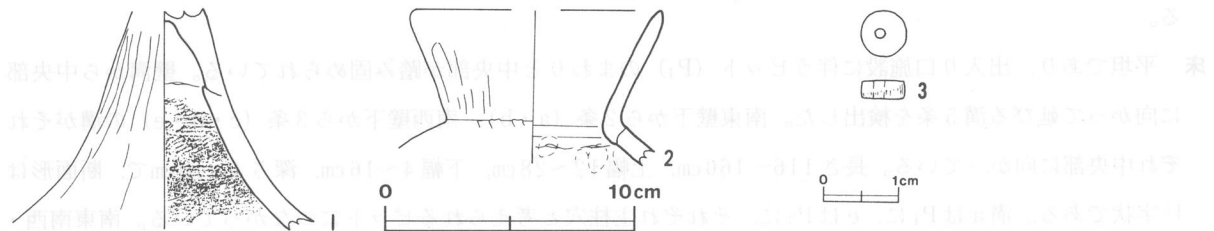
壁 壁高は18~22cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であり、特に硬化面はみられない。

炉 ほぼ中央に位置する。長径68cm, 短径52cmの楕円形で、床面を10cm掘りくぼめている。



第136図 第30号住居跡実測図



第137図 第30号住居跡出土遺物実測図

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 明褐色 ローム粒子多量

覆土 5層からなり, レンズ状の堆積を示す自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片 396点, 白玉1点が出土している。第137図1の土師器高坏が東壁際の覆土中層から, 2の坩が中央部の覆土下層から出土している。また, 3の白玉が中央部の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第30号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第137図 1	高坏土師器	E (8.8)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。	長石・石英 におい黄橙色 普通	P255 40% 覆土中層 二次焼成
2	埴土師器	A [10.1] B (6.2)	口縁部の破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面下に縦位のヘラナデ。	長石 におい褐色 普通	P256 30% 覆土下層 二次焼成

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第137図3	白玉	0.6	0.3	0.2	覆土下層	Q182 滑石

第31号住居跡 (第138図)

位置 調査区西部, B4h8区。

規模と平面形 北東部が攪乱により壊されており、正確な規模と平面形は不明であるが、長軸5.91m、短軸5.90mの方形と思われる。

主軸方向 N-39°-W

壁 壁高は60~95cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 本跡の検出範囲は巡っている。上幅18~25cm、下幅6~12cm、深さ6~12cmで、断面形はU字状である。

床 平坦であり、出入口施設に伴うピット (P₄) のまわりと中央部が踏み固められている。壁溝から中央部に向かって延びる溝5条を検出した。南東壁下から2条 (a・b)、南西壁下から3条 (c・d・e) の溝がそれぞれ中央部に向かっていて。長さ116~160cm、上幅12~28cm、下幅4~16cm、深さ4~10cmで、断面形はU字状である。溝aはP₁に、eはP₃に、それぞれ支柱穴と考えられるピットにつながっている。南東南西・北西壁際に焼土塊が、北西壁際に炭化材がみられる。

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、径102cmの円形で、深さは40cmである。底面は平坦で、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 極明赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・粒子多量、炭化物少量
- 2 赤褐色 焼土粒子・ローム粒子多量、炭化粒子中量、炭化物少量
- 3 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₃は、長径31~38cm、短径24~34cmの楕円形、深さ72~76cmであり、規模と配置から支柱穴と考えられる。P₄は径34cmの円形、深さ12cmであり、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

炉 北西壁寄りに位置する。長径102cm、短径68cmの楕円形で、床面を5cm掘りくぼめている。

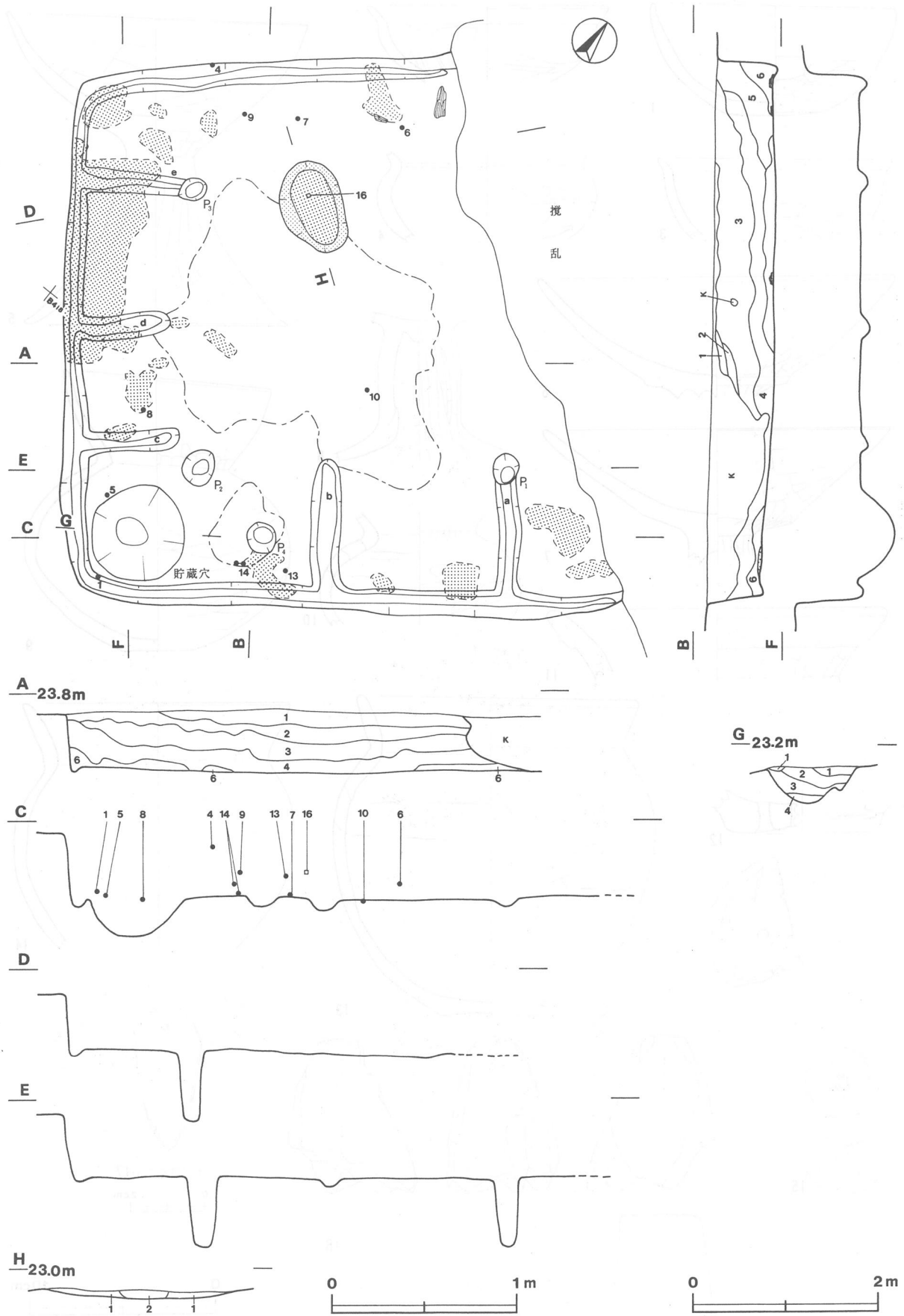
炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化粒子・ローム中ブロック・粒子微量
- 2 極暗赤褐色 焼土粒子多量、炭化物微量

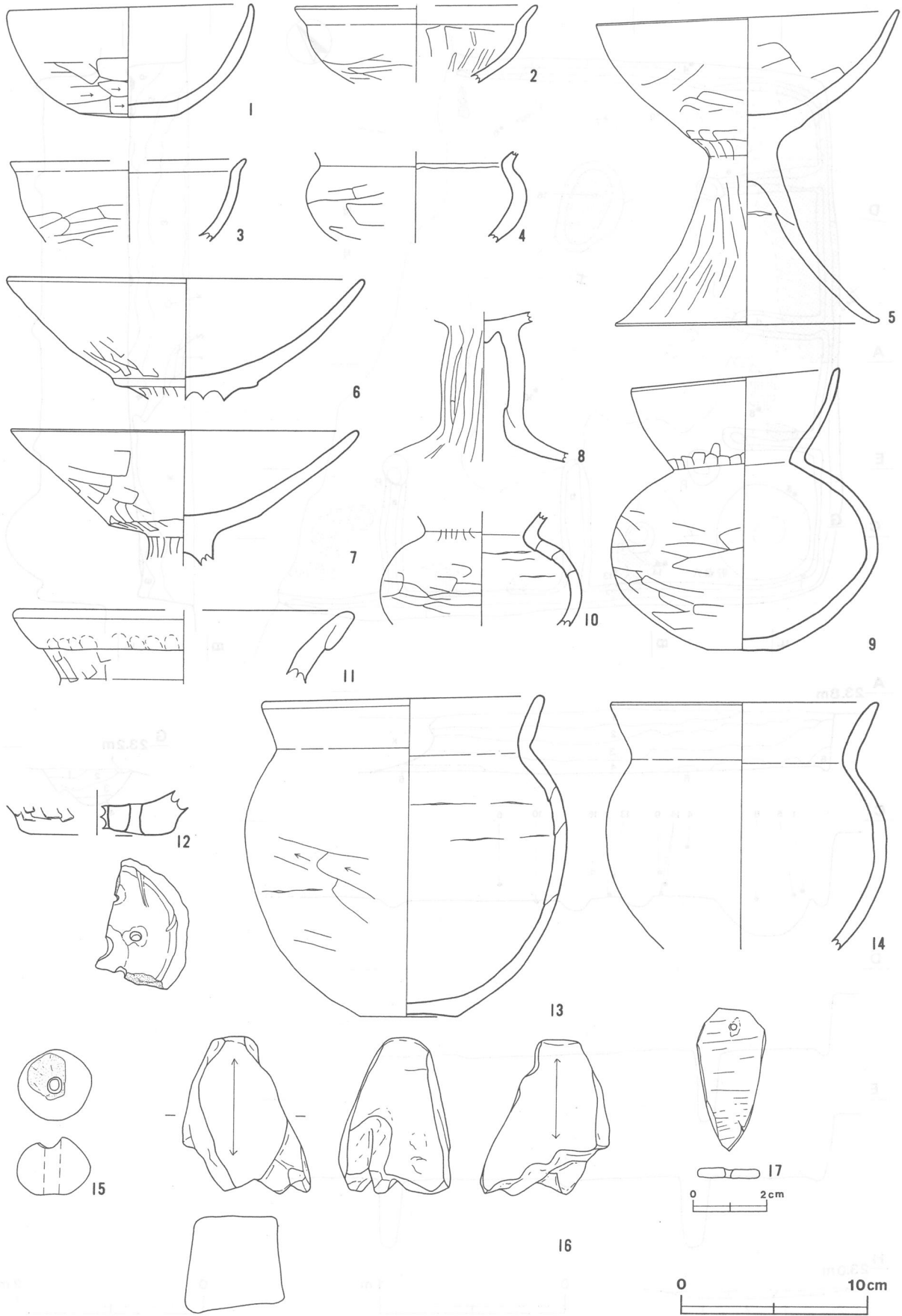
覆土 6層からなり、ローム粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子・ローム粒子少量 | 4 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子中量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土粒子少量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 ローム粒子多量、焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 3 黒褐色 焼土粒子・ローム粒子中量、炭化粒子少量 | 6 暗赤褐色 焼土大ブロック多量、炭化物中量、ローム粒子微量 |



第138図 第31号住居跡実測図



第139図 第31号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 1329 点, 須恵器片 1 点, 土玉 1 点, 白玉 2 点が出土している。第 139 図 2・3 の土師器坏及び 11 の壺, 12 の甌が覆土中から, さらに, 4 の椀が北西壁際の覆土上層から, 9 の罌が北西壁際, 13 の甕が南東壁際の覆土中層から, 1 の坏, 5 の高坏が南コーナー部, 14 の甕が南東壁際の覆土下層から出土している。6・7 の高坏が北西壁際, 8 の高坏が南西壁際, 10 の罌が中央部の床面から出土している。また, 15 の土玉及び 17 の剣形品が覆土中から, 16 の砥石が北西壁寄りの覆土中層から出土している。なお, 滑石の細片 (5.4g) が覆土中から出土している。

所見 壁際の床面に焼土塊がみられることから焼失家屋と考えられる。本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期 (5 世紀) と考えられる。

第31号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 139 図 1	坏 土師器	A 13.1 B 6.1 C 5.3	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。内面剥離のため調整法不明。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P257 95% 覆土下層 二次焼成
2	坏 土師器	A [13.2] B (4.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後, ナデ。内面へラ磨き。	長石 赤褐色 普通	P258 15% 覆土中 二次焼成
3	坏 土師器	A [12.8] B (4.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P259 20% 覆土中 二次焼成
4	椀 土師器	B (4.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	体部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石 橙色 普通	P260 15% 覆土上層
5	高坏 土師器	A 16.3 B 16.8 D 14.2 E 9.3	裾部及び口縁部一部欠損。脚部はラッパ状を呈する。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後, ナデ。脚部外面へラナデ。内面ナデ。坏部内面剥離。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P261 95% 覆土下層 二次焼成
6	高坏 土師器	A 19.3 B (6.6)	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラナデ。内面ナデ。坏部内面剥離。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P262 40% 床面 二次焼成
7	高坏 土師器	A 18.7 B (7.3)	脚部欠損。坏部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後, ナデ。坏部内面剥離。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P263 30% 床面 二次焼成
8	高坏 土師器	E (8.0)	脚部の破片。脚柱部はエンタシス状を呈する。	脚柱部へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P264 25% 床面 二次焼成
9	罌 土師器	A 11.3 B 15.3 C 3.7	口縁部一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し, 最大径を中位に持つ。口縁部は内彎して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。頸部及び体部外面へラ削り後, ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P265 95% 覆土中層 二次焼成
10	罌 土師器	B (6.2)	体部の破片。体部は扁平な球状を呈する。	頸部及び体部外面へラ削り後, ナデ。内面に輪積痕が残る。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P266 30% 床面
11	壺 土師器	A [18.5] B (4.0)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で, 外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラナデ。口縁部外面に指頭圧痕が残る。	長石 橙色 普通	P267 5% 覆土中
12	甌 土師器	B (2.4) C [8.2]	底部の破片。突出した平底。底部中央にやや大きめの 1 孔を穿ち, その回りに複数の穿孔をしたものと思われる。	底部外面へラナデ。	長石 にぶい橙色 普通	P268 5% 覆土中
13	甕 土師器	A 15.7 B 17.3 C 5.3	口縁部一部欠損。平底。体部は球状を呈する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。内面に輪積痕が残る。	長石・石英 橙色 普通	P269 85% 覆土中層 二次焼成
14	甕 土師器	A 14.5 B (13.3)	底部欠損。体部は球状を呈する。口縁部は外傾する。	内・外面剥離のため調整法不明。	長石・石英 橙色 普通	P270 60% 覆土下層 二次焼成

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第139図15	土 玉	3.9	3.1	0.8	27.0	覆土中	DP56

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第139図16	砥 石	8.4	6.9	5.2	321.4	覆土中	Q183 砂岩

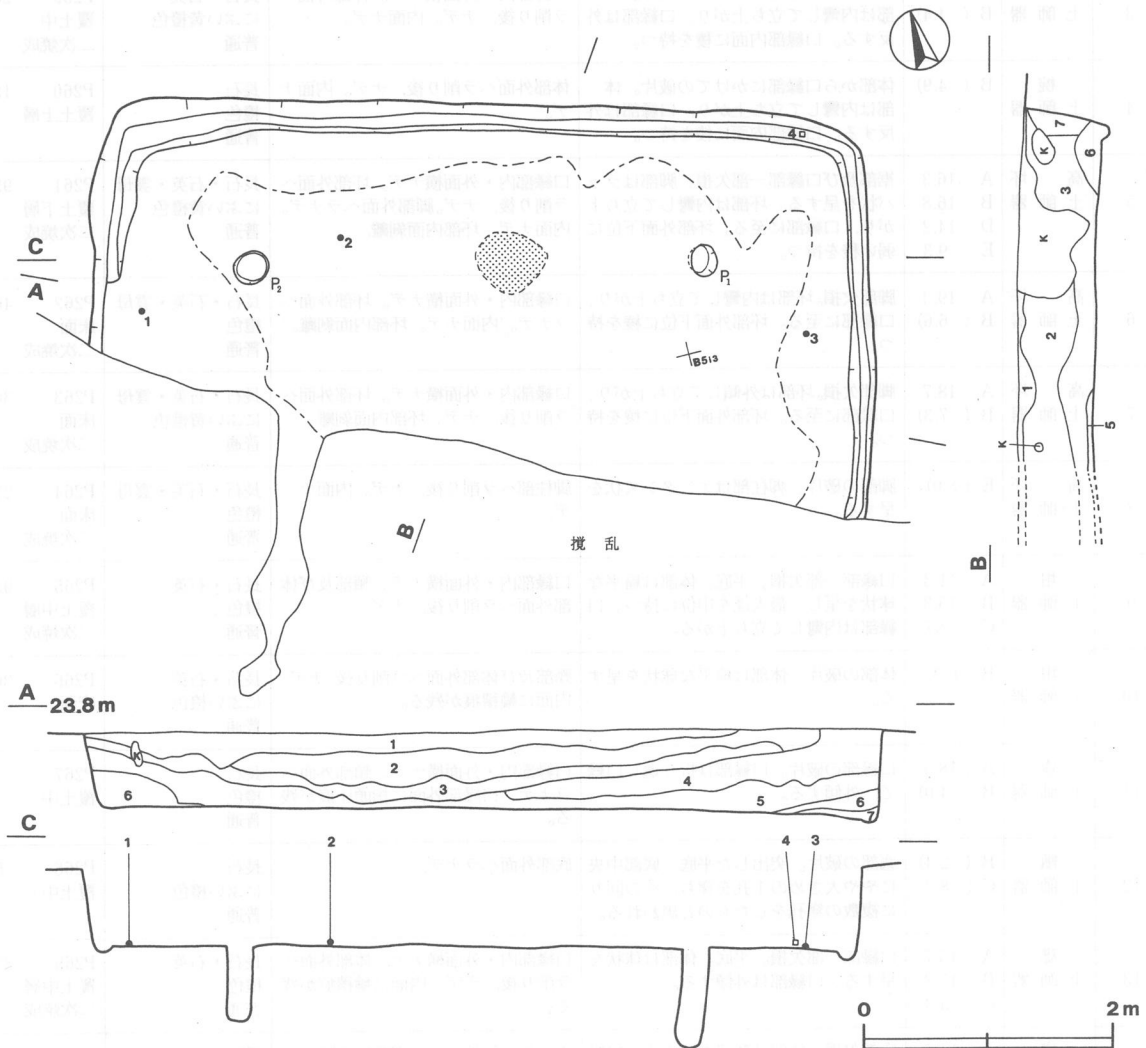
図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第139図17	剣 形 品	3.8	1.9	0.3	0.2	3.5	覆土中	Q184 滑石

第32号住居跡 (第140図)

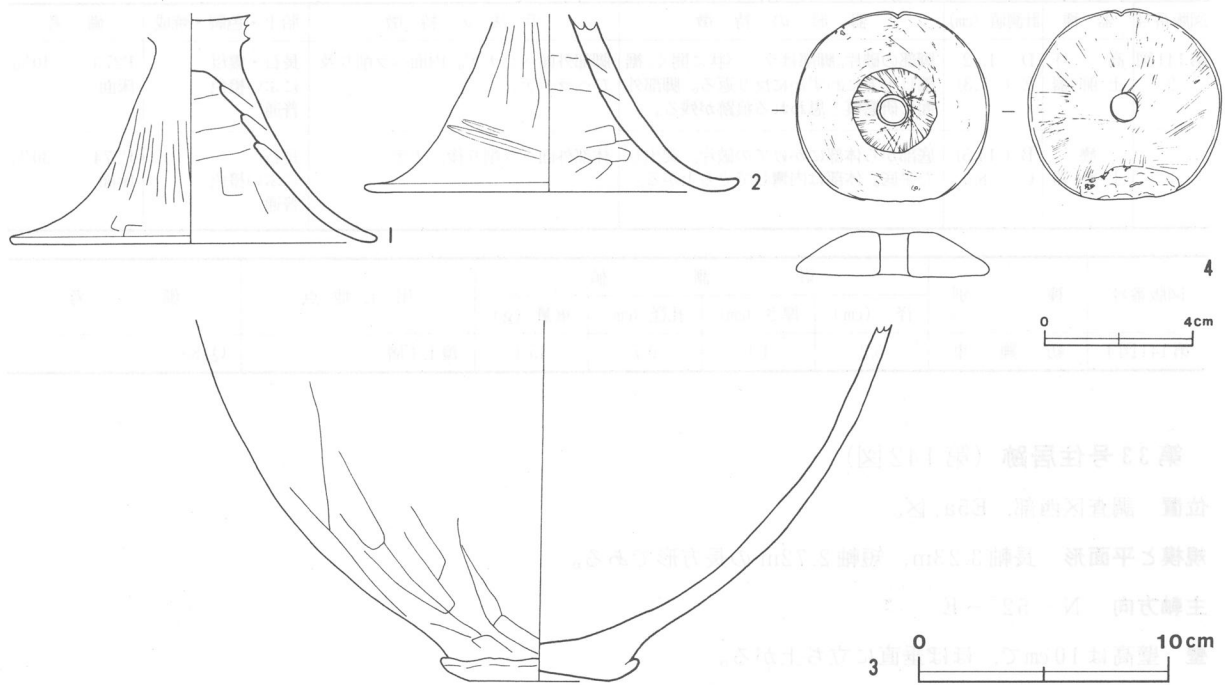
位置 調査区西部, B5h₂区。

規模と平面形 攪乱により南部が壊されているため, 正確な規模と平面形は不明であるが, 一辺6.38mほどの方形か長方形と考えられる。

主軸方向 N - 15° - E



第140図 第32号住居跡実測図



第141図 第32号住居跡出土遺物実測図

壁 壁高は63cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 本跡の検出範囲において西壁下の一部を除いて巡っている。上幅22~40cm、下幅4~17cm、深さ4~6cmで、断面形はU字状である。

床 平坦であり、検出された範囲で、壁際を除いて踏み固められている。

ピット 2か所 (P₁・P₂)。P₁は、径12cmの円形で、深さ80cm、P₂は径32cmの円形で、深さ62cmであり規模と配置からいずれも支柱穴と考えられる。

炉 P₁とP₂を結んだ線上のP₁寄りに位置する。長径60cm、短径48cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめている。

覆土 7層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子少量
- 4 極暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子中量, 焼土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量, ローム大・中ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化物・ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化物微量

遺物 土師器片647点、石製紡錘車1点が出土している。第141図1の土師器高環が西壁際、2の高環が北壁寄り、3の甕が東壁際の床面から出土している。また、4の石製紡錘車が北壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期 (5世紀) と考えられる。

第32号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第141図 1	高環 土師器	D 14.7 E 9.2	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面ヘラナデ。	長石・雲母に ぶい 橙色 普通	P272 40% 床面

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第141図 2	高坏 土師器	D 15.2 E (7.3)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。裾部は上方にわずかに反り返る。脚部外面に研磨痕と思われる痕跡が残る。	脚部外面ヘラナデ。内面ヘラ削り及びヘラナデ。	長石・雲母にぶい 橙色普通	P273 40% 床面
3	甕 土師器	B (14.5) C 8.0	底部から体部にかけての破片。突出した平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。	長石にぶい 橙色普通	P274 30% 床面

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第141図4	紡錘車	5.2	1.1	0.7	45.1	覆土下層	Q185

第33号住居跡 (第142図)

位置 調査区西部, E5a7区。

規模と平面形 長軸3.23m, 短軸2.72mの長方形である。

主軸方向 N-52°-E

壁 壁高は10cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であり, 特に硬化面はみられない。南東壁寄りから中央部にかけて焼土塊がみられる。

ピット P₁は, 径56cmの円形, 深さ45cmであり, その性格は不明である。

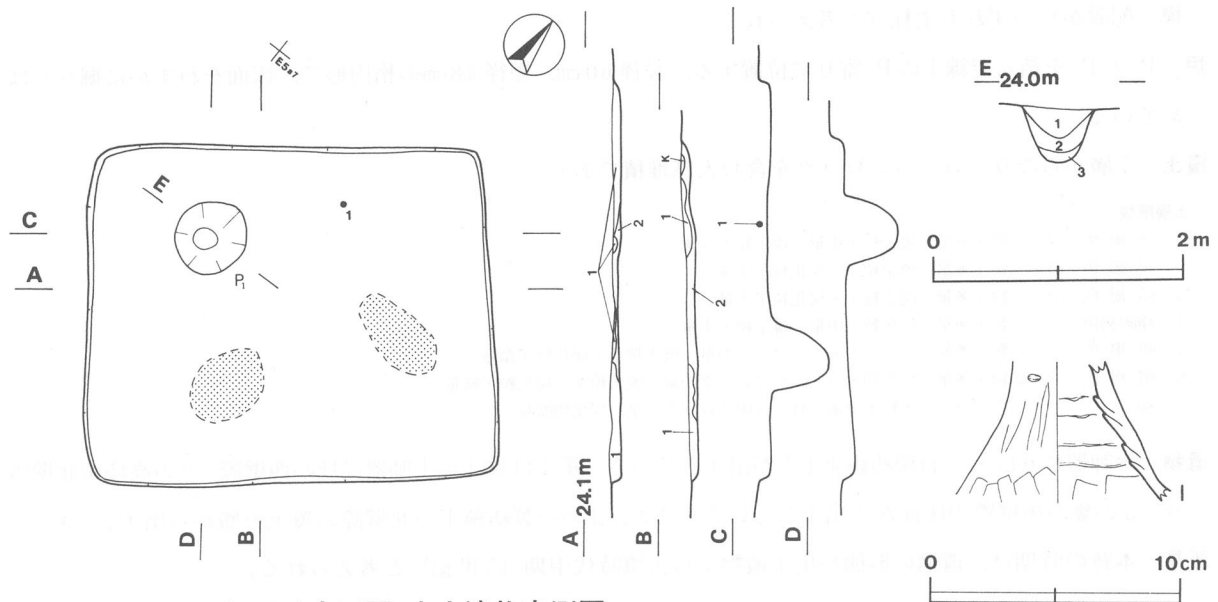
覆土 覆土が浅く, 堆積状況については不明である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片95点が出土している。第142図1の土師器高坏が北西壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 南東壁寄りから中央部にかけて焼土塊がみられることから, 本跡は焼失住居と考えられる。本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代中期と考えられる。



第142図 第33号住居跡実測図・出土遺物実測図

第33号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第142図 1	高坏 土師器	E (5.7)	脚部の破片。脚部はラッパ状を呈する。坏部外面に刃痕が残る。	脚部内・外面ヘラナデ。	長石・石英にぶい 黄橙色普通	P275 30% 覆土上層

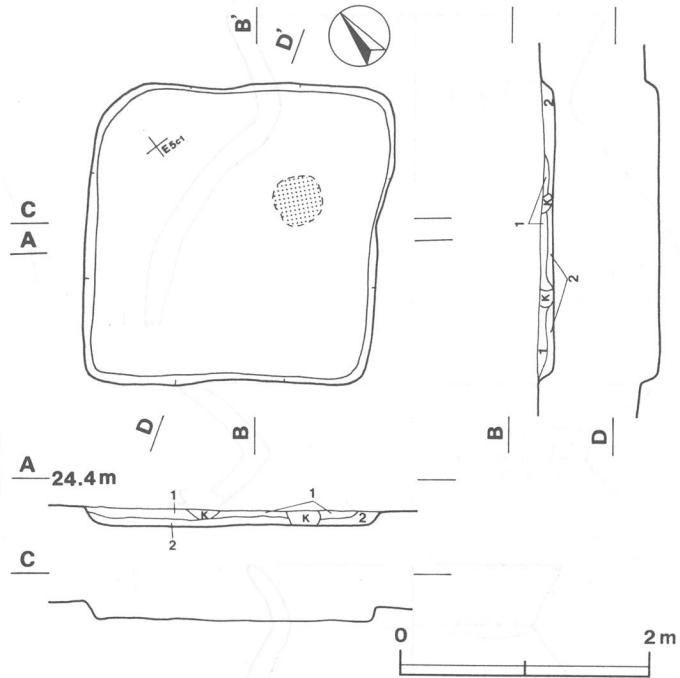
第35号住居跡 (第143図)

位置 調査区西部, E5c1区。
規模と平面形 長軸2.40m, 短軸2.34mの
 方形である。
主軸方向 N-43°-E
壁 壁高は10~18cmで, ほぼ垂直に立ち上
 がる。
床 ほぼ平坦であり, 全体的に軟弱である。
 東コーナー部付近に焼土塊がみられる。
覆土 2層からなるが, 覆土が浅く, 堆積状
 況については不明である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片31点が出土しているが, い
 ずれも細片であり図示できるものはない。
所見 本跡の時期は, 出土遺物から古墳時代
 中期と考えられるが正確な時期は不明である。



第143図 第35号住居跡実測図

第36号住居跡 (第144図)

位置 調査区西部, D4f3区。
規模と平面形 長軸2.89m, 短軸2.41mの長方形である。
主軸方向 N-29°-E
壁 壁高は5~10cmで, 外傾して立ち上がる。
床 やや凹凸があり, 中央部から南西部にかけて踏み固
 められている。北西壁寄りに焼土塊がみられる。
貯蔵穴 東コーナー部に位置し, 径35cmの円形で, 深
 さは28cmである。底面は平坦で, 断面形はU字状で
 ある。

貯蔵穴土層解説

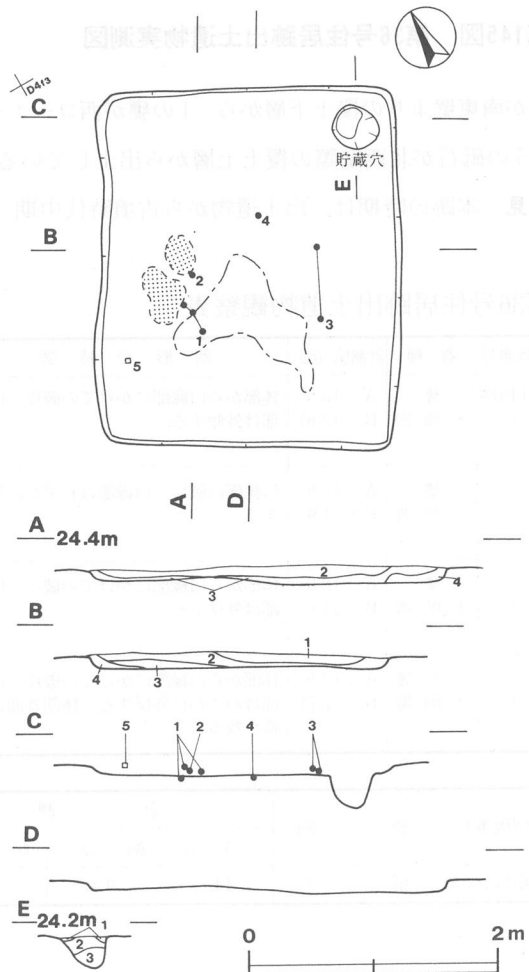
- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量
- 3 褐色 ローム粒子多量

覆土 4層からなり, レンズ状の堆積を示す自然堆積で
 ある。

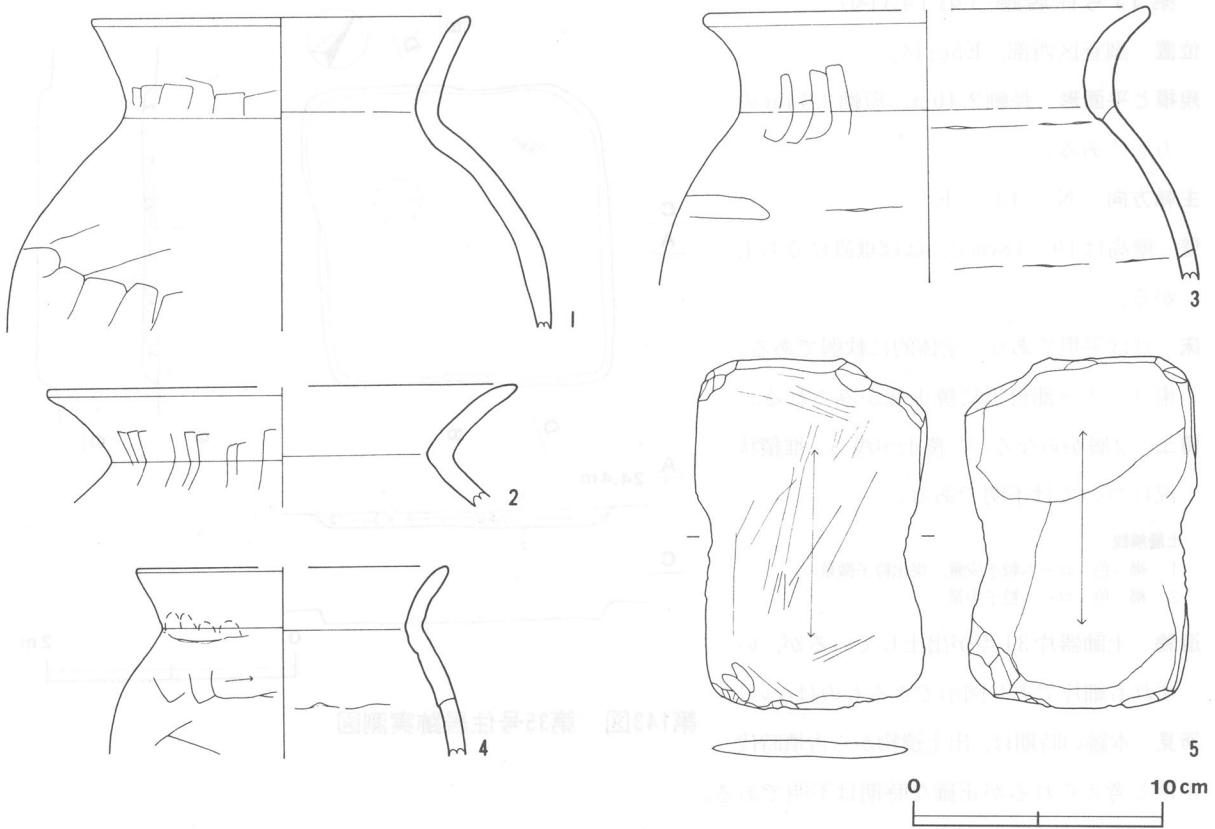
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片208点, 砥石1点が出土している。第145
 図2の土師器甕が北西壁寄りの覆土上層から, 3の甕



第144図 第36号住居跡実測図



第145図 第36号住居跡出土遺物実測図

が南東壁よりの覆土下層から、1の甕が西コーナー付近、4の小形甕が中央部の床面から出土している。また、5の砥石が北西壁際の覆土上層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第36号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第145図 1	甕 土師器	A 15.3 B (12.6)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・雲母 淡赤橙色 普通	P276 25% 床面 二次焼成
2	甕 土師器	A [18.9] B (4.9)	口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。頸部外面へラナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P277 5% 覆土上層
3	甕 土師器	A [18.0] B (11.0)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。体部内面に輪積痕が残る。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P278 20% 覆土下層 二次焼成
4	小形甕 土師器	A [12.6] B (7.7)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部はわずかに外反する。体部外面に粗積痕が残る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。体部内・外面に輪積痕が、頸部外面に指頭圧痕が残る。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P279 30% 床面 二次焼成

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第145図5	砥石	14.2	9.4	1.1	204.2	覆土上層	Q186 粘板岩

第38号住居跡 (第146図)

位置 調査区西部, D4f4区。

規模と平面形 西コーナー部のほかは攪乱により壊されているため規模は不明である。平面形は方形か長方形と思われる。

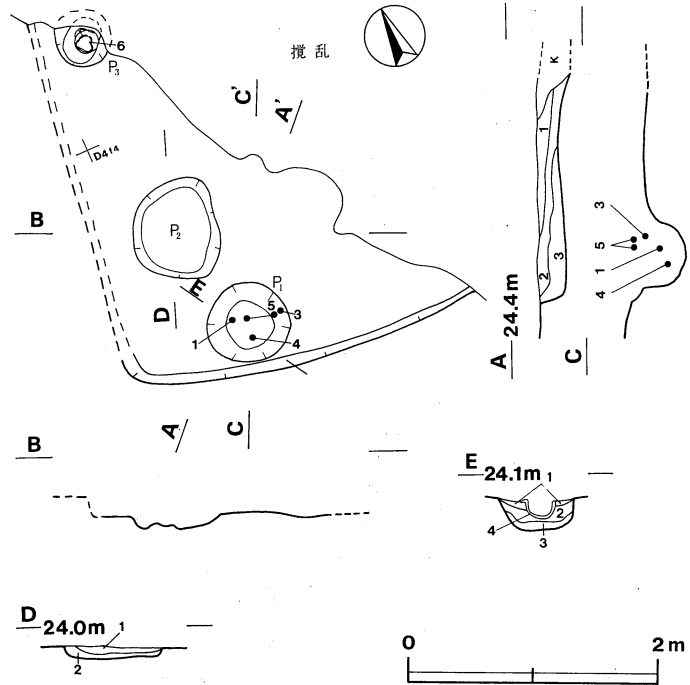
主軸方向 [N - 21° - E]

壁 壁高は8~22cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 ほぼ平坦である。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は径66cmの円形、深さ29cm, P₂は長軸80cm, 短軸68cmの不定形、深さ15cm, P₃は径46cmの円形、深さ66cmであり、いずれもその性格は不明である。

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示す自然堆積である。



第146図 第38号住居跡実測図

土層解説

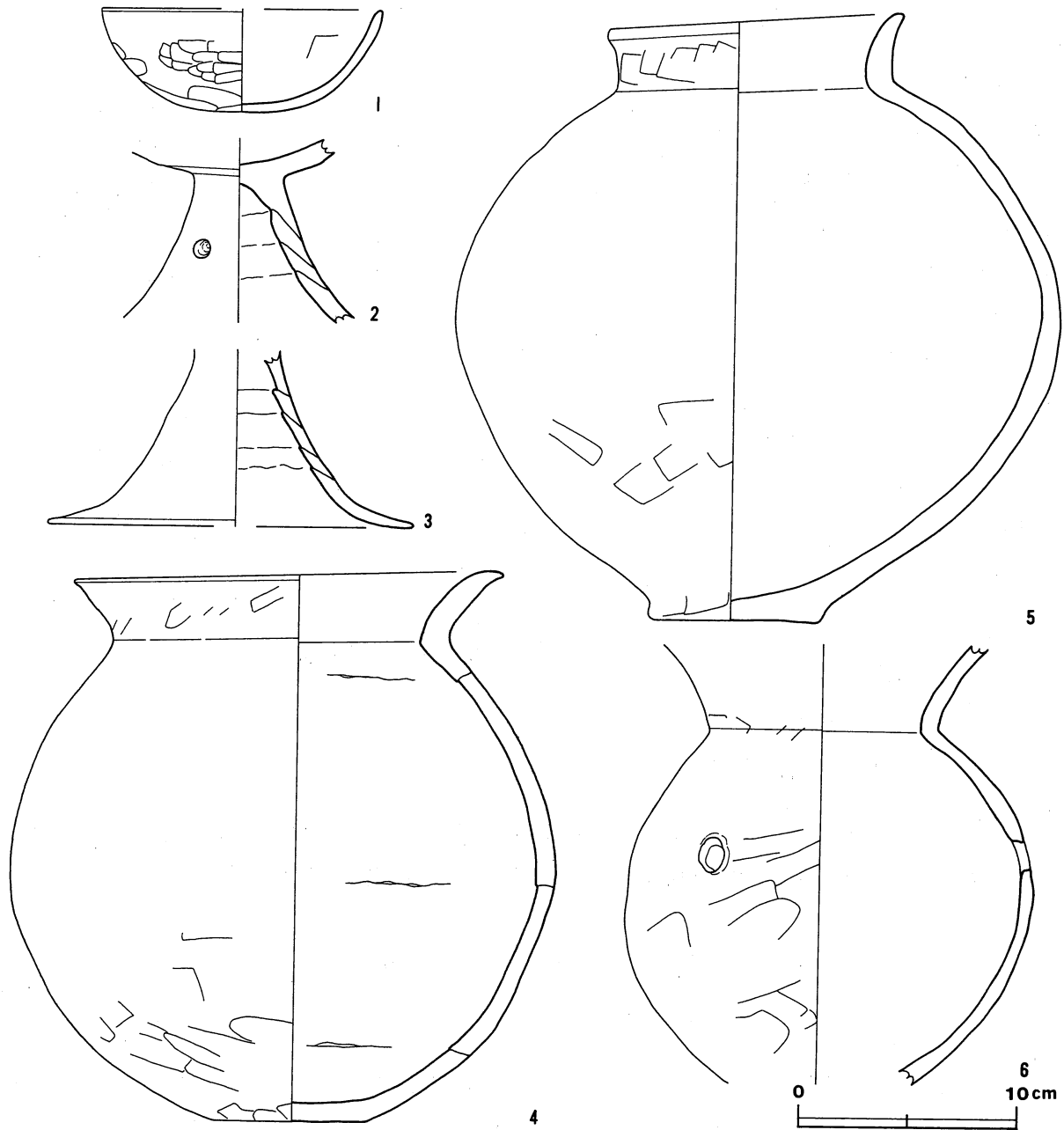
- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片 823点が出土している。第147図2の高坏が覆土中から、3の高坏が逆位で、5の甕とP₁の覆土上層から、1の坏が正位、4の甕が横位でP₁の覆土中層から、6の甕が逆位でP₃の覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代中期 (5世紀) と考えられる。

第38号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第147図 1	坏 土師器	A [12.8] B 4.7 C 3.0	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・雲母にぶい橙色普通	P281 40% P ₁ 覆土中層
2	高坏 土師器	B (8.3) E (6.5)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開くと思われる。外面中位に貫通しない単孔を穿つ。また、研磨痕と思われる痕跡が残る。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P282 40% 覆土中
3	高坏 土師器	D [16.8] E (8.1)	脚部の破片。脚部はラッパ状を呈する。	脚部外面剥離のため調整法不明。内面ナデ。	石英橙色普通	P283 20% P ₁ 覆土上層
4	甕 土師器	A 19.7 B 25.5 C 7.0	体部の一部欠損。平底。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。体部内面に輪積痕が残る。	長石・石英にぶい橙色普通	P284 90% P ₁ 覆土中層
5	甕 土師器	A 13.7 B 27.9 C 8.0	突出した平底。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P285 80% P ₁ 覆土上層
6	甕 土師器	B (20.2)	体部・口縁部の一部及び底部欠損。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。体部中位よりやや上方に単孔を穿つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面剥離。	長石・石英にぶい橙色普通	P393 70% P ₃ 覆土中層 二次焼成



第147図 第38号住居跡出土遺物実測図

第39号住居跡 (第148図)

位置 調査区西部, D3j₉区。

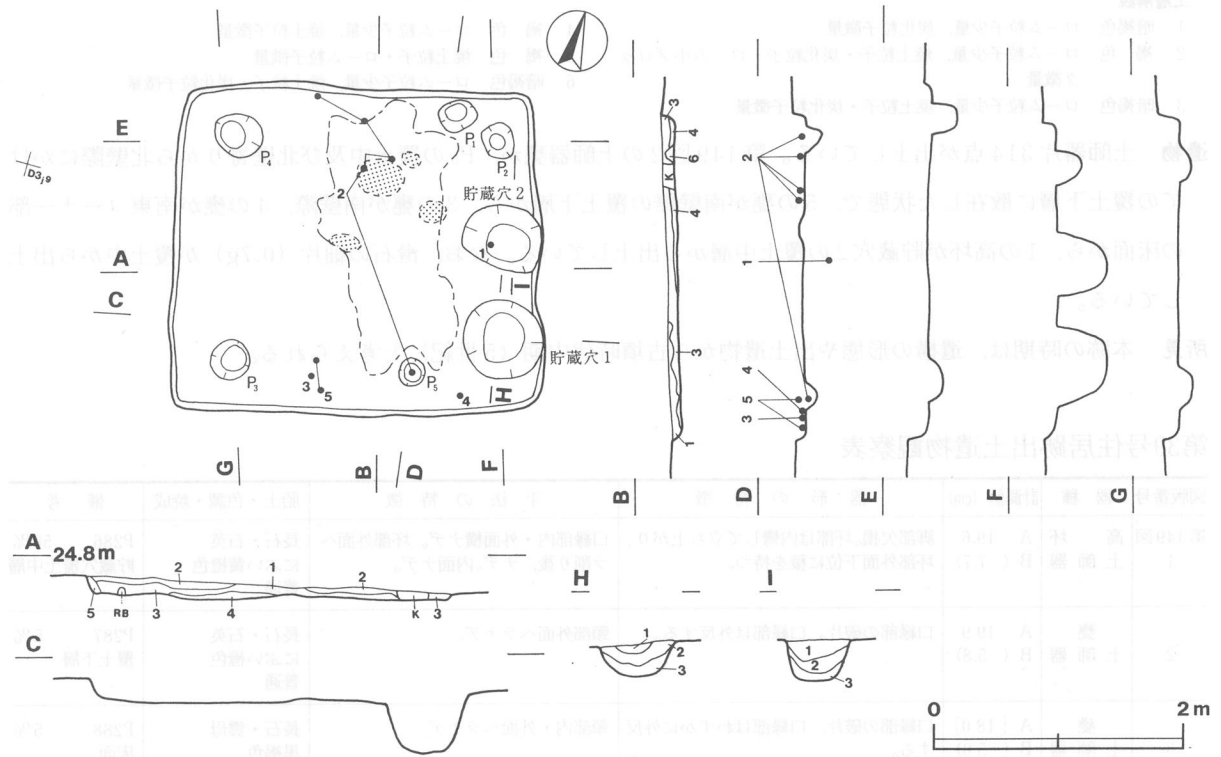
規模と平面形 長軸2.97m, 短軸2.63mの方形である。

主軸方向 N-14°-W

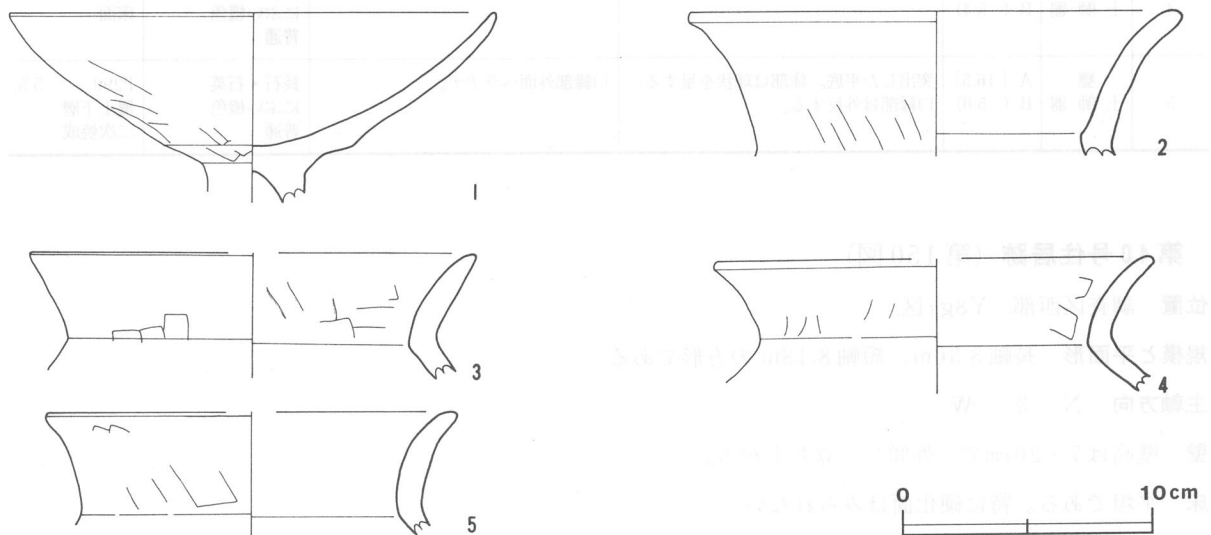
壁 壁高は12~16cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦であり, 中心部が踏み固められている。中央部付近に焼土塊がみられる。

貯蔵穴 2か所。東壁際南部(貯蔵穴1)及び東壁際北部(貯蔵穴2)で検出した。貯蔵穴1は, 径66cmの円形で, 深さは40cmである。底面は平坦で, 断面形はU字状である。貯蔵穴2は, 長径66cm, 短径51cmの楕円形で, 深さは42cmである。底面は平坦で, 断面形はU字状である。



第148図 第39号住居跡実測図



第149図 第39号住居跡出土遺物実測図

貯蔵穴1 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量
- 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子微量

貯蔵穴2 土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₂は長径30cm, 短径22cmの楕円形, P₃は径32cmの円形, P₄は長径41cm, 短径32cmの楕円形で, 深さ12~23cmであり, 配置から支柱穴と考えられる。P₅は径21cmの円形, 深さ13cmであり, 位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₁は長径31cm, 短径21cmの楕円形, 深さ14cmで, 補助柱穴と考えられる。

覆土 6層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|-------------------------------|-------|----------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 2 褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 5 褐色 | 焼土粒子・ローム粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物 土師器片 314 点が出土している。第 149 図 2 の土師器甕が, P₅ の覆土中及び北壁寄りから北壁際にかけての覆土下層に散在した状態で, 5 の甕が南壁際の覆土下層から, 3 の甕が南壁際, 4 の甕が南東コーナー部の床面から, 1 の高坏が貯蔵穴 2 の覆土中層から出土している。なお, 滑石の細片 (0.7g) が覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期 (5 世紀) と考えられる。

第 39 号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 149 図 1	高坏 土師器	A 19.6 B (7.7)	脚部欠損。坏部は内彎して立ち上がり, 坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面ヘラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石・石英にぶい黄橙色 普通	P286 50% 貯蔵穴覆土中層
2	甕 土師器	A 19.9 B (5.8)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	頸部外面ヘラナデ。	長石・石英にぶい橙色 普通	P287 5% 覆土下層
3	甕 土師器	A [18.0] B (5.0)	口縁部の破片。口縁部はわずかに外反する。	頸部内・外面ヘラナデ。	長石・雲母 黒褐色 普通	P288 5% 床面
4	甕 土師器	A [17.7] B (5.4)	口縁部の破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ヘラナデ。	長石・石英にぶい橙色 普通	P289 5% 床面
5	甕 土師器	A [16.5] B (5.0)	突出した平底。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部外面ヘラナデ。	長石・石英にぶい橙色 普通	P290 5% 覆土下層 二次焼成

第 40 号住居跡 (第 150 図)

位置 調査区西部, Y8g₃ 区。

規模と平面形 長軸 8.30m, 短軸 8.18m の方形である。

主軸方向 N - 3° - W

壁 壁高は 7~20cm で, 外傾して立ち上がる。

床 平坦である。特に硬化面はみられない。

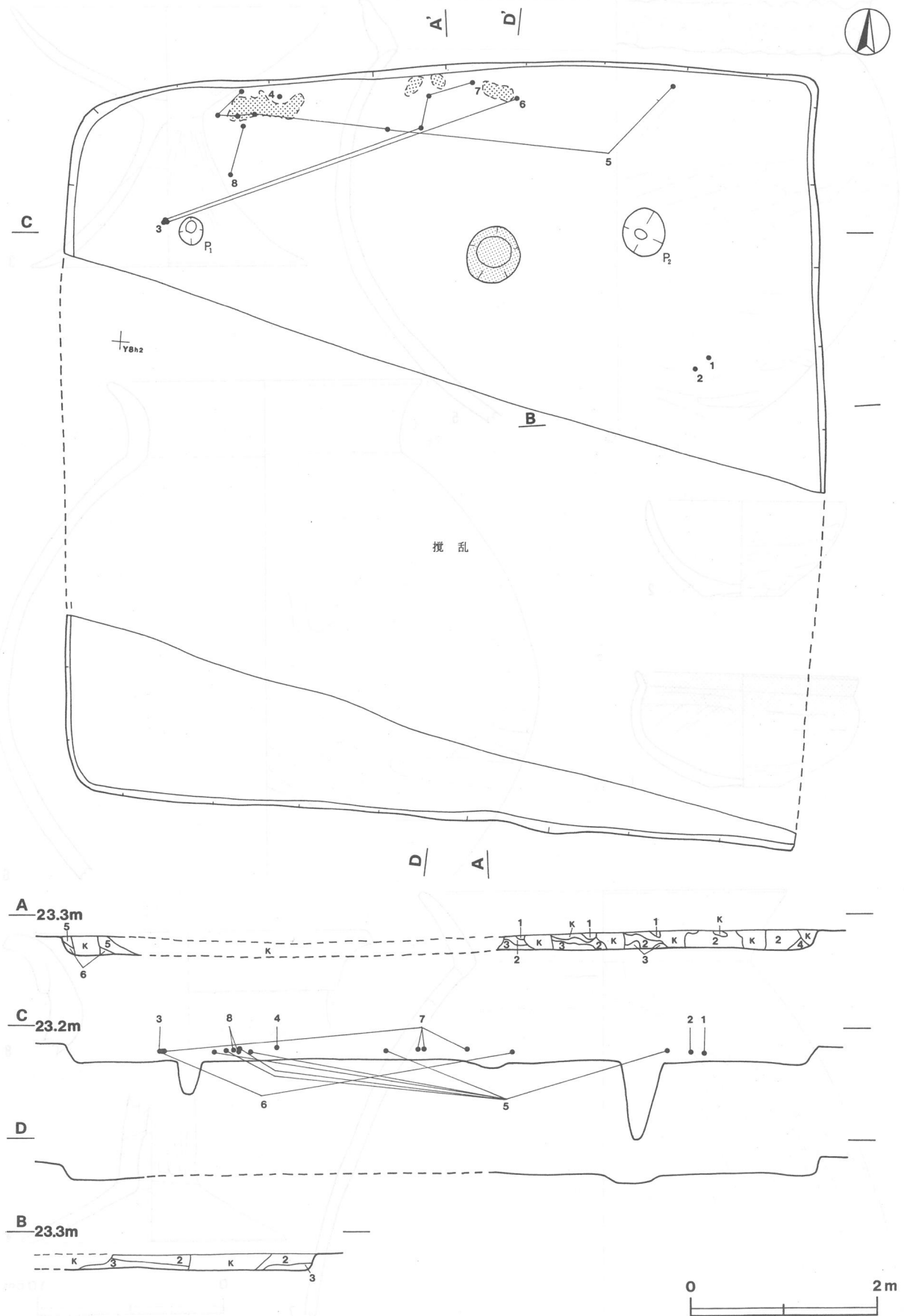
ピット 2 か所 (P₁・P₂)。P₁ は径 46cm の円形, 深さ 38cm であり, P₂ は径 26cm の円形, 深さ 84cm であり, 配置からいずれも支柱穴と考えられる。

炉 P₁ と P₂ を結んだ線の内側で, P₂ 寄りに位置する。径 58cm の円形で, 床面を 8cm 掘りくぼめている。炉床は赤変更化している。

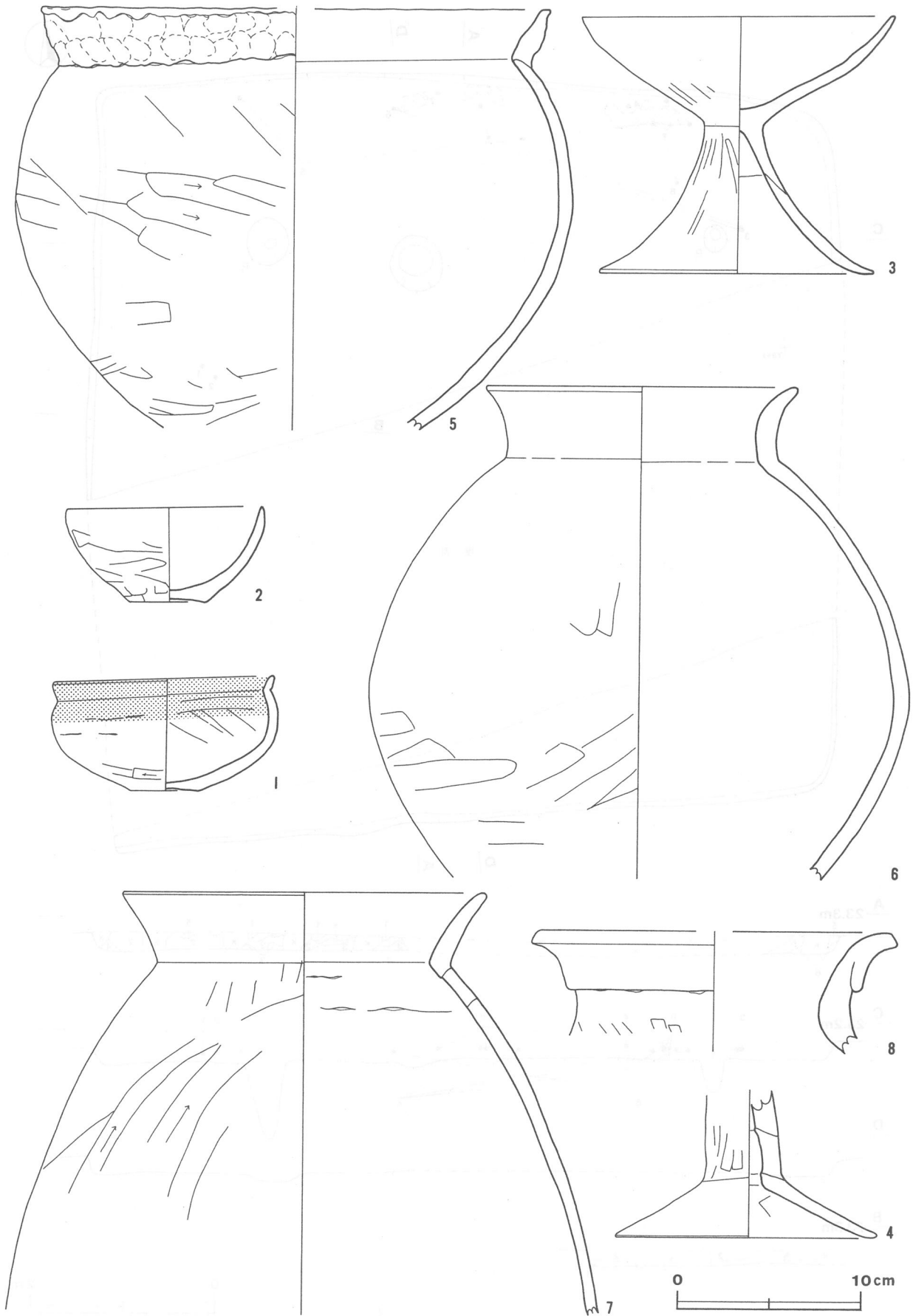
覆土 6 層からなる。攪乱のため堆積状況は不明である。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|------|-------------------------|
| 1 褐色 | ローム粒子中量, 炭化粒子微量 | 4 褐色 | ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 5 褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック微量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 褐色 | ローム粒子少量, 炭化物微量 |



第150図 第40号住居跡実測図



第151図 第40号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 257点が出土している。第151図1の土師器坏, 2の椀がともに正位で東壁寄り, 3の高坏が横位で北西コーナー部, 4の高坏, 8の壺が北壁際, 5の甕が北西コーナー部及び北壁際から北東コーナー部にかけて散在した状態で, 6・7の甕が北西コーナー部から北壁際にかけて散在した状態で, いずれも覆土中層から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第40号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第151図 1	坏 土師器	A 12.0 B 6.3 C 3.7	平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。内面へラナデ。口縁部内・外面赤彩。	長石・石英 にふい 橙色 普通	P291 95% 覆土中層 二次焼成
2	椀 土師器	A 10.7 B 5.2 C 4.1	平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はほぼ直立する。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。内面剝離。	長石・石英 にふい 橙色 普通	P292 95% 覆土中層 二次焼成
3	高坏 土師器	A 12.2 B 14.0 D 15.0 E 8.0	脚部はラッパ状を呈する。坏部は内彎して立ち上がり, 口縁部に至る。	口縁部外面横ナデ。坏部及び脚部外面へラナデ。脚部内面ナデ。坏部内面剝離。	長石・雲母 赤橙色 普通	P293 95% 覆土中層 二次焼成
4	高坏 土師器	D 14.2 E (7.9)	脚部の破片。脚部はエンタシス状を呈し, 裾部はなだらかに開く。	口縁部内・外面横ナデ。坏部及び脚部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	石英・雲母 にふい 褐色 普通	P294 45% 覆土中層 二次焼成
5	甕 土師器	A [27.8] B (23.0)	底部及び体部欠損。体部は球状を呈し口縁部は外反する。	口縁部外面に指頭圧痕が残る。体部外面へラ削り後, ナデ。	石英 にふい 橙色 普通	P295 50% 覆土中層
6	甕 土師器	A 17.1 B (26.9)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。口縁部内面剝離。	長石・石英・雲母 にふい 黄橙色 普通	P296 35% 覆土中層
7	甕 土師器	A [20.0] B (23.0)	体部から口縁部にかけての破片。体部は縦長の球状を呈すると思われる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。体部内面に輪積痕が残る。内・外面剝離。	長石・石英 にふい 橙色 普通	P297 25% 覆土中層 二次焼成
8	壺 土師器	A [20.0] B (6.6)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で, 外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P298 5% 覆土中層 二次焼成

第41号住居跡(第152図)

位置 調査区西部, Z8b₆区。

規模と平面形 南東及び北西コーナー部が攪乱により壊されているが, 一辺8.42mほどの方形と思われる。

主軸方向 [N-15°-W]

壁 壁高は6~15cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦である。特に硬化面はみられない。

貯蔵穴 北壁際に位置し, 長径76cm, 短径60cmの楕円形, 深さ44cmである。底面は平坦で, 断面形は逆台形状である。

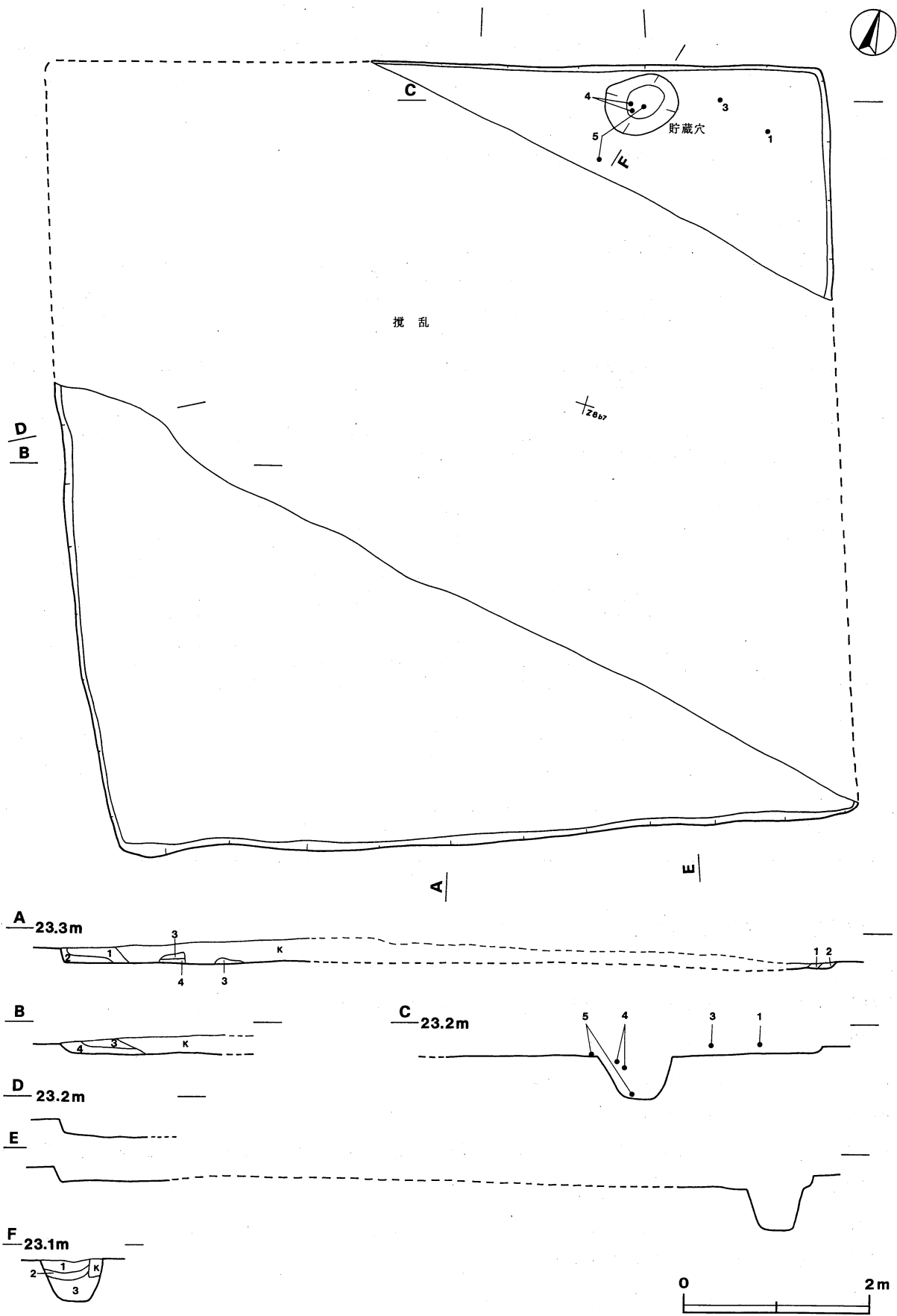
貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量

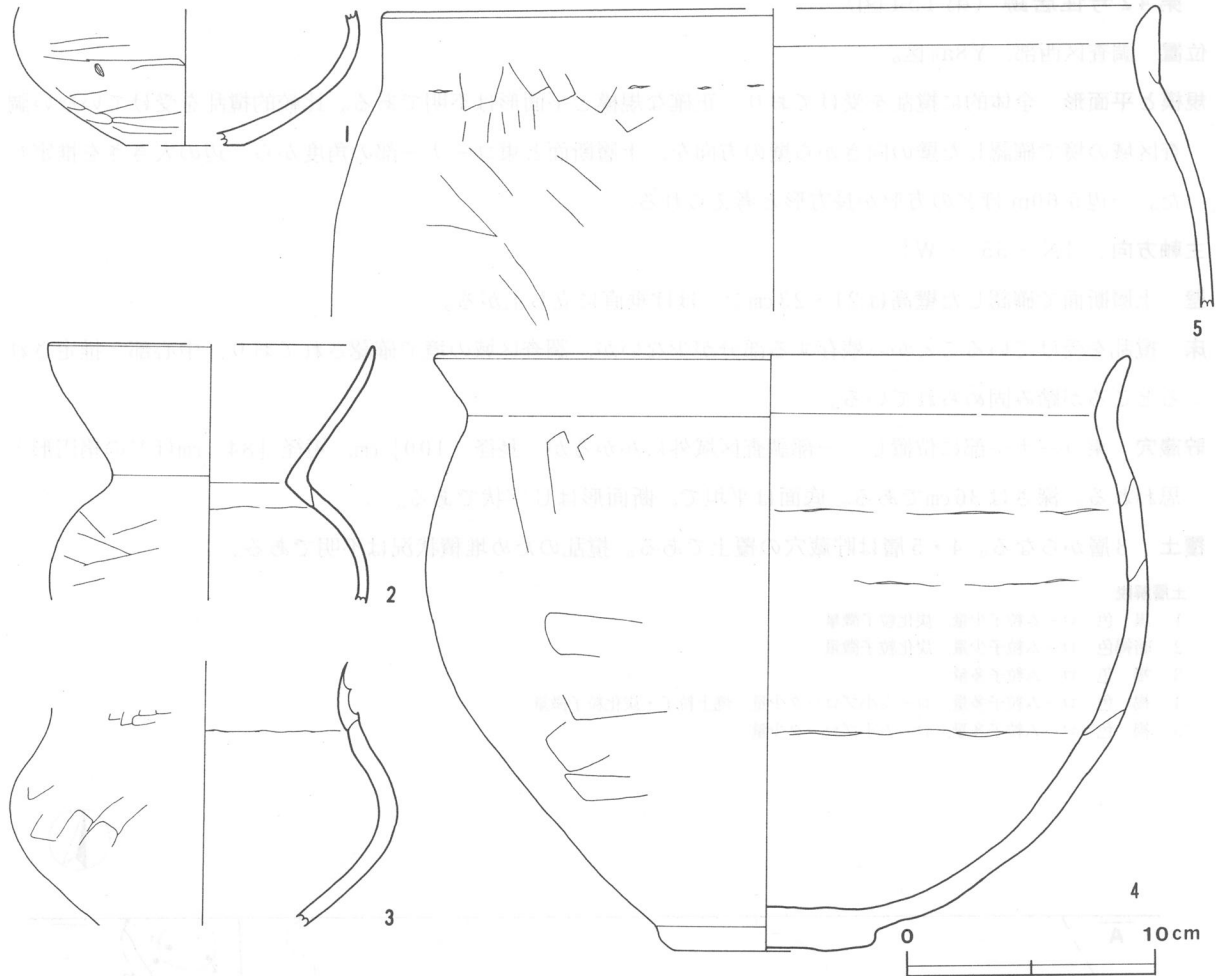
覆土 4層からなる。攪乱のため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 極暗褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・炭化物少量



第152図 第41号住居跡実測図



第153図 第41号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 465点が出土している。第153図2の土師器罎が覆土中から、1の坏、3の罎が北コーナー部の覆土上層から、4の甕が貯蔵穴の覆土上層から、5の甕が貯蔵穴の覆土下層及び北壁寄りの床面から散在した状態で出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第41号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第153図 1	坏 土師器	B (5.5) C [4.8]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。外面に靱痕が残る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 明黄褐色 普通	P299 25% 覆土上層
2	罎 土師器	A [13.2] B (10.3)	体部から口縁部にかけての破片。体部は扁平な球状を呈すると思われる。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面剝離。	石英・雲母 橙色 普通	P300 15% 覆土中 二次焼成
3	罎 土師器	B (10.6)	体部の破片。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つと思われる。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面に輪積痕が残る。	長石・石英 橙色 普通	P301 25% 覆土上層 二次焼成
4	甕 土師器	A 28.1 B 24.0 C 8.7	体部の一部欠損。突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面に輪積痕が残る。	長石・石英 浅黄褐色 普通	P302 80% 貯蔵穴覆土上層
5	甕 土師器	A [31.2] B (12.2)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部はわずかに外反する。口縁部を折り返し、器厚を増している。	頸部外面へラナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 黄褐色 普通	P303 10% 貯蔵穴覆土下層 及び床面 二次焼成

第42号住居跡 (第154図)

位置 調査区西部, Y8a0区。

規模と平面形 全体的に攪乱を受けており, 正確な規模と平面形は不明である。比較的攪乱を受けていない調査区域の境で確認した壁の向きから壁の方向を, 土層断面と東コーナー部の角度から一辺の大きさを推定した。一辺5.60mほどの方形か長方形と考えられる。

主軸方向 [N-55°-W]

壁 土層断面で確認した壁高は21~23cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

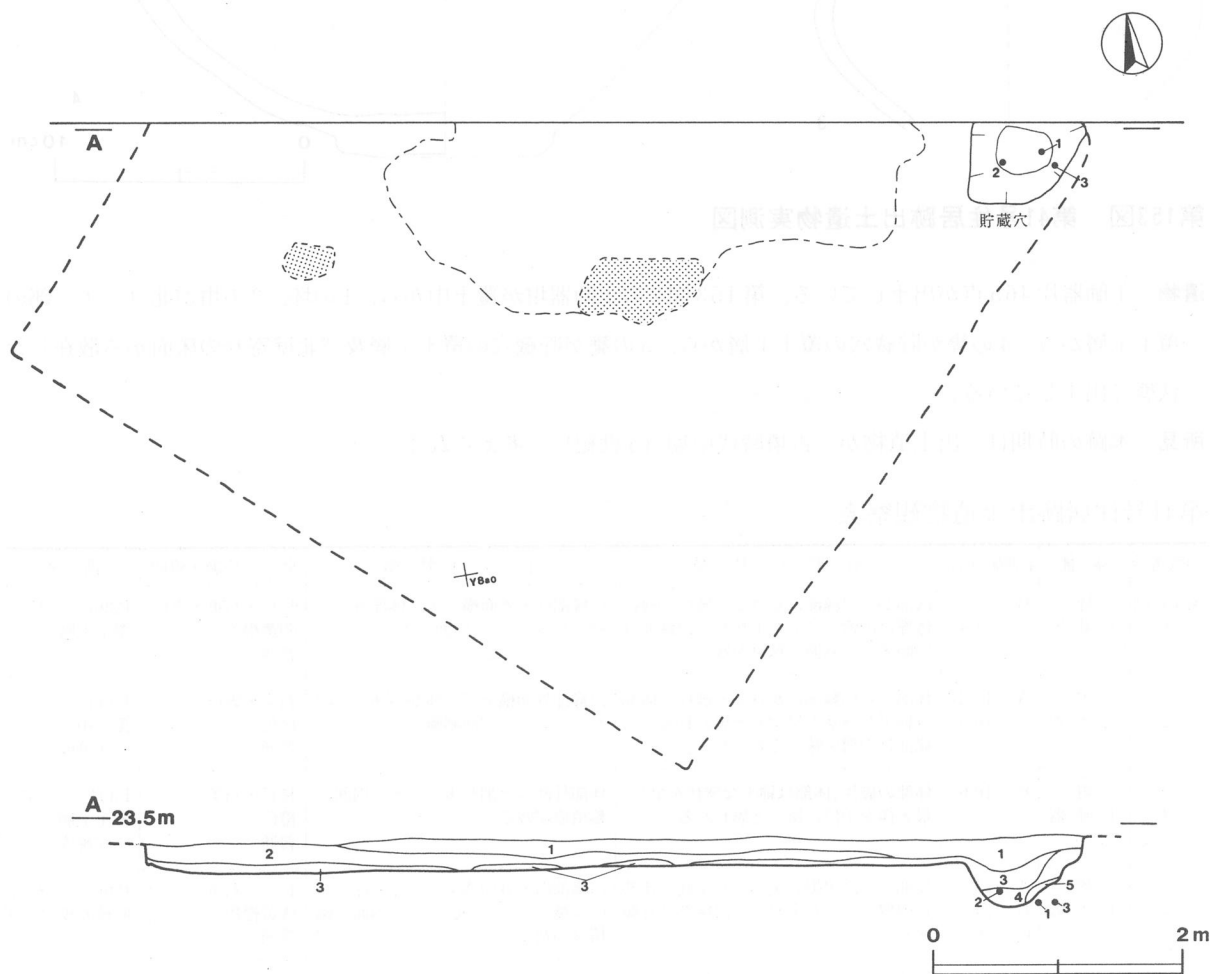
床 攪乱を受けていることから残存する部分が少ないが, 調査区域の境で確認されており, 中心部と推定されるところが踏み固められている。

貯蔵穴 東コーナー部に位置し, 一部調査区域外にかかるが, 長径[100]cm, 短径[84]cmほどの楕円形と思われる。深さは36cmである。底面は平坦で, 断面形はU字状である。

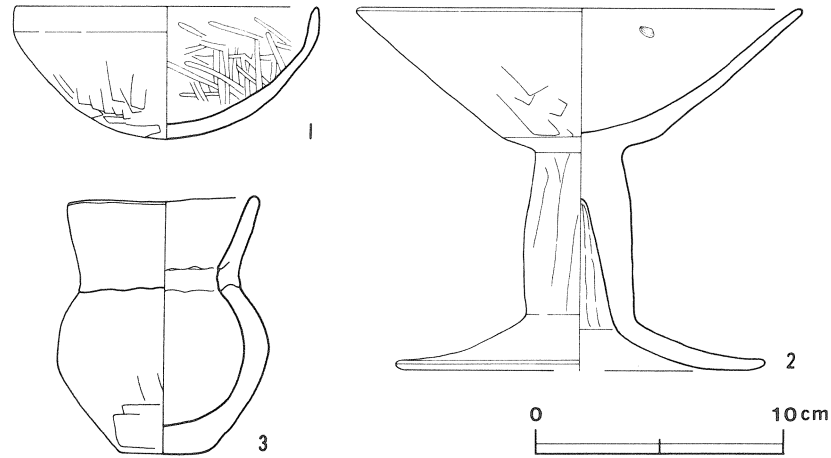
覆土 3層からなる。4・5層は貯蔵穴の覆土である。攪乱のため堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量



第154図 第42号住居跡実測図



第155図 第42号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 108 点が出土している。第 155 図 2 の土師器高坏が貯蔵穴の覆土下層から、1 の完形の坏、3 の完形の埴が正位で、貯蔵穴の底面から出土している。

所見 本跡の時期は、出土遺物から古墳時代中期（5 世紀）と考えられる。

第42号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第155図 1	坏 土師器	A 12.3 B 5.4	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラ磨き。	長石 にぶい黄橙色 普通	P304 100% 貯蔵穴底面 二次焼成
2	高坏 土師器	A 18.1 B 14.7 D [14.9] E 8.8	裾部の一部欠損。脚柱部はエンタシス状を呈し、裾部はなだらかに開く。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。坏部内面に粉痕が残る。	口縁部外面横ナデ。坏部及び脚部外面へラ削り後、ナデ。坏部内面剝離。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P305 80% 貯蔵穴覆土下層 二次焼成
3	埴 土師器	A 7.8 B 10.4 C 3.7	平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。口縁部内面に輪積痕が残る。	長石 にぶい黄橙色 普通	P306 100% 貯蔵穴底面 二次焼成

第43号住居跡（第156図）

位置 調査区南部，D3c6区。

規模と平面形 長軸 6.55m，短軸 6.32m の方形である。

主軸方向 N - 47° - W

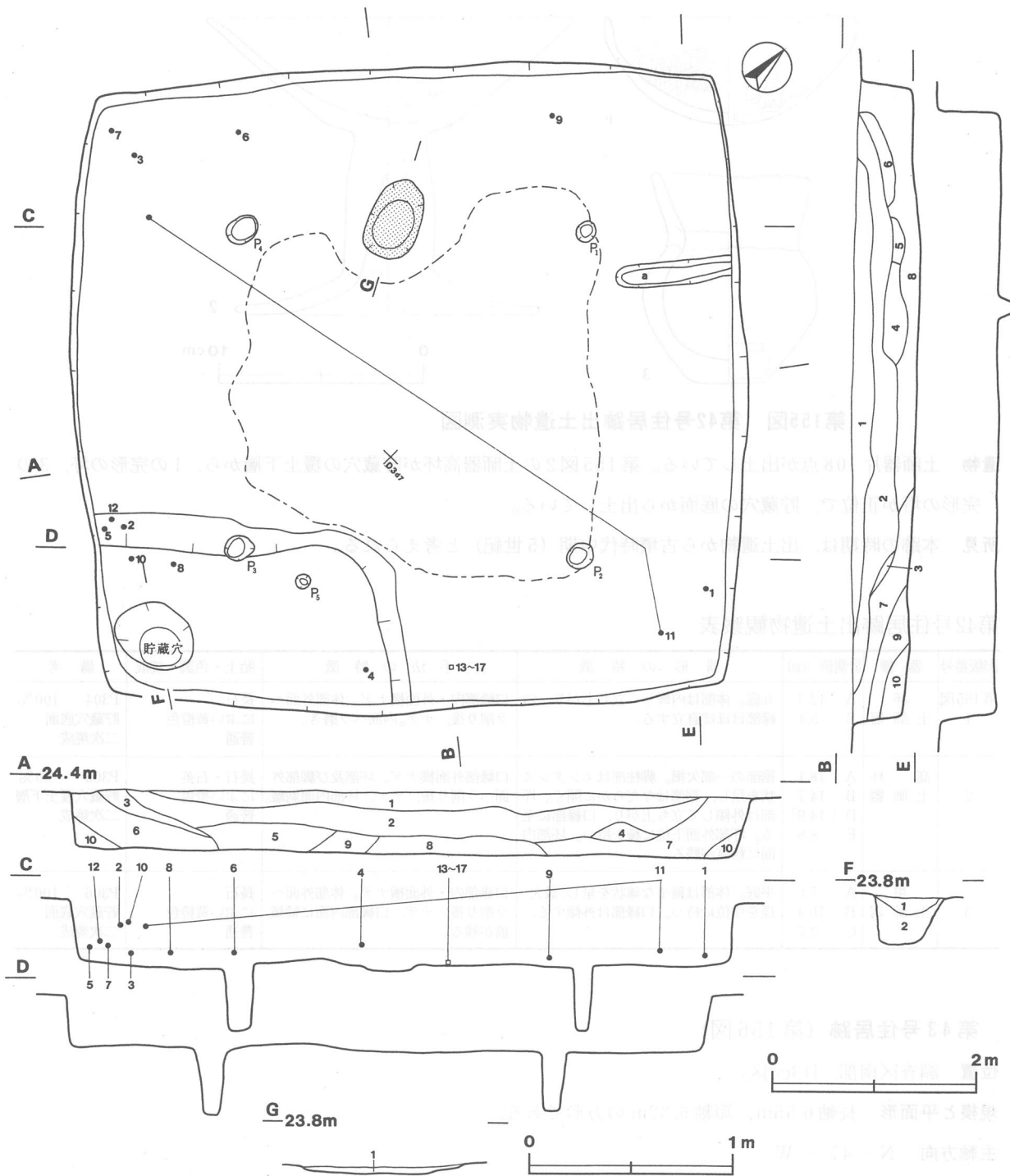
壁 壁高は 52~64cm で、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 南コーナー部に、出入り口施設に伴うピット（P5）及び貯蔵穴を囲む、長軸 292cm，短軸 166cm の長方形で、高さ 8cm ほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦で、中央部が踏み固められている。北東壁下から中央部に向かって延びる溝 1 条（a）を検出した。長さ 124cm，上幅 20~22cm，下幅 8~14cm，深さ 14cm で、断面形は U 字状である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、長径 83cm，短径 62cm の楕円形で、深さは 44cm である。底面は平坦で、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量



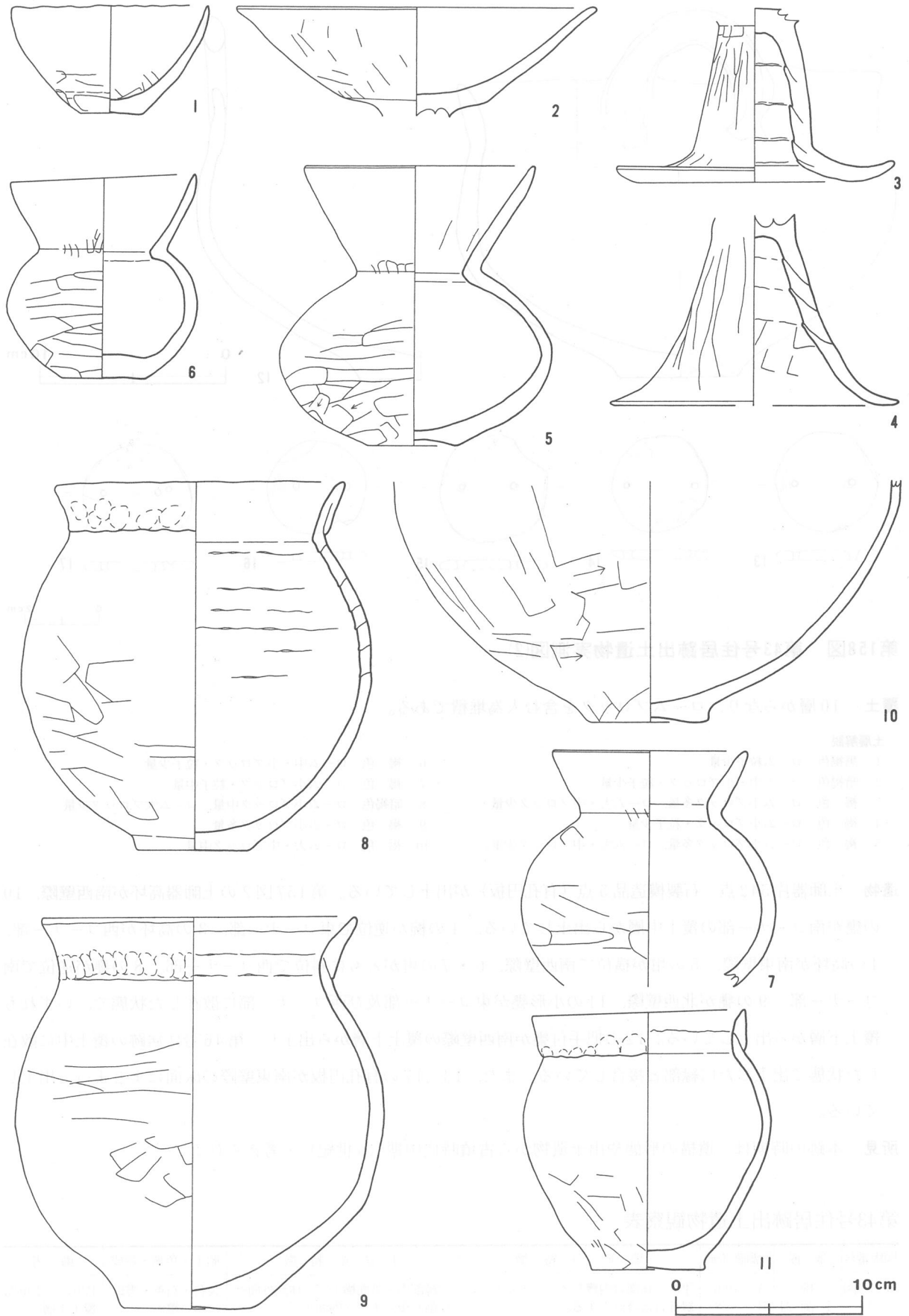
第156図 第43号住居跡実測図

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₃は、径20~26cmの円形、P₄は長径32cm、短径22cmの楕円形で、深さ58~64cmであり、規模と配置から支柱穴と考えられる。P₅は径14cmの円形、深さ56cmであり、位置から出入口口施設に伴うピットと考えられる。

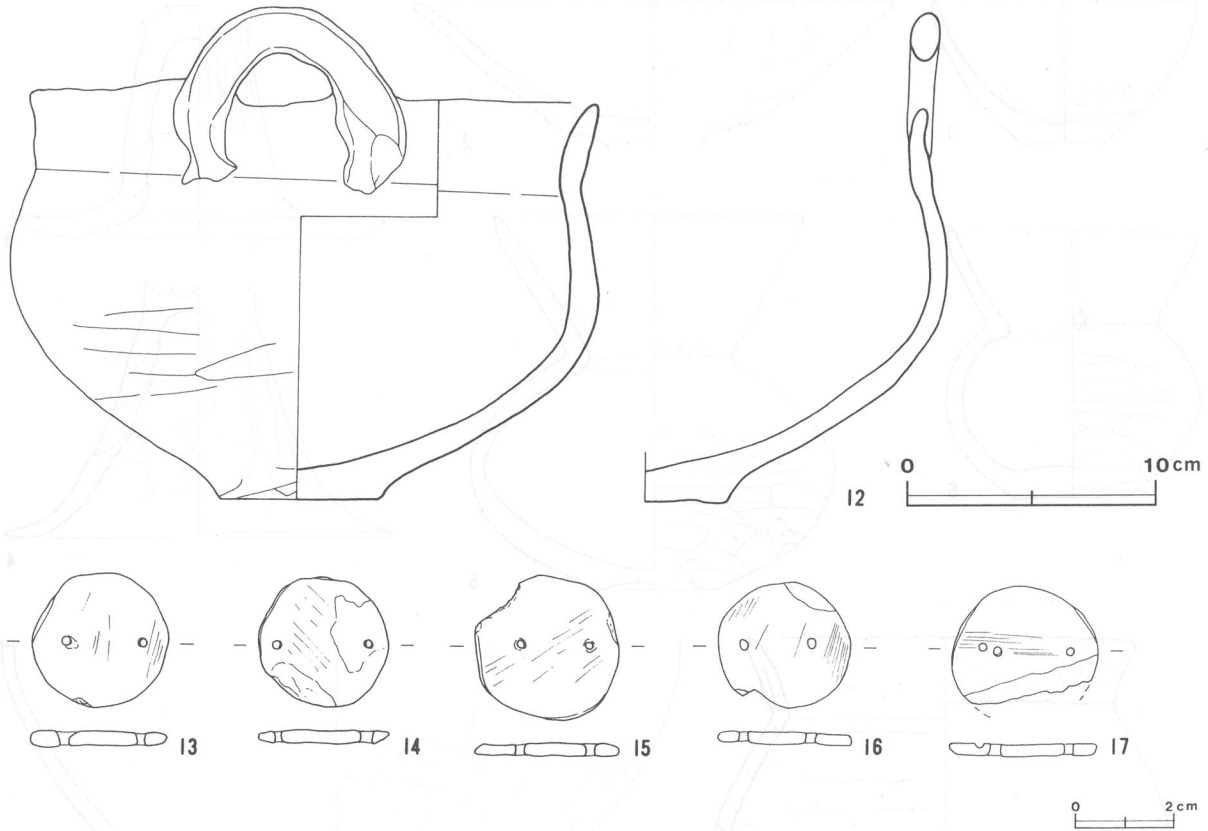
炉 P₁とP₄を結んだ線上で、P₁とP₄の中央に位置する。長径80cm、短径50cmの楕円形で、床面を6cm掘りくぼめている。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土小ブロック多量



第157図 第43号住居跡出土遺物実測図(1)



第158図 第43号住居跡出土遺物実測図(2)

覆土 10層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-------|--------------------------|-------|------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量 | 6 褐色 | ローム中・小ブロック・粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム中・小ブロック・粒子少量 | 7 褐色 | ローム小ブロック・粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム小ブロック多量, ローム大・中ブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム大ブロック少量 |
| 4 褐色 | ローム小ブロック・粒子少量 | 9 褐色 | ローム小ブロック多量 |
| 5 褐色 | ローム小ブロック多量, ローム大・中ブロック少量 | 10 褐色 | ローム大・中ブロック中量 |

遺物 土師器片542点, 石製模造品5点(有孔円板)が出土している。第157図2の土師器高坏が南西壁際, 10の甕が南コーナー部の覆土中層から出土している。1の椀が逆位で東コーナー部, 3の高坏が西コーナー部, 4の高坏が南東壁際, 5の埴が横位で南西壁際, 6・7の埴がともに斜位で西コーナー部, 8の甕が逆位で南コーナー部, 9の甕が北西壁際, 11の小形甕が東コーナー部及び西コーナー部に散在した状態で, いずれも覆土下層から出土している。12の把手付甕が南西壁際の覆土下層から出土し, 第46号住居跡の覆土中に散在した状態で出土した口縁部と接合している。また, 13~17の有孔円板が南東壁際の床面にまとまって出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第43号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図 1	椀 土師器	A 10.6 B 5.8 C 3.4	平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母にふい橙色普通	P307 100% 覆土下層

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第157図 2	高坏土師器	A 19.5 B (5.9)	脚部欠損。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面剥離。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P308 50% 覆土中層 二次焼成
3	高坏土師器	D 15.0 E 9.3	脚部の破片。脚柱部はエンタシス状を呈し、裾部は外面上方へ上がる。	脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P309 40% 覆土下層
4	高坏土師器	D [15.6] E 10.3	脚部の破片。脚部はラッパ状を呈する。	脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	石英・雲母 にふい褐色 普通	P310 50% 覆土下層 二次焼成
5	埴土師器	A 12.5 B 15.1 C 4.6	平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P311 100% 覆土下層 二次焼成
6	埴土師器	A 10.0 B 11.1 C 4.5	平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は内彎気味に立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラナデ。内面に指頭圧痕が残る。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P312 95% 覆土下層 二次焼成
7	埴土師器	A 10.6 B (12.7)	底部及び口縁部の一部欠損。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 にふい褐色 普通	P313 60% 覆土下層 二次焼成
8	甕土師器	A 15.7 B 20.0 C 6.1	突出した平底。体部は球状を呈する。口縁部は折り返し口縁で、外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面に指頭圧痕が残る。体部へラ削り後、ナデ。内面に輪積痕が残る。内面剥離。	長石・石英・雲母 にふい黄褐色 普通	P314 100% 覆土下層 二次焼成
9	甕土師器	A 17.0 B 21.1 C 7.1	体部一部欠損。突出した平底。体部は球状を呈する。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部外面に指頭厚痕が残る。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石 にふい褐色 普通	P315 85% 覆土下層
10	甕土師器	B (13.0) C 6.6	底部から体部にかけての破片。底部は突出した平底。体部は球状を呈すると思われる。	体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 黒褐色 普通	P316 40% 覆土中層
11	小形甕土師器	A 11.5 B 14.0 C 6.2	体部一部欠損。突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。口縁部外面に指頭圧痕が、内面に輪積痕が残る。	長石 にふい褐色 普通	P317 65% 覆土下層
第158図 12	把手付甕土師器	A 22.9 B 19.9 C 6.5	口縁部及び体部一部欠損。突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。口縁部に相対して2か所の把手が付く。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石 にふい褐色 普通	P318 70% 覆土下層及び第 46号住居跡覆土 中

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第158図13	有孔円板	2.7	0.3	0.2	3.5	床面	Q187 滑石
14	有孔円板	2.6	0.2	0.2	2.9	床面	Q188 滑石
15	有孔円板	2.9	0.2	0.2	3.1	床面	Q189 滑石
16	有孔円板	2.6	0.2	0.2	2.4	床面	Q190 滑石
17	有孔円板	2.9	0.3	0.2	(3.3)	床面	Q191 滑石

第44号住居跡 (第159図)

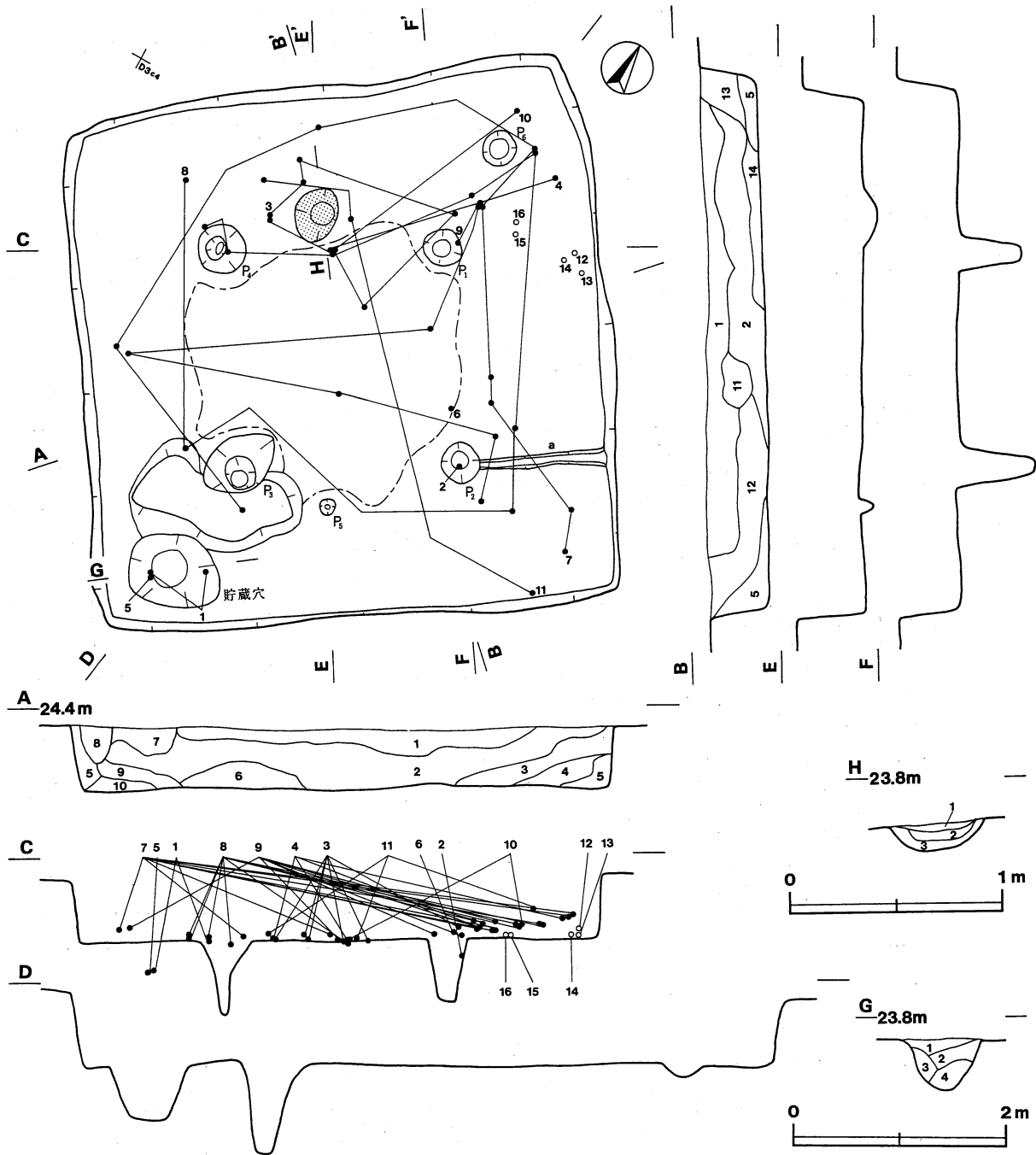
位置 調査区南部, D3c4区。

規模と平面形 長軸5.04m, 短軸5.01mの方形である。

主軸方向 N-38°-W

壁 壁高は58~60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

床 貯蔵穴と、支柱穴と考えられるP₃の間に、長軸164cm, 短軸56cmの不定形で、高さ9cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦であり、中央部が踏み固められている。北東壁下から中央部に向かって延びる溝1条 (a) を検出した。長さ120cm, 上幅10~14cm, 下幅4~8cm, 深さ5cmで、断面形はU字状である。溝aは支柱穴と考えられるP₂につながっている。



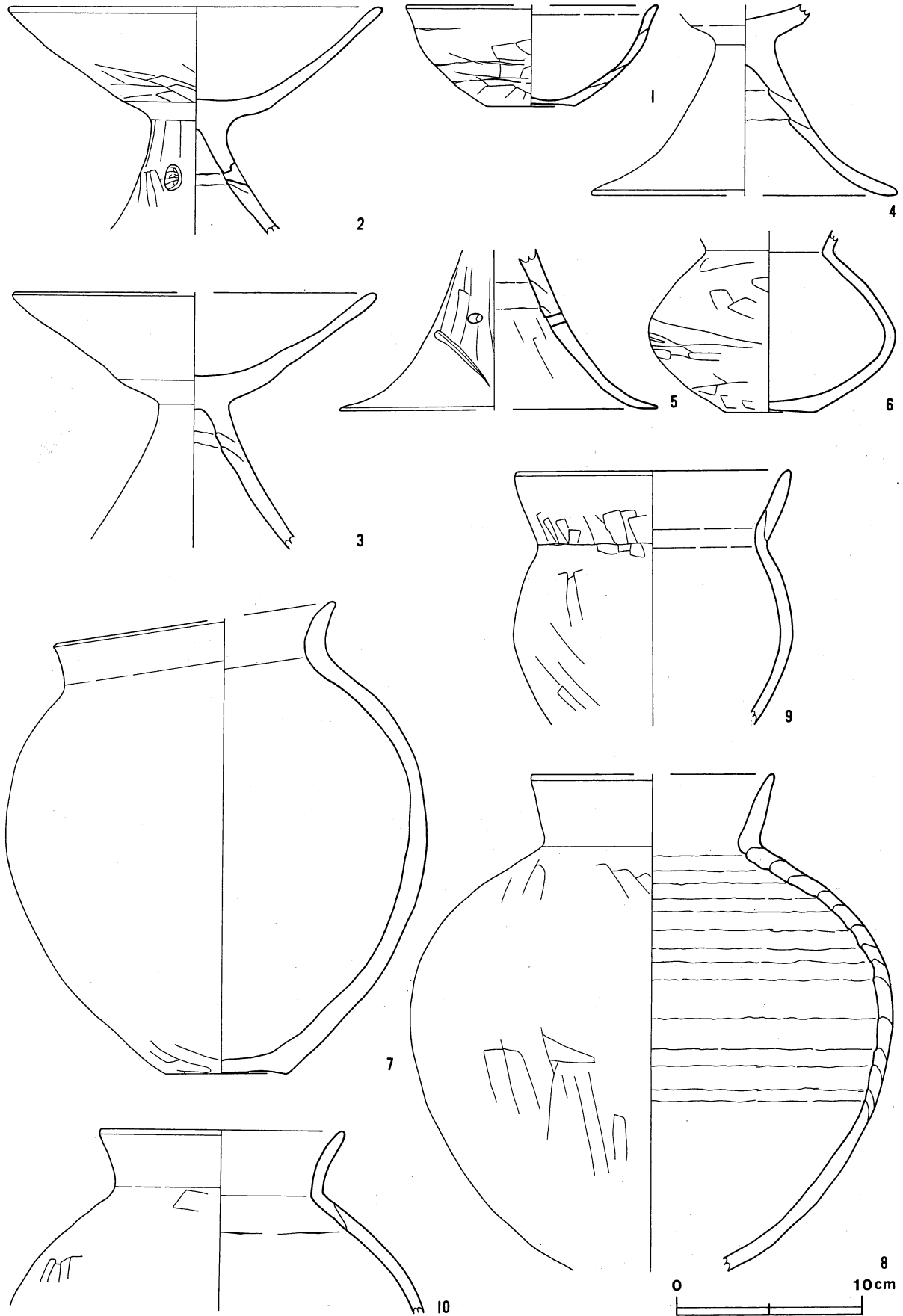
第159図 第44号住居跡実測図

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、長径90cm、短径66cmの楕円形で、深さは50cmである。底面は平坦で、断面形はU字状である。

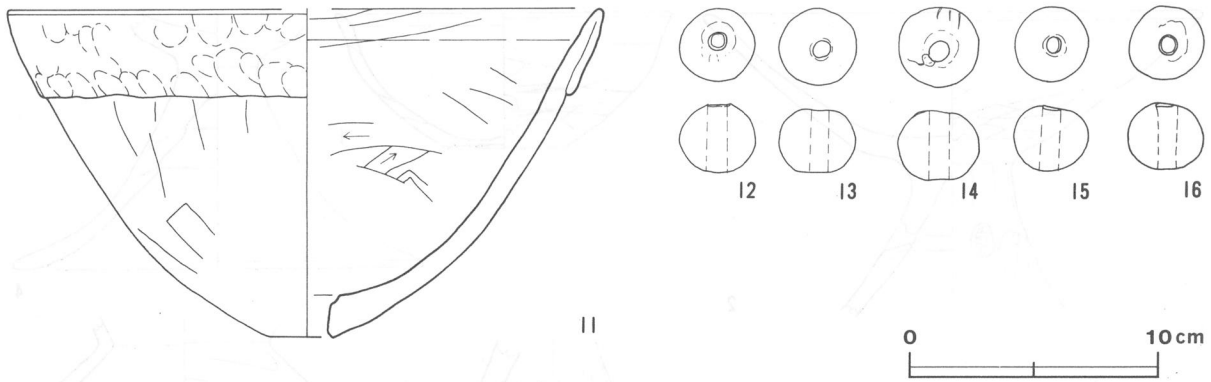
貯蔵穴土層解説

- | | |
|--------------------------|----------------------------|
| 1 黒褐色 炭化物・ローム小ブロック・粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量 | 4 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量、炭化粒子微量 |

ピット 6か所 (P₁~P₆)。P₁・P₃・P₄は、径34~48cmの円形、P₂は長径78cm、短径52cmの楕円形で、深さ60~84cmであり、規模と配置から支柱穴と考えられる。P₅は径14cmの円形、深さ12cmであり、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P₆は径34cmの円形、深さ12cmであり、位置から補助柱穴と考えられる。



第160図 第44号住居跡出土遺物実測図(1)



第161図 第44号住居跡出土遺物実測図(2)

炉 P₁とP₄を結んだ線の外側で、P₄寄りに位置する。長径52cm、短径40cmの楕円形で、床面を14cm掘りくぼめている。

炉土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
- 2 赤褐色 焼土小ブロック・粒子中量、ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

覆土 14層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム大・小ブロック少量、炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 4 極暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量
- 7 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量
- 8 極暗褐色 炭化粒子中量、ローム粒子少量
- 9 黒褐色 炭化粒子中量、ローム小ブロック・粒子少量
- 10 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 11 褐色 炭化粒子・ローム中・小ブロック・粒子少量
- 12 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
- 13 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 14 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量

遺物 土師器片514点、土玉5点が出土している。第160図6の土師器甕が中央部、7の甕が東・南・北の各コーナー部及び北東壁寄りから北西壁際・南西壁際にかけて、8の甕が東西南北の各コーナー部付近、9の小形甕が中央部及び北・東コーナー部・南西壁際にかけて、10の甕が中央部と北コーナー部にかけて、11の甕が北西壁寄りから南東壁際にかけて、いずれも散在した状態で覆土下層から出土している。3・4の高坏が北西壁寄りから北東壁際にかけての床面から散在した状態で出土している。1の坏が貯蔵穴覆土上層及び中層から、5の高坏が貯蔵穴覆土中層から出土している。2の高坏がP₁の覆土上層から出土している。また、12~14の土玉が北東壁際の覆土下層から、15・16の土玉が北東壁際の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。

第44号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第160図 1	坏 土師器	A [13.6] B 5.4 C [4.7]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。底部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	長石・石英にふい黄橙色普通	P319 30% 貯蔵穴上・中層
2	高坏 土師器	A 20.2 B (12.1) E (5.9)	裾部欠損。脚部はラッパ状に開くと思われる。脚部に単孔を穿つ。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。脚部へラナデ。内面ナデ。坏部内面剝離。	長石・石英・雲母 橙色普通	P320 60% P ₁ 覆土上層 二次焼成

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第160図 3	高坏土師器	A [19.6] B (13.7) E (7.7)	坏部及び脚部の一部欠損。脚部はラッパ状を呈する。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	摩耗及び剥離のため調整法不明。坏部内面剥離・外面摩耗。	長石・雲母にぶい 橙色 普通	P321 70% 床面 二次焼成
4	高坏土師器	B (10.2) D [16.5] E (8.5)	坏部下位から脚部にかけての破片。脚部はラッパ状を呈する。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	摩耗のため調整法不明。	石英 橙色 普通	P322 30% 床面 二次焼成
5	高坏土師器	D [17.1] E (8.6)	脚部の破片。脚部はラッパ状を呈する。脚部外面中位に単孔を穿つ。また、研磨痕と思われる痕跡が残る。	脚部内・外面ヘラナデ。	石英・雲母 橙色 普通	P323 55% 貯蔵穴覆土中層 二次焼成
6	埴土師器	B (9.7) C 5.0	口縁部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P324 50% 覆土下層
7	甕土師器	A [15.3] B 25.4 C 6.5	体部一部欠損。平底。体部は縦長な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下位ヘラ削り。内面ナデ。体部外面剥離。	石英・雲母にぶい 赤褐色 普通	P325 85% 覆土下層 二次焼成
8	甕土師器	A [13.2] B (26.7)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。体部内面に輪積痕を残す。体部内・外面剥離。	長石・雲母にぶい 褐色 普通	P326 45% 覆土下層
9	小形甕土師器	A 15.0 B (13.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。口縁部下位及び体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・雲母 明黄褐色 普通	P327 40% 覆土下層
10	甕土師器	A 13.2 B (9.6)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。体部内面に輪積痕を残す。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P328 20% 覆土下層 二次焼成
第161図 11	甕土師器	A [24.0] B 13.2 C 2.5	底部から口縁部にかけての破片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。底部に単孔を穿つ。折り返し口縁。	口縁部外面に指頭圧痕が残る。体部内・外面ヘラナデ。	長石・石英・雲母にぶい 橙色 普通	P329 15% 覆土下層 二次焼成

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第161図12	土玉	3.1	2.7	0.7	22.8	覆土下層	DP57
13	土玉	3.1	2.5	0.7	22.1	覆土下層	DP58
14	土玉	3.2	2.8	0.8	27.3	覆土下層	DP59
15	土玉	3.1	2.7	0.8	20.8	床面	DP60
16	土玉	3.0	2.7	0.8	20.9	床面	DP61

第45号住居跡 (第162図)

位置 調査区東部, C3f₀区。

規模と平面形 長軸5.38m, 短軸3.64mの長方形である。

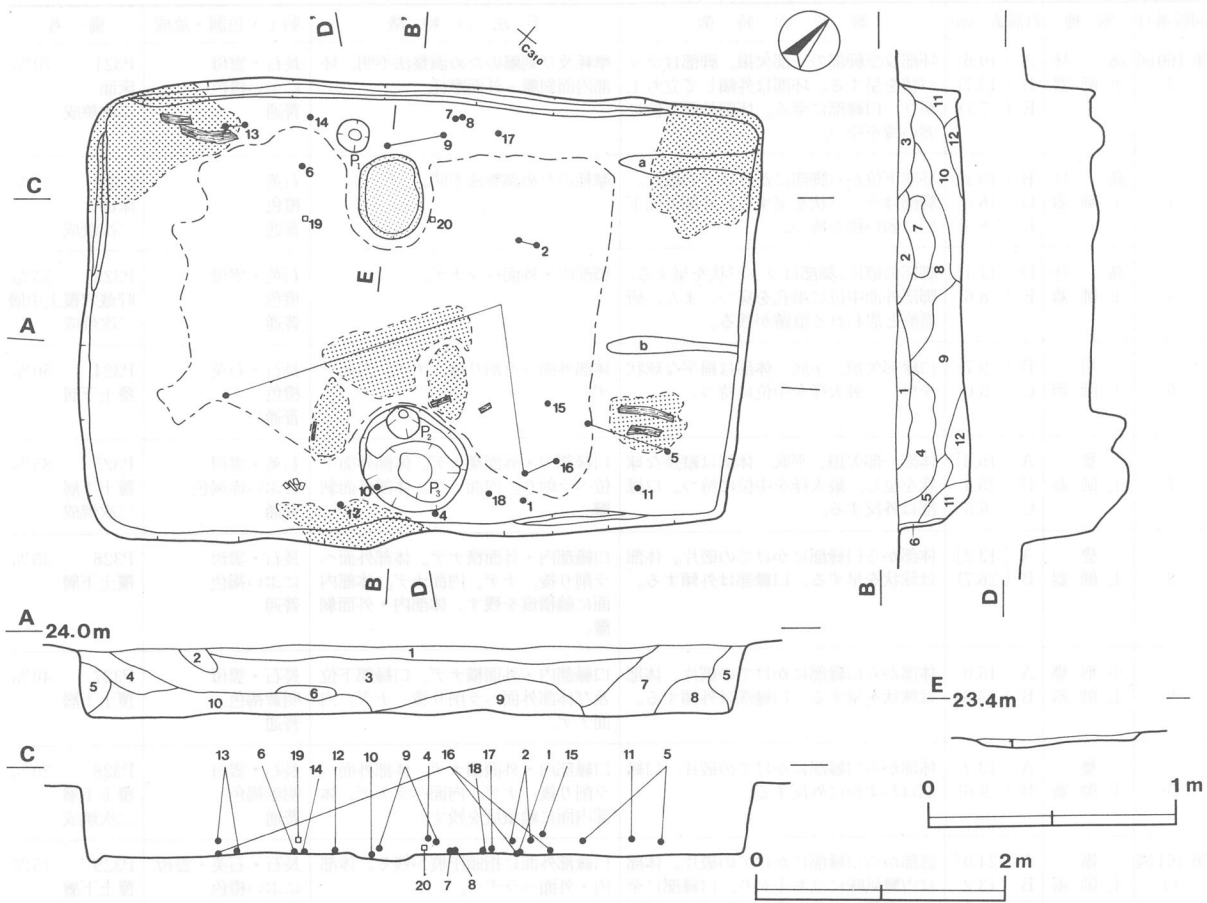
主軸方向 N-42°-E

壁 壁高は52~59cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 北西壁, 南西及び南東壁の一部に巡っている。上幅14~18cm, 下幅2~7cm, 深さ4~6cmで、断面形はU字状である。

床 平坦であり、中央部が踏み固められている。北東壁下から中央部に向かって延びる極浅い溝2条 (a・b) を検出した。長さ114cm, 幅6~16cmで、断面形はU字状である。東・西・北コーナー部及び南東壁寄りに焼土塊・炭化材がみられる。

ピット 3か所 (P₁~P₃)。P₁は径28cmの円形, 深さ11cmであり、位置から補助柱穴と考えられる。P₂は南東壁寄りに位置し、径26cmの円形, 深さ30cmであり、位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P₃



第162図 第45号住居跡実測図

は径 86 cm の円形、深さ 34 cm であり、その性格は不明である。

炉 出入り口施設に伴うピットと考えられる P₂ の北西方向で、北西壁際に位置する。長径 68 cm、短径 50 cm の楕円形で、床面を 6 cm 掘りくぼめている。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土小ブロック・粒子・炭化粒子少量

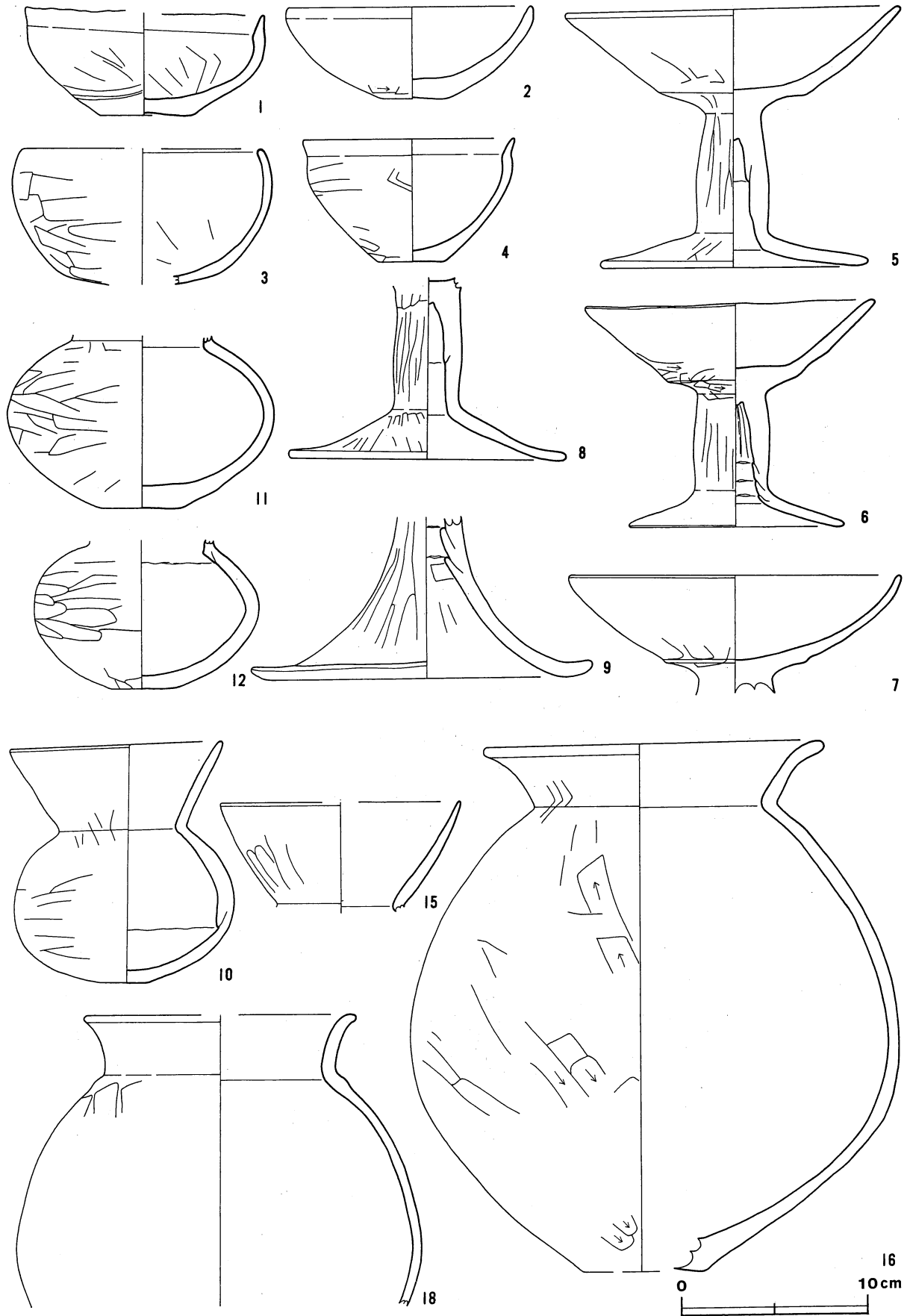
覆土 12層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

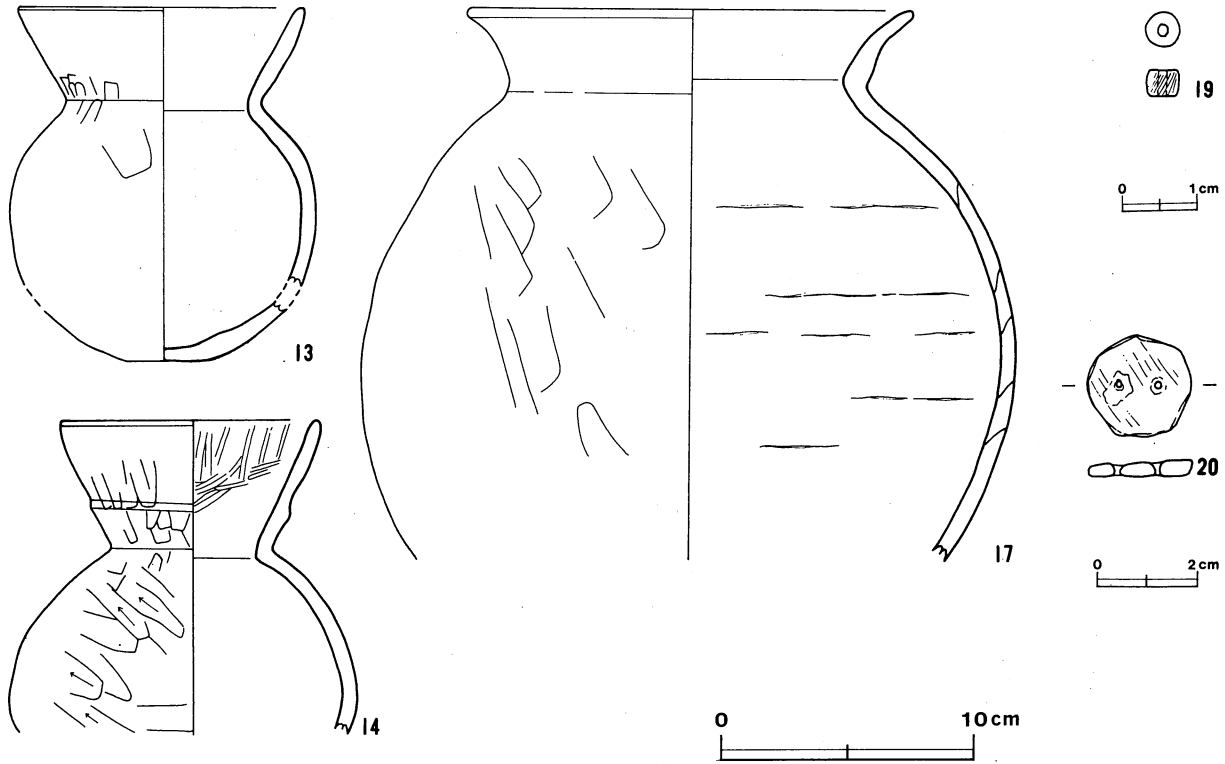
- | | | | |
|-------|---------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 | 8 褐色 | ローム小ブロック多量、炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量 | 9 褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック多量、ローム粒子少量、炭化物微量 | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・粒子少量、焼土粒子・炭化物微量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量 | 11 褐色 | ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量 |
| 6 褐色 | ローム粒子多量 | 12 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック微量 |

遺物 土師器片 302 点、白玉 1 点、石製模造品 1 点（有孔円板）が出土している。第 163 図 3 の土師器椀が覆土中から、2 の椀が中央部、4 の椀が南東壁際、5 の高杯、11 の罎が東コーナー部、9 の高杯が北西壁際、15 の罎が東コーナー部付近の覆土下層から出土している。1 の罎が正位で、10 の罎が斜位で、12 の罎が正位で、18 の甕と南東壁際の床面から、6～8 の高杯及び 13・14 の罎、17 の甕が北西壁際の床面から、16 の甕が南コーナー部付近から南東壁際にかけての床面から散在した状態で出土している。また、19 の白玉、20 の有孔円板が北西壁寄りの覆土下層から出土している。なお、滑石の細片（0.7g）が覆土中から出土している。

所見 床面に炭化材及び焼土塊がみられることから、焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5 世紀）と考えられる。



第163図 第45号住居跡出土遺物実測図(1)



第164図 第45号住居跡出土遺物実測図(2)

第45号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第163図 1	坏 土師器	A [12.8] B 5.9 C 5.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面へラナデ。	長石 にぶい黄橙色 普通	P331 95% 床面
2	坏 土師器	A 13.2 B 4.9 C 3.6	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。内面剝離。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P332 40% 覆土下層 二次焼成
3	碗 土師器	A [13.0] B (7.3)	体部から口縁部の一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・石英 橙色 普通	P333 40% 覆土中 二次焼成
4	碗 土師器	A 11.4 B 6.6 C 3.6	体部から口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。口縁部内面に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	石英 にぶい橙色 普通	P334 50% 覆土下層 二次焼成
5	高 土師器	A 18.1 B 14.0 D 14.5 E 8.6	裾部及び坏部の一部欠損。脚柱部はエンタシス状を呈し、裾部はなだらかに開く。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。坏部内面ナデ。脚部外面へラナデ。脚部内面ナデ。	長石 黄橙色 普通	P335 70% 覆土下層 二次焼成
6	高 土師器	A 15.6 B 12.2 D 11.7 E 7.7	脚柱部はエンタシス状を呈し、裾部はなだらかに開く。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。脚部外面へラナデ、内面ナデ。坏部内面剝離。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P336 100% 床面 二次焼成
7	高 土師器	A 17.9 B (6.3)	坏部の破片。坏部は内彎して立ち上がり口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラナデ、内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P337 30% 床面 二次焼成
8	高 土師器	D 15.0 E 9.8	坏部欠損。脚柱部は円柱状を呈し、裾部はなだらかに開く。	脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 黄橙色 普通	P338 50% 床面 二次焼成
9	高 土師器	D 18.4 E (8.7)	坏部欠損。脚部はラッパ状を呈する。裾部は上方へわずかに反り返る。	脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P339 50% 覆土下層 二次焼成

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第163図 10	埴土師器	A 11.4 B 13.0 C 2.4	平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P341 95% 床面 二次焼成
11	埴土師器	B (9.3) C 4.4	口縁部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P342 70% 覆土下層 二次焼成
12	埴土師器	B (8.0) C 3.5	口縁部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P343 70% 床面 二次焼成
第164図 13	埴土師器	A 11.3 B [13.9] C 3.3	体部の一部欠損。平底。体部は球状を呈し、口縁部は外傾する。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面剥離。	長石・石英 明赤褐色 普通	P344 60% 床面 二次焼成
14	埴土師器	A 10.2 B (12.5)	底部欠損。体部は球状を呈し、口縁部は外傾する。口縁部外面に強い稜を持つ。	体部外面へラ削り後、ナデ。口縁部外面へラナデ。内面剥離。	長石・石英 明赤褐色 普通	P345 50% 床面 二次焼成
第163図 15	埴土師器	A [13.1] B (5.9)	口縁部の破片。口縁部は内彎気味に器厚を薄くして立ち上がる。	口縁部外面へラナデ。	長石・石英 橙色 普通	P346 15% 覆土下層 二次焼成
16	甕土師器	A 18.5 B 28.5 C [6.6]	体部の一部欠損。平底。体部は球状を呈し、最大径を中位よりやや下方に持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P347 70% 床面 二次焼成
第164図 17	甕土師器	A 17.8 B (22.0)	底部欠損。体部は球状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面に輪積痕が残る。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P348 65% 床面 二次焼成
第163図 18	甕土師器	A [14.6] B (15.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	体部外面へラ削り後、ナデ。内・外面剥離。	長石・石英 橙色 普通	P349 15% 床面 二次焼成

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第164図19	白玉	0.5	0.3	0.2	覆土下層	Q192 滑石

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第164図20	有孔円板	2.1	0.3	0.1	2.2	覆土下層	Q193 滑石

第46号住居跡 (第165図)

位置 調査区東部, C3a6区。

規模と平面形 長軸6.38m, 短軸6.12mの方形である。

主軸方向 N-71°-W

壁 壁高は31~51cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

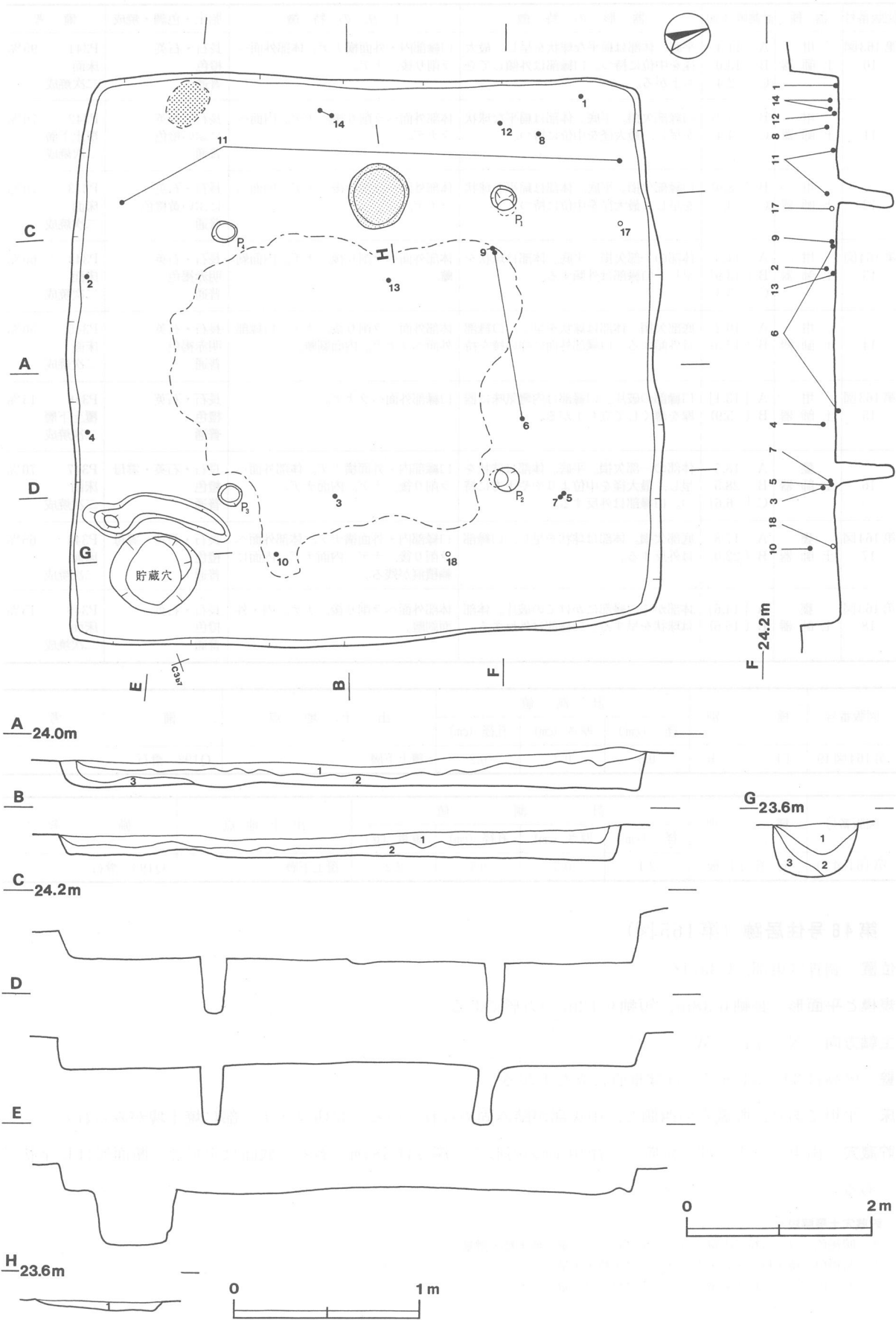
床 平坦であり、貯蔵穴の西側と、中央部が踏み固められている。北西コーナー部に焼土塊がみられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に位置し、径90cmの円形で、深さは58cmである。底面は平坦で、断面形はU字状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

ピット 4か所 (P₁~P₄)。P₁~P₄は、径24~28cmの円形、深さ60~62cmであり、規模と配置から主柱穴と考えられる。



第165図 第46号住居跡実測図

炉 P₁とP₄を結んだ線上の外側で、P₁寄りに位置する。長径90cm、短径58cmの楕円形で、床面を4cm掘りくぼめている。

炉土層解説

- 1 褐色 焼土粒子・ローム小ブロック少量

覆土 3層からなり、ローム粒子・ブロックを含む人為堆積である。

土層解説

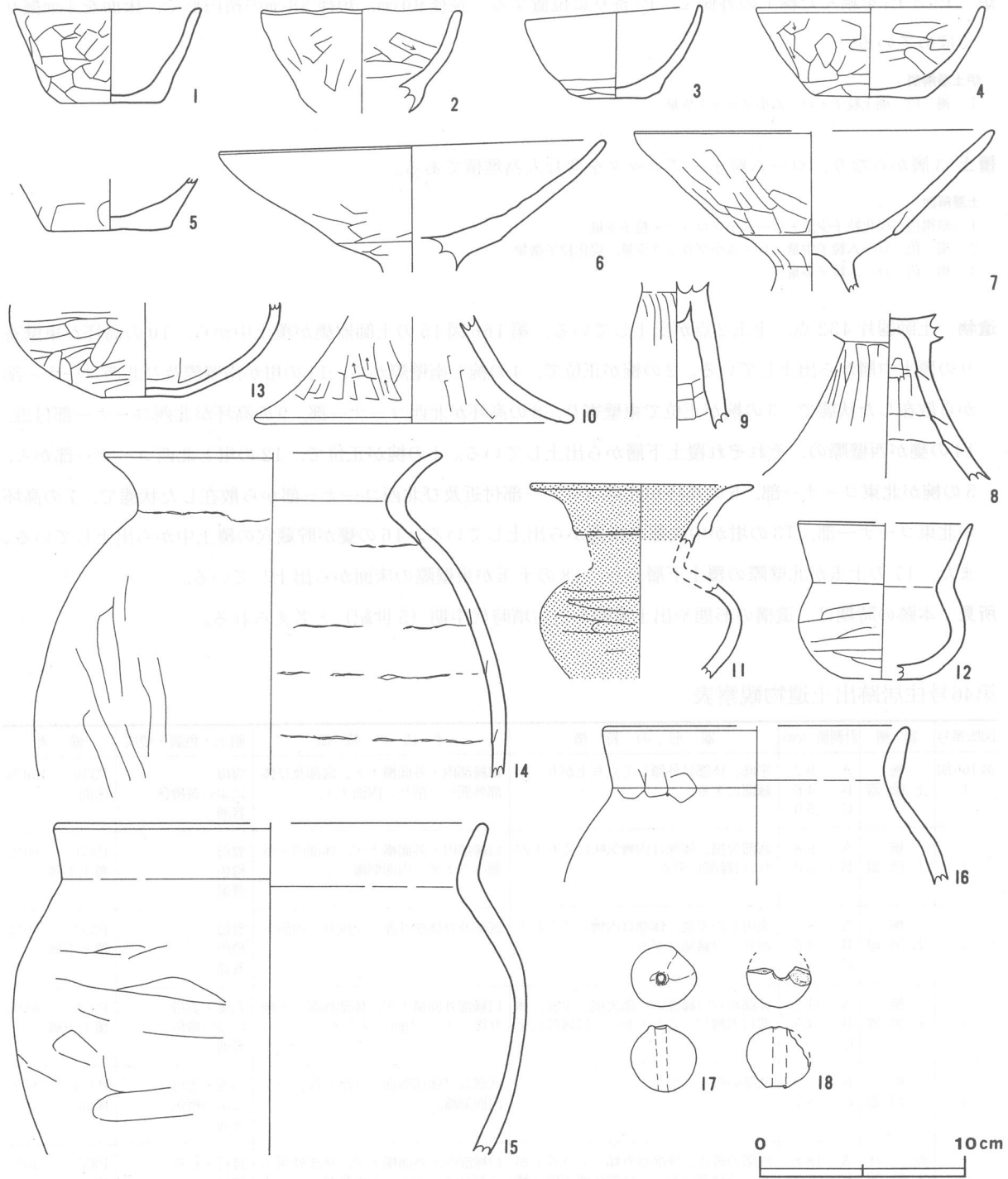
- 1 暗褐色 炭化粒子少量・ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量

遺物 土師器片432点、土玉2点が出土している。第166図15の土師器甕が覆土中から、10の高坏が東壁寄りの覆土中層から出土している。2の椀が正位で、4の椀と南壁際から、11の埴が南壁際及び北西コーナー部から散在した状態で、3の椀が正位で東壁寄り、8の高坏が北西コーナー部、9の高坏が北西コーナー部付近、14の甕が西壁際の、それぞれ覆土下層から出土している。1の椀が正位で、12の埴と北西コーナー部から、5の椀が北東コーナー部、6の高坏が北東コーナー部付近及び北西コーナー部から散在した状態で、7の高坏が北東コーナー部、13の埴が中央部の床面から出土している。16の甕が貯蔵穴の覆土中から出土している。また、17の土玉が北壁際の覆土下層から、18の土玉が東壁際の床面から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期（5世紀）と考えられる。

第46号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第166図 1	椀 土師器	A 9.2 B 4.6 C 5.0	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。底部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	雲母 に ぶ い 黄 橙 色 普 通	P350 100% 床面
2	椀 土師器	A 9.8 B (5.0)	底部欠損。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面へラナデ。内面剥離。	雲母 橙 色 普 通	P351 90% 覆土下層
3	椀 土師器	A 8.7 B 4.6 C 4.6	突出した平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	底部及び体部外面へラ削り。内面ナデ。	雲母 橙 色 普 通	P352 90% 覆土下層
4	椀 土師器	A 11.2 B 4.5 C 5.3	体部から口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。	石英・雲母 に ぶ い 橙 色 普 通	P353 65% 覆土下層
5	椀 土師器	B (2.5) C 6.1	底部の破片。平底。	底部及び体部外面へラ削り後、ナデ。内面剥離。	石英・雲母 に ぶ い 橙 色 普 通	P354 45% 床面
6	高坏 土師器	A 18.8 B (6.3)	坏部の破片。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。内面剥離。	長石・石英 橙 色 普 通	P355 40% 床面 二次焼成・坏部
7	高坏 土師器	A [17.6] B (7.8) E (1.2)	坏部の破片。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英 に ぶ い 橙 色 普 通	P356 30% 床面 二次焼成
8	高坏 土師器	E (8.0)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。	石英・雲母 に ぶ い 橙 色 普 通	P357 25% 覆土下層 二次焼成
9	高坏 土師器	E (7.1)	脚部の破片。脚部はエンタシス状を呈する。	脚部外面へラナデ。	長石・石英 に ぶ い 橙 色 普 通	P358 20% 覆土下層
10	高坏 土師器	D 15.7 E (5.2)	脚部の破片。脚部はラッパ状を呈する。	脚部内・外面へラナデ。	長石 橙 色 普 通	P359 40% 覆土中層 二次焼成



第166図 第46号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第166図 11	埴 土師器	A 10.8 B [9.2]	底部及び体部の一部欠損。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位よりやや上方に持つ。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。口縁部内面・体部外面赤彩。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P360 40% 覆土下層
12	埴 土師器	A [8.6] B 7.7 C [3.7]	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内・外面剝離。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P361 40% 床面 二次焼成

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第166図 13	埴土師器	B (4.6) C 4.1	底部から体部にかけての破片。平底。体部は扁平な球状を呈すると思われる。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。内面剝離。	長石・石英 橙色 普通	P362 15% 床面 二次焼成
14	甕土師器	A [16.4] B (15.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は縦長の球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P363 20% 覆土下層
15	甕土師器	A [21.2] B (16.1)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。口縁部は外傾する。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。内・外面摩耗。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P364 10% 覆土中 二次焼成
16	甕土師器	A [15.0] B (7.0)	口縁部の破片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・雲母 にぶい黄褐色 普通	P365 5% 貯蔵穴覆土中 二次焼成

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第166図17	土玉	3.2	3.2	0.5	26.1	覆土下層	DP62
18	土玉	(3.1)	3.0	(0.7)	(12.5)	床面	DP63

第47号住居跡 (第167・168図)

位置 調査区部, C2d₀区。

規模と平面形 長軸8.07m, 短軸8.03mの方形である。

主軸方向 N-58°-W

壁 壁高は55~76cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅12~34cm, 下幅4~8cm, 深さ6~16cmで、断面形はU字状である。

床 平坦であり、中央部が踏み固められている。西・北コーナー部付近に焼土塊・炭化材がみられる。

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、長径130cm, 短径122cmの楕円形で、深さは80cmである。底面は平坦で、北方向の半分に、中位からなだらかな段を持つ。

貯蔵穴土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は、長径28~36cm, 短径21~31cmの楕円形、深さ93~129cmであり、規模と配置から支柱穴と考えられる。P₅は径24cmの円形、深さ36cmであり、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 2か所。炉1は、P₁とP₄を結んだ線上の外側で、P₄寄りにあり、長径78cm, 短径42cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめている。炉2は、P₁とP₄を結んだ線上の内側で、P₁とP₄の中央にあり、長軸52cm, 短軸48cmの不定形で、床面を6cm掘りくぼめている。炉床はともに赤変硬化している。

炉1土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・粒子少量, ローム粒子微量

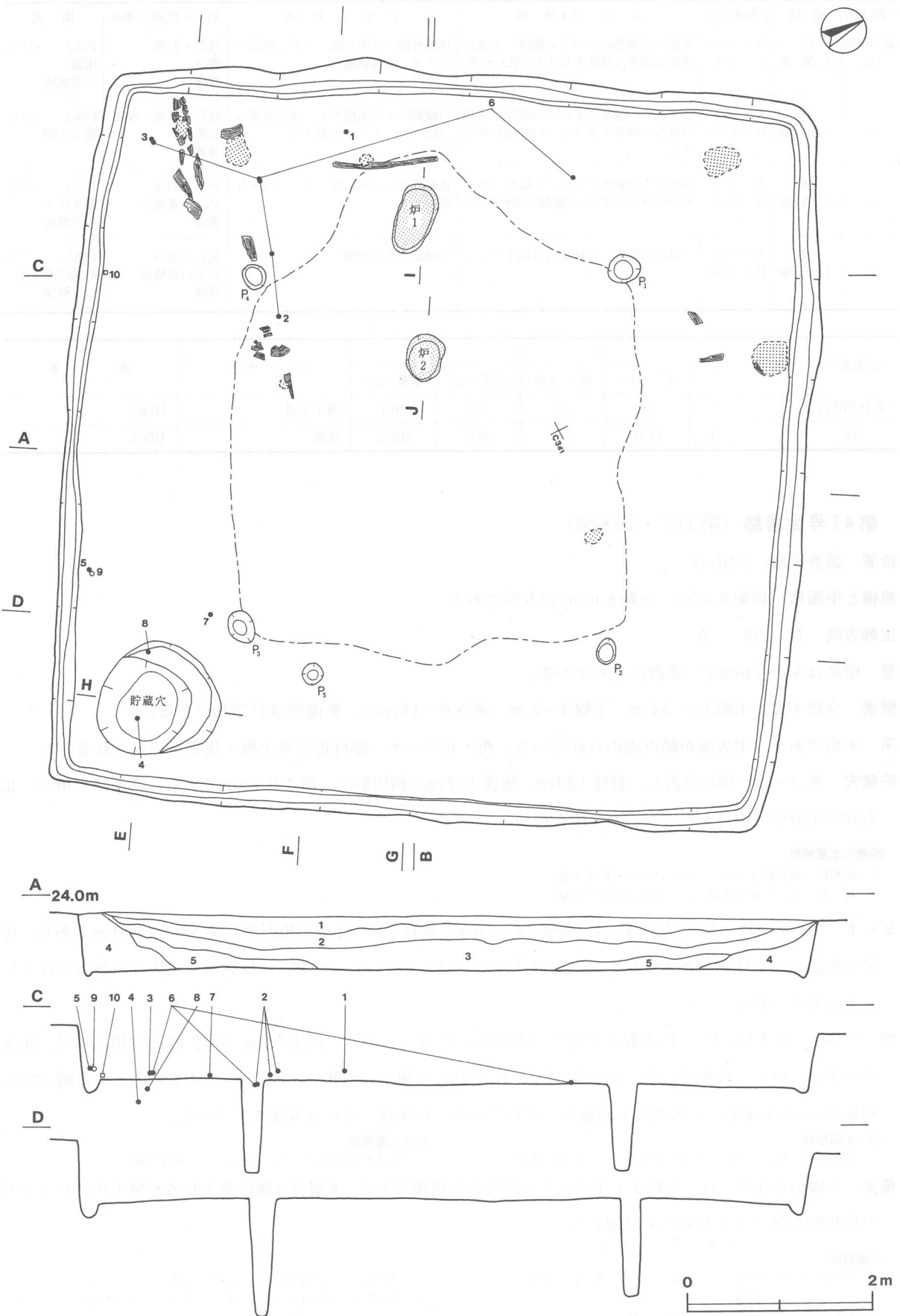
炉2土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・ローム粒子少量

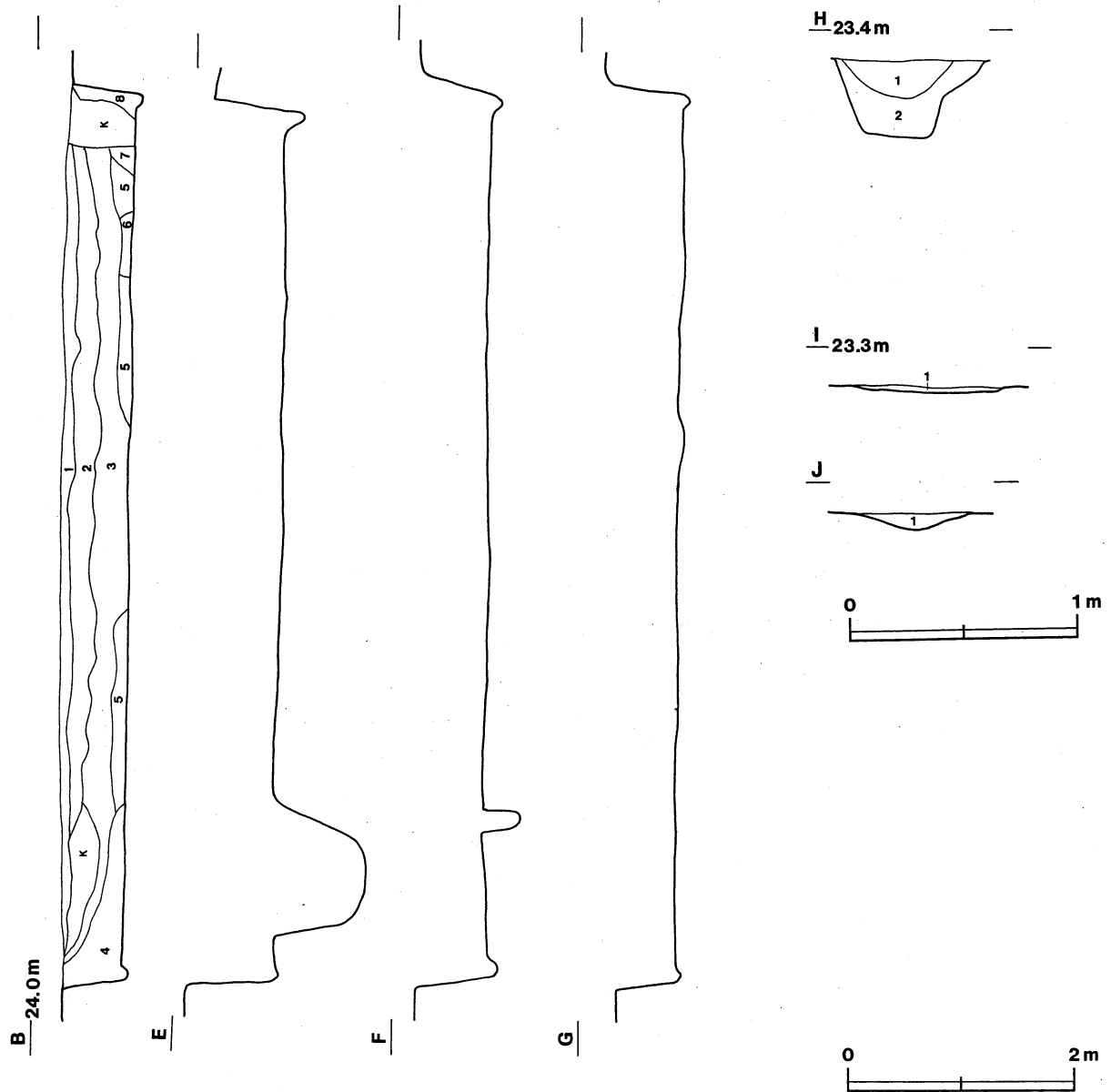
覆土 8層からなり、ローム粒子・ブロックを含む人為堆積である。6層は5層に含まれるが焼土小ブロック及び炭化物が多くみられるため分層した。

土層解説

- | | |
|-------------------------------------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 5 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量 |
| 2 極暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量 | 6 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック少量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム小ブロック少量 | 7 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量 |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 | 8 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子少量, 焼土粒子微量 |



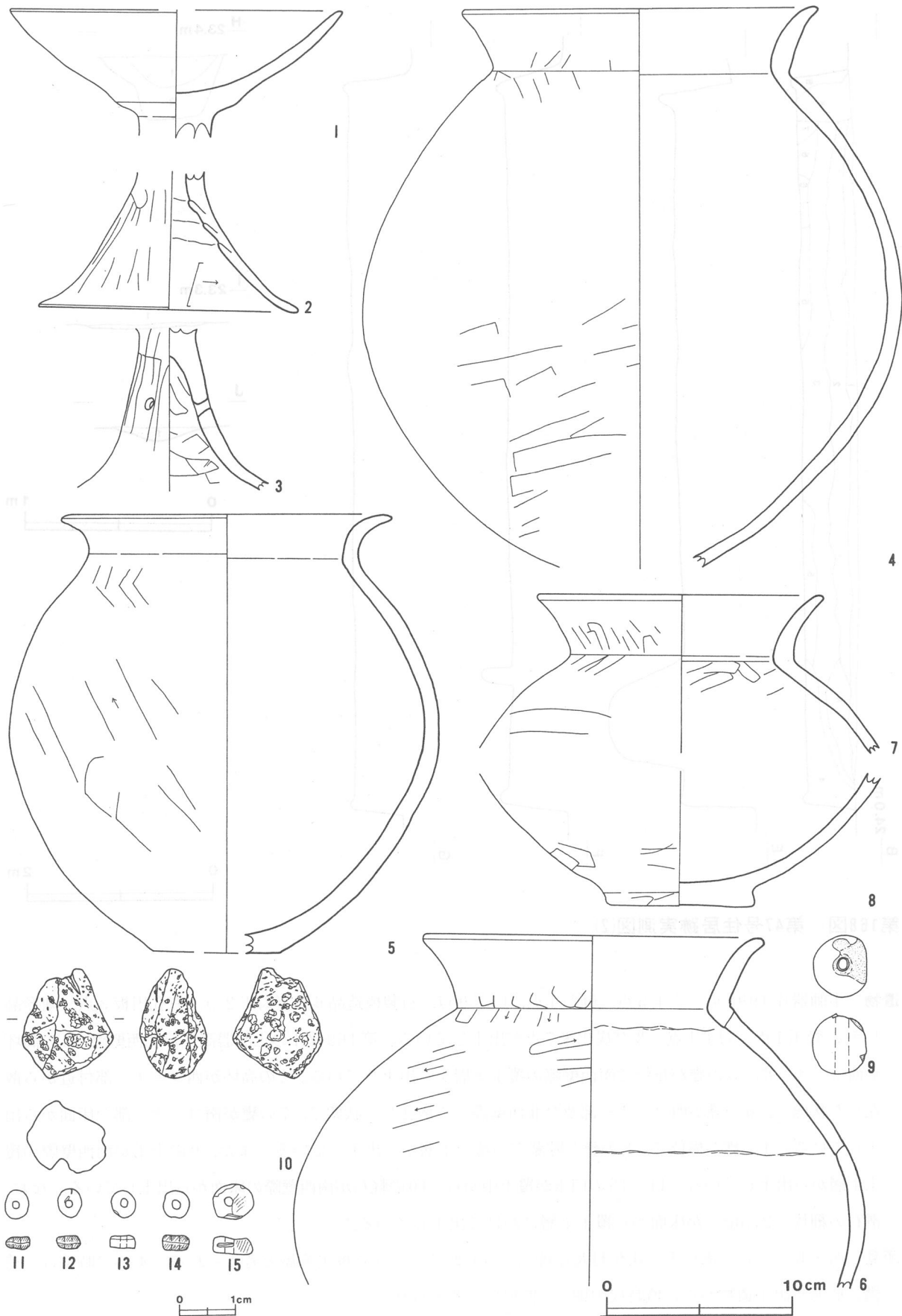
第167図 第47号住居跡実測図(1)



第168図 第47号住居跡実測図(2)

遺物 土師器片1098点, 土玉5点, 軽石1点, 白玉9点, 石製模造品6点(勾玉2点, 有孔円板3点, 剣形品1点), 管玉1点, 刀子1点, 及び炭化米7点が出土している。第169図1の土師器高坏が北西壁際, 3の高坏が西コーナー部, 5の甕が正位で南西壁際の覆土下層から出土している。2の高坏が西コーナー部付近から散在した状態で, 6の甕が西コーナー部及び北西壁際から散在した状態で, 7の甕が南コーナー部の床面から出土している。4の甕が横位で, 8の甕と貯蔵穴の覆土上層から出土している。また, 9の土玉が南西壁際の覆土下層から出土している。11~15の白玉が覆土中から, 10の軽石が南西壁際の床面から出土している。なお, 滑石の細片(27.0g)が床面から覆土下層にかけて出土している。

所見 西・北コーナー部付近に炭化材及び焼土がみられることから焼失家屋と考えられる。本跡の時期は, 遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。



第169図 第47号住居跡出土遺物実測図

第47号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第169図 1	高坏土師器	A [17.9] B (6.8)	坏部の破片。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面摩擦のため調整法不明。内面ナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P366 35% 覆土下層
2	高坏土師器	D 13.9 E (7.4)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面ヘラナデ。	長石・石英明赤褐色普通	P367 40% 床面 二次焼成
3	高坏土師器	E (8.8)	脚部の破片。脚部はラッパ状に開く。脚部に単孔を穿つ。	脚部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P368 25% 覆土下層 二次焼成
4	甕土師器	A 19.3 B (30.2)	底部欠損。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色普通	P369 90% 貯蔵穴覆土上層 二次焼成
5	甕土師器	A 17.9 B 23.7 C 6.8	底部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・雲母にぶい褐色普通	P370 90% 覆土下層 二次焼成
6	甕土師器	A 18.5 B (18.9)	底部から体部中位にかけて欠損。体部は扁平な球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英にぶい黄橙色普通	P371 25% 床面 二次焼成
7	甕土師器	A 15.5 B (8.4)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ヘラ削り後、ナデ。	長石にぶい橙色普通	P372 15% 床面 二次焼成
8	甕土師器	B (7.3) C 7.8	底部から体部にかけての破片。突出した平底。	体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P373 20% 貯蔵穴覆土上層 二次焼成

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第169図9	土玉	(2.8)	3.3	0.7	(27.0)	覆土下層	DP64

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第169図10	軽石	5.9	4.8	3.9	22.4	床面	Q194

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第169図11	白玉	0.5	0.2	0.1	覆土中	Q195 滑石
12	白玉	0.5	0.2	0.1	覆土中	Q196 滑石
13	白玉	0.5	0.2	0.2	覆土中	Q197 滑石
14	白玉	0.5	0.3	0.1	覆土中	Q198 滑石
15	白玉	0.6	0.3	0.1	覆土中	Q199 滑石

第48号住居跡 (第170図)

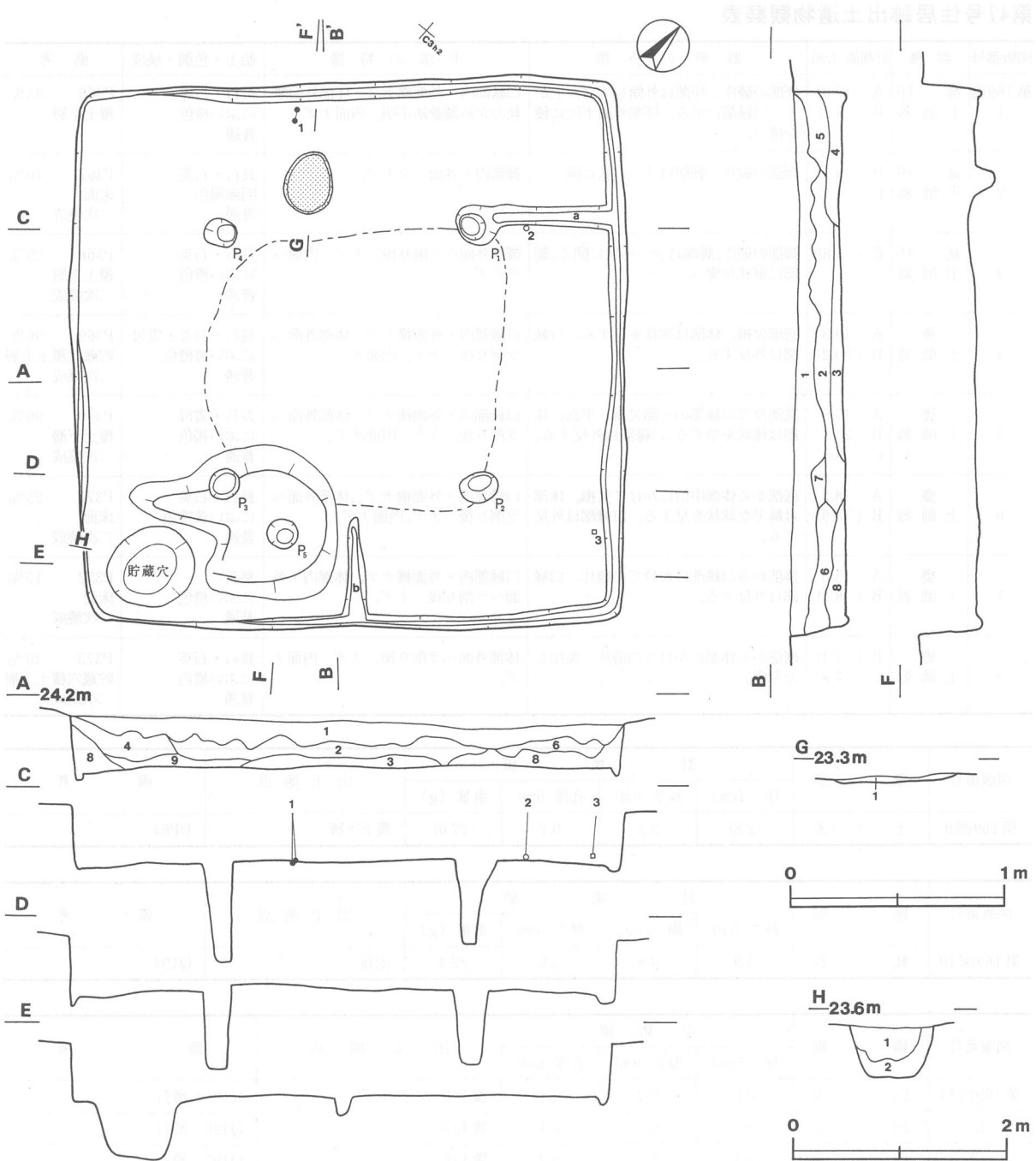
位置 調査区西部, C3h2区。

規模と平面形 長軸5.19m, 短軸5.12mの方形である。

主軸方向 N-42°-W

壁 壁高は43~50cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 南コーナー部及び西コーナー部を除いて巡っている。上幅10~23cm, 下幅2~14cm, 深さ6~10cmで、断面形はU字状及びV字状である。



第170図 第48号住居跡実測図

床 出入り口施設に伴うピット (P₅) 及び支柱穴 (P₃) のまわりに、長軸202cm、短軸144cmの不定形で、高さ10cmほどの硬化した高まりがみられる。そのほかは平坦であり、中央部が踏み固められている。壁溝から中央部に向かって延びる溝2条を検出した。北東壁下から1条 (a)、南東壁下から1条 (b) の溝がそれぞれ中央部に向かって延びている。長さ102~124cm、上幅14~24cm、下幅4~14cm、深さ18cmで、断面形はU字状である。溝aは支柱穴と考えられるP₁につながっている。

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、長径82cm、短径74cmの楕円形で、深さは51cmである。底面は平坦で、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量

2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁・P₂・P₄ は、長径 30~42 cm、短径 28~34 cm の楕円形、P₃ は径 28 cm の円形で、深さ 70~96 cm であり、規模と配置から主柱穴と考えられる。P₅ は径 30 cm の円形、深さ 22 cm であり、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 P₁ と P₄ を結んだ線上の外側で、P₄ 寄りに位置する。長径 58 cm、短径 46 cm の楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめている。

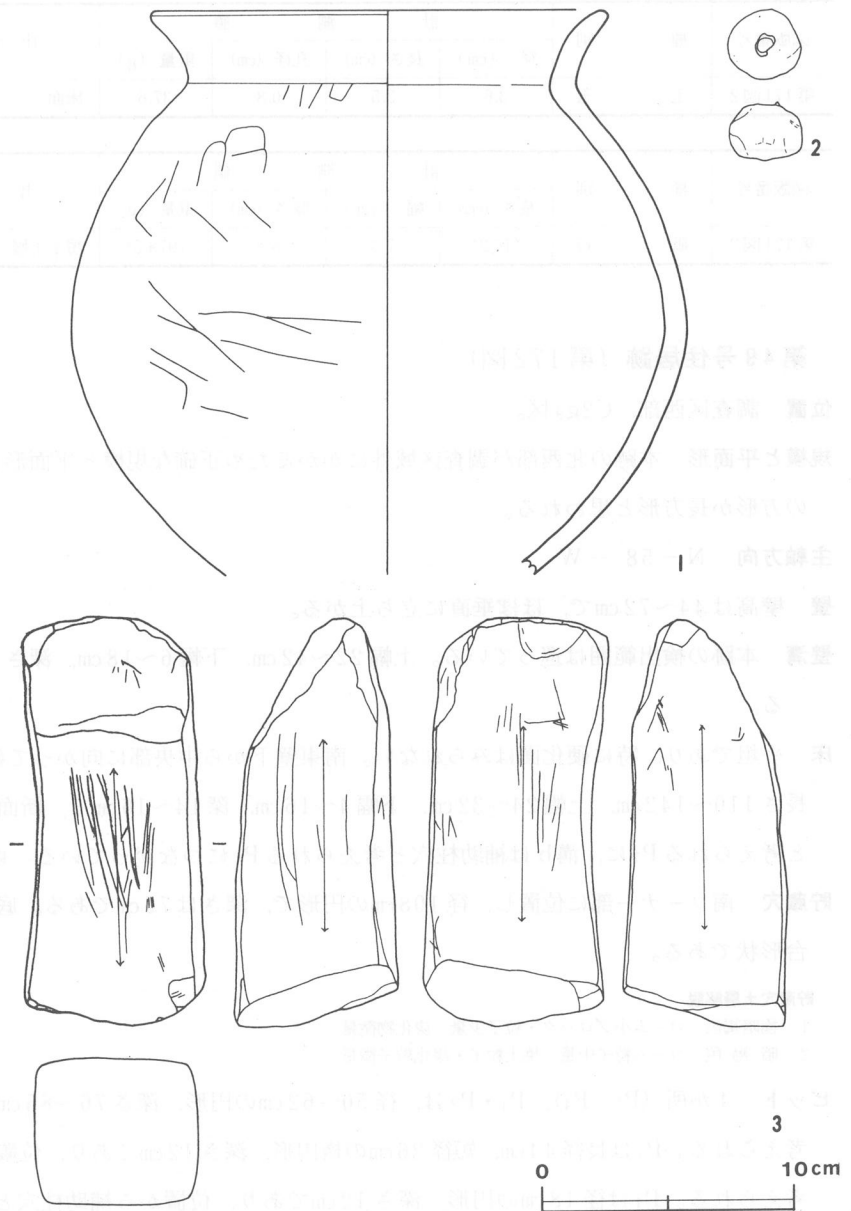
炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・粒子微量

覆土 9層からなり、ロームブロック・粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中・小ブロック・炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 4 黒褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・ローム大・中・小ブロック・粒子少量
- 6 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 7 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 9 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量



第171図 第48号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片 340点、土玉 1点、砥石 1点が出土している。第171図1の土師器甕が北西壁際の床面から出土している。また、2の土玉が北東壁寄りの床面から、3の砥石が北東壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期 (5世紀) と考えられる。

第48号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第171図 1	甕 土師器	A 18.2 B (22.5)	底部欠損。体部は球状を呈する。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	雲母 灰褐色 普通	P374 65% 床面 二次焼成

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第171図2	土 玉	3.6	3.5	0.8	37.6	床面	DP65

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第171図3	砥 石	(16.2)	7.3	5.9	(979.5)	覆土下層	Q200 凝灰岩

第49号住居跡 (第172図)

位置 調査区西部, C2g9区。

規模と平面形 本跡の北西部が調査区域外にかかるため正確な規模と平面形は不明であるが、一辺6.50mほどの方形か長方形と思われる。

主軸方向 N-58°-W

壁 壁高は44~72cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 本跡の検出範囲は巡っている。上幅22~42cm, 下幅6~18cm, 深さ8~10cmで、断面形はU字状である。

床 平坦であり、特に硬化面はみられない。南東壁下から中央部に向かって延びる溝2条(a・b)を検出した。長さ110~142cm, 上幅24~32cm, 下幅4~16cm, 深14~16cmで、断面形はU字状である。溝aは支柱穴と考えられるP₁に、溝bは補助柱穴と考えられるP₄につながっている。東コーナー部に炭化材がみられる。

貯蔵穴 南コーナー部に位置し、径108cmの円形で、深さは76cmである。底面はやや凹凸があり、断面形は逆台形状である。

貯蔵穴土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 4か所(P₁~P₄)。P₁・P₂は、径50~62cmの円形、深さ76~85cmであり、規模と配置から支柱穴と考えられる。P₃は長径44cm, 短径26cmの楕円形、深さ12cmであり、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P₄は径18cmの円形、深さ12cmであり、位置から補助柱穴と考えられる。

覆土 10層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 炭化粒子・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 灰褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 4 灰褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 6 黒褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量
- 7 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量, ローム中ブロック微量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量
- 9 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・粒子少量
- 10 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子少量

遺物 土師器片389点, 白玉26点が出土している。第173図4の土師器高坏及び8の壺が南東壁際, 5の甕が南東壁寄りから南東壁際にかけての覆土下層から散在した状態で出土している。1の坏が正位で北東壁際, 3の高坏が南コーナー部, 7の壺, 6の甕が南東壁寄りの床面から出土している。2の椀が貯蔵穴中層から出土している。また, 9~33の白玉が北東壁寄りの床面からまとまって出土している。なお, 滑石の細片(8.2g)が床面から覆土下層にかけて出土している。

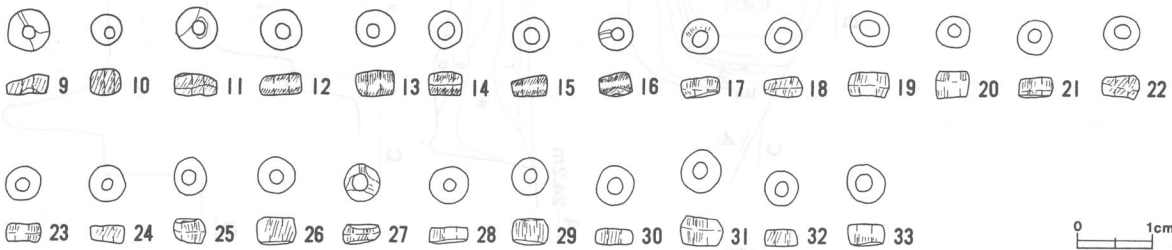
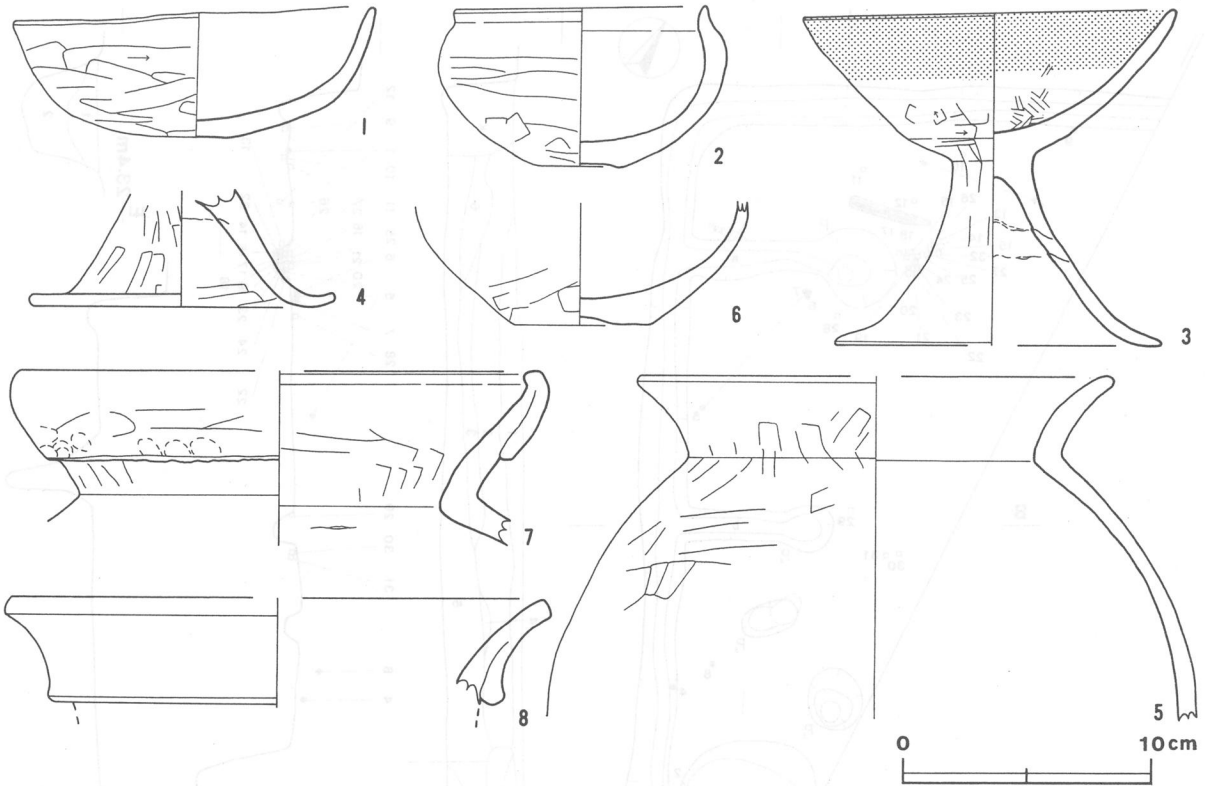
所見 東コーナー部に炭化材がみられることから、本跡は焼失家屋と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態や出土遺物から古墳時代中期(5世紀)と考えられる。



第172図 第49号住居跡実測図

第49号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 1	坏 土師器	A 14.6 B 5.4 C 3.2	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面剝離。	長石・石英にぶい橙色普通	P375 98% 床面 二次焼成
2	椀 土師器	A 10.2 B 6.5 C 3.3	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。口縁部内面に弱い稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面剝離。	長石にぶい橙色普通	P376 98% 貯蔵穴覆土中層 二次焼成
3	高坏 土師器	A 15.1 B 13.5 D [13.2] E 7.5	裾部及び坏部の一部欠損。脚部はラップ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に弱い稜を持つ。	坏部外面ヘラ削り後、ナデ。内面ヘラ磨き。脚部内・外面ヘラナデ。口縁部内・外面赤彩。内面剝離。	長石・石英にぶい橙色普通	P377 70% 床面 二次焼成
4	高坏 土師器	D 12.4 E 4.7	脚部の破片。脚部はラップ状を呈する。裾部は上方へわずかに反り返る。	脚部外面ヘラナデ。内面一部ヘラ削り後、ナデ。	長石にぶい橙色普通	P378 35% 覆土下層 二次焼成



第173図 第49号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第173図 5	甕 土師器	A [19.2] B (13.8)	体部から口縁部にかけての破片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。外面煤付着。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P379 15% 覆土下層 二次焼成
6	甕 土師器	B (5.0) C 5.1	底部から体部にかけての破片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	石英・雲母 黒褐色 普通	P382 15% 床面
7	壺 土師器	A [20.9] B (7.0)	口縁部の破片。口縁部は内彎気味に立ち上がる。折り返し口縁。	口縁部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。口縁部外面に指頭圧痕が残る。	長石 にぶい橙色 普通	P380 5% 床面 二次焼成
8	壺 土師器	A [21.5] B (4.2)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 にぶい黄橙色 普通	P381 5% 覆土下層

図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第173図9	白玉	0.6	0.3	0.1	床面	Q201 滑石
10	白玉	0.4	0.4	0.2	床面	Q202 滑石
11	白玉	0.6	0.4	0.2	床面	Q203 滑石
12	白玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q204 滑石
13	白玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q205 滑石

図版番号	種 別	計 測 値			出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第173図14	白 玉	0.4	0.3	0.2	床面	Q206 滑石
15	白 玉	0.4	0.3	0.2	床面	Q207 滑石
16	白 玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q208 滑石
17	白 玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q209 滑石
18	白 玉	0.5	0.2	0.3	床面	Q210 滑石
19	白 玉	0.6	0.4	0.2	床面	Q211 滑石
20	白 玉	0.5	0.4	0.2	床面	Q212 滑石
21	白 玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q213 滑石
22	白 玉	0.5	0.4	0.2	床面	Q214 滑石
23	白 玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q215 滑石
24	白 玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q216 滑石
25	白 玉	0.5	0.4	0.2	床面	Q217 滑石
26	白 玉	0.5	0.4	0.2	床面	Q218 滑石
27	白 玉	0.5	0.3	0.2	床面	Q219 滑石
28	白 玉	0.5	0.2	0.2	床面	Q220 滑石
29	白 玉	0.5	0.4	0.2	床面	Q221 滑石
30	白 玉	0.6	0.2	0.2	床面	Q222 滑石
31	白 玉	0.6	0.4	0.2	床面	Q223 滑石
32	白 玉	0.5	0.2	0.2	床面	Q224 滑石
33	白 玉	0.6	0.3	0.2	床面	Q225 滑石

第50号住居跡 (第174図)

位置 調査区東部, C3d8区。

規模と平面形 長軸6.37m, 短軸5.44mの長方形である。

主軸方向 [N-42°-W]

壁 確認された壁高は6~8cmで, 攪乱を受けているため, 立ち上がりは明確ではない。

床 ほぼ平坦であり, 特に硬化面はみられない。

ピット 5か所 (P₁~P₅)。P₁~P₄は, 径26~36cmの円形, 深さ32~52cmであり, 配置から支柱穴と考えられる。P₅は径28cmの楕円形, 深さ44cmであり, その性格は不明である。

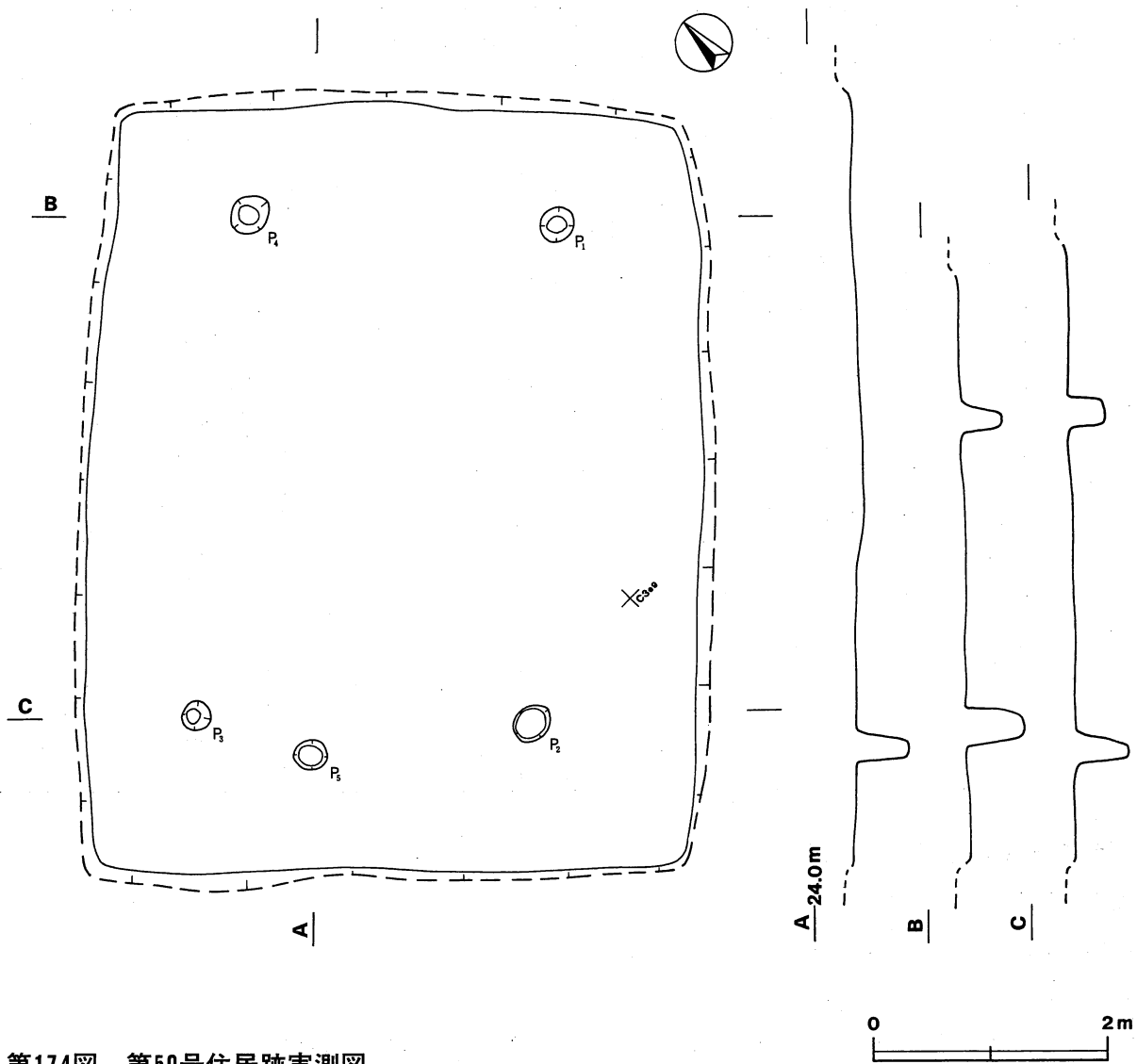
覆土 全体的に攪乱を受けており, 堆積状況については不明である。

遺物 土師器片34点が出土している。第175図1の土師器坏及び2の甕, 3の白玉が覆土中から出土している。

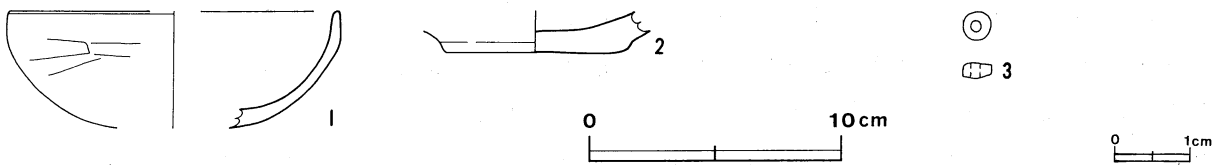
所見 時期を決定できる遺物がなく, 本跡の正確な時期は不明である。

第50号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 (cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第175図 1	坏 土 師 器	A [13.0] B (4.6)	体部から口縁部にかけての破片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。内面剝離。	長石・雲母 明褐色 普通	P383 25% 覆土中 二次焼成
2	甕 土 師 器	B (1.7) C 7.4	底部の破片。やや突出した平底。	内面ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P384 5% 覆土中 二次焼成



第174図 第50号住居跡実測図



第175図 第50号住居跡出土遺物実測図

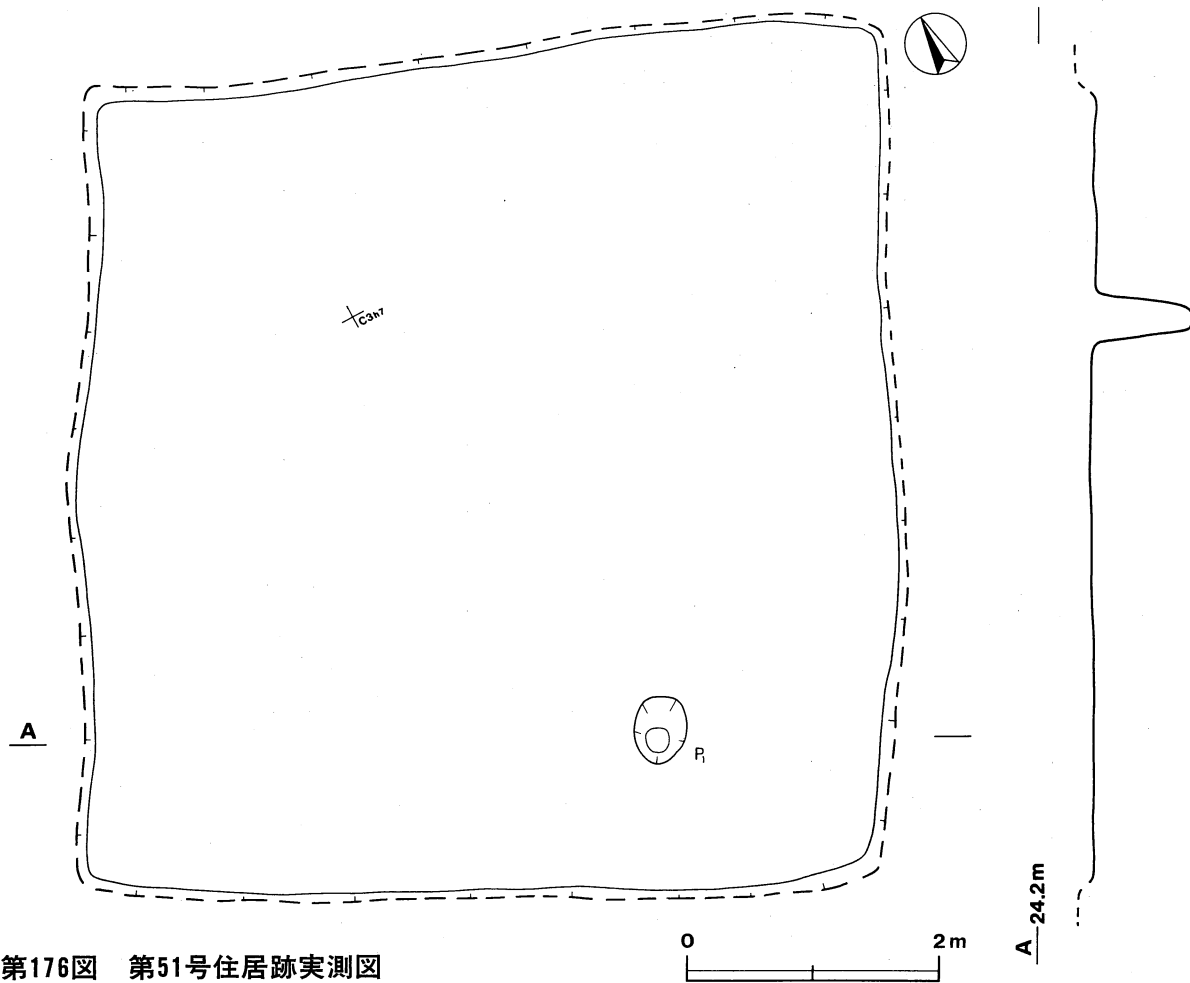
図版番号	種別	計測値			出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第175図3	白玉	0.4	0.2	0.2	覆土中	Q226 滑石

第51号住居跡 (第176図)

位置 調査区東部, C3h7区。

規模と平面形 長軸6.80m, 短軸6.63mの方形である。

主軸方向 [N - 28° - E]



第176図 第51号住居跡実測図

壁 確認された壁高は12cmで、攪乱を受けているため、立ち上がりは明確ではない。

床 ほぼ平坦であり、特に硬化面はみられない。

ピット 1か所 (P₁)。P₁は、長径52cm、短径42cmの楕円形で、深さ80cmであり、規模と位置から支柱穴と
考えられる。

覆土 全体的に攪乱を受けており、堆積状況については不明である。

所見 出土遺物がなく、本跡の正確な時期は不明である。

表5 実穀寺子遺跡住居跡一覧表

住居 番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規 模 (m) 長軸×短軸 (m)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						炉	覆土	出 土 遺 物	備 考
							壁溝	溝	支柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
1	A3i2	N-27°-W	方 形	5.00 × 4.90	55~75	平坦	全周	1	4			1	1	人為	土師器 (坏・高坏・埴)	
2	A2j8	N-30°-W	方 形	5.87 × 5.72	20~32	平坦	全周	1	4	1		1	1	人為	土師器 (高坏・甕)	
3	B2e7	N-27°-W	方 形	6.08 × 6.02	55~63	平坦	全周	5	4	1	1	1	1	人為	土師器 (高坏・埴)	
4	C6j5	N-42°-E	[方形]	5.32 × (4.36)	60~65	平坦	全周		3	1			2	人為	土師器 (坏・高坏・埴)	
5	D6e2	N-41°-W	方 形	5.05 × 5.00	52~60	平坦	ほぼ全周		4	1	1	1	1	人為	土師器 (坏・高坏・甕)	
6	D6b2	N-40°-W	方 形	7.78 × 7.74	48~68	平坦	一部	6	4	1	1	1	2	人為	土師器 (坏・高坏・甕)	
8	E3a0	N-18°-E	方 形	7.14 × 7.12	59~82	平坦	ほぼ全周	7	4	1	1		1	人為	土師器 (坏・高坏・甕)	
9	D5h1	N-18°-W	方 形	5.10 × 5.01	60~70	平坦	全周	5	4	1		1	1	人為	土師器 (坏・高坏・甕)	
10	D5j6	N-29°-W	方 形	4.94 × 4.92	48~62	平坦	全周		4	1		2	1	人為	土師器 (高坏・甕・埴)	

実穀寺子遺跡 1

住居 番号	位置	主(長)軸方向	平面形	規模(m) 長軸×短軸(m)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						炉	覆土	出土遺物	備考 旧→新
							壁溝	溝	主柱穴	貯蔵穴	ピット	入口				
11	C5i0	N-10°-W	方 形	8.58 × 8.47	20~34	平坦	壁溝全周	6	4	2	1		1	人為	土師器(高坏)須惠器(甕)	
12	D4h4	N-18°-W	長方形	6.67 × 5.61	70~79	平坦	全周	6	4	1		1	2	人為	土師器(高坏・甕)	
13	D4h4	N-5°-E	方 形	6.20 × 6.12	63~74	平坦	全周	7	4	1	1	1	1	人為	土師器(碗・坏・高坏)	
15	E5h1	N-38°-W	方 形	7.07 × 7.05	52~73	平坦	全周	5	4	1		1	1	人為	土師器(坏・高坏・甕)	
16	D3b9	N-21°-W	長方形	6.38 × 4.65	40~46	平坦	全周			1	2	1	2	人為	土師器(高坏・坩)	
17	D4b1	N-18°-W	[方形]	4.65 × (3.73)	42~47	平坦	一部							人為	土師器(高坏・壺・甕)	
18A	D4e1	N-54°-W	方 形	7.08 × 6.87	58~62	平坦	全周		4		1		1	人為	土師器(高坏・甕)	18B→本跡
18B	D4f1	N-54°-W	方 形	5.56 × 5.46	78~86	平坦	全周		4			1	1	人為	土師器(坏・高坏)	本跡→18A
19	D4a4	N-4°-W	方 形	6.94 × 6.65	57~68	平坦	壁溝全周		4					人為	土師器(高坏・甕・坩)	
20	D4d4	N-9°-W	長方形	5.44 × 4.60	15~23	平坦	壁溝全周	6			2	1	2	人為	土師器(高坏・甕)	
21	D4f7	N-1°-E	方 形	3.84 × 3.72	47~62	平坦	全周		4	1	1	1	1	人為	土師器(坏・高坏・甕)	
22	D4h9	N-54°-W	方 形	5.82 × 5.19	52~64	平坦	壁溝全周	3	4	1	1		1	人為	土師器(坏・高坏・甕)	
23	D5h3	N-30°-W	方 形	5.30 × 5.16	48~60	平坦	全周	1	4	1	1		1	人為	土師器(高坏・甕)	
24	D4e0	N-3°-W	方 形	3.73 × 3.57	62~70	平坦	全周						1	人為	土師器(高坏・甕)	
25	E5a2	N-32°-W	長方形	5.36 × 4.42	18~29	平坦	全周		4	1	1	1	1	人為	土師器(坏・高坏・甕)	
26	C4d6	N-18°-W	長方形	5.80 × 4.70	14~25	平坦				2				人為	土師器(ミニチュア土器)	
27	C4f8	N-23°-W		(5.98) × (4.73)	8~12	平坦								人為	土師器(坏・高坏・甕)	
28	C4b8	N-16°-W	方 形	5.75 × 5.62	25~33	平坦	壁溝全周	2	4	1	1	1	1	人為	土師器(高坏)	
29	C4a6	N-39°-W	長方形	7.89 × 6.33	24~40	平坦	壁溝全周	5	4	1			1	人為		
30	C4a0	N-25°-E	方 形	3.12 × 2.97	18~22	平坦							1	自然	土師器(高坏・坩)	
31	B4h8	N-39°-W	[方形]	5.91 × 5.90	60~95	平坦	全周	5	3	1			1	人為	土師器(坏・高坏・甕)	
32	B5h2	N-15°-E		(6.38) × (3.14)	63	平坦	壁溝全周		2				1	人為	土師器(高坏・甕)	
33	E5a7	N-52°-E	長方形	3.23 × 2.72	10	平坦					1			不明	土師器(高坏)	
35	E5c1	N-43°-E	長方形	2.40 × 2.34	10~18	平坦								不明	土師器片	
36	D4f3	N-29°-E	長方形	2.89 × 2.41	5~10	平坦	全周			1				自然	土師器(甕)	
38	D4f4	[N-21°-E]		(2.87) × (2.54)	8~22	平坦					3			自然	土師器(高坏・甕)	
39	D3j9	N-14°-W	長方形	2.97 × 2.63	12~16	平坦			3	2	1	1		人為	土師器(高坏・甕)	
40	Y8g3	N-3°-W	方 形	8.30 × 8.18	7~20	平坦			2				1	不明	土師器(坏・高坏・甕)	
41	Z8b6	[N-15°-W]	方 形	8.42 × 8.00	6~15	平坦				1				不明	土師器(坩・甕)	
42	Y8a0	[N-55°-W]	[方形]	(5.60) × (4.05)	(21~23)	平坦				1				不明	土師器(坏・高坏・坩)	
43	D3c6	N-47°-W	方 形	6.55 × 6.32	52~64	平坦		1	4	1	1		1	人為	土師器(高坏・把手付鉢)	
44	D3c4	N-38°-W	方 形	5.04 × 5.01	58~60	平坦		1	4	1	1	1	1	人為	土師器(坏・高坏・坩)	
45	C3f0	N-42°-W	長方形	5.38 × 3.64	52~59	平坦	一部	2			2	1	1	人為	土師器(坏・高坏・坩)	
46	C3a6	N-71°-W	方 形	6.38 × 6.12	31~51	平坦			4	1			1	人為	土師器(碗・高坏・坩)	
47	C2d0	N-58°-W	方 形	8.07 × 8.03	55~76	平坦	全周		4	1	1		2	人為	土師器(高坏・甕)	
48	C3h2	N-42°-W	方 形	5.19 × 5.12	43~50	平坦	壁溝全周		4	1		1	1	人為	土師器(甕)	
49	C2g9	N-58°-W		(6.50) × (3.96)	44~72	平坦	全周	2	2	1	1	1		人為	土師器(坏・高坏・甕)	
50	C3d8	[N-42°-W]	長方形	6.37 × 5.44	6~8	平坦			4			1		不明	土師器(坏・甕)	
51	C3h7	[N-28°-E]	方 形	6.80 × 6.63	12	平坦					1			不明		

2 土坑

当遺跡からは、土坑60基が検出された。ここでは、土坑の形状、規模、覆土の状態及び出土遺物に特徴があるものについて記載し、それ以外の土坑については一覧表に記載した。

第24号土坑 (第177図)

位置 調査A-I区東部, B3a1区。

規模と平面形 径0.78mの円形で、深さは0.26mである。

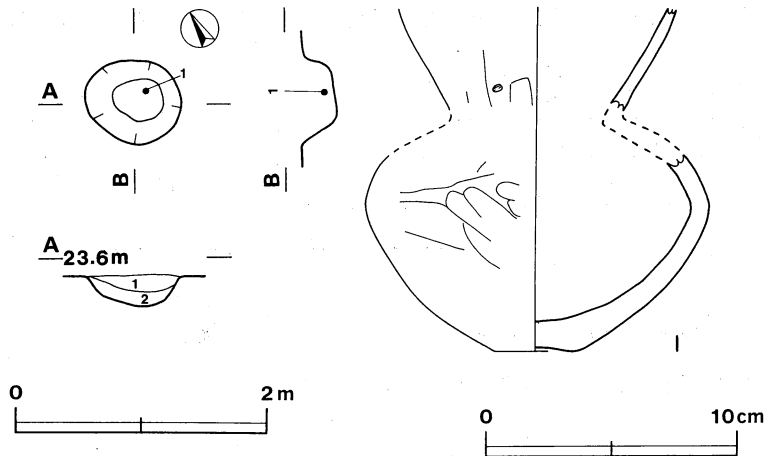
壁面 なだらかに立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量



遺物 覆土下層から第177図1の土師

器が出土している。

第177図 第24号土坑・出土遺物実測図

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期のものと考えられるが、性格については不明である。

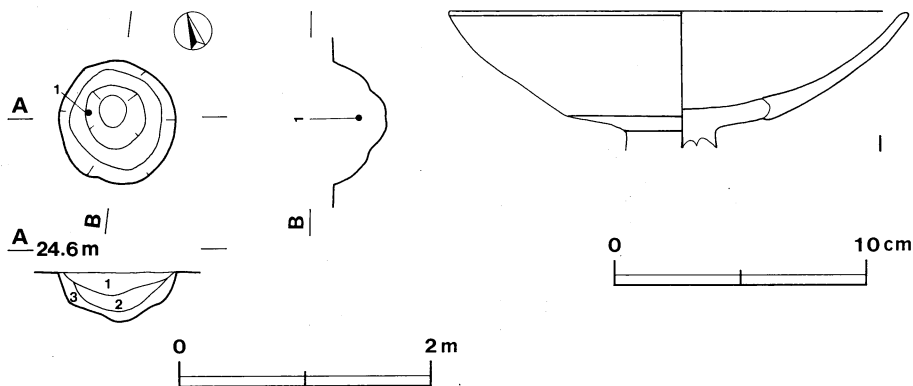
第24号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第177図 1	埴 土師器	B [13.7] C 3.0	体部及び口縁部の一部欠損。平底。体部は扁平な球状を呈し、最大径を中位よりやや上方に持つ。口縁部は外傾する。口縁部外面下位に靱痕が残る。	口縁部外面及び体部外面へラ削り後、ナデ。内面剝離。	長石・雲母にふい赤褐色普通	P385 55% 覆土下層 二次焼成

第34号土坑 (第178図)

位置 調査A-II区西部, E3f8区。

規模と平面形 径0.97mの円形で、深さは0.42mである。



第178図 第34号土坑・出土遺物実測図

実穀寺子遺跡 1

壁面 ゆるやかに立ち上がる。

底面 V字状である。

覆土 3層からなり、ローム粒子を含む人為堆積である。

- 土層解説
- 1 黒褐色 ローム粒子少量
 - 2 極暗褐色 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子中量

遺物 第178図1の土師器高坏が覆土中層から出土している。

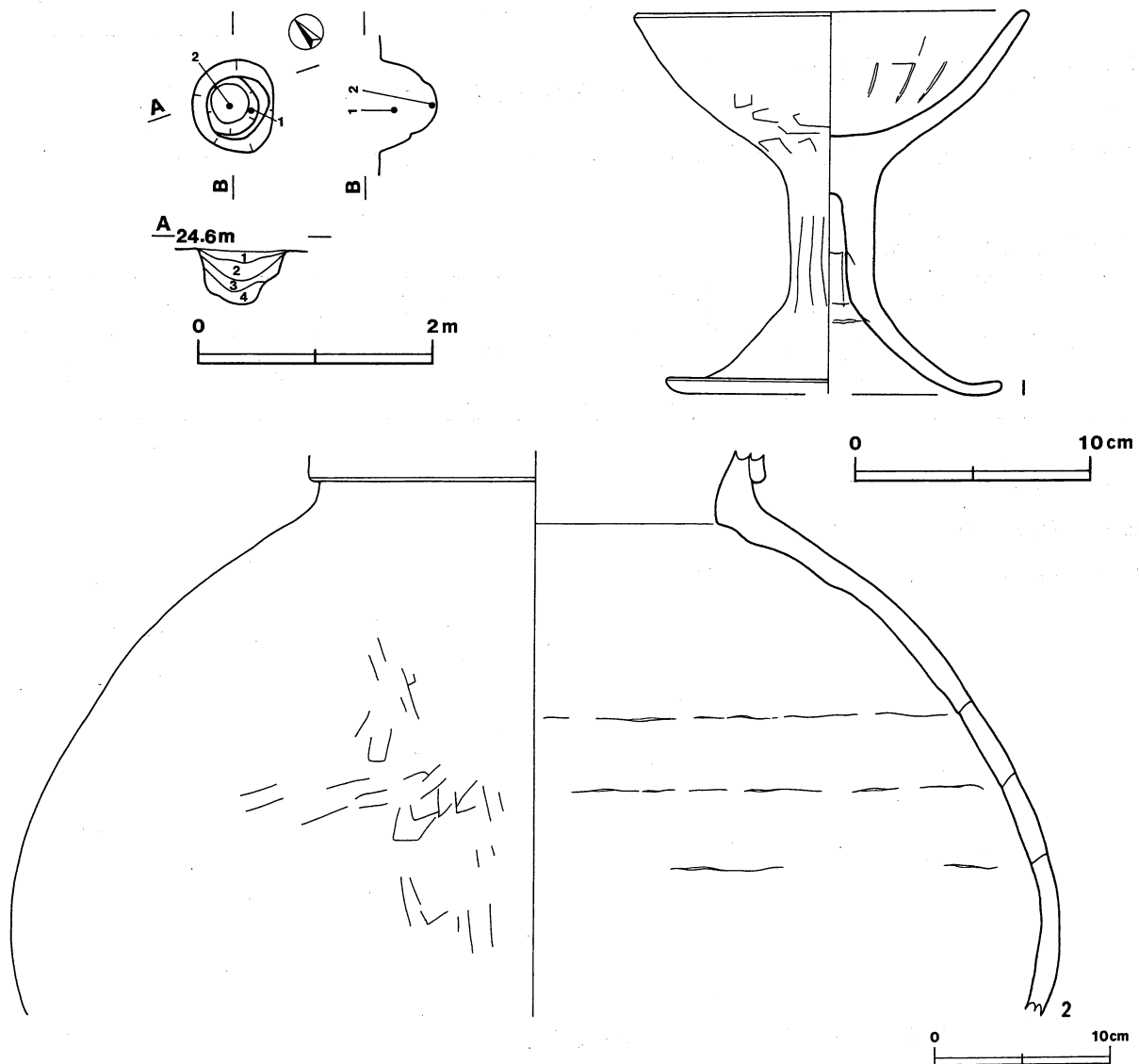
所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期のものと考えられるが、性格については不明である。

第34号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第178図 1	高坏 土師器	A 18.4 B (5.6)	坏部の破片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	内・外面摩耗のため調整法不明。	長石・石英 明赤褐色 普通	P386 40% 覆土中層 二次焼成

第39号土坑 (第179図)

位置 調査A-II区西部, E4c2区。



第179図 第39号土坑・出土遺物実測図

規模と平面形 径0.77mの円形で、深さは0.48mである。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 U字状である。

覆土 4層からなり、ローム粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子中量

遺物 第179図1の土師器高坏が覆土上層から、2の壺が覆土下層から出土している。2の壺は、第40号土坑の覆土中層出土の破片と接合関係にある。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期のものと考えられるが、性格については不明である。

第39号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第179図 1	高坏 土師器	A 17.0 B 16.4 D [14.4] E 9.4	裾部及び口縁部の一部欠損。脚柱部は円柱状を呈し、裾部はなだらかに開いて上方へ反り返る。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。坏部外面へラ削り後、ナデ。内面へラナデ。脚部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・石英にぶい橙色普通	P387 70% 覆土上層 二次焼成
2	壺 土師器	B (32.2)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。折り返し口縁。	体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。内面に輪積痕が残る。	長石・石英・雲母灰白色普通	P388 25% 覆土下層・SK40 覆土中層

第40号土坑 (第180図)

位置 調査A-II区西部、E4c2区。

規模と平面形 径0.63mの円形で、深さは0.32mである。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

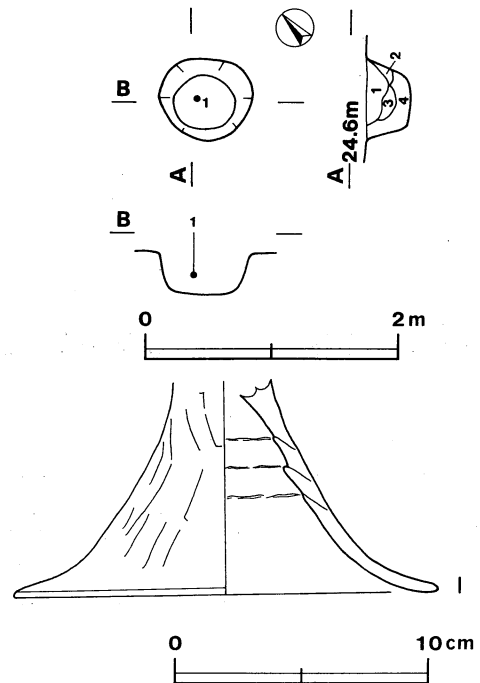
覆土 4層からなり、焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量

遺物 第180図1の土師器高坏が覆土中層から出土している。第39号土坑と接合関係にある壺の破片が覆土中層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期のものと考えられるが、性格については不明である。



第180図 第40号土坑・出土遺物実測図

第40号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第180図 1	高坏 土師器	D 16.9 E (8.5)	脚部の破片。脚部はラッパ状を呈する。	脚部外面へラナデ。内面ナデ。	長石・石英明黄褐色普通	P389 45% 覆土中層

第46号土坑 (第181図)

位置 調査A-II区中央部, D5d3区。

規模と平面形 径0.74mの円形で, 深さは0.20mである。

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

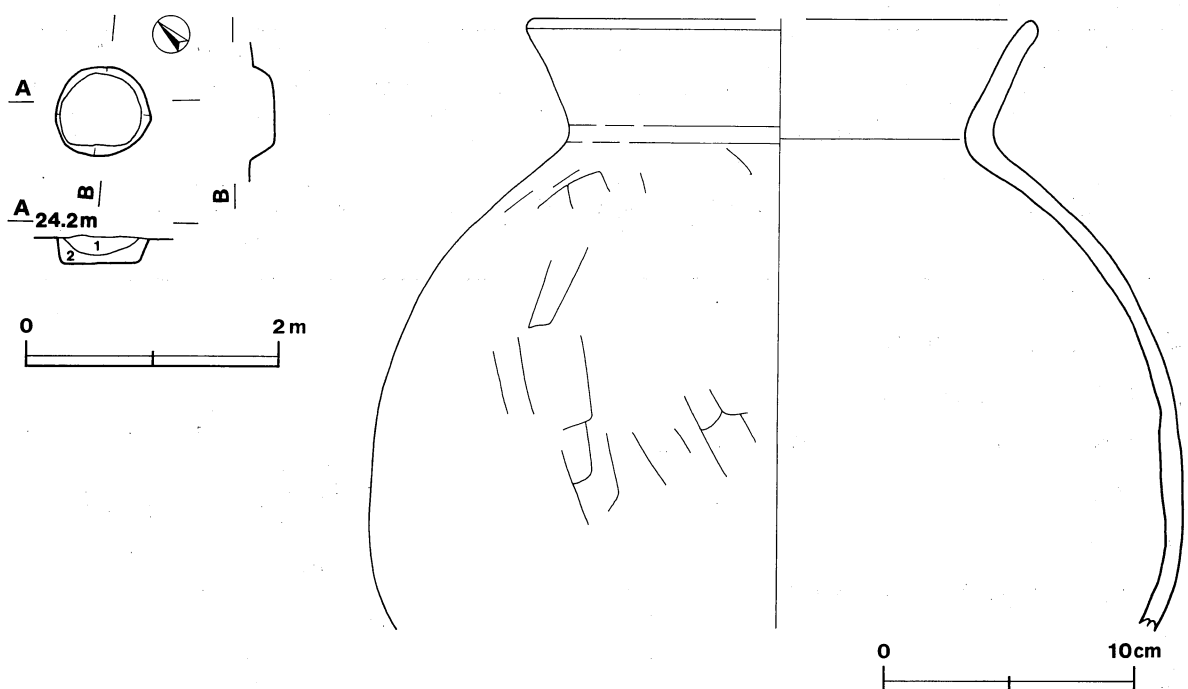
覆土 2層からなり, ローム粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量

遺物 第181図1の土師器甕が覆土中から出土している。

所見 本跡は, 出土遺物から古墳時代中期のものと考えられるが, 性格については不明である。



第181図 第46号土坑・出土遺物実測図

第46号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第181図 1	甕 土師器	A [20.5] B (24.4)	体部から口縁部にかけての破片。体部は球状を呈する。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後, ナデ。体部内面剥離。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P390 30% 覆土中 二次焼成

第50号土坑 (第182図)

位置 調査A-II区西部, D4c5区。

規模と平面形 長軸1.20m, 短軸1.14mの不定形で, 深さは0.21mである。

長径方向 N-26°-E

壁面 ゆるやかに立ち上がる。

底面 凹凸がある。

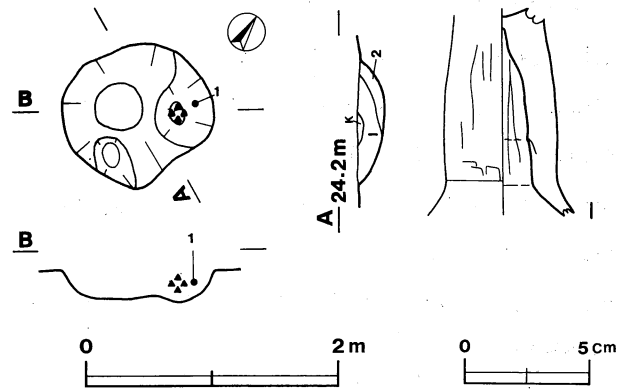
覆土 2層からなり、ローム粒子を多量に含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量

遺物 覆土中層から第182図1の土師器高坏片及びヤマトシジミ(総重量1.3g)が出土している。

所見 遺物から、古墳時代中期のゴミ穴の可能性も考えられるが、詳細な性格は不明である。



第182図 第50号土坑・出土遺物実測図

第50号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第182図 1	高坏 土師器	E (8.1)	脚柱部の破片。脚柱部はエンタシス状を呈する。	脚柱部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。外面摩耗。	長石・雲母にふい橙色普通	P391 20% 覆土中層 二次焼成

第53号土坑 (第183図)

位置 調査A-II区北部, C5b₂区。

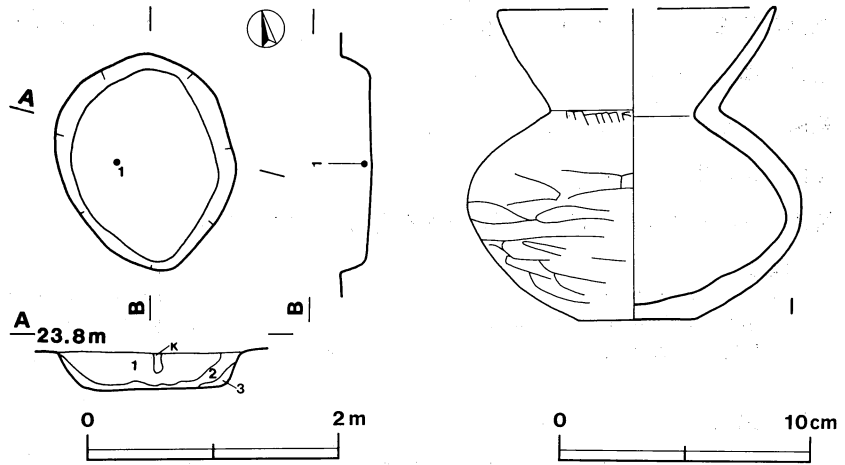
規模と平面形 長径1.71m, 短径1.39mの楕円形で、深さは0.23mである。

長径方向 N-7°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。



第183図 第53号土坑・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・粒子少量

遺物 第183図1の土師器埴が覆土下層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物から古墳時代中期のものと考えられるが、性格については不明である。

第53号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第183図 1	埴 土師器	A [11.2] B 12.4 C 4.8	口縁部一部欠損。平底。体部は球状を呈し、最大径を中位に持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後、ナデ。内面ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P392 90% 覆土下層 二次焼成

第47号土坑 (第184図)

位置 調査A-II区東部, D5f₉区。

規模と平面形 長径3.38m, 短径1.45mの不整楕円形で, 深さは1.50mである。

長径方向 N-65°-W

壁面 長径方向でオーバーハングし, 短径方向でV字状に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 7層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 |
| 2 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 5 褐色 ローム小ブロック・粒子少量 |
| 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 | 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, 炭化物微量 |
| | 7 暗褐色 炭化粒子中量, ローム小ブロック・粒子少量 |

遺物 出土してしていない。

所見 本跡は, 遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われるが, 遺物がなく詳細な時期については不明である。

第57号土坑 (第184図)

位置 調査B-I区東部, Z9d₄区。

規模と平面形 長径2.14m, 短径1.44mの楕円形で, 深さは1.07mである。

長径方向 N-6°-W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 6層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子微量 | 5 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 | 6 褐色 ローム粒子中量 |

遺物 出土してしていない。

所見 本跡は, 遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われるが, 遺物がなく詳細な時期については不明である。

第58号土坑 (第184図)

位置 調査A-II区北部, C5e₈区。

規模と平面形 長径2.94m, 短径[1.90]mの不整楕円形で, 深さは1.33mである。

長径方向 N-42°-E

壁面 北東壁でほぼ垂直に, 南西壁で外傾し, 短径方向でV字状に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

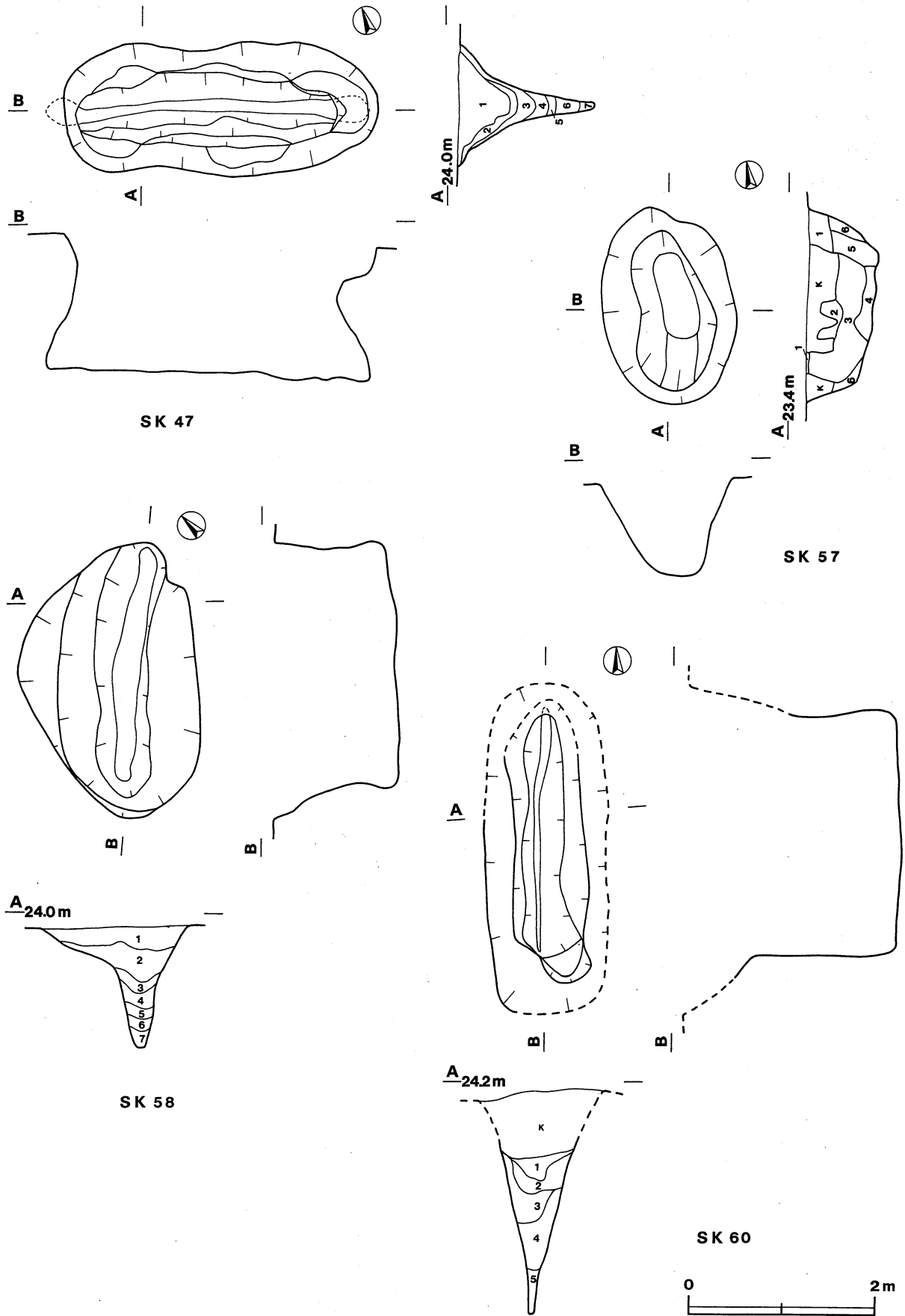
覆土 7層からなり, ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|--------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子多量 | 5 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量 | 6 褐色 ローム粒子少量 |
| 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 | 7 褐色 ローム粒子微量 |
| 4 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | |

遺物 出土してしていない。

所見 本跡は, 遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われるが, 遺物がなく詳細な時期については不明である。



第184図 第47・57・58・60号土坑実測図

第60号土坑 (第184図)

位置 調査A-II区西部, D4b₂区。

規模と平面形 本跡の上部が攪乱を受け正確な平面形は不明であるが、楕円形を呈すると思われる。長径 [2.57] m, 短径 [1.90] mで、深さは2.28mである。

長径方向 N-6°-E

壁面 北壁で中位, 南壁で上位まで垂直に、短径方向でV字状に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量

遺物 出土してしていない。

所見 本跡は、遺構の形態から縄文時代の陥し穴と思われるが、遺物がなく詳細な時期については不明である。

第4号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量

第5号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第6号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量

第7号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 明褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

第8号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第9号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量

第10号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第11号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第12号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量

第13号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム中ブロック少量
- 2 明褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第14号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

第15号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

第16号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック少量

第17号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量

第18号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第19号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第20号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第21号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第22号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第23号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 3 明褐色 ローム粒子中量

第25号土坑土層解説

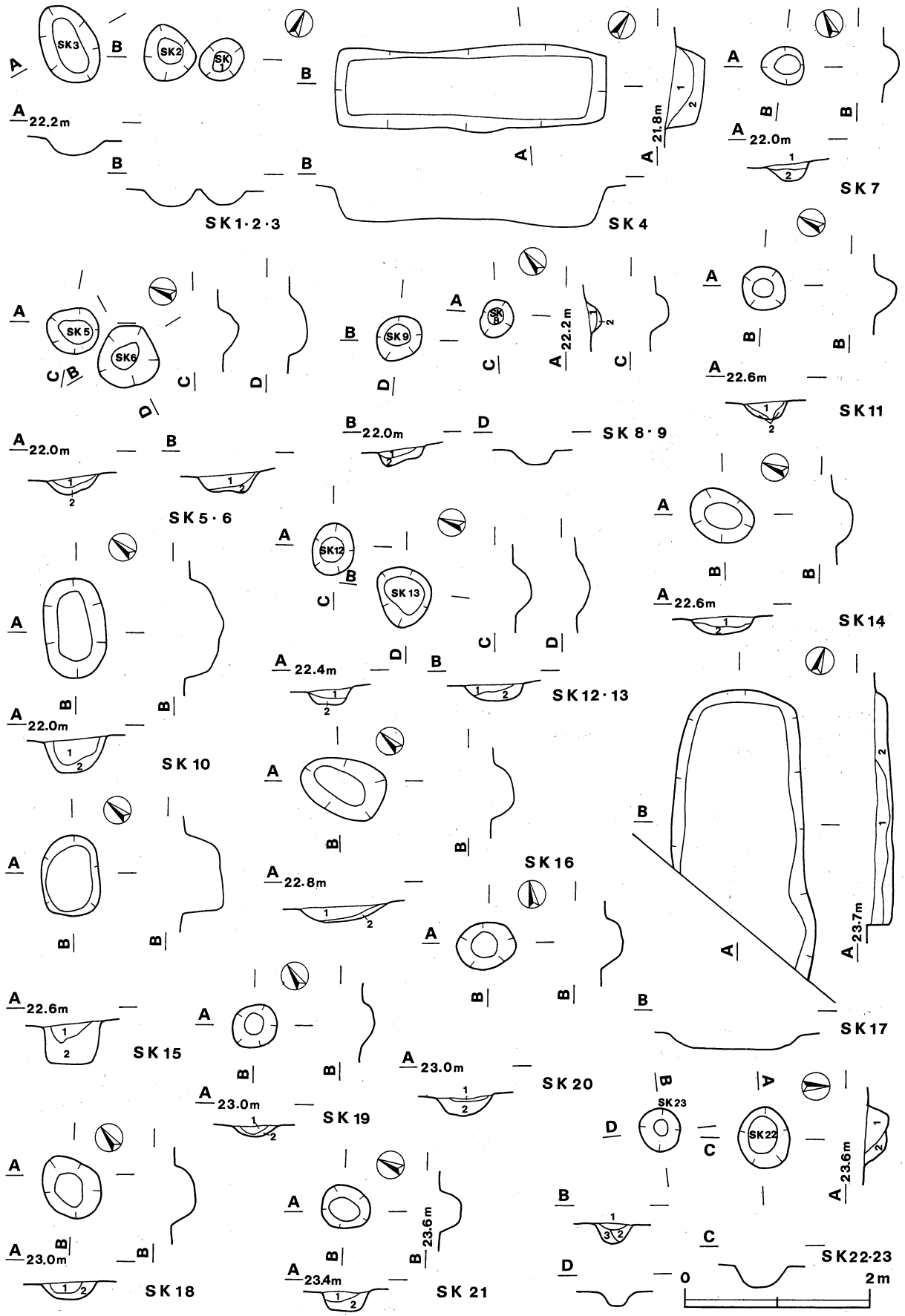
- 1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量

第26号土坑土層解説

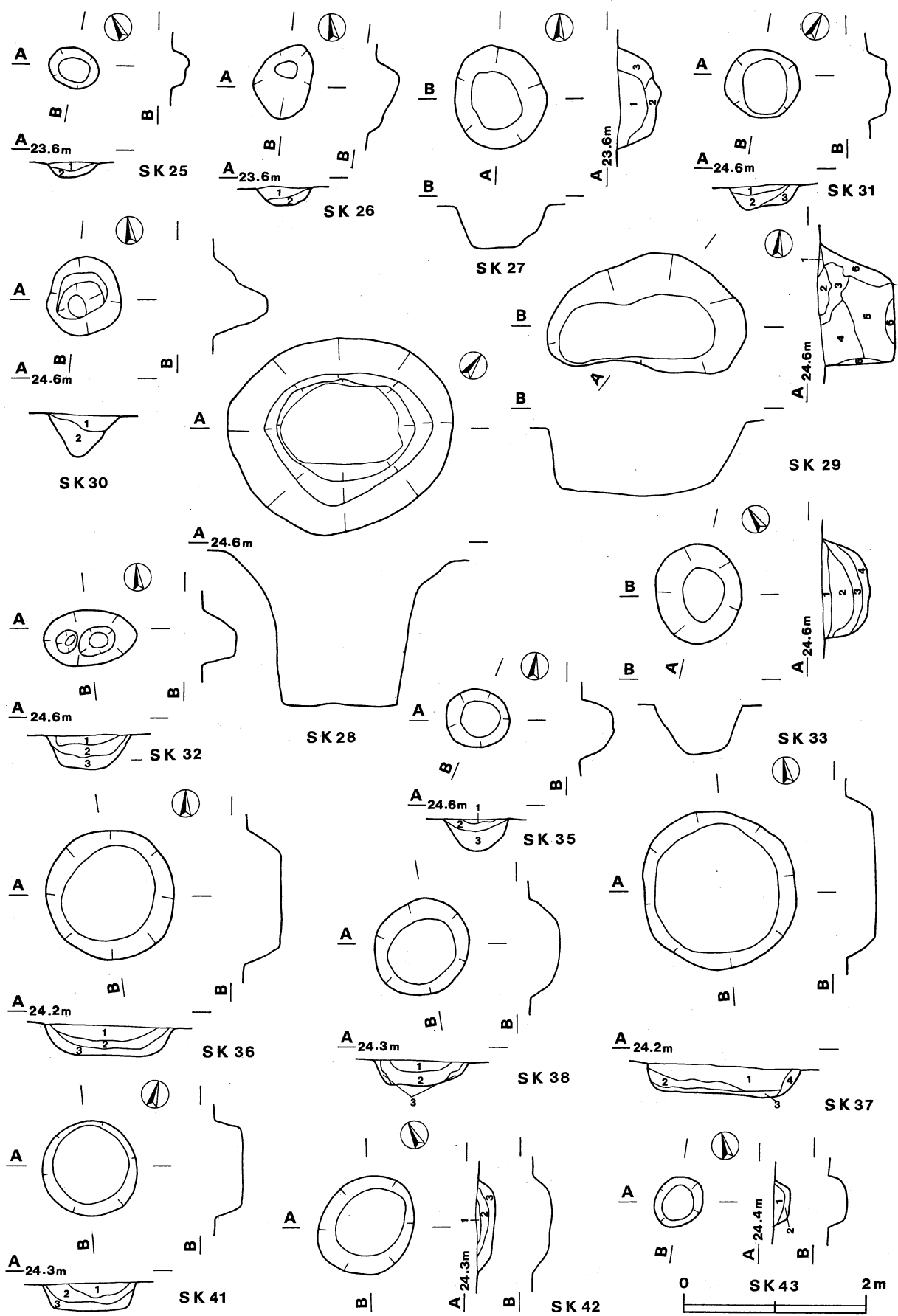
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量

第27号土坑土層解説

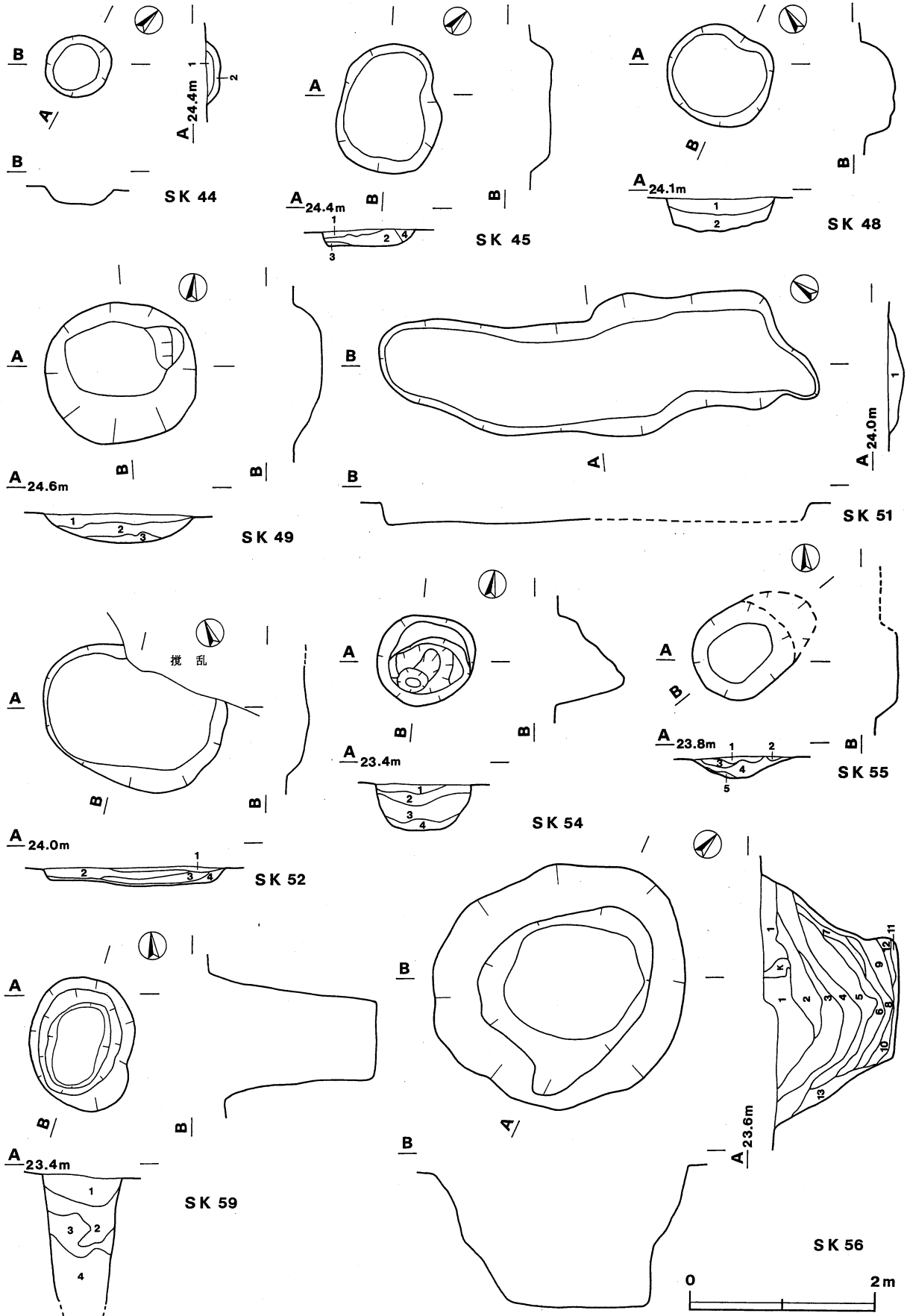
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量



第185図 その他の土坑実測図(1)



第186図 その他の土坑実測図(2)



第187図 その他の土坑実測図(3)

第29号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子・炭化物少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, 焼土粒子・炭化物少量, ローム中ブロック微量
- 6 極暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 7 明褐色 ローム小ブロック・粒子多量

第30号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第31号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

第32号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第33号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 炭化物・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 炭化物微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

第35号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

第36号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

第37号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 明褐色 ローム粒子少量

第38号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量

第41号土坑土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 炭化物・ローム中・小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子中量, ローム中ブロック少量

第42号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

第43号土坑土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第44号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量

第45号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・粒子中量, 炭化粒子・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量

第48号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量
- 2 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック少量

第49号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

第51号土坑土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量

第52号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 焼土粒子・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム粒子少量

第54号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化物・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量, 炭化物微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物微量

第55号土坑土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック・ローム小ブロック・粒子少量, 炭化物微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 炭化物・焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・ローム中・小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 炭化物・ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム中・小ブロック・粒子少量, 焼土粒子・炭化物微量

第56号土坑土層解説

- 1 赤褐色 焼土粒子少量, 炭化粒子・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム中・小ブロック・粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 3 褐色 焼土粒子・炭化粒子・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 褐色 焼土粒子・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量
- 7 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 8 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 9 褐色 ローム小ブロック・粒子多量
- 10 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 11 褐色 ローム小ブロック・粒子少量, ローム中ブロック微量
- 12 褐色 ローム粒子多量
- 13 褐色 ローム粒子多量, ローム中ブロック微量

第59号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 褐色 ローム中・小ブロック中量, ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量

表 6 実穀寺子遺跡土坑一覽表

土坑 番号	位 置	長 径 方 向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物 等	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (m)					
1	A2c9		円 形	0.50 × 0.43	15	緩斜	皿状	自然		
2	A2c9		円 形	0.60 × 0.53	17	緩斜	皿状	自然		
3	A2c8	N-54°-W	楕 円 形	0.94 × 0.58	165	緩斜	皿状	人為		
4	A2f4	N-56°-E	長 方 形	2.59 × 0.95	43	外傾	平坦	人為		
5	A2g4		円 形	0.56 × 0.49	20	緩斜	V字状	自然		
6	A2g4		円 形	0.66 × 0.66	20	緩斜	皿状	自然		
7	A2g3		円 形	0.46 × 0.41	16	緩斜	皿状	自然		
8	A2h3		円 形	0.41 × 0.32	16	緩斜	平坦	自然		
9	A2h3		円 形	0.49 × 0.47	16	緩斜	平坦	自然		
10	A1j0	N-48°-E	隅丸長方形	1.08 × 0.66	39	外傾	凹凸	自然		
11	A2i4		円 形	0.46 × 0.46	23	緩斜	皿状	自然		
12	A2i3		円 形	0.56 × 0.47	19	緩斜	皿状	自然		
13	A2i3	N-69°-E	不 整 形	0.63 × 0.58	14	緩斜	皿状	人為		
14	A2j3	N-23°-W	楕 円 形	0.94 × 0.58	19	緩斜	皿状	自然		
15	A2j3	N-49°-E	隅丸長方形	0.86 × 0.60	43	外傾	平坦	人為		
16	B2a2	N-28°-W	楕 円 形	0.92 × 0.62	24	緩斜	平坦	人為		
17	B2e4	N-15°-E	[長方形]	(2.55)×(1.43)	20	緩斜	平坦	人為		
18	A2i6		円 形	0.73 × 0.60	23	緩斜	皿状	人為		
19	A2i6		円 形	0.48 × 0.45	15	緩斜	皿状	人為		
20	A2i6		円 形	0.67 × 0.52	22	緩斜	皿状	人為		
21	A3i1		円 形	0.53 × 0.41	25	外傾	皿状	人為		
22	A3j1		円 形	0.54 × 0.54	25	緩斜	皿状	自然		
23	A3j1		円 形	0.46 × 0.45	16	緩斜	皿状	人為		
24	B3a1		円 形	0.78 × 0.67	26	緩斜	平坦	人為	土師器 (埴)	
25	B2f0		円 形	0.55 × 0.43	19	外傾	凹凸	自然		
26	B2f0	N-24°-E	楕 円 形	0.83 × 0.62	28	緩斜	平坦	自然		
27	B2e5		円 形	1.10 × 1.01	47	外傾	平坦	自然		
28	F3j6	N-51°-E	楕 円 形	2.45 × 2.15	167	垂直	平坦	人為		
29	G3j0	N-89°-E		2.15 × 1.21	82	外傾	平坦	人為		
30	G4a6		円 形	0.86 × 0.81	59	外傾	V字状	人為		
31	F3g0		円 形	0.83 × 0.78	24	外傾	凹凸	人為		
32	F4f3	N-87°-E	楕 円 形	1.42 × 1.26	36	外傾	平坦	自然		
33	F4f6		円 形	1.11 × 0.96	56	外傾	皿状	人為		
34	E3f8		円 形	0.97 × 0.93	42	緩斜	V字状	人為	土師器 (高坏)	
35	E4h1		円 形	0.71 × 0.66	37	外傾	凹凸	自然		
36	E5f2		円 形	1.42 × 1.39	38	緩斜	平坦	自然		
37	E5f2		円 形	1.72 × 1.66	33	緩斜	平坦	人為		
38	E5e1		円 形	1.10 × 1.00	30	緩斜	皿状	人為		
39	E4c2		円 形	0.77 × 0.70	48	外傾	U字状	人為	土師器 (高坏・壺)	SK40の壺と接合
40	E4c2		円 形	0.63 × 0.62	32	外傾	平坦	人為	土師器 (高坏・壺)	
41	E4a5		円 形	1.02 × 1.02	28	外傾	平坦	自然		
42	D4h2	N-49°-E	楕 円 形	1.12 × 1.00	18	緩斜	平坦	自然		
43	D5i2	N-55°-E	楕 円 形	0.60 × 0.50	17	外傾	平坦	自然		
44	D5i2		円 形	0.74 × 0.68	18	緩斜	平坦	自然		
45	D4g8	N-48°-E	楕 円 形	1.41 × 1.14	20	緩斜	平坦	自然		

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物等	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
46	D5d3		円形	0.74 × 0.71	20	外傾	平坦	人為	土師器片 (甕)	
47	D5f9	N-65°-W	不整楕円形	3.38 × 1.45	150	外傾	平坦	人為		陥し穴
48	D5d7	N-36°-W	不整形	1.15 × 1.16	36	外傾	皿状	自然		
49	E4e5		円形		30	緩斜	平坦	人為		
50	D4c5	N-26°-E	不定形	1.20 × 1.14	21	緩斜	凹凸	人為	土師器片 (高坏)・ヤマトシジミ	
51	C4c7	N-35°-W	不整楕円形	4.12 × 1.42	22	外傾	平坦	自然		
52	C4b8	N-74°-W	[楕円形]	1.85 × 1.51	22	緩斜	平坦	自然		
53	C5b2	N-7°-E	楕円形	1.71 × 1.39	23	外傾	平坦	人為	土師器 (埴)	
54	C6c4	N-53°-E	楕円形	1.09 × 0.98	74	外傾	V字状	人為		
55	C5c5	N-55°-E	楕円形	1.40 × 0.93	21	緩斜	平坦	人為		
56	Y9i2	N-18°-E	楕円形	2.84 × 2.52	153	外傾	平坦	人為		
57	Z9d4	N-6°-W	楕円形	2.14 × 1.44	107	外傾	平坦	人為		陥し穴
58	C5e8	N-42°-E	[不整楕円形]	2.94 × [1.90]	133	外傾	平坦	人為		陥し穴
59	B5f5	N-12°-W	楕円形	1.47 × 1.15	186	垂直	平坦	人為		
60	D4b2	N-6°-E	[楕円形]	[2.57 × 1.90]	228	外傾	平坦	人為		陥し穴

3 溝

A-II区の南西部から溝1条が検出されている。ここでは、溝の形状、規模、覆土の状態などについて記載する。

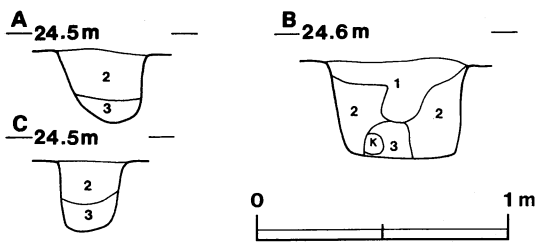
第1号溝 (付図・第188図)

位置 調査区南西部, A-II区

規模と形状 検出された全長は約16.2m, 上幅は0.26~0.44m, 下幅は0.14~0.36m, 深さは0.28~0.38mである。底面はほぼ平坦で、断面形はU字状及び逆台形状である。

方向 E3h6区から南東方向 (N-113°-E) へほぼ直線的に延びている。

覆土 3層からなり、ロームブロックを含む人為堆積と考えられる。



土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・粒子多量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がなく、時期や性格については不明である。

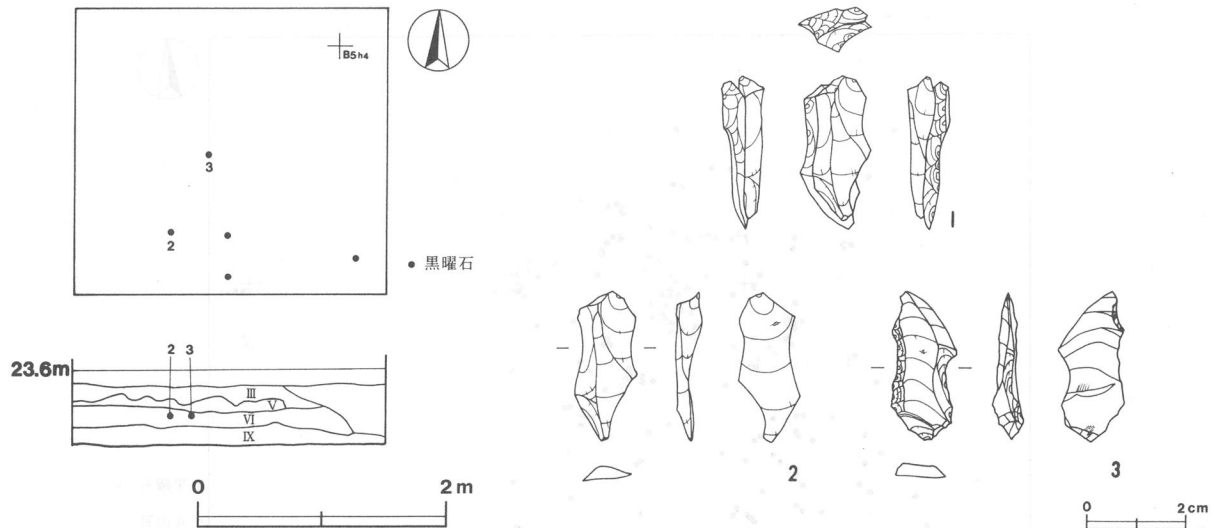
第188図 第1号溝実測図

4 旧石器集中地点

当遺跡ではA-II区北部の標高23~24mの台地上から、旧石器集中地点4か所が確認されている。以下、旧石器集中地点の状況及び主な旧石器について記述し、他は一覧表に記載する。

第1号旧石器集中地点 (第189図)

位置 調査区域の北部、B5h3区から出土している。出土遺物の平面分布及び垂直分布については第189図に示したとおりである。



第189図 第1号旧石器集中地点実測図・出土遺物実測図

規模 旧石器群の平面分布は、長径1m、短径0.6mほどの楕円形であり、4点の旧石器が出土している。

確認土層 立川ローム層のVI層に対応する層位で確認された。

遺物 本旧石器集中地点からの出土遺物総数4点の内訳は、ナイフ形石器1点、剥片3点である。石質はいずれも黒曜石である。第189図1は、2及び3の接合資料である。2はナイフ形石器、3は使用痕のある剥片である。

所見 VI層(立川ローム層対比)の上部から遺物が出土しており、時期は層位からAT降灰期以降と考えられる。

第1号旧石器集中地点出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第189図1	接合資料	3.1	1.5	0.9	2.2	黒曜石	Q227 接合資料1
2	ナイフ形石器	3.0	1.3	0.5	0.7	黒曜石	Q227 (1)
3	剥片	3.0	1.3	0.7	1.5	黒曜石	Q227 (2)

第2号旧石器集中地点 (第190図)

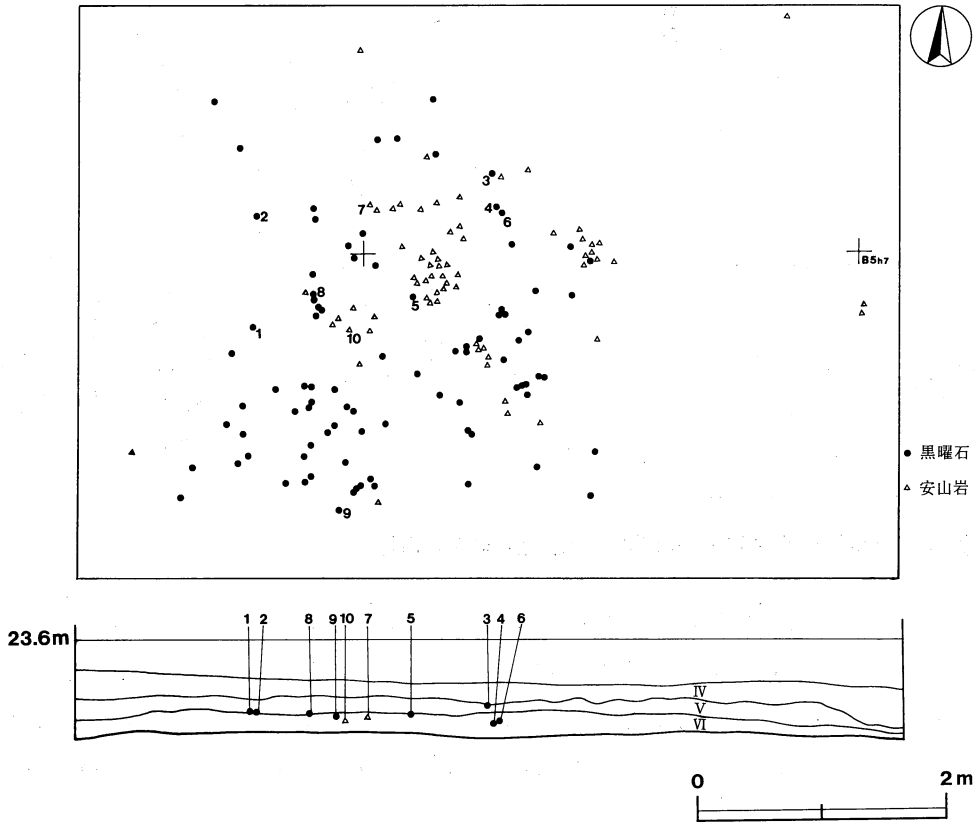
位置 調査区域の北部、B5h6区を中心に出土している。出土遺物の平面分布及び垂直分布については第190図に示したとおりである。

規模 旧石器群の平面分布は、長径6.34m、短径4.38mほどの楕円形であり、159点の旧石器群が散漫に分布している。

確認土層 立川ローム層のVI層上層からV層に対応する層位の間で確認された。

遺物 本旧石器集中地点からの出土遺物総数 159 点の内訳は、ナイフ形石器 3 点、角錐状石器 1 点、石核 3 点、剥片 152 点である。石質は黒曜石 85 点、安山岩 74 点である。石質別の分布をみると黒曜石は南西側に、安山岩は北東側にそれぞれ集中している。第 191 図 1・2・3 は黒曜石のナイフ形石器、4 は黒曜石の角錐状石器、5・6 は黒曜石の石核、7 が安山岩の石核、8 が黒曜石の二次加工の剥片、9 は黒曜石の剥片、10 は安山岩の剥片である。

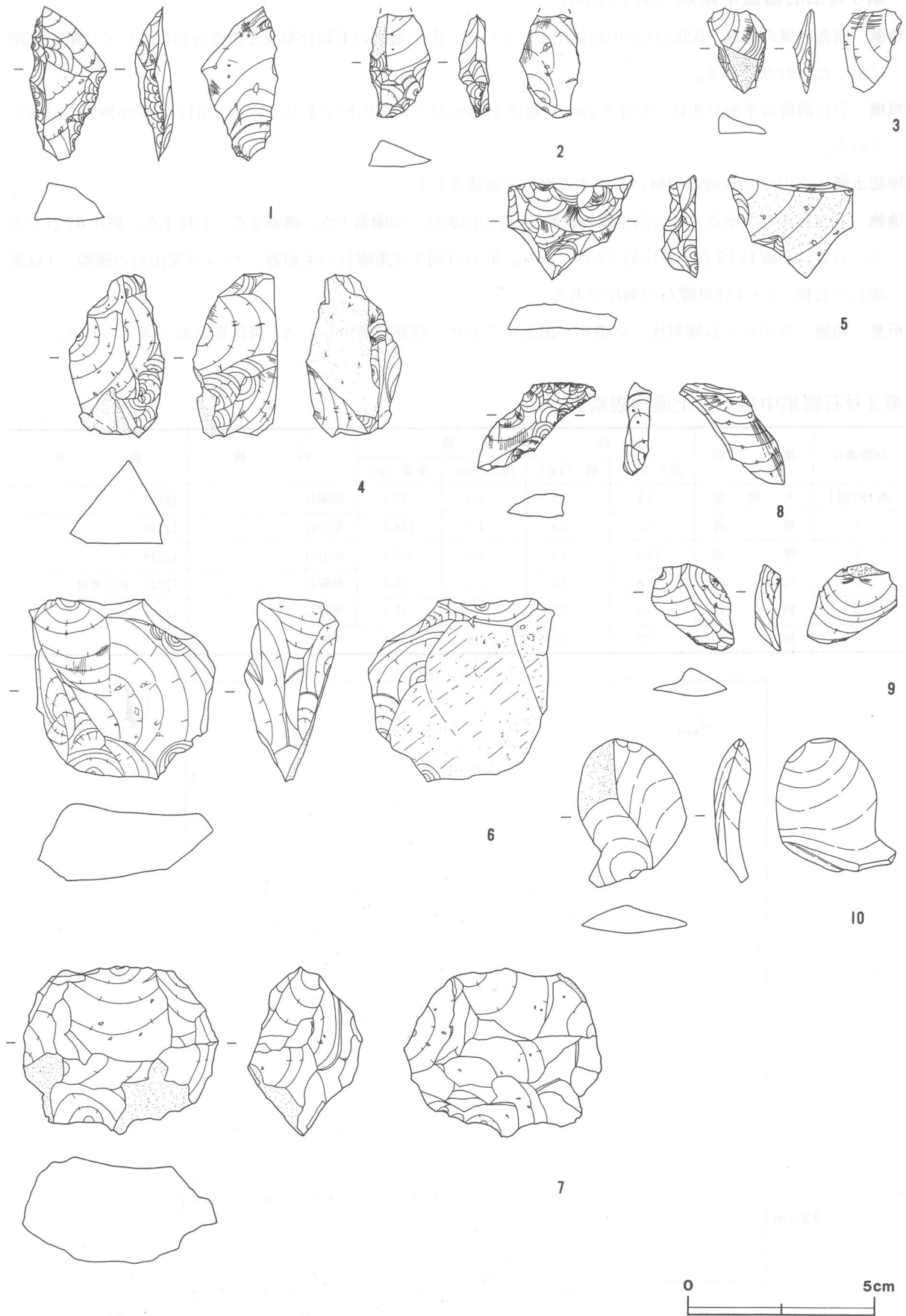
所見 VI層からV層（立川ローム層対比）に遺物が出土しており、時期は層位からAT降灰期以降と考えられる。



第190図 第2号旧石器集中地点実測図

第2号石器集中地点出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第191図1	ナイフ形石器	4.2	2.0	1.0	6.0	黒曜石	Q228
2	ナイフ形石器	2.8	0.6	0.7	3.0	黒曜石	Q229
3	ナイフ形石器	2.3	1.6	0.6	1.4	黒曜石	Q230
4	角錐状石器	4.4	2.6	2.3	22.6	黒曜石	Q231
5	石核	2.7	3.4	1.0	6.7	黒曜石	Q235
6	石核	4.9	5.0	2.5	46.1	黒曜石	Q236
7	石核	4.5	5.3	3.1	78.0	安山岩	Q237
8	二次加工剥片	2.4	3.2	0.7	2.8	黒曜石	Q233
9	剥片	2.3	2.2	0.8	2.7	黒曜石	Q232
10	剥片	3.9	2.8	1.0	7.4	安山岩	Q234



第191図 第2号旧石器集中地点出土遺物実測図

第3号旧石器集中地点 (第192図)

位置 調査区域の北部, B5h₉区を中心に出土している。出土遺物の平面分布及び垂直分布については第192図に示したとおりである。

規模 旧石器群の平面分布は, 長径5.20m, 短径3.34mほどの楕円形であり, 71点の旧石器群が散漫に分布している。

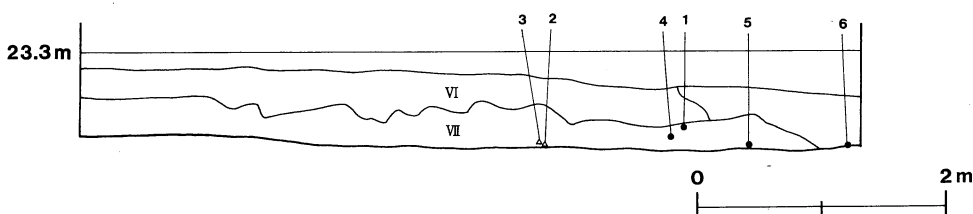
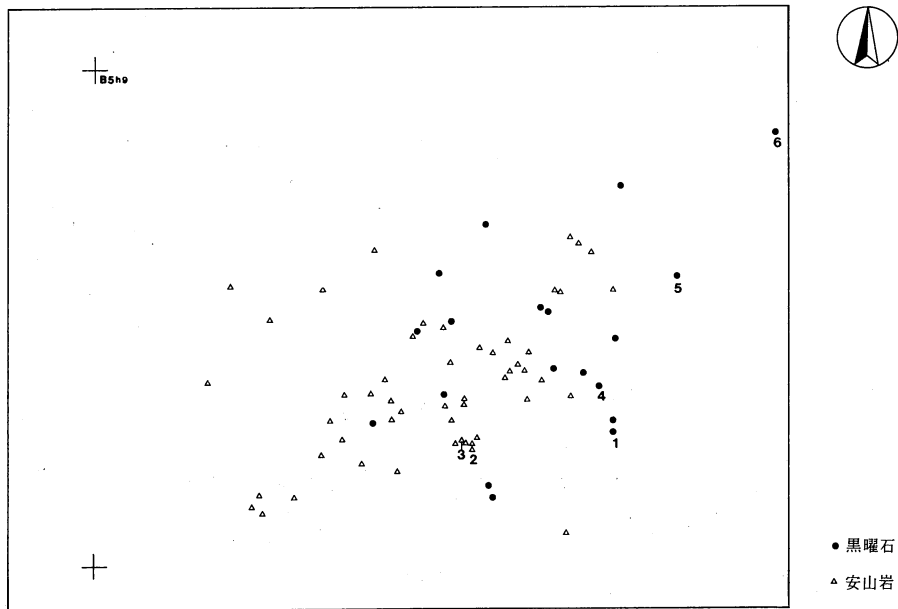
確認土層 立川ローム層のVII層に対応する層位で確認された。

遺物 本旧石器集中地点からの出土遺物総数71点の内訳は, 尖頭器1点, 礫器2点, 石核1点, 剥片67点である。石質は黒曜石19点, 安山岩52点である。第193図1は黒曜石の尖頭器, 2・3は安山岩の礫器, 4は黒曜石の石核, 5・6は黒曜石の剥片である。

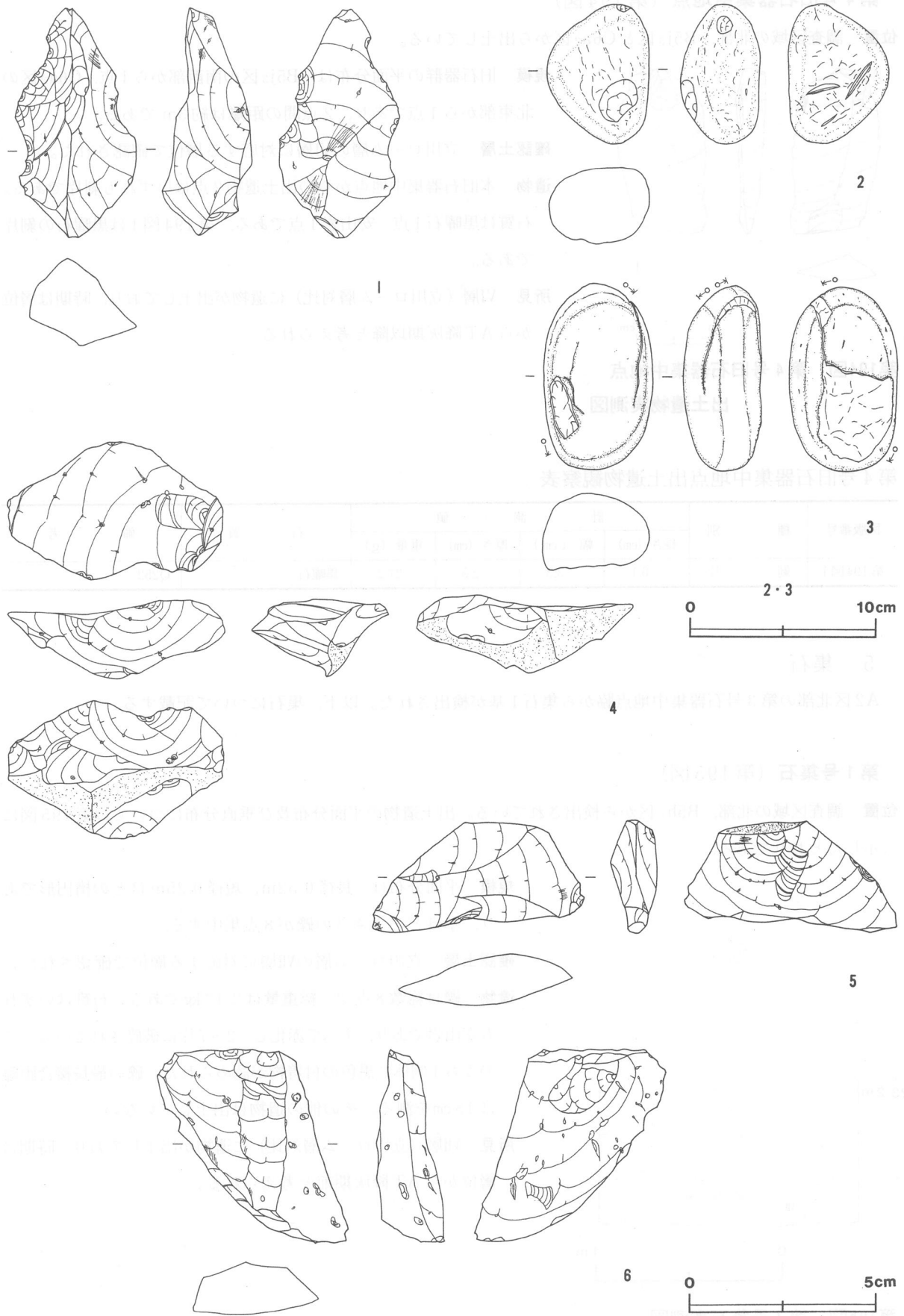
所見 VII層 (立川ローム層対比) に遺物が出土しており, 時期は層位からAT降灰期以前と考えられる。

第3号旧石器集中地点出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				石質	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第193図1	尖頭器	6.1	3.3	2.5	27.2	黒曜石	Q240
2	礫器	7.5	5.5	4.2	138.7	安山岩	Q238
3	礫器	10.0	5.9	4.2	350.1	安山岩	Q239
4	石核	5.8	3.8	2.1	25.7	黒曜石	Q243 剥片素材
5	剥片	3.0	5.7	1.3	17.1	黒曜石	Q241
6	剥片	5.2	5.2	1.8	32.8	黒曜石	Q242



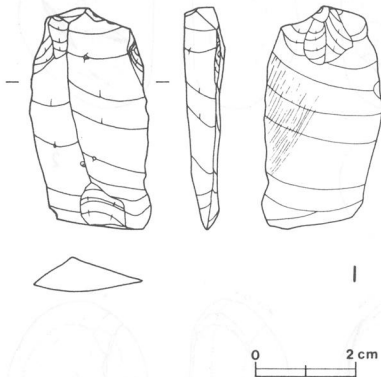
第192図 第3号旧石器集中地点実測図



第193図 第3号旧石器集中地点出土遺物実測図

第4号旧石器集中地点 (第194図)

位置 調査区域の北部, B5j₃区とC6a₂区から出土している。



規模 旧石器群の平面分布は, B5j₃区の南西部から1点, C6a₂区の北東部から1点であり, 2点間の距離は約3mである。

確認土層 立川ローム層のVI層に対応する層位で確認された。

遺物 本旧石器集中地点からの出土遺物2点はいずれも剝片である。石質は黒曜石1点, 安山岩1点である。第194図1は黒曜石の剝片である。

所見 VI層(立川ローム層対比)に遺物が出土しており, 時期は層位からAT降灰期以降と考えられる。

第194図 第4号旧石器集中地点
出土遺物実測図

第4号旧石器集中地点出土遺物観察表

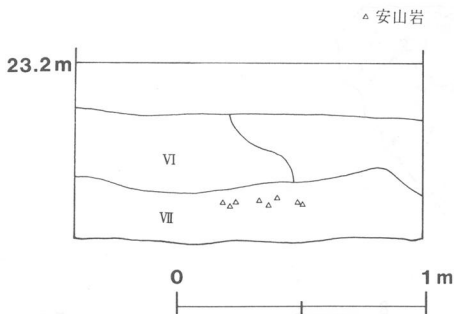
図版番号	種別	計測値				石質	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第194図1	剝片	6.1	3.3	2.5	27.2	黒曜石	Q252

5 集石

A2区北部の第3号石器集中地点脇から集石1基が検出された。以下, 集石について記載する。

第1号集石 (第195図)

位置 調査区域の北部, B5h₀区から検出されている。出土遺物の平面分布及び垂直分布については第195図に示したとおりである。



規模 平面分布は, 長径0.52m, 短径0.25mほどの楕円形であり, 拳ほどの大きさの礫が8点集中する。

確認土層 立川ローム層のVII層に対応する層位で確認された。

遺物 礫は総数8点で, 総重量は2.43kgである。石質はいずれも安山岩であり, すべて赤化し, 2~7片に破碎されている。このうち1個体に黒色の付着物が認められた。礫の最長接合距離は18cmを測る。その他の遺物は出土していない。

所見 VII層(立川ローム層対比)に遺物が出土しており, 時期は層位からAT降灰期前と考えられる。

第195図 第1号集石実測図

6 遺構外出土遺物

当遺跡からは、遺構に伴わない土器や、土製品、石器、石製品、古銭、煙管が出土している。ここでは、それらの出土遺物のうち、縄文土器片 22 点（早期 2 点、前期 13 点、中期 5 点、後期 2 点）について解説をし、その他については、実測図（第 196 図～第 199 図）及び観察表、一覧表で一括して報告する。

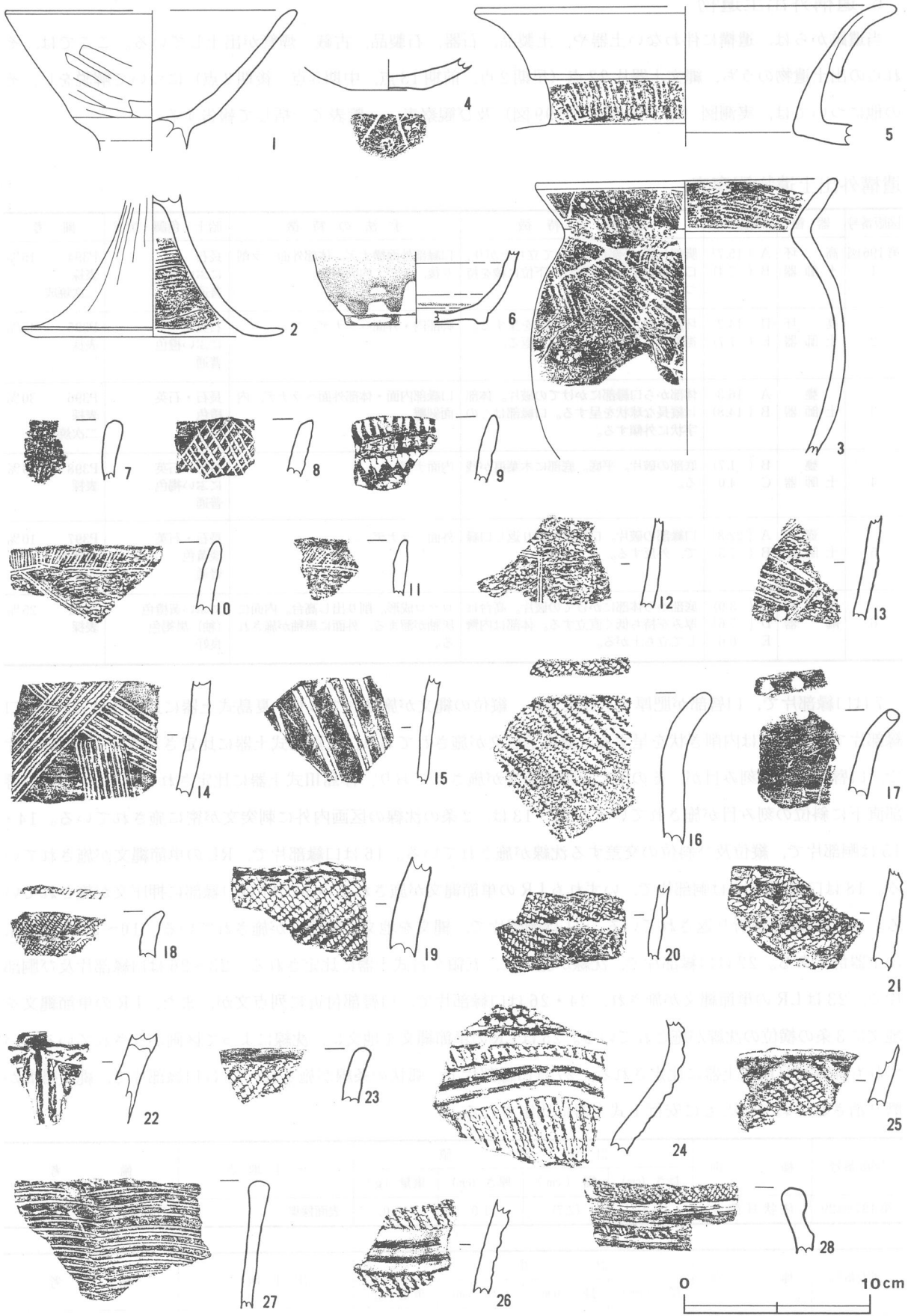
遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 (cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 196 図 1	高坏土器	A [15.7] B (7.4)	脚部欠損。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。坏部外面下位に稜を持つ。	口縁部外面横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ナデ。内面剝離。	長石にぶい橙色普通	P394 15% 表採 二次焼成
2	高坏土器	D 14.2 E (7.7)	坏部欠損。脚部はラッパ状を呈する。裾部は上方へわずかに反り返る。	脚部内・外面ヘラナデ。	石英にぶい橙色普通	P395 45% 表採
3	甕土器	A 16.3 B (14.8)	体部から口縁部にかけての破片。体部は縦長な球状を呈する。口縁部はくの字状に外傾する。	口縁部内面・体部外面ヘラナデ。内面剝離。	長石・石英橙色普通	P396 30% 表採 二次焼成
4	甕土器	B (1.7) C 4.0	底部の破片。平底。底部に木葉痕が残る。	内面ナデ。	長石・石英にぶい褐色普通	P398 5% 表採
5	壺土器	A [22.8] B (7.5)	口縁部の破片。口縁部は折り返し口縁で、外反する。	外面ヘラナデ。	長石・石英淡黄色普通	P397 10% 表採内
6	徳利陶器	B (3.9) D [7.6] E 0.6	底部から体部にかけての破片。高台は厚みを持ち低く直立する。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。削り出し高台。内面に灰釉が溜まる。外面に黒釉が施される。	にぶい黄橙色(釉)黒褐色良好	P401 25% 表採

7 は口縁部片で、口唇部が肥厚し、外反する。縦位の縄文が施されており、夏島式土器に比定される。8 は口縁部片で、口唇部は内削ぎ状を呈する。斜格子目文が施されており、三戸Ⅲ式土器に比定される。9 は口縁部片で、口唇部直下に刻み目が、その下に三角刺突文が施されており、浮島Ⅲ式土器に比定される。10・11 は口唇部直下に斜位の刻み目が施されている。10～13 は、2 条の沈線の区画内外に刺突文が密に施されている。14・15 は胴部片で、縦位及び斜位の交差する沈線が施されている。16 は口縁部片で、RL の単節縄文が施されている。18 は口縁部、19 は胴部片で、いずれも LR の単節縄文が施されている。17 は口縁部に押圧文が施されている。20 は口縁部が折り返されている。21 は胴部片で、縄文を地文に結節文が施されている。10～21 は前期末の土器群である。22 は口縁部片で、沈線が施され、五領ケ台式土器に比定される。23～26 は口縁部片及び胴部片で、23 は LR の単節縄文が施され、24・26 は口縁部片で、口唇部付近に列点文が、また、LR の単節縄文を地文に 3 条の横位の沈線が施されている。25 は LR の単節縄文を地文に、沈線によって区画がなされている。いずれも加曽利 BⅢ式土器に比定される。27 は口縁部片で、弧状の条線が施され、28 は口縁部片で、縄文帯間が磨り消されており、ともに安行Ⅰ式土器に比定される。

図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第 197 図 29	块状耳飾り	4.4	(2.7)	1.0	(10.0)	表面採集	DP66

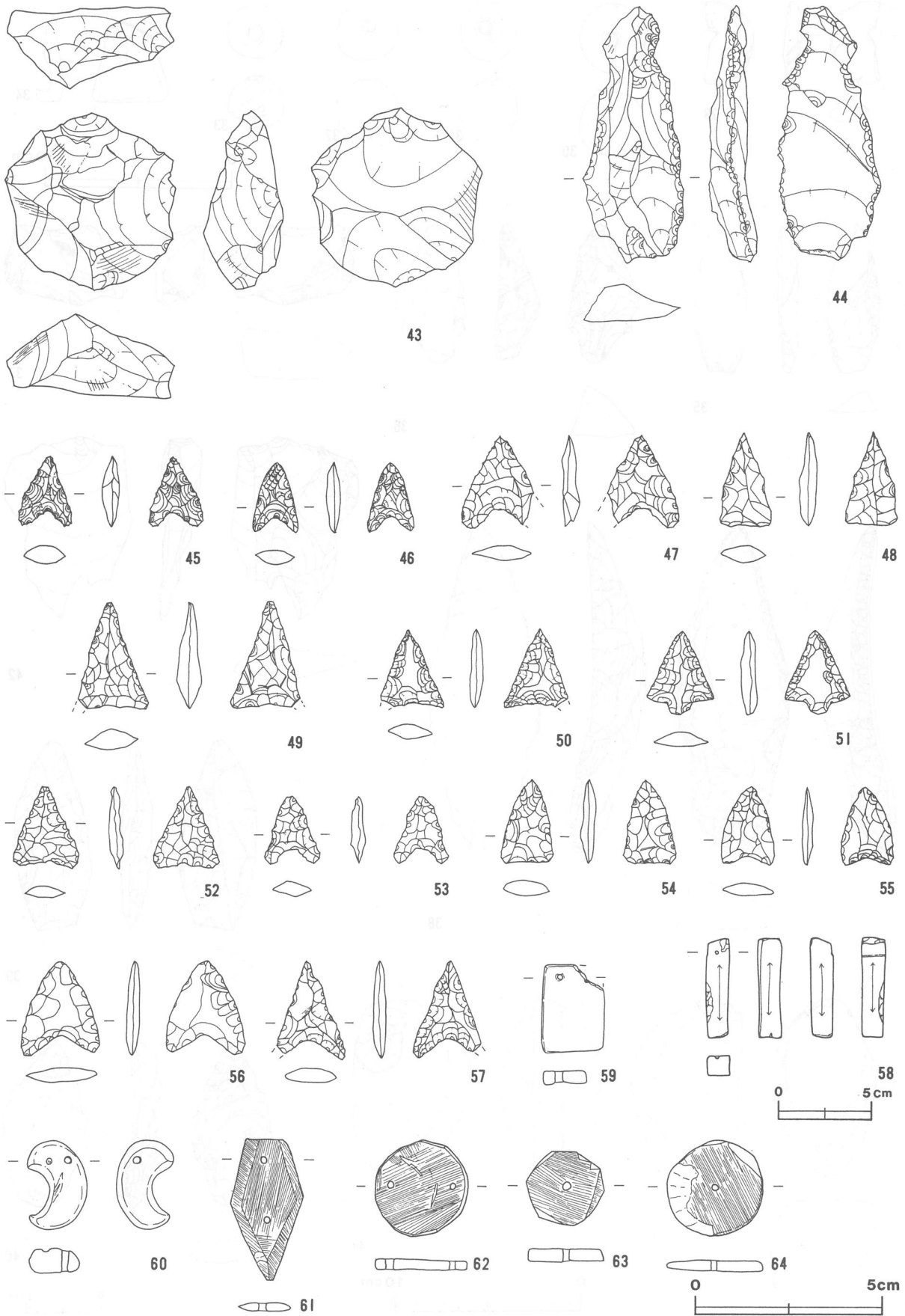
図版番号	種別	計測値				出土地点	備考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第 197 図 30	土玉	3.6	3.5	0.8	37.6	表面採集	DP67
31	土玉	3.0	3.3	0.8	25.9	表面採集	DP68



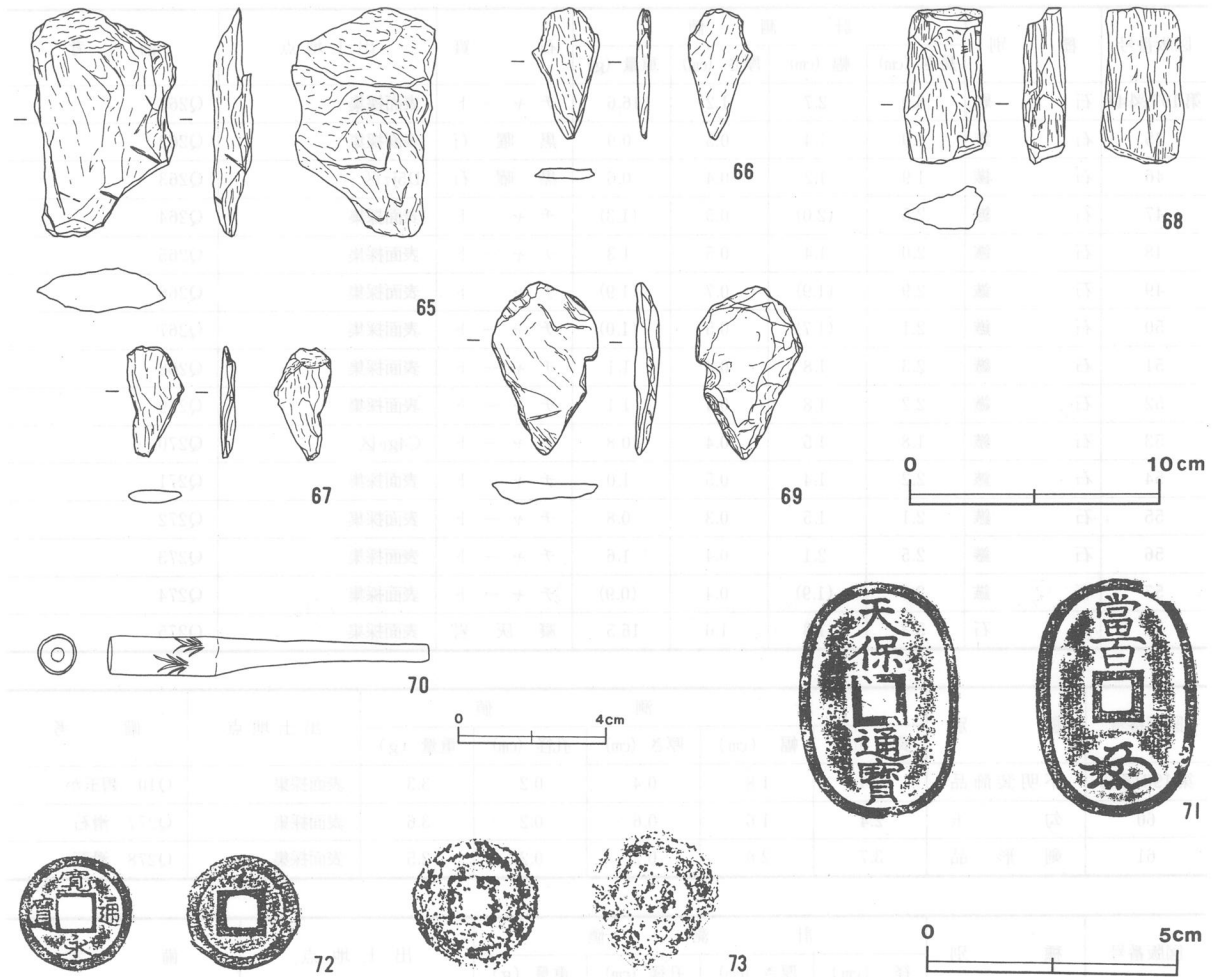
第196図 遺構外出土遺物実測図(1)



第197図 遺構外出土遺物実測図(2)



第198図 遺構外出土遺物実測図(3)



第199図 遺構外出土遺物実測図(4)

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	長さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第197図32	土 玉	3.3	3.3	0.7	31.9	表面採集	DP69
33	土 玉	3.1	2.9	0.9	19.5	表面採集	DP70

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第197図34	不明土製品	(4.3)	4.2	1.5	(16.1)	表面採集	DP71

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第197図35	ナイフ形石器	4.0	1.5	0.7	2.9	黒 曜 石	表面採集	Q253
36	ナイフ形石器	3.8	1.9	1.3	6.4	黒 曜 石	B5d ₉ 区	Q254
37	スクレーパー	2.1	3.3	1.3	10.9	チャート	表面採集	Q255
38	槍先形尖頭器	8.9	3.0	2.1	35.9	硬質頁岩	C5b ₄ 区	Q256
39	槍先形尖頭器	(5.1)	2.1	0.9	(8.4)	安 山 岩	表面採集	Q257
40	槍先形尖頭器	(4.5)	2.2	1.1	(7.5)	黒 曜 石	表面採集	Q282
41	礫 器	9.5	5.7	5.9	400.1	フォルンフェルス	B5g ₅ 区	Q258
42	剝 片	4.9	3.5	1.1	12.0	チャート	表面採集	Q259
43	石 核	4.8	4.6	2.2	38.7	安 山 岩	表面採集	Q260 剝片素材

実穀寺子遺跡 1

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第197図44	石 匙	6.9	2.7	1.2	16.6	チャート	表面採集	Q261
45	石 鏃	1.9	1.4	0.5	0.9	黒曜石	表面採集	Q262
46	石 鏃	1.9	1.2	0.4	0.6	黒曜石	D5j7区	Q263
47	石 鏃	2.5	(2.0)	0.5	(1.3)	チャート	表面採集	Q264
48	石 鏃	2.0	1.4	0.5	1.3	チャート	表面採集	Q265
49	石 鏃	2.9	(1.9)	0.7	(1.9)	チャート	表面採集	Q266
50	石 鏃	2.1	(1.7)	0.5	(1.0)	チャート	表面採集	Q267
51	石 鏃	2.3	1.8	0.4	1.1	チャート	表面採集	Q268
52	石 鏃	2.2	1.8	0.4	1.1	チャート	表面採集	Q269
53	石 鏃	1.8	1.5	0.4	0.8	チャート	C4g0区	Q270
54	石 鏃	2.2	1.4	0.5	1.0	チャート	表面採集	Q271
55	石 鏃	2.1	1.5	0.3	0.8	チャート	表面採集	Q272
56	石 鏃	2.5	2.1	0.4	1.6	チャート	表面採集	Q273
57	石 鏃	2.6	(1.9)	0.4	(0.9)	チャート	表面採集	Q274
58	砥 石	5.3	1.3	1.0	16.5	凝灰岩	表面採集	Q275

図版番号	種 別	計 測 値					出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第198図59	不明装飾品	2.4	1.8	0.4	0.2	3.3	表面採集	Q10 碧玉か
60	勾 玉	2.4	1.6	0.6	0.2	3.6	表面採集	Q277 滑石
61	剣形品	3.7	2.0	0.2	0.2	2.5	表面採集	Q278 滑石

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第198図62	有孔円板	2.5	0.3	0.2	3.8	表面採集	Q279
63	有孔円板	2.1	0.3	0.2	2.6	表面採集	Q280
64	有孔円板	2.6	0.3	0.2	3.6	表面採集	Q281

図版番号	種 別	計 測 値				石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第199図65	原 石	9.2	5.8	1.7	88.0	滑 石	表面採集	Q283
66	原 石	5.3	2.7	0.6	7.5	滑 石	表面採集	Q284
67	原 石	4.5	2.3	0.6	6.3	滑 石	表面採集	Q285
68	原 石	6.3	3.3	1.7	46.8	滑 石	表面採集	Q286
69	原 石	6.9	4.4	1.1	27.8	滑 石	表面採集	Q287

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第199図70	煙 管	8.7	1.1	1.1	8.8	表採	M14

図版番号	名 称	初 鑄 年	出 土 地 点	備 考
第199図71	天保通寶	1835	表面採集	M11
72	寛永通寶	1736	表面採集	M12
73	不 明	—	表面採集	M13 3枚付着

第4節 まとめ

実穀寺子遺跡1の調査から得られた成果を、各時代ごとに整理し、まとめとする。

1 旧石器時代から縄文時代まで

当遺跡からは、旧石器集中地点4か所及び集石1か所が確認されている。接合資料は一点のみである。石器は、ナイフ形石器、角錐状石器、スクレーパー、礫器、尖頭器であり、材質は、斑晶が目立つ黒曜石、ガラス質黒色安山岩及び安山岩、硬質頁岩である。いずれの集中地点も剥片の数が多く、石器の製作跡的な性格を持つと考えられる。第1・4号集中地点の遺物は、立川ローム層に対比されるVI層から、第2号集中地点の遺物はVI層～V層から第3号集中地点の遺物はVII層から出土している。

また、第3号集中地点のとなりから、火を受けて赤変し、多くが小さく割れた状態の安山岩の集石が検出された。この集石はVII層から出土している。

縄文時代の遺物として、早期、前期、中期、後期の土器片が少数出土しているが、縄文時代の可能性が考えられる陥し穴以外に、遺構は確認されていない。縄文時代と考えられる石鏃が出土しており、近接する実穀古墳群と同じように、当遺跡周辺は、狩猟場として利用されていたことが想像される。

2 古墳時代

実穀寺子遺跡1の中心となる時代で、古墳時代中期と考えられる竪穴住居跡48軒が、A-II区の中央部から北寄り、径約40mの円内に入る範囲に集中して検出されている。出土遺物などから、古墳時代中期の一時期に集中して営まれた集落跡と考えられ、前章で触れた、同時期の、同じ台地上約300m南の実穀古墳群の集落跡との関連が注目される。以下、竪穴住居跡の特徴について記述する。

床面積が50㎡を超える大形住居跡6軒（第6・8・11・40・41・47号住居跡）、35～50㎡の住居跡10軒（第3・12・13・15・18A・19・29・43・46・51号住居跡）、20～35㎡の住居跡17軒（第1・2・5・9・10・16・18・20・22・23・25・26・28・31・44・48・50号住居跡）、10～20㎡の住居跡3軒（第21・24・45号住居跡）、10㎡以下の住居跡5軒（第30・33・35・36・38号住居跡）である。床面積が10㎡以下の住居跡の内、第33・35・36号住居跡は炉を持たず、第36号住居跡以外は床の硬化面がみられず、貯蔵穴が検出されていない。これらは一般的な住居と使用目的が異なる建物跡と考えられるが、集落構成を考える上で今後の課題となる。

検出された住居跡の内、壁溝が確認されたものは68%、床面を掘り込む溝が確認されたものは43%である。第6号住居跡は、床下遺構として溝状の掘り方が全周しており、当遺跡内においては特異である。

炉が確認された住居跡は81%であり、そのうち2か所の炉を持つものが7%である。住居跡内での炉の位置を、炉を中心に右及び左方向にある支柱穴を基準として試みる（仮に右方向の支柱穴をP₁、左方向の支柱穴をP₄と統一する。）。P₁とP₄を結んだ線上に炉があるものが47%、その線の外側にあるものが43%、内側にあるものが11%である。そのうち、P₁とP₄を結んだ線上にあり、なおかつP₄寄りにあるものは全体の25%、その線の外側にあり、なおかつP₄寄りにあるものは全体の21%と、P₄寄りにあるものは、全体の半数近くを占める。なお、第30号住居跡のみが住居跡中央部に炉を持っている。

また、炉と出入口施設にともなうピットの位置関係をみると、炉は、出入口部に対して奥壁寄りに位置している。

貯蔵穴が確認された住居跡は68%である。貯蔵穴の位置をみると、出入り口部から入って手前の左コーナー部にある場合は64%、右コーナー部にある場合は36%と、左コーナー部にある場合が目立っている。なお、第11号住居跡では右コーナー部に1基、その対角のコーナー部に1基、第18A号住居跡では左右両コーナー部に1基ずつの、それぞれ合計2基が検出されている。

出土遺物についての特徴をまとめると以下のとおりである。

- ・実穀寺子遺跡1から出土した土師器は、5世紀の第2四半期から第3四半期に集中している。
- ・器種は高坏・壺・甕の出土が目立っており、比較的坏・碗は少ない。
- ・出土した土師器で、赤彩されているものは少ない。
- ・出土した土師器の中には研磨痕が認められるものがある。また、靱痕が残るものが見立つ。
- ・第11号住居跡から、TK216期併行と考えられる須恵器甕が出土している。また、第43号住居跡から土師器把手付甕が出土している。なお、把手付甕は、第43号住居跡覆土下層及び第46号住居跡覆土中に散在した状態で出土している。
- ・遺構外から、石製模造品の原石と考えられる滑石が出土している。二等辺三角形形状のもので、形割の工程のものと思われる。表面に擦痕、または、輪郭線上の一部に1~2mm程の穿孔により形割を行ったと思われる痕跡が残る。また、滑石の細片が、第6・8・9・11・12・13・14・16・17・18A・18B・28・31・37・45・47・49号住居跡から出土している。これらのことから、石製模造品の原石の加工施設的な遺構、または、工房的な遺構があった可能性も考えられる。なお、白玉は、第8号住居跡の28点、第13号住居跡の18点、第18A号住居跡の52点、第18B号住居跡の15点、第19号住居跡の10点、第49号住居跡の26点と、以上の6軒の遺構から多く出土している。また、第43号住居跡から出土した有孔円板は、床面から5枚重なった状態で出土しており、その点においても注目される。

4 近世

遺構外出土遺物として、陶器徳利片、煙管、寛永通寶が出土している。これらは墓墳に伴う可能性が考えられ、遺構としては検出できなかったが、当遺跡周辺に近世以降の墓墳があったことも考えられる。

今回の調査で、古墳時代中期を中心に、旧石器から近世までの人々の生活の跡を確認することができた。旧石器時代に人々はこの地に痕跡を残し、縄文時代には、出土した石鏃などから、主に狩猟場として利用されていたことが想像される。その後、弥生時代には人々の生活跡をとらえることができなくなるが、検出された住居跡から、古墳時代中期になって、急速にこの地の開発が進んだことがうかがわれる。しかし、それ以後は大きな集落が営まれることはなくなる。近世以降においては、人々のわずかな生活の痕跡が知られた。前章の実穀古墳群のまとめにおいても触れたが、古墳時代の人々のながれを、広域的に明らかにしていくことが、今後の課題の一つとなろう。実穀寺子遺跡1は、旧石器時代の石器製作跡的な場、また、古墳時代中期の集落跡としての複合遺跡であることが明らかになった。

参考文献

- ・茨城県教育財団「茨城県南部における立川ローム層の層序区分について」『研究ノート第6号』1997年6月
- ・櫻村宣行「和泉式土器編年考-茨城県を中心として-」『研究ノート第5号』茨城県教育財団1996年6月

- ・笹森健一「竪穴住居の使い方」『古墳時代の研究 2 集落と豪族居館』1990年6月
- ・笹原祐一「剣形模造品の製作技法—下毛野地域を例にして—」『研究紀要第4号』財団法人 栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター1996年3月
- ・茨城県教育財団「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（I）ヤツノ上遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第81集』1993年3月
- ・茨城県教育財団「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（II）中久喜遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第86集』1993年9月
- ・茨城県教育財団「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（III）東山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第101集』1995年9月
- ・茨城県教育財団「牛久北部特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（IV）馬場遺跡 行人田遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第106集』1996年3月
- ・茨城県教育財団「牛久東下根特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 中下根遺跡 西ノ原遺跡 隼人山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第113集』1996年6月
- ・茨城県教育財団「阿見東部工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 星合遺跡 中ノ台遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告第137集』1997年9月

実穀寺子遺跡から出土した炭化材・種実遺体の種類

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

実穀寺子遺跡では、古墳時代中期の焼失住居跡から、住居構築材と考えられる炭化材や食物残渣の一部と考えられる種実遺体が検出されている。古墳時代の住居構築材については、これまでも県内各地の遺跡で多くの試料について樹種同定が行われている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1986a，1986b；未公表資料）。その結果、沿海地では常緑広葉樹が多く利用されるのに対し、やや内陸では落葉広葉樹を種とした樹種構成が認められ、地域による用材選択の違いが明らかとなっている。しかし、用材が変化する地域や時期による用材の違いなどの詳細については不明な点が多い。

本報告では、実穀寺子遺跡から出土した住居構築材と考えられる炭化材の樹種を明らかにし、用材選択に関する資料を得る。また、種実遺体の種類を明らかにし、植物食に関する資料を得る。

1. 住居構築材の樹種

(1) 試料

試料は、古墳時代中期の焼失住居跡（S1-12）から出土した住居構築材と考えられる炭化材3点（No.5～7）である。試料は、No.5が梁，No.6，7が垂木と考えられている。

(2) 方法

木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

(3) 結果

炭化材は全て落葉広葉樹のコナラ属コナラ亜属クヌギ節に同定された。解剖学的特徴などを以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (*Quercus* subgen. *Lepido balanus* sect. *Cerris*) ブナ科

環孔材で孔圏部は1～3列，孔圏外で急激に管径を減じたのち，漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し，壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性，単列，1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。柔組織は周囲状および短接線状。

(4) 考察

確認されたクヌギ節は，同亜属のコナラ節と共に関東地方における古墳時代の住居構築材として最も一般的な種類の一つであり，多くの遺跡で確認例が知られている（高橋・植木，1994）。茨城県内でも，内陸部の台地上の遺跡から出土した住居構築材に多数確認されている（パリノ・サーヴェイ株式会社，1986a，1986b；未公表資料）。このことから，茨城県の内陸部の台地上では，住居構築材にクヌギ節・コナラ節を中心とした種類が利用されていたことが推定され，今回の結果もその一例といえる。

住居構築材の用材選択には，周辺植生が密接に関係していたと考えられている（高橋・植木，1994）。茨城県内では，沿海地と内陸部で種類構成が異なっている。この背景には，沿海地には常緑広葉樹を主とする植生が見られたのに対し，内陸部ではクヌギ節・コナラ節を中心とした落葉広葉樹林が見られた可能性がある。今回の結果から，本遺跡周辺ではクヌギ節・コナラ節を主とする落葉広葉樹林が見られたことが推定される。

2. 種実遺体の種類

(1) 試料

古墳時代中期の焼失住居跡 (SI-11, 12) より出土した種実遺体 2 点 (SI-11-x, SI-12 No.2) である。

(2) 方法

緩やかに乾燥させたあと、双眼実体顕微鏡で観察し同定した。

(3) 結果

SI-11-x はモモの核に、SI-12 No.2 はコナラ属の子葉にそれぞれ同定された。各種類の形態的特徴を以下に記す。

・コナラ属 (*Quercus* sp.) ブナ科

炭化した子葉が検出された。ほぼ球形で長さ 1.5cm 程度。球面状の表面には維管束の筋の跡が縦方向にみられる。

・モモ (*Prunus persica* Batsch) バラ科サクラ属

核が検出された。縫合線で半分に割れている。大きさは 2cm 程度。半球状でやや扁平、先端部は尖る。表面は、不規則な線状のくぼみがあり、全体としてあらいしわ状に見える。

(4) 考察

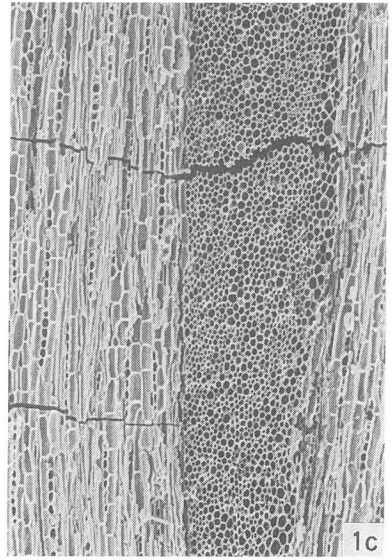
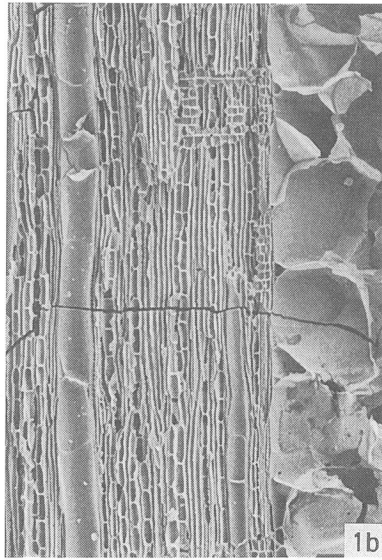
確認されたコナラ属・モモとも可食植物である。コナラ属は、縄文時代以降、各地の遺跡から多くの出土例がある。コナラ属は食用に際し「あく抜き」が必要になる。今回検出されたものは球形に近く、クヌギやアベマキなどの形状に近い。クヌギやアベマキの「あく抜き」には、灰汁などのアルカリを用いるなど複雑な行程が必要である (渡辺, 1975)。しかし、取量が多くかつ長期保存に耐えることから、重要な食料源であったと考えられる。

一方、モモは栽培種として大陸より渡来した種類である。長崎県伊木遺跡の例 (南木・粉川, 1990) から、縄文時代前期には渡来していたことが明らかとなっている。弥生時代以降各地の遺跡で多くの報告例があり、広く利用されていたことが推定される。今回の結果から、本遺跡周辺で古墳時代にモモが栽培されていたことが推定される。

〈引用文献〉

- 南木睦彦・粉川昭平 (1990) 伊木力遺跡の大型植物化石群集。「伊木力遺跡 長崎県大村湾沿岸における縄文時代低湿地史跡の調査」, p.642-659, 多良見町教育委員会・同志社大学考古学研究室。
- パリノ・サーヴェイ株式会社 (1986a) 奥山 A 遺跡出土試料 炭化材同定報告について。茨城県教育財団文化財調査報告書第 31 集「水海道都市計画事業・内守谷土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 2」, p.239-240, 財団法人茨城県教育財団。
- パリノ・サーヴェイ株式会社 (1986b) 西原遺跡出土試料種子及び材同定報告について。茨城県教育財団文化財調査報告書第 31 集「水海道都市計画事業・内守谷土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 2」, p.241-243, 財団法人茨城県教育財団。
- 高橋 敦・植木真吾 (1994) 樹種同定からみた住居構築材の材選択。PALYNO, 2, p.5-18。
- 渡辺 誠 (1975) 縄文時代の植物食。247p, 雄山閣。

図版1 炭化材・種実遺体



200 μ m : 1a
200 μ m : 1b, 1c



1cm : 2-3

1. コナラ属コナラ亜属クヌギ節 (SI-12 No.7) a : 木口, b : 柁目, c : 板目
2. コナラ属 (SI-12 No.4)
3. モモ (SI-11 X)